静岡県小笠郡大東町

兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦

下小笠川捷水路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２年

大東町教育委員会

静岡県小笠郡大東町

兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦

下小笠川捷水路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２年

大東町教育委員会

序

人間が生活を営むために、その基となるものは衣食住が基本であります。時代の変遷は、その姿を変えていくものであります。しかし、遺跡の発掘調査により明らかになった資料は、その当時の人間の生活を窺い知る貴重な証拠となります。そのような資料の価値が認められ、年々文化財の保護・保存の大切さについて唱えられる気運が高まっておりますことは、誠に喜ばしいことであります。

この度、静岡県小笠郡大東町海戸地内における兼情横穴群・兼情遺跡発掘調査は、「下小笠川捷水路建設」に伴う事業として国土交通省浜松工事事務所の負担を得て大東町教育委員会が調査主体者となり、静岡人類史研究所に調査を担当していただき実施しました。

この発掘調査により兼情横穴群からは古墳時代の横穴が4基確認され、横穴の中からは須恵器・土師器・大刀・装身具類が出土しています。さらに、兼情遺跡からは主な遺構として弥生時代後期の周溝墓や溝状遺構、古墳時代の溝状遺構、古墳時代から中世にかけての穴状遺構、江戸時代の土壙墓などが発見されました。弥生時代の周溝墓や溝状遺構からは弥生土器の壺や甕、古墳時代の溝状遺構からは須恵器や土師器、中世の穴状遺構からは山茶碗、江戸時代の土壙墓からは人骨・かわらけ・銭貨「寛永通寶」などが発見されています。

今回の発掘調査により、下小笠川流域に弥生時代、古墳時代、近世と当時の人々の生活の一端を知る上で貴重な資料を私たちに提供してくれました。これらの発掘された資料を大切にすることは、私たちの重要な努めであり、この報告書によってより多くの人々が、文化財に対する関心を高めていただければ幸甚であります。

終わりに今回の発掘調査にご指導・ご協力を賜った皆様に心より感謝申し上げます。

ここに発掘調査報告書を発刊し、多くの皆様方のご供覧を賜り、あわせて各位のご批判とご指導をお願いする次第です。

平成14年3月

静岡県小笠郡大東町教育委員会

教育長　三　輪　　隆

例　言

1. 本書は、静岡県小笠郡大東町海戸地先に計画された下小笠川捷水路建設工事区内に所在する兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦の発掘調査報告書である。
2. この調査は、下小笠川捷水路建設工事の事業主体者である国土交通省中部地方整備局浜松工事事務所の依頼により、大東町教育委員会が調査主体者となり、株式会社静岡人類史研究所が調査担当者となって調査を実施した。
3. 発掘調査の実施に当たり、静岡県教育委員会文化課の指導の基に「発掘調査連絡会」を設置し、調査の方法・日程等について協議を行いながら調査を進めた。
「発掘調査連絡会」の構成は、以下の通りである。

・調査主体者	大東町教育委員会	教育長	三輪　隆
・事業主体者	国土交通省浜松工事事務所	事務所長	長田孝一
		工務第一課長	松浦勝巳
		専門職	清水忠雄
		平田出張所長（前）	遠山忠義
		平田出張所長	金田達也
・調査指導機関	静岡県教育委員会文化課	課長（前）	内山賢二
		課長	山下峰雄
		副主任	富樫孝志
・調査機関	株式会社静岡人類史研究所	所長	森　威史
・調査事務局	大東町教育委員会社会教育課	課長（前）	赤堀義雄
		課長	大石碩也
		課長補佐	藤田正行
		社会教育係	鬼澤勝人

4. 現地調査（発掘調査）は平成12年３月20日から平成13年３月30日まで実施し、情報データの整理・解析および図面・写真・出土遺物の整理と報告書の作成は平成13年４月20日から平成14年３月８日まで実施した。
5. 現地調査は森威史が調査担当者となり、中村伸吾（静岡人類史研究所学芸員）と服部孝信（静岡人類史研究所研究員）が補佐した。
6. 発掘調査で確認した遺構の実測には、株式会社システム提案の《トータルステーション・システム（遺跡図形処理システム）》を導入した。
7. 空中写真撮影は玉野総合コンサルタント株式会社地理情報部航測課が担当し、遺構および遺物の出土状況写真は中村伸吾と服部孝信が行った。
8. 発掘調査の参加者は以下の通りである。

調査員	森　威史　中村伸吾　服部孝信
調査補助員	大長康浩　加藤伸司　徳永加津生
作業員	相澤猪一郎　相澤初美　縣美津子　池守達樹　石川とみ　市瀬欽次 市野寿　市野峯雄　伊藤静江　今村多津子　岩倉好枝　大塚幸彦 岡田かね子　落合孝　笠原義一　笠原文次　鎌田雅子　神谷一江　川口由郎 川島一一　河原崎一枝　岸正美　熊切敏明　倉野邦夫　倉野浩美　栗田直 榑松儀兼　後藤洋美　近藤安義　坂部木好　坂部マサエ　佐藤定男 白岩三郎　鈴木勝司　鈴木定男　鈴木俊美　鈴木道夫　鈴木実　鈴木ゆき 鈴木幸紀江　高塚敏郎　高塚光雄　高橋尚一　高橋仁志　高橋芳乃 土屋洋子　常友義信　富田利雄　中村真一郎　中山建夫　永田孝　萩田鉄次 春田清治　平野博司　深川広子　福井孝介　藤田歩　藤田富雄　藤田房幸 藤田実　藤田理恵　細野巌　増田明男　松尾武晴　松下隆一　松下保三

作業員　三浦辻夫　溝口悦子　溝口喜一　溝口錠一　三輪登美子　村松謙　望月三郎
森下辰夫　山下道雄　山本陽子　横山悦子　渡辺初枝　渡辺紀
伐採作業　金城工業（代表　金城保幸）　杉山敦司　臼井忠義　小野敏彦
表土除去・排土作業　金城工業
・重機オペレーター　金城保幸　渡辺次郎　増井光男　大城一広
・表土除去　石上美喜雄　山本恵一　添田　登　佐々木五三郎
・排土運搬　柴田達郎
外壁（フェンス）設置　有限会社萩原組
仮設調査事務所設置　大和工商リース株式会社
仮設トイレ設置　大和工商リース株式会社
仮設電気工事　株式会社阿形電気
仮設上下水道工事　有限会社みやぎ管工

9. 整理調査（情報データの整理・解析および図面・写真・出土遺物の整理）と報告書の作成は森　威史が調査員および遺物整理員を指導して実施した。作業分担は以下の通りである。また、本書の執筆はⅠを中村伸吾、Ⅱ－1を鬼澤勝人（大東町教育委員会）、Ⅲの《兼情横穴群》を森威史、《兼情遺跡》を中村伸吾・森威史、《帝釈山砦》とⅣおよびAbstractを森威史、出土遺物の観察表を池ヶ谷和美（静岡人類史研究所研究員）が担当した。なお、編集は森威史・中村伸吾が行った。

・情報データの整理・解析　中村伸吾
・出土遺物の基礎整理　池ヶ谷和美　大長康浩　中島頼英　両角治子
・出土遺物の観察表作成　池ヶ谷和美
・出土遺物の実測　池ヶ谷和美　中島頼英　大長康浩　堀井由利子　松浦峰里
坊垣内希充子　黒田佳奈子　石上元子　土肥正道　井村美春
尾崎淳一
・出土遺物の補修・復元　両角治子　坊垣内希充子
・遺構のトレース　中村伸吾　服部孝信　片平剛
・遺物のトレース　池ヶ谷和美　中島頼英　大長康浩
・写真図版作成　中村伸吾　服部孝信　池ヶ谷和美　大長康浩　中島頼英
・写真撮影　片平剛

10. 近世土壙墓から出土した人骨（２体分）の分析・鑑定は、国立科学博物館人類研究部の馬場悠男部長と梶ヶ山眞里研究員に依頼し、調査結果は附載「近世土壙墓から出土した人骨について」として掲載した。

11. 発掘調査および整理調査においては次の方々に御指導・御助言・御協力を賜った。感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
近田文弘（国立科学博物館）　鈴木美江（鈴木美江翻訳事務所）　株式会社若杉組
12. 現地調査の期間中、一年間にわたり駐車場を提供いただいた渡辺好雄氏に感謝の意を表したい。

13. 本調査における図面・写真・遺物は大東町教育委員会が保管している。

凡　　例

本書における遺構・遺物の表示は以下の通りである。

1．遺構・遺物挿図の縮尺
　各図にバースケールで表示してある。

2．遺構挿図の方位
　特に示さない限り、図の上が北（磁北）を示す。

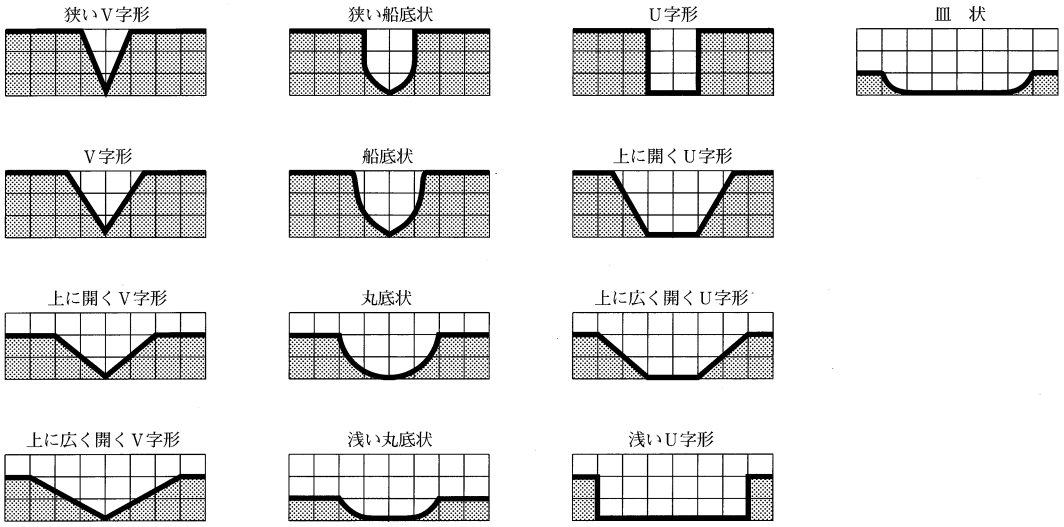
3．写真図版の縮尺
　遺構・遺物とも、縮尺は任意である。

4．水糸レベルの数字は海抜高を示し、単位はメートル（m)である。

5．遺構挿図
　挿図に示した遺構名は下記の略称を用いた。

○号横穴	→	○横	○号近世土壙墓	→	○墓
○号周溝墓	→	○周	○号土坑	→	○土
○号溝跡	→	○溝	○号ピット	→	○ピ
○号土壙	→	○壙	○号自然排水路	→	○自

6．遺構の断面形状（長径または長軸に対する断面）の表現は、下図に基づくものである。



7．地層断面図に示した色調と遺物（土器）の観察表に示した色調は、『新版標準土色帖　1990年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修)』に基づいた。

8．遺物挿図
　遺構に伴う遺物の番号は、遺構ごとの通し番号とし、1横－1のように「略称遺構名－番号」で表記した。通し番号は本文・遺物観察表とも一致している。

9．遺物観察表
　遺物の番号は遺構ごとの通し番号とし、本文・挿図・表・写真図版とも一致する。

目　　次

序　　大東町教育委員会教育長　三輪　隆
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
挿表目次
写真図版目次
Ⅰ　遺跡の立地と歴史的環境
1. 地理的環境
(1) 遺跡の位置 …… 1
(2) 地形と地質 …… 2
2. 歴史的環境
(1) 周辺に分布する遺跡 …… 2
Ⅱ　調査の概要
1. 発掘調査の経緯 …… 5
2. 調査の方法と経過 …… 5
Ⅲ　調査の結果
《兼情横穴群》
1. 横穴群の概要 …… 9
2. 遺構と遺物 …… 10
3. 遺構計測表・遺物観察表 …… 26
4. まとめ …… 33
《兼情遺跡》
1. 遺跡の概要 …… 37
2. 遺跡の層序 …… 38
3. 遺構と遺物
(1) 弥生時代の遺構と遺物 …… 43
(2) 古墳時代の遺構と遺物 …… 116
(3) 中世の遺構と遺物 …… 195
(4) 近世の遺構と遺物 …… 203
(5) 遺構以外から出土した遺物 …… 237
(6) 遺構計測表・遺物観察表 …… 251
4. まとめ …… 292
《帝釈山砦》
1. 遺跡の概要 …… 305
2. 遺跡の層序 …… 308
3. 遺構と遺物 …… 319
4. まとめ …… 319
Ⅳ　調査の成果と課題 …… 320
引用・参考文献 …… 323
附載：近世土壙墓から出土した人骨について
国立科学博物館人類研究部　梶ヶ山　眞里・馬場悠男 …… 325
写真図版
Abstract
報告書抄録

挿図目次

第１図　兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦調査範囲図 …… 1
第２図　大東町域の表層地質図 …… 3
第３図　兼情横穴群・兼情遺跡周辺の遺跡分布図 …… 4
第４図　兼情横穴群および兼情遺跡の調査範囲とグリッド設定図 …… 6
第５図　兼情横穴群遺構全体図 …… 9
第６図　１号横穴の平面・断面図 …… 10
第７図　１号横穴の石棺・敷石配置状況および排水溝平面・断面図 …… 11
第８図　１号横穴出土石棺の平面・断面図 …… 11
第９図　１号横穴の遺物出土状況図 …… 12
第10図　１号横穴から出土した土師器の実測図 …… 13
第11図　１号横穴から出土した須恵器・耳環・鉄鏃片の実測図 …… 14
第12図　２号横穴の平面・断面図 …… 16
第13図　２号横穴の遺物出土状況図 …… 16
第14図　２号横穴から出土した土師器の実測図 …… 17
第15図　２号横穴から出土した須恵器の実測図 …… 18
第16図　２号横穴から出土した装身具類の実測図 …… 20
第17図　２号横穴から出土した鉄器類の実測図（1） …… 21
第18図　２号横穴から出土した鉄器類の実測図（2） …… 22
第19図　３号横穴の平面・断面図 …… 23
第20図　３号横穴の遺物出土状況図 …… 24
第21図　３号横穴から出土した土器・銭貨・一石五輪塔の実測図 …… 24
第22図　４号横穴の平面・断面図 …… 25
第23図　横穴から出土した須恵器の坏蓋・坏身の法量と分類図 …… 35
第24図　玄室の平面形状による分類 …… 36
第25図　兼情遺跡遺構全体図 …… 37
第26図　土層確認位置図 …… 38
第27図　平坦面における層序概念図 …… 38
第28図　緩斜面における層序概念図 …… 39
第29図　基本層序 …… 40
第30図　弥生時代の遺構全体図 …… 43
第31図　1号周溝墓の平面・断面図 …… 44
第32図　1号周溝墓の遺物出土状況図 …… 45
第33図　1号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 45
第34図　2号周溝墓の平面・断面図 …… 46
第35図　2号周溝墓から出土した甕の位置図 …… 46
第36図　2号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 47
第37図　3号周溝墓の平面・断面図 …… 48
第38図　3号周溝墓の断面図 …… 49
第39図　3号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 49
第40図　4号周溝墓の平面・断面図 …… 50
第41図　4号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 51
第42図　5・7号周溝墓の平面・断面図 …… 51
第43図　5・7号周溝墓の溝の断面図 …… 52
第44図　5・7号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 53
第45図　6号周溝墓の平面図 …… 53
第46図　6号周溝墓の断面図 …… 54

第47図　8号周溝墓の平面・断面図 …… 54
第48図　8号周溝墓の溝の断面図 …… 55
第49図　8号周溝墓の遺物出土状況図 …… 56
第50図　8号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 56
第51図　9号周溝墓の平面・断面図 …… 57
第52図　9号周溝墓の遺物出土状況図 …… 58
第53図　9号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 59
第54図　11号周溝墓の平面・断面図 …… 60
第55図　11号周溝墓の溝の断面図 …… 61
第56図　11号周溝墓の遺物出土状況図（1） …… 62
第57図　11号周溝墓の遺物出土状況図（2） …… 63
第58図　11号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 64
第59図　12号周溝墓の平面・断面図 …… 66
第60図　12号周溝墓の遺物出土状況図 …… 66
第61図　12号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 67
第62図　14号周溝墓の平面・断面図 …… 68
第63図　14号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 68
第64図　17号周溝墓の平面・断面図 …… 69
第65図　17号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 70
第66図　18号周溝墓の平面・断面図 …… 71
第67図　18号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 71
第68図　19号周溝墓の平面・断面図 …… 72
第69図　19号周溝墓の遺物出土状況図 …… 73
第70図　19号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 74
第71図　20号周溝墓の平面・断面図 …… 76
第72図　20号周溝墓から出土した弥生土器の実測図 …… 76
第73図　24・26号溝跡の平面・断面図 …… 77
第74図　28・29号溝跡の平面・断面図 …… 78
第75図　28号溝跡の遺物出土状況図 …… 79
第76図　28号溝跡から出土した土器と石器の実測図 …… 80
第77図　30～32号溝跡の平面・断面図 …… 82
第78図　35・48号溝跡の平面・断面図 …… 82
第79図　36・41・42号溝跡の平面・断面図 …… 83
第80図　37～40・44・47号溝跡の平面・断面図 …… 85
第81図　45・46号溝跡の平面・断面図 …… 86
第82図　49号溝跡の平面・断面図 …… 87
第83図　50～54・56号溝跡の平面・断面図 …… 88
第84図　50号溝跡から出土した弥生土器の実測図 …… 89
第85図　51号溝跡から出土した弥生土器の実測図 …… 89
第86図　55号溝跡の平面・断面図 …… 91
第87図　55号溝跡から出土した弥生土器の実測図 …… 92
第88図　57号溝跡の平面・断面図 …… 93
第89図　61・62号溝跡の平面・断面図 …… 94
第90図　63号溝跡の平面・断面図 …… 95
第91図　64号溝跡の平面・断面図 …… 95
第92図　65号溝跡の平面・断面図 …… 96
第93図　66・70号溝跡の平面・断面図 …… 97
第94図　66号溝跡から出土した土師器の実測図 …… 97

第 95 図　70号溝跡から出土した弥生土器の実測図 …… 98
第 96 図　67号溝跡の平面・断面図 …… 98
第 97 図　67号溝跡から出土した弥生土器の実測図 …… 98
第 98 図　68号溝跡の平面・断面図 …… 99
第 99 図　68号溝跡から出土した弥生土器と須恵器の実測図 …… 100
第100図　69号溝跡の平面・断面図 …… 100
第101図　69号溝跡から出土した弥生土器の実測図 …… 101
第102図　71号溝跡の平面・断面図 …… 101
第103図　71号溝跡から出土した弥生土器の実測図（1） …… 103
第104図　71号溝跡から出土した弥生土器の実測図（2） …… 104
第105図　12号土坑の平面・断面図 …… 105
第106図　15号土坑の平面・断面図 …… 105
第107図　73・76・207・208・212号ピットの分布図 …… 106
第108図　73・76・207・208・212号ピットの平面・断面図 …… 107
第109図　121・122・124・125号ピットの分布図 …… 108
第110図　121・122・124・125号ピットの平面・断面図 …… 108
第111図　123号ピットの位置図と平面・断面図 …… 109
第112図　123号ピットの平面・断面図 …… 109
第113図　215・219号ピットの分布図 …… 110
第114図　215・219号ピットの平面・断面図 …… 110
第115図　300～305・307～310号ピットの分布図 …… 111
第116図　300～305・307～310号ピットの平面・断面図 …… 112
第117図　304号ピットから出土した弥生土器の実測図 …… 113
第118図　401～406号ピットの分布図 …… 114
第119図　401～406号ピットの平面・断面図 …… 115
第120図　古墳時代の遺構と自然排水路の分布図 …… 116
第121図　7 号溝跡の平面・断面図 …… 117
第122図　7 号溝跡から出土した土師器と須恵器の実測図 …… 117
第123図　9 号溝跡の平面図 …… 118
第124図　9 号溝跡の断面図 …… 119
第125図　9 号溝跡から出土した土器の実測図 …… 120
第126図　11号溝跡の平面・断面図 …… 121
第127図　14号溝跡の平面・断面図 …… 122
第128図　15号溝跡の平面・断面図 …… 122
第129図　16号溝跡の平面・断面図 …… 122
第130図　27号溝跡の平面・断面図 …… 123
第131図　33号溝跡の平面・断面図 …… 123
第132図　34号溝跡の平面・断面図 …… 124
第133図　43・58号溝跡の平面・断面図 …… 124
第134図　59号溝跡の平面・断面図 …… 125
第135図　60号溝跡の平面・断面図 …… 126
第136図　自然排水路（8・10・12・13号溝跡）の平面図 …… 126
第137図　自然排水路（8・10・12・13号溝跡）の断面図 …… 127
第138図　自然排水路（8 号溝跡）から出土した土器の実測図 …… 128
第139図　自然排水路（10号溝跡）から出土した土器の実測図 …… 129
第140図　自然排水路（12号溝跡）から出土した土器の実測図 …… 131
第141図　17・18・20号溝跡の平面図 …… 132

第142図　17・18・20号溝跡の断面図 …… 133
第143図　23号溝跡の平面・断面図 …… 134
第144図　23号溝跡から出土した土器の実測図 …… 134
第145図　1号土壙の平面・断面図 …… 135
第146図　2号土壙の平面・断面図 …… 136
第147図　2号土壙の遺物および礫の出土状況図 …… 136
第148図　2号土壙から出土した須恵器の実測図 …… 137
第149図　1号土坑の平面・断面図 …… 137
第150図　2号土坑の平面・断面図 …… 138
第151図　3・4・5号土坑の平面・断面図 …… 138
第152図　6号土坑の平面・断面図 …… 139
第153図　7号土坑の平面・断面図 …… 139
第154図　8号土坑の平面・断面図 …… 140
第155図　9・10号土坑の平面・断面図 …… 140
第156図　10号土坑から出土した須恵器の実測図 …… 141
第157図　13号土坑の平面・断面図 …… 142
第158図　14号土坑の平面・断面図 …… 142
第159図　16号土坑の平面・断面図 …… 142
第160図　17号土坑の平面・断面図 …… 143
第161図　18号土坑の平面・断面図 …… 143
第162図　19号土坑の平面・断面図 …… 144
第163図　20号土坑の平面・断面図 …… 144
第164図　21号土坑の平面・断面図 …… 144
第165図　22号土坑の平面・断面図 …… 145
第166図　23・24号土坑の平面・断面図 …… 145
第167図　25・26号土坑の平面・断面図 …… 146
第168図　27号土坑の平面・断面図 …… 146
第169図　28号土坑の平面・断面図 …… 147
第170図　30号土坑の平面・断面図 …… 147
第171図　31号土坑の平面・断面図 …… 147
第172図　32号土坑の平面・断面図 …… 148
第173図　33号土坑の平面・断面図 …… 148
第174図　34号土坑の平面・断面図 …… 148
第175図　36号土坑の平面・断面図 …… 149
第176図　37号土坑の平面・断面図 …… 149
第177図　38号土坑の平面・断面図 …… 150
第178図　39号土坑の平面・断面図 …… 150
第179図　40号土坑の平面・断面図 …… 150
第180図　43号土坑の平面・断面図 …… 151
第181図　44号土坑の平面・断面図 …… 151
第182図　45号土坑の平面・断面図 …… 152
第183図　46号土坑の平面・断面図 …… 152
第184図　47号土坑の平面・断面図 …… 153
第185図　48号土坑の平面・断面図 …… 153
第186図　50号土坑の平面・断面図 …… 154
第187図　51号土坑の平面・断面図 …… 154
第188図　6・9・50号ピットの分布図 …… 155
第189図　6・9・50号ピットの平面・断面図 …… 155

第190図　12～14・16号ピットの分布図 …… 156
第191図　12～14・16号ピットの平面・断面図 …… 156
第192図　19～24号ピット、27・28号ピット、31～33号ピット、35～38号ピット、41・44号ピットの分布図 …… 157
第193図　19～22号ピットの平面・断面図 …… 157
第194図　20号ピットから出土した土師器の実測図 …… 158
第195図　23～24号ピット、27・28号ピット、31～33号ピット、35～38号ピット、41・44号ピットの平面・断面図 …… 159
第196図　52・53号ピットの分布図 …… 161
第197図　52・53号ピットの平面・断面図 …… 161
第198図　55～58号ピットの分布図 …… 162
第199図　55～58号ピットの平面・断面図 …… 162
第200図　60～72・75号ピット、77～83号ピットの分布図 …… 163
第201図　60～72・75号ピット、77～83号ピットの平面・断面図 …… 165
第202図　105～114号ピット、117～120号ピットの分布図 …… 167
第203図　105～114号ピット、117～120号ピットの断面・平面図 …… 167
第204図　150～157号ピット、160～163号ピットの分布図 …… 170
第205図　150～157号ピット、160～163号ピットの平面・断面図 …… 172
第206図　164～170号ピットの分布図 …… 173
第207図　164～170号ピットの平面・断面図 …… 174
第208図　171～175号ピットの分布図 …… 175
第209図　171～175号ピットの平面・断面図 …… 175
第210図　177～194号ピット、196～204号ピット、206・211号ピットの分布図 …… 176
第211図　177～194号ピット、196～204号ピット、206・211号ピットの平面・断面図 …… 179
第212図　216～218号ピット、220・221号ピットの分布図 …… 182
第213図　216～218号ピット、220・221号ピットの平面・断面図 …… 182
第214図　231～236号ピットの分布図 …… 183
第215図　231～236号ピットの平面・断面図 …… 184
第216図　237～242号ピットの分布図 …… 185
第217図　237～242号ピットの平面・断面図 …… 185
第218図　243～255号ピット、259・260号ピットの分布図 …… 186
第219図　243～255号ピット、259・260号ピットの平面・断面図 …… 188
第220図　273・274・288・293号ピットの分布図 …… 189
第221図　273・274・288・293号ピットの平面・断面図 …… 190
第222図　279～284号ピット、287号ピット、289～292号ピットの分布図 …… 191
第223図　279～284号ピット、287号ピット、289～292号ピットの平面・断面図 …… 192
第224図　292号ピットから出土した土師器の実測図 …… 193
第225図　295～297号ピット、299号ピットの分布図 …… 193
第226図　295～297号ピット、299号ピットの平面・断面図 …… 194
第227図　中世の遺構分布図 …… 195
第228図　6号溝跡の平面・断面図 …… 196
第229図　6号溝跡から出土した山茶碗の実測図 …… 196
第230図　29・40号ピットの分布図 …… 197
第231図　29・40号ピットの平面・断面図 …… 197
第232図　42・43号ピットの分布図 …… 198
第233図　42・43号ピットの平面・断面図 …… 198
第234図　45～47号ピットの分布図 …… 199
第235図　45～47号ピットの平面・断面図 …… 199

第236図　84～92号ピット、97・98号ピットの分布図 …… 200
第237図　84～92号ピット、97・98号ピットの平面・断面図 …… 201
第238図　近世の遺構分布図 …… 203
第239図　1号溝跡の平面・断面図 …… 204
第240図　1号溝跡から出土した土錘の実測図 …… 205
第241図　2号溝跡の平面・断面図 …… 205
第242図　3号溝跡の平面・断面図 …… 206
第243図　4・5号溝跡の平面図 …… 206
第244図　4・5号溝跡の断面図 …… 207
第245図　21・22号溝跡の平面・断面図 …… 208
第246図　22号溝跡の遺物出土状況図 …… 208
第247図　22号溝跡から出土した遺物の実測図 …… 209
第248図　19・25号溝跡の平面・断面図 …… 209
第249図　丘陵裾部における土壙墓の分布状況図 …… 210
第250図　1号土壙墓の平面・断面図 …… 211
第251図　1号土壙墓の遺物出土状況図 …… 211
第252図　1号土壙墓から出土した銭貨の拓影 …… 211
第253図　2号土壙墓の平面・断面図 …… 212
第254図　3号土壙墓の平面・断面図 …… 212
第255図　3号土壙墓の遺物出土状況図 …… 213
第256図　3号土壙墓から出土した銭貨の拓影 …… 213
第257図　4号土壙墓の平面・断面図 …… 214
第258図　4号土壙墓の遺物出土状況図 …… 214
第259図　4号土壙墓から出土した銭貨の拓影 …… 214
第260図　5号土壙墓の平面・断面図 …… 215
第261図　6号土壙墓の平面・断面図 …… 215
第262図　6号土壙墓から出土した銭貨の拓影 …… 216
第263図　7号土壙墓の平面・断面図 …… 216
第264図　7号土壙墓から出土した鉄釘の実測図 …… 217
第265図　8号土壙墓の平面・断面図 …… 217
第266図　9・10号土壙墓の平面・断面図 …… 218
第267図　11号土壙墓の平面・断面図 …… 218
第268図　11号土壙墓から出土した鉄釘の実測図 …… 219
第269図　12号土壙墓の平面・断面図 …… 219
第270図　13号土壙墓の平面・断面図 …… 220
第271図　14号土壙墓の平面・断面図 …… 220
第272図　15号土壙墓の平面・断面図 …… 221
第273図　16号土壙墓の平面・断面図 …… 221
第274図　16号土壙墓から出土した鉄釘の実測図 …… 222
第275図　17号土壙墓の平面・断面図 …… 222
第276図　18号土壙墓の平面・断面図 …… 223
第277図　19号土壙墓の平面・断面図 …… 223
第278図　19号土壙墓から出土した鉄釘の実測図と銭貨の拓影 …… 224
第279図　20号土壙墓の平面・断面図 …… 224
第280図　21号土壙墓の平面・断面図 …… 225
第281図　21号土壙墓から出土した遺物の実測図と銭貨の拓影 …… 226
第282図　22号土壙墓の平面・断面図 …… 227

第283図　23号土壙墓の平面・断面図 …… 227
第284図　24号土壙墓の平面・断面図 …… 228
第285図　25号土壙墓の平面・断面図 …… 228
第286図　25号土壙墓から出土した銭貨の拓影 …… 229
第287図　26号土壙墓の平面・断面図 …… 229
第288図　26号土壙墓から出土した土器の実測図と銭貨の拓影 …… 230
第289図　4・5・7・8・10・15・18・49・51号ピットの分布図 …… 231
第290図　4・5・7・8・10・15・18・49・51号ピットの平面・断面図 …… 232
第291図　48号ピットの平面・断面図 …… 234
第292図　158号ピットの平面・断面図 …… 234
第293図　176号ピットの平面・断面図 …… 235
第294図　205号ピットの平面・断面図 …… 235
第295図　井戸跡の平面・断面図 …… 236
第296図　各グリッドから出土した弥生土器の実測図 …… 237
第297図　各グリッドから出土した石器の実測図 …… 238
第298図　各グリッドから出土した土師器の甕の実測図 …… 239
第299図　各グリッドから出土した土師器の実測図 …… 241
第300図　各グリッドから出土した須恵器の実測図 …… 243
第301図　各グリッドから出土した土錘の実測図 …… 244
第302図　ガラス小玉の実測図 …… 244
第303図　各グリッドから出土した山茶碗の実測図（1） …… 246
第304図　各グリッドから出土した山茶碗の実測図（2） …… 247
第305図　各グリッドから出土したかわらけの実測図 …… 248
第306図　陶器の実測図 …… 249
第307図　各グリッドから出土した銭貨の拓影（1） …… 249
第308図　各グリッドから出土した銭貨の拓影（2） …… 250
第309図　周溝墓から出土した弥生土器・壺の集成図（1） …… 293
第310図　周溝墓から出土した弥生土器・壺の集成図（2） …… 294
第311図　周溝墓から出土した弥生土器・甕の集成図（1） …… 295
第312図　周溝墓から出土した弥生土器・甕の集成図（2） …… 296
第313図　溝状遺構から出土した弥生土器・壺・鉢の集成図 …… 297
第314図　溝状遺構から出土した弥生土器・甕の集成図 …… 298
第315図　溝状遺構から出土した土師器と須恵器の集成図 …… 300
第316図　溝状遺構から出土した須恵器の集成図 …… 301
第317図　土壙・土坑から出土した土器の集成図 …… 302
第318図　大東町域の城館跡分布図 …… 307
第319図　帝釈山砦及び中村城山等見取り図 …… 308
第320図　トレンチの設定位置見取図 …… 309
第321図　第1トレンチ北壁地層断面図 …… 310
第322図　第2トレンチ東壁地層断面図 …… 310
第323図　第3トレンチ東壁地層断面図 …… 311
第324図　第4トレンチ東壁地層断面図 …… 311
第325図　第5トレンチ西壁地層断面図 …… 312
第326図　第6トレンチ北壁地層断面図 …… 313
第327図　第7トレンチ東壁地層断面図 …… 314
第328図　第8トレンチ南壁地層断面図 …… 314
第329図　第9トレンチ北壁地層断面図 …… 315

第330図　第10トレンチ南壁地層断面図 …… 315
第331図　第11トレンチ南壁地層断面図 …… 316
第332図　第12トレンチ（防空壕）平面・断面図 …… 316
第333図　第13トレンチ南壁地層断面図 …… 317
第334図　第14トレンチ南壁地層断面図 …… 317
第335図　第15トレンチ北壁地層断面図 …… 318
第336図　第16トレンチ東壁地層断面図 …… 318
第337図　第17トレンチ北東壁地層断面図 …… 319
附載第１図　１号土壙墓における人骨の出土状況図 …… 325
附載第２図　３号土壙墓における人骨の出土状況図 …… 328

挿表目次

第１表　兼情横穴群遺構計測表 …… 26
第２表　１号横穴出土土器観察表 …… 26
第３表　１号横穴出土土器観察表（つづき） …… 27
第４表　１号横穴出土土器観察表（つづき） …… 28
第５表　１号横穴出土土器観察表（つづき） …… 29
第６表　２号横穴出土土器観察表 …… 29
第７表　２号横穴出土土器観察表（つづき） …… 30
第８表　２号横穴出土土器観察表（つづき） …… 31
第９表　３号横穴出土土器観察表 …… 32
第10表　兼情横穴群出土石造物の観察表 …… 32
第11表　兼情横穴群出土装身具類の観察表 …… 32
第12表　兼情横穴群出土大刃の観察表 …… 33
第13表　兼情横穴群出土鉄鏃の観察表 …… 33
第14表　兼情横穴群出土鉄鎌の観察表 …… 33
第15表　兼情横穴群出土銭貨の観察表 …… 33
第16表　各横穴から出土した須恵器・土師器の器種別個数 …… 34
第17表　横穴から出土した須恵器の坏蓋・坏身の法量と分類区分 …… 35
第18表　周溝墓計測表 …… 251
第19表　周溝墓計測表（つづき） …… 252
第20表　周溝墓計測表（つづき） …… 253
第21表　溝状遺構計測表 …… 254
第22表　溝状遺構計測表（つづき） …… 255
第23表　溝状遺構計測表（つづき） …… 256
第24表　溝状遺構計測表（つづき） …… 257
第25表　溝状遺構計測表（つづき） …… 258
第26表　溝状遺構計測表（つづき） …… 259
第27表　土壙計測表 …… 260
第28表　土坑計測表 …… 260
第29表　ピット計測表 …… 261
第30表　ピット計測表（つづき） …… 262
第31表　ピット計測表（つづき） …… 263
第32表　ピット計測表（つづき） …… 264
第33表　ピット計測表（つづき） …… 265
第34表　土壙墓計測表 …… 265
第35表　井戸跡計測表 …… 265
第36表　周溝墓出土土器観察表 …… 266
第37表　周溝墓出土土器観察表（つづき） …… 267

第38表　周溝墓出土土器観察表（つづき）……268
第39表　周溝墓出土土器観察表（つづき）……269
第40表　溝状遺構出土土器観察表……270
第41表　溝状遺構出土土器観察表（つづき）……271
第42表　溝状遺構出土土器観察表（つづき）……272
第43表　溝状遺構出土土器観察表（つづき）……273
第44表　溝状遺構出土土器観察表（つづき）……274
第45表　溝状遺構出土土器観察表（つづき）……275
第46表　溝状遺構出土土錘観察表……275
第47表　溝状遺構出土石器計測表……275
第48表　自然排水路出土土器観察表……276
第49表　自然排水路出土土器観察表（つづき）……277
第50表　自然排水路出土土器観察表（つづき）……278
第51表　土壙墓出土土器観察表……278
第52表　土壙墓出土副葬品計測表……278
第53表　土壙出土土器観察表……278
第54表　土壙出土土器観察表（つづき）……279
第55表　土坑出土土器観察表……279
第56表　ピット出土土器観察表……279
第57表　グリッド出土土器観察表……280
第58表　グリッド出土土器観察表（つづき）……281
第59表　グリッド出土土器観察表（つづき）……282
第60表　グリッド出土土器観察表（つづき）……283
第61表　グリッド出土土器観察表（つづき）……284
第62表　グリッド出土土器観察表（つづき）……285
第63表　グリッド出土土器観察表（つづき）……286
第64表　グリッド出土土器観察表（つづき）……287
第65表　グリッド出土土器観察表（つづき）……288
第66表　グリッド出土石器計測表……288
第67表　グリッド出土土錘観察表……288
第68表　グリッド出土装身具観察表……289
第69表　近世土壙墓出土銭貨計測表……289
第70表　近世土壙墓出土銭貨計測表（つづき）……290
第71表　溝状遺構・グリッド出土銭貨計測表……290
第72表　溝状遺構・グリッド出土銭貨計測表（つづき）……291
第73表　近世土壙墓出土鉄釘計測表……291
第74表　大東町域に存在する中・近世の城館跡……306
附載第１表　１号土壙墓から出土した人骨の頭蓋計測値……326
附載第２表　兼情遺跡出土人骨の四肢骨計測値および比較……329

写真図版１　１　遺跡全景空中写真
写真図版２　１　調査区東部全景空中写真　２　調査区西部全景空中写真
写真図版３　１　横穴群全景空中写真　２　横穴調査前風景
３　第１号横穴閉塞施設　４　第1号横穴遺物出土状況（1）
写真図版４　１　第１号横穴遺物出土状況（2）　２　第1号横穴石棺実測風景
３　第１号横穴から出土した土師器
写真図版５　１　第１号横穴から出土した須恵器・耳環・鉄鏃片　２　第２号横穴遺物出土状況
３　第２号横穴完掘状況
写真図版６　１　第１号（右）・２号（左）横穴完掘状況　２　第２号横穴から出土した土師器

写真図版 7 1 第 2 号横穴から出土した須恵器
写真図版 8 1 第 2 号横穴から出土した装身具類　2 第 2 号横穴から出土した鉄器類
3 第 3 号横穴遺物出土状況(1)かわらけ　4 第 3 号横穴遺物出土状況(2)一石五輪塔
写真図版 9 1 第 3 号横穴刻印文字　2 第 3 号横穴完掘状況
3 第 3 号横穴から出土した遺物　4 第 4 号横穴確認状況
5 第 4 号横穴完掘状況
写真図版10 1 第 1 号周溝墓遺物出土状況　2 第 1 号周溝墓南溝完掘状況
3 第 1 号周溝墓から出土した遺物　4 第 2 号周溝墓遺物出土状況
5 第 2 号周溝墓から出土した遺物
写真図版11 1 第 3 号周溝墓完掘状況　2 第 4 号周溝墓完掘状況
3 第 3 号周溝墓から出土した遺物　4 第 4 号周溝墓から出土した遺物
5 第 5・7・12号周溝墓・溝確認状況　6 第 5 号周溝墓東溝断面
写真図版12 1 第 5 号周溝墓南溝遺物出土状況　2 第 5・7・9 号周溝墓完掘状況
3 第 5・7 号周溝墓から出土した遺物　4 第 8 号周溝墓東溝遺物出土状況
5 第 8 号周溝墓完掘状況　6 第 8 号周溝墓から出土した遺物
写真図版13 1 第 9 号周溝墓から出土した遺物　2 第11号周溝墓遺物出土状況
3 第11号周溝墓西溝断面　4 第11号周溝墓完掘状況
写真図版14 1 第11号周溝墓から出土した遺物　2 第12号周溝墓南溝遺物出土状況
3 第12号周溝墓完掘状況　4 第12号周溝墓から出土した遺物
写真図版15 1 第14号周溝墓完掘状況　2 第14号周溝墓から出土した遺物
3 第17号周溝墓から出土した遺物　4 第17号周溝墓完掘状況
5 第18号周溝墓完掘状況　6 第18号周溝墓から出土した遺物
7 第19号周溝墓遺物出土状況
写真図版16 1 第19号周溝墓から出土した遺物　2 第20号周溝墓完掘状況（南西から）
3 第20号周溝墓から出土した遺物
写真図版17 1 第28号溝遺物出土状況（1）　2 第28号溝遺物出土状況（2）
3 第28号溝から出土した遺物　4 第50・51号溝完掘状況
5 第50号溝から出土した遺物
写真図版18 1 第51号溝から出土した遺物　2 第55号溝遺物出土状況
3 第55号溝断面　4 第55号溝完掘状況
写真図版19 1 第55号溝から出土した遺物　2 第66号溝から出土した遺物
3 第66号溝遺物出土状況　4 第67号溝完掘状況
5 第67号溝から出土した遺物
写真図版20 1 第68号溝から出土した遺物　2 第69号溝完掘状況
3 第69号溝から出土した遺物　4 第70号溝から出土した遺物
5 第70溝完掘状況　6 第71号溝遺物出土状況（1）
7 第71号溝遺物出土状況（2）
写真図版21 1 第71号周溝から出土した遺物　2 第304号ピット半裁状況
3 第304号ピットから出土した遺物
写真図版22 1 第 7 号溝完掘状況　2 第 7 号溝から出土した遺物
3 第 9 号溝遺物出土状況　4 第 9 号溝から出土した遺物（1）
写真図版23 1 第 9 号溝から出土した遺物（2）　2 第 8 号溝から出土した遺物
写真図版24 1 第10号溝遺物（須恵器甕）出土状況　2 第10号溝断面
3 第10号溝から出土した遺物
写真図版25 1 第12号溝遺物出土状況（1）　2 第12号溝遺物出土状況（2）
3 第12号溝遺物・植物遺体出土状況（3）　4 第12号溝遺物出土状況（4）
5 第12号溝完掘状況（南から）

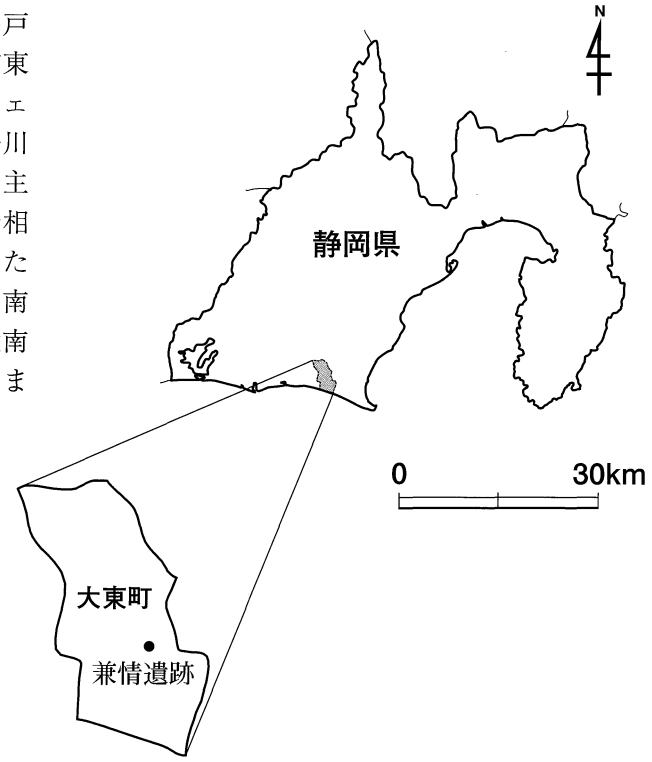
写真図版26 1 第12号溝から出土した遺物　2 第23号溝完掘状況
3 第23号溝から出土した遺物
写真図版27 1 第１号土壙確認状況　2 第１号土壙断面
3 第１号土壙礫床出土状況　4 第１号土壙完掘状況
5 第２号土壙（下）・10号土坑（上）遺物出土状況
写真図版28 1 第２号土壙から出土した遺物　2 第３・4・5号土坑・14号溝完掘状況
3 第２号土壙・第９・10号土坑完掘状況
写真図版29 1 第10号土坑から出土した遺物　2 古墳時代ピット群完掘状況
3 第20号ピットから出土した遺物　4 第292号ピットから出土した遺物
写真図版30 1 第６号溝完掘状況　2 第６号溝から出土した遺物
3 中世ピット群完掘状況
写真図版31 1 第１号溝完掘状況　2 第１号溝から出土した遺物
3 第22号溝遺物出土状況　4 第22号溝から出土した遺物
5 第１号土壙墓遺物出土状況　6 第１号土壙墓から出土した遺物
写真図版32 1 第３号土壙墓遺物出土状況　2 第３号土壙墓から出土した遺物
3 第４号土壙墓から出土した遺物　4 第６号土壙墓から出土した遺物
5 第７号土壙墓から出土した遺物　6 第11号土壙墓から出土した遺物
7 第16号土壙墓から出土した遺物　8 第17号土壙墓遺物出土状況状況
9 第17号土壙墓完掘状況
写真図版33 1 第19号土壙墓から出土した遺物　2 第21号土壙墓から出土した遺物
3 第25号土壙墓遺物出土状況　4 第25号土壙墓から出土した遺物
写真図版34 1 第26号土壙墓完掘状況　2 第26号土壙墓から出土した遺物
3 土壙墓群完掘状況　4 近世ピット群完掘状況
5 井戸跡確認状況　6 井戸跡出土礫の墨書
写真図版35 1 各グリッドから出土した弥生土器　2 各グリッドから出土した石器
3 各グリッドから出土した土師器の甕（1）
写真図版36 1 各グリッドから出土した土師器の甕（2）　2 各グリッドから出土した土師器（1）
写真図版37 1 各グリッドから出土した土師器（2）　2 各グリッドから出土した須恵器（1）
写真図版38 1 各グリッドから出土した須恵器（2）　2 各グリッドから出土した土錘
3 各グリッドから出土した装身具　4 各グリッドから出土した山茶碗（1）
写真図版39 1 各グリッドから出土した山茶碗（2）
写真図版40 1 各グリッドから出土したかわらけ　2 各グリッドから出土した陶器
3 各グリッドから出土した銭貨
写真図版41 1 帝釈山砦跡調査前状況　2 帝釈山砦跡調査前伐採状況
3 第９トレンチ調査状況　4 第12トレンチ調査状況
5 第１トレンチ設定状況　6 第１トレンチ完掘状況
写真図版42 1 第２トレンチ設定状況　2 第２トレンチ完掘状況
3 第６トレンチ設定状況　4 第６トレンチ完掘状況
5 第10トレンチ設定状況　6 第10トレンチ完掘状況
写真図版43 1 第12トレンチ設定状況　2 第12トレンチ完掘状況
3 第13トレンチ設定状況　4 第13トレンチ完掘状況
5 第17トレンチ設定状況　6 第17トレンチ完掘状況

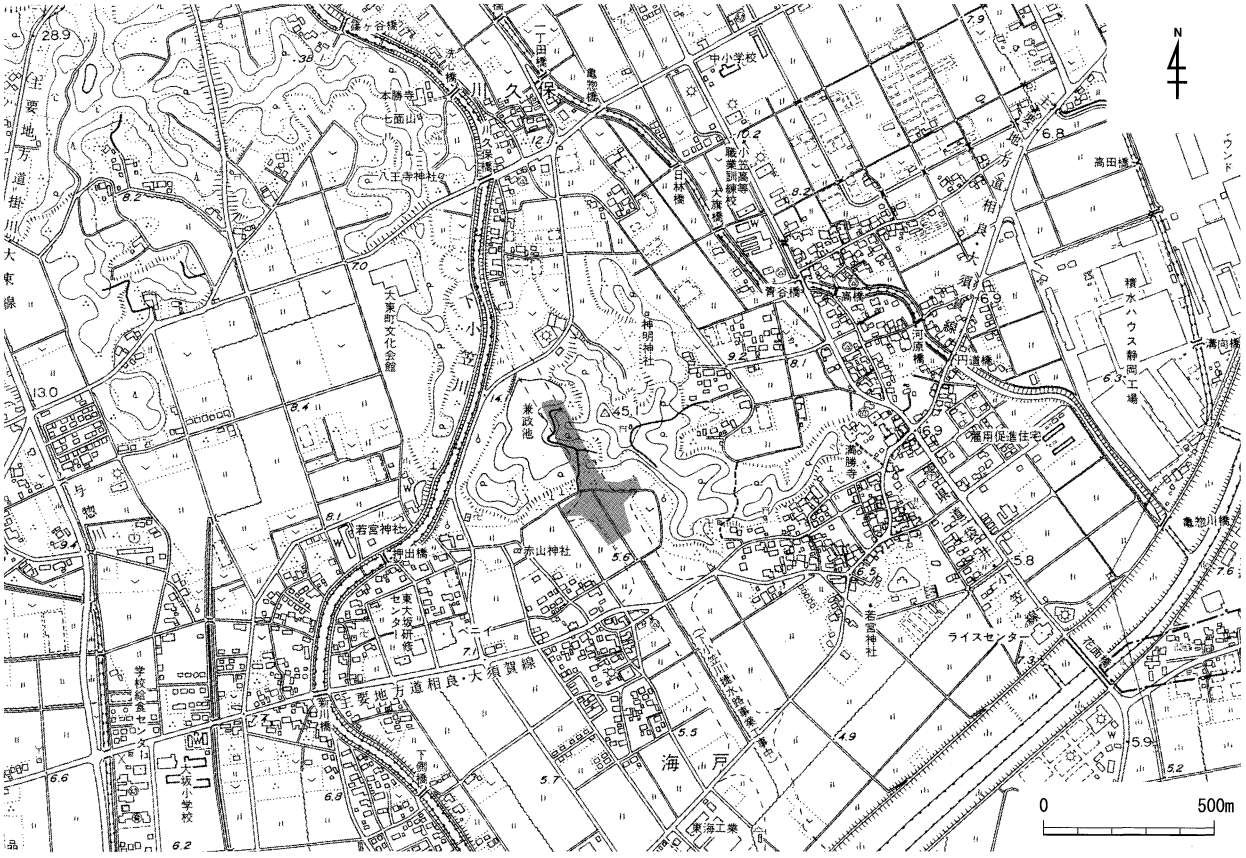
Ⅰ　遺跡の立地と歴史的環境

１．地理的環境

(1) 遺跡の位置

兼情横穴群･兼情遺跡･帝釈山砦の在る海戸地区は静岡県小笠郡大東町の中央からやや南東側に位置する。東名高速道路菊川インターチェンジより南南西に約7.8㎞、東名高速道路掛川インターチェンジより南南東に約9.8㎞で、主要道路掛川・大東線を南下し、大東町大坂で相良・大須賀線を東へ向かい、下小笠川を越えた約650ｍの所である。兼情横穴群は兼政池の南東部の西に伸びる丘陵、兼情遺跡はその丘陵南側緩斜面から平野部にかけて立地している。また、丘陵全体が帝釈山砦となっている。





第1図　兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦調査範囲図

(2) 地形と地質

大東町は小笠山丘陵の南東部に位置し、町域の東寄りを一級河川の菊川が南流し、支流の佐束川が町域の北東部を北西から南東方向に流下し、下小笠川が町域の中央部を北西から南東方向に流下して菊川に流入している。町域の南部は遠州灘に面している。

菊川流域は大井川や天竜川の大河川に挟まれた流域で、約300万年前（鮮新世）頃につくられた泥岩が基盤をなしている。これは掛川層群と呼ばれ、小笠郡菊川町を中心として鮮新世から更新世前期（450万年～100万年前）までに海底に堆積した地層で、掛川層群は南西方向に傾斜しているため、南西ほど新しい地層になる。砂泥互層は比較的深い海底に堆積した地層である。その後、50～90万年前（更新世）に赤石山地から流出した砂礫が河口で扇状地的な三角州を形成し、北東側が隆起して小笠山丘陵が形成された。

菊川は全長32㎞、流域面積157㎞²の一級河川で、上流は牧ノ原台地北部に位置し、菊川町倉沢・潮海寺辺りは河岸段丘があり、金谷町神谷城周辺は地滑り地帯となっている。中流の菊川町堀之内付近から下流にかけては、低湿な沖積平野である菊川平野がひらけている。

菊川平野は小笠郡菊川町から南側の小笠町・大東町の菊川下流域に開けた沖積平野である。1万5000年前からヴュルム氷期が衰えはじめ、その頃には現在より海水面が100m程下がっていたと考えられている。後氷期になり、次第に上昇した海水面は約6000年前に、現在よりも数m程高くなっていた。これは「縄文海進」と呼ばれている。海水面の上昇により菊川の下流域にまで遠州灘が湾入し、天竜川によって運ばれた砂や礫が砂州・砂丘として発達し、湾口を閉ざして潟を形成した。ここに菊川流域の丘陵部や台地から運搬されてきた砂泥や植物遺体等が堆積して次第に浅くなり、やがて陸化し、菊川平野が誕生したのである。この平野は、海から内海、湖、沼、湿地、陸地と変貌してきている低湿地帯で、泥質層は層厚が25m以上あるところもあり、平野の中心部の地盤は軟弱である。

帝釈山は砂・泥岩から成る丘陵で、柔らかい地層からなるため浸食を受け、緩やかな丘陵を形成している。兼情横穴群は土中では淡い青灰色を帯びた土方泥岩層に構築されている。この土方泥岩層は掛川層群上部に位置し、掛川層群中部の堀之内砂岩泥岩互層とは整合に重なっている。土方泥岩層は不透水層であるが、土粒子同士の結びつきが弱いため、風化すると脆く崩れやすくなり、浸食の進みやすい地層といえる。したがって、横穴群の造られた丘陵部を含め、多くの丘陵部は緩やかな地形になり、山裾には河川によるU字谷が形成されている。一方、兼情遺跡は、横穴の造られた丘陵の緩斜面から平野部である後背湿地にかけて立地している。

2．歴史的環境

(1) 周辺に分布する遺跡

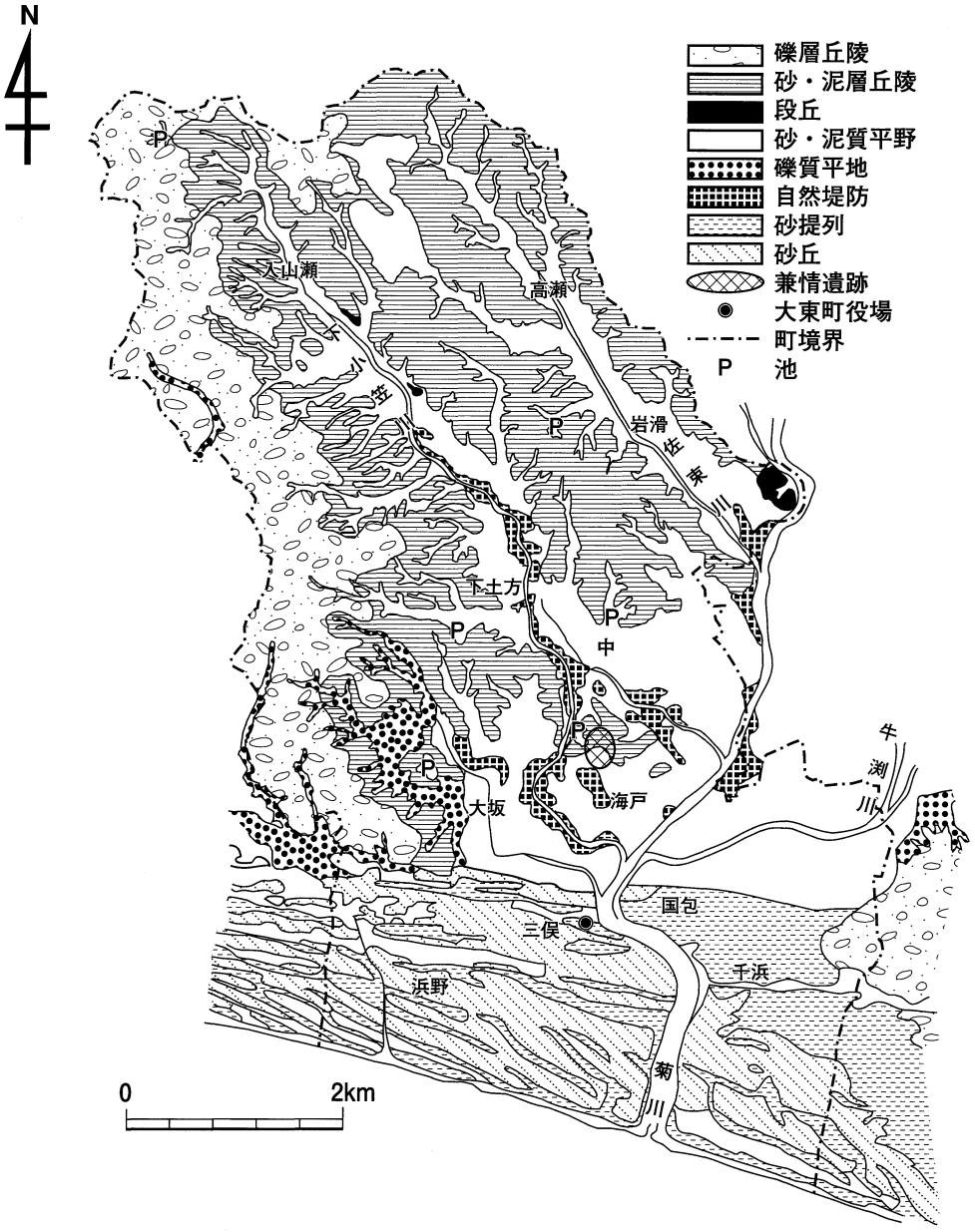
大東町には縄文時代から近世にかけての遺跡が134ヶ所確認されている。特に古墳時代の横穴群と中世から近世にかけての城館跡が多い。縄文時代の遺跡は三井山Ⅱ遺跡（大東町大坂）・山王遺跡（大東町大坂）・糸繰遺跡（大東町千浜）の 3 ヶ所があり、いずれも石錘が出土している。三井山Ⅱ遺跡は標高60m付近に存在し、山王遺跡は標高30m付近、糸繰遺跡は標高 8 m付近と標高に違いが見られる。この内、発掘調査の行われた糸繰遺跡では縄文土器片・石錘・打製石鏃・磨石などが出土しているが、遺構に伴うものではない。

弥生時代の遺跡は高瀬遺跡（大東町高瀬）・中方遺跡（大東町中方）・三井山Ⅰ遺跡（大東町大坂）・神田遺跡（大東町大坂）・報地遺跡（大東町大坂）・糸繰遺跡の6ヶ所がある。遺跡の殆どは、平野部に立地するが、三井山Ⅰ遺跡のみ台地上に立地している。いずれの遺跡も弥生土器の破片が確認されているのみで、わずかに、糸繰遺跡で出土した弥生時代後期に属すると思われる壷の底部の破片が、時期を知る遺物として知られている。

兼情遺跡周辺に分布する弥生時代の遺跡として、報地遺跡が挙げられるが、時期を決定する遺構・遺物は出土していない。

なお、大東町域で周溝墓は確認されていないが、周辺の菊川町の三沢西原遺跡や小笠町の川田・東原田遺跡等では弥生時代後期の方形周溝墓が確認されている。

古墳時代の遺跡としては、古墳が17基（内、5 基は消滅）、横穴群が45ヶ所、遺物散布地が14ヶ所、窯跡が 1ヶ所の計77ヶ所が知られており、特に横穴群が多いことが特色として挙げられる。菊川の支流であ



第2図　大東町域の表層地質図

引用参考文献：『糸繰遺跡』（1988年）第36図を加筆・修正

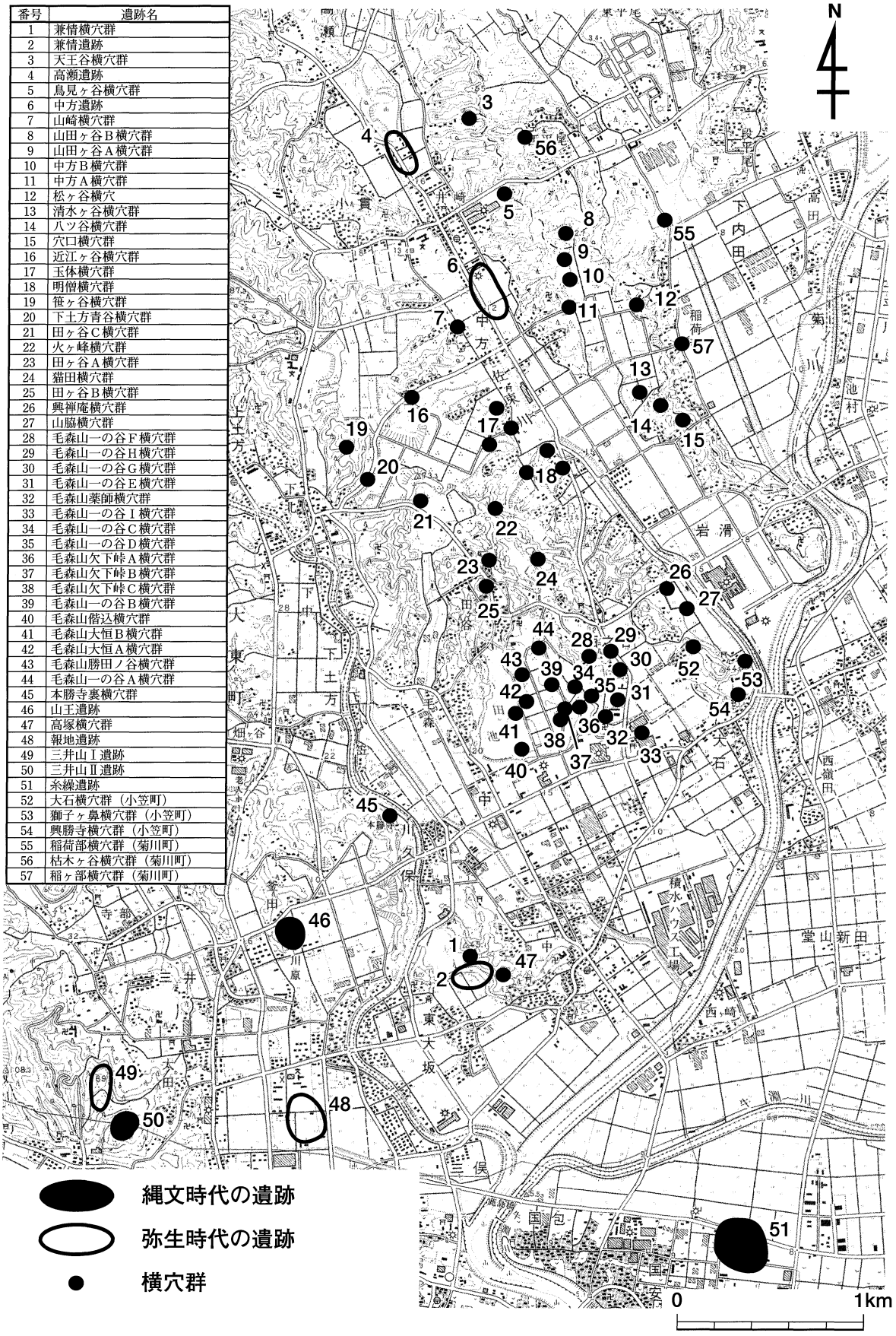
る下小笠川や佐東川の流域には、丘陵部が削られ谷が形成されており、その谷ごとに横穴群が分布している。横穴群の分布域は泥層や砂泥互層、あるいは凝灰岩層のように軟らかく横穴を構築し易い地層の分布域でもあり、このような層は掛川層群や蘇我層群に相当する。掛川層群には、堀之内砂岩泥岩互層や土方泥岩層などがあり、蘇我層群は泥質砂岩層や泥岩層がある。

兼情横穴群の周辺に分布する横穴群は高塚横穴群と本勝寺裏横穴群が在る。高塚横穴群は兼情横穴群の南東方向へ直線距離にして250m程の所に位置し、兼情横穴群と同じような尾根筋直下に構築されている。1基は天井部が崩落し、横穴の半分ほどが崩落した土砂により埋まっている。羨道部の位置から、西に開口している横穴であることがわかった。もう1基は尾根を挟んで反対側の東側に開口する形で存在している。

本勝寺裏横穴群は兼情横穴群から北北西へ約1kmのところに存在する。下小笠川西岸に位置し、高塚横穴群と同じように西に開口している横穴が1基、天井部が一部崩落している形で確認されている。なお、下小笠川西岸には、この本勝寺裏横穴群のみが確認されている。

なお、中世から近世にかけての城館跡については、《帝釈山砦》の項で述べる。

番号	遺跡名
1	兼情横穴群
2	兼情遺跡
3	天王谷横穴群
4	高瀬遺跡
5	鳥見ヶ谷横穴群
6	中方遺跡
7	山崎横穴群
8	山田ヶ谷Ｂ横穴群
9	山田ヶ谷Ａ横穴群
10	中方Ｂ横穴群
11	中方Ａ横穴群
12	松ヶ谷横穴
13	清水ヶ谷横穴群
14	八ツ谷横穴群
15	穴口横穴群
16	近江ヶ谷横穴群
17	玉体横穴群
18	明僧横穴群
19	笹ヶ谷横穴群
20	下土方青谷横穴群
21	田ヶ谷Ｃ横穴群
22	火ヶ峰横穴群
23	田ヶ谷Ａ横穴群
24	猫田横穴群
25	田ヶ谷Ｂ横穴群
26	興禅庵横穴群
27	山脇横穴群
28	毛森山一の谷Ｆ横穴群
29	毛森山一の谷Ｈ横穴群
30	毛森山一の谷Ｇ横穴群
31	毛森山一の谷Ｅ横穴群
32	毛森山薬師横穴群
33	毛森山一の谷Ｉ横穴群
34	毛森山一の谷Ｃ横穴群
35	毛森山一の谷Ｄ横穴群
36	毛森山欠下峠Ａ横穴群
37	毛森山欠下峠Ｂ横穴群
38	毛森山欠下峠Ｃ横穴群
39	毛森山一の谷Ｂ横穴群
40	毛森山偕込横穴群
41	毛森山大恒Ｂ横穴群
42	毛森山大恒Ａ横穴群
43	毛森山勝田ノ谷横穴群
44	毛森山一の谷Ａ横穴群
45	本勝寺裏横穴群
46	山王遺跡
47	高塚横穴群
48	報地遺跡
49	三井山Ⅰ遺跡
50	三井山Ⅱ遺跡
51	糸繰遺跡
52	大石横穴群（小笠町）
53	獅子ヶ鼻横穴群（小笠町）
54	興勝寺横穴群（小笠町）
55	稲荷部横穴群（菊川町）
56	枯木ヶ谷横穴群（菊川町）
57	稲ヶ部横穴群（菊川町）



第3図　兼情横穴群・兼情遺跡周辺の遺跡分布図

Ⅱ　調査の概要

1．発掘調査の経緯

大東町には一級河川“菊川”をはじめ、その支流が数多く流れている。その内の一つである下小笠川は、大東町入山瀬の小笠山から端を発し大東町三俣で菊川に合流して遠州灘にそそぐ、総延長9.8㎞の河川である。現在の下小笠川は、入山瀬・上土方落合・土方・下土方までは比較的直線的に南流しているが、東大坂地区に至ると急激で大きな蛇行を繰り返し、さらに俗に言う「天井川」で、河川付近の家屋の１階の天井より川面が高い位置を流れている。梅雨時の大雨や台風に伴う大雨の時などは、堤防際まで水位が上がりいつ決壊するかと大変危険な状態が幾度となく起き、また、大雨時の排水にも苦慮していた。こうしたことから安全に生活できる河川管理が急務となっていたが、その工法や用地の問題等解決しなければならないことが多く山積みしていた。

そこで、建設省（現国土交通省）と大東町事業課（現建設課）が協議を進め地元への理解を得て、下小笠川ショートカット事業として捷水路新設事業を計画した。この捷水路は、急激な蛇行が始まる川久保地区と東大坂地区との境附近から、現在の下小笠川と菊川の合流地点まで直線で結ぶ河川で、捷水路の計画延長は1.6㎞、計画地域の田畑や山林は掘削して、河床を深くするものである。

こうした中、事業主体者であり工事を担当する建設省浜松工事事務所工務第一課より計画地内における埋蔵文化財の照会があった。これを受けて大東町教育委員会では、計画区域内には静岡県文化財地図Ⅱに登載の「帝釈山砦跡」があり、その他にも埋蔵文化財が存在する可能性があることを伝えるとともに、遺跡の取り扱いについて協議するよう要請した。また、当事業は国の事業であったため静岡県教育委員会文化課の指導のもと三者による協議となった。

なお、大東町教育委員会では開発計画地域内における埋蔵文化財の詳細な状況を把握する事と、その他の遺跡の有無を把握するための確認調査を実施した。調査では、計画区域内に51箇所のテストピットと9箇所のトレンチを設定して実施した。その結果、古墳時代の横穴を１基と古墳時代から中世までの遺物が見られる散布地を発見した。そこで新たな遺跡の発見を受け、「兼情遺跡」および「兼情横穴」とそれぞれ命名し、周知の埋蔵文化財包蔵地として認定した。また、「帝釈山砦跡」に関してはトレンチによる調査では限界があり、明確な遺構の状況把握はできなかった。

この確認調査の結果を踏まえて、再三にわたる三者協議を繰り返したが、開発計画の変更はできないため、本調査を実施することとなった。さらに国事業であることから静岡県埋蔵文化財調査研究所による調査も検討されたが、当初計画にない突然の計画把握のため対応ができず、また同様に大東町でも他事業が予定されていたため対応できないことから、大東町教育委員会の調査主体による民間調査機関での本発掘調査の実施となった。

2．調査の方法と経過

(1) 調査の方法

兼情横穴群および兼情遺跡の発掘調査は、調査面積約15,000㎡を対象に行った。調査に先立ち樹木の伐採と表土を重機により排除した後、全域に磁北の南北を基線とする10m×10mのグリッドを設定し、作業員を導入して遺構および遺物の確認作業を実施した。

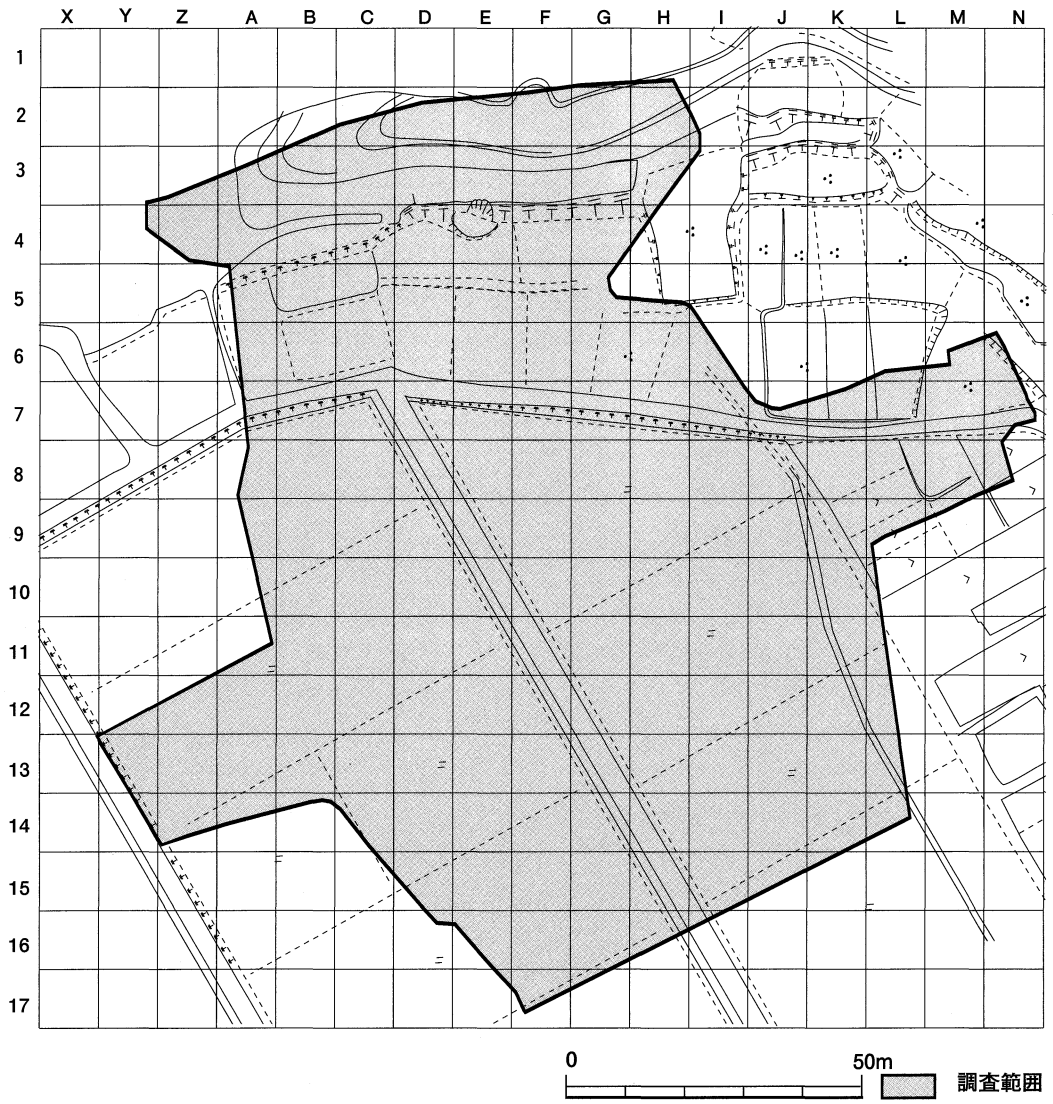
各グリッドは、東西方向は西から東の順にアルファベットのA～N、南北方向は北から南の順に数字の1～17を付し、グリッド名は10m四方の区画のうち、北西角の杭の名称と一致させた。なお、平成12年10月より、橋梁建設予定地の部分を東西に拡張して調査を進めることとなり、東側の拡張部分はJ～Nグリッド内に含まれるが、西側の拡張部分はAグリッドの西側に外れるため、新たにX～Zの11～15グリッドを設定した（第４図）。

精査によって遺構および遺物の確認を行い、確認した遺構や遺物および土層については、実測図（平面図・断面図・遺物の出土状況図など）を作成し、写真撮影を行った。

なお、遺構および遺物の記録には光波測距儀とパーソナル・コンピュータを組み合わせたトータルステーション・システム（遺跡図形処理システム）を導入した。

帝釈山砦については、捷水路建設に関わる地域内にトレンチ（試掘溝）を17箇所設定し（第320図）、平

場・堀切・土塁などの確認に努めた。トレンチの設定部分は、排土の場所も考慮して樹木の伐採と草刈りを行い、表土を重機により排除した後、作業員を導入して遺構および遺物の確認作業を実施した。確認作業が終了したトレンチは地層の堆積状況を実測し、写真撮影を行った。



第4図　兼情横穴群および兼情遺跡の調査範囲とグリッド設定図

(2) 調査の経過

兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦の発掘調査は平成12年 3 月20日から平成13年 3 月30日まで延べ12ヶ月間、通算218日間にわたって行った。その経過を抄録する。

平成12年

3月20日（月）　発掘調査区域の確認を行い、兼情横穴群の調査対象となるB－02～I－2グリッド、B－3～I－3グリッドの伐採・抜根・表土除去作業を重機（バックホー）により開始する。

3月21日（火）　調査に先立ち、発掘作業員に対して調査方法・保安管理などの説明会を開催する。

3月27日（月）　重機による表土除去作業が終了した箇所に作業員を導入し、横穴群の精査を開始する。

3月28日（火）　発掘調査現地事務所用のコンテナーハウスと器材倉庫用のプレハブを設置し、さらに仮設トイレを設置する。

4月6日（木）　事前調査の際に確認されていた1号横穴と新たに確認した2号横穴の精査を開始する。

4月14日（金）　2号横穴で装身具（切子玉・ガラス小玉）や携帯用の砥石などが出土する。
4月18日（火）　調査区北部の丘陵裾部（B－3・4グリッド）で近世の土壙を確認し、精査を開始する。人骨・銭貨「寛永通寶」・かわらけが出土する。
4月19日（水）　丘陵裾部から平地部分にかけての遺物包含層を確認するため、C－5～6グリッドにトレンチを設定し、掘削を開始する。
4月25日（火）　調査区の平地部分においてベルトコンベアーを導入し、精査を開始する。
5月1日（月）　大東町立大坂小学校の児童90名に発掘体験学習を実施する。
5月2日（火）　大東町立千浜小学校の児童60名に発掘体験学習を実施する。
5月10日（水）　第1回発掘調査連絡会を開催する。
5月29日（月）　1・2号横穴を完掘する。
5月30日（火）　1・2号横穴および近世の土壙が確認された調査区北部を、ラジコン・ヘリにより空中写真撮影を実施する。
6月20日（火）　トータルステーション・システムを導入して遺構（横穴群・近世の土壙）の実測を行う。
7月4日（火）　I－7グリットで1号溝状遺構を確認する。
7月11日（火）　G－6～H－7グリッドでピット群を確認する。
8月1日（火）　大東町立佐東小学校および大浜中学校の児童・生徒に発掘体験学習を実施する。
8月2日（水）　大東町立大浜中学校の生徒に発掘体験学習を実施する。
8月3日（木）　大東町立中小学校および大浜中学校の児童・生徒に発掘体験学習を実施する。
8月9日（水）　第2回発掘調査連絡会を開催する。
8月23日（水）　トータルステーション・システムを導入して遺構（ピット群・1号溝状遺構）の実測を行う。
8月29日（火）　C－6・D－6グリッドで2号溝状遺構を確認する。
10月16日（月）　帝釈山砦の調査範囲の確認を行い、調査対象区域の伐採作業を開始する。
橋梁建設予定地の部分を東西に拡張して調査を進めることとなり、東側拡張区の伐採および安全防護用のフェンスを設営する。
10月18日（水）　帝釈山砦の調査トレンチを設定する。
10月19日（木）　横穴群の調査範囲を拡張し、Z－3～A－3グリッド、Z－4～A－4グリッドの伐採・抜根・表土除去作業を重機（バックホー）により開始する。
10月30日（月）　帝釈山砦の第1トレンチを設定し、重機により表土除去を行った後、作業員を導入して精査を開始する。
10月31日（火）～11月5日（月）　帝釈山砦の第2トレンチから第4トレンチまでを調査する。
11月6日（月）　C－9グリットで1号土壙を確認する。
11月6日（月）　A－8グリットで1号周溝墓を確認する。
11月6日（火）～11月10日（金）　帝釈山砦の第5トレンチから第7トレンチまでを調査する。
11月13日（月）～11月15日（水）　帝釈山砦の第8トレンチから第11トレンチまでを調査する。
11月16日（木）～11月27日（月）　帝釈山砦の第12トレンチから第17トレンチまでを調査する。
11月28日（火）　帝釈山砦の各調査トレンチについて位置および標高の測量を行い、トレンチを埋め戻し、帝釈山砦に関する調査を終了する。
11月29日（水）　Z－3グリッドで3・4号横穴を確認し、精査を開始する。
11月30日（木）　3号横穴で造り付けの石棺・一石五輪塔などを確認する。
12月6日（水）　東側拡張区（J～N－6～9グリット）の表土除去作業を開始し、除去された箇所から精査を開始する。
12月14日（木）　3・4号横穴の実測作業を終了する。
平成13年
1月22日（月）　調査区中央部で池の端を確認する。
1月30日（水）　ローリングタワーから溝状遺構の全体写真を撮影する。
2月5日（月）　A－8・B－8グリットから周溝墓の精査を開始する。

2月8日（木）　西側拡張区を調査するため発掘調査現地事務所などを隣地に移転する。
2月15日（木）　B－8グリットから順に丘陵緩斜面の下位層の精査を開始する。
2月26日（月）　東側拡張区においてピット群を確認する。
3月2日（金）　第3回発掘調査連絡会を開催する。
3月16日（金）　東側拡張部分のピット群（60～98号）の全体写真を撮影する。
3月21日（水）　東側拡張部分のピット群（150～212号）の全体写真を撮影する。
3月22日（木）　トータルステーション・システムを導入し、東側拡張区のピット群（150～212号）の実測を行う。
3月23日（金）　東側拡張区の最下面の精査を行う。
3月27日（火）　第4回発掘調査連絡会を開催する。
3月28日（水）　ラジコン・ヘリにて遺跡全体の空中写真撮影を実施する。
3月29日（水）　トータルステーション・システムを導入して遺構の実測を行う。
3月30日（金）　現地における調査を全て終了し、発掘器材および出土遺物を搬出する。
4月1日（日）　現地説明会を開催する。
4月2日（月）　発掘調査現地事務所を閉鎖する。

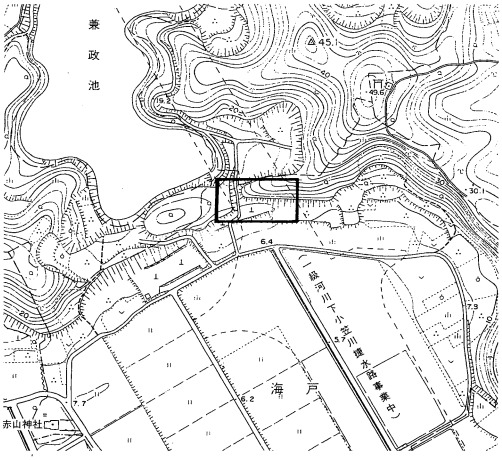
Ⅲ　調査の結果

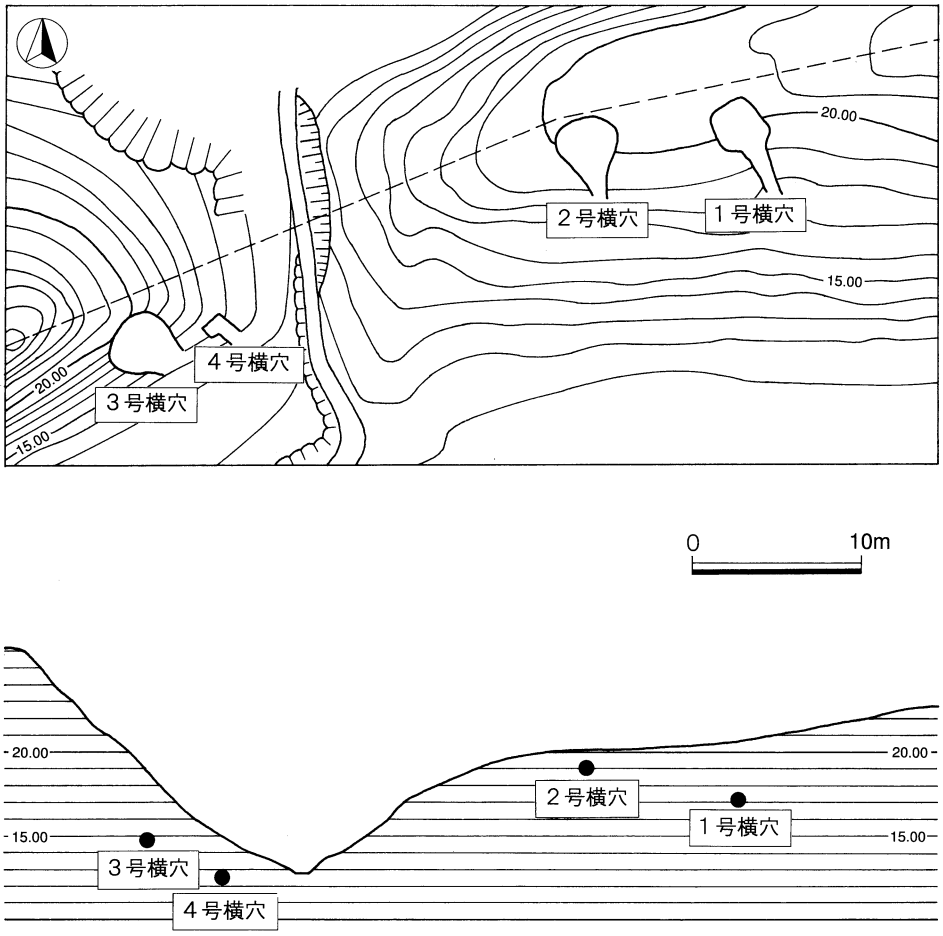
《兼情横穴群》

1．横穴群の概要

今回の調査において4基の横穴を確認した。いずれも、帝釈山の山頂から西に延びる丘陵の南傾斜面に構築されている。この西に延びる丘陵は後世の開墾により尾根部が削り取られ、さらに兼政池に通じる道の部分は切り通しとなり、この切り通しを夾んで2基ずつ確認した。

横穴の位置する高さ・形状・規模は一様でなく、また共有する墓前域も確認できなかった。1～3号横穴は、天井部の岩盤が崩落し、完全に土中に埋没していた。以下に各横穴および出土遺物について述べる。





※床面中央の標高を示した。

第5図　兼情横穴群遺構全体図

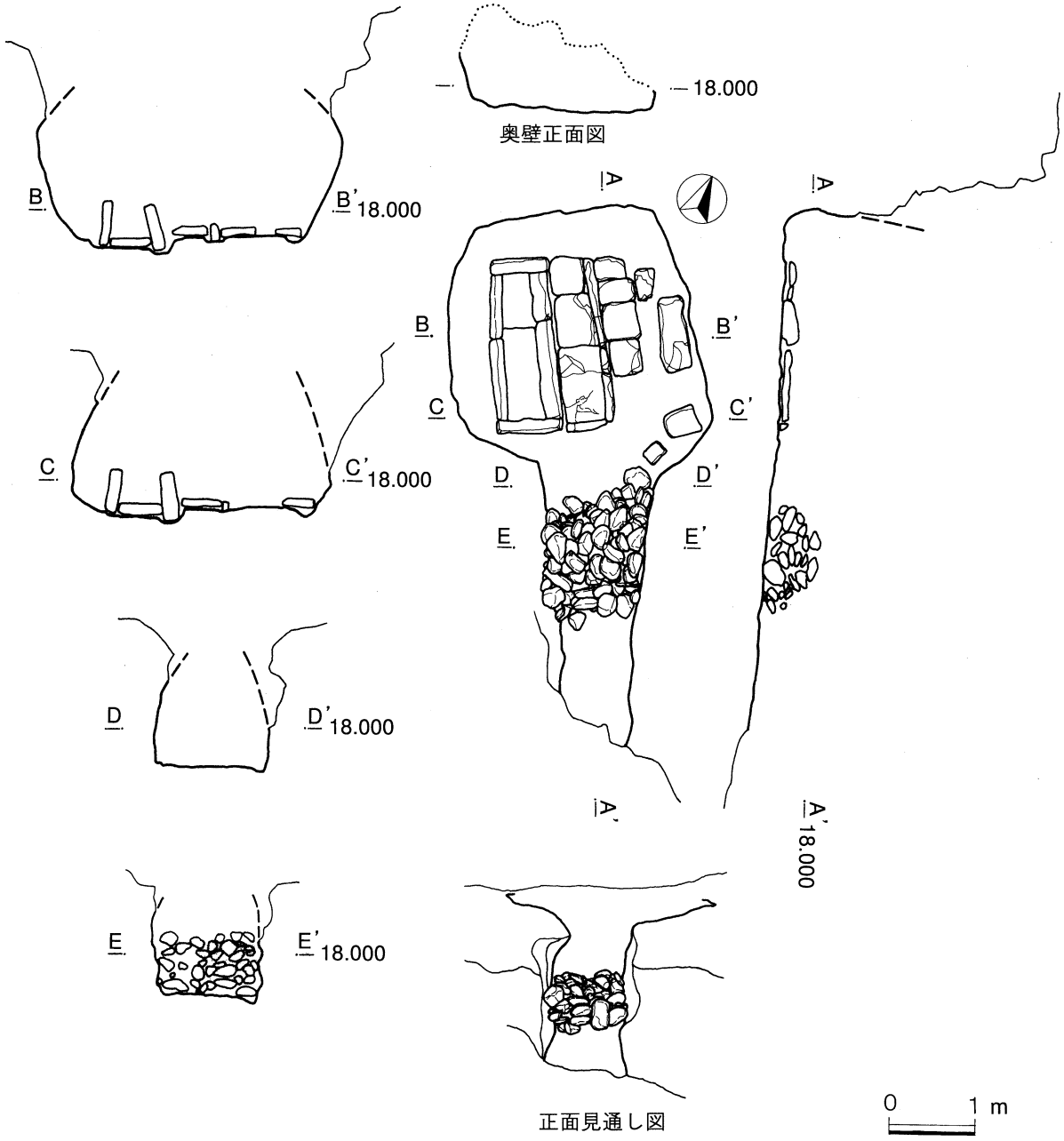
2. 遺構と遺物

1号横穴

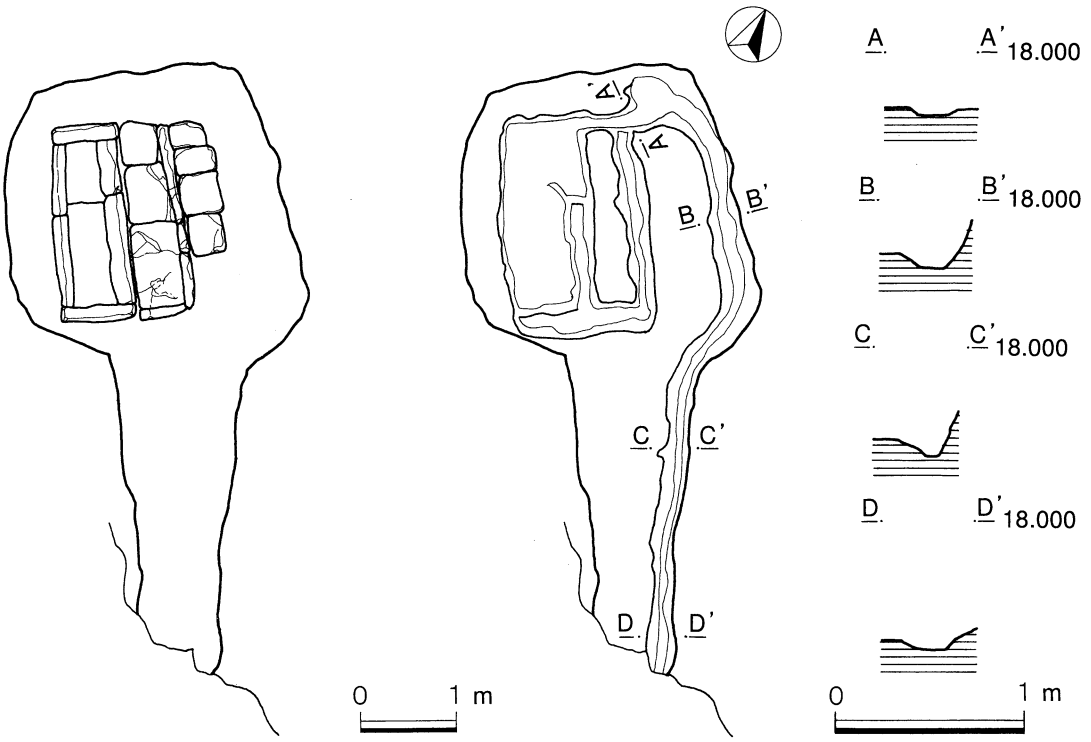
確認調査で封鎖石が確認されていた横穴で、4基の横穴の最東端に位置している。天井部が崩落し、完全に埋没していた。

玄室床面の中央部の標高は17.65mで、主軸の方位はN－26°－Eを指向している。

玄室の平面形状は隅丸方形に近い形状を呈しており、全長が2.97m、最大幅が2.92mある。断面形状は天井部が崩壊しているため不明である。床面は奥壁から玄門部までほぼ平坦である。玄室の西側に主軸と平行する方向で板石を組合せた箱式石棺を1基確認した。また、石棺の東側には石棺と同じ石材を用いた敷石が2列みられ、石棺と敷石を据えるための溝は排水溝と一体となり奥壁を通り玄室の東壁に沿って掘られている。排水溝の幅は0.25～0.39m、深さは0.05～0.16mを測る。なお、天井部および壁面の崩壊が激しく、掘削工具痕は観察できなかった。

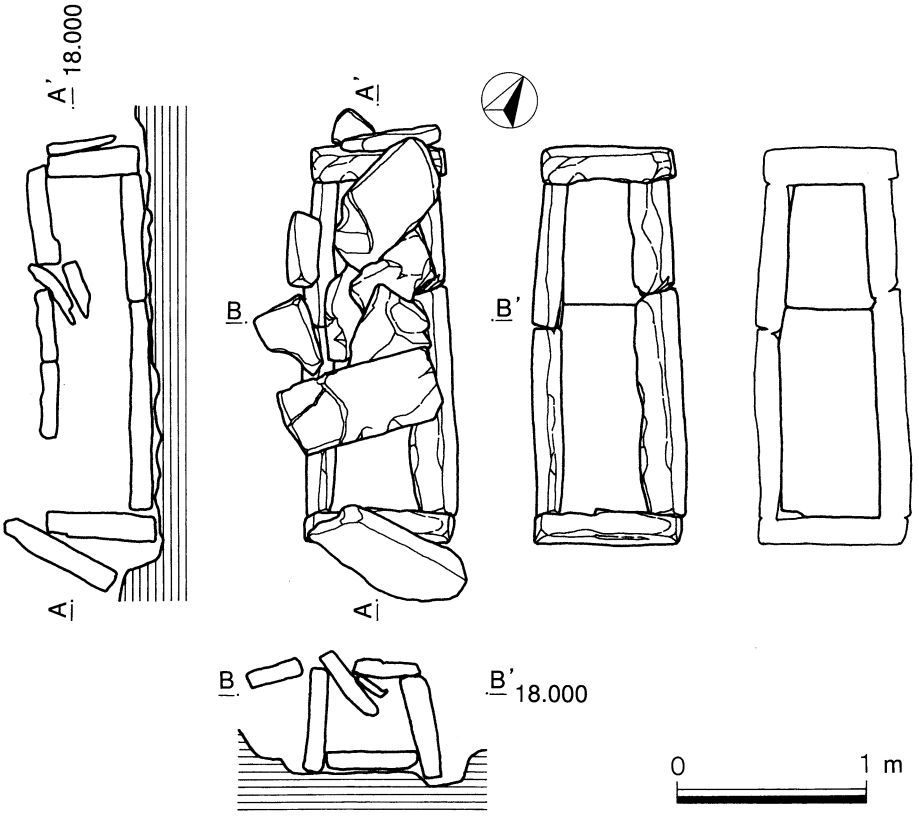


第6図　1号横穴の平面・断面図



第7図　1号横穴の石棺・敷石配置状況および排水溝平面・断面図

箱式石棺は厚さ10～16㎝の板石12枚（床石２枚、側石６枚、蓋石４枚）を長さ2.10m、幅0.70～0.78mの棺に組合せている。最も大きい板石は床石として用いているもので長さ1.11m、幅0.48mある。蓋石は原位置を保持しておらず、棺の外側にずれ落ちたり、中に落ち込んでいるものもある。また、東側の側石は上部がやや内側に傾いている。

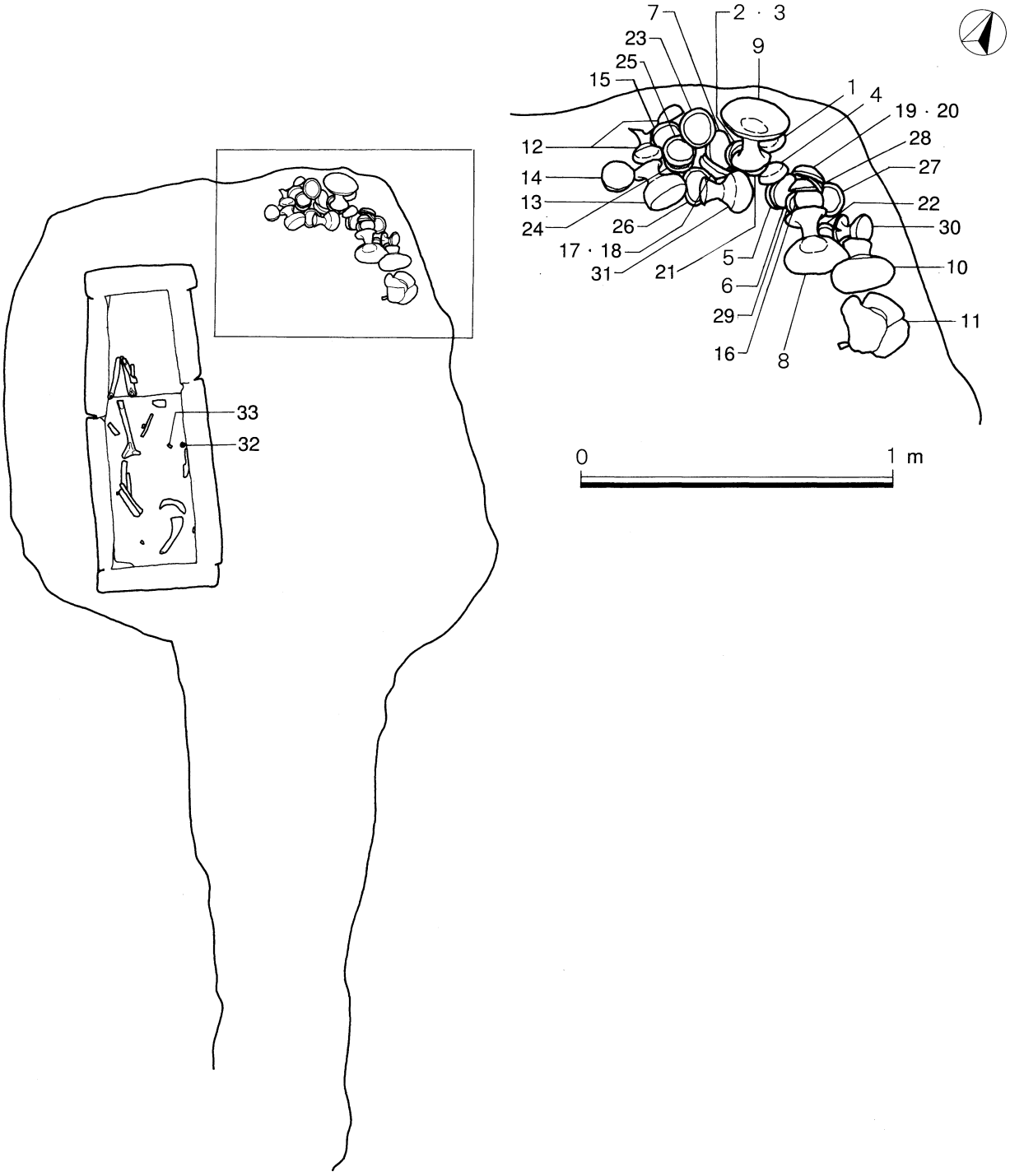


第8図　1号横穴出土石棺の平面・断面図

石棺の東側に接する敷石は１列目が３枚、２列目が４枚残存し、１列目の敷石の東側と南側には細長い石を配している。敷石の上面は石棺の床石面より８㎝高い。

羨道は玄室と同様に天井部は崩落して無い。全長が1.41m、玄門部の幅が1.54m、羨門部の幅が1.09mある。床面は傾斜角度 6°で緩やかに下がり、東壁に沿って玄室に続く排水溝が掘られている。排水溝の幅は0.19～0.24m、深さは0.05～0.14mを測る。墓前域は確認できず、羨道に続き長さ1.70mの墓道が急斜面まで続いている。

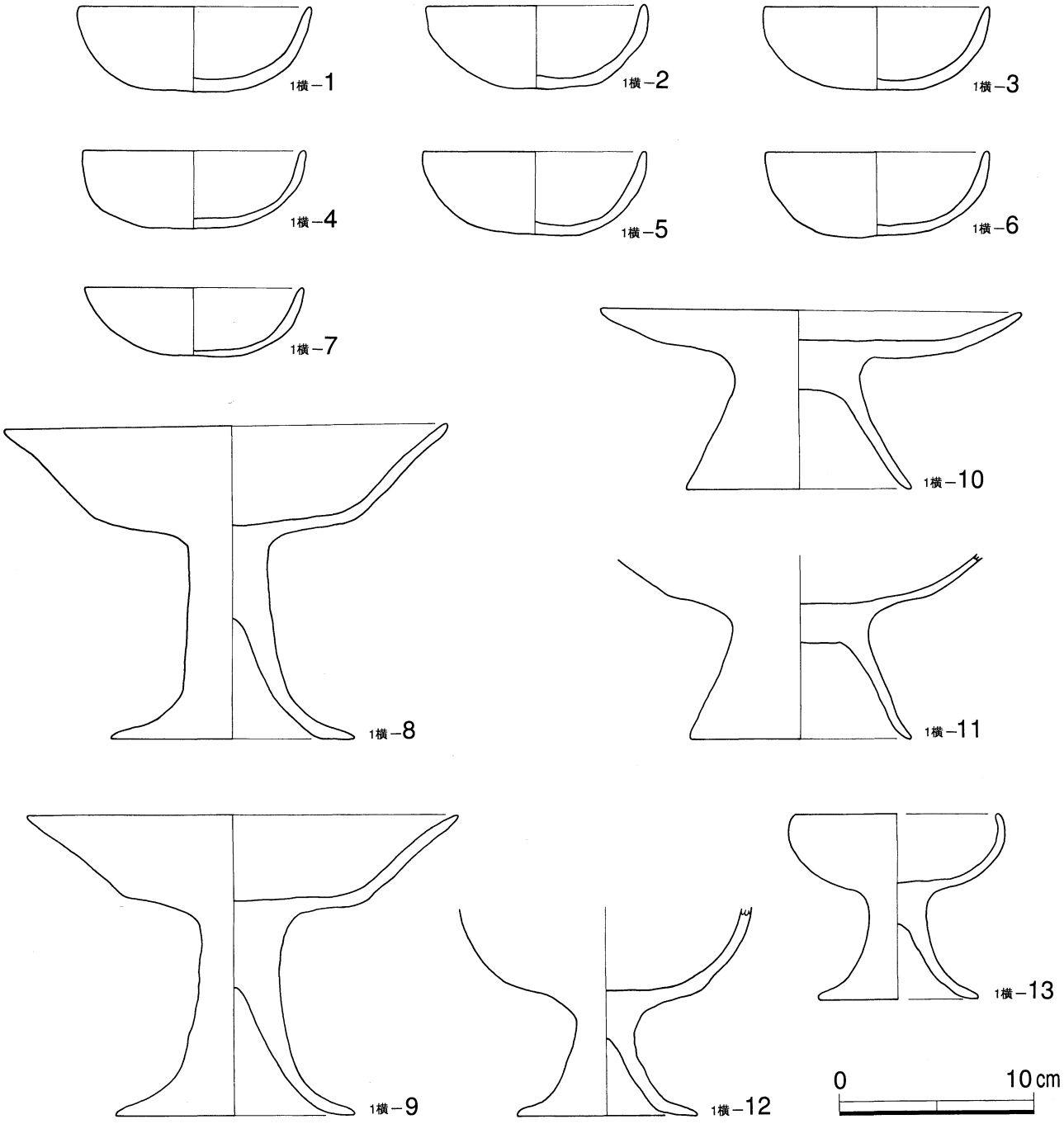
閉塞施設は封鎖石が６段、長さ1.94m、幅1.22mの範囲で積まれ、やや大きめの礫の隙間に小礫を夾んでいる。長径９㎝×短径９㎝大の小礫から長径36㎝×短径18㎝大の川原石を152個用いている。



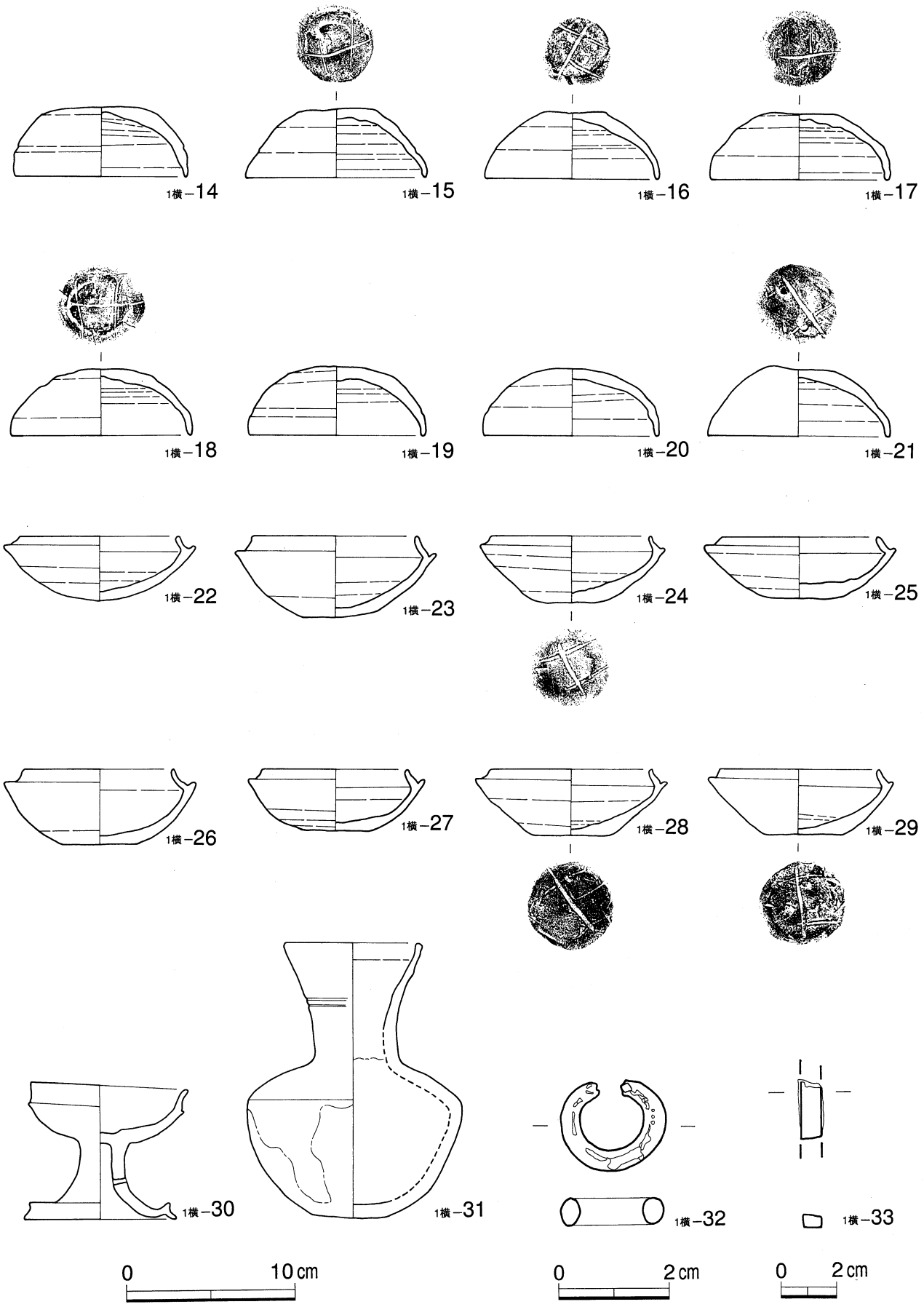
第9図　1号横穴の遺物出土状況図

遺物は石棺内から耳環が１点、鉄鏃片が１点、人骨片が16点、歯が４点出土し、奥壁の東隅からは土師器の坏が７点、高坏が８点、須恵器の坏蓋が８点、坏身が８点、高坏が１点、壺が１点の計31点がまとまって出土している。このうち図化が可能な土師器・須恵器・耳環・鉄鏃片を示した。

1～**13**は土師器である。**1**～**7**は坏で、ほぼ同じ形態を有している。丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がり、口縁端部を丸く収めている。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。**8**～**13**は高坏で、大型で脚が細いもの、大型で脚が太いもの、小型で坏部が内湾しているものとがある。**8**・**9**はほぼ同じ形態を有しており、脚部が高く、裾部は「ハ」の字状に開いている。体部から口縁部にかけて大きく外反し、口縁端部はやや尖り気味に収めている。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。**10**・**11**は脚部が太く坏部が浅い。脚部は「ハ」の字状に開き、体部から口縁部にかけてや



第10図　1号横穴から出土した土師器の実測図



第11図　1号横穴から出土した須恵器・耳環・鉄鏃片の実測図

や内湾気味に大きく開いている。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。**12**は脚部がは「ハ」の字状に開き、体部から口縁部にかけて内湾している。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。**13**は脚部がは「ハ」の字状に開き、体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がり、口縁端部を丸く収めている。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。

14～**31**は須恵器である。**14**～**21**は坏蓋で、天井部が平らなものと弓張り状を呈するものとがある。**14**・**15**・**16**・**17**は天井部が平らで、体部は内湾し、口縁部は垂直に下がっている。外面は天井部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**18**・**19**・**20**は天井部が弓張り状を呈し、体部は内湾し、口縁部は垂直に下がっている。外面は天井部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**21**は天井部が歪んでおり、体部は内湾し、口縁部は垂直に下がっている。外面は天井部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。なお、**15**・**16**・**17**・**18**・**21** の天井部には「キ」の字状の記号が見られる。**22**～**29**は坏身で、底部が丸味を帯びているものと平らなものとがある。**22**・**23**は底部が弓張り状かまたは丸味を帯びたもので、体部は内湾し、口縁部との間に受けを持ち、口縁部は内傾している。外面は底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**24**・**25**・**26**・**27**は底部がほぼ平らなもので、体部は内湾し、口縁部との間に受けを持ち、口縁部は内傾している。**24**の外面は底部にヘラ切り後ナデ仕上げが認められ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**25**・**26**・**27**の外面は底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**28**・**29**は底部が平底で、体部は内湾し、口縁部との間に受けを持ち、口縁部は内傾している。**28**の外面は底部が摩耗しているため調整方法は不明瞭で、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**29** の外面は底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。なお、**24**・**28**・**29**の底部には坏蓋と同様の「キ」の字状の記号が見られる。**30**は高坏で、脚部は「ハ」の字状に開き、空洞部は高く、端部に段をつけている。脚の中央部に 2 箇所平行して孔（径 3 ㎜）があけられている。坏部の体部は内湾し、口縁部との間に稜を持ち、口縁部はやや外反している。内外面ともナデ仕上げが認められ、全体に釉がかかっている。**31**は壺で底部はほぼ平底を呈し、体部は内湾しながら立ち上がり、肩部は内傾している。頸部から口縁部は直線的に外反している。内外面ともナデ仕上げが認められ、全体に釉がかかっている。

32は石棺の床面から出土した耳環で、 玦入部の両端が欠損している。

33は石棺の床面から出土した鉄鏃の茎部の破片で、箆被（のかづき）の部分と思われる。残存長は僅かに2.11㎝で、幅は0.89㎝ある。

2 号横穴

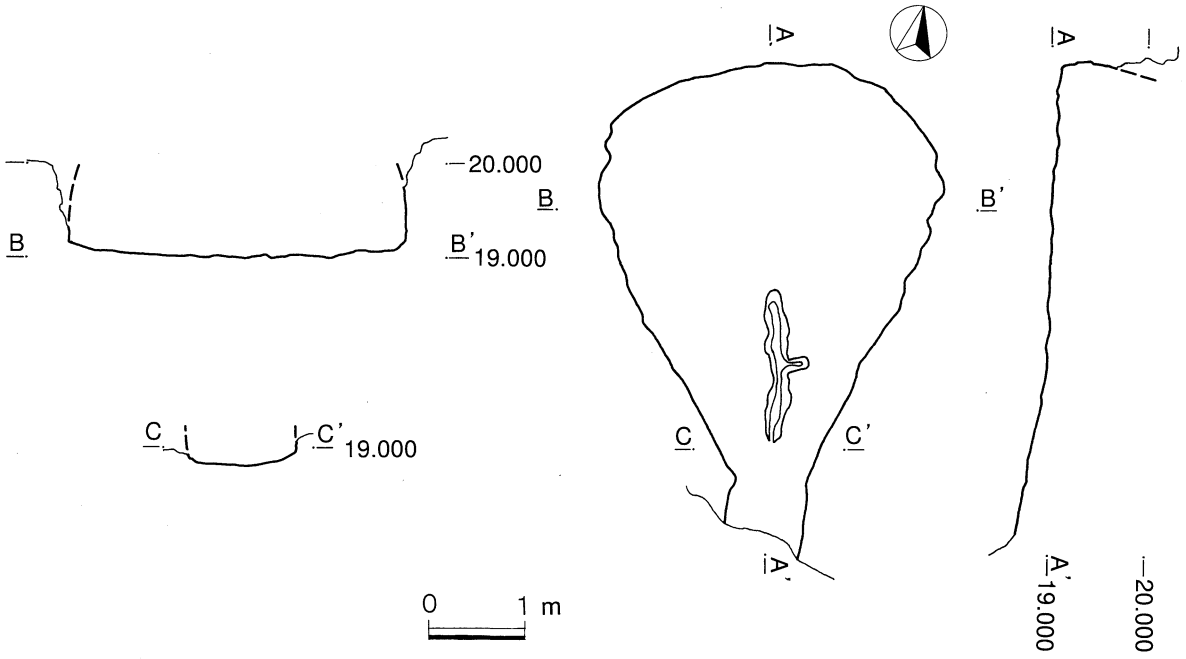
2 号横穴は 1 号横穴の西側10ｍの尾根上で、表土除去の過程で確認された。玄室の床面から1.10ｍを残すのみで、上部は完全に削平され、玄室内は土砂で埋まった状態であったが、岩盤が崩落した痕跡は確認できなかった。

玄室床面の中央部の標高は19.00ｍで、主軸の方位はN－10°－Eを指向している。

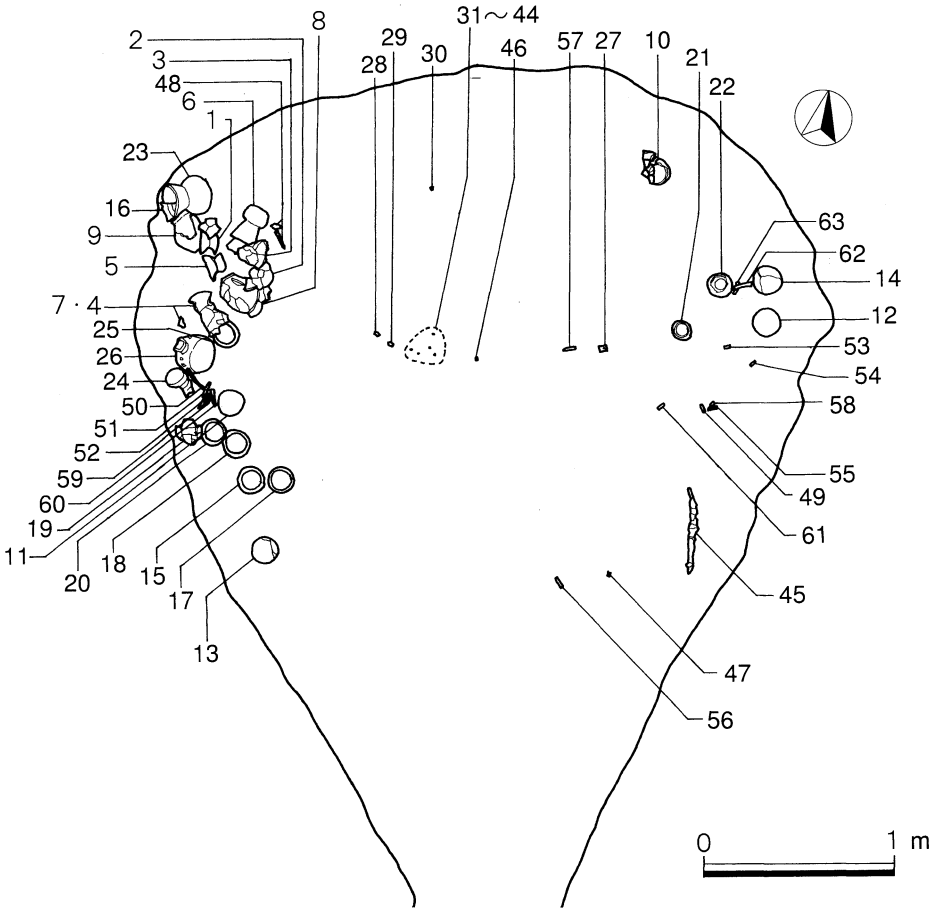
玄室の平面形状は三角フラスコ形に近い形状を呈しており、全長が4.38ｍ、最大幅が3.65ｍある。断面形状は天井部が無いため不明である。床面は奥壁から3.50 ｍまで傾斜角度 3°で緩やかに下がり、そこから玄門部までは傾斜角度12°で下がっている。玄室の中央部で玄門部に近いところに「ト」の字状の浅い排水溝が確認できた。排水溝の幅は0.17～0.24ｍ、深さは0.05～0.08ｍを測る。なお、壁面において掘削工具痕は観察できなかった。

羨道は残存部の長さが0.56ｍ、玄門部の幅が0.74ｍある。床面は玄室に引き続き傾斜角度12°で下がり、急崖で遮断されている。墓前域は確認できず、また、閉塞施設も確認できなかった。

遺物は玄室の西側から土師器の高坏が 5 点、長頸壺が 2 点、甕が 2 点、須恵器の坏蓋が 2 点、坏身が 6 点、ハソウが 2 点、提瓶が 1 点、壺が 1 点、鉄鏃片が 6 点、中央部から切子玉が 2 点、棗玉の破片が 1 点、ガラス小玉が14点、砥石が 1 点、大刀の鍔の破片が 1 点、東側から土師器の鉢が 1 点、須恵器の坏蓋が 1 点、

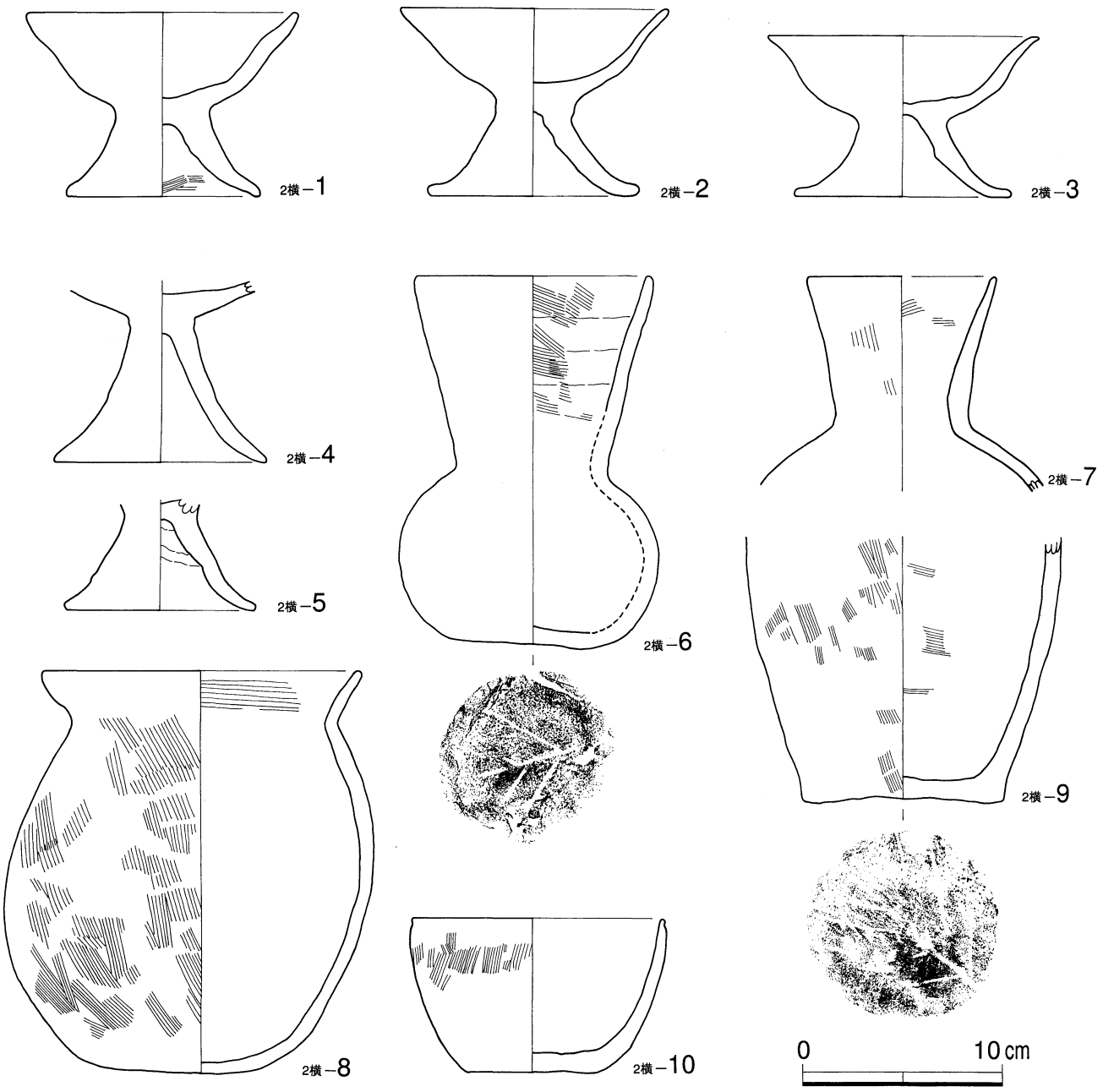


第12図　2号横穴の平面・断面図



第13図　2号横穴の遺物出土状況図

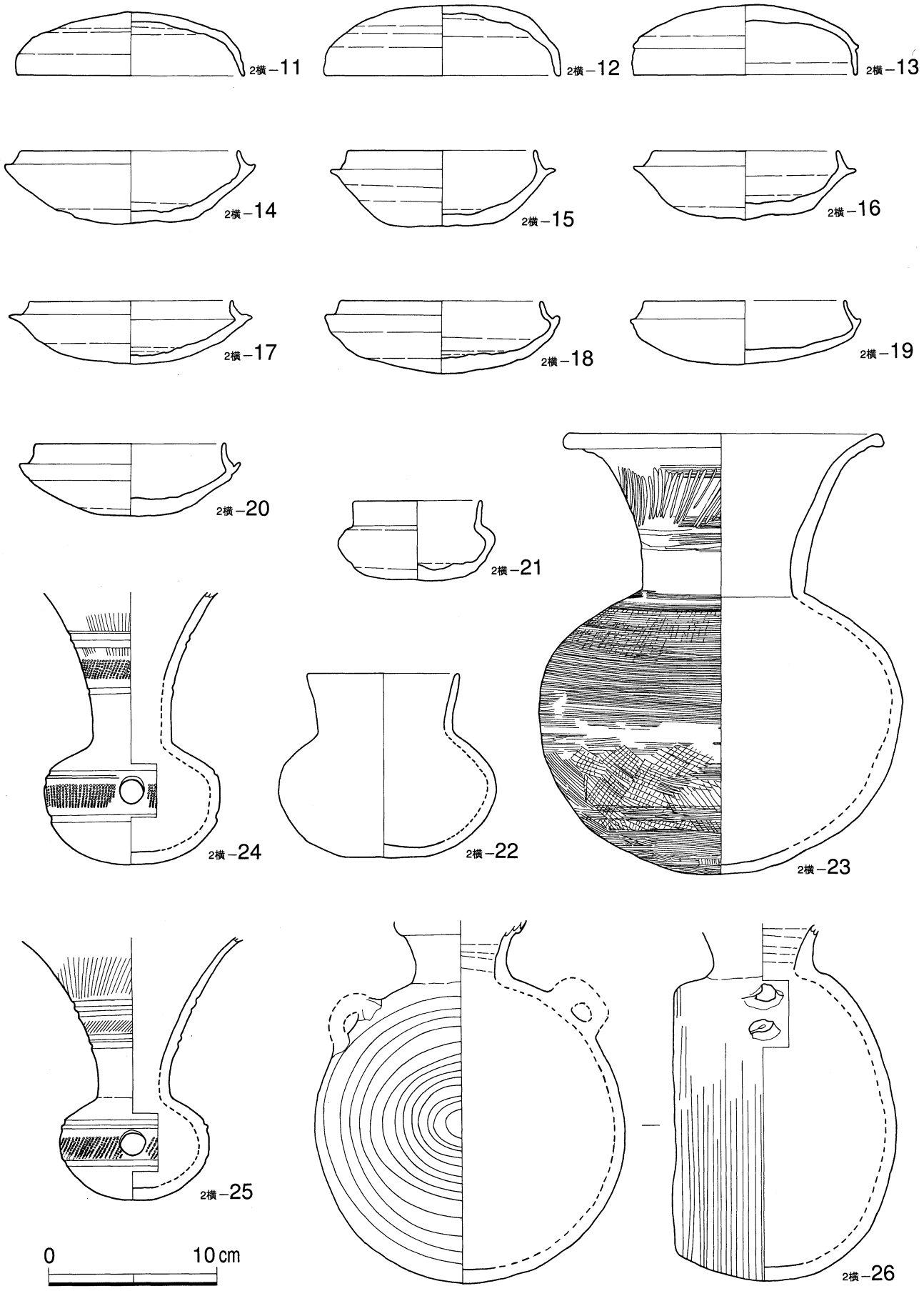
坏身が1点、小型壺が2点、鉄鏃片が8点、鉄鎌片が2点、南東側から小型の大刀が1口、大刀のハバキ片が1点、鉄鏃片が1点の合計64点が出土している。このうち図化が可能な土師器・須恵器・玉類・砥石・



第14図　2号横穴から出土した土師器の実測図

大刀・鉄鏃片を示した。

1 ～ **10** は土師器である。**1** ～ **5** は高坏で、玄室の西側から出土している。**1** は脚部が「ハ」の字状に開き、体部は外反気味に立ち上がり、口縁部はやや内湾している。外面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。内面は脚部に斜位のハケ目痕が残っている。**2** ・ **3** は脚部が「ハ」の字状に開き、体部はやや内湾して立ち上がり、口縁部で外反している。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。**4** ・ **5** は底部から脚部にかけての破片で、脚部は「ハ」の字状に開いている。内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭であるが、**5** の脚部内面にしぼり痕と接合痕が認められる。**6** ・ **7** は長頸壺で、玄室の西側から出土している。**6** は底部が平らで、体部から頸部は球形を呈し、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がっている。外面は摩耗のため調整方法については不明瞭であるが、底部に木葉痕が認められる。内面は頸部から口縁部に斜位のハケ目痕と輪積痕が残っている。**7** は肩部から口



第15図　2号横穴から出土した須恵器の実測図

縁部にかけての破片で、肩部は内傾し、頸部から口縁部は直線的にやや外反しながら立ち上がっている。外面は頸部から口縁部に斜位のハケ目痕が残っており、内面には斜位・横位のハケ目痕が残っている。

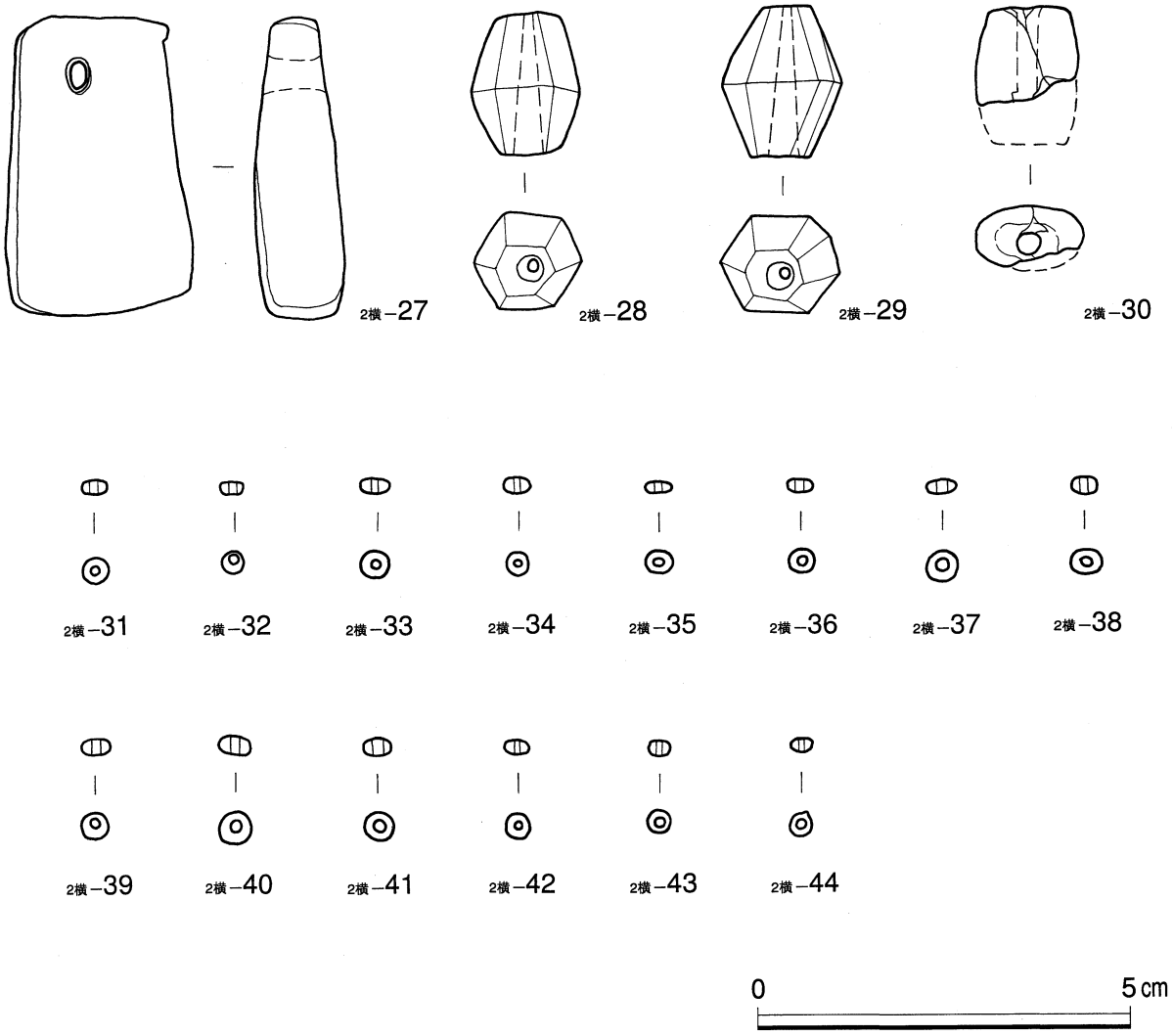
8・9は甕で、玄室の西側から出土している。**8**は底部が丸味を帯びており、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反している。外面は底部から体部にかけて斜位のハケ目痕が残っており、内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。**9**は甕の底部から体部中央にかけての破片で、平底の底部からやや外反して立ち上がっている。外面は斜位のハケ目痕が残っており、底部には木葉痕が残っている。内面は横位のハケ目痕が残っている。**10**は鉢で、玄室の東側から出土している。平底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部は薄く尖らせている。外面は斜位のハケ目痕が残っており、内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。

11～**26**は須恵器である。**11**～**13**は坏蓋で、**11**・**13**は玄室の西側から出土し、**12**は玄室の東側から出土している。**11**は天井部が弓張り状を呈し、口縁部はほぼ垂直に下がっている。外面は天井部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**12**は天井部が弓張り状を呈し、口縁部は垂直に下がっている。外面は天井部から体部上半に回転ヘラ削りが見られ、体部下半から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**13**は天井部が弓張り状を呈し、体部と口縁部の間に稜を持ち、口縁部は垂直に下がっている。外面は天井部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**14**～**20**は坏身で、**14**は玄室の東側から出土し、**15**～**20**は玄室の西側から出土している。**14**は丸味を帯びた底部から内湾気味に立ち上がり、体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部は内傾している。外面の底部は摩耗のため調整方法は不明瞭であるが、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**15**は平底の底部から内湾気味に立ち上がり、体部と口縁部の間に水平に開く受けを持つ。口縁部は内傾している。外面の底部は回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**16**はほぼ平らな底部から内湾気味に立ち上がり、体部と口縁部の間に水平に開く受けを持つ。口縁部は内傾している。外面の底部は摩耗のため調整方法は不明瞭であるが、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**17**は底部から体部にかけて弓張り状を呈し、体部と口縁部の間に水平に開く受けを持つ。口縁部は内傾し、端部は立っている。外面の底部から体部上半まで回転ヘラ削りが見られ、体部上半から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**18**は底部から体部にかけて弓張り状を呈し、体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾している。外面の底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**19**は底部から体部にかけて弓張り状を呈し、体部上半で内湾しながら立ち上がり、体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾し、端部は立っている。外面の底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**20**は底部から体部にかけて弓張り状を呈し、体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾し、端部は立っている。外面の底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。**21**・**22**は小型壺で、玄室の東側から出土している。**21**は小型の短頸壺で、底部は丸味を帯びており、体部は半球状に内湾し、口縁部は直線的に立ち上がっている。外面の底部に回転ヘラ削りが見られ、体部から口縁部までナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。

22は小型の短頸壺で、底部は平底で、体部は球状に内湾し、口縁部は外反気味に直線的に立ち上がっている。内外面ともにナデ仕上げが認められ、また内外面全体に釉がかかっている。**23**は壺で、玄室の西側から出土している。丸底の底部から丸味を持って外反しながら立ち上がり、体部上半から頸部に向かい緩やかに内反している。頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がり、口縁部でさらに外反している。外面は底部から頸部にかけてナデ仕上げのような細かい横線が全体に施され、叩き目痕も認められる。頸部から口縁部にかけて細いヘラ状工具による縦長の紋様が見られる。内面は頸部から口縁部にかけてナデ仕上げが認められ、全体に釉がかかっている。**24**・**25**は甕で、玄室の西側から出土している。**24**は底部から体部が球形を呈し、体部の中央に正円形の孔（径16㎜）が1箇所あけられている。頸部から口縁部にかけては直線的に立ち上がり、その後外反している。口縁部は欠損している。外面は全体にナデ仕上げをした後、口縁部に櫛目紋を、頸部と体部に櫛状工具による刺突紋を施し、頸部に3本、体部に2本の

横線紋を施している。内面は口縁部から頸部にかけてナデ仕上げが認められる。 **25**は底部から体部が球形を呈し、体部の中央に正円形の孔（径15㎜）が１箇所あけられている。頸部から口縁部にかけては外反しながら立ち上がっている。口縁部は欠損している。外面は全体にナデ仕上げをした後、頸部と口縁部に櫛目紋を、体部に櫛状工具による刺突紋を施し、頸部に４本、体部に３本の横線紋を施している。内面は口縁部から頸部にかけてナデ仕上げが認められる。 **26**は提瓶で、玄室の西側から出土している。口縁部はやや直線的に開き、肩部には一対の環状の把手が付くが、基部しか残存していない。体部の外側は球状を呈し、内側は平坦になっている。外面は球状側から側面全体にカキ目調整が見られ、内側と口縁部はナデ仕上げが認められる。内面は口縁部にナデ仕上げが認められる。

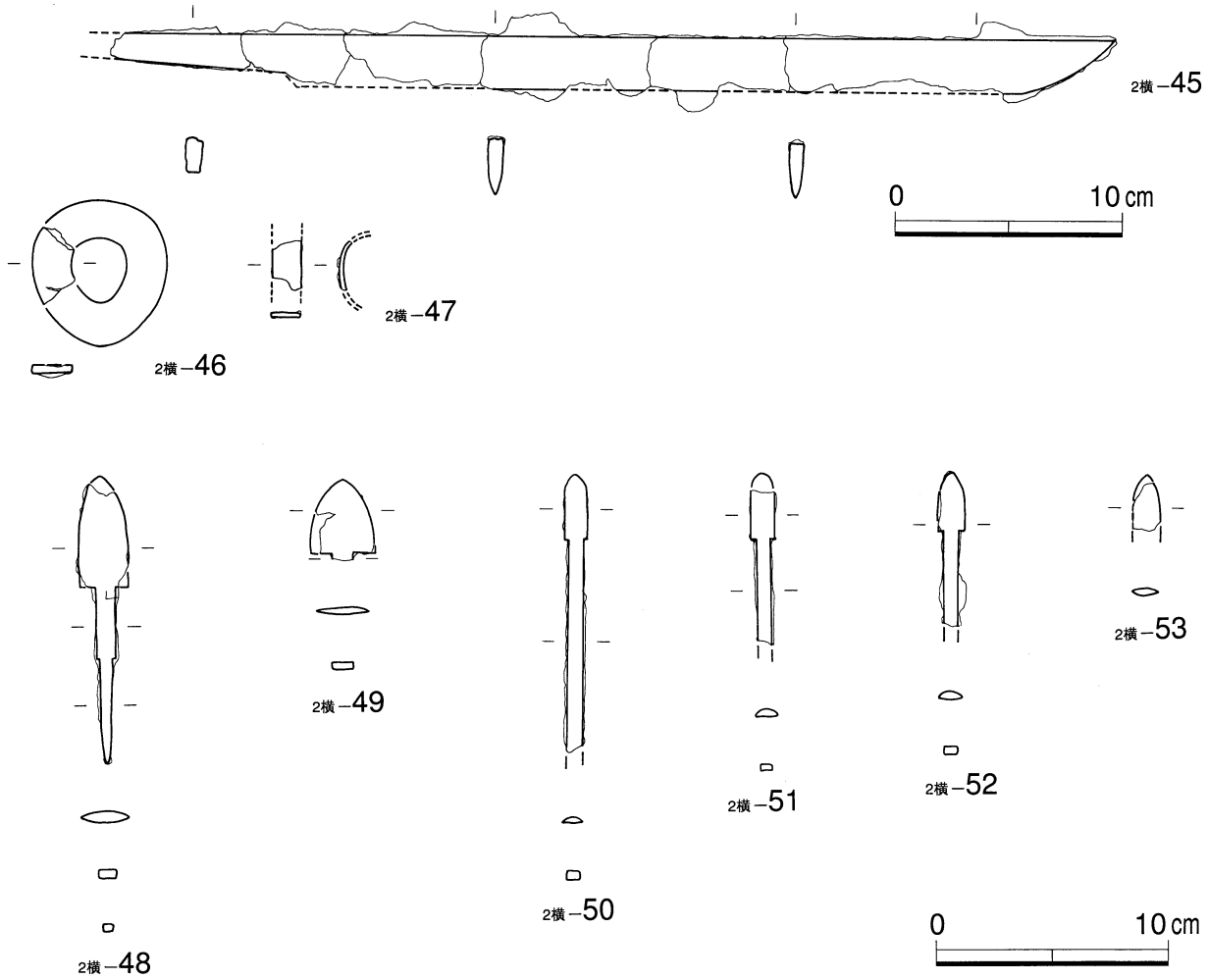
27～**44**は装身具で、いずれも玄室の中央部から出土している。 **27**は携帯用の砥石で、長さ3.97㎝、最大幅2.42㎝、最大厚1.15㎝、重量14.77ｇあり、平面形状は長方形を呈している。長径0.50×短径0.35㎝の紐を通す孔があけられている。材質はシルト岩である。 **28**・**29**は切子玉で、片側穿孔の孔があけられている。 **30**は棗玉の破片で、琥珀製である。**31**～**44**はガラス小玉で、**31**・**33**・**34**・**38**・**40**～**44**は濃青色を呈し、**32**・**35**・**36**・**37**・**39**は薄青色を呈している。いずれも、孔のある両側が僅かに平坦になっており、管切法により製作されたと思われる。外径は0.29～0.42㎝を測る。



第16図　2号横穴から出土した装身具類の実測図

45～**63**は鉄器で、小型の大刀とハバキ片は玄室の南東部から、鍔片は中央部から出土し、鉄鏃は玄室の西側は纏まって出土しているが、西側から南東部にかけては散乱して出土している。鉄鎌は東側の土器の間から出土している。 **45**は平棟平造の小型の大刀で、茎尻を欠損している。残存長は44.10cm、刀身長は36.10cm、刀身幅は2.43cm、重ねは0.69cmある。鋒はふくらが付く。関は片関で刃関は深く切られている。茎の残存長は8.00cm、茎の中間部の幅は1.50cm、重ねは棟側が0.68cm、刃側が0.49cmある。目釘孔は不明である。 **46**は倒卵形板鍔の破片で大刀に付属していたものと思われる。残存長3.33cm、幅1.68cm、重ねは0.30～0.36cmある。 **47**はハバキの破片で、これも大刀に付属していたものと思われる。残存長2.11cm、幅1.27cm、重ねは0.18cmある。

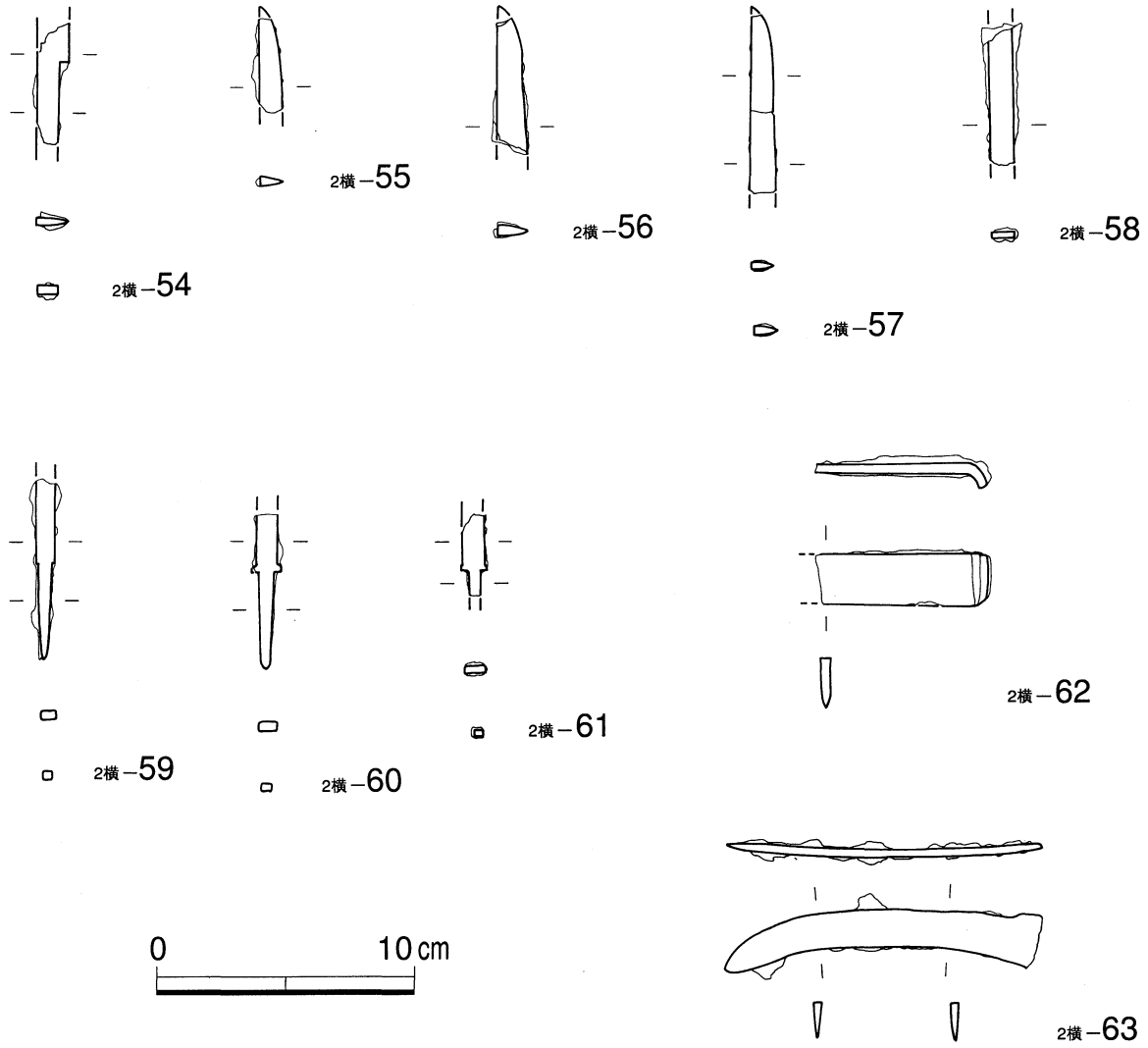
48～**61**は鉄鏃である。 **48**・**49**は平根系の箆被広鋒平造三角形式の鉄鏃で、 **48**は先端を欠いているが鏃身部の平面形状は長三角形で、関は角関である。残存長は12.15cm、鏃身部の残存長は4.45cm、鏃身の幅は2.14cm、箆被部の長さは3.05cm、箆被部の幅は0.40cm、茎部の長さは4.65cmある。 **49**の鏃身部の平面形状は三角形で、関は角関である。残存長は3.43cm、鏃身部の長は3.03cm、鏃身の残存幅は2.33cm、箆被部の残存する長さは0.40cm、箆被部の幅は0.91cmある。 **50**～**53**は尖根系の片丸造鑿箭式の鉄鏃で、 **50**は箆被の一部と茎を欠いている。鏃身部の平面形状は長三角形で、関は角関である。残存長は12.14cm、鏃身部の残存長は2.86cm、鏃身の幅は0.88cm、箆被部の残存長は9.28cm、箆被部の幅は0.52cmある。 **51**は鏃身の先端と箆被の一部と茎を欠いているが鏃身部の平面形状は長三角形を呈すると思われる。鏃身部の関は角関である。残存長は6.63cm、鏃身部の残存長は2.06cm、鏃身の幅は1.03cm、箆被部の残存長は4.57cm、箆被部の幅は0.68cmある。 **52**は箆被の一部と茎を欠いている。鏃身部の平面形状は長三角形で、鏃身部の関は角関である。残存長は6.74cm、鏃身長は2.52cm、鏃身の幅は1.08cm、箆被部の残存長は4.22cm、箆被部の幅は0.64cmある。 **53**は鏃身部の破片で、鏃身の残存長は2.12cm、鏃身の幅は1.13cmある。



第17図　2号横穴から出土した鉄器類の実測図（1）

54～**57**は尖根系の片関片刃箭式で、**54**は鏃身部の先を欠いている。腸抉は見られない。また、箆被の一部と茎を欠いている。残存長は4.60cm、鏃身の残存長は1.48cm、鏃身の幅は1.23cm、箆被部の残存長は3.12cm、箆被部の幅は0.80cmある。 **55**は鏃身部の破片で、先端部を欠いており、基部から茎も欠損している。鏃身の残存長は3.71cm、鏃身の幅は0.96cmある。 **56**も鏃身部の破片で、先端部を欠いており、基部から茎も欠損している。鏃身の残存長は5.30cm、鏃身の幅は1.18cmある。中間部に布目痕が見られる。 **57**も鏃身部の破片で、先端部を欠いており、基部から茎も欠損している。鏃身の残存長は6.88cm、鏃身の幅は1.02cmある。 **58**は鉄鏃の箆被の破片で、残存長は5.50cm、幅は0.93cmある。 **59**～**61**は鉄鏃の箆被から茎にかけての破片で、**59**は鏃身部と箆被の一部を欠損している。箆被部の関は角関である。残存長は7.04cm、箆被部の残存長は3.22cm、箆被部の幅は0.64cm、茎部長は3.82cm、茎の中央部の幅は0.46cmある。 **60**は鏃身部と箆被の一部を欠損している。箆被部の関は棘関である。残存長は5.98cm、箆被部の残存長は2.15cm、箆被部の幅は0.76cm、茎部長は3.83cm、茎の中央部の幅は0.47cmある。 **61**は鏃身部と箆被の一部を欠損し、茎の基部も欠損している。箆被部の関は棘関である。残存長は3.20cm、箆被部の残存長は2.18cm、箆被部の幅は0.85cm、茎部の残存長は1.02cm、茎の幅は0.42cmある。

62・**63**は鉄鎌である。**62**は先端部を欠いているが直刃鎌と思われる。基部を120度捻り返し、茎はない。残存長は6.76cm、刃部の残存長は5.75cm、身幅は1.93～2.08cm、重ねは0.33cmある。 **63**は先端が尖り、刃の側に曲がった曲刃鎌で、基部を欠いている。残存長は12.20cm、身幅は1.40～1.42cm、重ねは0.26～0.27cmある。



第18図　2号横穴から出土した鉄器類の実測図（2）

3号横穴

3号横穴は切通の西側の丘陵南斜面で、表土除去の過程で確認された。僅かに玄室の床面を残すのみで、上部と前面は完全に削られ、玄室内は岩盤が崩落し土砂で埋まった状態であった。

玄室床面の中央部の標高は14.89mで、主軸の方位はN－51°－Eを指向している。

玄室の平面形状は三角フラスコ形に近い形状を呈しており、残存長が4.07m、最大幅が3.91mある。断面形状は天井部が無いため不明である。玄室の奥には奥壁から2.05mまでに主軸に直交するように造り付けの石棺があり、床面はそこから4.07mまで傾斜角度10°で下がり、その全面は急崖になっている。なお、壁面において掘削工具痕は観察できなかった。また、東壁に「南無阿弥陀仏」の刻印文字があった。

羨道部も墓前域も閉塞施設も確認できなかった。

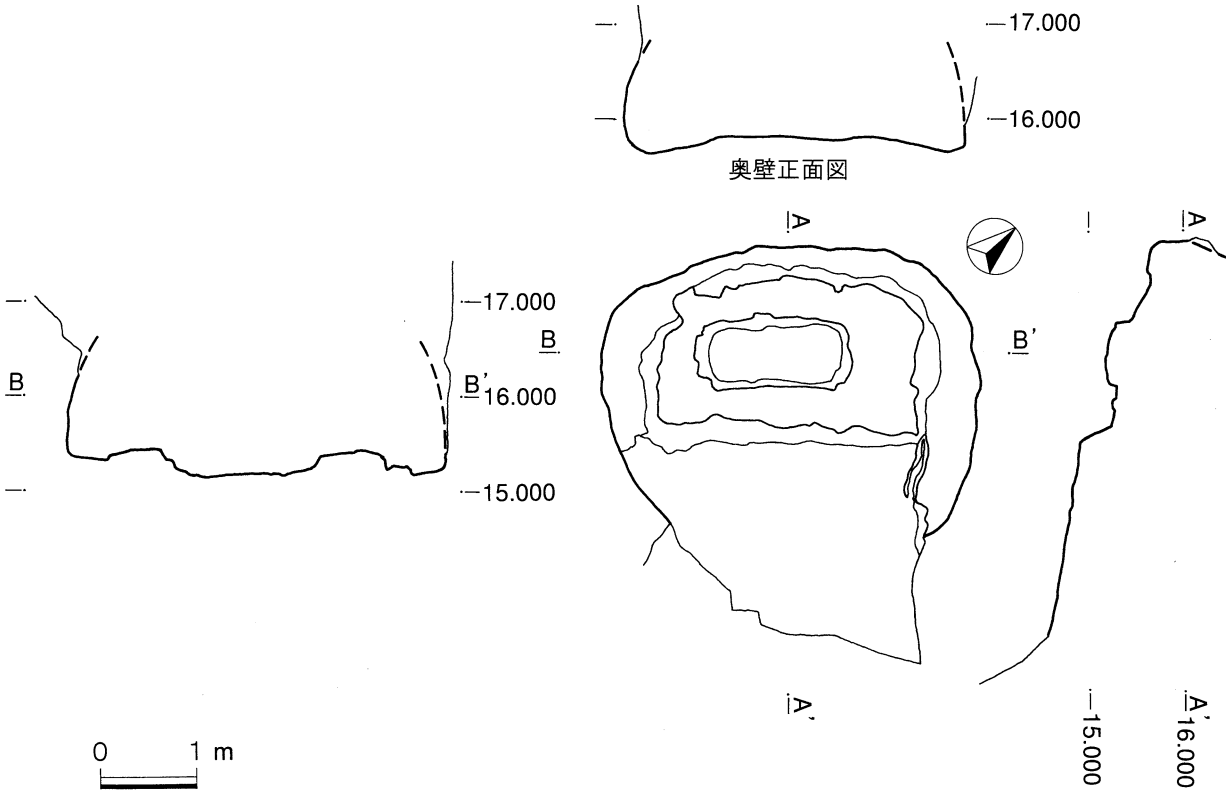
造り付けの石棺は平面形状が隅丸長方形に岩盤を掘り込んだもので、規模は、上端の長さ1.66m、最大幅0.73m、下端の長さ1.43m、最大幅0.64m、深さ0.26mを測る。

遺物は石棺の中から「かわらけ」が2点、銭貨「寛永通寶」が1点、人骨片が5点、石棺の東側から一石五輪塔が2基、人骨片が1点、石棺の南側から「かわらけ」が1点、人骨片が1点、石棺の西側から鉄釘片が2点出土している。このうち図化が可能な「かわらけ」・銭貨「寛永通寶」・一石五輪塔を示した。

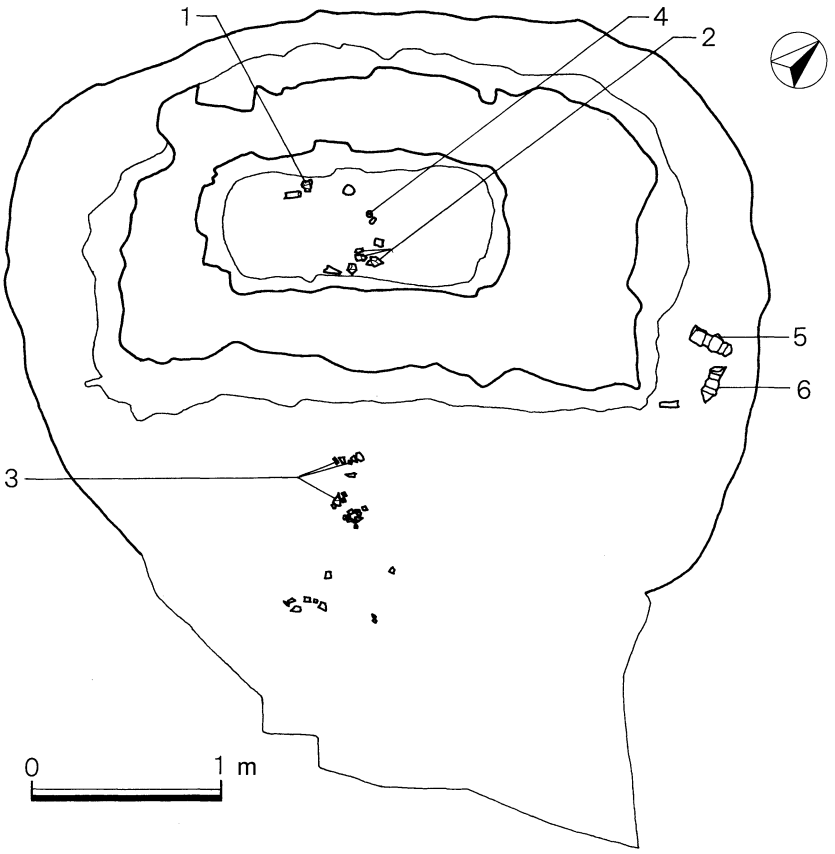
1～**3**はロクロ成形の「かわらけ」で、**1**・**2**は石棺の中から出土し、**3**は石棺の南側から出土したものである。**1**・**2**・**3**ともに底部は平底で、体部から口縁部まで外反している。内外面ともナデ仕上げが認められ、底部の外面には回転糸切り痕が残っている。

4は銭貨「寛永通寶」で、背面に「文」の字が読みとれる新「寛永通寶」である。

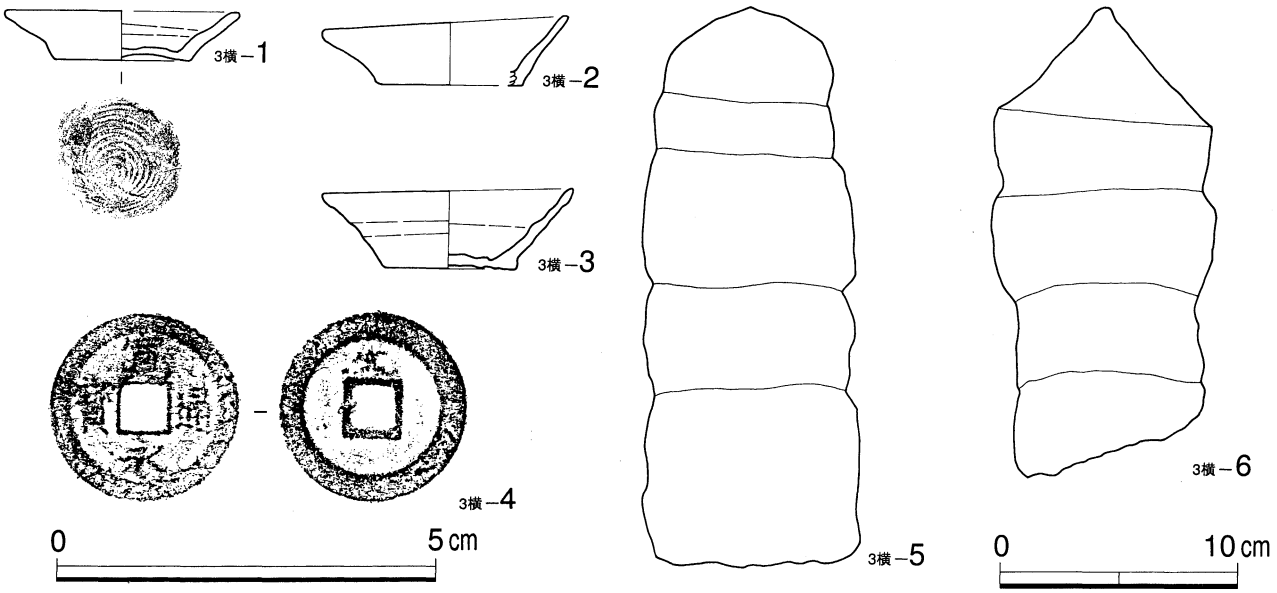
5・**6**は一石五輪塔である。**5**はほぼ完形で、地輪は方形、水輪は円形、火輪は三角形、風輪は半月形、空輪は宝珠形をなしている。全体に著しく摩耗しており塔体の表面に梵字等の文字を読みとることはできない。**6**は地輪と水輪の一部を欠損している。この五輪塔も全体に著しく摩耗しており塔体の表面に梵字等の文字を読みとることはできない。



第19図　3号横穴の平面・断面図



第20図　3号横穴の遺物出土状況図



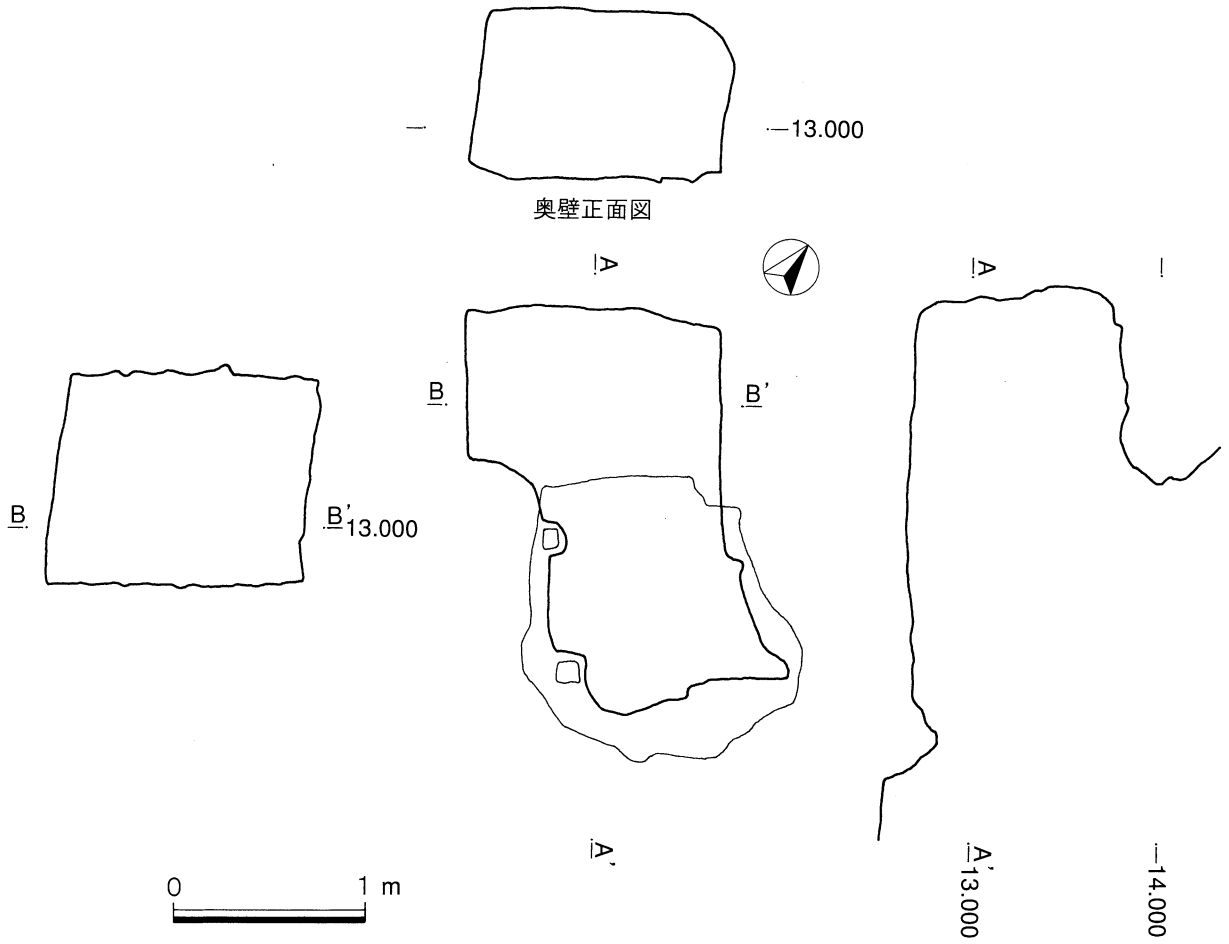
第21図　3号横穴から出土した土器・銭貨・一石五輪塔の実測図

4号横穴

4号横穴は切り通しの西側の丘陵南斜面で、3号横穴の南下に位置し、表土除去の過程で確認された。床面に覆土はなく、現代の鉄板が破棄してあった。

床面の標高は12.64mで、主軸の方位はN－41°－Eを指向している。

平面形状は片袖型の長方形で、断面形状も長方形を呈している。長さ2.23m、片袖部の幅1.35m、高さ1.12m、奥壁の幅1.34m、奥壁の高さ0.89m、入口部の幅1.03mを測る。覆土・遺物は無かった。



第22図　4号横穴の平面・断面図

3．遺構計測表・遺物観察表

第1表　兼情横穴群遺構計測表

（　　）内の数値は残存部の測定値

遺構番号		1号横穴	2号横穴	3号横穴	4号横穴
標高		17.15m	19.00m	14.89m	12.64m
主軸方向		N－26°－E	N－10°－E	N－51°－E	N－41°－E
玄室					
	全長	2.95m	4.38m	(4.07m)	
	最大幅	2.92m	3.65m	3.91m	
	平面形	隅丸方形	三角フラスコ形	三角フラスコ形	
	最大高	(1.29m)	(0.58m)	(0.86m)	
羨道					
	全長	1.41m	(0.56m)		
	玄門部幅	1.54m	0.74m		
	羨門部幅	1.09m			
墓道					
	全長	(1.70m)			
	最大幅	(0.99m)			
閉塞施設					
	遺存状況	ほぼ完全な状態で残存しており、6段に積み上げている。			
	封鎖石の高さ	0.63m			
	封鎖石の範囲	1.22×1.79m			
	封鎖石の大きさ	9×6cm～36×18cm			
	封鎖石の総数	152個			
	積石の形態	6段			
その他の施設		箱式石棺		造り付けの石棺	

第2表　1号横穴 出土土器 観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
10図1	1横 土5	土師器 坏	口径 11.8 器高 4.4	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子	5YR7/6 橙	完形
10図2	1横 土6	土師器 坏	口径 11.4 器高 4.3	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、礫(4mm大)多い	5YR7/6 橙	完形
10図3	1横 土7	土師器 坏	口径 11.7 器高 4.3	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、礫(3mm大)多い	5YR8/4 淡橙 5YR7/8 橙	完形
10図4	1横 土8	土師器 坏	口径 11.4 器高 4.0	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子	2.5YR7/8 橙 7.5YR8/6 浅黄橙	完形
10図5	1横 土9	土師器 坏	口径 11.5 器高 4.3	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、小礫(2mm大)	5YR8/2 灰白 5YR8/4 淡橙	完形

第3表　1号横穴出土土器観察表（つづき）

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
10図 6	1横 土10	土師器 坏	口径　11.5 器高　4.4	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、 礫（4㎜大）	2.5YR7/6 橙 5YR8/4 淡橙	完形
10図 7	1横 土1	土師器 坏	口径　11.2 器高　3.6	丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がるり、口縁端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色・透明粒子	7.5YR7/6 橙	口縁部～底部 2/3 残存
10図 8	1横 土11	土師器 高坏	口径　22.6 器高　16.3 底径　12.4 脚接合部径 4.2	脚部は高く、裾部は「ハ」の字状に開く。体部～口縁部は大きく外反するし、口縁端部をやや尖り気味に収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色・透明粒子、 礫（5㎜大）	5YR7/8 橙	完形
10図 9	1横 土4	土師器 高坏	口径　22.0 器高　15.6 底径　12.2 脚接合部径 4.1	脚部は高く、裾部は「ハ」の字状に開く。体部～口縁部は大きく外反するし、口縁端部をやや尖り気味に収める。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色・透明粒子、 礫（5㎜大）	2.5YR7/6 橙	ほぼ完形
10図 10	1横 土12	土師器 高坏	口径　21.7 器高　9.4 底径　11.8 脚接合部径 6.4	脚部は「ハ」の字状に開く。体部～口縁部は内湾気味に大きく開く。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色・透明粒子、 礫（4㎜大）	5YR7/8 橙	完形
10図 11	1横 土13	土師器 高坏	器高　(9.3) 底径　11.4 脚接合部径 7.0	脚部は「ハ」の字状に開く。 体部は内湾気味に大きく開く。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、 礫（3㎜大）多い	5YR6/8 橙	口縁部～底部 2/3 残存
10図 12	1横 土3	土師器 高坏	器高　(10.7) 底径　9.2 脚接合部径 3.0	脚部は「ハ」の字状に開く。 体部は内湾する。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、 礫（3㎜大）多い	5YR6/8 橙	脚部、体部下半残存
10図 13	1横 土2	土師器 高坏	口径　(10.6) 器高　9.6 底径　(8.2) 脚接合部径 3.6	脚部は「ハ」の字状に開く。体部～口縁部は内湾して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為調整不明瞭。	やや粗 白色・灰色粒子	5YR6/8 橙	口縁部～脚部 1/2 残存
11図 14	1横 須1	須恵器 坏蓋	口径　10.2 器高　4.2	天井部は平ら。 体部は内湾して下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色粒子	N6/ 灰	完形
11図 15	1横 須6	須恵器 坏蓋	口径　10.8 器高　4.1	天井部は平ら。 体部は内湾して下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 天井部に記号あり。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色・灰色粒子	N5/ 灰	完形
11図 16	1横 須13	須恵器 坏蓋	口径　10.3 器高　4.0	天井部は平ら。 体部は内湾し口縁部は垂直に下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 天井部に記号あり。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N5/ 灰	口縁部 1/11 欠損
11図 17	1横 須8	須恵器 坏蓋	口径　10.6 器高　4.0	天井部はほぼ平ら。 体部は内湾し口縁部は垂直に下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 天井部に記号あり。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色・灰色粒子	N6/ 灰	完形

第4表　1号横穴出土土器観察表（つづき）

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
11図 18	1横 須9	須恵器 坏蓋	口径 10.7 器高 4.0	天井部は弓張り状。体部は内湾し口縁部はほぼ垂直に下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。天井部に記号あり。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N5/ 灰	完形
11図 19	1横 須17	須恵器 坏蓋	口径 10.2 器高 4.1	天井部は弓張り状。体部は内湾し口縁部は垂直に下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N6/ 灰	完形
11図 20	1横 須16	須恵器 坏蓋	口径 10.4 器高 4.0	天井部は弓張り状。体部は内湾し口縁部は垂直に下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・黒色・灰色粒子	N6/ 灰	完形
11図 21	1横 須10	須恵器 坏蓋	口径 10.8 器高 4.2	天井部は歪んでいる。体部～口縁部は内湾して下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。天井部に記号あり。内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N6/ 灰	完形
11図 22	1横 須12	須恵器 坏身	口径 9.4 器高 3.9	全体的に歪んでいる。底部は弓張り状。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N6/ 灰	完形
11図 23	1横 須3	須恵器 坏身	口径 9.8 器高 4.9	底部は丸みを帯びている。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色・黒色粒子	N6/ 灰	完形
11図 24	1横 須5	須恵器 坏身	口径 9.6 器高 4.5	底部はほぼ平ら。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部はヘラ切り後ナデ。体部～口縁部はナデ。底部に記号あり。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N6/ 灰	完形
11図 25	1横 須4	須恵器 坏身	口径 9.3 器高 3.7	底部はほぼ平ら。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色・黒色粒子	N6/ 灰	完形
11図 26	1横 須7	須恵器 坏身	口径 8.9 器高 4.5 底径 4.6	底部はほぼ平ら。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N5/ 灰	完形
11図 27	1横 須18	須恵器 坏身	口径 8.7 器高 3.7 底径 4.0	底部はほぼ平ら。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N6/ 灰	完形
11図 28	1横 須15	須恵器 坏身	口径 9.5 器高 4.0 底径 4.5	底部は平底。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は摩耗の為不明。底部に記号あり。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	5B5/1 青灰	完形

第5表　1 号横穴出土土器観察表（つづき）

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
11図 29	1横 須14	須恵器 坏身	口径 9.4 器高 3.9 底径 4.5	底部は平底。体部は内湾し口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：底部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。底部に記号あり。内面：全体ナデ。	密 白色・灰色・黒色粒子	N5/ 灰	ほぼ完形（口縁部一部欠損）
11図 30	1横 須11	須恵器 高坏	口径 9.4 器高 8.2 底径 9.0 脚接合部径 2.9	脚部は「ハ」の字状に開き端部に段をつけている。空洞部は高い。脚部中央に2箇所平行に孔（径3㎜）あり。体部は内湾し、口縁部との間に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	内外面ともナデ。全体に釉がかかっている。	密 白色粒子	N6/ 灰 N5/ 灰	ほぼ完形
11図 31	1横 須2	須恵器 壺	口径 8.2 器高 16.5 底径 4.6 頸径 4.9 体部最大径 12.8	底部はほぼ平底。体部は内湾し頸部から口縁部は直線的に外反する。	内外面ともナデ。全体に釉がかかっている。	密 白色・黒色粒子	5Y6/1 灰	完形

第6表　2 号横穴 出土土器 観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
14図 1	2横 土10	土師器 高坏	口径 13.6 器高 9.3 底径 (9.6) 脚接合部径 4.6	脚部は「ハ」の字状に開く。体部は外反気味に立ち上がり、口縁部はやや内湾している。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。内面：脚部に斜位のハケ目。	密 白色・灰色・茶色・透明粒子、礫（3㎜大）	7.5YR8/4 浅黄橙	口縁部～体部2/3、脚部4/5残存
14図 2	2横 土7	土師器 高坏	口径 (13.4) 器高 9.5 底径 10.6 脚接合部径 3.9	脚部は「ハ」の字状に開く。体部はやや内湾し、口縁部で外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・灰色・黒色・茶色粒子、礫（3㎜大）多い	7.5YR7/6 橙	口縁部～体部1/3欠損
14図 3	2横 土6	土師器 高坏	口径 (13.6) 器高 8.1 底径 10.8 脚接合部径 4.4	脚部は「ハ」の字状に開く。体部は内湾し、口縁部でやや外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭	やや粗 白色・灰色・黒色・茶色粒子、礫（3㎜大）多い	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部～体部1/3、脚部4/5残存
14図 4	2横 土4	土師器 高坏	器高 (9.2) 底径 (10.6) 脚接合部径 3.1	脚部は「ハ」の字状に開く。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭	やや粗 灰色・赤茶色粒子、礫（3㎜大）多い	5YR7/6 橙	脚部2/3残存
14図 5	2横 土9	土師器 高坏	器高 (5.6) 体部最大径 9.3	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。内面：しぼり痕。	密 黒色・長石・石英・雲母粒子	7.5YR7/6 橙	脚部のみ残存
14図 6	2横 土5	土師器 長頸壺	口径 11.8 器高 19.8 底径 7.2 頸径 7.6 体部最大径 13.0	底部は平底。体部は球形。頸部～口縁部は直線的に外反して立ち上がる。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。底部に木葉痕。内面：口縁部～頸部に斜位のハケ目。頸部に輪積痕。	粗 白色・透明・灰色・赤色粒子、小礫（2㎜大）多い	5YR7/6 橙	体部1/4欠損

第7表　2号横穴出土土器観察表（つづき）

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
14図 7	2横 土2	土師器 長頸壺	口縁部（9.5） 器高　（10.6） 頸径　（6.8）	肩部は内傾し、頸部～口縁部は直線的にやや外反して立ち上がる。	外面：斜位のハケ目。 内面：斜位・横位のハケ目。	やや粗 灰色・黒色・茶色粒子、小礫（2㎜大）	5YR6/8 橙	口縁部～肩部 残存
14図 8	2横 土8	土師器 甕	口径　15.8 器高　20.3 体部最大径 18.3	底部は丸みを帯びている。体部は内湾し、口縁部は外反する。	外面：体部～底部は斜位のハケ目。 内面：口縁部は横位のハケ目。	粗 白色・灰色・茶色粒子、礫（3㎜大）	5YR7/6 橙	口縁部～底部2/3 残存
14図 9	2横 土11	土師器 甕	器高　（13.4） 底径　9.8	平底の底部からやや外反して立ち上がる。	外面：斜位のハケ目。底部に木葉痕。 内面：横位のハケ目。	粗 白色・灰色・茶色粒子、礫（5㎜大）多い	7.5YR7/6 橙	体部下半2/3、底部 残存
14図 10	2横 土1	土師器 鉢	口径　（12.7） 器高　7.7 底径　6.4	平底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部は薄く尖らせている。	外面：体部中央に斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明。	密 灰色・赤色・茶色粒子、小礫（2㎜大）	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5Y7/6 橙	ほぼ完形 （口縁部一部欠損）
15図 11	2横 須11	須恵器 坏蓋	口径　13.6 器高　3.8	天井部は弓張り状。口縁部はほぼ垂直に下りる。	外面：口縁部～体部はナデ。天井部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・透明・黒色粒子、礫（3～4㎜大）	5B6/1 青灰	完形
15図 12	2横 須2	須恵器 坏蓋	口径　14.0 器高　4.2	天井部は弓張り状。口縁部は垂直に下りる。	外面：口縁部～体部下半はナデ。天井部～体部上半は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	7.5Y8/1 灰白	完形
15図 13	2横 須5	須恵器 坏蓋	口径　13.3 器高　4.2	天井部は弓張り状。体部と口縁部の間に稜を持つ。口縁部は垂直に下りる。	外面：口縁部～体部はナデ。天井部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色粒子	N5/ 灰	ほぼ完形 （口縁部1/5欠損）
15図 14	2横 須1	須恵器 坏身	口径　13.0 器高　4.4	丸みを帯びた底部から内湾気味に立ち上がり、体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：口縁部～体部上半はナデ。底部は摩耗の為、不明。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N8/ 灰白	完形
15図 15	2横 須7	須恵器 坏身	口径　11.2 器高　4.6	底部はほぼ平底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N6/ 灰	完形
15図 16	2横 須16	須恵器 坏身	口径　11.0 器高　4.1	底部は摩滅。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は摩滅の為不明。 内面：全体ナデ。	密 白色粒子、礫（2～4㎜大）	N6/ 灰 7.5Y6/1 灰	ほぼ完形 （口縁部2/3欠損）
15図 17	2横 須6	須恵器 坏身	口径　12.0 器高　3.8	底部は弓張り状。体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾する。	外面：口縁部～体部上半はナデ。体部下半～底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・透明粒子	5PB6/1 青灰	完形

第8表　2号横穴出土土器観察表（つづき）

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
15図 18	2横 須8	須恵器 坏身	口径　12.0 器高　4.35	底部は弓張り状。体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾する。	内外面ともナデ調整。外面底部にヘラ削りの痕あり。	密 白色・透明・黒色粒子	5PB7/1 青灰	完形
15図 19	2横 須10	須恵器 坏身	口径　11.9 器高　3.8	底部は弓張り状。体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 長石・石英・黒色粒子	N6/ 灰	ほぼ完形（口縁部1/4欠損）
15図 20	2横 須9	須恵器 坏身	口径　11.4 器高　4.3	底部は弓張り状。体部と口縁部の間に受けを持つ。口縁部はやや内傾する。	外面：口縁部～体部上半はナデ。体部下半～底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N5/ 灰	完形
15図 21	2横 須4	須恵器 小型壺	口径　7.6 器高　4.8 頸径　7.6 体部最大径 9.3	底部は丸みを帯びており、体部は半球状に内湾する。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N5/ 灰	完形
15図 22	2横 須3	須恵器 小型壺	口径　9.0 器高　11.0 底径　4.8 頸径　8.0 体部最大径 13.0	底部は平底。体部は球状に内湾する。口縁部は外反気味に立ち上がる。	内外面ともナデ。内外面とも全体に灰釉がかかっている。	密 黒色・白色・透明粒子	N4/ 灰	ほぼ完形（口縁部1/5欠損）
15図 23	2横 須15	須恵器 壺	口径　18.4 器高　26.5 頸径　9.6 体部最大径 21.5	底部は丸底。丸みをもって外反し、頸部にむかい緩やかに内反、頸部から口縁部にかけて外反する。	外面：底部～頸部はナデの様な細かい横線が全体に施され、叩き目もみられる。口縁部はヘラ状工具の痕あり。内外面とも自然釉の付着、黒斑の痕あり。	密 長石・石英・黒色粒子、礫（3㎜大）少量	N6/ 灰	ほぼ完形（口縁部1/4欠損）
15図 24	2横 須12	須恵器 瓶	器高　（16.2） 頸径　4.7 体部最大径 10.5	底部～体部は球形。体部中央に孔（径16㎜）が1箇所ある。頸部～口縁部は外反する。	外面：全体ナデ後、口縁部に櫛目紋。頸部と体部に櫛状工具による刺突紋。頸部に3本、体部に2本横線紋。 内面：口縁部～頸部はナデ。	密 白色・灰色粒子、礫（4㎜大）	5PB6/1 青灰	口縁部上半欠損
15図 25	2横 須14	須恵器 瓶	器高　（15.5） 頸径　4.2 体部最大径 8.8	底部～体部は球形。体部中央に孔（径15㎜）が1箇所ある。頸部～口縁部は外反する。	外面：全体ナデ調整後、頸部と口縁部に櫛目紋。体部に櫛状工具による刺突紋。頸部に4箇所、体部に3箇所横線紋。 内面：口縁部～頸部はナデ。	密 白色・灰色粒子、小礫（2㎜大）	N5/ 灰 N6/ 灰	口縁部上半欠損
15図 26	2横 須13	須恵器 提瓶	器高　（21.2） 頸径　6.5 体部最大径 18.4	口縁部は直線的でわずかに開く。肩部には一対の環状把手が付き、体部外側は球状。内側は平坦。	外面：球状側から側面全体にカキ目調整。内側はナデ。口縁部はナデ。 内面：口縁部はナデ。	密 長石・石英・黒色・茶色粒子、礫（3～4㎜大）	N6/ 灰	ほぼ完形（口縁部、把手欠損）

第9表　3 号横穴出土土器観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
21図 1	3横 土器片 9	かわらけ 小皿	口径 (10.0) 器高 2.1 底径 5.7	平底の底部から口縁部まで外反する。	内外面ともナデ調整。外面底部に回転糸切り痕。	密 白色・黒色・透明・金色・赤色粒子	7.5YR7/6 橙	口縁部～底部1/2 残存
21図 2	3横 土器片 10、12、13	かわらけ 小皿	口径 10.4 器高 3.0 底径 (6.2)	平底の底部から口縁部まで外反する。	内外面ともナデ調整。外面底部に回転糸切り痕。	密 白色・黒色・金色粒子	7.5YR6/6 橙	口縁部一部、底部 欠損
21図 3	3横 土器片 14、15、16	かわらけ 小皿	口径 10.6 器高 3.5 底径 5.7	平底の底部から口縁部まで外反する。	内外面ともナデ調整。外面底部に回転糸切り痕。	密 白色・茶色・赤色・透明・金色粒子	5YR6/8 橙	口縁部～底部1/2 欠損

第10表　兼情横穴群出土石造物の観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
21図 5	3横 2	一石五輪塔	高さ 23.9	下から方形状、円、三角、半円形と続き、一番上に宝珠形をなしている。	全体に著しく摩耗している為、塔体表面からは梵字等を読みとることはできない。		5Y7/1 灰白	ほぼ完形
21図 6	3横 1	一石五輪塔	高さ 20.0	下から水輪、火輪、風輪、空輪と形をなすが、一つ一つが全体に丸形。	全体に著しく摩耗している為、塔体表面からは梵字等を読みとることはできない。		10YR6/3 にぶい黄橙	地輪から水輪の一部 欠損

第11表　兼情横穴群出土装身具の観察表

図版番号	遺構名	出土地点	名　称	材　質	外　径（長さ）	内　径（幅）	厚　さ	断面形	孔　径	重　量	色　調
11 図32	1 号横穴	石棺床面	耳環		18.3㎜	10.7㎜	4.7㎜	円形		2.03g	暗灰色
16 図27	2 号横穴	玄室床面	砥石	シルト岩	39.7㎜	24.2㎜	11.5㎜	長方形	0.50 ×0.35㎜	14.77g	灰白色
16 図28	2 号横穴	玄室床面	切子玉	水晶	14.2㎜	4.0㎜	18.7㎜	7 角形	0.8㎜、3.8㎜	4.76g	白色透明
16 図29	2 号横穴	玄室床面	切子玉	水晶	15.3㎜	3.8㎜	20.3㎜	6 角形	1.2㎜、3.7㎜	5.47g	白色透明
16 図30	2 号横穴	玄室床面	棗玉	琥珀	13.8㎜	9.4㎜	(14.1㎜)	楕円形	0.32 ×0.24㎜	(0.86g)	琥珀色
16 図31	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.5㎜		2.0㎜	円形	1.0㎜	0.04g	濃青色
16 図32	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.1㎜		2.0㎜	円形	1.0㎜	0.02g	薄青色
16 図33	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.8㎜		2.1㎜	円形	1.0㎜	0.04g	濃青色
16 図34	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.5㎜		2.4㎜	円形	0.7㎜	0.04g	濃青色
16 図35	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.7㎜		1.6㎜	円形	1.0㎜	0.03g	薄青色
16 図36	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.5㎜		1.9㎜	円形	1.0㎜	0.03g	薄青色
16 図37	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	4.2㎜		2.3㎜	円形	1.5㎜	0.05g	薄青色
16 図38	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.9㎜		2.4㎜	円形	1.0㎜	0.04g	濃青色
16 図39	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.9㎜		2.3㎜	円形	1.3㎜	0.04g	薄青色
16 図40	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	4.2㎜		2.7㎜	円形	1.2㎜	0.07g	濃青色
16 図41	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.8㎜		2.3㎜	円形	1.4㎜	0.05g	濃青色
16 図42	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	3.6㎜		2.1㎜	円形	0.8㎜	0.04g	濃青色
16 図43	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	2.8㎜		2.1㎜	円形	0.9㎜	0.03g	濃青色
16 図44	2 号横穴	玄室床面	小玉	ガラス	2.9㎜		1.9㎜	円形	1.0㎜	0.02g	濃青色

第12表　兼情横穴群出土大刀の観察表　　単位：cm

図版番号	遺構名	出土地点	全長	刀身			茎				備　考
				長さ	幅	重ね	長さ	幅	重ね	目釘孔	
17 図45	2 号横穴	玄室床面	(44.10)	36.10	2.43	0.69	(8.00)	1.50	0.68	不明	平棟平造

第13表　兼情横穴群出土鉄鏃の観察表　　単位：cm

図 版番号	遺構名	出土地点	全 長	鏃身長	鏃身幅	柄部長さ	備　　考
11 図33	1 号横穴	石棺床面	(2.11)			(2.11)	
17 図48	2 号横穴	玄室床面	(12.15)	(4.45)	2.14	7.70	箆被広鋒平造三角形式
17 図49	2 号横穴	玄室床面	(3.43)	3.03	(2.33)	(0.40)	箆被広鋒平造三角形式
17 図50	2 号横穴	玄室床面	(12.14)	(2.86)	0.88	(9.28)	片丸造鑿箭式
17 図51	2 号横穴	玄室床面	(6.63)	(2.06)	1.03	(4.57)	片丸造鑿箭式
17 図52	2 号横穴	玄室床面	(6.74)	2.52	1.08	(4.22)	片丸造鑿箭式
17 図53	2 号横穴	玄室床面	(2.12)	(2.12)	1.13		片丸造鑿箭式
18 図54	2 号横穴	玄室床面	(4.60)	(1.48)	1.23	(3.12)	片関片刃箭式
18 図55	2 号横穴	玄室床面	(3.71)	(3.71)	0.96		片関片刃箭式
18 図56	2 号横穴	玄室床面	(5.30)	(5.30)	1.18		片関片刃箭式
18 図57	2 号横穴	玄室床面	(6.88)	(6.88)	1.02		片関片刃箭式
18 図58	2 号横穴	玄室床面	(5.50)			(5.50)	
18 図59	2 号横穴	玄室床面	(7.04)			(7.04)	
18 図60	2 号横穴	玄室床面	(5.98)			(5.98)	
18 図61	2 号横穴	玄室床面	(3.20)			(3.20)	

第14表　兼情横穴群出土鉄鎌の観察表　　単位：cm

図版番号	遺構名	出土地点	全長	身幅	重ね	備　　考
18 図62	2 号横穴	玄室床面	(6.76)	1.93～2.08	0.33	直刃鎌
18 図63	2 号横穴	玄室床面	(12.20)	1.40～1.42	0.26～0.27	曲刃鎌

第15表 兼情横穴群出土銭貨の観察表

図版番号	遺構名	出土地点	径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　　考
21 図 4	3 号横穴	棺台内	25.2	1.3	3.72	背面に「文」の文字がある

4. まとめ

兼情横穴群は静岡県小笠郡大東町海戸に存在し、古代の行政区では遠江国城飼（きこう）郡に当たる。『和名類聚鈔』に見られる城飼郡の郷名は、「加美」「新井（にいい）」「荒木」「河上」「高橋」「新野（にいの）」「鹿城（からこ）」「朝夷（あさひな）」「松淵」「土形（ひじかた）」「狭東（さづか）」の11郷であるが、このうち土形郷・狭東郷と新井郷の一部が現在の大東町域に該当すると考えられている。

大東町域の横穴群は菊川の支川佐東川・亀惣川・下小笠川に沿って分布している。佐東川左岸には穴口横穴群・八ッ谷横穴群・清水ヶ谷横穴群・中方横穴群・山田ヶ谷横穴群・鳥見ヶ谷横穴群・天王谷横穴群など 7 群が、佐東川右岸には山脇横穴群・興禅庵横穴群・明僧横穴群・火ヶ峰横穴群・玉体横穴群・山崎横穴群など 6 群があり、亀惣川左岸には毛森山横穴群・猫田横穴群・田ヶ谷横穴群・下土方青谷横穴群・笹ヶ谷横穴群など 5 群が、下小笠川左岸には高塚横穴群と今回調査を行った兼情横穴群の 2 群、下小笠川右岸には本勝寺裏横穴群が知られている。これらの横穴群は流域の谷ごとに小規模に構築されているが、亀惣川左岸に在る毛森山横穴群は大規模な横穴群を形成している。

兼情横穴群は下小笠川左岸で、同じ帝釈山の急斜面にある高塚横穴群と 2 群を形成している。

今回の調査では 4 基の横穴を確認したが、完全な保存状態を維持していたものはなかった。

1 号横穴は箱式石棺を確認したが、蓋石は乱れ、内部からは人骨片と耳環が 1 点、鉄鏃片が 1 点のみ

で、それ以外に棺内での副葬品は確認できなかった。ただし、玄室の奥壁東隅から土師器の坏が 7 点、高坏が 6 点、須恵器の坏蓋が 8 点、坏身が 8 点、高坏が 1 点、壺が 1 点の計31点がまとまって出土している。

2 号横穴は玄室の床面を残すのみで、石棺・棺台・棺座・敷石・礫床などの埋葬施設は確認できなかったが、玄室の西側から土師器の高坏が 5 点、長頸壺が 2 点、甕が 2 点、須恵器の坏蓋が 2 点、坏身が 6 点、ハソウが 2 点、提瓶が 1 点、壺が 1 点、鉄鏃片が 6 点、中央部から切子玉が 2 点、棗玉の破片が 1 点、ガラス小玉が14点、砥石が 1 点、大刀の鍔の破片が 1 点、東側から土師器の鉢が 1 点、須恵器の坏蓋が 1 点、坏身が 1 点、小型壺が 2 点、鉄鏃片が 8 点、鉄鎌片が 2 点、南東側から小型の大刀が 1 口、大刀のハバキ片が 1 点、鉄鏃片が 1 点の合計64点が出土している。

3 号横穴は造り付けの石棺を確認することができたが、石棺から出土した遺物は銭貨「寛永通寶」と「かわらけ」で、江戸時代に再利用したものと考えられる。なお、出土した銭貨「寛永通寶」は、背面に「文」の字が読みとれる新「寛永通寶」で、この銭貨は江戸時代の寛文 8 年（1668）以降に鋳造され、使用された銭貨である。

4 号横穴は覆土が無く、規模・形態などから古墳時代の所産と断定するのは困難であり、検討を要する。

1 号・2 号横穴から出土した土器は総数57点ある。

第16表　各横穴から出土した須恵器・土師器の器種別個数

遺構名	須恵器							土師器						
	坏蓋	坏身	高坏	壺	𤮈	提瓶	計	坏	高坏	長頸壺	甕	鉢	計	合計
1 号横穴	8	8	1	1			18	7	6				13	31
2 号横穴	3		7	3	2	1	16	5		2	2	1	10	26
計	11	15	1	4	2	1	34	7	11	2	2	1	23	57

このうち須恵器の坏類について、形態（坏蓋・坏身の口縁部の形状など）と法量（口径・器高など）に基づいて分類を試みた。

Ⅰ類－坏蓋は口縁部と天井の境が無く、口径が14cm程度ある。
　　坏身は口縁部がやや内傾して立ち上がり最大径が15cm前後ある。

Ⅱ類－坏蓋は口縁部と天井の境が無く、口径が13cm程度ある。
　　坏身は口縁部がやや内傾して立ち上がり最大径が14cm前後ある。

Ⅲ類－坏蓋は口縁部と天井の境が無く、口径が12cm程度ある。
　　坏身は口縁部が内傾して立ち上がり最大径が13cm前後ある。

Ⅳ類－坏蓋は口縁部と天井の境が無く、口径が11cm程度ある。
　　坏身は口縁部が内傾して立ち上がり最大径が12cm前後ある。

Ⅴ類－坏蓋は口縁部と天井の境が無く、口径が10cm程度ある。
　　坏身は口縁部が短く内傾して立ち上がり最大径が11cm前後ある。

Ⅵ類－坏蓋は口縁部と天井の境が有り、口径が10cm程度ある。
　　坏身は口縁部が短く内傾して立ち上がり最大径が10cm前後ある。

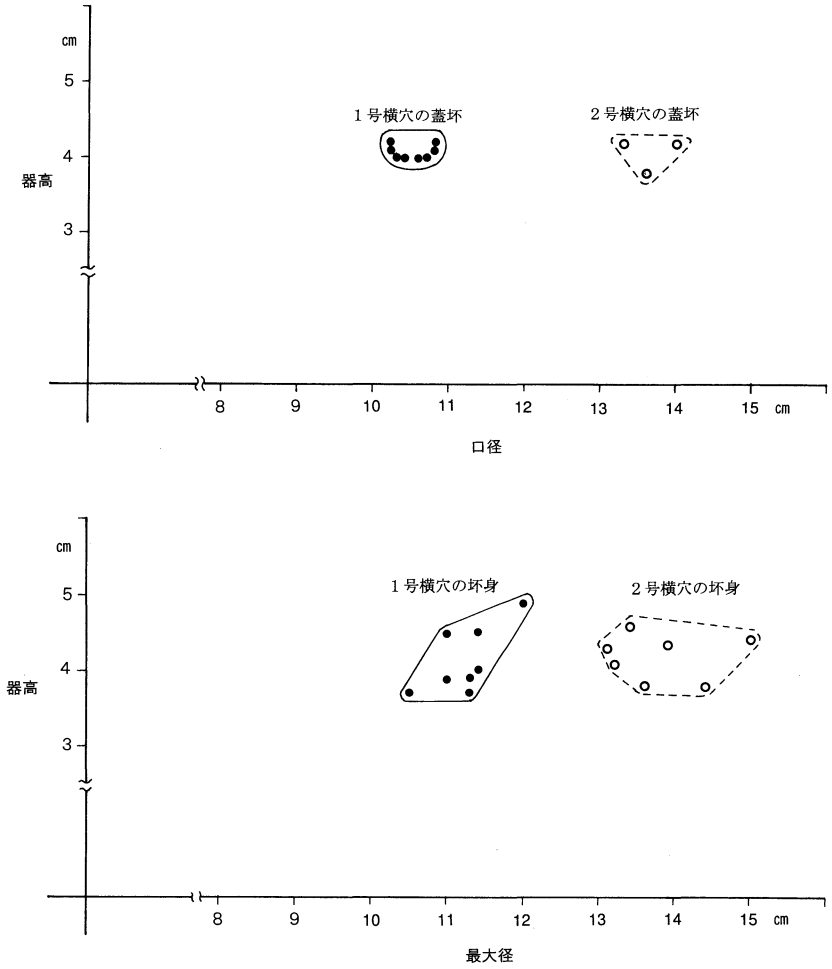
以上の区分で分類した結果を第17表と第22図に示した。法量から見れば 1 号横穴と 2 号横穴に明確な差があり、時期が新しくなるにつれて法量の縮小化や口縁部の退化が認められるため、1 号横穴が 2 号横穴より時期的が新しい横穴であると想定される。2 号横穴のⅠ～Ⅲ類は 6 世紀後半に、1 号横穴のⅣ～Ⅵ類は 7 世紀初頭に位置づけられる。

鉄製品は 1 号横穴の石棺の床面から鉄鏃の箆被の部分と思われる破片（残存長は2.11cm）と、2 号横穴の玄室床面から小型の大刀が 1 口、鉄鏃片が 6 点出土している。小型の大刀は片関で刃関が深く切られているという特徴を持っており、片関→両関という変遷を考えると、6 世紀後半から 7 世紀初頭に見られる大刀の特徴を持っているといえる。

鉄鏃は平根系の箆被広鋒平造三角形式と尖根系の片丸造鑿箭式、片関片刃箭式の 3 種類があり、それ以外は尖根系の柄部と思われる破片である。その中に箆被部の関が棘関を有するものがあり、そのことから 6 世紀後半に属する鉄鏃と考えられる。

第17表　横穴から出土した須恵器の坏蓋・坏身の法量と分類区分　　単位：cm

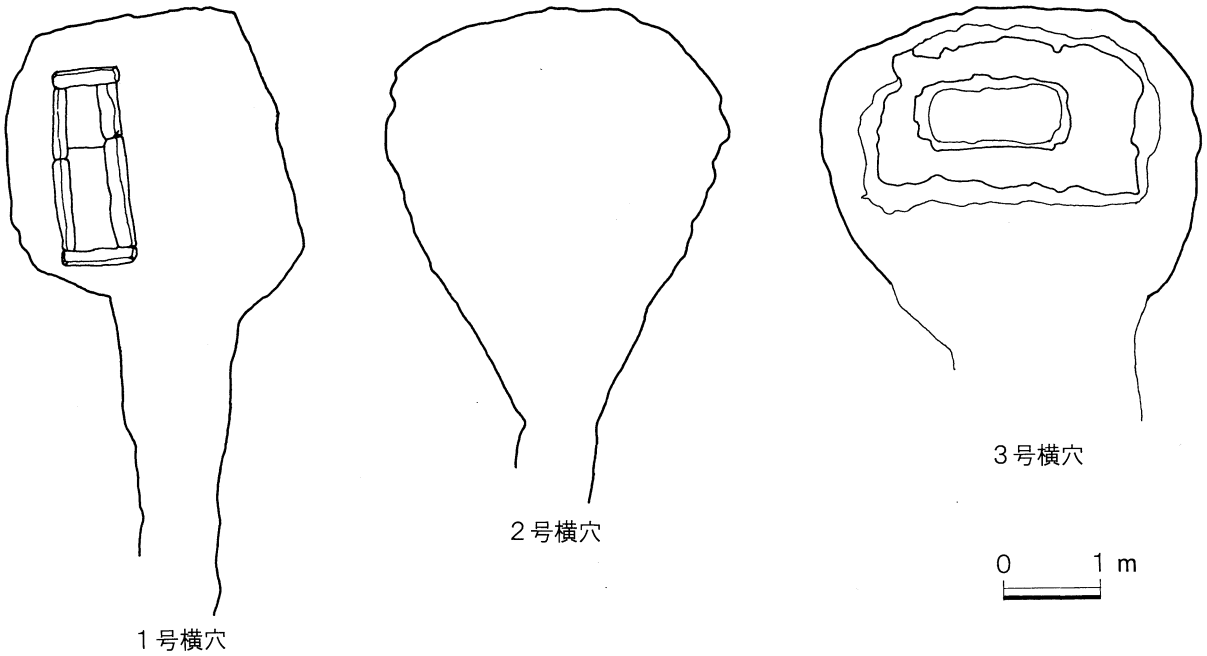
坏蓋				坏身			
遺物番号	口径	器高	分類区分	遺物番号	最大径	器高	分類区分
1号横穴須1	10.2	4.2	Ⅵ類	1号横穴須12	11.3	3.9	Ⅴ類
1号横穴須6	10.8	4.1	Ⅵ類	1号横穴須3	12.0	4.9	Ⅳ類
1号横穴須13	10.3	4.0	Ⅵ類	1号横穴須5	11.0	4.5	Ⅴ類
1号横穴須8	10.6	4.0	Ⅵ類	1号横穴須4	11.3	3.7	Ⅴ類
1号横穴須9	10.7	4.0	Ⅴ類	1号横穴須7	11.4	4.5	Ⅴ類
1号横穴須17	10.2	4.1	Ⅴ類	1号横穴須18	10.5	3.7	Ⅵ類
1号横穴須16	10.4	4.0	Ⅴ類	1号横穴須15	11.4	4.0	Ⅴ類
1号横穴須10	10.8	4.2	Ⅳ類	1号横穴須14	11.0	3.9	Ⅴ類
2号横穴須11	13.6	3.8	Ⅱ類	2号横穴須1	14.9	4.4	Ⅰ類
2号横穴須2	14.0	4.2	Ⅰ類	2号横穴須7	13.4	4.6	Ⅲ類
2号横穴須5	13.3	4.2	Ⅱ類	2号横穴須16	13.2	4.1	Ⅲ類
				2号横穴須6	14.4	3.8	Ⅱ類
				2号横穴須8	13.9	4.35	Ⅱ類
				2号横穴須10	13.6	3.8	Ⅲ類
				2号横穴須9	13.1	4.3	Ⅲ類



第23図　横穴から出土した須恵器の坏蓋・坏身の法量と分類図

確認した遺物の時期が横穴の構築年代と必ずしも一致するとはいえないが、1・2 号横穴から出土した須恵器、大刀、鉄鏃の形態は 6 世紀後半から 7 世紀前半に見られる特徴を示しており、横穴が構築された年代は大東町域で確認されている横穴と同様に、6 世紀後半から 7 世紀前半と考えられる。なお、追葬の有無に関しては、出土した遺物から明確な時期差は認められなかった。

兼情横穴群の形状・規模を玄室の平面形状によって分類すると、隅丸方形（1 号横穴）と三角フラスコ形（2・3 号横穴）とに分けられる。



第24図　玄室の平面形状による分類

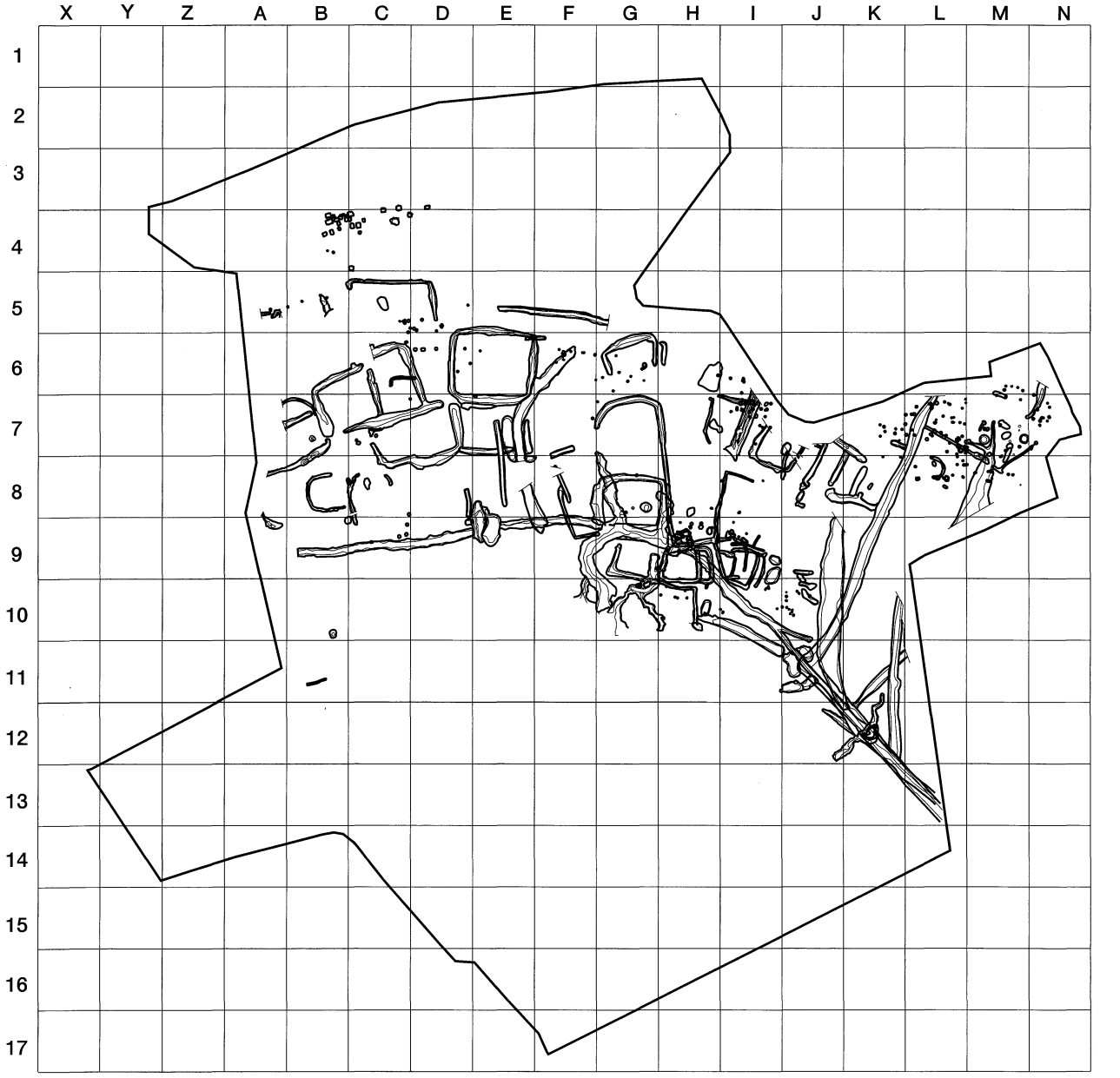
1 号横穴の玄室は隅丸方形で組合せ式箱式石棺を有し、2 号横穴の玄室は三角フラスコ形で埋葬施設はなく、3 号横穴の玄室は三角フラスコ形で造り付けの石棺を有するというように、3 基とも異なった特徴を持っている。さらに共有する墓前域が確認されなかったことや、それぞれの横穴の標高も異なること。さらに横穴の存在が考えられる丘陵の上部が削平されていることなどから単位群について断定することは困難である。今回の調査区域の隣地において、さらに調査が行われれば、単位群の構成も判明する可能性がある。

《兼情遺跡》

1．遺跡の概要

今回の調査で確認した遺構は、周溝墓が16基、溝状遺構が62条、穴状遺構のうち土坑が45基、土壙が 2 基、土壙墓（近世の土壙を「土壙墓」として区分した）が26基、ピット（柱穴状遺構）が232基、井戸跡が 1 基の合計322基62条である。遺構以外には自然排水路も 8 条確認している。遺物は弥生土器片が10.871点、石器が 4 点、須恵器片が10,119点、土師器片が18,331点、山茶碗片が9,495点、陶磁器片が710点、土製品が 5 点、装身具が 2 点、銭貨が60点、鉄製品が83点、かわらけ片が247点、人骨片が2,056点の合計51,983点である。

確認した遺構の内、遺構の形状、覆土の状況、覆土から出土した遺物の内容および遺構の確認面を総合的に検討し、時代区分した。弥生時代の遺構は周溝墓が16基、溝状遺構が40条、穴状遺構のうち土坑が 2 基、ピットが28基の合計46基40条である。古墳時代の遺構は溝状遺構が13条、穴状遺構のうち土壙が 2 基、土坑が43基、ピットが170基の合計215基13条である。遺構以外では自然排水路が 8 条ある。中世の遺構は溝状遺構が 1 条、穴状遺構のうちピットが18基の合計18基 1 条である。近世の遺構は溝状遺構が 8 条、穴状遺構のうち土壙墓が26基、ピットが16基、井戸跡が 1 基の合計43基 8 条である。



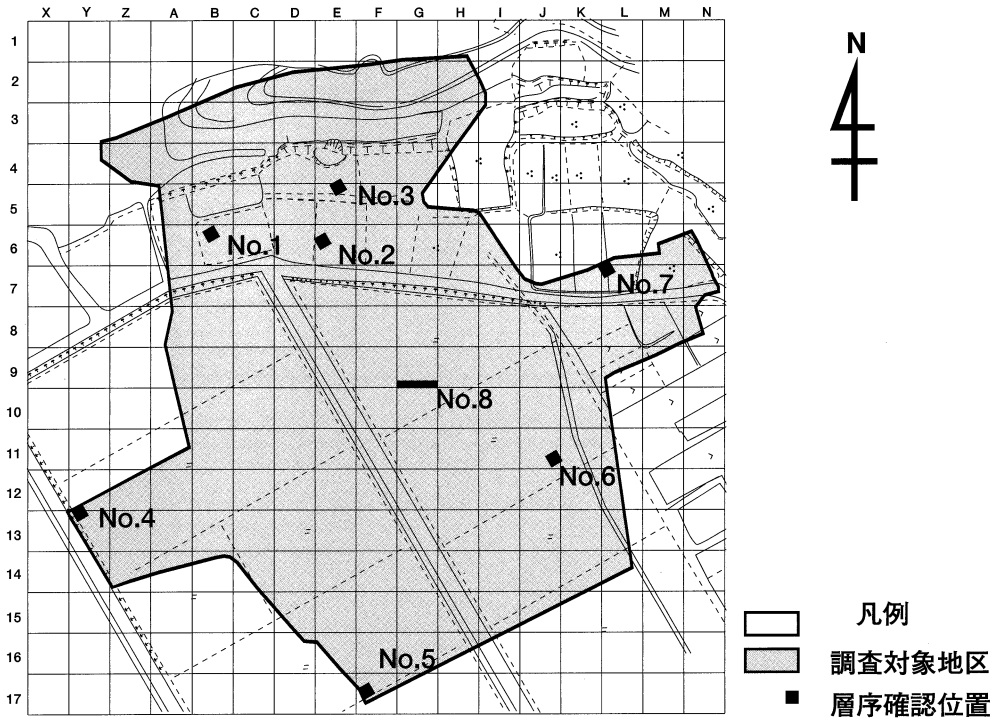
第25図　兼情遺跡遺構全体図

2. 遺跡の層序

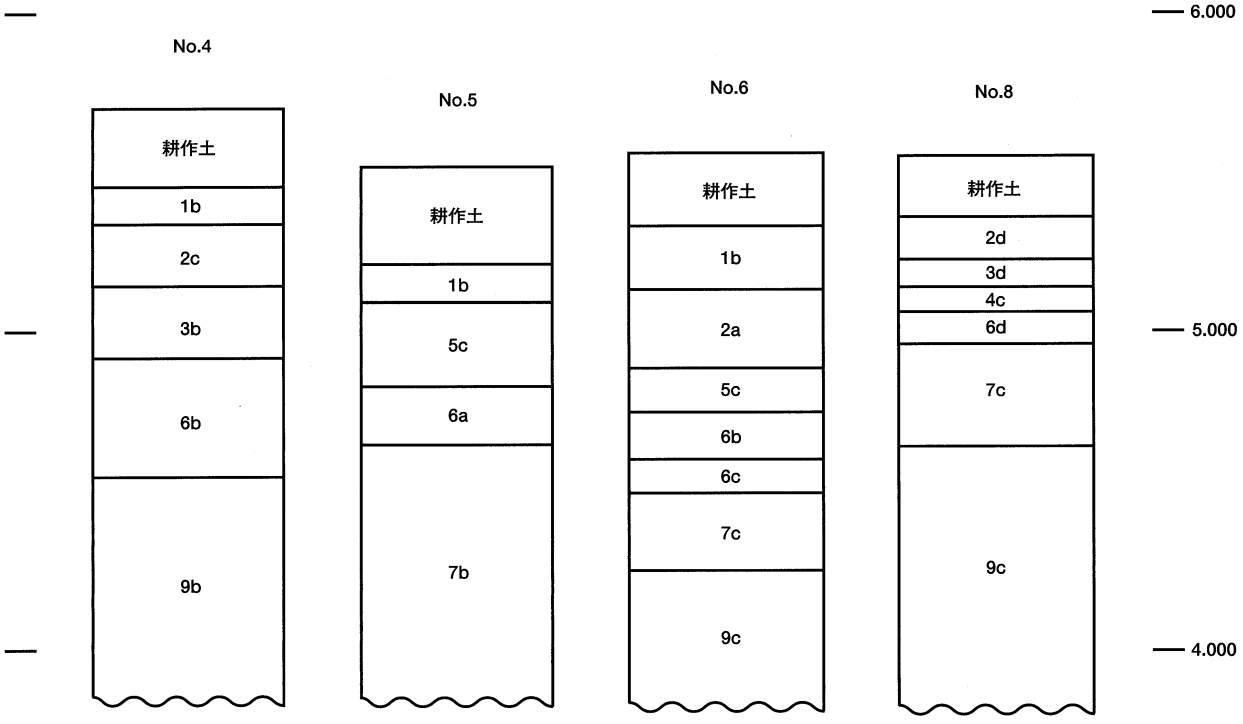
(1) 土層の堆積状況

兼情遺跡は土方泥岩層からなる丘陵緩斜面から平坦面にかけての標高4～29mに立地している。

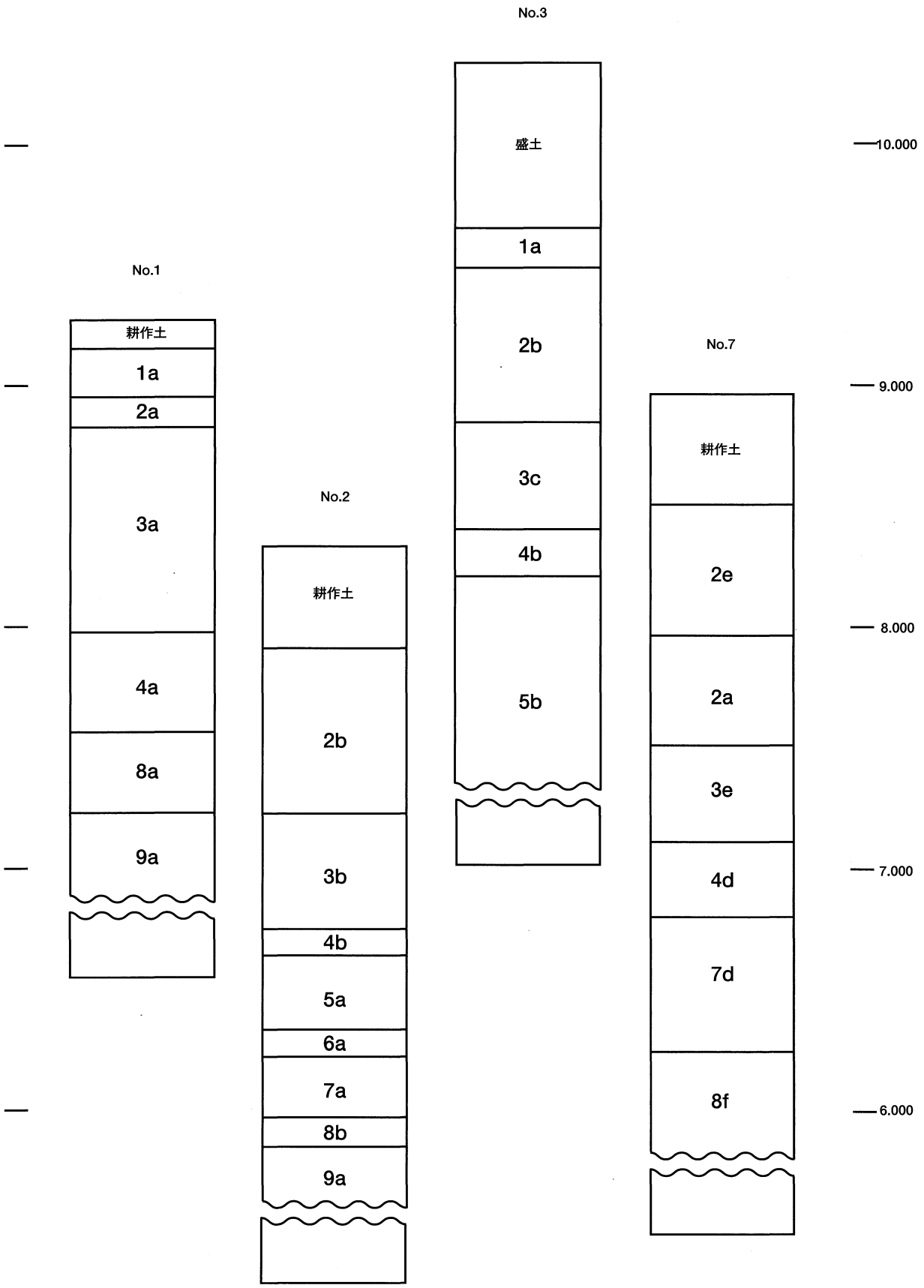
調査区域内の層序を緩斜面と平坦面で対比した。緩斜面の層序概念図は第26図に示したNo. 1 ～ 3 地点とNo. 7 地点である。このうちNo. 2 地点はNo. 1・No. 3 地点に比べ、平坦面に近いため土砂の堆積が容易で、変化に富んでいる。一方、平坦面の層序概念図は第25図に示したNo. 4 ～ 6 地点とNo. 8 地点で、緩斜面の1～4層に相当する層は堆積していない。



第26図　土層確認位置図



第27図　平坦面における層序概念図

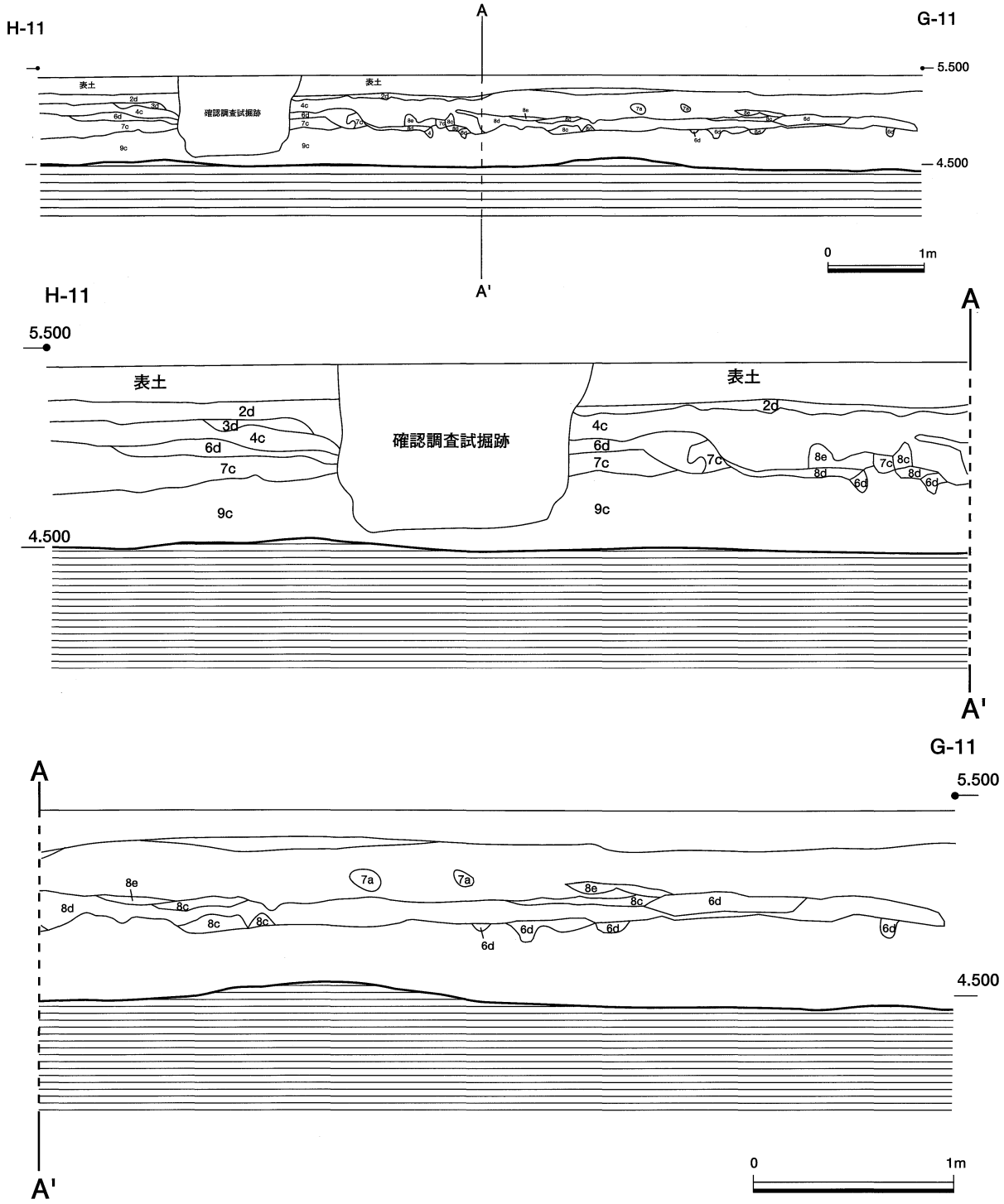


第28図　緩斜面における層序概念図

第29図は遺跡のほぼ中央部の平坦面（No. 8 地点）における地層断面図で、兼情遺跡の基本層序として示した。

本遺跡は沖積平野に位置し、湿地帯であったため、湿地に繁茂したヨシ・アシ等により黒泥など高有機質の泥炭質地盤となっている。そのため、黒色系の土壌が多くの割合を占めている。黒色系の土壌は表面の乾燥が速く、乾くと白っぽくなり、固く締まるという特徴を持っている。

1 層は耕作土との撹乱層、2 層は近世の土層、3 層は中世の土層で黒色土層のため鍵層的な土層、4 層は主に緩斜面の土層、5・6 層は主として平坦面の土層、7 層は弥生時代の遺構の覆土、8 層は弥生時代の遺構確認面の土層、9 層は地山および無遺物層となっている。以下に各層序の詳細な注記をした。



第29図　基本層序（No. 8 地点）

耕作土ａ　10YR　4／4　褐色を呈する。茶畑の耕作土。
耕作土ｂ　2.5Y　4／1　黄灰色を呈する。水田の耕作土。
1ａ層　10YR　4／3　にぶい黄褐色を呈する。粘性はそれほど強くなく、締まりはやや強い。撹乱の影響を受けている部分もあり、分層線がはっきりしない。中世から近世の遺物を包含するが、近世の遺物が多くの割合を占める。
1ｂ層　2.5Y　5／1　黄灰色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、撹乱の影響を受けている。φ30㎜大以下の河原石を２％ほど含有し、10YR7／8　黄橙色が20%以上で含有する。
2ａ層　10YR　3／3　暗褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、少量の雲母が混じり斑状で鉄分もみられる。中世の遺物を包含する。
2ｂ層　10YR　3／2　黒褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、少量の雲母が混じり斑状で鉄分もみられる。主に中世の遺物を包含するが、遺物の量は３層との分層線より10～15㎝上位付近がやや多く出土する。
2ｃ層　10YR　3／1　黒褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、少量の雲母が混じり斑状で鉄分もみられる。
2ｄ層　10YR　2／2　黒褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、φ4 ㎜大以下の10YR　5／6黄褐色のシルト岩粗粒を５％ほど含有する。
2ｅ層　2.5Y　3／1　黒褐色を呈する。粘性はやや強く、締まりは強い。撹乱の影響を受けている部分もある。
3ａ層　2.5YR　2／1　黒色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、少量の雲母が混じる。2 層との境界および３層上位で古墳時代から中世の遺物を包含する。
3ｂ層　7.5YR　1.7／1　黒色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、少量の雲母が混じる。2 層との境界および３層上面で古墳時代から中世の遺物を包含する。
3ｃ層　10YR　2／1　黒色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、少量の雲母が混じる。φ数㎜大の2.5Y　5／1黄灰色のシルト質泥岩を１％ほど含有する。2 層との境界および３層上面で古墳時代から中世の遺物を含有する。
3ｄ層　10YR　2／2　黒褐色を呈する。粘性はなく、締まりは強い。φ5 ㎜大以下の亜角礫・亜円礫の砂質礫層である。
3ｅ層　5YR　2／1　黒褐色を呈する。粘性はやや強く、締まりは強い。φ5 ㎜大以下の 5Y　7／4浅黄色のシルト岩粗粒を５％ほど含有する。
4ａ層　10YR　3／2　黒褐色を呈する。粘性はかなり強く、締まりはやや強い。
4ｂ層　10YR　3／3　暗褐色を呈する。粘性はかなり強く、締まりはやや強い。
4ｃ層　10YR　2／2　黒褐色を呈する。粘性・締まり３ｄ層に酷似している。
4ｄ層　10YR　2／2　黒褐色を呈する。粘性はやや強く、締まりは強い。この層の上面が遺構確認面である。
5ａ層　2.5Y　4／3　暗オリーブ褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、所々で地下水が滲出する。数㎜大の2.5Y　5／1　黄灰色のシルト質泥岩を３％ほど含有する。
5ｂ層　2.5Y　4／3　暗オリーブ褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強く、所々で地下水が滲出する。数㎜大～こぶし大の2.5Y　5／1　黄灰色のシルト質泥岩を40%ほど含有する。そのため5ａ層よりも若干明るめに見える。
5ｃ層　2.5Y　4／2　暗灰黄色を呈する。粘性はかなり強く、締まりはやや強い。古墳時代から中世の遺物を包含するが、非常に少数である。竹や土管を使用した近・現代の暗渠が設けられている。
5ｄ層　10YR　5／3　黄褐色を呈する。粘性・締まりともにやや強い。古墳時代から中世の遺物を包含するが、非常に少数である。竹や蛇腹を使用した近・現代の暗渠が設けられている。
6ａ層　10YR　3／2　黒褐色を呈する。粘性はかなり強く、締まりはやや強い。
6ｂ層　10YR　2／2　黒褐色を呈する。砂質礫層で粘性は弱く、締まりはかなり強い。平坦部では広範囲に拡がっているが、調査区の西部の方が若干厚く堆積していることから、本遺跡の西

方を流れる下小笠川の洪水により運ばれた堆積層と考えられる。古墳時代から中世の遺物を包含する。

6ｃ層　10YR　3／2　黒褐色を呈する。砂質礫層で粘性は弱く、締まりはかなり強い。古墳時代から中世の遺物を含有する。

6ｄ層　7.5YR　2／2　黒褐色を呈する。粘性はやや強く、締まりはやや弱い。シルト質砂層である。

7ａ層　10YR　1.7／1　黒色を呈する。粘性は非常に強く、締まりはやや強い。周溝墓の溝の覆土に当たる。

7ｂ層　10YR　1.7／1　黒色を呈する。粘性は非常に強く、締まりはやや強い。無遺物層である。調査区の南部では層厚が厚く、黒色土層面から2.5m以上掘り下げても下位層を確認することができなかった。

7ｃ層　7.5YR　1.7／1　黒色を呈する。粘性は非常に強く、締まりはやや強い。

7ｄ層　2.5Y　2／1　黒色を呈する。粘性はやや強く、締まりは強い。この層の上面が遺構確認面である。

8ａ層　2.5GY　4／1　暗オリーブ灰色を呈する。粘性・締まりともにやや強い。この層の上面が遺構確認面である。

8ｂ層　7.5Y　4／2　灰オリーブ色を呈する。粘性・締まりともにやや強い。この層の上面が遺構確認面である。

8ｃ層　2.5Y　3／2　黒褐色を呈する。粘性・締まりともにやや弱く、φ50㎜大以下の砂質シルト岩（2.5Y　7／6　明黄褐色）を10%ほど含有する。

8ｄ層　2.5Y　3／2　黒褐色を呈する。粘性・締まりともにやや弱く、亜角礫・亜円礫が30%ほど、砂質シルト岩（2.5Y　7／6　明黄褐色）を１%ほど含有する。全体的に7.5YR　4／6　褐色の鉄分を帯びる。

8ｅ層　2.5Y　3／2　黒褐色を呈する。7.5YR　2／1　黒色土が10%ほど含有する。粘性・締まりともにやや強い。

8ｆ層　2.5Y　5／4　黄褐色を呈する。粘性はやや強く、締まりは強い。上層の７ｄ層よりも粘性は若干弱い。

9ａ層　10GY　6／1　緑灰色を呈する。地山層で、丘陵部の泥岩層に当たる。

9ｂ層　7.5GY　6／1　緑灰色を呈する。粘性はほどんどなく、締まりはやや強い。上部はシルト質でその下は砂層である。自由水面を持つ帯水層と考えられる。

9ｃ層　5GY　5／1　オリーブ灰色を呈する。粘性はほどんどなく、締まりはやや強い。シルト質砂層で自由水面を持つ帯水層と考えられる。

3. 遺構と遺物

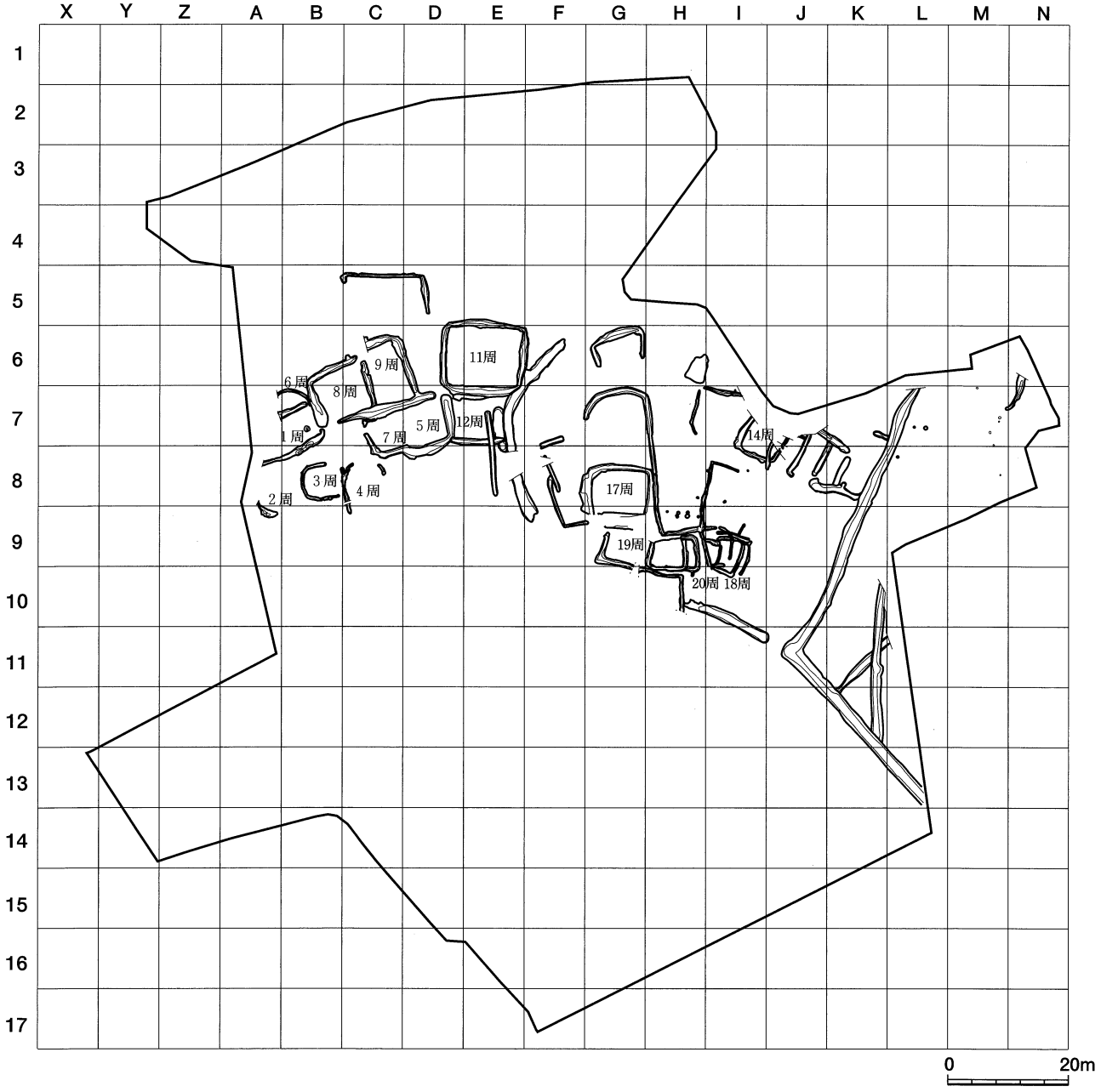
(1) 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した弥生時代の遺構は周溝墓が16基、溝状遺構が40条、穴状遺構のうち土坑が 2 基、ピットが28基の合計46基40条である。

周溝墓は丘陵緩斜面に構築されているが、後世の農地改善事業に伴う土木工事等により上位面が削平され、主体部を確認することができなかったため、溝の形状、覆土の状況、遺物の出土状況、遺物の内容を総合的に検討し、判断した。周溝の方向軸は、西側では北西・南東方向、中央では南北方向、東側では北東・南西方向を指向し、地形の等高線にほぼ直交している。

溝状遺構は調査区の東側に多く分布し、中でも55号溝跡は溝の規模が大きく、遺物も多く出土している。

遺物は周溝墓の覆土から1,314点、溝状遺構の覆土から1,796点、ピットの覆土から 1 点の合計3,111点出土している。　以下に各遺構の詳細について述べる。



第30図　弥生時代の遺構全体図

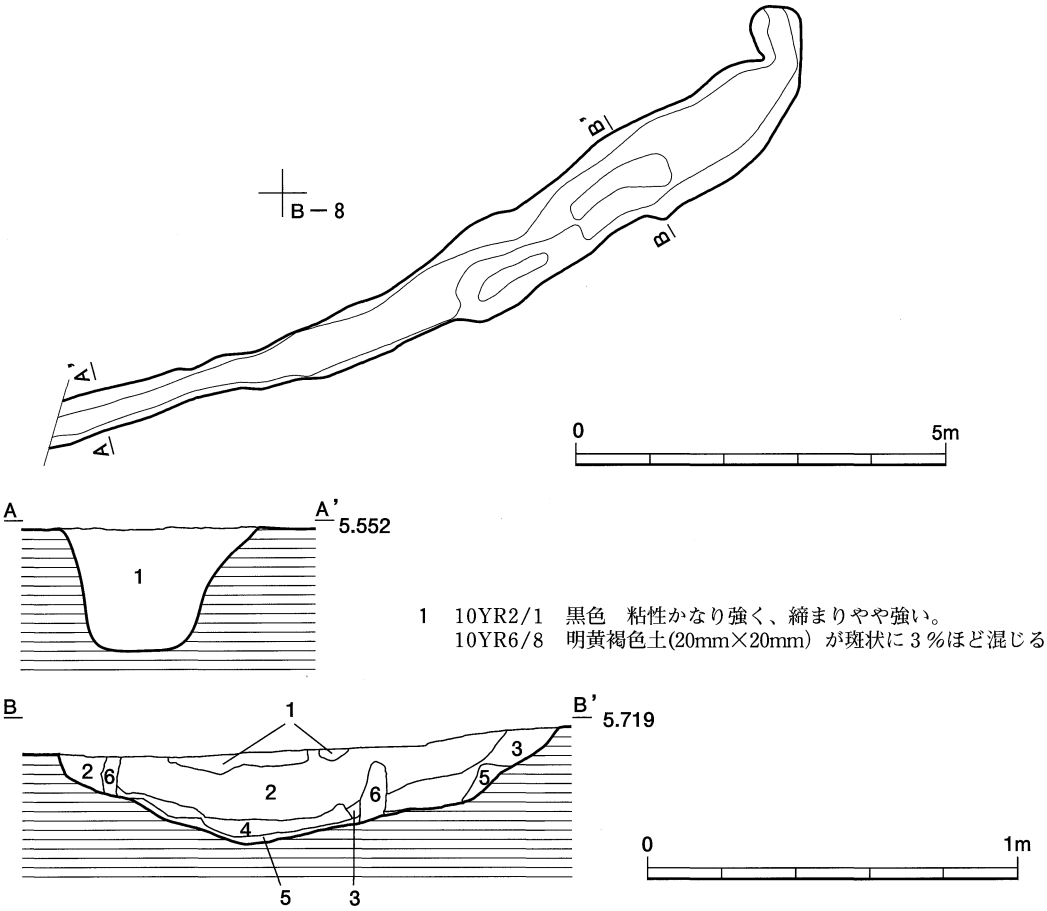
〈周溝墓〉

1号周溝墓

遺構　1号周溝墓はA－8、B－7・8グリッドに位置し、方形周溝墓の東溝の一部と南溝と考えられる。東溝の北端部は8号周溝墓の西溝の南端部に接するように終息し、南側は南東南方向に伸長し、西南西に屈曲して南溝となる。南溝の西端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は推定不可能である。溝の残存部から形状は方形と推定される。

溝の規模は東溝の長さが0.86m、南溝の長さが9.30mで合計10.16m、幅は0.39～1.41mである。南北軸のN値方位は変化点が1箇所、屈曲点が1箇所認められる。北からN－10.9°－W、屈曲点でN－57.8°－E、すなわち南北軸と東西軸は内角111.3°で屈曲していることになり、次の変化点でN－72.7°－Eを指向する。断面形状は浅い丸底状および上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で65cmある。覆土はA－A'は1層、B－B'は6層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。断面B－B'の1層はにぶい黄褐色（10YR　5/4）土層、2層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、3層・4層・5層は黒色（10YR　2/1）土層、6層はアメリカザリガニの生痕で褐灰色（10YR　4/1）土層である。

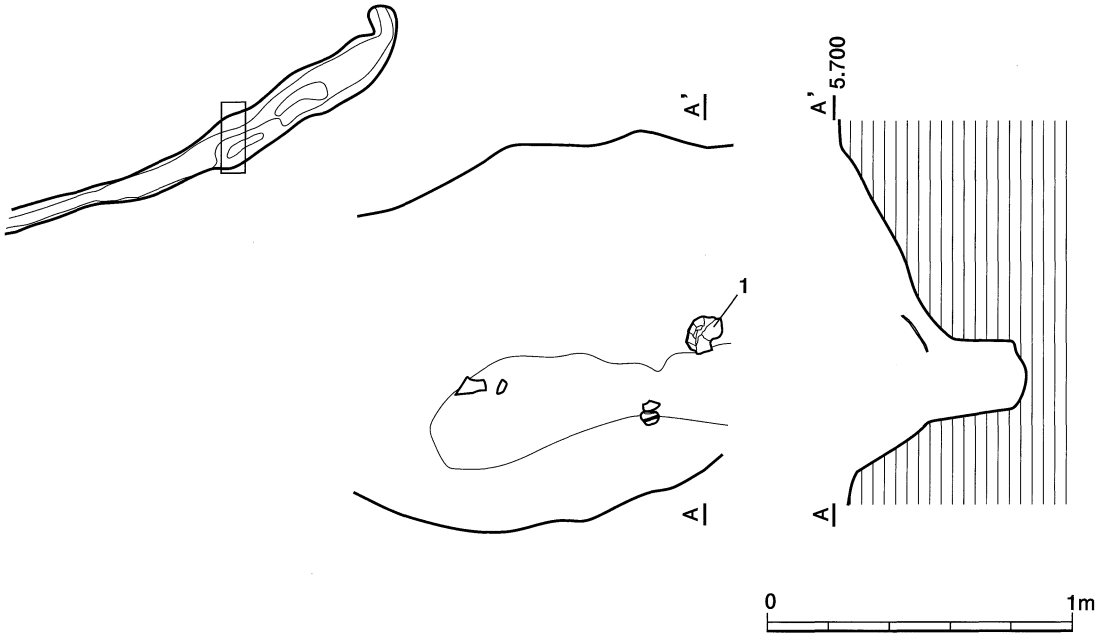
遺物は覆土の下位から弥生土器の口縁部が1点、体部片が77点、底部片が2点出土し、上位からは土師器の体部片が10点、須恵器の体部片が1点の合計91点が出土している。その内、図下が可能な弥生土器の壺2点を図示した。



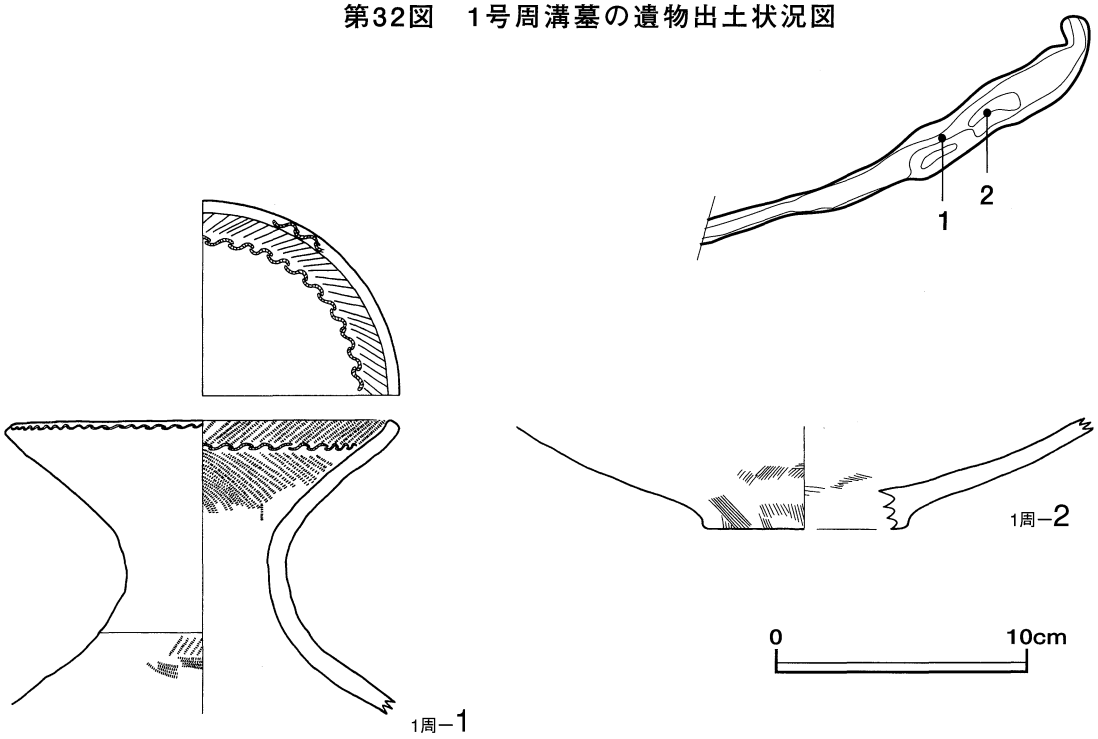
1　10YR2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　　10YR6/8　明黄褐色土(20mm×20mm）が斑状に3％ほど混じる。

1　10YR5/4　にぶい黄褐色土が40％ほど、10YR1/2　黒色土が40％ほど、10YR5/6　黄褐色土が20％ほど混じる。粘性・締まりともにややあり。
2　7.5YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。10YR5/6 黄褐色土が1％ほど混じる。
3　10YR　2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。10YR5/6 黄褐色土が3％ほど混入しているが、境界は不明瞭。
4　10YR2/1　黒色土60％ほど、10YR4/4　褐色土30％ほど、10YR5/6　黄褐色土が10％ほど混じる。互いの境界は不明瞭。
5　10YR2/1　黒色土50％ほど、10YR4/4　褐色土40％ほど、10YR5/6　黄褐色土が10％ほど混じる。互いの境界は不明瞭。
6　生痕。10YR4/1　褐灰色　粘性やや強く、締まりあまりなし。

第31図　1号周溝墓の平面・断面図



第32図　1号周溝墓の遺物出土状況図



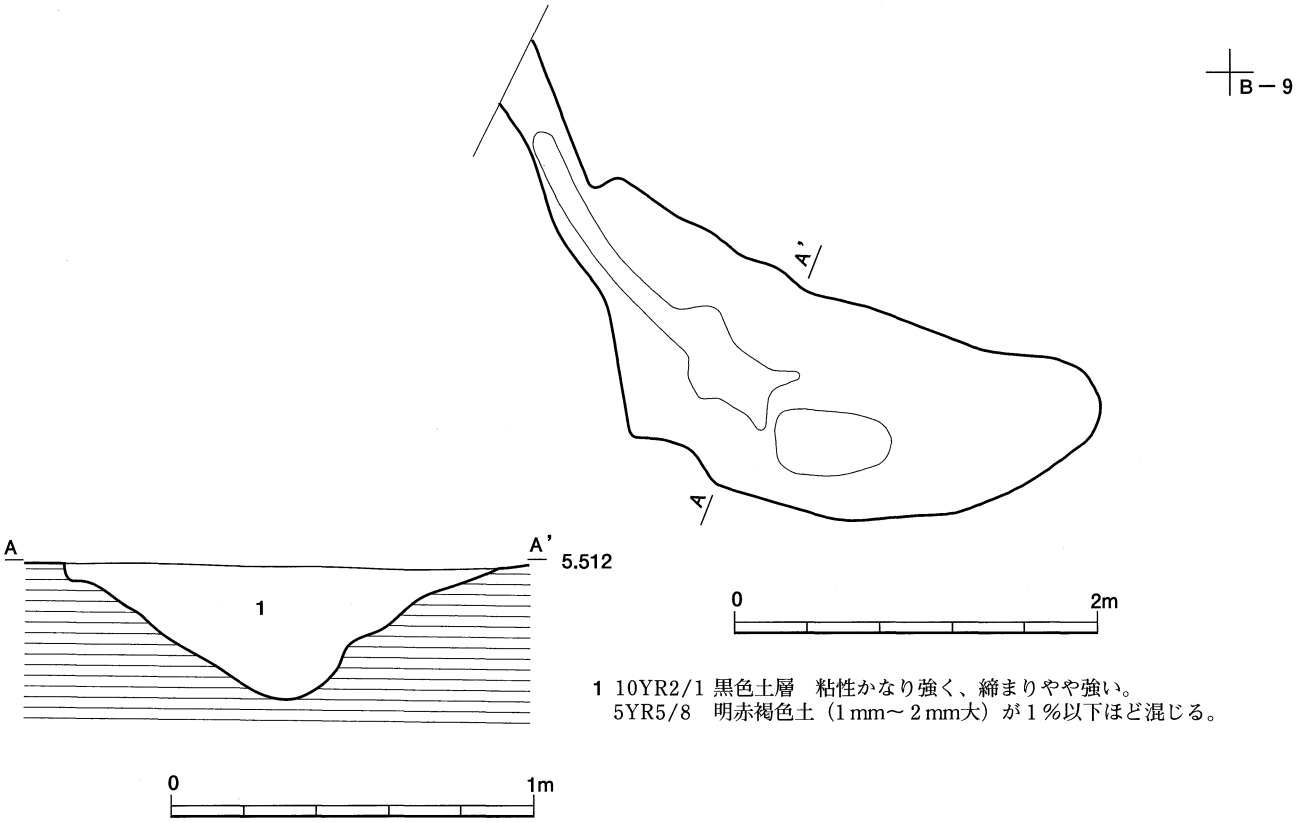
第33図　1号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

遺物　第33図の **1** は壺の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は頸部に縄紋を思わせる櫛歯状施具による刺突紋が施されているが、摩耗している。内面も縄紋を思わせる櫛歯状施具による刺突紋が施されている。胎土は普通で、灰色・白色・赤色粒を含んでいる。　**2** は壺の底部の破片で、底部から体部下半にかけて大きく外反している。外面は斜位のハケ目痕が残り、内面は摩耗しているが、わずかにハケ目痕が残っている。胎土は普通で、長石・黒色・石英・橙色粒を含んでいる。

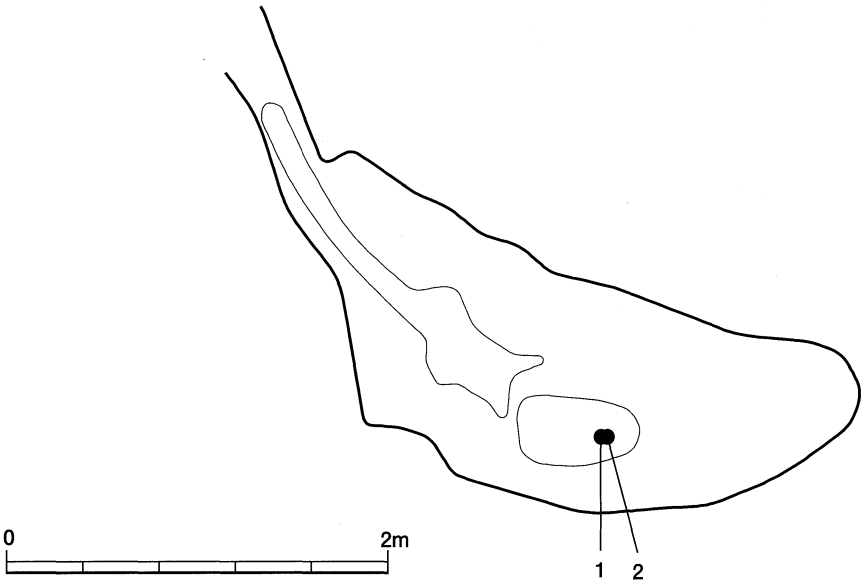
2号周溝墓

遺構　2号周溝墓はA－8グリッドの南部からA－9グリッドの北西部に位置し、円形周溝墓の南西部にあたる溝と考えられる。西端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は溝幅を含め、推定直径6.73m、推定面積35.6㎡を測り、外郭の形状は円形を呈する。

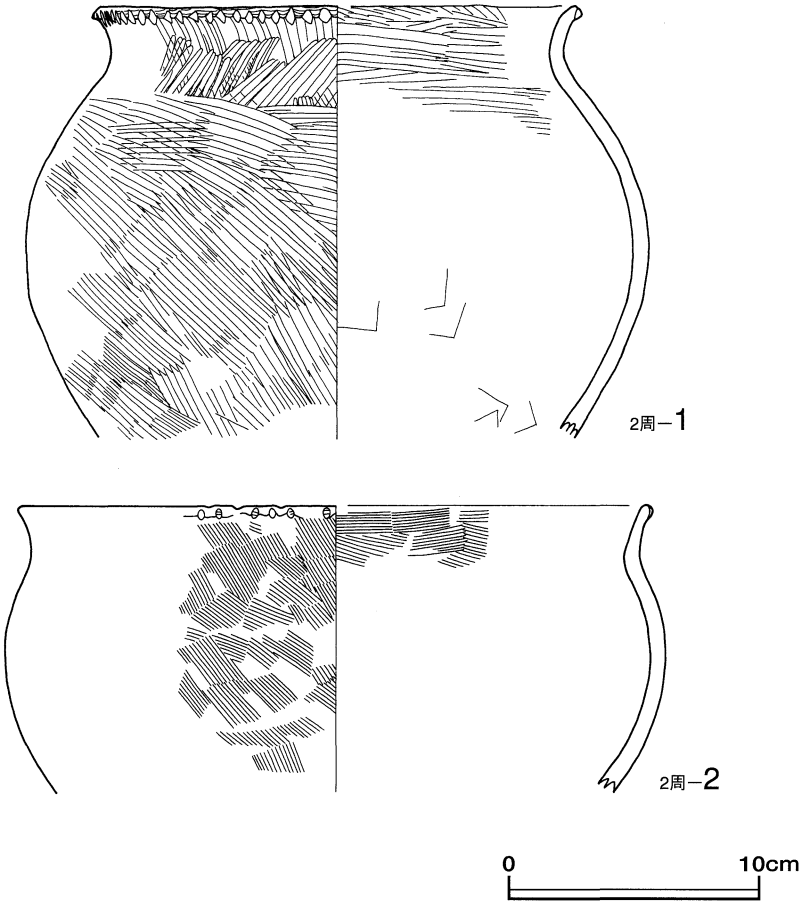
溝の規模は長さが4.57m、幅は0.24～1.23mである。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で98㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は覆土の最下位から弥生土器の甕の口縁部から体部下半にかけての破片が2点、体部片が30点、底部片が2点の合計34点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の甕2点を図示した。



第34図　2号周溝墓の平面・断面図



第35図　2号周溝墓から出土した甕の位置図



第36図　2号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

遺物　第36図の**1**は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部は緩やかに内湾し、頸部から口縁部にかけやや外反気味に開いている。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部に縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残り、体部には板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で長石・石英・黒色・赤色粒を含んでいる。　**2**は甕の口縁部から体部にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部はやや外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、灰色・黒色・赤色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。

3号周溝墓

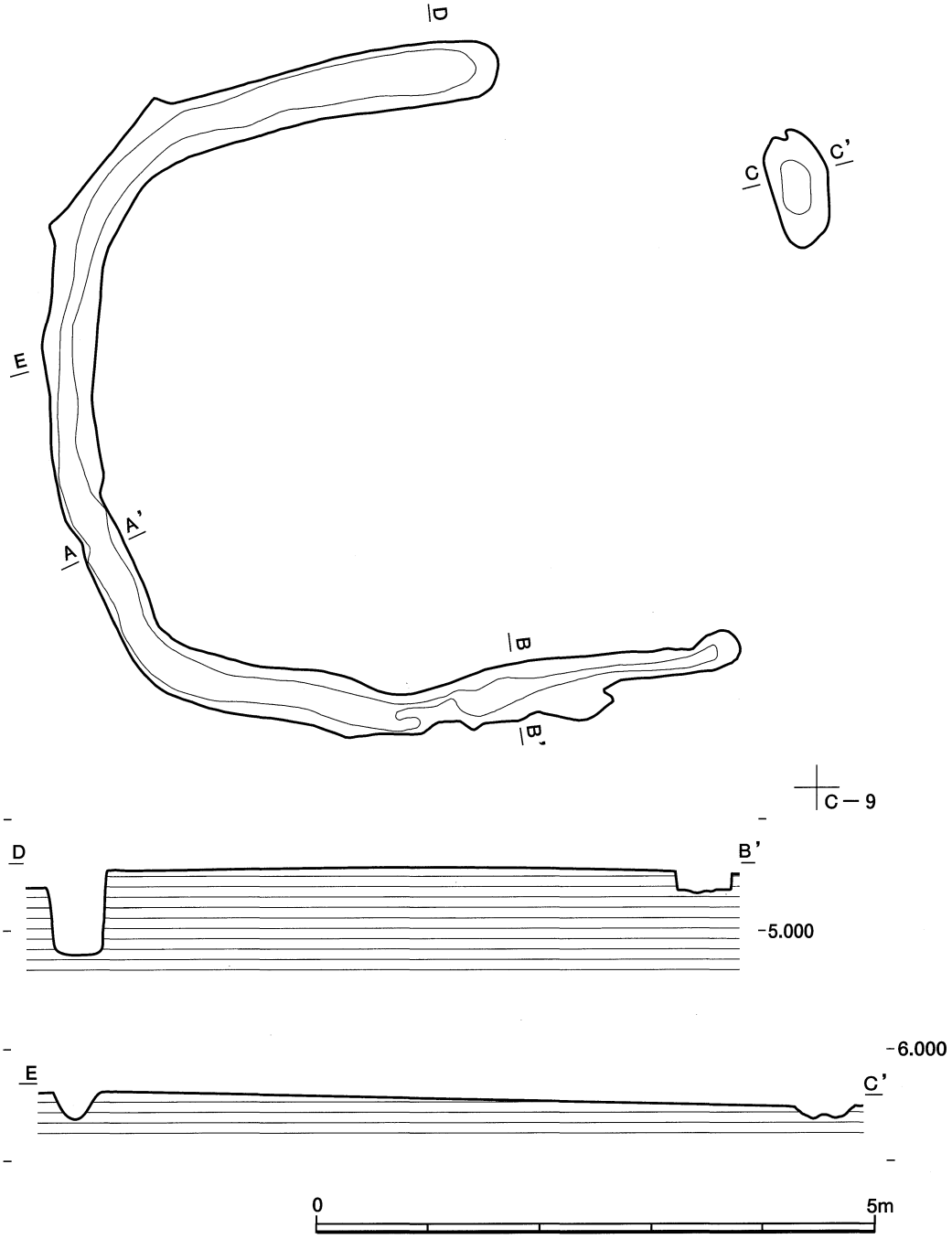
遺構　3号周溝墓はB－8グリッドに位置し、北東部と南東部の溝を欠く円形周溝墓と考えられる。規模は溝幅を含め、縦軸の長さが6.41m、横軸の長さが7.40mあり、外郭の形状は隅丸方形を呈する。

溝の規模は北東部の溝の長さが1.04m、北東部以外の溝の長さが14.58mで合計15.62mである。幅は北東部が0.38～0.58m、北東部以外の溝の幅は0.20～0.61mである。南北軸のN値方位は北東部の溝で変化点が1箇所、北東部以外の溝で15箇所の計16箇所認められる。北東部の溝N－31.5°－W、変化点でN－11.5°－Wを指向し、北東部以外の溝は、変化点でN－58.7°－E、変化点でN－77.7°－E、変化点でN－83.1°－E、変化点でN－76.5°－E、変化点でN－88.1°－E、変化点でN－82.4°－W、変化点でN－72.0°－W、変化点でN－72.7°－W、変化点でN－23.2°－W、変化点でN－0.5°－W、変化点でN－13.4°－E、変化点でN－28.4°－E、変化点でN－50.5°－E、変化点でN－72.9°－E、変化点でN－84.3°－Eを指向する。

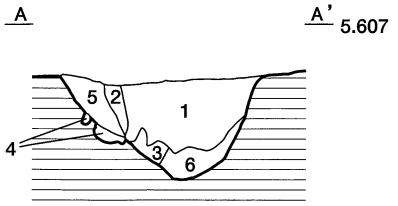
断面形状は浅いU字形および上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で55㎝ある。覆土はA－A’は6層、B－B’は5層、C－C’は8層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10

YR　2/1）土層、2 層はにぶい黄褐色（10YR　5/4）土層、3 層は黒褐色（10YR　3/2）土層、4 層は黒色（10YR　2/1）土とにぶい黄褐色（10YR　5/4）土が混じった層、5 層・6 層は黒色（10YR　2/1）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の 1 層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、2 層はにぶい黄褐色（10YR　5/4）土層、3 層は黒色（10YR　2/1）土層、4 層は 2 層と 3 層が混じった層で、5 層はにぶい黄褐色（10YR　5/4）土層である。断面Ｃ－Ｃ’の 1 層・2 層は黒色（10YR　2/1）土層、3 層はにぶい黄褐色（10YR　5/3）土層、4 層は黒色（10YR　2/1）土層、5 層は褐灰色（10YR　4/1）土層、6 層は黒色（10YR　2/1）土層、7 層・8 層はにぶい黄褐色（10YR　5/4）土層である。

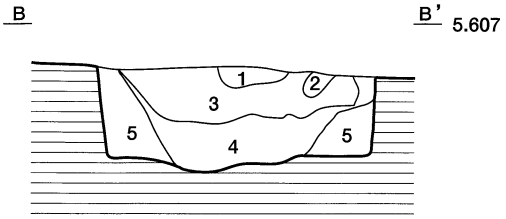
遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部片が 5 点、甕の体部片が15点、台付甕の脚部片が 6 点、弥生土器の体部片が 9 点の合計35点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の甕の口縁部の破片 1 点を図示した。



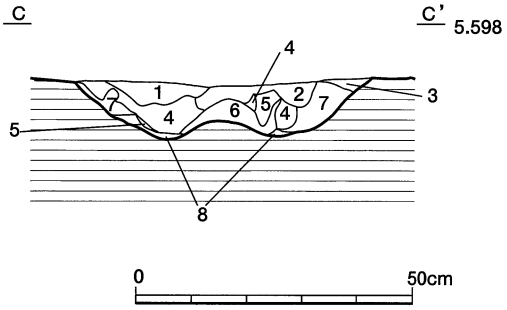
第37図　3号周溝墓の平面・断面図



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにややあり。
　　10YR5/4　にぶい黄褐色土（1～5mm大）が5％ほど混じる。
2　10YR3/2　黒褐色　粘性ややあり、締まりあまりなし。
3　10YR2/1　黒色土が50％ほどと、10YR5/4　にぶい黄褐色土が50％ほど混じる。
4　10YR5/4　にぶい黄褐色土が50％ほど、10Y3/2　黒褐色土が30％ほど、10YR4/6　褐色土が15％ほど、10YR2/1　黒色土が5％ほどがまだらに混じる。
5　10YR2/1　黒色土が70％ほど、10YR5/4　にぶい黄褐色土が30％ほど混じる。
6　10YR2/1　黒色土が90％ほど、10YR5/4　にぶい黄褐色土が10％ほど混じる。



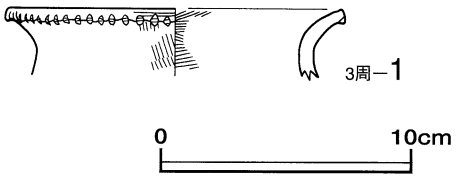
1　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR5/4　にぶい黄褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10YR2/1　黒色土（1～2mm大）が3％ほど混入するが、境界は不明瞭。
3　10YR2/1　黒色　1層より暗い。粘性・締まりともにやや強い。
　　10YR5/4　にぶい黄褐色土（1～3mm大）が5％ほど混じる。
4　2層と3層が50％ほど混じる。
5　10YR5/4　にぶい黄褐色　粘性・締まりともにやや強い。



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR2/1　黒色　10YR5/4　にぶい黄褐色土（1～2mm大）が5％ほど混じる。
3　10YR5/3　にぶい黄褐色　粘性あまりなく、締まりやや強い。
4　10YR2/1　黒色土が70％ほどと、10YR5/4　にぶい黄褐色土が30％ほど混じる。
5　10YR4/1　褐灰色　粘性・締まりともにやや弱い。
6　10YR2/1　黒色土が50％ほどと、10YR5/4　にぶい黄褐色土が50％ほど混じる。
7　10YR5/4　にぶい黄褐色土が70％ほどと、10YR2/1　黒色土が30％ほど混じる。
8　10YR5/4　にぶい黄褐色土が80％ほどと、7層が20％ほど混じる。

第38図　3号周溝墓の断面図

遺物　第39図の**1**は甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、横位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位と斜位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、白色粒を含んでいる。

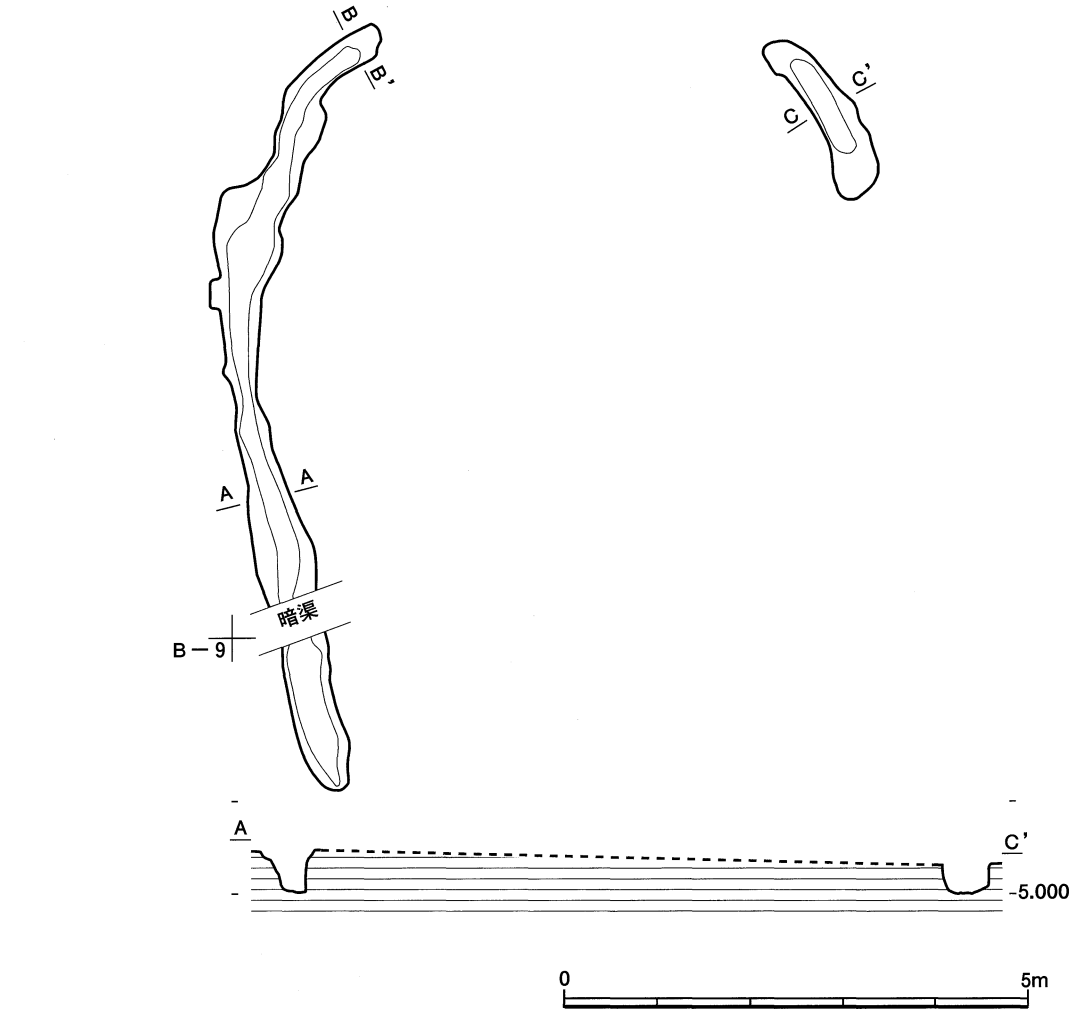


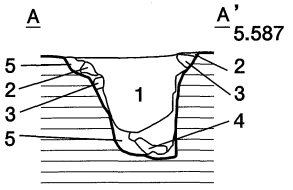
第39図　3号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

4号周溝墓

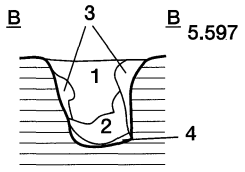
遺構　4号周溝墓はC－8・9グリッドに位置し、北部と東部から南部を欠く円形周溝墓と考えられる。規模は溝幅を含め、縦軸推定10.01m、横軸推定7.00mを測る。外郭の形状は南北を長軸とする楕円形と思われる。

溝の規模は北東部の溝の長さが1.98m、幅が0.22～0.76m、西部の溝の長さが8.93m、幅は0.37～0.52mである。南北軸のN値方位は西部の溝で変化点が1箇所認められる。変化点でN－11.5°－Wを指向する。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で33cmある。覆土はA－A'は5層、B－B'は4層、C－C'は5層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層、2層は黒褐色（10YR　3/2）土層、3層は黒色（7.5YR　2/1）土層、4層・5層は黒色（10YR　2/1）土層である。断面B－B'の1層・2層・3層は黒色（10YR　2/1）土層、4層はにぶい黄褐色（10YR　5/4）土層である。断面C－C'の1層・2層・3層は黒色（10YR　2/1）土層、4層は黒色（10YR　2/1）土と黄橙色

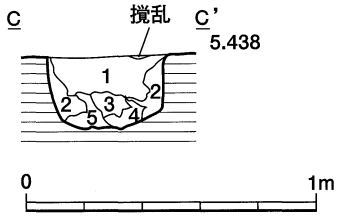




1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR3/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
3　7.5YR2/1 黒色　粘性・締まりともにやや強い。
4　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y5/4　黄褐色　（粘性かなり強く、締まりやや弱い）が７％ほど混じる。
5　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y5/4　黄褐色土（粘性かなり強く、締まりやや弱い）が50％ほど混じる。



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト岩細粒（1mm大以下）が１％以下で混じる。
2　10YR2/1　黒色土が90％ほどと10YR5/4　にぶい黄褐色土が10％ほどで混じる。
　10YR4/6　褐色　シルト岩細粒（1mm以下）が１％ほど混じる。
3　10YR2/1　黒色土が60％ほどと10YR5/4　にぶい黄褐色土が40％ほどで混じる。
4　10YR5/4　にぶい黄褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　10YR2/1　黒色土が５％ほど、10YR4/6　褐色土が２％ほど混じる。



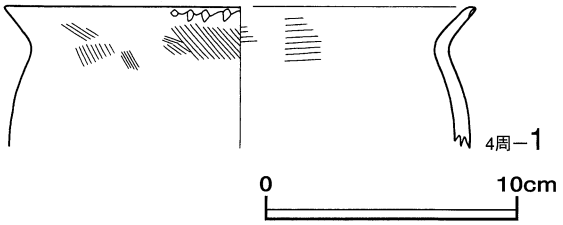
1　10YR2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10YR 5/3 にぶい黄褐色　シルト岩細粒の直径３mm大以下
　（殆どが直径1mm大以下）が１％ほど混じる。
2　10YR2/1　黒色土が80％ほどと10YR7/8　黄橙色土が20％ほどで混じる。
3　10YR2/1　黒色土が70％ほどと10YR7/8　黄橙色土が30％ほどで混じる。
4　10YR2/1　黒色土が50％ほどと10YR7/8　黄橙色土が50％ほどで混じる。
5　10YR7/8　黄橙色土が70％ほどと10YR2/1　黒色土が30％ほどで混じる。
　いずれも粘性かなり強く、締まりやや強い。

第40図　4号周溝墓の平面・断面図

（10YR　7/8）土が混じった土層、5層は黄橙色（10YR　7/8）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部片が3点、体部片が88点の合計91点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の甕の口縁部の破片1点を図示した。

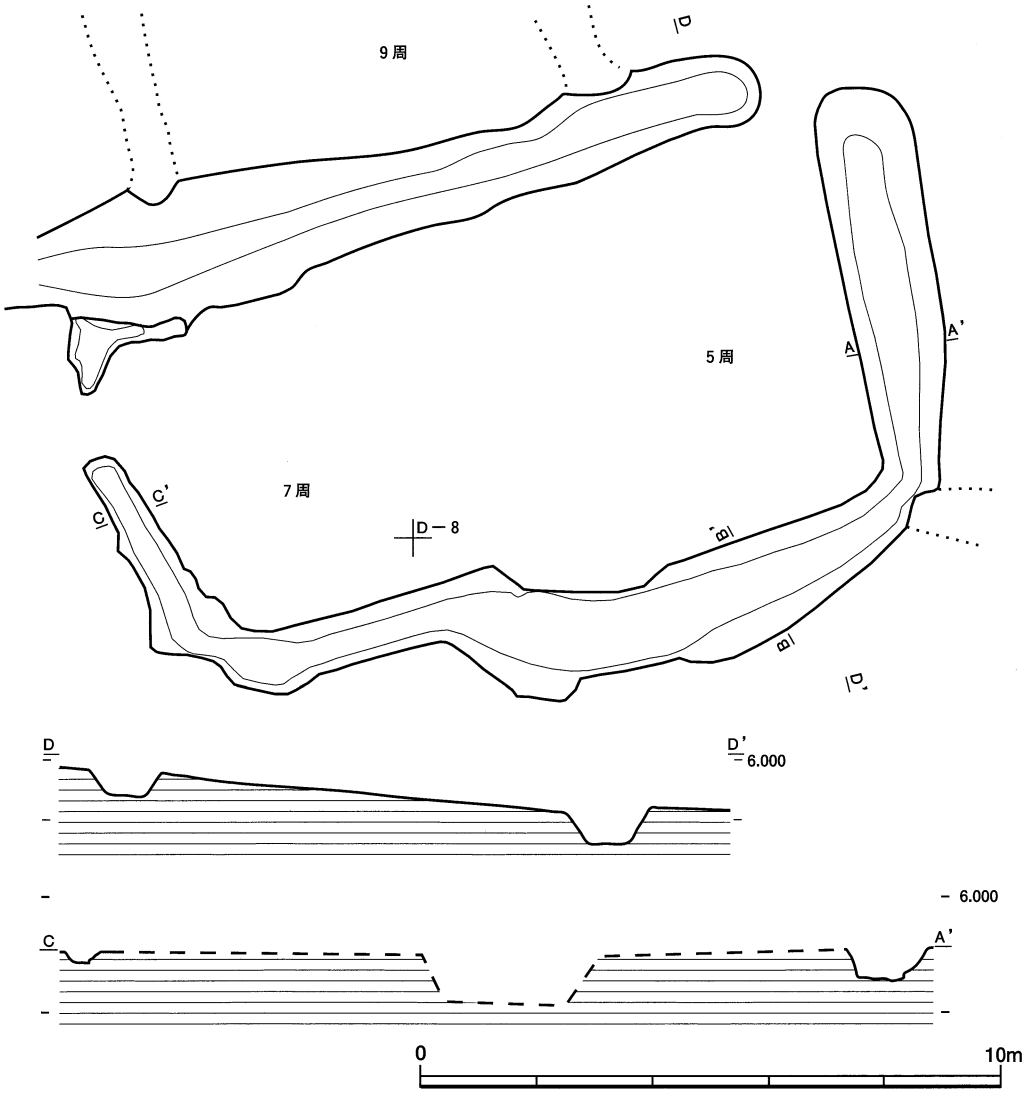
遺物　第41図の**1**は甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は粗く、灰色・黒色粒と礫（3㎜大）を含んでいる。



第41図　4号周溝墓から出土した弥生土器の実測

5・7号周溝墓

遺構　5・7号周溝墓はC－7・8、D－7・8グリッドに位置し、中央部を後世のU字溝で分断されていたため別々の番号を付しているが、8号周溝墓と9号周溝墓の南溝と重複関係にある横長の方形周溝墓と考えられる。南東部の角は12号周溝墓南溝の西端部を切っている。遺構は北東部と北西部に陸橋部を有し、幅は北東の陸橋部が0.94m、北西の陸橋部が1.10mの間隔で開放されている。南溝の中央付近は後世の排水溝（コンクリート製のU字溝）により、大部分が削り取られている。



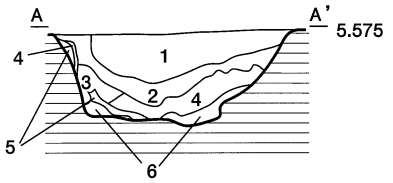
第42図　5・7号周溝墓の平面・断面図

規模は溝幅を含め、縦軸推定10.84m、横軸推定15.06mを測り、外郭の形状は横長の方形を呈する。

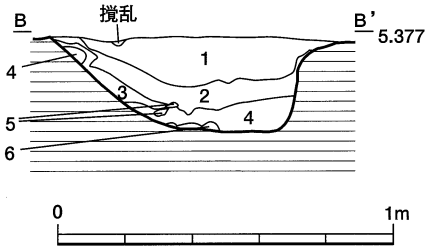
溝の規模は北溝の長さが11.98m、幅が0.71～1.74m、N値方位は変化点が4箇所、屈曲点が1箇所認められる。西端から屈曲点でN－71.0°－E、変化点でN－62.1°－E、変化点でN－68.2°－E、変化点でN－80.9°－Eを指向する。西溝の内角はおよそ100.4°で接している。東溝の長さが6.97m、幅が0.98～1.82m、N値方位は変化点が1箇所認められる。北端からN－34.1°－W、変化点でN－8.8°－Wを指向する。北溝との内角はおよそ82.2°である。南溝の長さが13.43m、幅が0.98～2.01m、N値方位は変化点が6箇所、屈曲点が1箇所認められる。東溝との屈曲点からN－35.4°－E、変化点でN－65.9°－E、変化点でN－82.2°－E、変化点でN－79.0°－W、変化点でN－74.9°－W、変化点でN－57.4°－W、変化点でN－86.7°－Wを指向する。東溝との内角はおよそ79.2°である。西溝の長さが5.14m、幅が0.61～1.39m、N値方位は屈曲点が1箇所認められる。南溝との屈曲点からN－27.0°－W、長さ1.10mの陸橋が在り、N－15.8°－Eを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で80cmある。

覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A'は6層、B－B'は6層、C－C'は5層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層・3層は黒色（2.5Y　2/1）土層、4層は黒色（5Y　2/1）土層、5層はオリーブ黒色（7.5Y　3/1）土層、6層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。断面B－B'の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は黒色（10YR　2/1）土層、3層は黒褐色（2.5Y 3/2）土層、4層は灰オリーブ色（7.5Y 5/2）、5層は黒色（5Y 2/1）土層、6層はにぶい黄色（2.5GY 6/1）土が混じった土層である。断面C－C'の1層は黒褐色（10YR　3/3）土層、2層は黒色（7.5YR 1.7/1）土層、3層は黒色（7.5YR　2/1）土層、4層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層、5層は灰オリーブ色（5Y　5/2）土層である。

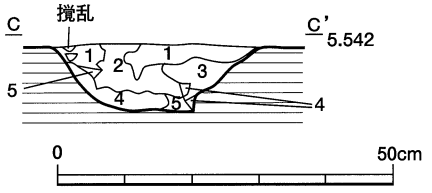
遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部片が1点、体部片が39点、平底の底部片が1点の合計41点が出土している。その内、図化が可能な弥生土器の壺の底部の破片1点と台付甕の体部下半から底部にかけての破片を図示した。



1　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/8　明黄褐色　シルト岩細粒（直径3mm大）と
　10YR6/8　明黄褐色　シルト岩細粒（直径1mm大）が3％ほど混じる。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y5/3　灰オリーブ色と2.5Y5/4　黄褐色のシルト岩細粒が1％ほど、
　7.5Y4/2　灰オリーブ色が斑状で2％ほど混入。
3　2.5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y5/3　灰オリーブ色と2.5Y5/4　黄褐色のシルト岩細粒が3％ほど混じる。
4　5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　7.5Y4/2が7％ほど斑状で混入。粘性かなり強く、締まり弱い。
5　7.5Y3/1　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まり弱い。
　7.5Y4/2　灰オリーブ色と2.5Y3/1　黒褐色が斑状で混入。
6　2.5Y3/2　黒褐色　粘性やや強く、締まりかなり強い。
　7.5Y4/2　灰オリーブ色と2.5Y3/1　黒褐色が斑状で混入。

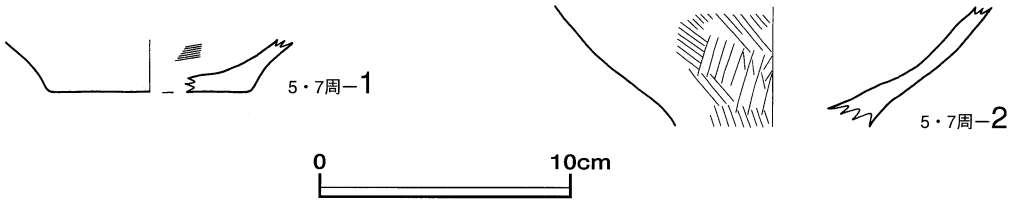


1　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10YR6/8　明黄褐色　（直径3mm）・5Y4/6　オリーブ黄色（直径1～2mm）
　2.5Y5/6　黄褐色　（直径2～3mm）の粒子が2％ほど混じる。
2　10YR2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5Y5/2　灰オリーブ色土（粘性かなり強く、締まりやや弱い）
　が3％ほど混じる。
3　2.5Y3/2　黒褐色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5Y5/2　灰オリーブ色土（粘性かなり強く、締まりやや弱い）が10％ほど混じる。
4　7.5Y5/2　灰オリーブ色　粘性やや強く、締まりやや弱い。
5　5Y2/1　黒色が40％ほど、2.5Y4/6　にぶい黄色が30％ほど、
　2.5GY6/1　オリーブ灰色が30％ほどで混じる。
6　2.5Y4/6　にぶい黄色と2.5GY6/1　オリーブ灰色が混じる。



1　10YR3/3　暗褐色　粘性やや強く、締まり弱い。
　10YR4/6　褐色　3mm大が3％ほどが斑状に混じる。境界は不明瞭。
2　7.5YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　10YR7/4　にぶい黄橙色土が1％ほど混じる。
3　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
4　5Y4/2　灰オリーブ色であるが、5Y5/2　灰オリーブ色土が50％ほどと、
　10YR5/8　黄褐色土が40％ほどと、7.5YR2/1　黒色土が10％ほど混じる。
5　2.5Y3/1　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。

第43図　5・7号周溝墓の溝の断面図



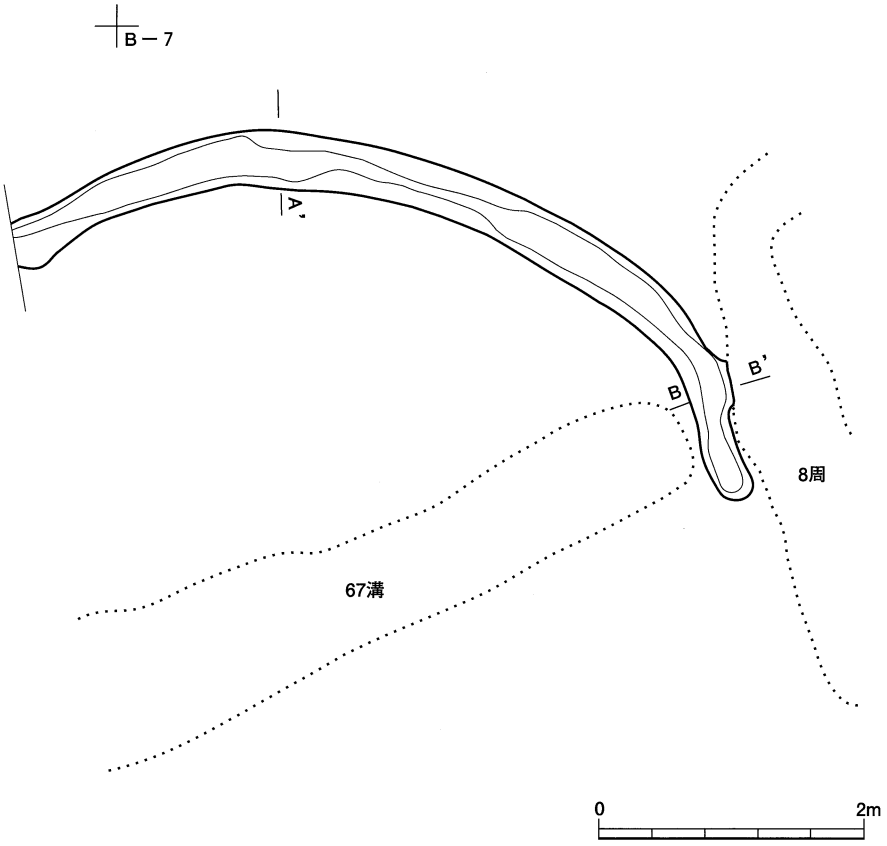
第44図　5・7号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

遺物　第44図の**1**は壺形土器の底部の破片で、平底の底部から外反して立ち上がっている。外面は摩耗のため、調整方法については不明瞭である。内面は横位と斜位のハケ目痕がわずかに残るが、摩耗している。胎土はやや粗く、白色・灰色・茶色粒と多くの小礫（２㎜大）を含んでいる。　**2**は台付甕の体部下半から底部にかけての破片で、脚の接合部から体部下半にかけて内湾しながらて立ち上がっている。外面は斜位のハケ目痕が残り、内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色・赤色粒と小礫（２㎜大）を含んでいる。

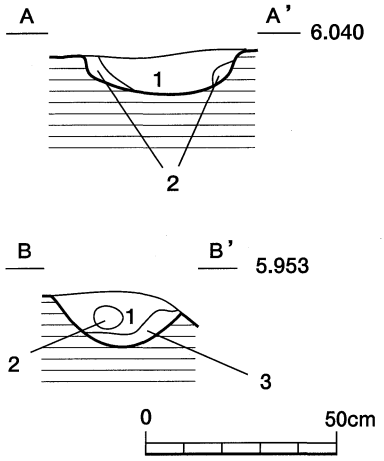
６号周溝墓

遺構　６号周溝墓はＡ－7・Ｂ－7グリッドの北部に位置し、東端部は８号周溝墓の西溝に切られ、西端部は未調査地区のため確認できなかったが、円形周溝墓の北部分と考えられる。規模は溝幅を含め、推定直径7.22m、推定面積40.9㎡を測り、外郭の形状は円形を呈する。

溝の規模は長さが6.92m、幅は0.24～0.44mである。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で74㎝ある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’・Ｂ－Ｂ’ともに２層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、２層はオリーブ黒色（7.5Y　3/2）である。断面Ｂ－Ｂ’の１層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、２層はオリーブ黒色（7.5Y　3/1）土層、３層はオリーブ黒色（5Y　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。



第45図　6号周溝墓の平面図



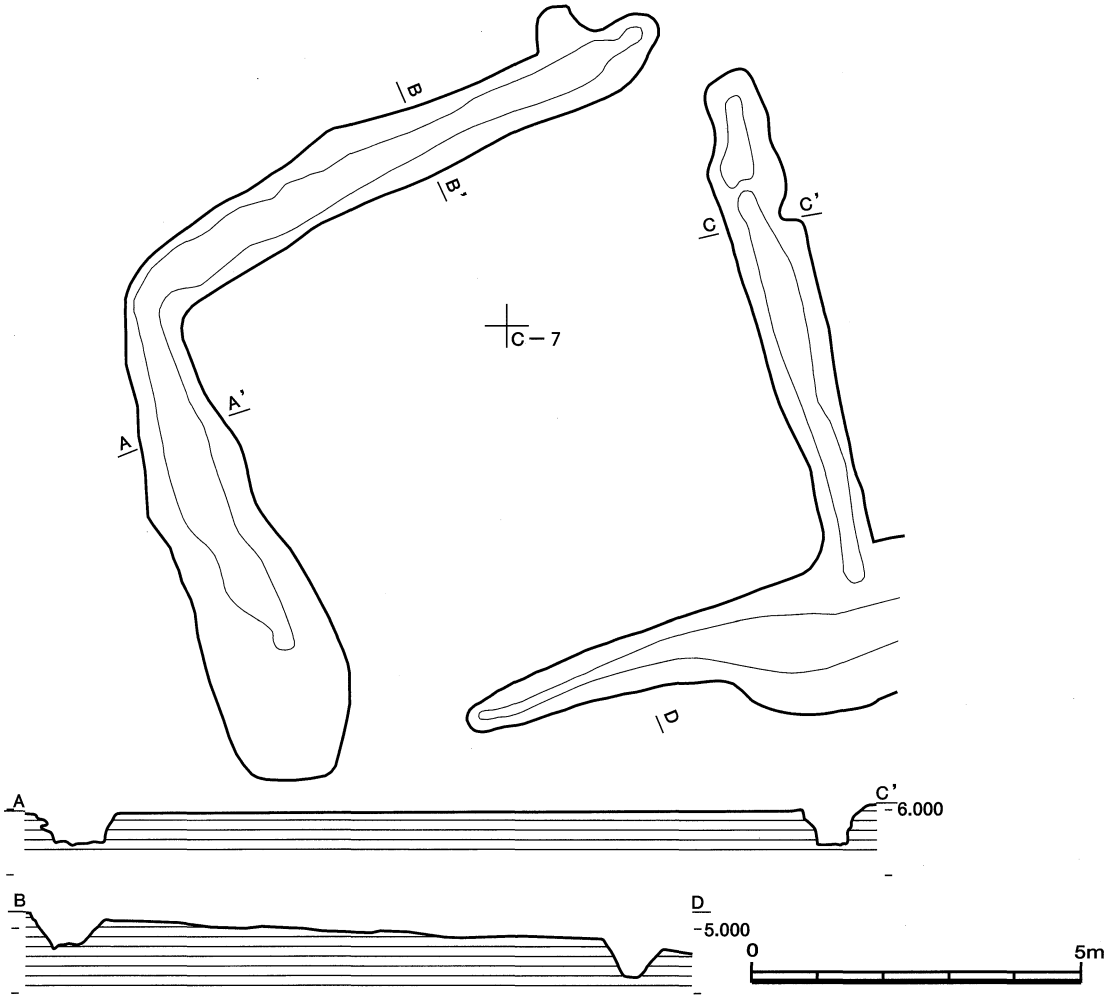
1　7.5YR1.7/1　黒色　粘性非常に強く、締まりやや強い。
2　7.5Y3/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　1層がわずかに混じる。

1　7.5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
2　7.5Y3/1　オリーブ黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　(締まりは1層より強い)
3　5Y2/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。

第46図　6号周溝墓の断面図

8号周溝墓

遺構　8号周溝墓はB－7・8グリッドとC－7・8グリッドに位置し、東溝は9号周溝墓の西溝と共有し、南溝は9号周溝墓の南溝と一帯となっているが方形周溝墓と考えられる。北東部と南西部に陸橋部を有し、陸橋部の幅は北東部が1.01m、南西部が1.81mの間隔で開放されている。



第47図　8号周溝墓の平面・断面図

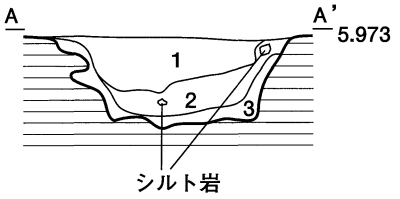
規模は溝幅を含め、縦軸10.42m、横軸11.01mを測り、外郭の形状は方形を呈する。

溝の規模は北・西溝の長さが16.94m、幅が0.64～1.33m、東・南溝の長さが14.41m、幅が0.90～2.07mである。

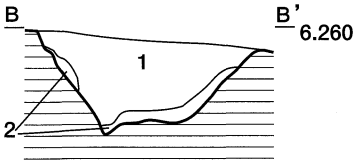
北・西溝の東西軸のN値方位は変化点が4箇所、屈曲点が1箇所、東・南溝で変化点が6箇所、屈曲点が1箇所認められる。北溝の北東端からN－63.4°－E、変化点でN－60.7°－E、屈曲点でN－9.5°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は99.4°で屈曲し、変化点でN－17.2°－W、変化点でN－29.6°－W、変化点でN－17.6°－Wを指向する。東・南溝の北東端からN－9.8°－W、変化点でN－18.8°－W、変化点でN－13.3°－W、変化点でN－20.7°－W、変化点でN－9.3°－W、屈曲点でN－75.0°－E、すなわち南北軸と東西軸の内角は92.5°で屈曲し、変化点でN－66.9°－E、変化点でN－78.0°－Eを指向する。

断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で68cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A'は3層、B－B'は2層、C－C'は2層で構成される。断面A－A'の1層・2層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、3層は黒色（7.5YR　1.7/1）土と緑灰色（10GY　6/1）土が混じった層である。断面B－B'の1層は黒色（7.5YR　2/1）土層、2層は黒色（黒色（2.5Y　2/1）土層である。断面C－C'の1層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、2層は黒色（黒色（2.5Y　2/1）土層である。

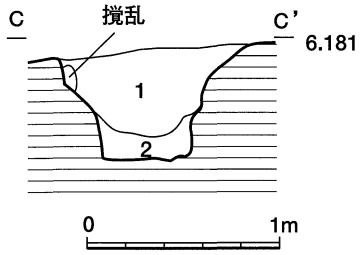
遺物は覆土から弥生土器の壺が1点、壺の底部片が1点、甕の口縁部から体部下半にかけての破片が1点の合計3点が出土しており、その3点を図示した。



1　7.5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5Y5/4　オリーブ色　直径10mm大、2.5Y6/8　明黄褐色　直径3mm大、
　2.5Y6/2　灰黄色　直径7mm大が1%以下ほど混じる。
2　7.5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10GY6/1　緑灰色のシルト岩細粒（殆どが直径1mm大以下）が7%ほど混じる。
3　7.5YR1.7/1　黒色と10GY6/1　緑灰色が混じる。境界は不明瞭。



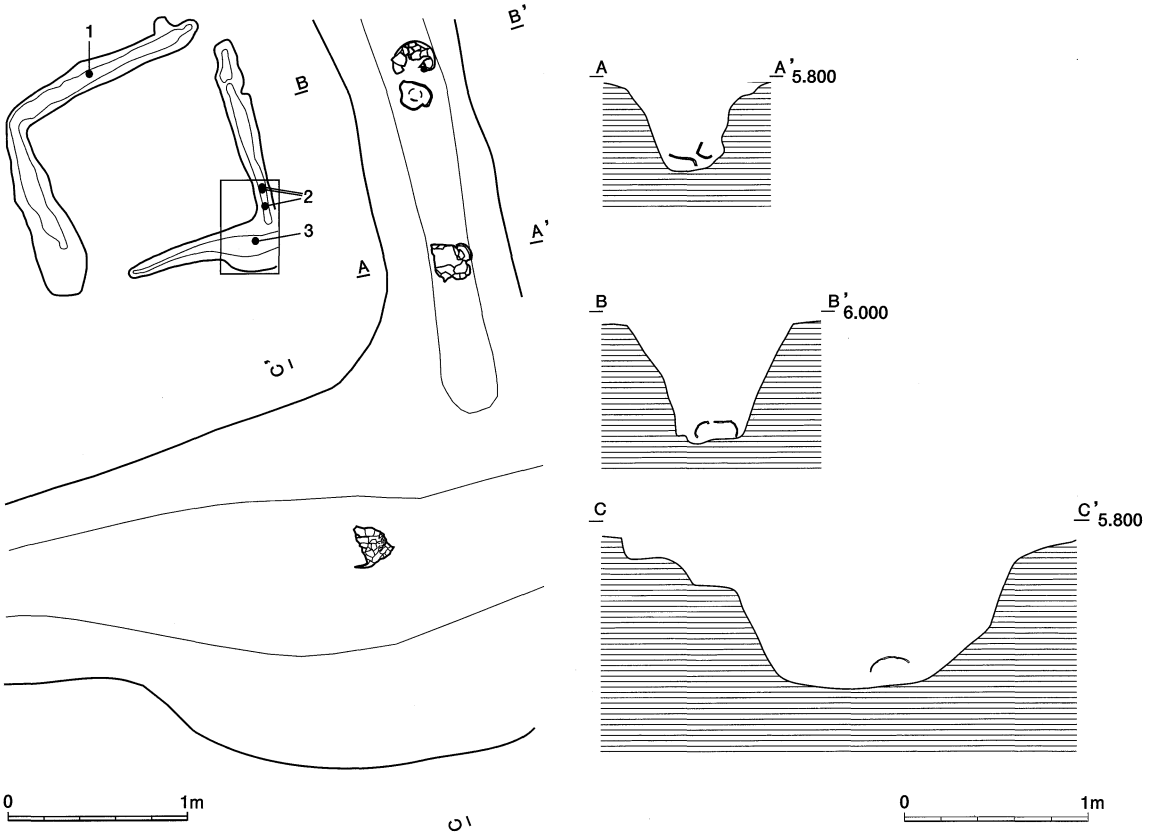
1　7.5YR2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y5/2　灰オリーブ色　直径40mm大の粒子が2%ほど混じる。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。



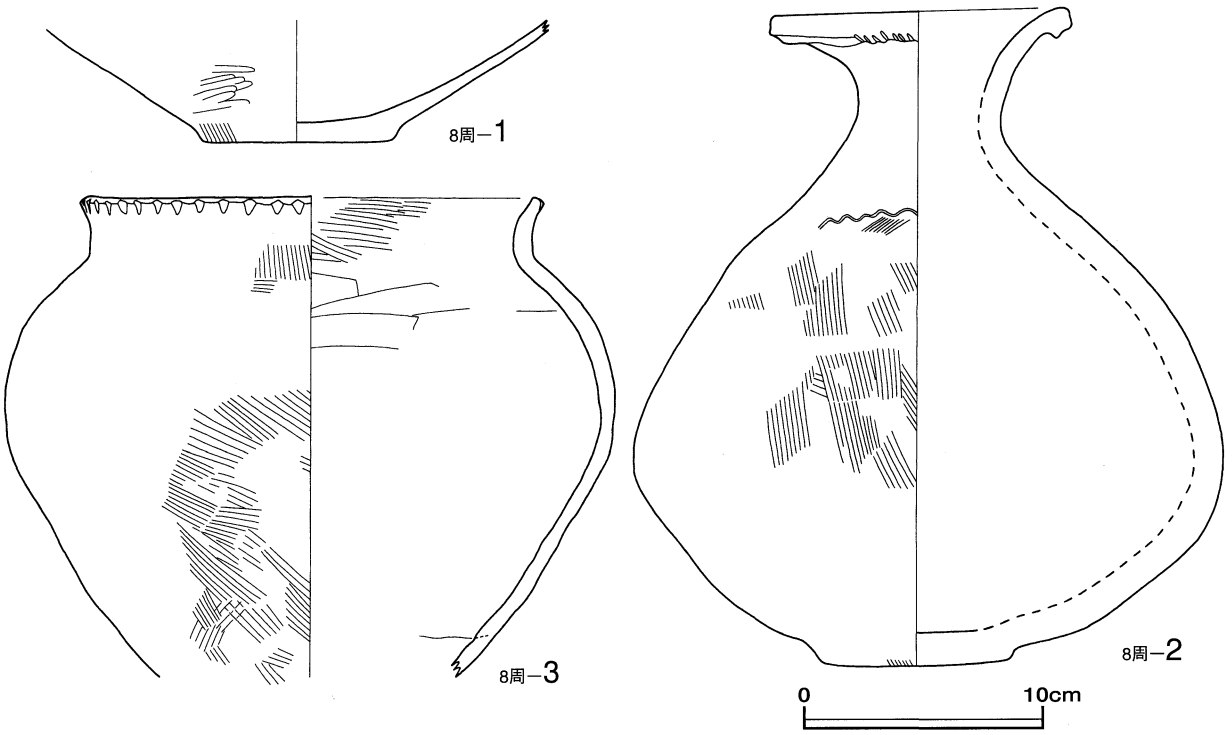
1　7.5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10YR4/6　にぶい黄褐色　直径30mm大、1～2mm大が5%ほど混じる。
2　2.5Y2/1　黒色が50%ほどと、5GY6/1　オリーブ灰色が45%ほどと
　10YR6/8　明黄褐色が5%ほどが斑状で混じる。

第48図　8号周溝墓の溝の断面図

遺物　第50図の**1**は壺の底部から体部下半にかけての破片で、平底の底部から大きく外反して立ち上がっている。外面は底部に斜位と縦位のハケ目痕が残り、体部下半にヘラ磨き痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色・赤色粒を多く含んでいる。　**2**は壺で、底部は平底で、体部下半が下膨れする無花果形を呈している。頸部から口縁部は外反し、口縁端部に段をつけている。外面は口縁部に刻み目痕が残り、体部下半に波状と斜行縄紋を思わせる刺突紋が残っているが、摩耗している。体部中央と底部に斜位と縦位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、白色・灰色・透明粒と多くの小礫（2㎜大）を含んでいる。**3**は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部下半から体部上半は大きく外反し、体部中央から頸部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、頸部には縦位と



第49図　8号周溝墓の遺物出土状況図

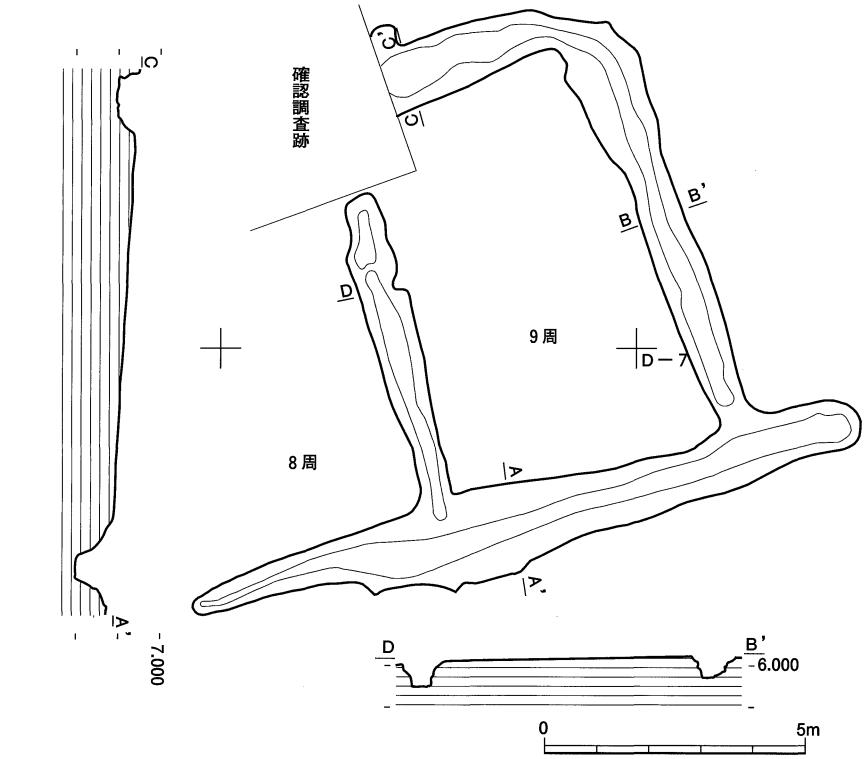


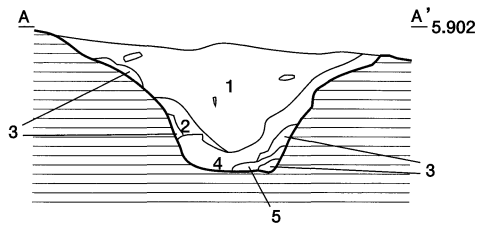
第50図　8号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

横位のハケ目痕が残り、体部には斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残り、体部には板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、長石・石英・黒色・茶色粒と少量の礫（4㎜大）を含んでいる。

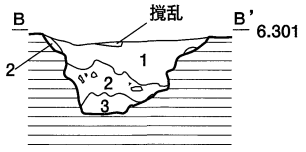
9号周溝墓

遺構　9号周溝墓はC－6・7グリッド、D－6・7グリッドに位置し、北溝の西端部は確認調査のテストピット跡があり、南溝は8号周溝墓の南溝と一帯となっているが、方形周溝墓と考えられる。

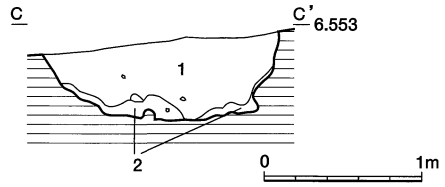




1　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y5/2　灰オリーブ色・2.5Y5/6　黄褐色
　2.5Y4/6　オリーブ褐色・7.5GY5/1　緑灰色・10YR6/8　明黄褐色
　粒子（3mm大）が1％ほど混じる。
2　2.5GY2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y5/2　灰オリーブ色・2.5Y5/6　黄褐色
　2.5Y4/6　オリーブ褐色・7.5GY5/1　緑灰色・10YR6/8　明黄褐色
　粒子（3mm大）が1％ほど混じる。
3　2.5Y3/1　黒褐色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
4　5Y2/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10YR6/8　明黄褐色土と10YR1.7/1　黒色土が斑状で混じる。
5　5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。



1　10YR1.7/1 黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5GY5/1　オリーブ灰色　粒子（2mm大）が1％ほど混じる。
2　10YR1.7/1 黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5GY5/1　オリーブ灰色　粒子（2mm大）が15％ほど混じる。
3　5Y2/2　オリーブ黒色が50％ほどと、5GY5/1　オリーブ灰色が50％ほど混じる。



1　5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10GY6/1　緑灰色　粒子（直径50mm大以下）が5％ほど混じる。
2　5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10GY6/1　緑灰色　粒子（直径15mm大以下）が2％ほど混じる。

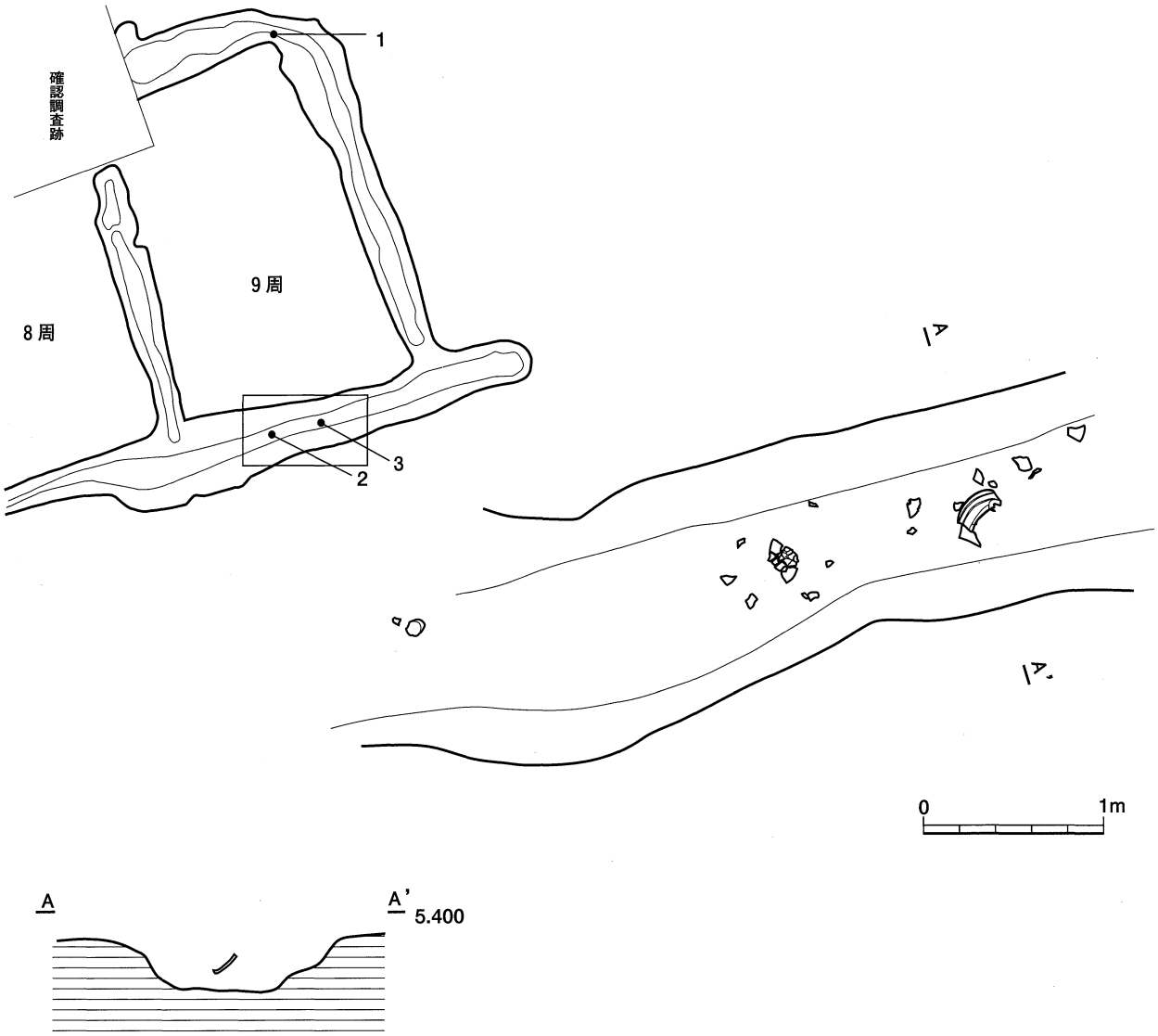
第51図　9号周溝墓の平面・断面図

規模は溝幅を含め、縦軸12.61m、横軸9.19mを測り、外郭の形状は縦長の方形を呈する。

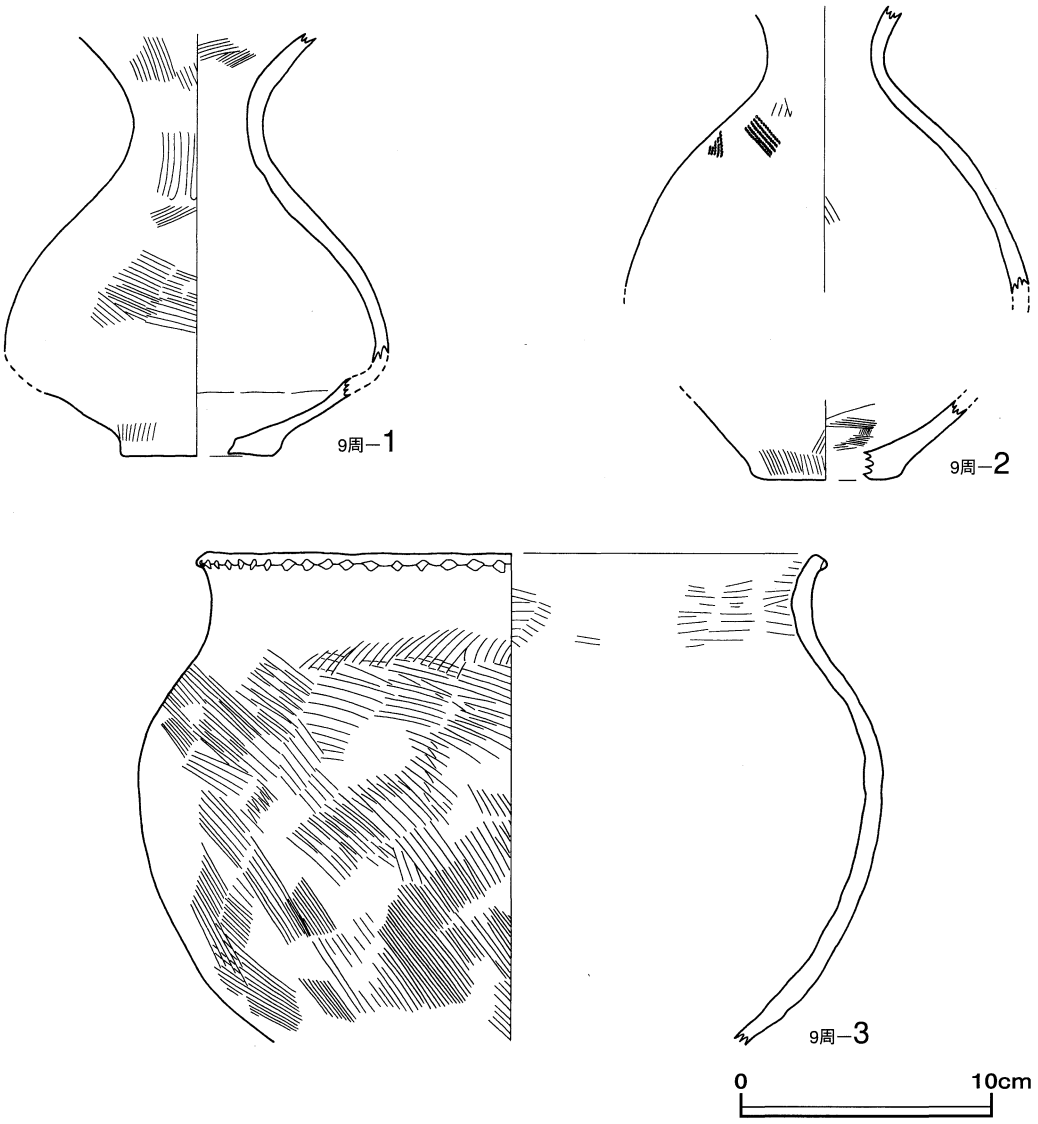
溝の規模は長さが25.52m、幅は0.78～1.87mである。溝の北西から東西軸のN値方位は変化点が10箇所、屈曲点が2箇所認められる。北溝の北西端からN－69.7°－E、変化点でN－78.2°－W、屈曲点でN－58.2°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は87.6°で屈曲し、変化点でN－21.3°－W、変化点でN－18.2°－W、変化点でN－11.8°－W、変化点でN－23.3°－W、変化点でN－20.1°－W、屈曲点でN－61.9°－E、すなわち南北軸と東西軸の内角は87.0°で屈曲し、変化点でN－75.8°－E、変化点でN－71.4°－E、変化点でN－74.5°－E、変化点でN－87.0°－Eを指向する。

断面形状は丸底状および上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で56cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A'は5層、B－B'は3層、C－C'は2層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は黒色（2.5GY　2/1）土層、3層は黒褐色（2.5Y 3/1）土層、4層はオリーブ黒色（5Y　2/2）土層、5層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。断面B－B'の1層・2層は黒色（10YR　1.7/1）土層、3層はオリーブ黒色（5Y　2/2）土層である。C－C'の1層・2層は黒色（5YR 1.7/1）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の小型壺が2個体、甕が1個体、小型壺の口縁部片が1点、壺の口縁部片が1点、壺の頸部から体部にかけての破片が13点、台付甕の底部片が1点、壺の底部片が1点の合計20点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の小型壺が2点、甕が2点の計4点を図示した。



第52図　9号周溝墓の遺物出土状況図



第53図　9号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

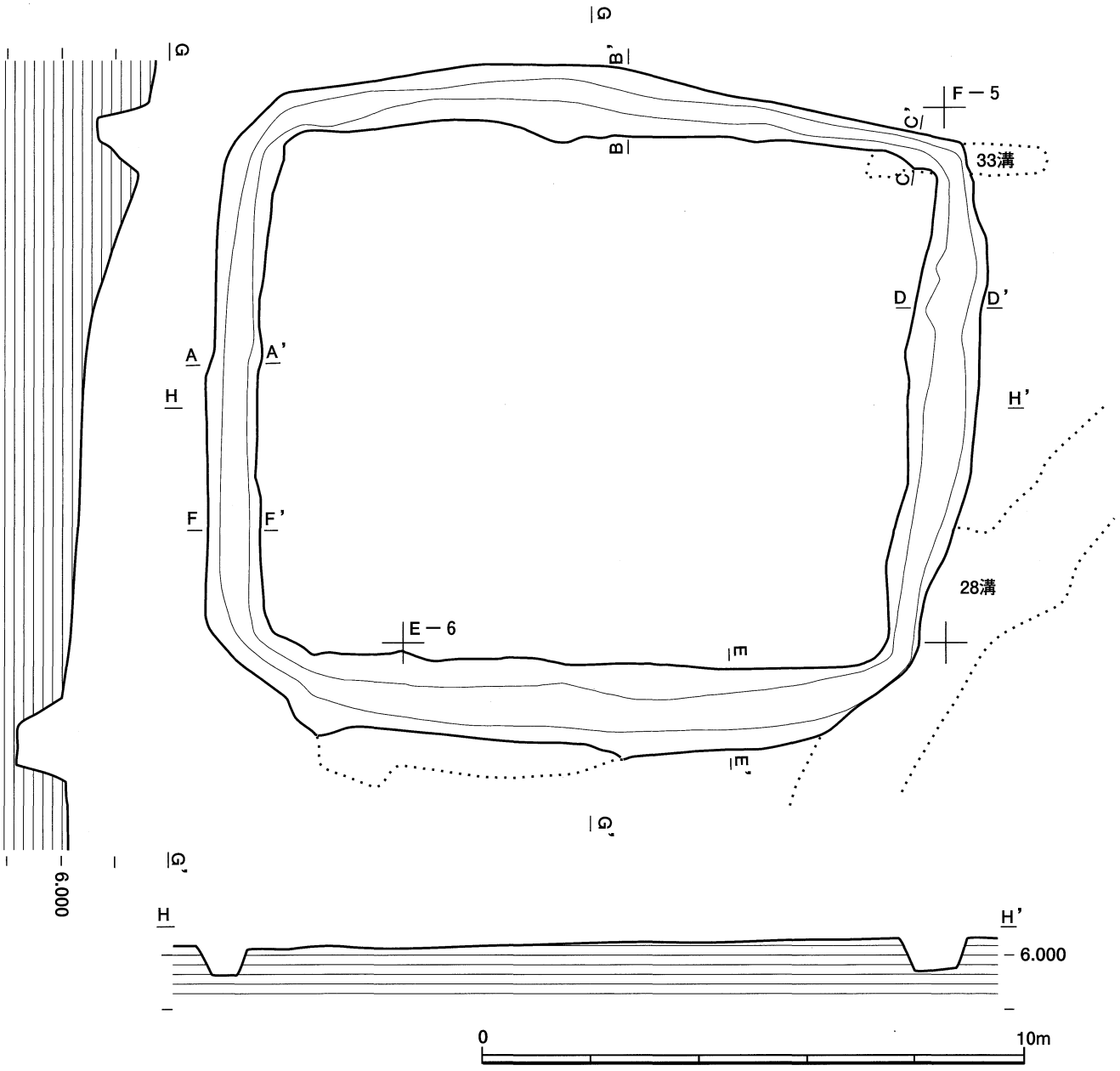
遺物　第53図の**1**は小型壺の頸部から底部にかけての破片で、底部は平底で中央に意図的に空けたと思われる直径1.8cmの穴が空いている。底部から体部下半まで外反し、体部下半から頸部にかけては内湾し、頸部から口縁部は外反している。外面は口縁部と体部と底部に斜位と縦位のハケ目痕が残り、頸部にはヘラ磨き痕が残っている。内面は口縁部に斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、石英・長石・灰色・茶褐色粒と礫（2㎜大）を多く含んでいる。　**2**も小型壺で、体部上半から頸部は内湾し、頸部は外反している。外面は体部に櫛歯状施具による刺突紋が施され、底部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は体部と底部に斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、長石・石英・灰色・黒色粒と礫（2～3㎜大）を含んでいる。　**3**は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部下半から体部中央は外反し、体部中央から頸部は内湾し、頸部から口縁部は外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部は横位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。

11号周溝墓

遺構　11号周溝墓はD－5・6・7グリッド、E－5・6・7グリッド、F－6グリッドに位置し、接している。南溝が12号周溝墓の北溝を切り、溝の北東角は33号溝跡に、南東角は28号溝跡に一部削られているが、方形周溝墓と考えられる。

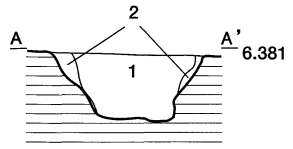
規模は溝幅を含め、縦軸13.01m、横軸14.59mを測り、外郭の形状は方形を呈する。

溝の規模は長さが44.73m、幅は0.48～1.57mである。溝の北西部から東西軸のN値方位は変化点が21箇所、屈曲点が 4 箇所認められる。北溝の北西端からN－78.5°－E、変化点でN－89.7°－W、変化点でN－81.1°－W、変化点でN－86.4°－W、変化点でN－77.5°－W、変化点でN－80.2°－W、変化点でN－72.4°－W、変化点でN－41.9°－W、屈曲点でN－4.3°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は90.7°で屈曲し、変化点でN－8.1°－E、変化点でN－4.0°－E、変化点でN－16.5°－E、変化点でN－6.6°－E、変化点でN－39.4°－E、屈曲点でN－85.8°－E、すなわち南北軸と東西軸の内角は85.8°で屈曲し、変化点でN－88.1°－W、変化点でN－79.2°－W、変化点でN－61.4°－W、変化点でN－40.6°－W、屈曲点でN－4.8°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は94.0°で屈曲し、変化点でN－1.2°－E、変化点でN－1.7°－E、変化点でN－5.1°－E、変化点でN－22.2°－E、変化点でN－45.0°－Eを指向している。すなわち南北軸と東西軸の内角は89.5°で屈曲する。

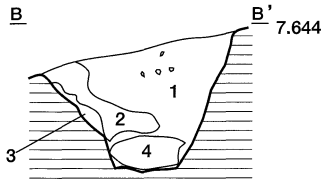


第54図　11号周溝墓の平面・断面図

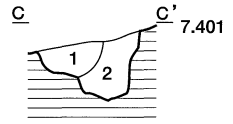
断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で76㎝ある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は２層、Ｂ－Ｂ’は４層、Ｃ－Ｃ’は２層、Ｄ－Ｄ’は２層、Ｅ－Ｅ’は６層、Ｆ－Ｆ’は７層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（10YR　1.7/1）土層、２層は黒色（5YR　1.7/1）



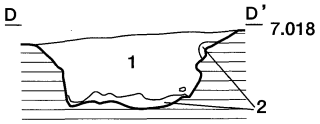
1　10YR1.7/1　黒色土層　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5GY5/1　緑灰色　(直径12mm大)・5Y6/4　オリーブ黄色　(直径２mm大)
　7.5Y4/1　灰色　(直径１mm大)　泥岩粒子が２％ほど混じる。
2　5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5Y5/2　灰オリーブ色　粒子(直径５mm大で、殆どが１mm大以下）が２％ほど混じる。



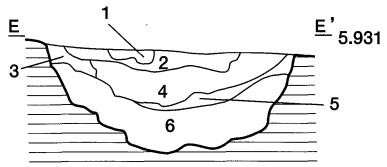
1　10YR2/2 黒褐色土　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5YR3/3　暗褐色土が斑状で混入。境界は不明瞭。
　10YR6/6　明黄褐色　最大径(40×25)mmと直径３mm大の泥岩細粒・
　5YR5/8　明赤褐色　(直径２～３mm大)・2.5Y7/3　浅黄色　(直径１～２mm大)
　粒子が20%ほど混じる。
2　10YR2/1　黒色土　粘性やや強く、締まりかなり強い。
　7.5YR3/3　暗褐色土が斑状で混入。境界は不明瞭。
　10YR6/6　明黄褐色　(直径３mm大）の泥岩細粒・
　5YR5/8　明赤褐色　(直径２～３mm大)・2.5Y7/3　浅黄色　(直径１～２mm大)
　10YR6/6　明黄褐色　最大径(30×40mm）大　粒子が２％ほど混じる。
3　2.5Y4/4　オリーブ褐色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　2.5Y7/4　浅黄色のかなり硬いシルト岩。最大径（35×20mm）泥岩粒が５％ほど混じる。
4　5Y2/1　黒色土　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　第１層と酷似。7.5YR3/3　暗褐色土が斑状で混入。境界は不明瞭。
　10YR6/6　明黄褐色　(直径３mm大）の泥岩細粒・5YR5/8　明赤褐色　(直径２～３mm大)
　2.5Y7/3　浅黄色（直径１～２mm大）粒子が１％ほど混じる。



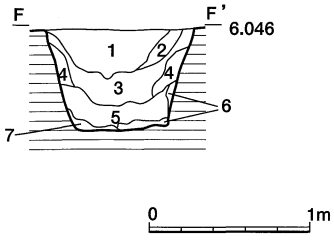
1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/6　明黄褐色・7.5YR6/8　橙色　粒子（直径１～２mm大）が７％ほど混じる。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/6　明黄褐色　(直径１～２mm大)
　7.5YR6/8　橙色　(直径10～25mm大）粒子が20%ほど混じる。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　5Y7/4　浅黄色・5Y8/2　灰白色・7.5YR6/8　橙色
　粒子（殆どが15mm大と２～２mm大）が20%ほど混じる。
2　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　粘性かなり強く、締まりやや弱い。
　2.5Y6/4　にぶい黄褐色　地山の泥岩がかなり多く混じる。



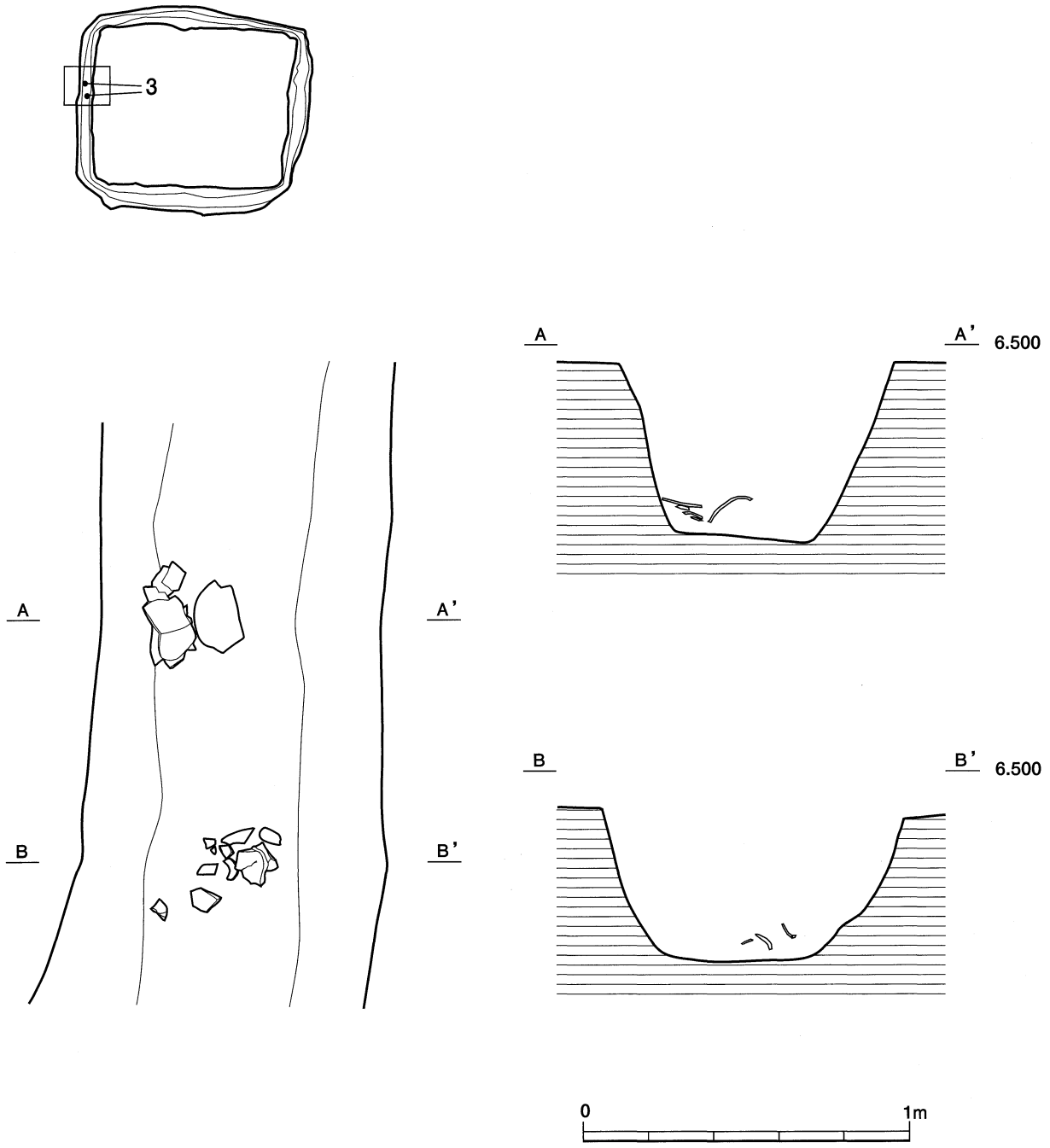
1　5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/6　明黄褐色・7.5Y4/2　灰オリーブ色　粒子（直径１～２mm大）が２％で混じる。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/6　明黄褐色・7.5Y4/2　灰オリーブ色　粒子（直径１～２mm大）が５％で混じる。
3　7.5Y2/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y4/3　暗オリーブ色　(直径８～10mm大）2.5Y4/6　オリーブ褐色　（３～４mm大）
　粒子が３％ほど混じる。
4　7.5Y4/2　灰オリーブ色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　7.5Y6/2　灰オリーブ色土・5Y2/1　黒色土・2.5Y4/6　オリーブ褐色土が混じる。
　10Y4/2　オリーブ灰色　粒子（直径18mm大）が混じる。
5　5Y2/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや弱い。
　2.5Y4/6　オリーブ褐色・10Y4/2　オリーブ灰色　粒子（直径１～２mm大）が１％ほど混じる。
6　10YR1.7/1　黒色　粘性非常に強く、締まりやや強い。
　10Y6/2　オリーブ灰色（直径１mm大）・7.5GY6/1　緑灰色(直径25mm大)粒子が１％ほど混じる。



1　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。10Y4/2　オリーブ灰色(殆どが直径２mm大)
　7.5Y4/3　暗オリーブ色（直径４mm大）・10YR6/2 灰黄褐色（直径２mm大）粒子が３％ほど混じる。
2　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10Y4/2　オリーブ灰色（殆どが直径２mm大）・7.5Y4/3　暗オリーブ色（直径４mm大）
　10YR6/2　灰黄褐色（直径２mm大）・10YR5/8　黄褐色（直径２mm大）粒子が５％ほど混じる。
3　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。１層より明るい。
　10Y5/2　オリーブ灰色土・2.5GY6/1　オリーブ灰色土が25%ほど混じる。
4　2.5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　10Y5/2　オリーブ灰色土・2.5GY6/1　オリーブ灰色土10YR5/8　黄褐色　粒子が25%ほど混じる。
5　10YR1.7/1　黒色　粘性非常に強く、締まりやや強い。
　5Y5/4　オリーブ色　粒子（直径１mm大）が５％ほど混じる。
6　10Y5/1　灰色　粘性非常に強く、締まりやや弱い。水分を多く含む。
7　7.5Y2/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや弱い。

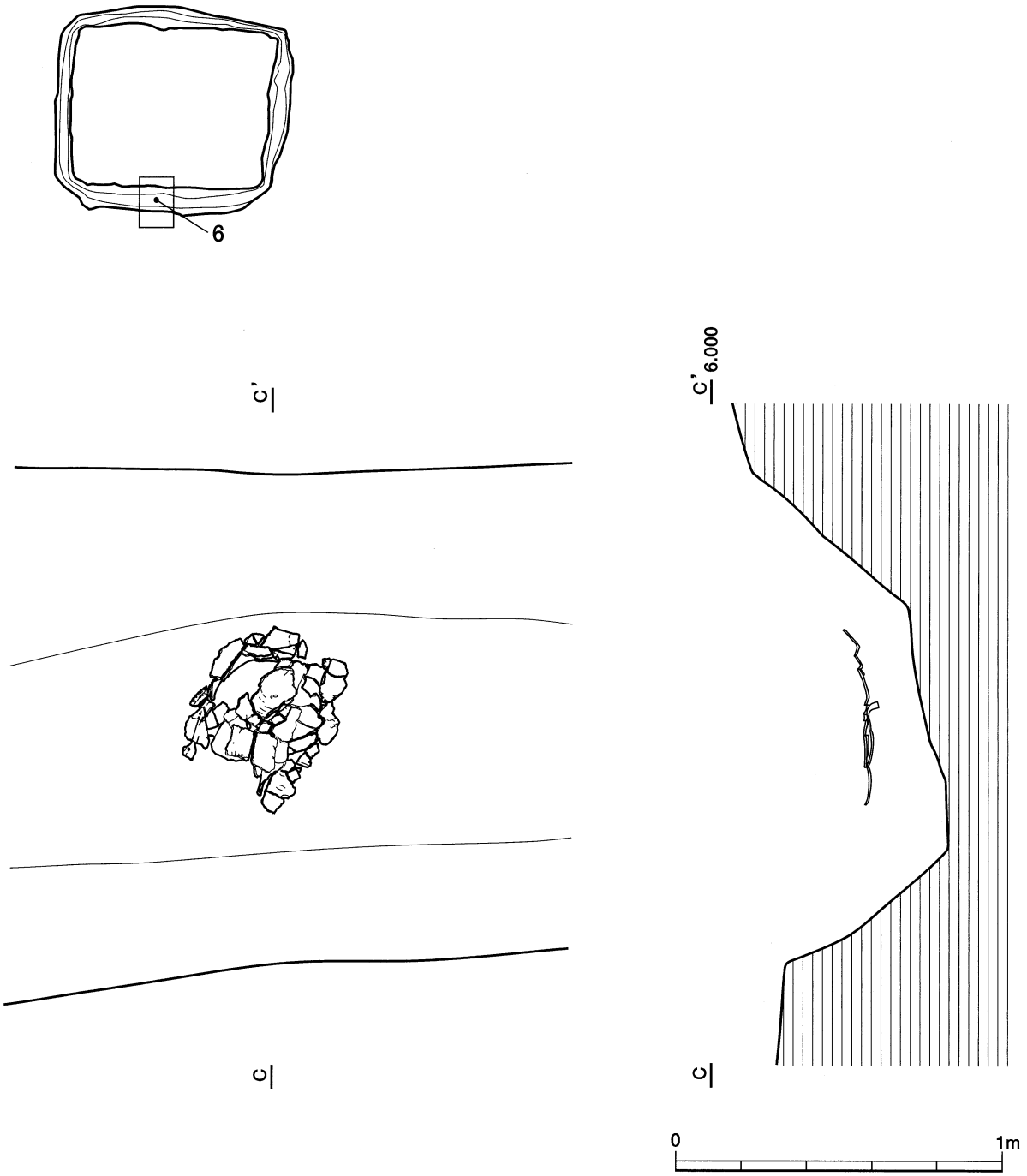
第55図　11号周溝墓の溝の断面図

土層である。断面B－B’の1層は黒褐色（10YR　2/2）土層、2層は黒色（10YR　2/1）土層、3層はオリーブ褐色（2.5Y　4/4）土層、4層は黒色（5Y　2/1）土層である。断面C－C’の1層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2層は暗オリーブ褐色（2.5 Y3/3）土層である。断面D－D’の1層は黒色（2.5Y 2/1）土層、2層は暗オリーブ褐色（2.5Y　3/3）土層である。断面E－E’の1層は黒色（5Y　2/1）土層、2層は黒色（2.5Y　2/1）土層、3層はオリーブ黒色（7.5Y　2/2）土層、4層は灰オリーブ色（7.5Y　4/2）土層、5層オリーブ黒色（5Y　2/2）土層、6層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。断面F－F’の1層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、2層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。断面G－G’の1層・2層・3層は黒色（10YR　1.7/1）土層、4層は黒色（2.5Y　2/1）土層、5層は黒色（10YR 1.7/1）土層、6層は灰色（10Y　5/1）土層、7層はオリーブ黒色（7.5Y　2/2）土層である。

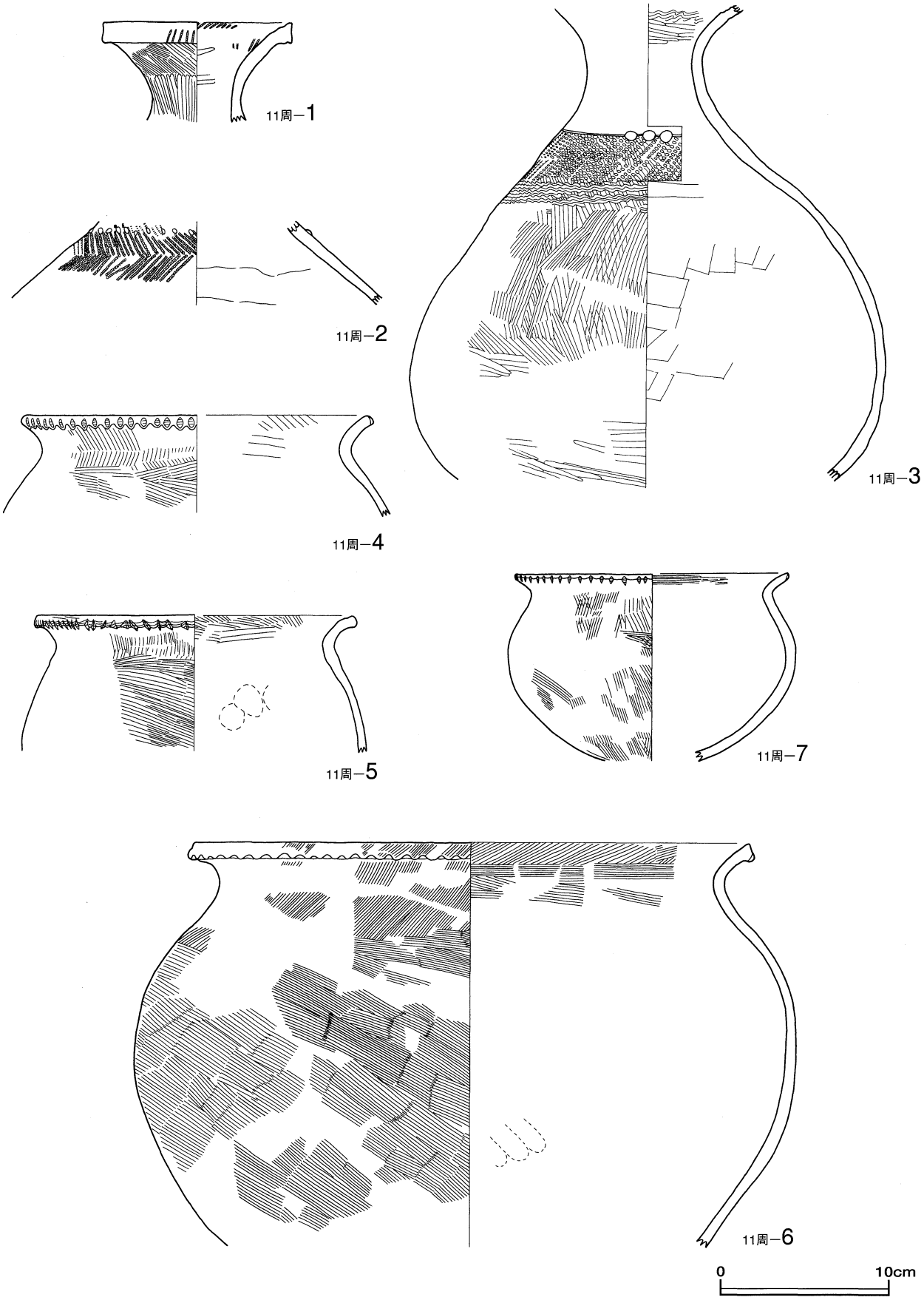


第56図　11号周溝墓の遺物出土状況図（1）

遺物は覆土の下位から弥生土器の壺が１点、口縁部片が４点、肩部片が１点、平底片が１点、甕が１点、口縁部から体部にかけての破片が３点、体部片が50点、台付甕の底部が１点、脚部破片が３点の計65点、覆土の上位から土師器の口縁部片が１点、体部片が７点の計８点、須恵器のつまみ片１点、坏の口縁部片が１点、体部片５点、高台付き底部が１点の計８点の合計81点出土している。その内、図化が可能な壺の口縁部片１点、壺の体部片１点、壺の頸部から体部下半にかけての破片１点、甕の口縁部片１点、甕の口縁部から体部にかけての破片１点、甕の口縁部から体部下半にかけての破片１点、台付甕の口縁部から底部にかけての破片１点の計７点を図示した。



第57図　11号周溝墓の遺物出土状況図（2）



第58図　11号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

遺物　第58図の**1**は弥生土器の壺の口縁部片で、頸部から口縁部にかけて外反している。外面は、口縁部に刺突紋が施され、斜位のハケ目痕が残り、頸部にヘラ磨き痕が残っている。内面は口縁部に刺突紋が施され、頸部にヘラ磨き痕が残っている。胎土は普通で長石・石英・黒色粒を含んでいる。　**2**は壺の体部片で、体部は内傾している。外面は櫛歯状施具による羽状の刺突紋を施した後にやや細長い貼り付け浮紋を一周させていると思われる。内面は摩耗のため調整方法は不明瞭である。胎土は粗く、白色・黒色・石英粒を多く含んでいる。　**3**は壺の頸部から体部下半にかけての破片で、体部は内湾し、頸部から口縁部は外反している。外面は体部上半に波状紋と櫛歯状施具による羽状の刺突紋が施され、3個1組の浮紋が2箇所にあったと思われる。体部の中央は縦位と縦位と斜位のハケ目痕が残り、体部下半はヘラ磨き痕が残っている。内面は口縁部に波状紋とヘラ磨き痕が残り、体部は板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、長石・石英粒を多く含んでいる。　**4**は甕の口縁部片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部上半は縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に斜位と横位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、灰色・白色・赤茶色粒と礫（3㎜大）を多く含んでいる。　**5**は甕の口縁部から体部上半にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、頸部に縦位のハケ目痕が残り、体部に横位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残り、体部に指頭圧痕が残っている。胎土は普通で、白色・黒色・赤色・石英粒を多く含んでいる。　**6**は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反し、端部は波状である。外面は口縁部から体部は斜位と横位のハケ目痕が残り、口縁端部を波状に整えている。内面は口縁部に横位と斜位のハケ目痕が残り、体部に指頭圧痕が残っている。胎土はやや粗く、赤色・白色・灰色・透明粒と小礫（2㎜大）を多く含んでいる。　**7**は台付甕の口縁部から底部にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部は斜位と横位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、灰色・黒色・橙色粒を含んでいる。

12号周溝墓

遺構　12号周溝墓はD－7グリッドとE－7・8グリッドに位置し、北溝のは11号周溝墓の南溝に切られ、東溝はなく、南溝は直交する69号溝跡に切られ、西溝は5号周溝墓の東溝と共有しているが、方形周溝墓と考えられる。

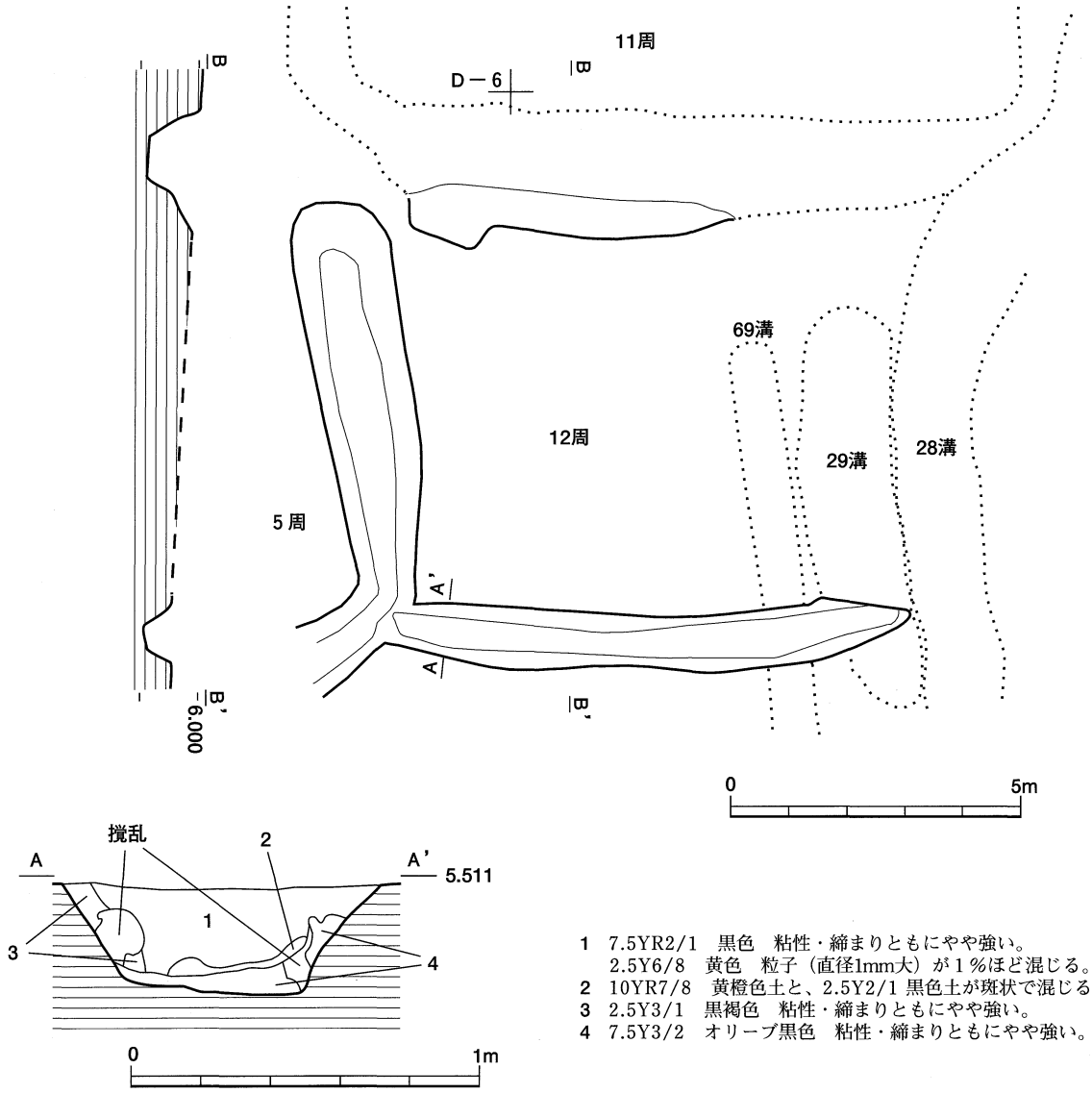
規模は溝幅を含め、縦軸推定9.69m、横軸推定9.71mを測り、外郭の推定形状は方形を呈する。

溝の規模は北溝の残存長が4.71m、残存幅は1.55m、南溝の長さが8.96m、幅は0.77～1.11mである。北溝は北西から南北軸のN値方位は屈曲点が1箇所、南溝は変化点が3箇所認められる。北溝は北西からN－53.1°－E、屈曲点でN－83.3°－W、すなわち南北軸と東西軸の内角は102.3°で屈曲する。南溝の東から変化点でN－76.6°－E、変化点でN－85.7°－W、変化点でN－76.6°－Wを指向し、東西軸と南北軸の内角は108.7°で屈曲する。

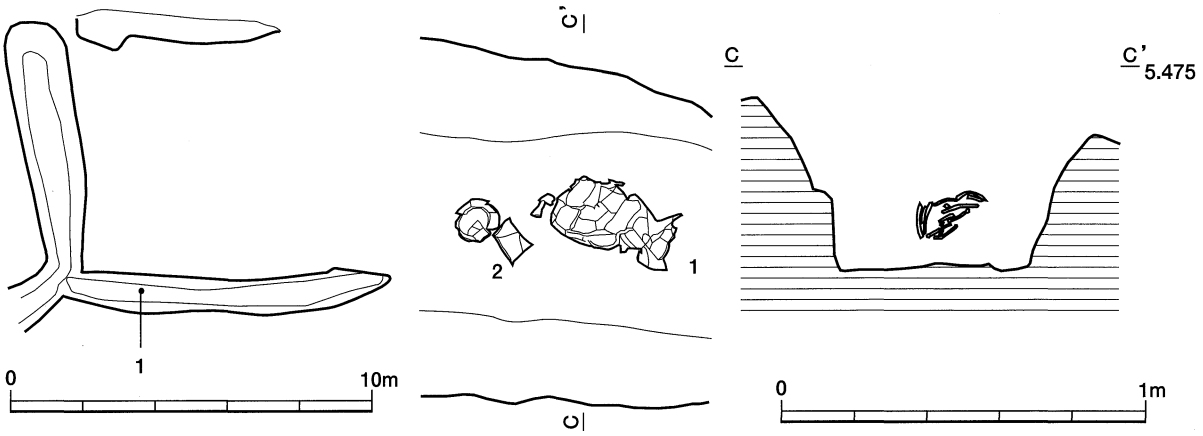
断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で52㎝ある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A'は3層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（7.5YR　2/1）土層、2層は黄橙色（10YR　7/8）土と黒色（2.5Y　2/1）土の混じりあった土層、3層はオリーブ黒色（7.5Y　3/2）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の壺が1点、壺の口縁部片が1点、体部片が34点、底部片が1点の合計37点出土している。その内、図化が可能な壺の破片2点を図示した。

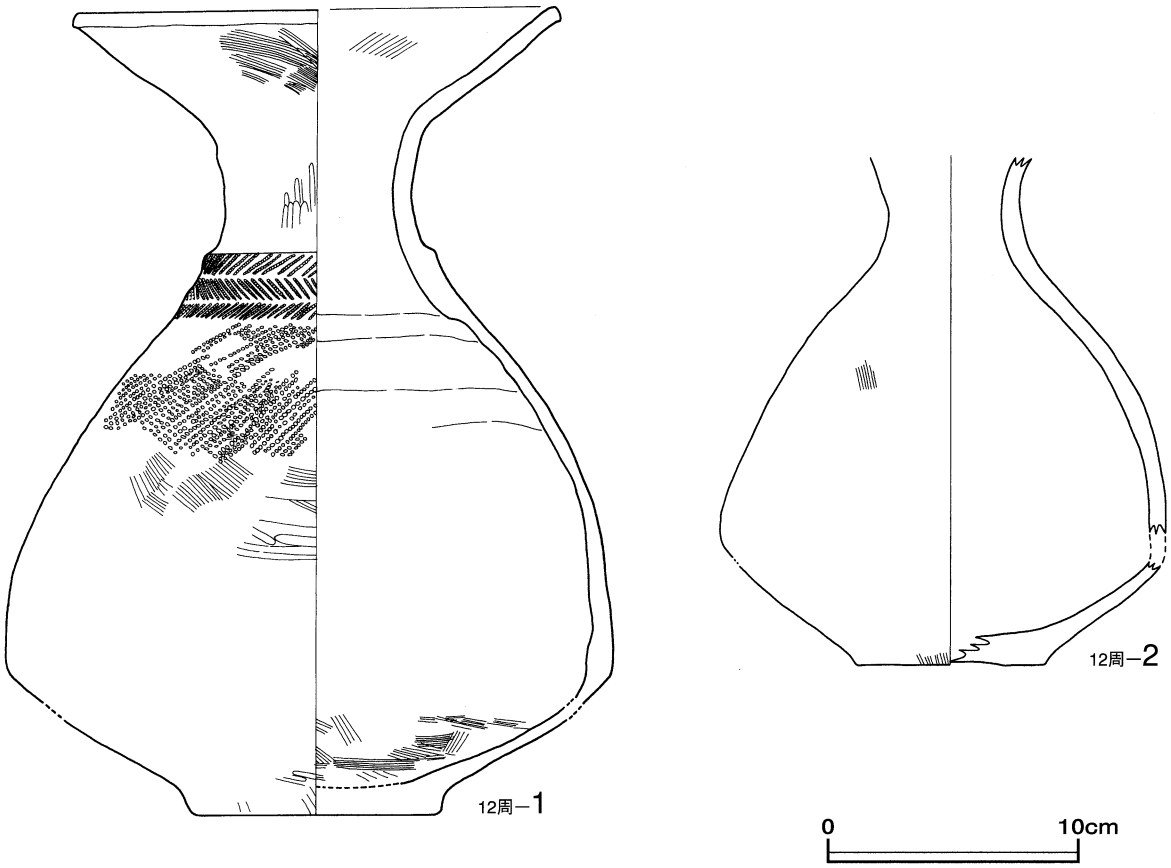
遺物　第61図の1は壺で、底部は平底を呈し、体部下半が下膨れする無花果形を呈する。頸部から口縁部は大きく外反し、端部を四角形に収めている。外面は口縁部と体部の中央と底部に斜位のハケ目痕が残り、頸部と体部下半にヘラ磨き痕が残っている。頸部下半に櫛歯状施具による羽状の刺突紋が施され、体部上半に斜位の刺突紋が施されている。口縁部に刻み目痕が一周していると思われるが、摩耗のため不明瞭である。内面は口縁部と底部に斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、灰色・赤色粒を含んでいる。2は壺で、底部はほぼ平底を呈し、体部下半が下膨れする無花果形を呈する。頸部から口縁部は外反している。外面は体部と底部に斜位のハケ目痕が残り、内面は底部に板ナデ仕上げが認められる。胎土はやや粗く、赤色・白色・灰色・透明粒と多くの小礫（2㎜大）を含んでいる。



第59図　12号周溝墓の平面・断面図



第60図　12号周溝墓の遺物出土状況図



第61図　12号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

14号周溝墓

遺構　14号周溝墓はＩ－7・8グリッドとＪ－7・8グリッドのに位置し、北溝は未調査地区のため確認できなかったが、方形周溝墓と考えられる。

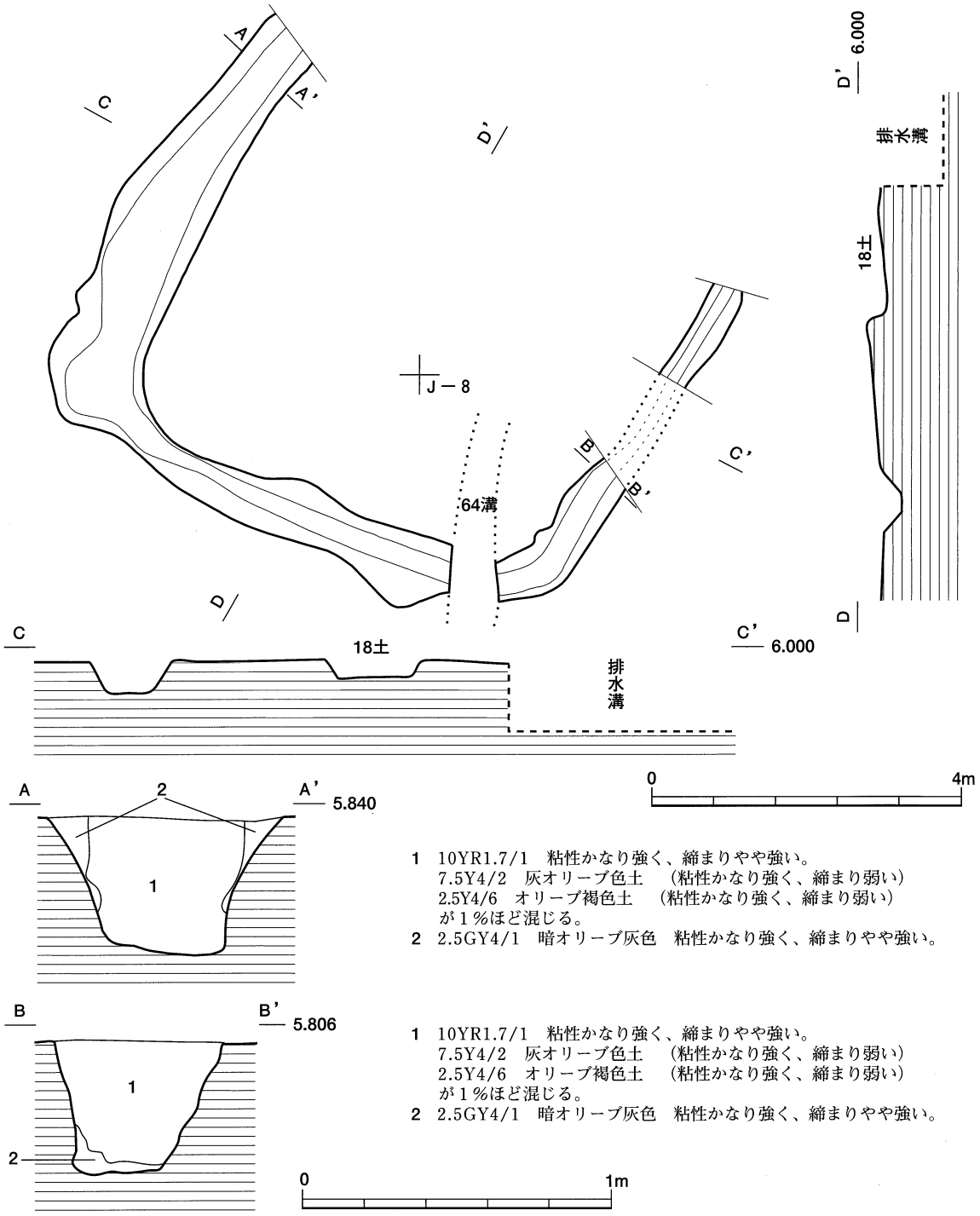
規模は溝幅を含め、縦軸推定7.11m、横軸7.79mを測り、外郭の推定形状方形を呈する。

溝の規模は長さが16.63m、幅は0.38～1.26mである。溝の北東からＮ値方位は変化点が８箇所、屈曲点が２箇所認められる。東溝の北東端からＮ－31.4°－Ｅ、変化点でＮ－36.4°－Ｅ、変化点でＮ－31.1°－Ｅ、変化点でＮ－39.6°－Ｅ、屈曲点でＮ－85.9°－Ｅ、すなわち東西軸と南北軸の内角は102.9°で屈曲し、変化点でＮ－69.1°－Ｗ、変化点でＮ－62.9°－Ｗ、変化点でＮ－46.9°－Ｗ、屈曲点でＮ－16.9°－Ｅ、すなわち南北軸と東西軸の内角は84.6°で屈曲し、変化点でＮ－25.7°－Ｅ、変化点でＮ－38.8°－Ｅを指向する。

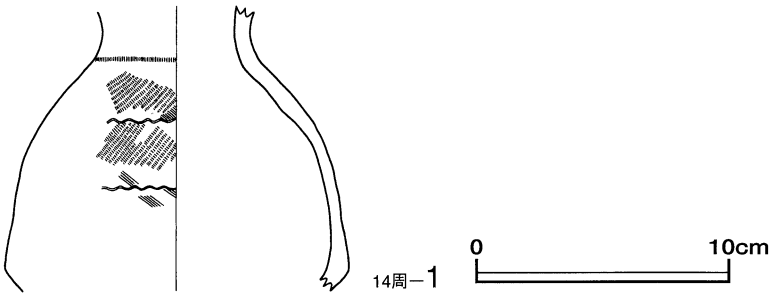
断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で43cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’・Ｂ－Ｂ’ともに２層で構成される。断面Ａ－Ａ’・Ｂ－Ｂ’の１層は黒色（10YR 1.7/1）土層、２層は暗オリーブ灰色（2.5GY　4/1）である。

遺物は覆土から弥生土器の口縁部片が１点、頸部から体部にかけての破片が１点、頸部片が１点、体部片が７点、平底の底部片が１点の合計11点が出土している。その内、図化が可能な小型壺の体部片１点を図示した。

遺物　第63図の**1**は小型壺の頸部から体部下半のかけての破片で、体部下半が下膨れする無花果形を呈すると思われる。外面は斜位のハケ目を施した後、櫛歯状施具による横位と斜位の刺突紋が施されている。体部の中央には２本の波状紋が施されている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色粒と小礫（２㎜大）を含んでいる。



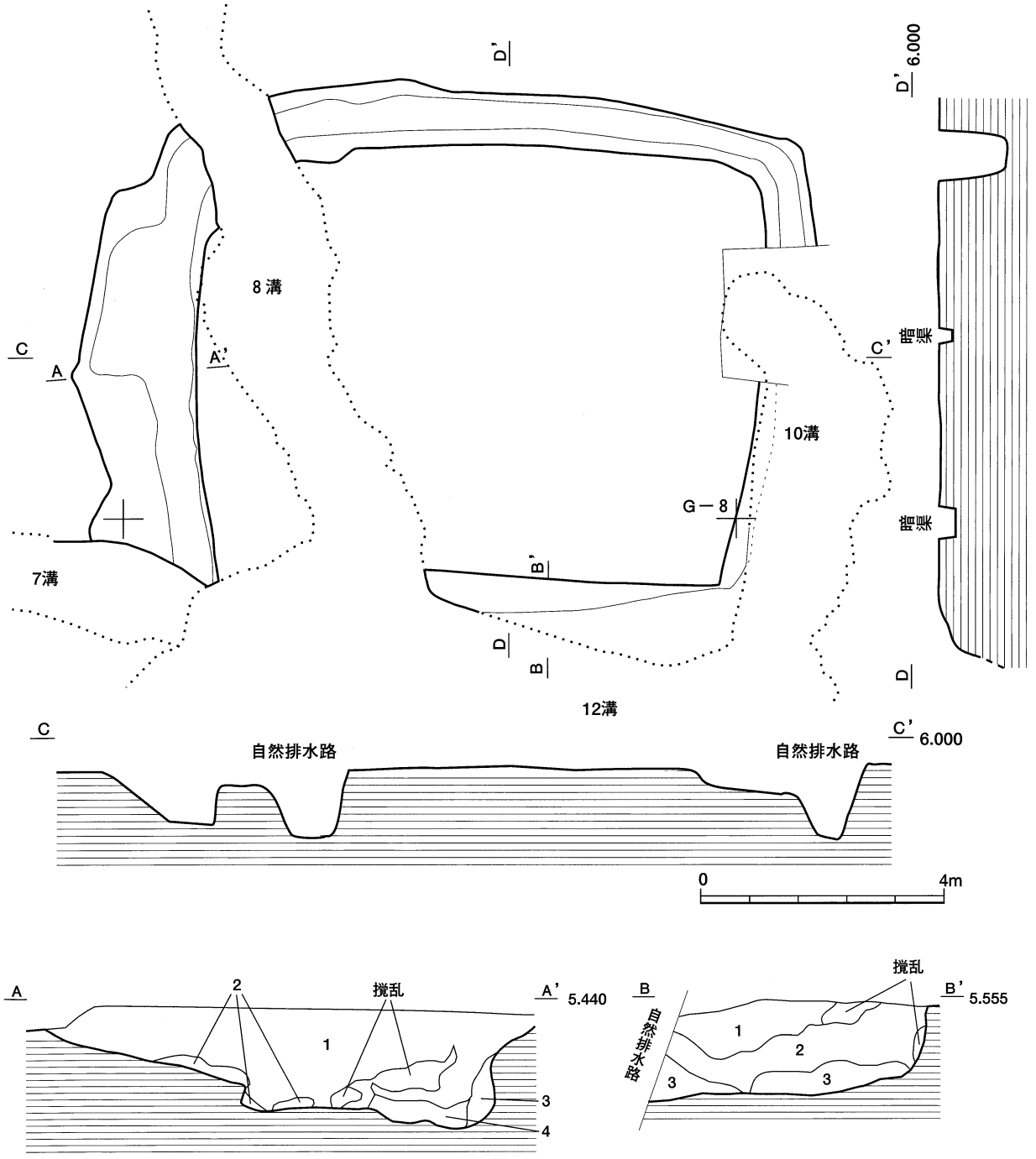
第62図　14号周溝墓の平面・断面図



第63図　14号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

17号周溝墓

遺構　17号周溝墓はＦ－8・9グリッド、Ｇ－8・9グリッド、Ｈ－8・9グリッドに位置し、東溝は自然排水路（10号溝跡）に、南溝は自然排水路（12号溝跡）に切られ、北東角は8号溝跡に、南西角は7号溝跡により一部削られているが、方形周溝墓と考えられる。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　7.5Y6/3　にぶい黄色土（粘性やや強く、締まり弱い）が50%ほど混じる。
3　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　7.5Y6/3　にぶい黄色土（粘性やや強く、締まり弱い）が10%ほど混じる。
4　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　7.5Y6/3　にぶい黄色土（粘性やや強く、締まり弱い）が20%ほど混じる。

1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
3　7.5YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。

0　1m

第64図　17号周溝墓の平面・断面図

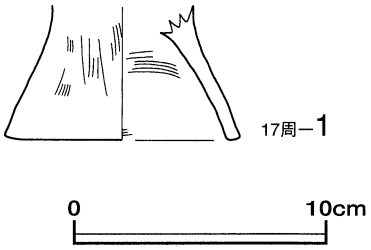
規模は溝幅を含め、縦軸推定9.90m、横軸12.42mを測り、外郭の推定形状は方形を呈する。

溝の規模は長さが32.50m、幅は0.59～2.09mである。溝の南西から南北軸のN値方位は変化点が9箇所、屈曲点が3箇所認められる。南西角からN－7.4°－W、変化点でN－14.4°－E、屈曲点でN－67.6°－E、すなわち南北軸と東西軸の内角は92.7°で屈曲し、変化点でN－85.1°－E、変化点でN－87.2°－W、変化点でN－80.5°－W、変化点でN－71.1°－W、屈曲点でN－15.1°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は92.5°で屈曲し、変化点でN－1.6°－W、変化点でN－11.6°－E、屈曲点でN－81.4°－E、すなわち南北軸と東西軸の内角は92.5°で屈曲し、変化点でN－86.7°－E、変化点でN－89.3°－Eを指向し、東西軸と南北軸の内角は82.3°で屈曲する。

断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で107cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は4層、B－B’は3層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（2.5Y 2/1）土層、2層は黒色（2.5Y 2/1）土とにぶい黄色（2.5Y 6/3）土が混じった土層、3層・4層は黒色（2.5Y 2/1）土層である。断面B－B’の1層は黒色（10YR 2/1）土層、2層は黒色（2.5Y 2/1）土層、3層は黒色（7.5YR 1.7/1）土層である。

遺物は覆土の下位から弥生土器の壺の口縁部片が2点、体部片が56点、台付甕の底部片が1点、脚部片が1点、覆土の上位から須恵器の体部片が2点の合計62点出土している。その内、図化が可能な台付甕の脚部片1点を図示した。

遺物　第65図の**1**は台付甕の脚部で、脚部は「ハ」の字状に開いている。外面は縦位と斜位のハケ目痕が残り、内面は横位のハケ目痕が残ってる。胎土は粗く、白色・灰色・橙色粒を含んでいる。



第65図　17号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

18号周溝墓

遺構　18号周溝墓はI－9・10グリッドに位置し、西溝を欠き、北溝の一部は38号溝跡に切られ、南溝の西端部は40号溝跡に切られているが、方形周溝墓と考えられる。

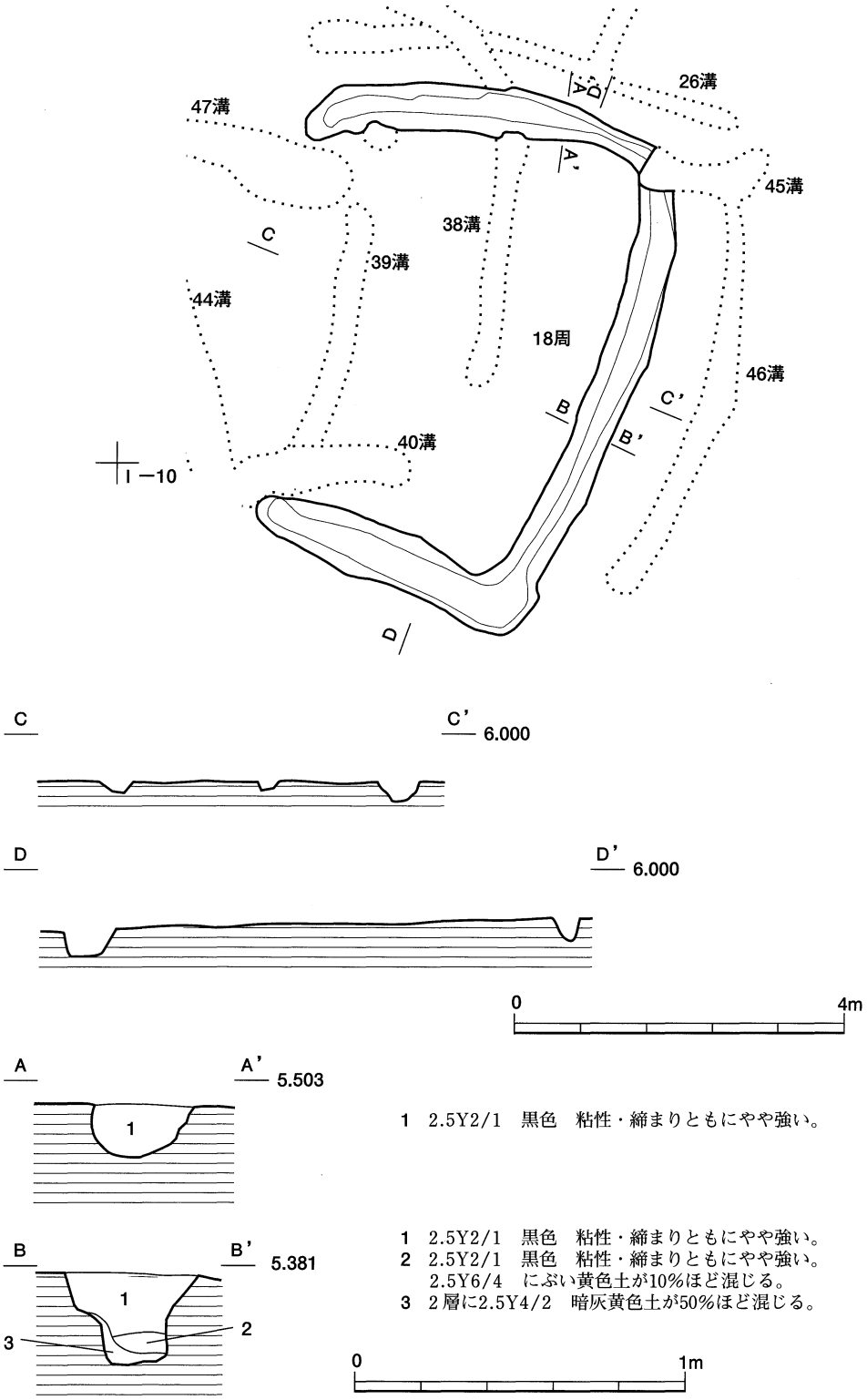
規模は溝幅を含め、縦軸6.39m、横軸推定5.21mを測り、外郭の推定形状は方形を呈する。

溝の規模は長さが13.52m、幅は0.27～0.74mである。溝の北西から東西軸のN値方位は変化点が7箇所、屈曲点が2箇所認められる。北溝の北西端からN－51.9°－E、変化点でN－89.6°－W、変化点でN－82.3°－W、変化点でN－68.8°－W、屈曲点でN－6.9°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は84.2°で屈曲し、変化点でN－14.9°－E、変化点でN－24.6°－E、変化点でN－29.9°－E、屈曲点でN－67.6°－W、すなわち南北軸と東西軸の内角は83.2°で屈曲し、変化点でN－40.8°－Wを指向する。

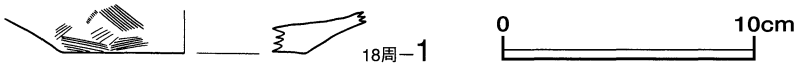
断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で28cmある。覆土は塊状で土が入り込んではいるがA－A’は1層、B－B’は3層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（2.5Y 2/1）土層である。断面B－B’の1層・2層は黒色（2.5Y 2/1）土層、3層は2層と暗灰黄色が混じった土層である。

遺物は覆土の下位から弥生土器の体部片が140点、平底の底部片が3点、脚部片が4点の計147点、覆土の上位から土師器の体部片が1点、底部片が2点、須恵器の体部片が2点の合計150点出土している。その内、図化が可能な壺の底部片1点を図示した。

遺物　第67図の**1**は壺の底部片で、体部に向かって外反している。外面は体部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は粗く、長石・石英・黒色粒を含んでいる。



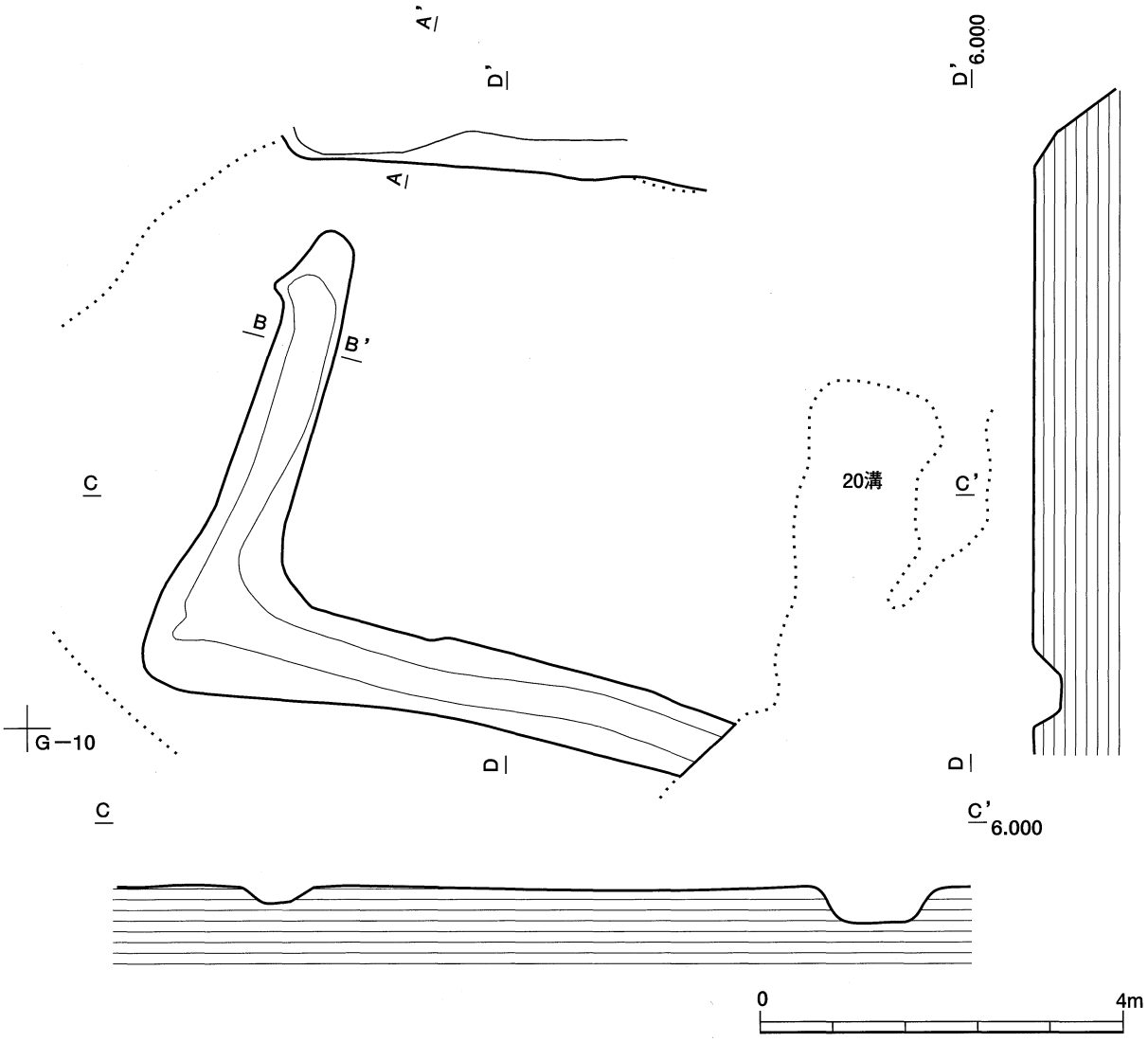
第66図　18号周溝墓の平面・断面図

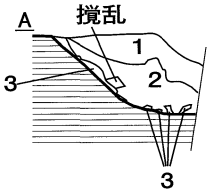


第67図　18号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

19号周溝墓

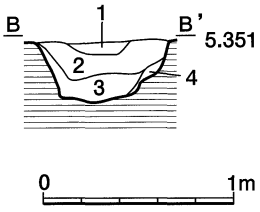
遺構　19号周溝墓はＧ－9・10グリッド、Ｈ－9 グリッドに位置し、北溝は12号溝跡に、東溝は17号溝跡に切られているが、方形周溝墓と考えられる。





A' 5.405

1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
3　10YR1.7/1　黒色土（粘性・締まりともにやや強い）と
　　2.5Y6/3　にぶい黄色土（粘性やや強く、締まりやや弱い）が混じる。



1　5GY7/1　明オリーブ灰色　粘性やや強く、締まりやや弱い。
2　10YR3/2　黒褐色　粘性やや強く、締まりやや弱い。
3　10YR2/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
4　10YR3/3　暗褐色　粘性やや強く、締まりやや弱い。

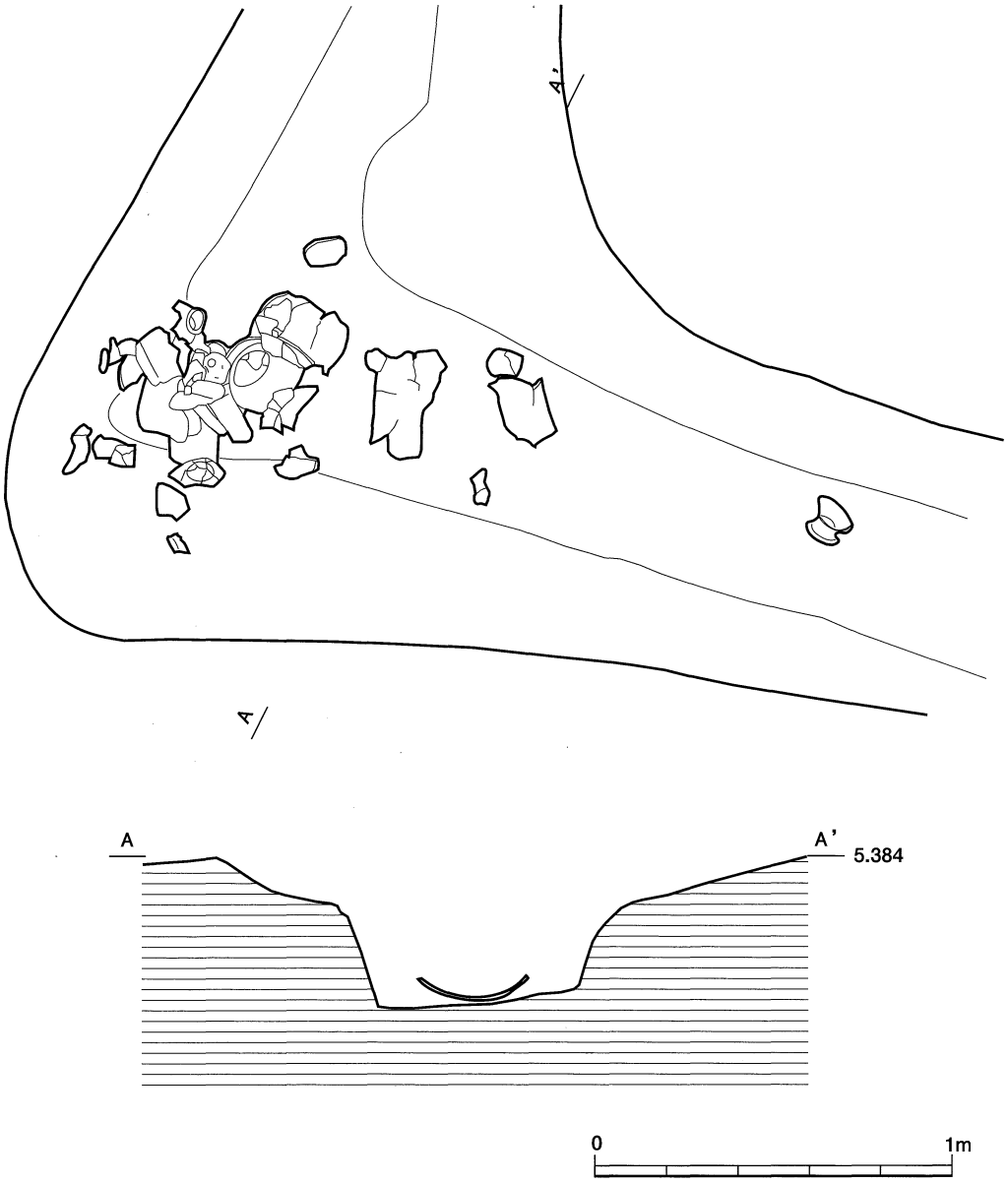
第68図　19号周溝墓の平面・断面図

規模は溝幅を含め、縦軸6.69m、横軸推定8.37mを測り、外郭の推定形状は方形を呈する。

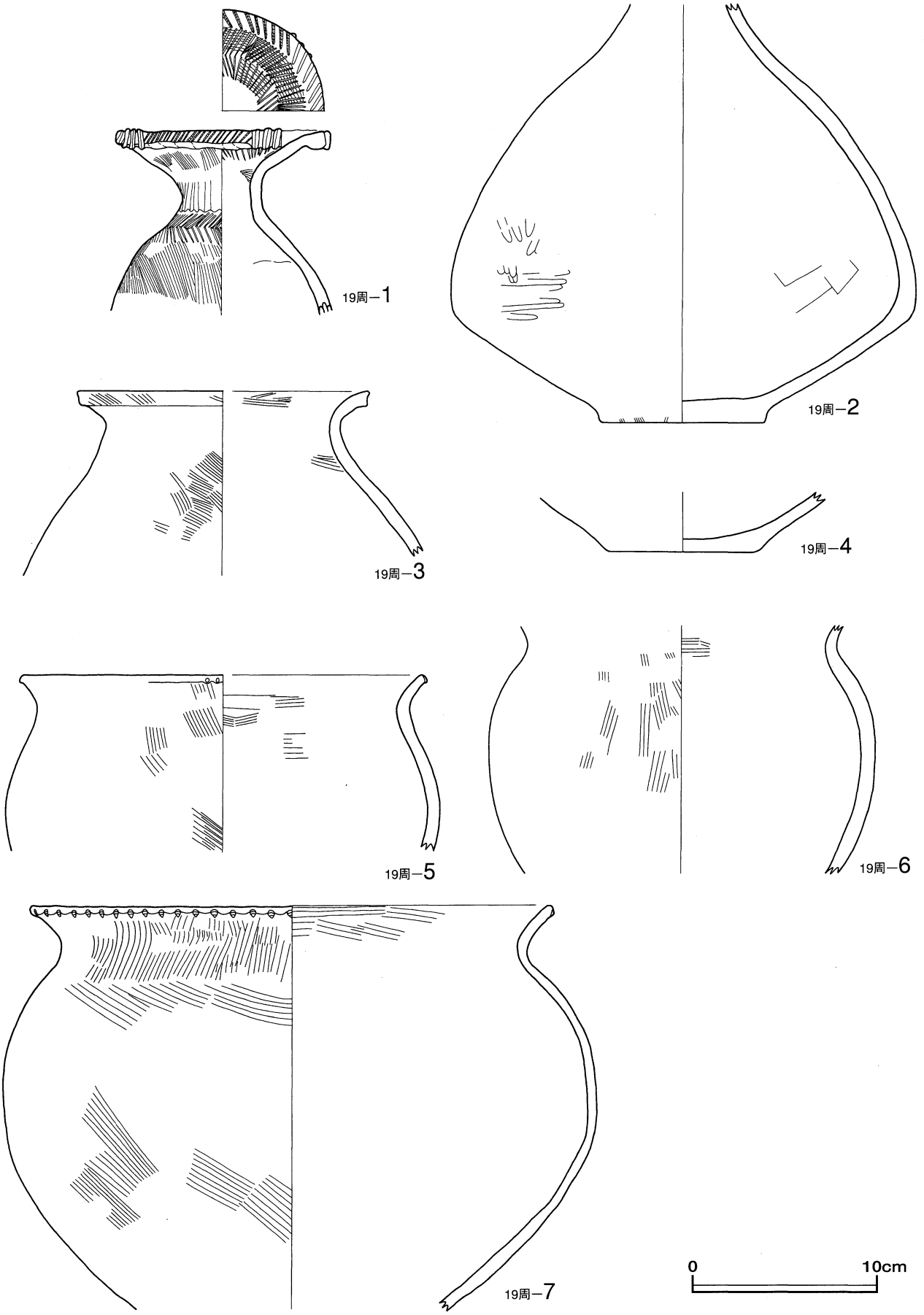
溝の規模は北溝の残存長が4.20m、残存幅は0.06～0.45m、南･西溝の長さが10.24m、幅は0.63～1.85mである。北溝は東西軸のN値方位は変化点が5箇所、南西の溝は変化点が4箇所、屈曲点が1箇所認められる。北溝の北西端からN－34.6°－W、変化点でN－72.9°－W、変化点でN－88.9°－W、変化点でN－84.8°－E、変化点でN－86.6°－Wを指向する。南・西溝の南東端から、変化点でN－70.0°－W、変化点でN－82.6°－W、変化点でN－73.0°－W、屈曲点でN－2.7°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は92.4°で屈曲し、変化点でN－25.9°－E、変化点でN－14.0°－Eを指向し、南北軸と東西軸の内角は88.0°で屈曲する。

断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は3層、B－B’は4層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　2/1）土層、2層・3層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。断面B－B’の1層は明オリーブ灰色（5GY　7/1）土層、2層は黒褐色（10YG　3/2）土層、3層は黒褐色（10YG　2/2）土層、4層は暗褐色（10YG　3/3）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の壺の口縁部から体部上半にかけての破片が1点、口縁部から頸部にかけての破片が1点、口縁部片が2点、頸部片が25点、体部から底部にかけての破片が1点、体部片が55点、底部



第69図　19号周溝墓の遺物出土状況図



第70図　19号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

片が3点、甕の口縁部から体部上半にかけての破片が1点、口縁部から体部にかけての破片が1点、口縁部片が6点、体部片が1点、脚部片が1点の合計98点が出土している。その内、図化が可能な壺の口縁部から体部中央にかけての破片が1点、壺の頸部から底部にかけての破片が1点、壺の口縁部から体部上半にかけての破片が1点、壺の底部片が1点、甕の口縁部から体部中央にかけての破片が1点、甕の頸部から体部下半にかけての破片が1点、甕の口縁部から体部下半にかけての破片が1点の計7点を図示した。

遺物　第70図の**1**は壺の口縁部から体部中央にかけての破片で、体部上半から頸部は内湾し、頸部から口縁部は大きく外反している。外面は体部上半は縦位のハケ目痕が残り、櫛歯状施具による羽状の刺突紋が施されている。頸部はヘラ磨き痕が残り、口縁部は斜位のハケ目痕が残り、羽状の刺突紋が施されて、3個1組の棒状浮紋が5箇所に施されている。内面は頸部はヘラ磨き痕が残り、口縁部は3重の羽状刺突紋が施されている。胎土は普通で、長石・黒色・赤色・石英粒を多く含んでいる。　**2**は壺の頸部から底部にかけての破片で、底部は平底で、体部は下半が下膨れする無花果形を呈する。外面は体部下半はヘラ磨き痕が残り、底部は縦位のハケ目痕が残っている。内面は体部に板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、白色・灰色・茶色・黒色粒と多くの小礫（2㎜大）を含んでいる。　**3**は壺の口縁部から体部上半にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反し、端部を四角形に収めている。外面は口縁端部と体部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部から体部に横位と斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、白色・灰色・赤色粒を含んでいる。　**4**は壺の底部片で、平底の底部から大きく外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は粗く、白色・灰色・赤色粒を多く含んでいる。　**5**は甕の口縁部から体部上半にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部は斜位と縦位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部から体部に横位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、白色・灰色・赤色粒と礫（3㎜大）を多く含んでいる。　**6**は甕の頸部から体部下半にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾している。外面は体部に縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位と斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、白色・灰色・赤色粒と礫（3㎜大）を多く含んでいる。　**7**は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部下半から中央に向かって外反し、中央から肩部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位と斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、白色・灰色・赤色粒を含んでいる。

20号周溝墓

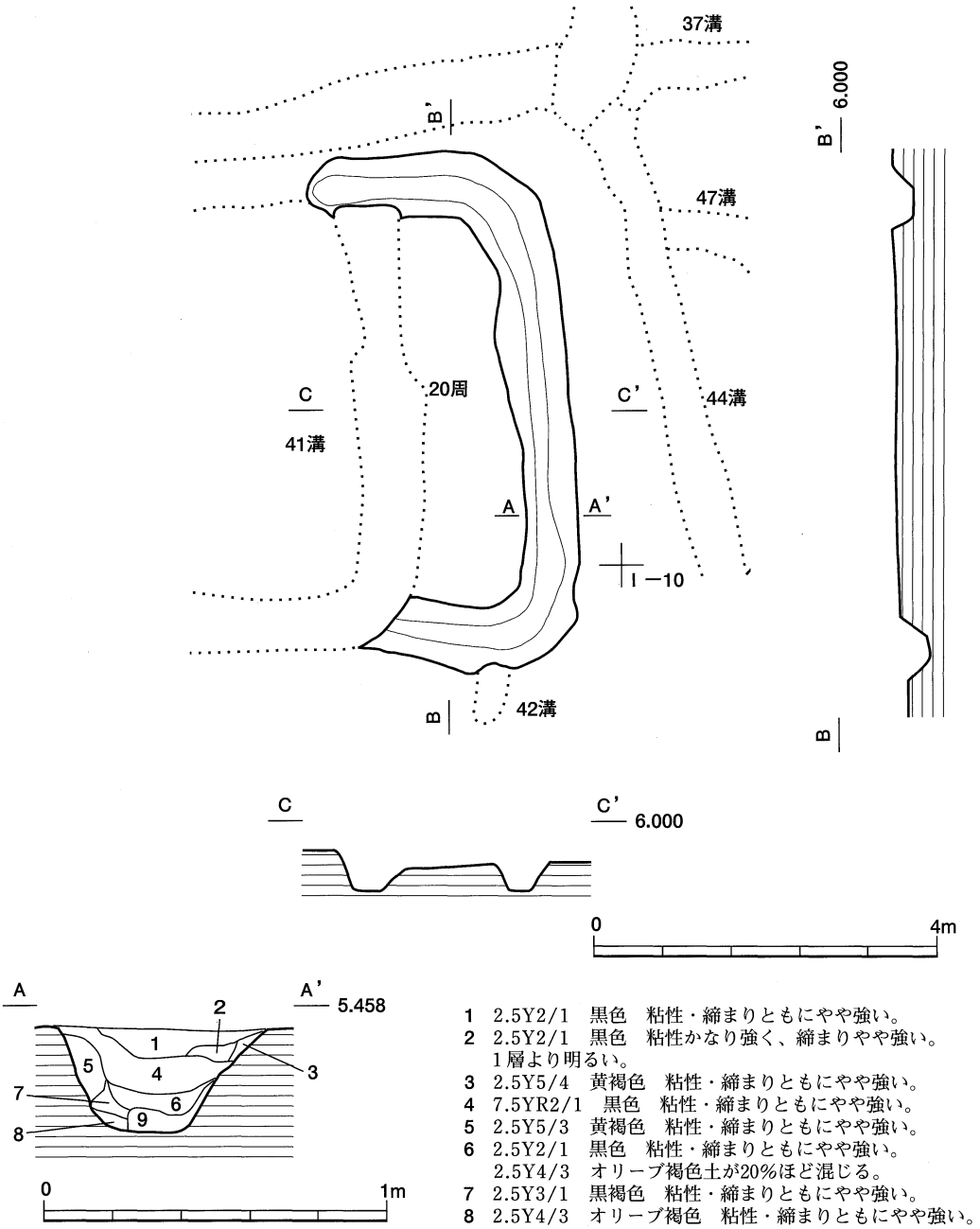
遺構　20号周溝墓はH－9・10グリッドに位置し、西溝を欠き、北溝と南溝の西端部は41号溝跡に接しているが、方形周溝墓と考えられる。

規模は溝幅を含め、縦軸6.18m、横軸推定6.37mを測り、外郭の推定形状は方形を呈する。

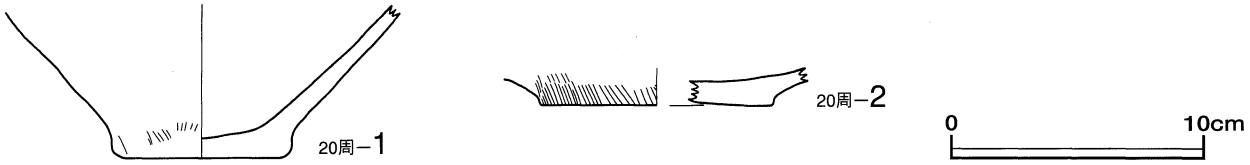
溝の規模は長さが7.17m、幅は0.57～0.90mである。溝の北西から東西軸のN値方位は変化点が4箇所、屈曲点が2箇所認められる。北溝の北西端からN－88.3°－E、屈曲点でN－64.4°－W、すなわち東西軸と南北軸の内角は103.5°で屈曲し、変化点でN－24.1°－W、変化点でN－24.6°－E、変化点でN－3.7°－W変化点でN－22.9°－E、屈曲点でN－82.5°－E、すなわち南北軸と東西軸の内角は87.3°で屈曲し、変化点でN－80.3°－Wを指向する。

断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で47㎝ある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は8層で構成される。断面A－A’の1・2層は黒褐色（2.5Y　2/1）土層、である。3層は黄褐色（2.5Y　5/4）土層、4層は黒色（7.5YR　2/1）土層、5層は黄褐色（2.5Y　5/3）土層、6層は黒色（2.5Y　2/1）土層、7層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層、8層はオリーブ褐色（2.5Y　4/3）土層である。

遺物は覆土の下位から弥生土器の頸部片が8点、体部片が35点、体部下半から底部にかけての破片が1点、平底の底部片が2点の計46点、覆土の上位から土師器の体部片が1点、須恵器の口縁部片が1点、底部片が1点の合計49点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の壺の体部下半から底部にかけての破片1点、壺の底部片1点の計2点を図示した。



第71図　20号周溝墓の平面・断面図



第72図　20号周溝墓から出土した弥生土器の実測図

遺物　第72図の**1**は壺の体部下半から底部にかけての破片で、平底の底部から外反して立ち上がっている。外面は底部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色粒を含んでいる。　**2**は壺の底部片で、平底の底部から外反している。外面は底部に縦位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。

〈溝状遺構〉

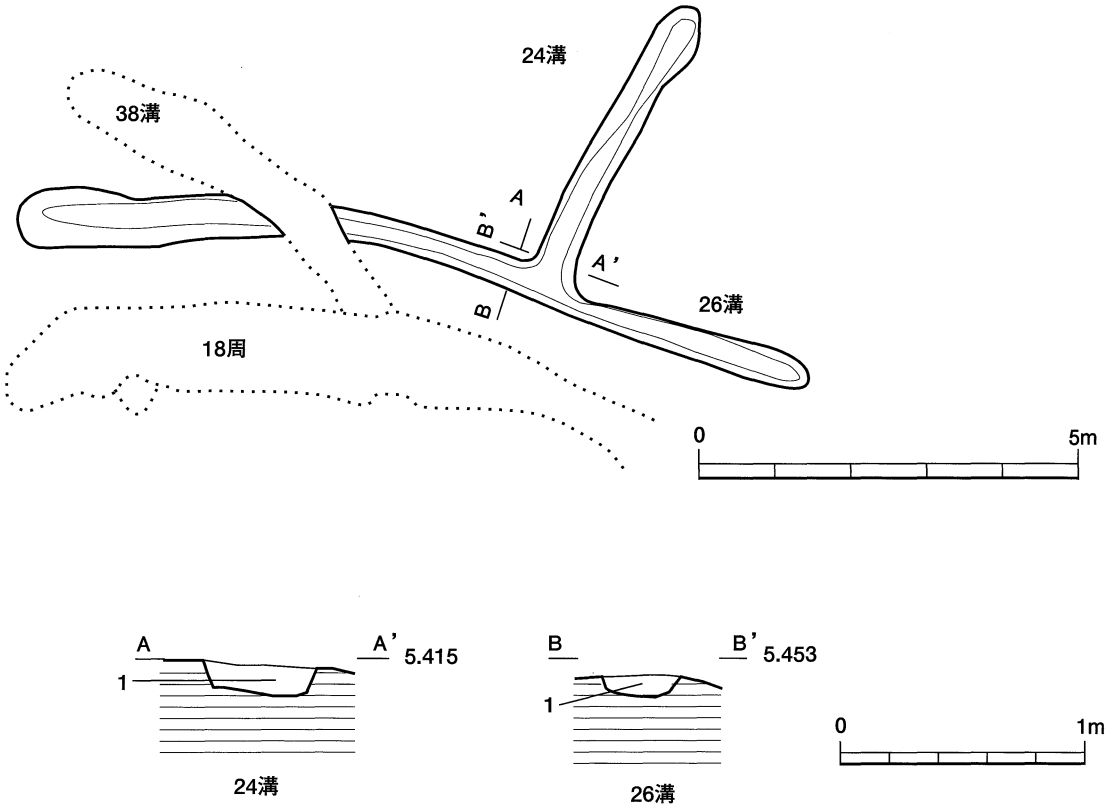
弥生時代の溝状遺構は調査区の東部に多く分布しており、40条確認したが、その内の20条から弥生土器片が出土している。特に、55号溝跡は溝の規模も大きく、弥生土器の出土量も多い。また、49・52・66・68・69・71号溝跡では覆土の上位から土師器片・須恵器片が少量出土している。

24号溝跡（弥生－1）

遺構　24号溝跡はⅠ－9グリッド中央付近を南南西から北北東方向に伸長し、南端部は26号溝跡にほぼ直角に接している。溝の規模は長さが2.16m、幅は0.32～0.44mである。南北軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。溝の北端からN－33.3°－E、変化点でN－17.7°－Eを指向する。断面形状は浅いU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土はA－A’は1層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

26号溝跡（弥生－2）

遺構　26号溝跡はⅠ－9グリッド中央付近を東南東から西北西方向に伸長し、中央部で24号溝跡がほぼ直角に接している。東端は45号溝跡に接するように終息している。溝の規模は長さが5.46m、幅は0.25～0.37mである。東西軸のN値方位は変化点が2箇所認められる。溝の西端からN－84.9°－E、変化点でN－70.9°－W、変化点でN－77.2°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土はA－A’は1層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

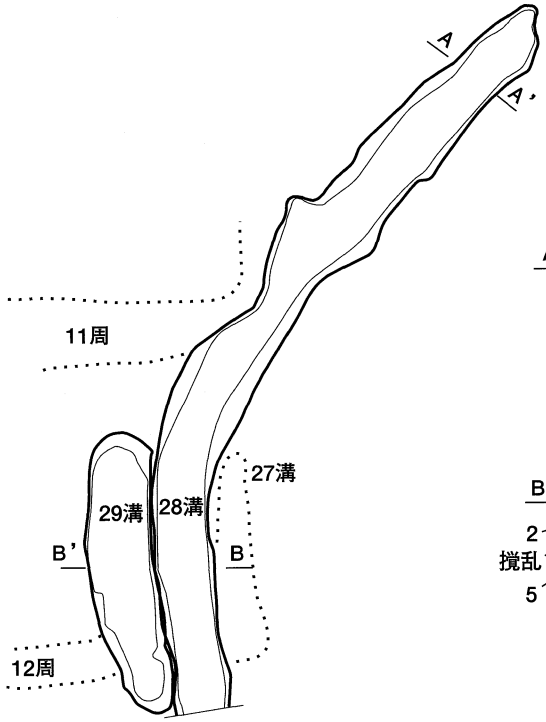


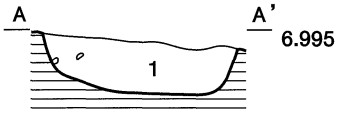
1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

第73図　24・26号溝跡の平面・断面図

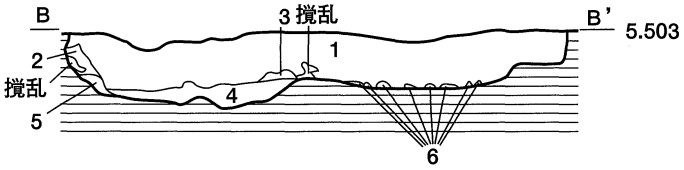
28号溝跡（弥生－3）

遺構　28号溝跡はＦ－6 グリッド中央から南西方向に伸長し、11号周溝墓の南東角を切り、Ｅ－7 グリッドの東側を南方向に伸び、途中E－8 グリッドで撹乱により一部途絶えるが、さらに南南東方向に伸長し、南端部は 7 号溝跡に切られている。Ｅ－7 グリッドでは、東側に27号溝跡、西側に29号溝跡が併走している。溝の規模は長さが31.48mで、幅は1.09～2.42mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 4 箇所認められる。北東端からＮ－41.5°－Ｅ、変化点でＮ－29.9°－Ｅ、変化点でＮ－5.8°－Ｗ、変化点でＮ－15.9°－Ｗ、変化点でＮ－42.3°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で63cmある。覆土はＡ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’は 1 層、Ｃ－Ｃ’は 2 層で構成される。断面Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’の 1 層は黒色（10YR　2/1）土層である。Ｃ－Ｃ’の 1 層は黒色（7.5YR　2/1）土層、2 層は黒褐色（2.5Y 3/1）土層である。



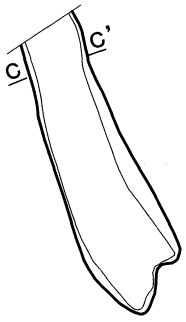


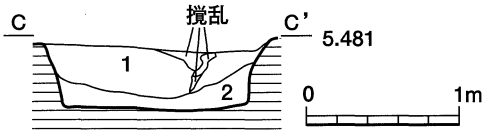
1　10YR2/1　黒色　粘性やや弱く、締まりかなり強い。
2.5Y7/4　浅黄色　シルト質泥岩粒子の直径１mm大～85mm大（ほとんど直径10mm大）が30%ほど混じる。



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
10YR6/8　明黄褐色（3mm大）・10YR8/1　灰白色（3mm大）
10YR5/8　黄褐色　（1mm大）粒子が１%ほど混じる。
2　2.5Y3/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。（1層より強い）
鉄分が１%ほど混じる。
3　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや弱い。
2.5Y5/4　黄褐色　粒子（2mm大）が１%ほど混じる。
4　5Y3/1　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや弱い。
10YR5/8　黄褐色　粒子（2mm大）が１%ほど混じる。
5　2.5Y5/3　黄褐色土・10YR5/8　黄褐色土・10YR2/1　黒色土が斑状に混じる。
6　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
4層の土が10%ほど混じる。

撹乱

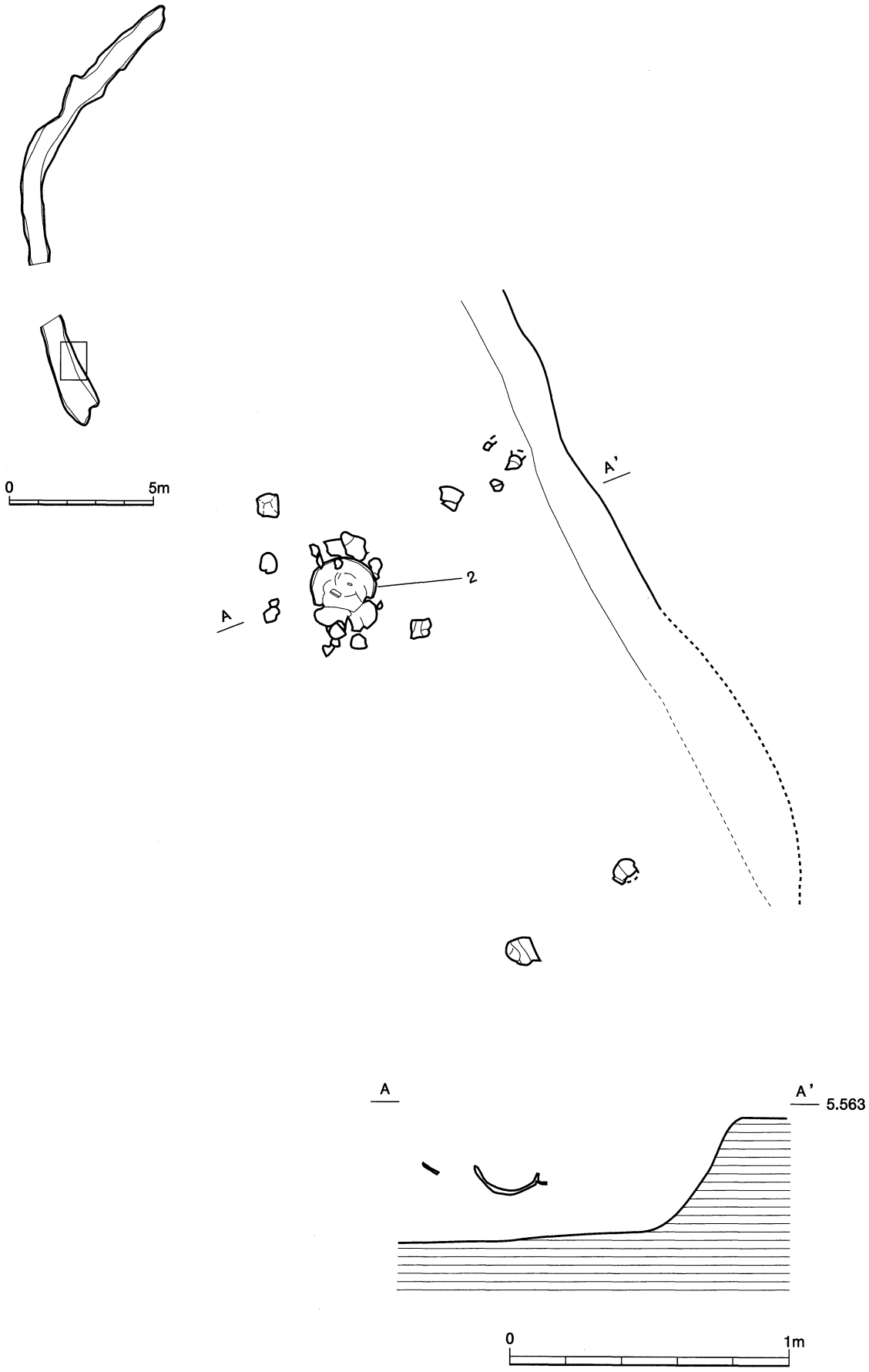




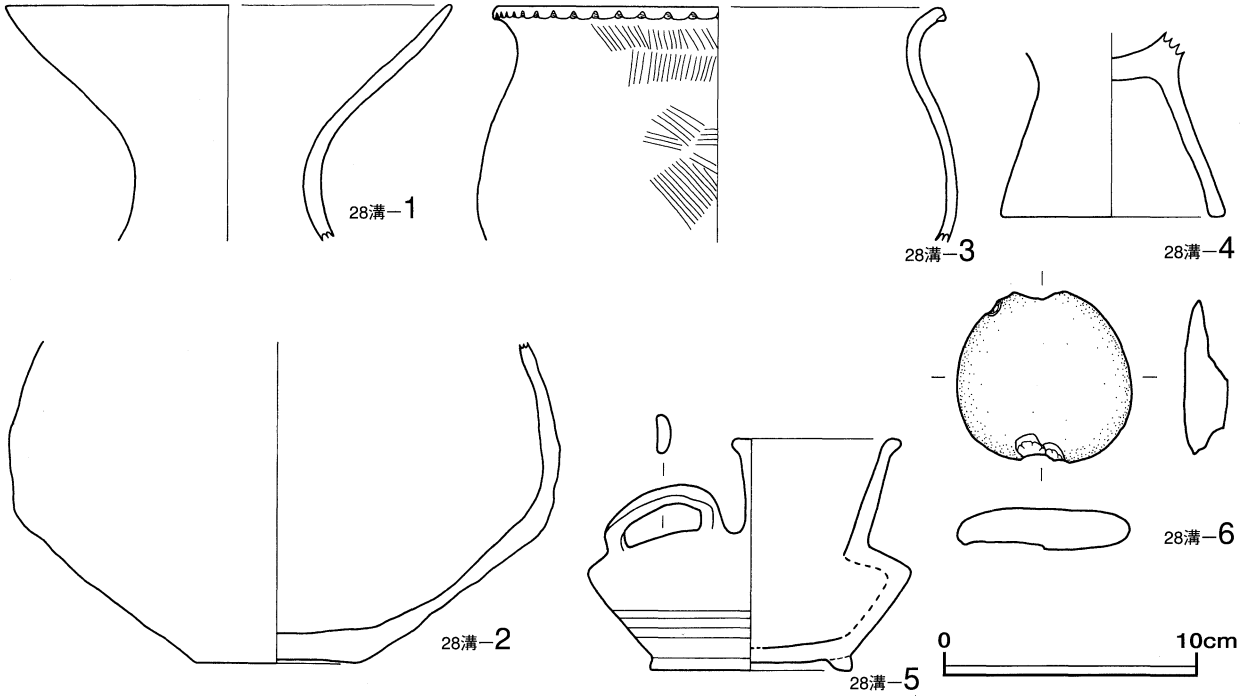
0　10m

1　7.5YR 2/1 黒色　粘性・締まりともにやや強い。
5Y 4/3 暗オリーブ色　粒子（最大径(10×50)mm大とほとんどは２mm大）が１%ほど、5YR 4/8　赤褐色粒子が５%ほど混じる。
2　2.5Y 3/1 黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
7.5YR2/1　黒色土が５%ほど、5YR4/8　赤褐色土が10%ほど混じる。

第74図　28・29号溝跡の平面・断面図



第75図　28号溝跡の遺物出土状況図



第76図　28号溝跡から出土した土器と石器の実測図
1～4　弥生土器、　5　須恵器、　6　石錘

遺物は覆土の下位から弥生土器の甕の口縁部片が4点、台付甕の脚部片が1点、壷の口縁部片が2点、複合口縁部片が4点、体部片が112点、底部片が3点の計126点と石錘が1点、覆土の上位から須恵器の平瓶が1点、須恵器の口縁部片が1点、体部片が1点、底部片（高台付）が1点の計4点で合計131点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の壷の口縁部1点、壺の体部中央から底部にかけての破片1点、甕の口縁部片1点、台付甕の脚部1点、須恵器の平瓶1点、石錘1点の計6点を図示した。

遺物　第76図の**1**は壷の口縁部から頸部にかけての破片で、頸部から口縁部は「く」の字状に外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、長石・石英・黒色粒を多く含んでいる。　**2**は壷の体部中央から底部にかけての破片で、平底の底部から体部下半にかけて外反し、体部下半から体部中央にむかって内湾している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、白色・透明・灰色・赤色粒と、礫（4㎜大）を多く含んでいる。　**3**は甕の口縁部から体部中央にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口唇部に刻み目痕が残り、体部に縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は粗く、白色・灰色・茶色粒と礫（2～4㎜大）を多く含んでいる。　**4**は台付甕の脚部で、脚部は緩やかに「ハ」の字状に開いている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は粗く、灰色・白色・赤色粒を多く含んでいる。　**5**は平瓶で、平底の底部に台形の貼り付け高台が付いている。底部から体部上半は直線的に外反し、体部上半から頸部は内傾している。頸部から口縁部は直線的に外反し、口縁端部を丸く収めている。内外面ともナデ仕上げが認められ、外面の体部下半に5本の沈線が施されている。内外面とも全体に釉がかかっている。胎土は粗く、白色・灰色・黒色粒を含んでいる。**6**は石錘でほぼ円形の扁平な礫を素材とし、両端に紐掛け用の切り込みを施した切目石錘である。上端の切り込みは片面から、下端の切り込みは両面から打ち欠いている。両端とも紐による摩耗は認められない。石材は砂岩である。

29号溝跡（弥生－4）

遺構　29号溝跡はE－7グリッドの中央よりやや東側を南北方向に伸長し、E－8グリッドの北部で終息している。東側には28号溝跡が併走している。規模は長さが7.12m、幅は1.22～1.65mである。南北軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。北端からN－2.5°－E、変化点でN－18.0°－Eを指向する。断面形

状は浅いU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で60cmある。覆土はA－A’は1層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は覆土から弥生土器の体部片が16点、底部片が1点、台付甕の脚部が1点の計18点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

30号溝跡（弥生－5）

遺構　30号溝跡はE－7グリッド南部に位置し、西南西から東北東方向に伸長している。規模は長さが3.70m、幅は0.76～0.86mである。東西軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。東端からN－66.6°－E、変化点でN－74.8°－Eを指向する。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で42cmある。覆土は所々に塊状の土が入り込んではいるが、A－A’は3層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は黒色（10YR　7/1）土層、3層は黒褐色（2.5Y　7/1）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の口縁部片が1点、体部片が14点、土師器の体部片が1点の計16点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

31号溝跡（弥生－6）

遺構　31号溝跡はF－8グリッドの中央を北北西から南南東方向に伸長し、32号溝跡の北端部を切って終息している。途中、撹乱により一部削られている。規模は長さが6.09m、幅は0.49～0.60mである。南北軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。北端からN－23.7°－W、変化点でN－8.6°－Wを指向する。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で53cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるが、A－A’は2層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は黒色（2.5Y　3/3）土層である。遺物は覆土から弥生土器の体部片が8点、土師器の体部片が1点の計9点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

32号溝跡（弥生－7）

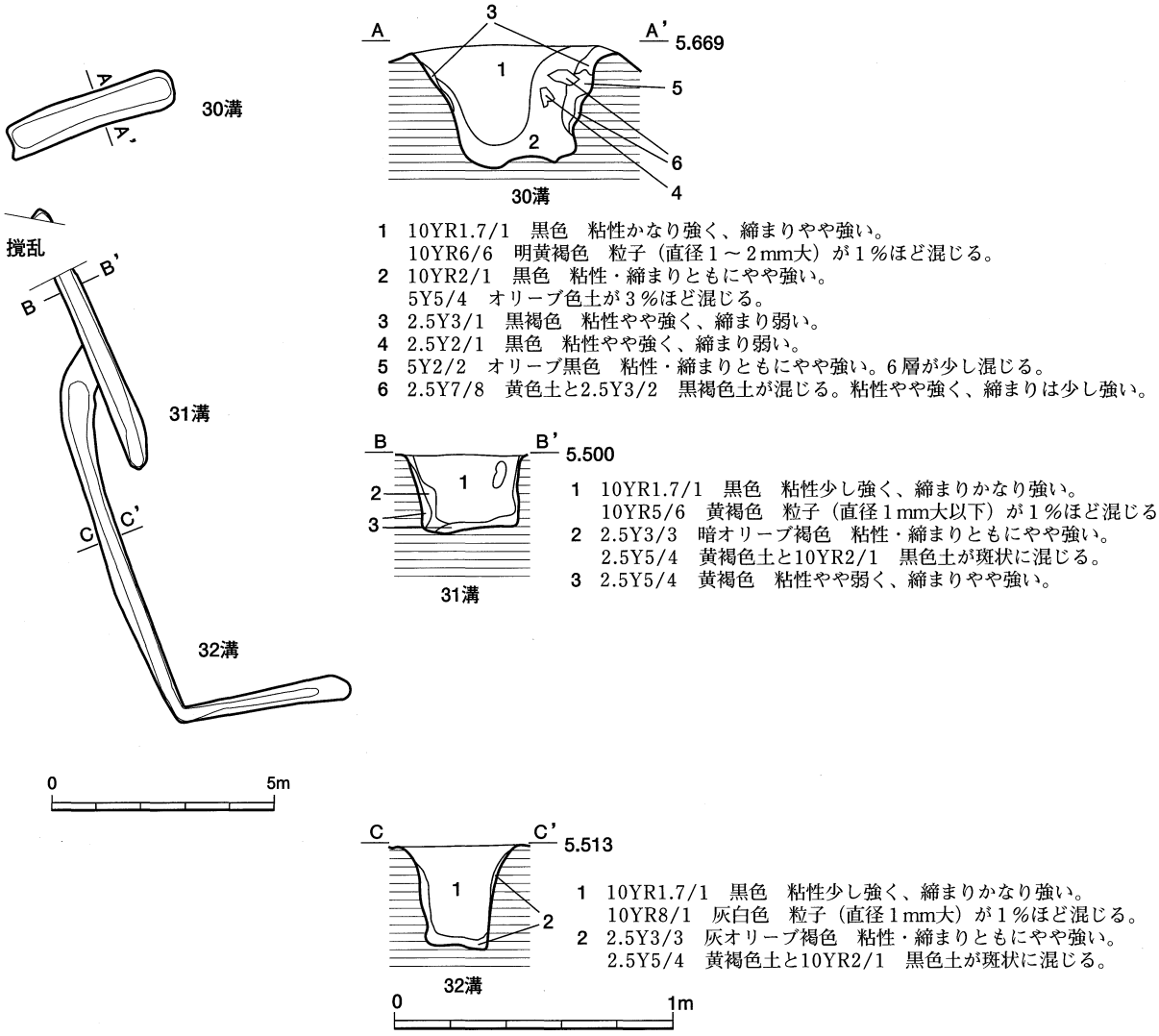
遺構　32号溝跡はF－8グリッドの中央部を北北西から南南東方向に伸長し、F－9グリッドで東に屈曲し、G－9グリッドの手前で終息している。北端部は31号溝跡に切られている。規模は長さが10.21m、幅は0.27～0.70mである。南北軸のN値方位は変化点が1箇所、屈曲点が1箇所認められる。北端からN－3.9°－E、変化点でN－20.8°－W、屈曲点でN－80.4°－Eを指向する。すなわち、南北軸と東西軸は88.9°で屈曲する。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で31cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるが、A－A’は2層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は暗オリーブ褐色（2.5Y　3/3）土層である。遺物は覆土から弥生土器の体部片が5点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

35号溝跡（弥生－8）

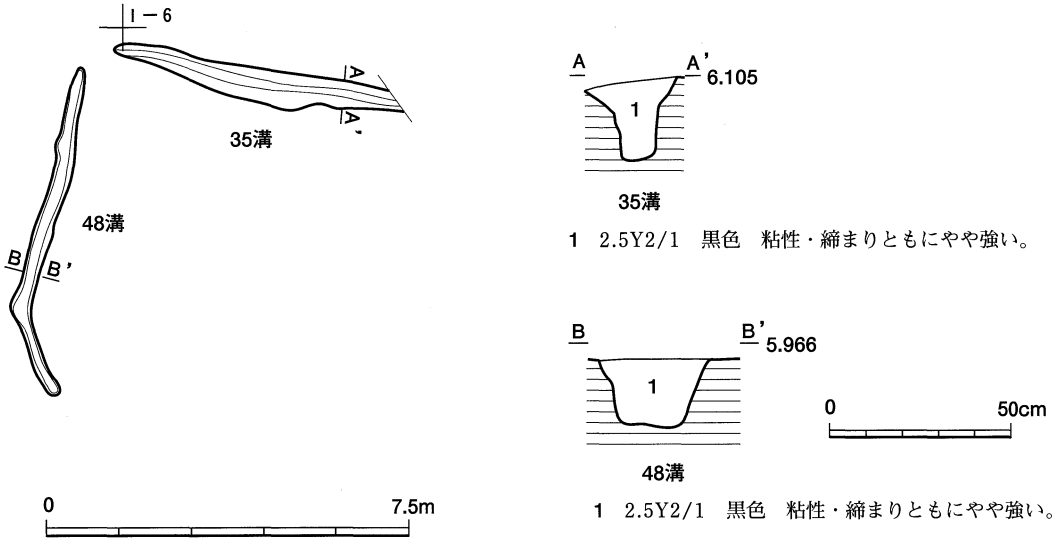
遺構　35号溝跡はH－7グリッドの北東部からI－7グリッド北側を東西方向に伸長し、東端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが9.20mで、幅は0.46～1.17mである。東西軸のN値方位は変化点が4箇所認められる。西端からN－85.2°－W、変化点でN－73.2°－W、変化点でN－79.5°－W、変化点でN－84.4°－W、変化点でN－77.9°－Wを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で44cmある。覆土は塊状で土が入り込んではいるがA－A’は1層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

48号溝跡（弥生－9）

遺構　48号溝跡はH－7グリッドの北東部を南北方向に伸長し、同グリッドの南東部で終息している。規模は長さが10.72mで、幅は0.39～0.65mである。南北軸のN値方位は変化点が8箇所認められる。北側からN－35.7°－W、変化点でN－19.7°－W、変化点でN－18.4°－W、変化点でN－15.4°－E、変化点でN－14.3°－E、変化点でN－21.5°－E、変化点でN－14.0°－E、変化点でN－2.2°－W、変化点でN－12.°－Eを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は1層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層



第77図　30～32号溝跡の平面・断面図



第78図　35・48号溝跡の平面・断面図

である。遺物は覆土から弥生土器の口縁部片が4点、体部片が87点、平底の底部が1点の合計92点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

36号溝跡（弥生－10）

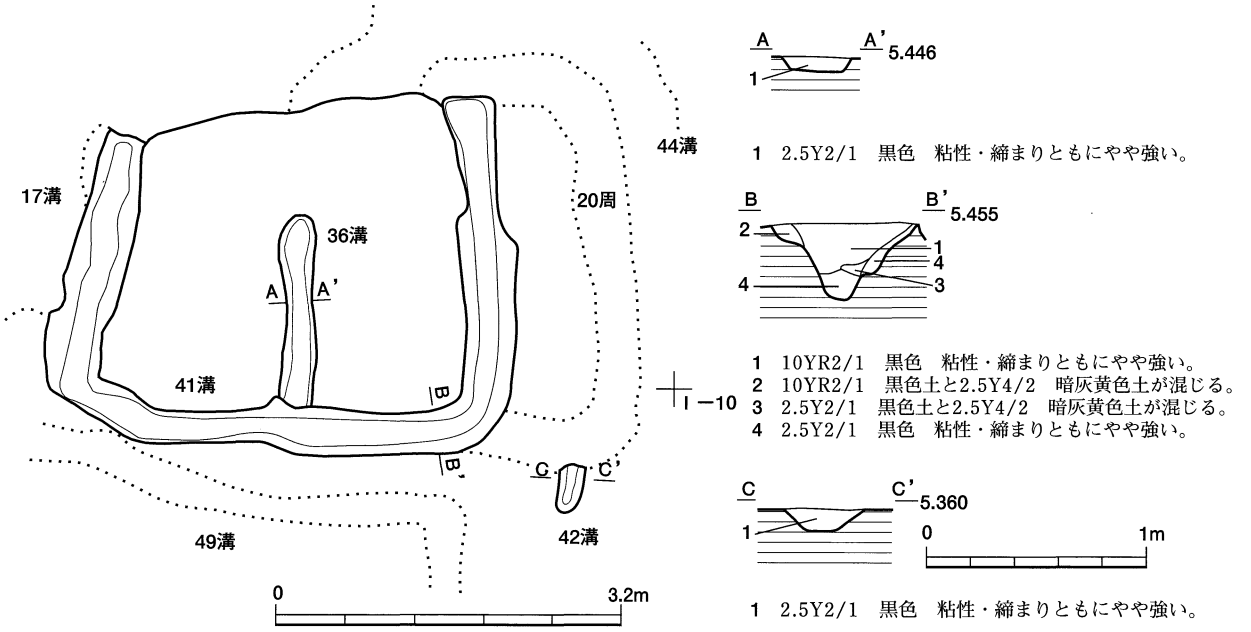
遺構　36号溝跡はＩ－9 グリッドの南部を南北方向に伸長し、南端部は41号溝跡に切られている。規模は長さが2.89m、幅は0.38～0.63mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 2 箇所認められる。北端からＮ－12.1°－Ｅ、変化点でＮ－3.1°－Ｗ、変化点でＮ－8.4°－Ｅを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土はＡ－Ａ’は 1 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

41号溝跡（弥生－11）

遺構　41号溝跡はＨ－9 グリッドの南部からＨ－10グリッドの北部にまたがるU字形を呈する溝で、溝の北端部はＨ－9 グリッドで12号溝跡（自然排水路）に切られている。また、北東角と南東角で20号周溝墓の北溝と南溝を切っている。さらに東西方向の溝は36号溝跡の南端部を切っている。規模は西側の南北方向の溝の長さが3.83m、南側の東西方向の溝の長さが6.07m、東側の南北方向の溝の長さが4.79mで合計14.68m、幅は0.44～0.85mである。南北・東西軸のＮ値方位は変化点が 4 箇所、屈曲点が 2 箇所認められる。北西端からＮ－12.3°－Ｅ、屈曲点でＮ－59.5°－Ｗ、南北軸と東西軸は内角81.9°で屈曲し、変化点でＮ－87.4°－Ｗ、変化点でＮ－69.5°－Ｅ、屈曲点でＮ－9.3°－Ｅ、東西軸と南北軸は内角96.4°で屈曲し、変化点でＮ－4.9°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＶ字形、底部は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で42cmある。覆土はＡ－Ａ’は 4 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（10YR 2/1）土層、2 層は黒色（10YR　2/1）土と暗灰黄色（2.5Y　4/2）土が混じり合った土層、3 層は黒色（2.5Y　2/1）土と暗灰黄色（2.5Y　4/2）土が混じり合った土層、4 層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

42号溝跡（弥生－12）

遺構　42号溝跡はＨ－10グリッドの北東部で南北方向に伸長し、北端部は20号周溝墓の南溝に切られている。規模は長さ0.78m、幅は0.30～0.37mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 1 箇所認められる。北端からＮ－7.0°－Ｅ、変化点でＮ－20.2°－Ｅを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で 9 cmある。覆土は 1 層で構成される。覆土の 1 層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第79図　36・41・42号溝跡の平面・断面図

37号溝跡（弥生－13）

遺構　37号溝跡はＩ－9 グリッドの北西部を東西方向に伸長し、西端部は70溝に切られている。規模は長さが2.34m、幅は0.30～0.55mである。東西軸のＮ値方位は変化点が 1 箇所認められる。東端からＮ－69.0°－Ｅ、変化点でＮ－88.9°－Ｅを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で33cmある。覆土はＡ－Ａ’は 6 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2 層・3 層は黒色（10YR　2/1）土層、4 層・5 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、6 層は黒褐色（2.5Y 3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

38号溝跡（弥生－14）

遺構　38号溝跡はＩ－9 グリッドに位置し、北西から南東方向に伸長し、26号溝跡の西部を切り、その南側で21号周溝墓の北溝に切られ、グリッドの中央付近から南方向に伸長し、同グリッドの南部で終息している。規模は長さが7.38m、幅は0.25～0.48mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 4 箇所認められる。北端からＮ－63.0°－Ｗ、変化点でＮ－47.4°－Ｗ、変化点でＮ－22.6°－Ｗ、変化点でＮ－5.9°－Ｅ、変化点でＮ－36.9°－Ｅを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土はＡ－Ａ’は 1 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

39号溝跡（弥生－15）

遺構　39号溝跡はＩ－ 9 グリッドの南西部を南北方向に伸長し、北端部は47号溝跡の東端と接するように終息し、南端部は40号溝跡に切られている。規模は長さが1.48m、幅は0.29～0.35mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 2 箇所認められる。北端からＮ－11.9°－Ｗ、変化点でＮ－10.8°－Ｅ、変化点でＮ－23.4°－Ｅを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土はＡ－Ａ’は 1 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

40号溝跡（弥生－16）

遺構　40号溝跡はＩ－ 9 グリッドの南西部を東西方向に伸長し、39号溝跡の南端部と18号周溝墓の南溝を切り、西端部は44号溝跡に切られている。規模は長さが2.10m、幅は0.48～0.62mである。東西軸のＮ値方位は変化点が 1 箇所認められる。東側からＮ－87.9°－Ｗ、変化点でＮ－78.6°－Ｅを指向する。断面形状は上に開く浅いＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で104cmある。覆土はＡ－Ａ’は 4 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒褐色（10YR　3/2）土層、2 層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層、3 層は黒色（10YR　1.7/1）土層、4 層は黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

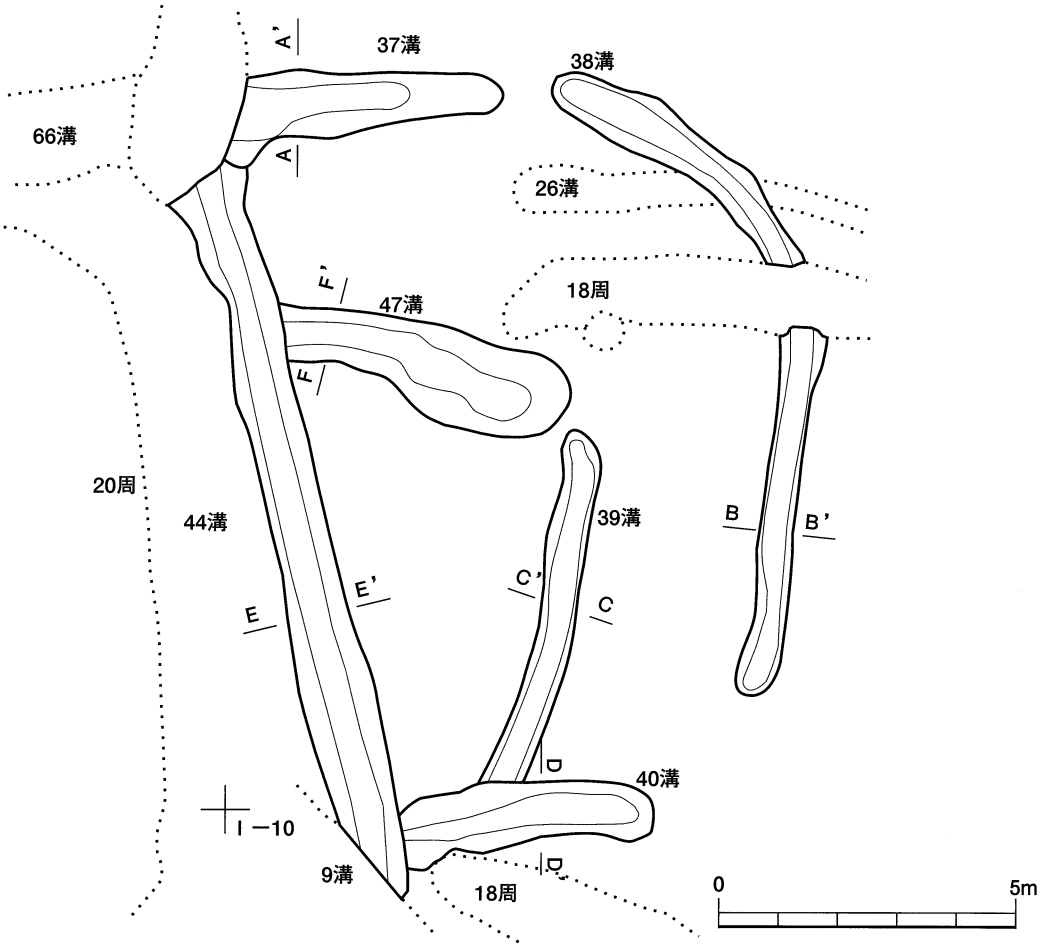
44号溝跡（弥生－17）

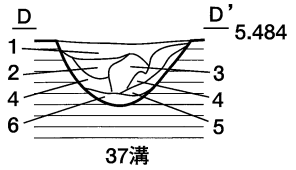
遺構　44号溝跡はＨ－ 9 グリッドとＩ－ 9 グリッドの境界付近を南北方向に伸長し、47号溝跡の西端部を切っている。北端部は70号溝跡に切られ、南端部は 9 号溝跡に切られている。規模は長さ6.15m、幅は0.38～0.68mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 2 箇所認められる。北端からＮ－14.6°－Ｗ、変化点でＮ－12.8°－Ｗ、変化点でＮ－20.4°－Ｗを指向する。断面形状は上部はＶ字形、下部はＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で45cmある。覆土は 4 層で構成される。覆土の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層は黒色（2.5YR　1.7/1）土層、3 層・4 層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は覆土から弥生土器の体部片が 2 点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

47号溝跡（弥生－18）

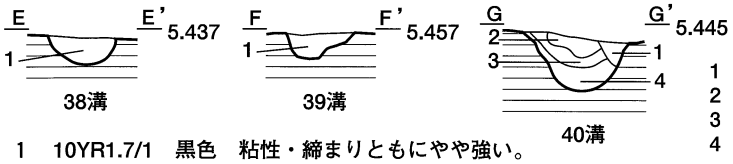
遺構　47号溝跡はＩ－ 9 グリッドの南西部を東西方向に伸長し、西端部は44号溝跡に切られ、39号溝跡の北端部と18号周溝墓の北溝の西端部に接するように終息している。規模は長さが2.56m、幅は0.42～0.76mである。東西軸のＮ値方位は変化点が 2 箇所認められる。東側からＮ－89.6°－Ｗ、変化点でＮ－63.3°－Ｗ、変化点でＮ－88.8°－Ｗを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土はＡ－Ａ’は 2 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は暗褐色（10YR　3/3）土層、2

層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部片が２点、体部片が17点、底部片が１点の合計20点出土したが、図化が可能な破片はなかった。



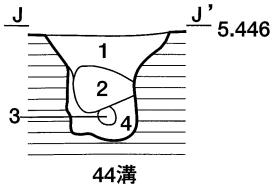


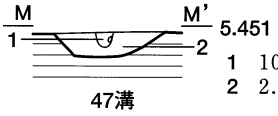
1　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
3　10YR2/1　黒色　粘性やや強く、締まり２層より強い。
4　2.5Y3/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
5　2.5Y3/2　黒褐色土に2.5Y4/2　暗灰黄色土が混じる。
6　2.5Y3/1　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。



1　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

1　10YR3/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y3/1　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
3　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
4　10YR3/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。





1　10YR3/3　暗褐色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

0　1m

1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
3　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　直径１～５mm大の砂礫が混じる。
4　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y4/2　暗灰黄色粒（直径５～10mm大）が15%ほど混じる。

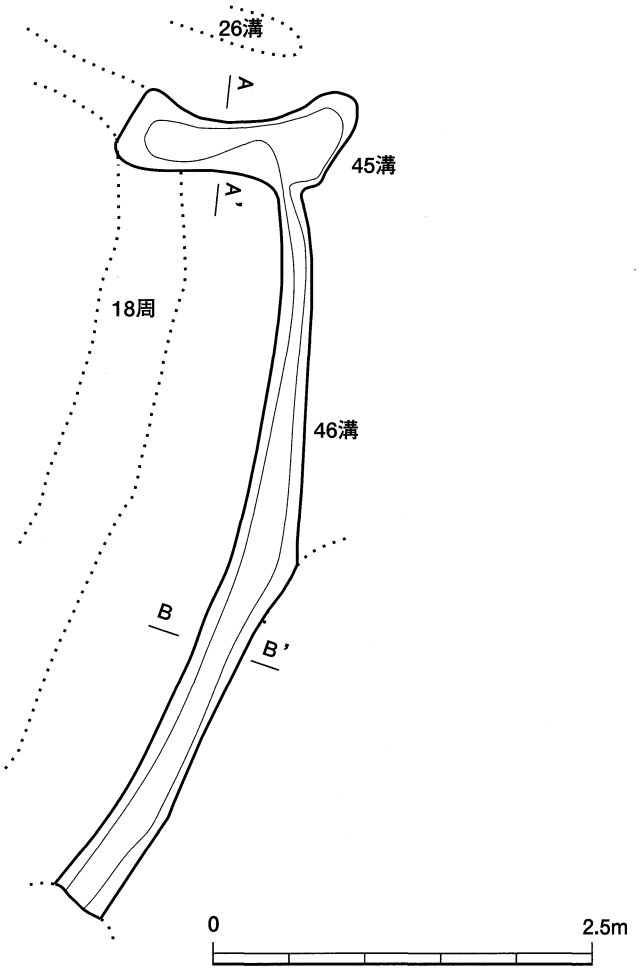
80図　37～40・44・47号溝跡の平面・断面図

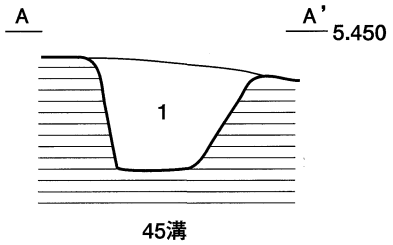
45号溝跡（弥生－19）

遺構　45号溝跡はⅠ－9グリッドを東西方向に伸長し、西端部は18号周溝墓の北東角を切っている。また、東部分では46号溝跡の北端部とほぼ直角に接している。規模は長さが1.43m、幅は0.30～0.55mである。東西軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。東側からN－89.7°－W、変化点でN－70.2°－Wを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成される。覆土の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

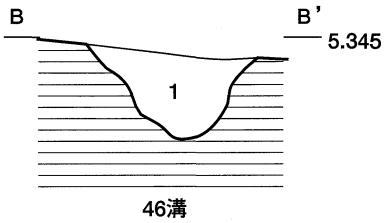
46号溝跡（弥生－20）

遺構　46号溝跡はⅠ－9グリッドからⅠ－10グリッドにかけて1号土坑と接するように南北方向に伸長し、北端部は45号溝跡とほぼ直交するように接している。南端部は撹乱により切られている。規模は長さが5.48m、幅は0.18～0.42mである。南北軸のN値方位は変化点が3箇所認められる。北側からN－10.4°－W、変化点でN－6.2°－E、変化点でN－20.9°－E、変化点でN－36.0°－Eを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は1層で構成される。覆土の1層は黒色（10YR 1.7/1）土層である。遺物は覆土から弥生土器の体部片が10点出土したが、図化が可能な破片はなかった。





1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

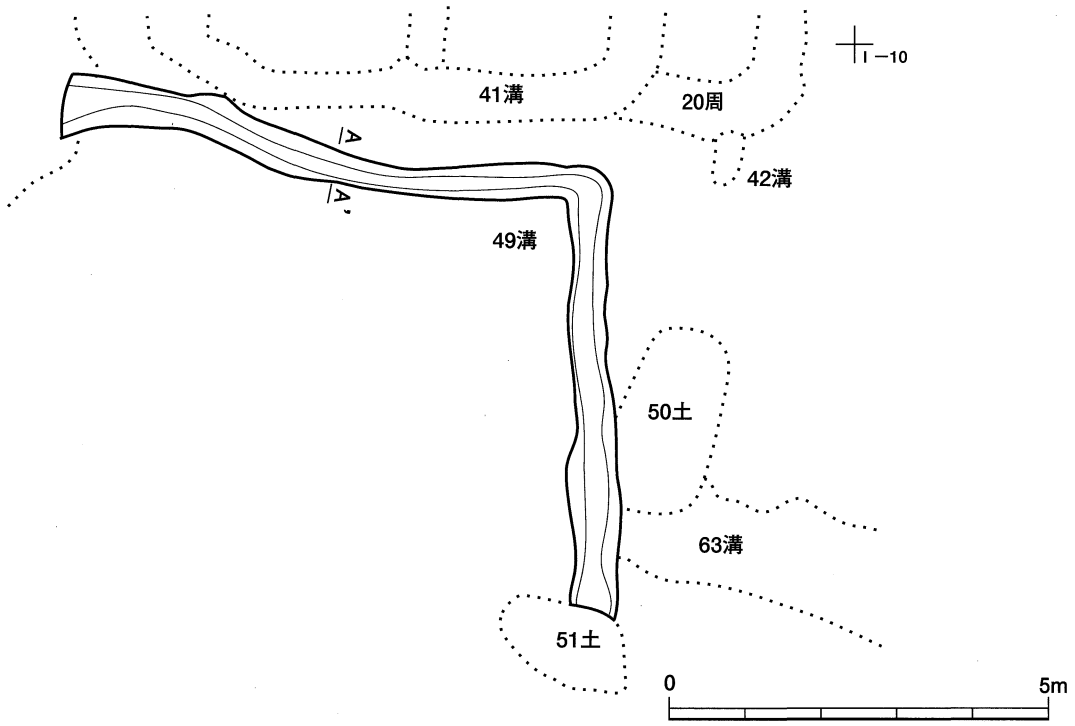
0　50cm

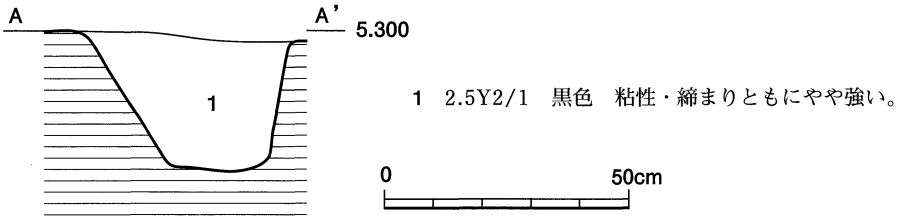
第81図　45・46号溝跡の平面・断面図

49号溝跡（弥生－21）

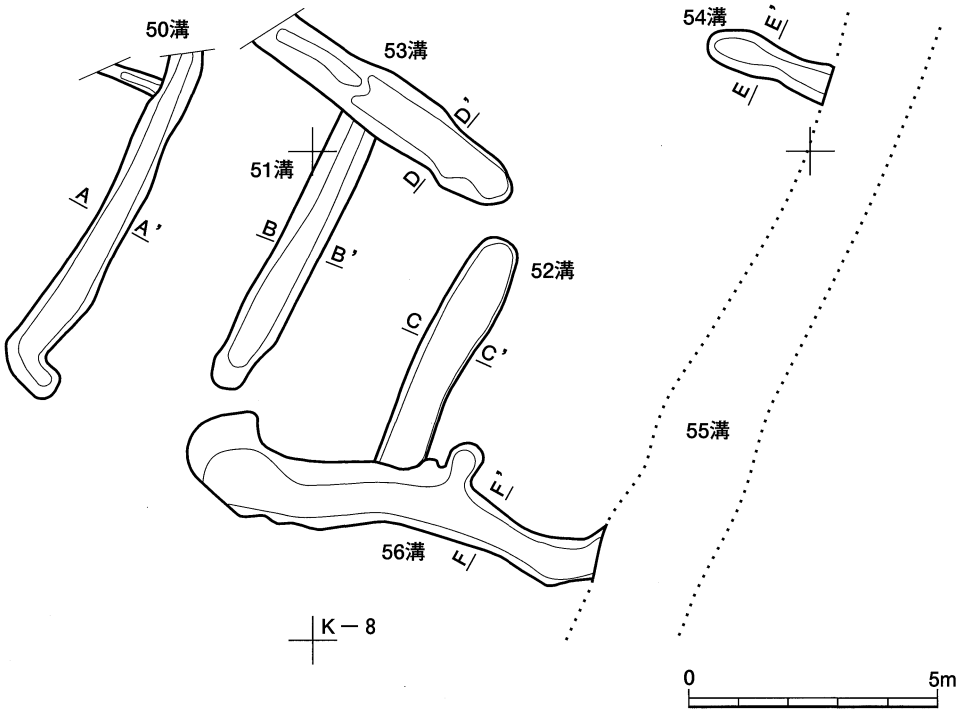
遺構　49号溝跡はＧ－10グリッドの北東部から41号溝跡に一部接しながら併走するように東西方向に伸長し、Ｈ－10グリッドで南方向に屈曲し、48号土坑の南西部に接して、63号溝跡の西端部を切っている。西端部は12号溝跡に切られており、南端部は49号土坑に切られている。規模は東西方向の長さが7.17m、南北方向の長さが5.76mで合計12.94m、幅は0.30～0.74mである。東西軸・南北軸のＮ値方位は変化点が5箇所、屈曲点が1箇所認められる。西側からＮ－85.9°－Ｗ、変化点でＮ－63.9°－Ｗ、変化点でＮ－76.1°－Ｗ、変化点でＮ－88.1°－Ｗ、屈曲点でＮ－4.7°－Ｅ、東西軸と南北軸は内角102.6°で屈曲し、変化点でＮ－9.5°－Ｗ、変化点でＮ－1.6°－Ｅを指向する。断面形状は上部は浅い丸底状、下部はＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で50cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は1層で構成される。断面Ａ－Ａ’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。

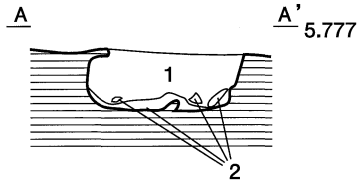
遺物は覆土の下位から弥生土器の体部片・底部片が2点、覆土の上位から土師器の口縁部片が2点、体部片が1点の計3点、須恵器の体部片が1点、底部片（高台付）が1点の合計7点出土したが、図化が可能な破片は出土しなかった。



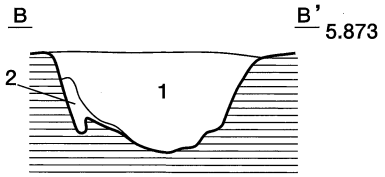


第82図　49号溝跡の平面・断面図

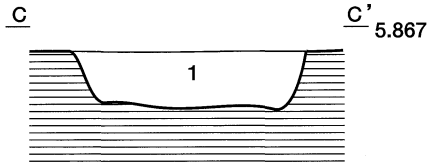




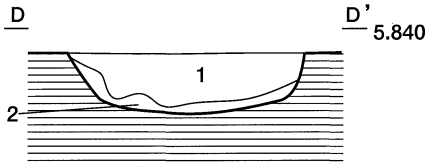
1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色と2.5Y6/4　にぶい黄色土が混じる。
粘性・締まりともにやや強い。



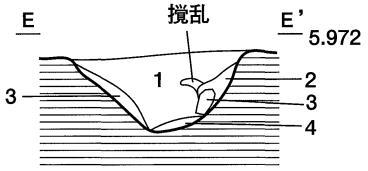
1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色と2.5Y6/4　にぶい黄色土が混じる。
粘性・締まりともにやや強い。



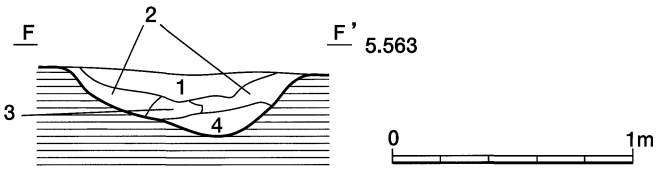
1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色と2.5Y6/4　にぶい黄色土が混じる。
粘性・締まりともにやや強い。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y5/4　黄褐色　粘性・締まりともにやや強い。
3　10YR3/1　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
4　2.5Y6/4　オリーブ褐色　粘性・締まりともにやや強い。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色土（粘性・締まりともにやや強い）が10%ほど混じる。
3　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　粘性・締まりともにやや強い。
4　2.5Y2/1　黒色　粘性やや強く、締まりかなり強い。

第83図　50～54・56号溝跡の平面・断面図

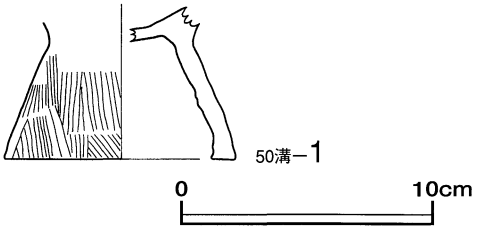
50号溝跡（弥生－22）

遺構　50号溝跡はＪ－7 グリッドの南東部から南南西方向に伸長し、Ｊ－8 グリッドの中央付近で南東方向に屈曲したあと終息している。溝跡の北部分で48号溝跡の東端部がほぼ直交するように接している。北端部より先は未調査地区のため確認できなかった。

規模は南北方向の長さが6.86m、東西方向の長さが1.09mで合計7.95m、幅は0.51～0.91mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 3 箇所、屈曲点が 1 箇所認められる。北側からＮ－19.4°－Ｅ、変化点でＮ－26.8°－Ｅ、変化点でＮ－40.7°－Ｅ、変化点でＮ－37.4°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で31cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は 2 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層は黒色（2.5Y　2/1）土とにぶい黄色（2.5Y　6/4）土が混ざり合ったものである。

遺物は覆土から弥生土器の体部片が28点、底部片が 3 点、脚部片が 1 点の計32点、土師器の体部片が 1 点の合計33点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の台付甕の脚部 1 点を図示した。

遺物　第84図の **1** は台付甕の脚部で、脚部は「ハ」の字状に開いている。外面は斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、灰色・黒色・白色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。



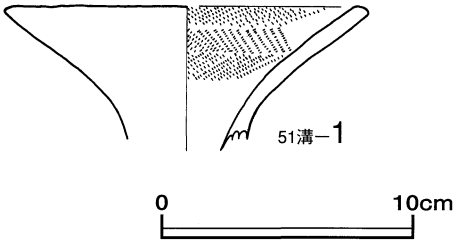
第84図　50号溝跡から出土した弥生土器の実測図

51号溝跡（弥生－23）

遺構　51号溝跡はＫ－7 グリッドの南西部から南南西方向に伸長し、Ｋ－8 グリッドの北西部を経て、Ｊ－8 グリッドの56号溝跡の西端部に接するように終息している。北端部は53号溝跡にほぼ垂直で接している。規模は長さが6.08m、幅は0.71～0.95mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 1 箇所認められる。北端からＮ－23.6°－Ｅ、変化点でＮ－31.2°－Ｅを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で49cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は 2 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層は黒色（2.5Y　2/1）土とにぶい黄色（2.5Y　6/4）土が混ざり合ったものである。

遺物は覆土から弥生土器の体部片が 6 点出土し、その内、図化が可能な弥生土器の壷の口縁部片 1 点を図示した。

遺物　第85図の **1** は壷の口縁部から頸部にかけての破片で、頸部から口縁部は大きく開き、端部を四角形に収めている。外面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。内面は口縁部に櫛歯状施具による羽状の刺突紋が施されている。胎土は粗く、灰色・白色粒を含んでいる。



第85図　51号溝跡から出土した弥生土器の実測図

52号溝跡（弥生－24）

遺構　52号溝跡はＫ－8 グリッドの中央よりやや西側を北北東から南南西方向に伸長し、南端部は56号溝跡にほぼ直角に接している。規模は長さが5.12m、幅は0.91～1.12mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 1 箇所認められる。北側からＮ－29.8°－Ｅ、変化点でＮ－15.9°－Ｅを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は 2 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層は黒色（2.5Y　2/1）土とにぶい黄色（2.5Y　6/4）土が混ざり合ったものである。

遺物は覆土から弥生土器の体部片が 5 点、台付甕の底部片が 1 点の計 6 点、土師器の体部片が 2 点、須恵器の底部片（高台付）が 1 点の合計 9 点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

53号溝跡（弥生－25）

遺構　53号溝跡はＪ－7 グリッドの南東部から南南東方向に伸長し、53号溝跡の北端部がほぼ直交するように接しているＫ－7 グリッドの南西部を経て、Ｋ－8 グリッドの52号溝跡の北端部に接するように終息している。西端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが6.35m、幅は0.95～1.27mである。東西軸のＮ値方位はＮ－54.2°－Ｗを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で83cmある。覆土はＡ－Ａ’では 2 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層は黒色（2.5Y　2/1）土とにぶい黄色（2.5Y　6/4）土が混ざり合ったものである。遺物は出土しなかった。

54号溝跡（弥生－26）

遺構　54号溝跡はＫ－7 グリッドの南東部から南南東方向に伸長し、Ｌ－7 グリッドの55号溝跡にほぼ直角で接している。規模は長さが2.53m、幅は0.19～0.47mである。東西軸のＮ値方位はＮ－67.8°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で83cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は 4 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層は黄褐色（2.5Y　5/4）土層、3 層は黒褐色（10YR　3/1）土層、4 層はオリーブ褐色（2.5Y　6/4）土層である。遺物は覆土から弥生土器の体部片が27点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

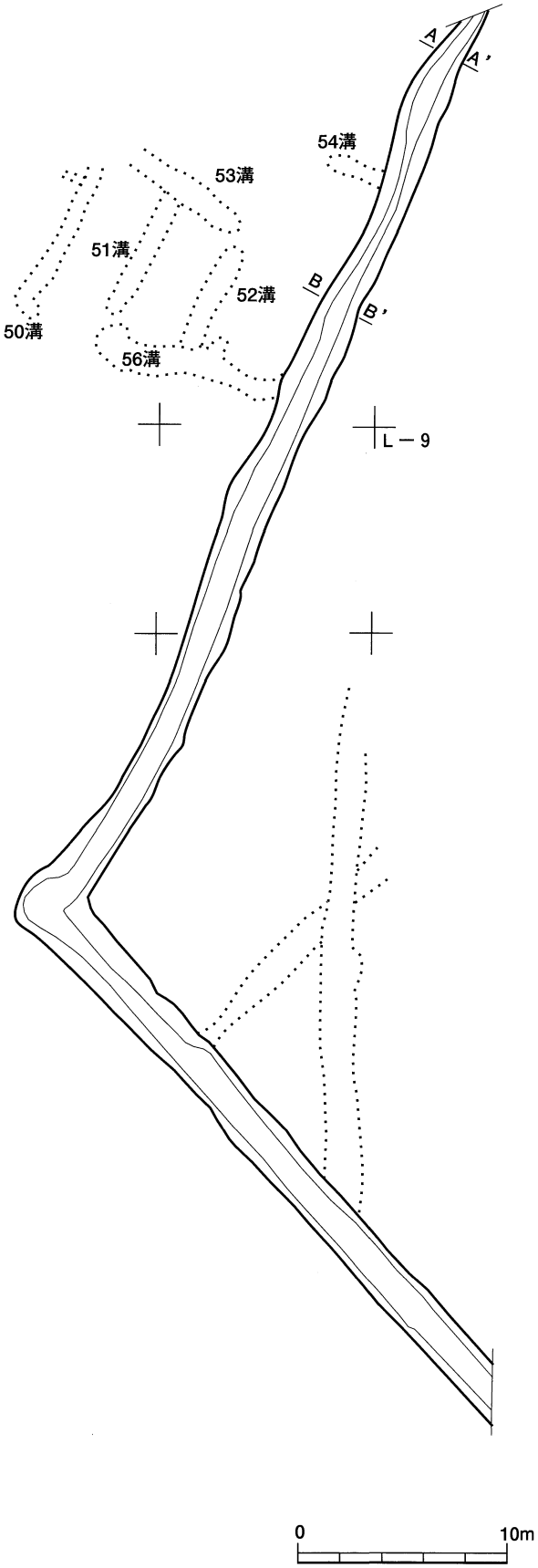
56号溝跡（弥生－27）

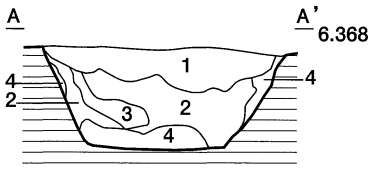
遺構　56号溝跡はＪ－8 グリッドの東側から南南東方向に伸長し、Ｋ－8 グリッドで55号溝跡にほぼ直交するように接している。規模は長さが9.47m、幅は0.75～1.47mである。東西軸のＮ値方位は変化点が 4 箇所認められる。西側からＮ－44.3°－Ｗ、変化点でＮ－87.1°－Ｅ、変化点でＮ－74.4°－Ｗ、変化点でＮ－58.7°－Ｗ、変化点でＮ－82.1°－Ｅを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で38cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は 4 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層・2 層ともに黒色（2.5Y　2/1）土層、3 層は暗オリーブ褐色（2.5Y　3/3）土層、4 層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

55号溝跡（弥生－28）

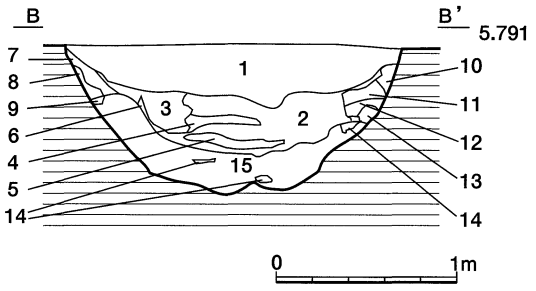
遺構　55号溝跡はＬ－7 グリッドの中央北部から南南西方向に伸長し、Ｊ－11グリッドの中央部で南東方向に屈曲し、Ｋ－12グリッドで61・62号溝跡の南端部が切っている。溝跡の北部では54・56号溝跡の東端部がほぼ直交するように接し、59号溝跡の西端部もほぼ直交するように接している。北端部および南東端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は北北東・南南西方向の長さが47.17m、北西・南東方向の長さが30.01mで合計77.18m、幅は1.54～2.49mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 6 箇所、屈曲点が 1 箇所認められる。北端からＮ－17.6°－Ｅ、変化点でＮ－27.6°－Ｅ、変化点でＮ－24.5°－Ｅ、変化点でＮ－20.5°－Ｅ、変化点でＮ－22.6°－Ｅ、変化点でＮ－31.7°－Ｅ、変化点でＮ－41.8°－Ｅ、屈曲点でＮ－41.8°－Ｗ、南北軸と東西軸は内角111.3°で屈曲しており、変化点でＮ－42.3°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形および丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で88cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’・Ｂ－Ｂ’ともに 4 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層・2 層・3 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、4 層は黒色（2.5Y　2/1）土とにぶい黄色（2.5Y　6/4）土が混ざり合ったものである。断面Ｂ－Ｂ’の 1 層・2 層・3 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、4 層は黒色（7.5Y　1.7/1）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の壷の口縁部片が16点、甕の口縁部片が20点、頸部片が42点、甕の体部片が 1 点、体部片が1,002点、壷の平底の底部片が29点、台付甕の底部から脚部にかけての破片が35点の合計1,153点出土している。その内、図化が可能な弥生土器 8 点を図示した。



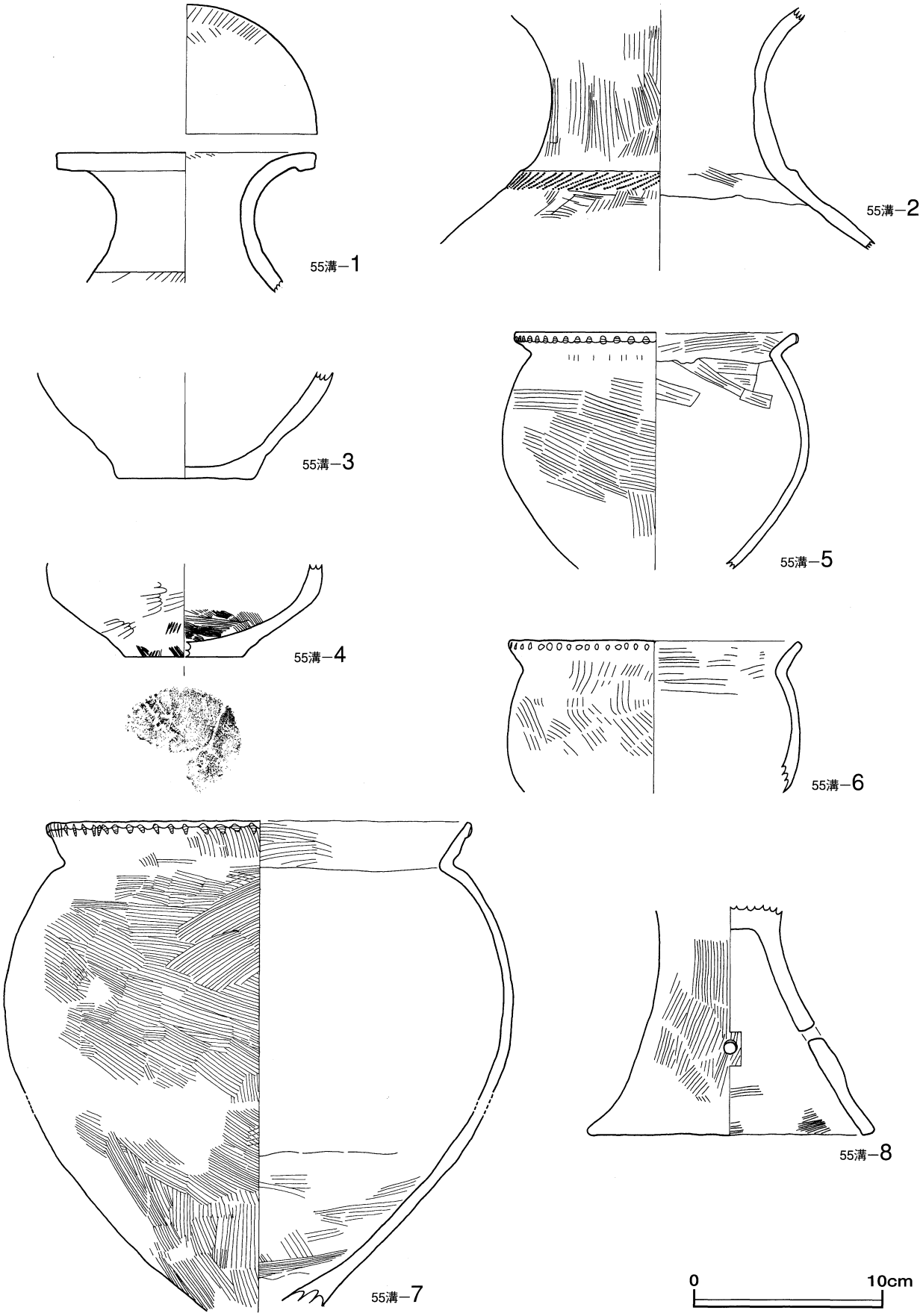


1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/3　にぶい黄色　直径10～15mm大の粒子が20%ほど混じる。
3　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/3　にぶい黄色　直径20～25mm大の粒子が20%ほど混じる。
4　2.5Y2/1　黒色土と2.5Y6/4　にぶい黄色土が混じる。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/4　にぶい黄褐色　粒子が20%ほど混じる。
3　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/4　にぶい黄褐色　粒子が30%ほど混じる。
4　2層に砂礫（直径1～5mm）が15%ほど混じる。
5　2層に砂礫（直径5～10mm）が15%ほど混じる。
6　3層に10YR1.7/1　黒色が混じる。
7　1層に2.5Y6/4　にぶい黄褐色土が30%ほど混じる。
8　2.5Y6/4　にぶい黄褐色土に1層が30%ほど混じる。
9　10YR1.7/1　黒色　砂礫（直径5～10mm）が10%ほど混じる。
10　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/4　にぶい黄褐色　粒子が60%ほど混じる。
11　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/4　にぶい黄褐色　粒子が70%ほど混じる。
12　11層に砂礫（直径5～10mm）が20%ほど混じる。
13　2.5Y6/4　にぶい黄褐色土に11層が30%ほど混じる。
14　2層と15層が混じる。
15　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/4　にぶい黄褐色　粒子が15%ほど混じる。

第86図　55号溝跡の平面・断面図

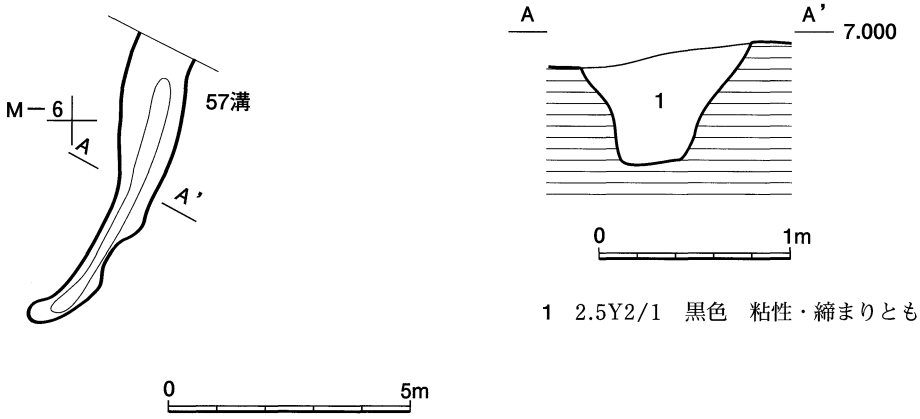


第87図　55号溝跡から出土した弥生土器の実測図

遺物　第87図の**1**は壷の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反し、端部に段を付けている。外面は頸部に櫛目紋が施されている。内面は口縁部に斜位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、白色・赤色・灰色粒を含んでいる。　**2**は壷の頸部から肩部にかけての破片で、頸部から肩部に向かって内傾し、頸部は口縁部に向かって外反しながら立ち上がっている。外面は頸部に縦位のハケ目痕が残り、頸部と肩部の間に櫛歯状施具による刺突紋が施され、肩部に斜位・横位のハケ目痕が残っている。内面は頸部に斜位のハケ目痕が残っている。胎土は粗く、橙色・赤色・・白色・灰色粒を含んでいる。
3は壷の体部下半から底部にかけての破片で、平底の底部から内湾して立ち上がっている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は粗く、白色・灰色粒を含んでいる。　**4**は壷の体部下半から底部にかけての破片で、底部は平底で、体部下半が下膨れする無花果形を呈すると思われる。外面は底部から体部下半に斜位のハケ目痕が、体部下半にはヘラ磨き痕が残り、底部には木葉痕が残っている。内面は底部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、灰色・白色・黒色粒を含んでいる。
5は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、体部に縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内部は口縁部に横位のハケ目痕が残り、体部には板ナデ仕上げが認められる。胎土は粗く、白色・赤色・灰色粒を多く含んでいる。
6は甕の口縁部から体部中央にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部は縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、灰色・白色・赤褐色粒と礫（2㎜大）を多く含んでいる。
第83図の**7**は台付甕で、脚接合部から体部下半は外反し、体部中央から頸部は内湾している。口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部には縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部から体部に横位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、長石・石英・黒色粒と礫（2～3㎜大）を含んでいる。　**8**は高坏の脚部で、脚接合部から底部は緩やかに外反して下りていて、脚部の中央には8～9㎜大の孔が4箇所空けられている。外面は縦位と斜位のハケ目痕が残り、内面は横位と斜位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、透明・白色・灰色粒を含んでいる。

57号溝跡（弥生－29）

遺構　57号溝跡はN－6グリッドの南西部から南南西方向に伸長し、N－7グリッドを経て、M－7グリッドの東部で終息している。北端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが6.37m、幅は0.38～1.30mである。南北軸のN値方位は変化点が2箇所認められる。北側からN－16.4°－E、変化点でN－29.5°－E、変化点でN－54.0°－Eを指向する。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で50㎝ある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は2層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2層は黒色（2.5Y　2/1）土とにぶい黄色（2.5Y　6/4）土が混ざり合ったものである。遺物は出土しなかった。



1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

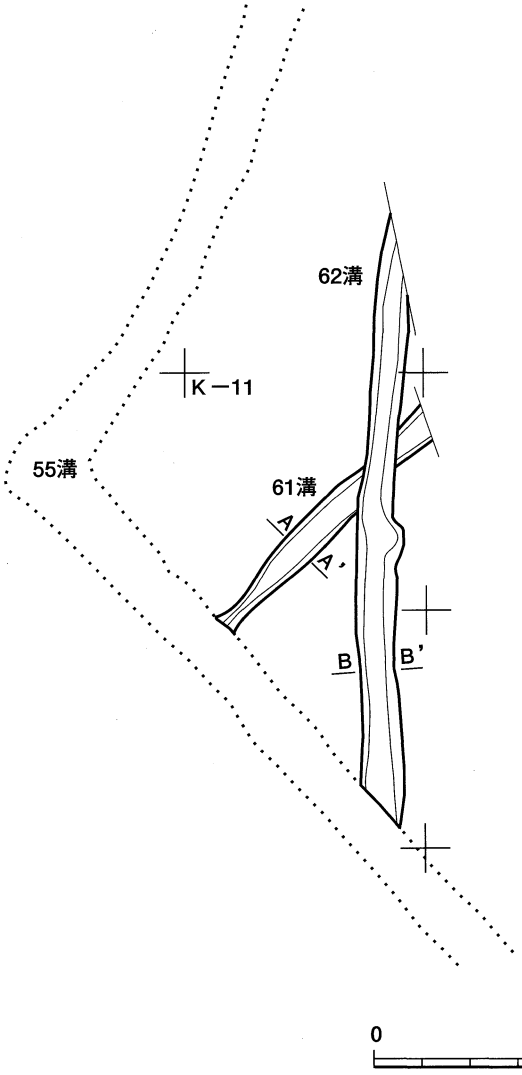
第88図　57号溝跡の平面・断面図

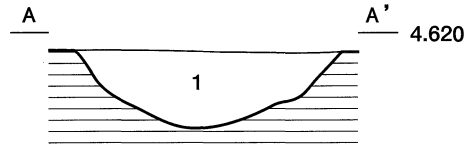
61号溝跡（弥生－30）

遺構　61号溝跡はＬ－11グリッドの北西部から南西方向に伸長し、Ｋ－11グリッドで62号溝跡に切られ、Ｋ－12グリッドの北西部で55号溝跡に切られている。北端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが13.42m、幅は0.58～1.62mである。南北軸のＮ値方位はＮ－43.8°－Ｅを指向する。断面形状は浅い丸底状および皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で46cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は覆土から出土しなかった。

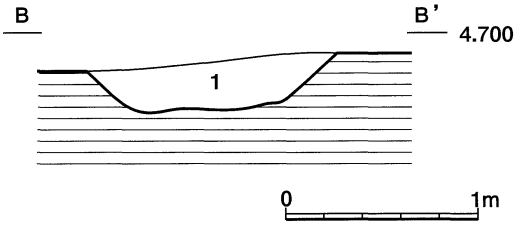
62号溝跡（弥生－31）

遺構　62号溝跡はＫ－10グリッド北東から南北方向に伸長し、Ｋ－11グリッドで61号溝跡を切っていて、Ｋ－12グリッド南東の55号溝跡に切られている。北端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は東西方向の長さが24.04m、幅は1.14～1.80mである。南北軸のＮ値方位は変化点が３箇所認められる。北側からＮ－6.6°－Ｅ、変化点でＮ－24.3°－Ｗ、変化点でＮ－13.5°－Ｅ、変化点でＮ－2.8°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形および皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で46cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。





1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

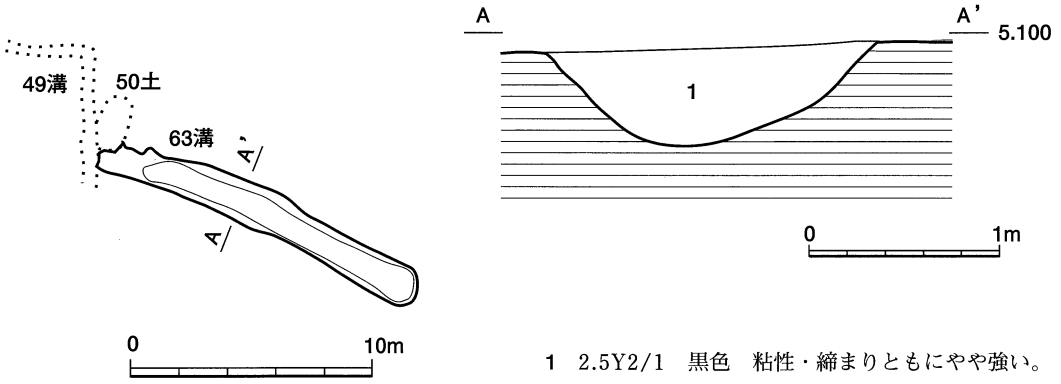


1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

第89図　61・62号溝跡の平面・断面図

63号溝跡（弥生－32）

遺構　63号溝跡はＨ－10グリッドの南東部から東南東方向に伸長し、Ｉ－10・11グリッドを経て、Ｊ－11グリッドの北西部で55号溝跡の屈曲点に接するように終息している。西端部は48号土坑に接して49号溝跡に切られている。規模は長さが14.64m、幅は0.74～1.84mである。東西軸のＮ値方位は変化点が２箇所認められる。西側からＮ－76.7°－Ｗ、変化点でＮ－61.9°－Ｗを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で55cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

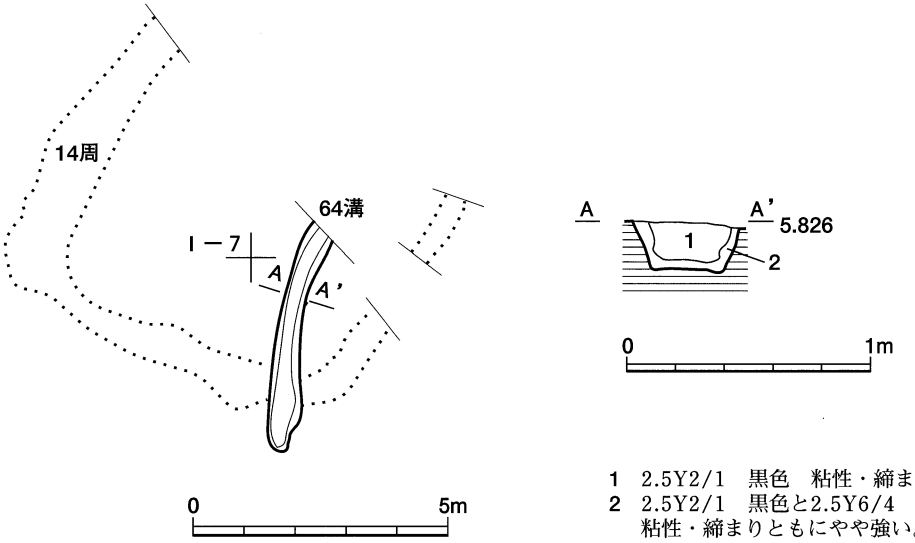


1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。

第90図　63号溝跡の平面・断面図

64号溝跡（弥生－33）

遺構　64号溝跡はＪ－7グリッドの南西部から南方向に伸長し、Ｊ－8グリッドで14号周溝墓の南溝を切って終息している。北端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが4.54m、幅は0.41～0.59mである。南北軸のＮ値方位は変化点が２箇所認められる。北側からＮ－27.7°－Ｅ、変化点でＮ－5.5°－Ｅ、変化点でＮ－6.4°－Ｅを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で34cmある。覆土はＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（10TR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



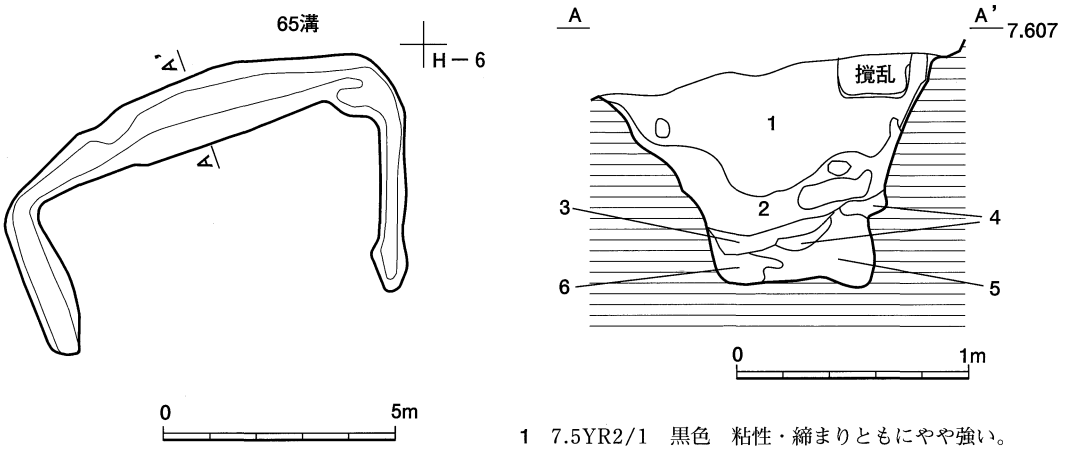
1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y2/1　黒色と2.5Y6/4　にぶい黄色土が混じる。
粘性・締まりともにやや強い。

第91図　64号溝跡の平面・断面図

65号溝跡（弥生－34）

遺構　65号溝跡はＧ－6 グリッドに位置し、逆U字状を呈している。規模は西側の南北方向の溝の長さが3.11m、北側の東西方向の溝の長さが2.00m、東側の南北方向の溝の長さが4.70mで合計15.81m、幅は0.48～1.51mである。南北・東西軸のＮ値方位は変化点が 5 箇所、屈曲点が 2 箇所認められる。南西端からＮ－21.6°－Ｗ、屈曲点でＮ－31.8°－Ｅ、南北軸と東西軸は内角96.5°で屈曲し、変化点でＮ－60.1°－Ｅ、変化点でＮ－56.9°－Ｅ、変化点でＮ－78.3°－Ｅ、屈曲点でＮ－82.3°－Ｅ、東西軸と南北軸は内角77.8°で屈曲し、変化点でＮ－31.4°－Ｗ、変化点でＮ－0.3°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で111cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は 4 層、Ｂ－Ｂ’は 4 層、Ｃ－Ｃ’は 1 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層は黒色（7.5YR　2/1）土層、2 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、3 層は黒色（7.5YR　2/1）土層、4 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の 1 層は黒色（7.5YR　2/1）土層、2 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、3 層・4 層は黒色（10YR　2/1）土層である。断面Ｃ－Ｃ’の 1 層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の体部片が 4 点出土したが、図化が可能な破片はなかった。



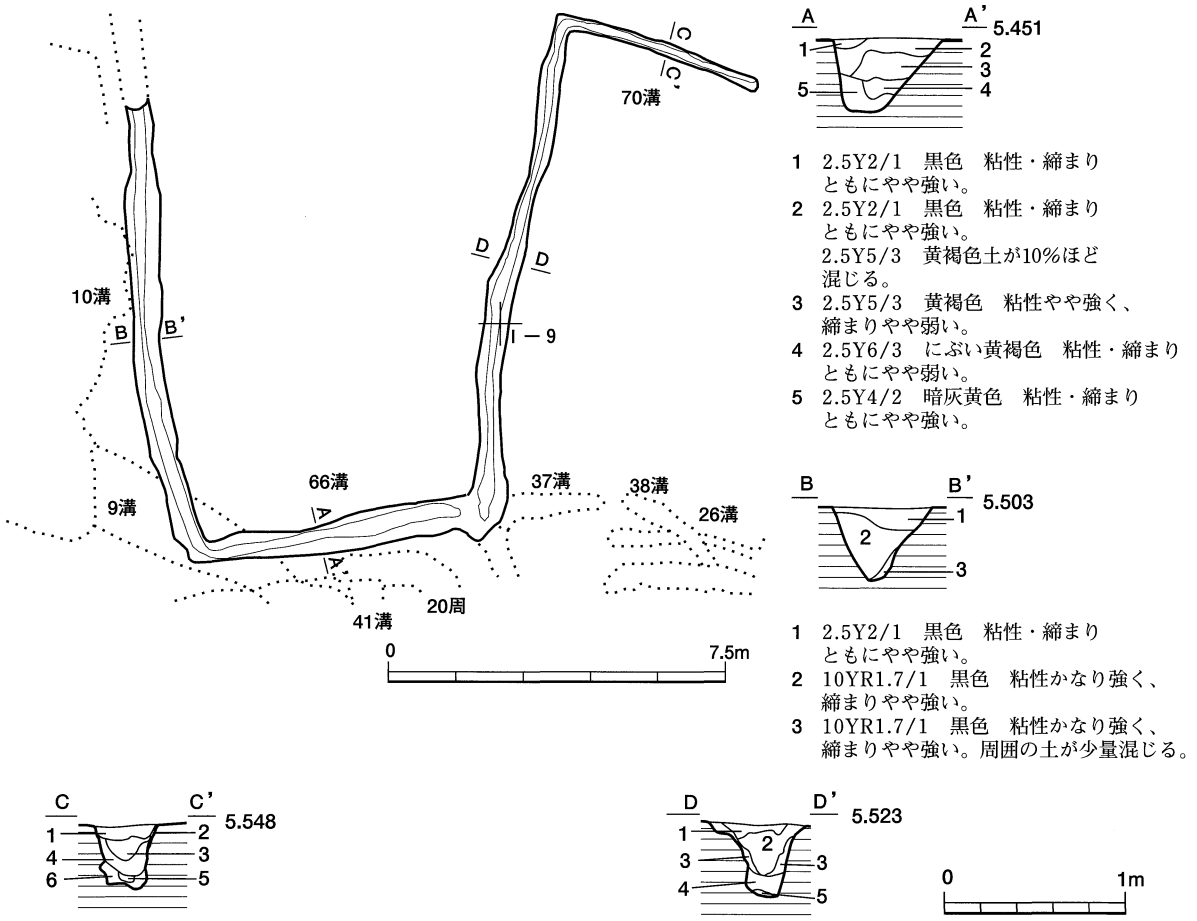
1　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10YR8/4　浅黄橙色（直径 1 ～ 4 mm大）・7.5YR4/4　褐色（直径 1 ～20mm大）粒子と10YR4/3　にぶい黄褐色土が 3 %ほど混じる。
2　10YR2/2　黒褐色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　　10YR8/4　浅黄橙色　粒子（直径 1 ～120mm大）が50%ほど混じる。
3　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10YR8/4　浅黄橙色　粒子（直径30mm大）が 3 %ほど混じる。
4　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10YR8/4　浅黄橙色　粒子（直径 1 ～120mm大）が50%ほど混じる。
5　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
6　10YR2/2　黒褐色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　　10YR8/4　浅黄橙色　粒子（直径 1 ～ 3 mm大）が 5 %ほど混じる。

第92図　65号溝跡の平面・断面図

66号溝跡（弥生－35）

遺構　66号溝跡はＨ－8 グリッドの西側中央部で71号溝跡の南端部から17号周溝墓の東溝に併走するように南方向へ伸長し、Ｈ－9 グリッドの中央部で東方向に屈曲し、東端部は70号溝跡に接している。南北方向に伸長している部分は、10号溝跡（自然排水路）により、上端の一部が削られている。

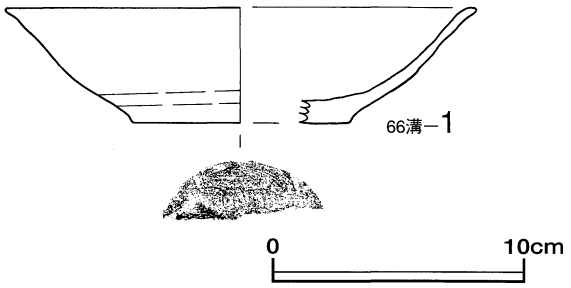
規模は南北方向の溝の長さが9.97m、東西方向の溝の長さが6.42mで合計16.39m、幅は0.40～0.84mである。南北軸のＮ値方位は変化点が 5 箇所、屈曲点が 1 箇所認められる。北からＮ－0.5°－Ｅ、変化点でＮ－5.4°－Ｗ、変化点でＮ－17.7°－Ｗ、屈曲点でＮ－57.5°－Ｗ、すなわち南北軸と東西軸の内角は101.6°で屈曲し、変化点でＮ－78.8°－Ｅ、変化点でＮ－84.4°－Ｅを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で56cmある。覆土はＡ－Ａ’は 5 層、Ｂ－Ｂ’は 3 層で構成される。断面Ａ－Ａ’の 1 層・2 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、3 層は黄褐色（2.5Y　5/3）土層、4 層はにぶい黄色（2.5Y　6/3）土層、5 層は暗灰黄色（2.5Y　4/2）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の 1 層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2 層・3 層は黒色（2.5Y　1.7/1）土層である。



第93図　66・70号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土の下位から弥生土器の口縁部片が２点、壷の頸部片が４点、体部片が66点、底部片が３点、脚部片が２点の計77点、覆土の上位から土師器の体部片が２点、底部片が１点、須恵器の口縁部片が４点、体部片が10点、底部片が３点、高坏の脚部片が１点の合計98点出土している。その内、図化が可能な土師器の皿の破片１点を図示した。

遺物　第94図の１は皿の破片で、底部は平底で、口縁部にむかって大きく外反している。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。それ以外は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は密で、石英・黒色・赤色粒を多く含んでいる。



第94図　66号溝跡から出土した土師器の実測図

70号溝跡（弥生－36）

遺構　70号溝跡はＩ－8グリッドの中央東側から西方向に伸長し、屈曲して南方向に伸長する。南端部は37・66号溝跡に接している。規模は長さが16.42m、幅は0.26～0.64mである。東西方向のＮ値方位は変

化点が 6 箇所、屈曲点が 1 箇所認められる。東端からN－65.1°－W、変化点でN－75.5°－W、屈曲点でN－17.9°－E、すなわち東西軸と南北軸の内角は79.1°で屈曲し、変化点でN－4.4°－E、変化点でN－15.0°－E、変化点でN－6.0°－E、変化点でN－0.6°－E、変化点でN－9.5°－Eを指向する。断面形状はU字形および上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で36cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は 4 層、B－B’は 5 層で構成される。断面A－A’の 1 層は黒色（2.5Y 2/1）土層、2 層・3 層は黒色（7.5YR　2/1）土層、4 層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層である。断面B－B’の1層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2層は黒色（7.5YR　2/1）土層、3層は黒褐色（5YR　2/1）土層、4層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、5層は層は黒褐色（5YR　2/1）土層である。

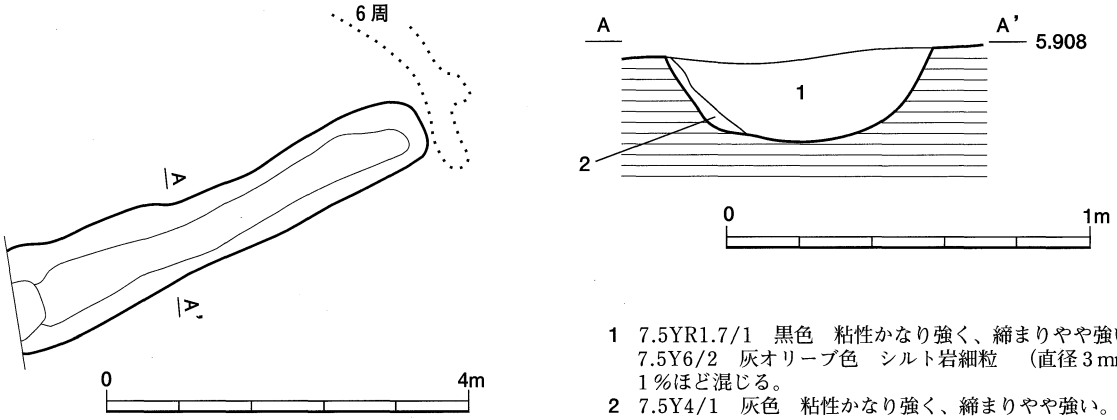
遺物は覆土から弥生土器の壺の口縁部片が 2 点、甕の口縁部片が 3 点、体部片が33点、底部片が 1 点の合計39点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の壺の口縁部片 1 点を図示した。

第95図　70号溝跡から出土した弥生土器の実測図

遺物　第95図の **1** は弥生土器の甕の口縁部片で、口縁部は外反している。外面は口縁部に刻み目痕と縦位と斜位のハケ目痕が残り、内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、茶色・灰色粒を含んでいる。

67号溝跡（弥生－37）

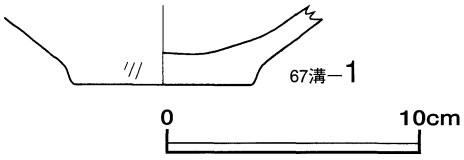
遺構　67号溝跡はB－7 グリッドの北側中央部からA－7 グリッドの東部にかけて伸長し、西端部は未調査地区のため確認できなかった。東端部は 6 号周溝墓の溝の南端部に接するように終息している。規模は長さが7.05m、幅は0.88～1.67mである。東西軸のN値方位は変化点が 2 箇所認められる。東からN－76.6°－E、変化点でN－58.3°－E、変化点でN－71.1°－Eを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で49cmある。覆土はA－A’は 2 層で構成される。断面A－A’の 1 層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、2 層は暗オリーブ灰色（7.5Y　4/1）土層である。



第96図　67号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から弥生土器片が 3 点出土し、その内、図化が可能な弥生土器の底部片 1 点を図示した。

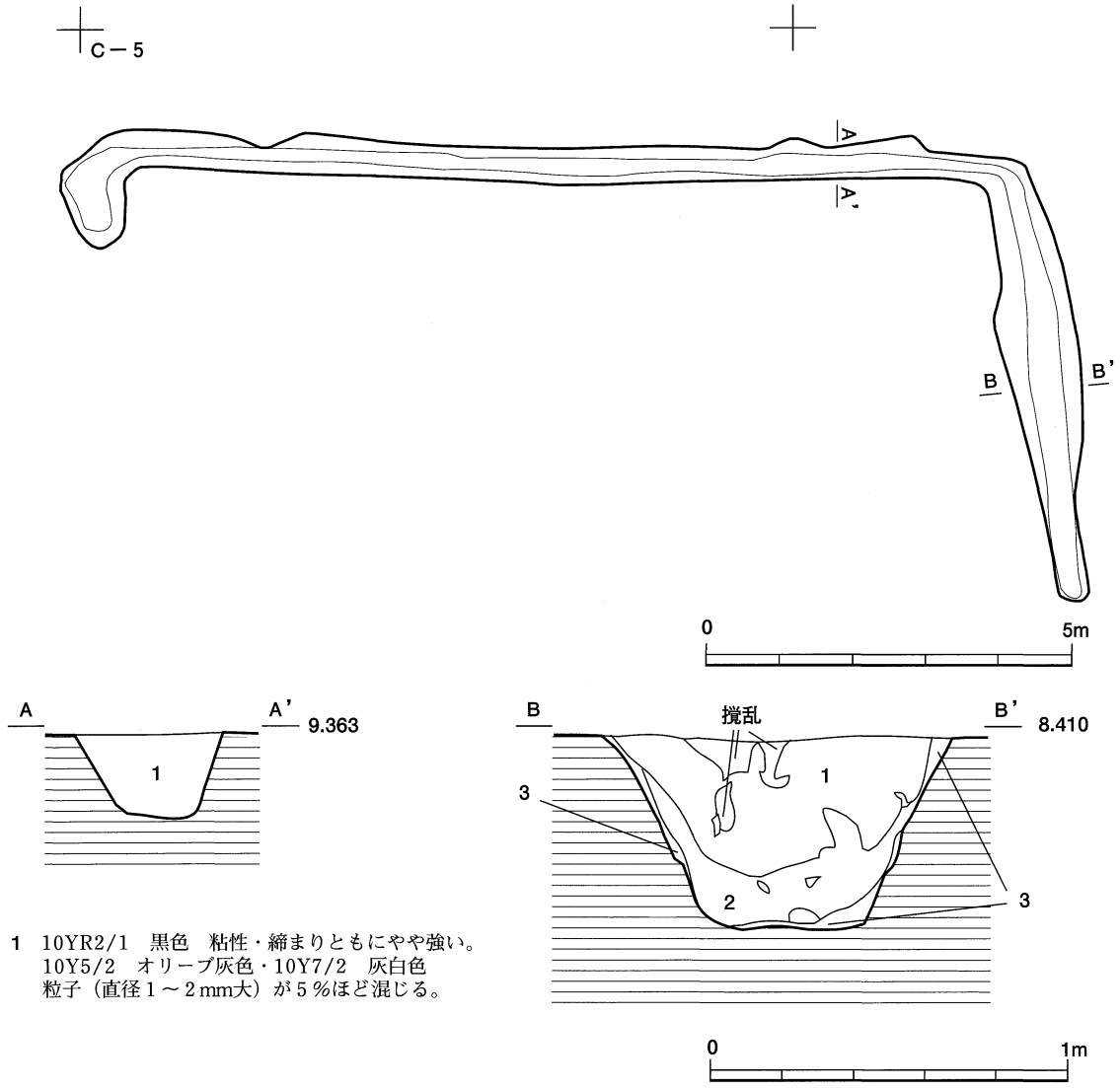
遺物　第97図の **1** は底部の破片で、平底の底部から外反して立ち上がっている。外面は斜位のハケ目痕がわずかに残っているが、摩耗している。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、白色・灰色粒と礫（3 ㎜大）を多く含んでいる。



第97図　67号溝跡から出土した弥生土器の実測図

68号溝跡（弥生－38）

遺構　68号溝跡はＣ－5 グリッドの西部から東方向に伸長し、Ｄ－5 グリッドで南方向に屈曲し、同じグリッドで終息している。規模は長さが18.50m、幅は0.35～1.12mである。東西軸のＮ値方位は変化点が 8 箇所、屈曲点が 1 箇所認められる。西端からＮ－89.7°－Ｗ、変化点でＮ－87.6°－Ｗ、変化点でＮ－89.77°－Ｗ、変化点でＮ－87.7°－Ｅ、変化点でＮ－86.2°－Ｗ、変化点でＮ－77.77°－Ｗ、屈曲点でＮ－26.6°－Ｗ、すなわち東西軸と南北軸の内角は107.0°で屈曲し、変化点でＮ－13.9°－Ｗ、変化点でＮ－5.3°－Ｗ、変化点でＮ－11.0°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で76cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがＡ－Ａ’は１層、Ｂ－Ｂ’は３層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（10YR　2/1）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の１層は黒色（7.5YR　2/1）土層、２層は黒色（10YR　2/1）土層、３層は黒褐色（10YR　3/2）土層である。

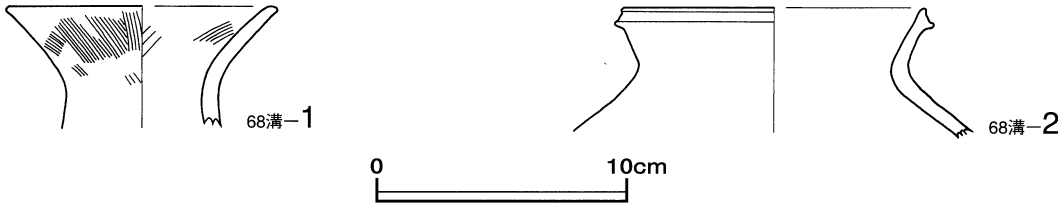


1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
10Y5/2　オリーブ灰色・10Y7/2　灰白色
粒子（直径１～２mm大）が５%ほど混じる。

1　7.5YR2/1　黒色　粘性やや強く、締まりかなり強い。
10YR8/3　浅黄橙色　最大径(８×５)mm大　90%以上は直径２～３mm大
7.5YR5/8　明褐色（直径2～3mm大）・2.5YR4/8　赤褐色
（直径１～２mm大）10YR6/6　明黄褐色（直径１～３mm大）
粒子が10%ほど混じる。
2　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
１層と同じような含有物が5%ほど混じる。
3　10YR3/2　黒褐色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
含有は、第２層と同じ。

第98図　68号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から弥生土器の壺の口縁部片が6点、体部片が33点の計39点、土師器の坏の口縁部片が3点、体部片が7点、底部片が2点の計12点、須恵器の口縁部片1点、体部片が3点、底部片が3点の計7点、合計58点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の壺の口縁部の破片1点と須恵器の口縁部の破片1点を図示した。

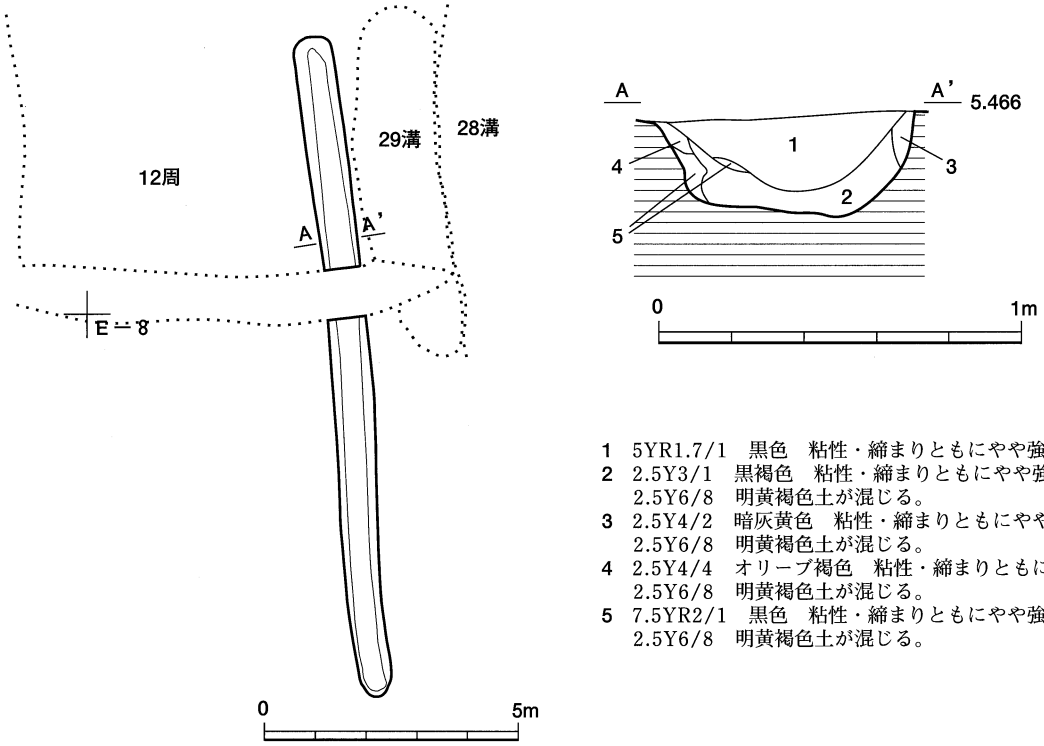


第99図　68号溝跡から出土した弥生土器と須恵器の実測図

遺物　第99図の**1**は壺の口縁部の破片で、頸部から口縁部は外反している。外面は斜位のハケ目痕が残っている。内面は斜位のハケ目痕が残っているが、摩耗している。胎土は普通で、白色・灰色・茶色粒と小礫（2㎜大）を多く含んでいる。　**2**は須恵器の甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反し、端部を三角形に収めている。内外面ともナデ仕上げが認められ、全体に釉がかかっている。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。

69号溝跡（弥生－39）

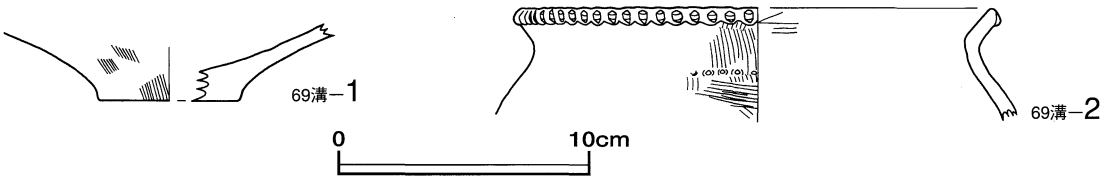
遺構　69号溝跡はE－7・8グリッドの中央部を南北方向に伸長し、溝の中央部で12号周溝墓の南溝を切るように直交している。規模は長さが6.60m、幅は0.32～0.41mである。東西軸のN値方位は変化点が4箇所認められる。北からN－8.1°－W、変化点でN－4.7°－W、変化点でN－2.7°－W、変化点でN－3.3°－W、変化点でN－9.9°－Wを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で49cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A’は2層、B－B’は4層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（5YR　1.7/1）土層、2層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層である。断面B－B’の1層はオリーブ黒色（5Y　3/2）土層、2層は黒色（5Y　2/1）土層、3層は黒色（10YR　2/1）土層、4層は灰オリーブ色（7.5Y　4/2）土層である。



1　5YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　2.5Y3/1　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/8　明黄褐色土が混じる。
3　2.5Y4/2　暗灰黄色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/8　明黄褐色土が混じる。
4　2.5Y4/4　オリーブ褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/8　明黄褐色土が混じる。
5　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y6/8　明黄褐色土が混じる。

第100図　69号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部片が２点、体部片が２点、底部および脚部片が４点、壷の体部片が43点、底部片が１点の計52点、須恵器の口縁部片が１点で合計53点出土し、その内、図化が可能な弥生土器の壷の底部片１点、甕の口縁部片１点の計２点を図示した。

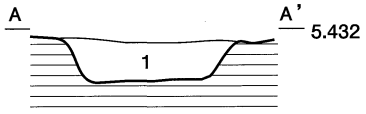


第101図　69号溝跡から出土した弥生土器の実測図

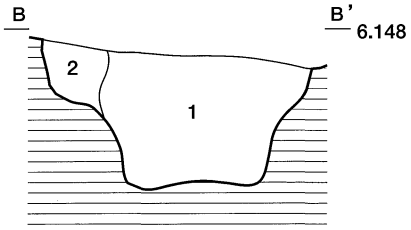
遺物　第101図の **1** は壷の底部の破片で、平底の底部から大きく外反している。外面は縦位と斜位のハケ目痕が残り、内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、灰色・白色粒と小礫（２㎜大）を含んでいる。　**2** は甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口唇部に刻み目痕が残り、体部に斜位と横位のハケ目痕が残っている。頸部には刺突紋が施されている。内面は頸部に斜位と横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、灰色・黒色・赤色粒を含んでいる。

71号溝跡　（弥生－40）

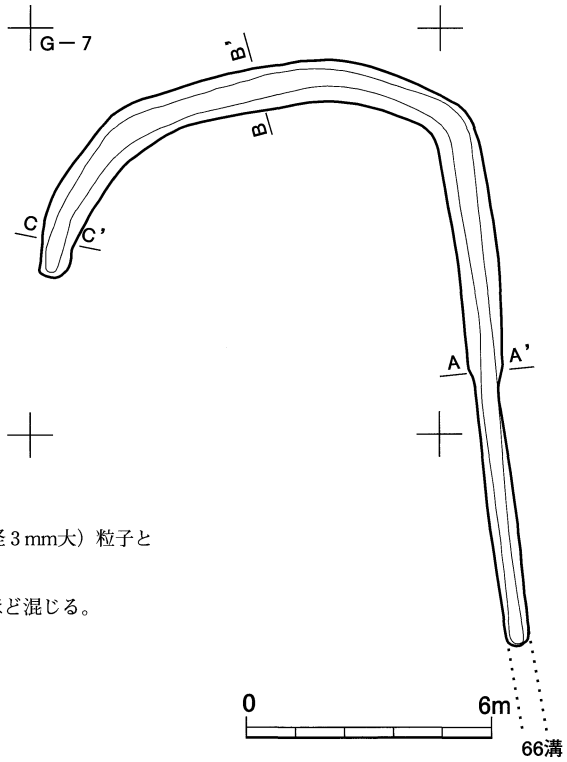
遺構　71号溝跡はＧ－７グリッドの西側から北側を経て東側へ弧状に伸長し、Ｈ－７グリッドで南方向に伸長する。規模は長さが25.62m、幅は0.56～1.11mである。南北軸のＮ値方位は変化点が９箇所認められ

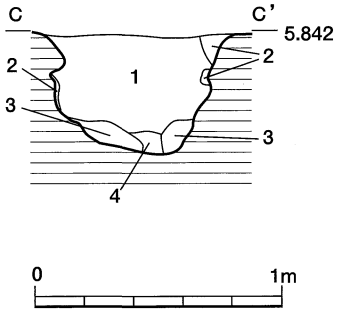


1　7.5YR1.7/1　黒色　粘性非常に強く、締まりかなり強い。
　　10Y7/2　灰白色　粒子（直径１～２mm大）が１％ほど混じる。



1　7.5YR1.7/1　黒色　粘性非常に強く、締まりかなり強い。
　　10Y7/1　灰白色　（直径２mm大）・2.5YR4/8　赤褐色（直径３mm大）粒子と
　　10Y3/2　オリーブ黒色土が３％ほど混じる。
2　2.5Y2/1　黒色土・7.5Y3/2　オリーブ黒色土が混じる。
　　10YR7/6　明黄褐色　粒子（直径４～７mm大）と鉄分が１％ほど混じる。



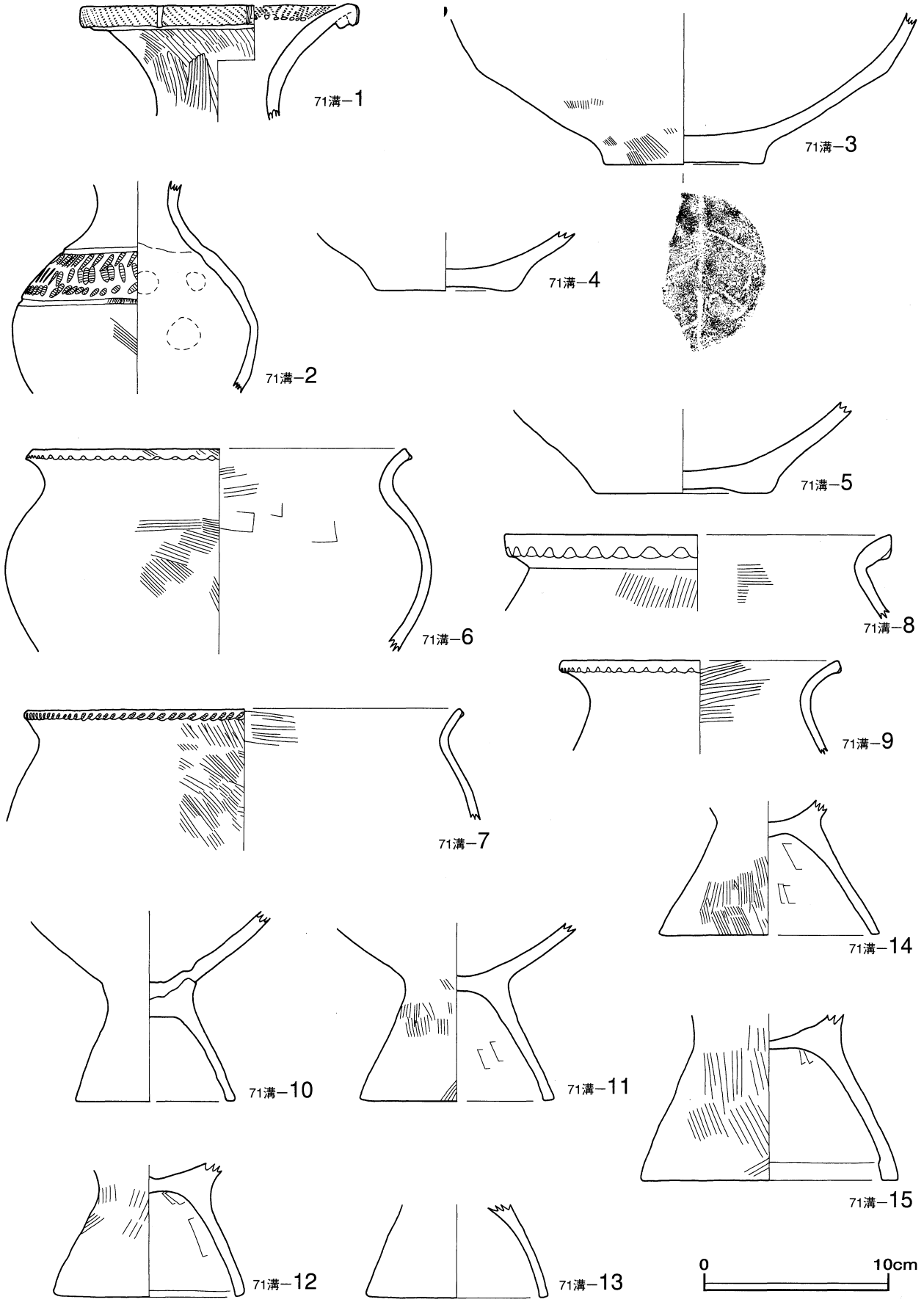


1　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10GY6/1　緑灰色（直径10mm大）・5Y6/4オリーブ黄色（直径３mm大）
　　7.5YR4/6　褐色（直径５mm大）　粒子が１％ほど混じる。
2　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　2.5Y8/1　灰白色（直径1mm大）・7.5YR5/8　明褐色（直径２mm大）
　　粒子が１％ほど混じる。
3　7.5Y3/2　オリーブ黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　　2.5Y6/6　明黄褐色土・10YR1.7/1　黒色土が混じる。
4　10YR1.7/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10GY6/1　緑灰色（直径10mm大）・5Y6/4オリーブ黄色（直径３mm大）
　　7.5YR4/6　褐色（直径５mm大）　粒子が５％ほど混じる。

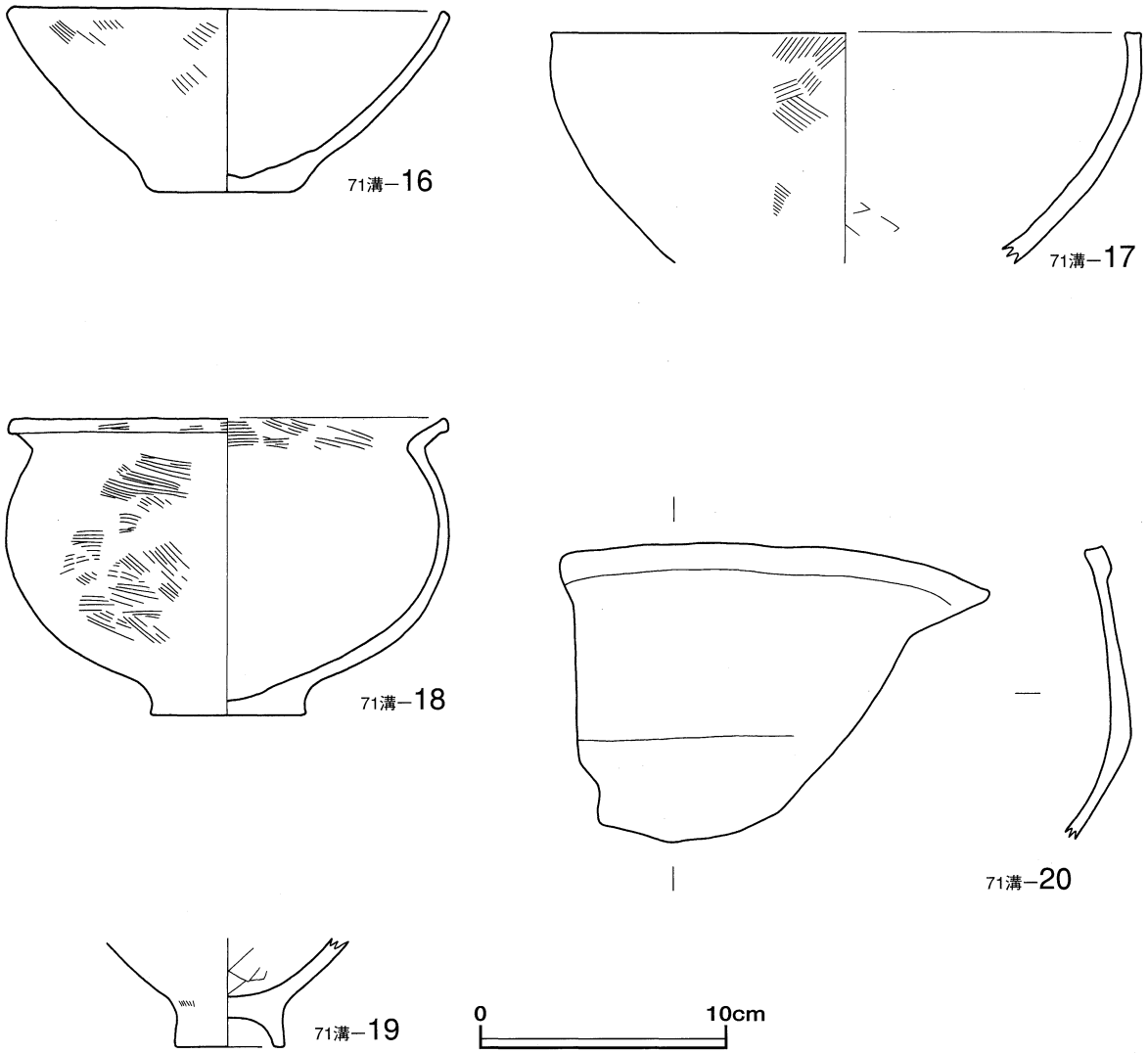
第102図　71号溝跡の平面・断面図

る。西端からN－11.3°－E、変化点でN－26.6°－E、変化点でN－37.5°－E、変化点でN－69.0°－E、変化点でN－77.0°－E、変化点でN－84.7°－W、変化点でN－71.9°－W、変化点でN－57.2°－W、変化点でN－14.5°－W、変化点でN－6.4°－Wを指向する。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で52cmある。覆土はA－A’は1層、B－B’は2層、C－C’は4層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層である。断面B－B’の1層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、2層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。断面C－C’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は黒褐色（10YR　2/1）土層、3層は黒色（10YR　1.7/1）土層、4層はオリーブ黒色（7.5Y　3/2）土層である。遺物は覆土から弥生土器の口縁部片が12点、小型壺が1点、体部片が413点、底部片が3点、甕の口縁部片が4点、台付甕形土器の底部から脚部片が12点、台付甕形土器の脚部が2点、鉢が1点、鉢の口縁部が2点の計450点、土師器の口縁部片が1点、体部片が14点の計15点、須恵器の体部片が7点、高坏の底部片が1点、坏の底部片（高台付）が3点の計11点で、合計476点が出土している。その内、図化が可能な壺の口縁部片1点、小型壺の頸部から体部下半にかけての破片1点、壺の底部3点、壺の底部から体部下半にかけての破片1点、甕の口縁部から体部下半にかけての破片1点、甕形土器の口縁部片3点、台付甕の底部から脚部にかけての破片5点、台付甕の脚部1点、鉢が2点、鉢の口縁部片2点の計20点を図示した。

遺物　第103図の**1**は壺の口縁部片で、頸部から口縁部は外反し、端部は折り返して複合口縁になっている。外面は口縁部に櫛歯状施具による刺突紋を施した後、2個1組の浮紋が3箇所に貼り付けてある。頸部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に櫛歯状施具による刺突紋を施した後、竹管紋が1周していると思われる。胎土はやや粗く、長石・石英・橙色・黒色粒を含んでいる。　**2**は小型壺の頸部から体部下半にかけての破片で、体部下半から体部中央は丸味を帯びて外反し、体部中央から頸部は内湾している。外面は体部上半に2本の太い沈線と羽状刺突紋が施され、下半に斜位のハケ目痕が残っている。内面は体部に指頭圧痕が残っている。胎土は普通で、石英・長石・黒色粒が含まれている。　**3**は壺の体部下半から底部にかけての破片で、底部は平底で体部は丸味を帯びて外反している。外面は体部下半から底部に縦位と斜位のハケ目痕が残り、底部には木葉痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、白色・灰色粒と小礫（2㎜大）を多く含んでいる。　**4**は壺の底部の破片で、ほぼ平底の底部から外反して立ち上がっている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、赤色・灰色・白色粒を含んでいる。　**5**は壺の底部の破片で、底部の中央に段があり、体部は外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、長石・石英・黒色粒が多く、白色礫（3～4㎜大）が少量含まれている。　**6**は甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部は内湾し、口縁部で「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕と斜位のハケ目痕が残り、体部に斜位と横位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残り、体部に板ナデ仕上げが認められる。胎土はやや粗く、白色・灰色・橙色粒を含んでいる。　**7**は甕の口縁部片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、体部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、赤色・灰色・白色粒を含んでいる。　**8**は甕の口縁部片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に刻み目痕が残り、体部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は体部に横位のハケ目痕が残っている。胎土はやや粗く、白色・灰色粒と小礫（2㎜大）を多く含んでいる。　**9**は甕の口縁部片で、口縁部は「く」の字状に外反し、端部を四角形に収めている。外面は口縁部に刻み目痕が残り、内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、茶色・灰色粒を多く含んでいる。　**10**は台付甕の底部から脚部にかけての破片で、脚部は「ハ」の字状に開き、体部は外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、長石・石英・灰色粒を含んでいる。　**11**は台付甕の底部から脚部にかけての破片で、脚部は「ハ」の字状に開き、体部は内湾している。外面は脚部に縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面は脚部に板ナデ仕上げが認められる。胎土は粗く、赤色・灰色粒を含んでいる。　**12**は台付甕の脚部で、脚の接合部から底部は緩やかに外反している。外面は縦位のハケ目痕が残り、内面は板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、赤色・灰色・白色粒を含んでいる。　**13**は台付甕の脚部で、脚は「ハ」の字状に開いている。外面はハケ目痕がわずかに残っているが、摩耗している。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、黒色・灰色粒を含んでいる。　**14**は弥生土器の台付甕形土器の脚部で、脚部は「ハ」の字状に開いている。外面は縦位のハケ目痕が残り、内面は板ナデ仕上げ



第103図　71号溝跡から出土した弥生土器の実測図（1）



第104図　71号溝跡から出土した弥生土器の実測図（2）

が認められる。胎土は粗く、赤色・灰色・橙色粒を含んでいる。　**15**は台付甕形土器の脚部で、脚部は「ハ」の字状に開いている。外面は縦位と斜位のハケ目痕が残っている。内面はわずかに板ナデ痕が残されている。胎土はやや粗く、長石・石英・黒色粒を含んでいる。第104図の**16**は鉢で、平底の底部から口縁部まで大きく外反している。外面は縦位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色・橙色粒を含んでいる。　**17**は鉢の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部から口縁部は内湾している。外面は口縁部から体部に斜位のハケ目痕が残り、内面は体部に板ナデ仕上げが認められる。胎土はやや粗く、白色・灰色・赤色粒が多く含まれている。　**18**は鉢で、平底の底部から外反して立ち上がり、体部は球形を呈する。口縁部は「く」の字状に外反し、端部を四角形に収めている。外面は口縁部から体部に横位と斜位のハケ目痕が残り、内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、白色・灰色・茶色粒と礫（３㎜大）を多く含んでいる。　**19**は鉢（？）の底部から脚部の破片で、体部は内湾し、脚の接合部から裾部は短くほぼ垂直に下りている。外面は、脚の接合部に縦位のハケ目痕が残り、内面は体部に板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、白色・灰色粒を含んでいる。　**20**は鉢（？）の口縁部片で、口縁部は直線的に立ち上がり、端部を四角形に収めている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、白色・灰色・赤色粒を多く含んでいる。

〈穴状遺構〉

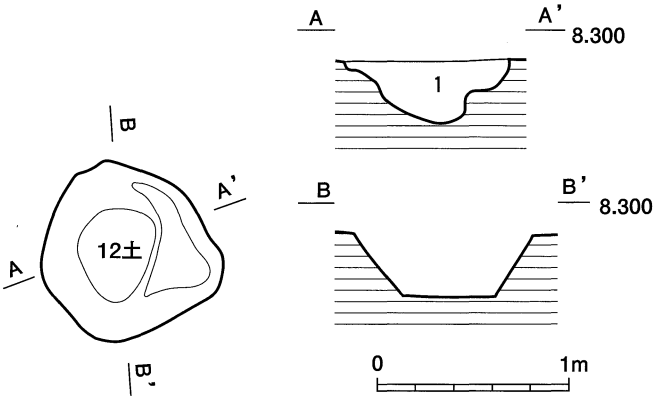
穴状遺構は土坑２基とピット28基確認したが、ピットで規則性のあるものは存在しなかった。ピット群はＨ－6 グリッド、Ｈ－9 グリッドの北東部からＩ－8 グリッドの南西部にかけて分布するもの、Ｌ－7・8 グリッド、Ｍ－7 グリッドの北部からＭ－8 グリッドの東部にかけて分布するものの４群に分けられる。また、Ｂ－7 グリッド、Ｃ－9 グリッド、Ｊ－10グリッドに単独で存在するものがある。

〈土　坑〉

12号土坑（弥生－１）

遺構　12号土坑はＢ－7 グリットの中央部よりやや南寄りに位置している。平面形状は円形で、規模は長軸の長さが0.90m、短軸の長さが0.89mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－20°－Ｗを指向している。断面形状は中間に段があるが丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で38cmある。覆土は１層で構成され、黒色（10YR　2/1）土層である。

遺物は弥生土器の体部片が２点出土しているが、図化が可能な遺物はなかった。

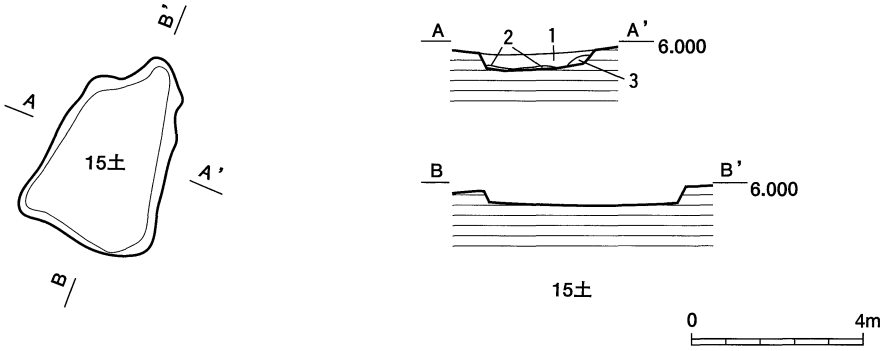


1　黒色10YR2/1
締まりはふつう、粘性はややあり。ただし、直径２～３mm のｼﾙﾄ～粘質土
（黄褐色10YR5/6・オリーブ褐色2.5Y4/3）が10%ほど混入する。

第105図　12号土坑の平面・断面図

15号土坑（弥生－２）

遺構　15号土坑はＨ－6 グリットの南東部に位置し、平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが4.75m、短軸の長さが2.73mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－20°－Ｅを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で37cmある。覆土は３層で構成され、１層は黒色（10YR　1.7/1）土層、２層はオリーブ黒色（7.5YR　3/2）土層、３層は黒色（5Y　2/1）土層である。遺物は弥生土器の口縁部片が３点、体部片が７点、底部片が１点の合計11点出土しているが、図化が可能な遺物はなかった。

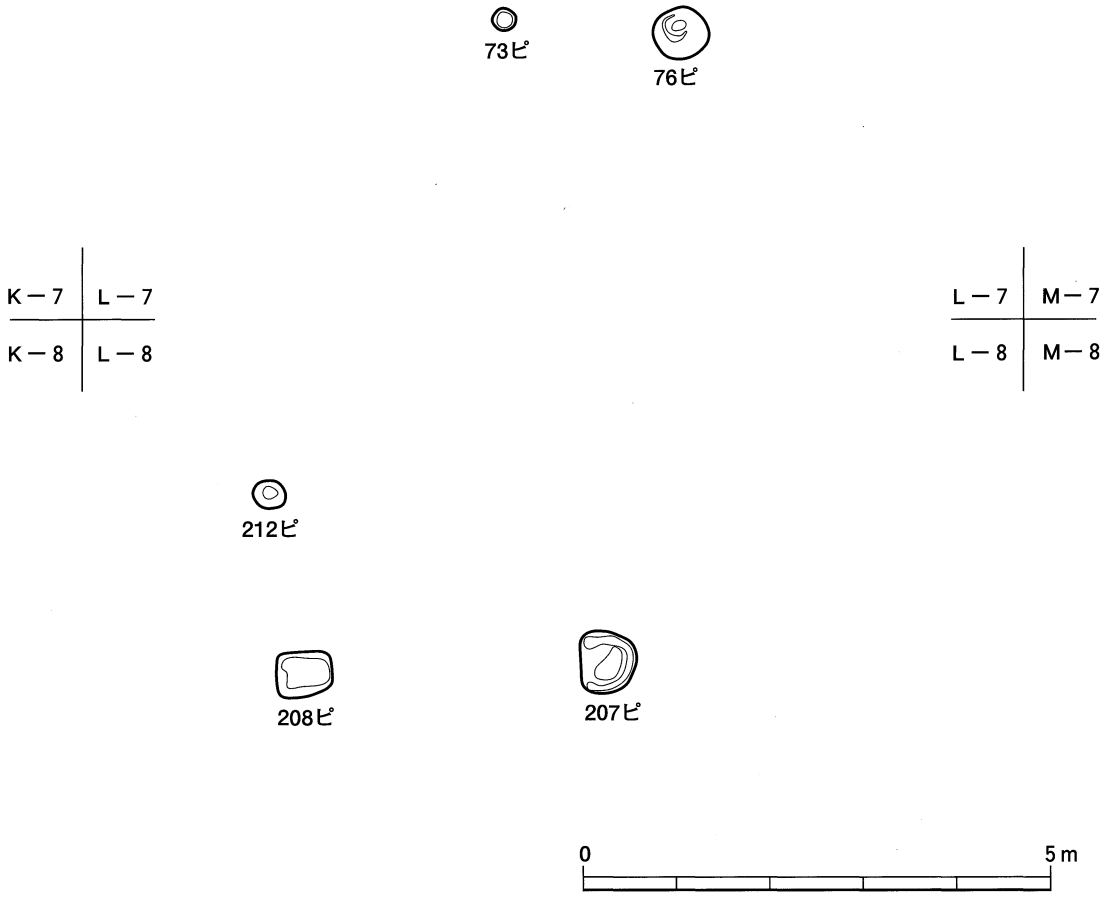


第106図　15号土坑の平面・断面図

〈ピット〉

・73・76・207・208・212号ピット

73・76号ピットはＬ－7 グリッドの中央部よりやや南寄りに位置し、207・208・212号ピットはＬ－8 グリッドの中央部から北西部に位置している。



第107図　73・76・207・208・212号ピットの分布図

73号ピット（弥生－1）

遺構　L－7 グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は 1 層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は弥生土器の体部片が1点出土しているが、図化は出来なかった。

76号ピット（弥生－2）

遺構　L－7 グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.56m、短軸の長さが0.54mを測る。長軸のN値変換方位はN－51°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で39cmある。覆土は 1 層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

207号ピット（弥生－3）

遺構　L－8 グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.64m、短軸の長さが0.59mを測る。長軸のN値変換方位はN－3°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で29cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

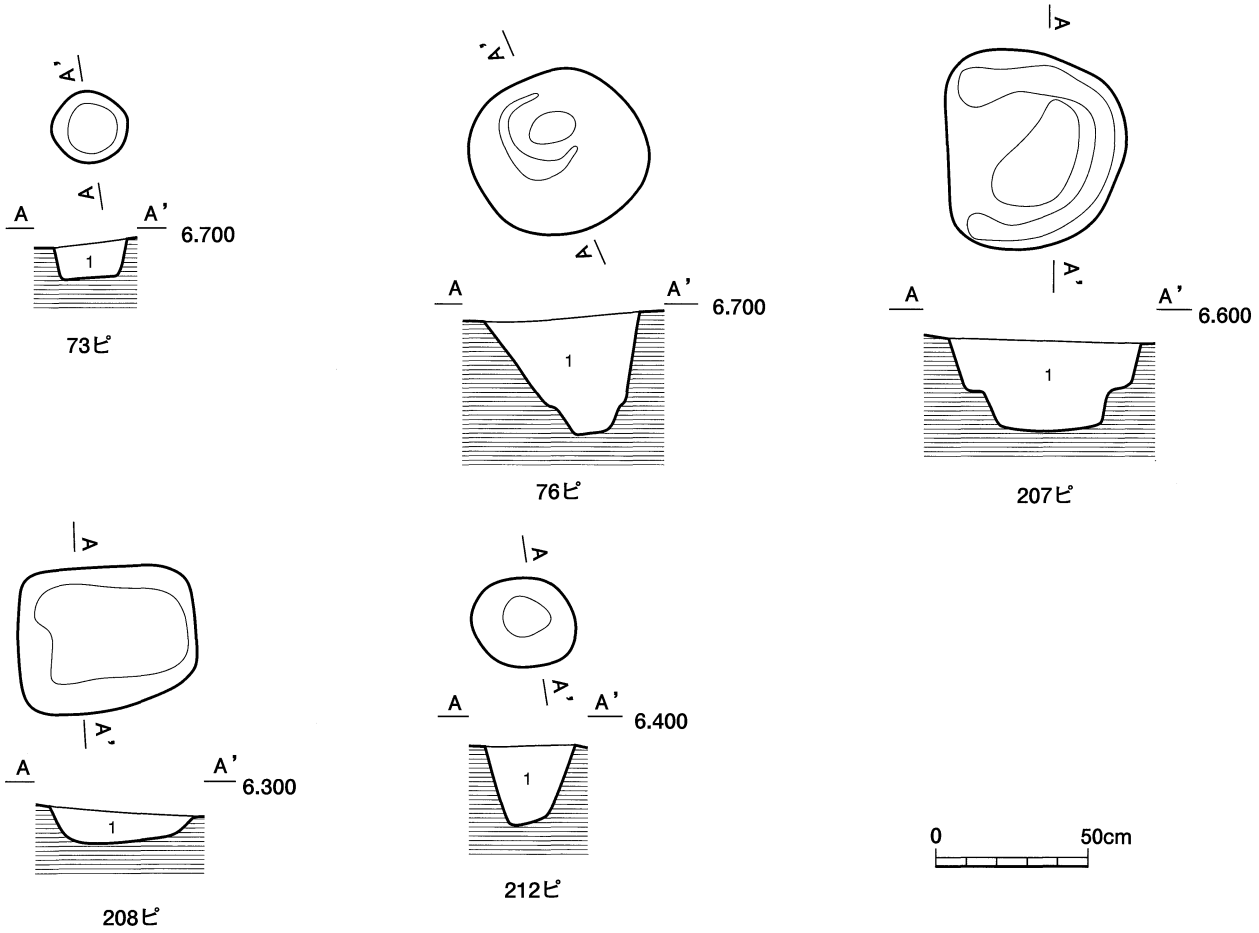
208号ピット（弥生－4）

遺構　L－8 グリッドの西部に位置し、平面形状は隅丸長方形を呈している。規模は長軸の長さが0.59m、短軸の長さが0.48mを測る。長軸のN値変換方位はN－82°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。

遺物は弥生土器の体部片が2点出土しているが、図化は出来なかった。

212号ピット（弥生－5）

遺構　L－8グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.31cmを測る。長軸のN値変換方位はN－73°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で26cmある。覆土は1層で構成され黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。



第108図　73・76・207・208・212号ピットの平面・断面図

・121・122・124・125号ピット

121・122・124ピットはB－7グリッドの南西部で、12号土坑の周縁に分布し、125号ピットはB－7グリッドの東北部に位置している。

121号ピット（弥生－6）

遺構　B－7グリッドの南西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.57m、短軸の長さが0.46mを測る。長軸のN値変換方位はN－79°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

122号ピット（弥生－7）

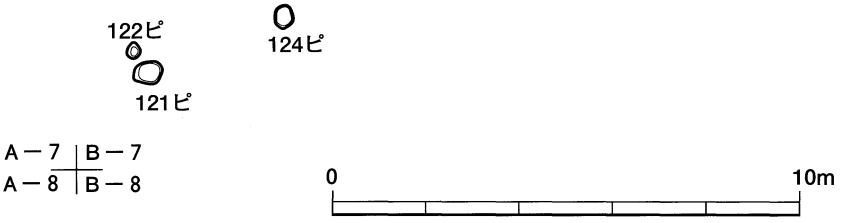
遺構　B－7グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－71°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で44cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

124号ピット（弥生－8）

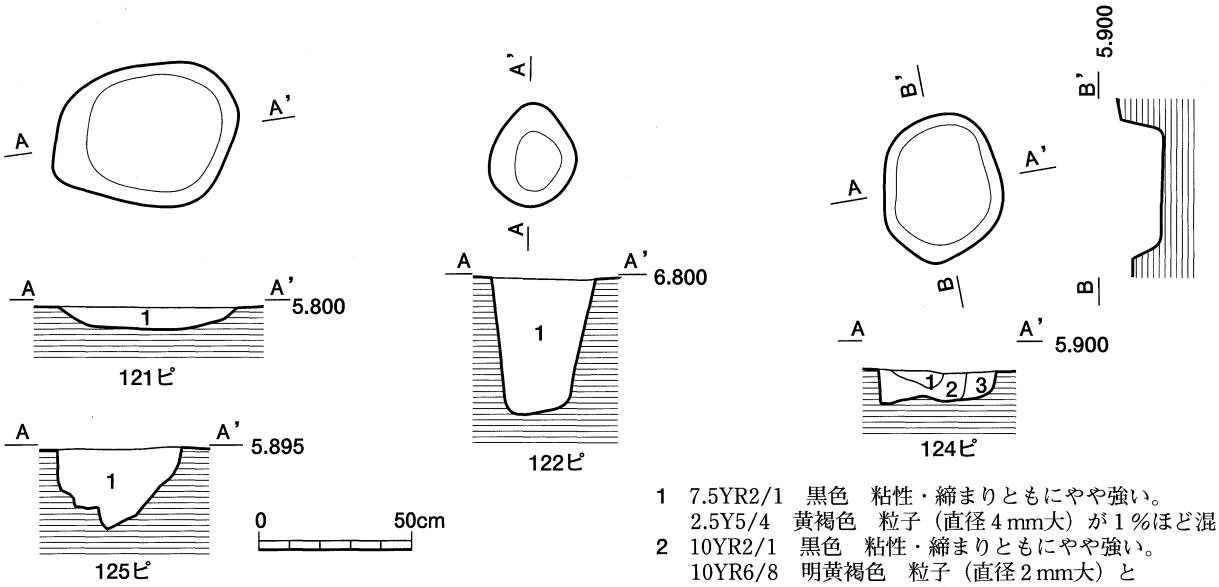
遺構　B－7グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.50m、短軸の長さが0.39mを測る。長軸のN値変換方位はN－11°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は3層で構成され、1層は黒色土（7.5YR　2/1）土層、2層は黒色土（2.5YR　2/1）土層、3層は黒色土（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

125号ピット（弥生－9）

遺構　C－7グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方N－35°－Wを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第109図　121・122・124・125号ピットの分布図



1　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　2.5Y5/4　黄褐色　粒子（直径4mm大）が1％ほど混じる。
2　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　10YR6/8　明黄褐色　粒子（直径2mm大）と
　　5Y3/1　オリーブ黒色土（粘性・締まりともにかなり弱い）
　　が1％ほど混じる。
3　2.5Y3/1　黒褐色　粘性・締まりやや弱い。

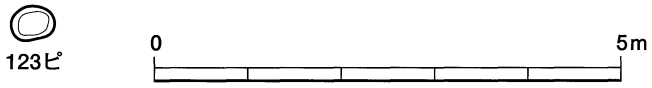
第110図　121・122・124・125号ピットの平面・断面図

・123号ピット

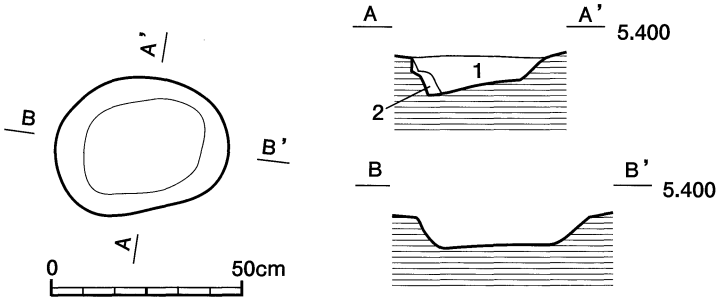
123号ピットは単独に存在している。

123号ピット（弥生－10）

遺構　C－9 グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.45m、短軸の長さが0.36mを測る。長軸のN値変換方位はN－80°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10mある。覆土は 2 層で構成され、1 層はオリーブ黒色（5Y　3／2）土層、2 層はオリーブ黒色（7.5Y　2／2）土層である。遺物は弥生土器の体部片が18点出土しているが、図化は出来なかった。



第111図　123号ピットの位置図と平面・断面図



第112図　123号ピットの平面・断面図

・215・219号ピット

215・219号ピットはH－6グリッドの北東部で、15号土坑の北側に位置する。

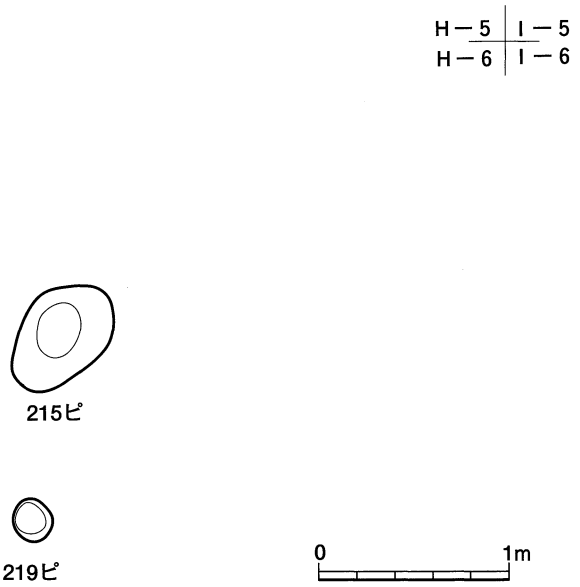
215号ピット（弥生－11）

遺構　H－6 グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.65m、短軸の長さが0.44mを測る。長軸のN値変換方位はN－44°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

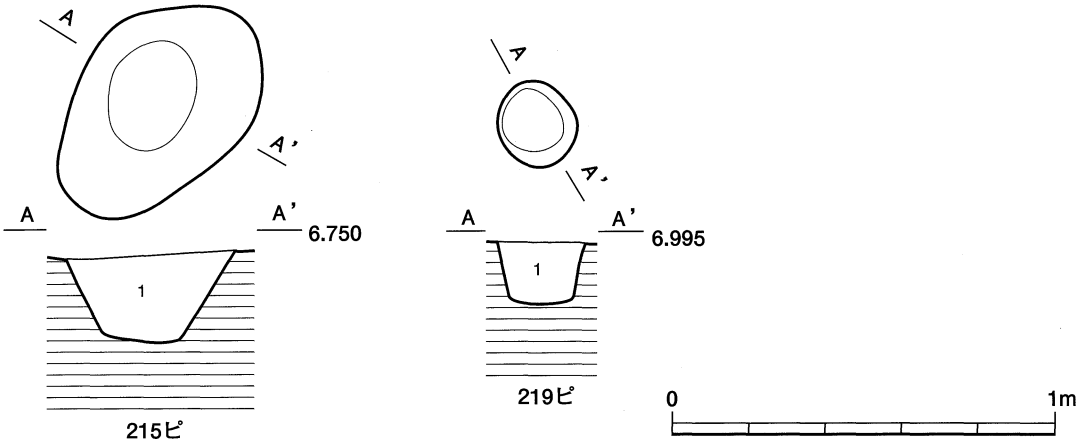
219号ピット（弥生－12）

遺構　H－6 グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形

を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。



第113図　215・219号ピットの分布図



第114図　215・219号ピットの平面・断面図

・300～305号ピット、307～310号ピット

300～304ピット号はＨ－9 グリッドの北東部に位置し、36号土坑の西側に位置している。305・308・310号ピットはＩ－8 グリッドの南西部、307号ピットはＩ－8 グリッドの北東部、309号ピットはＨ－8 グリッドの南東部に位置している。

300号ピット（弥生－13）

遺構　Ｈ－9 グリッドの北東部に位置し、36号土坑の西側に位置している。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－83°－Ｅを指向している。断面形状はＶ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

301号ピット（弥生－14）

遺構　Ｈ－9 グリッドの北東部に位置し、36号土坑の西側に位置している。平面形状は円形を呈している。

規模は長軸の長さが0.47m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で27cmある。覆土は3層で構成され、1層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2層は黒色（2.5　Y2/1）土層、3層は黒色（2.5Y　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

302号ピット（弥生－15）

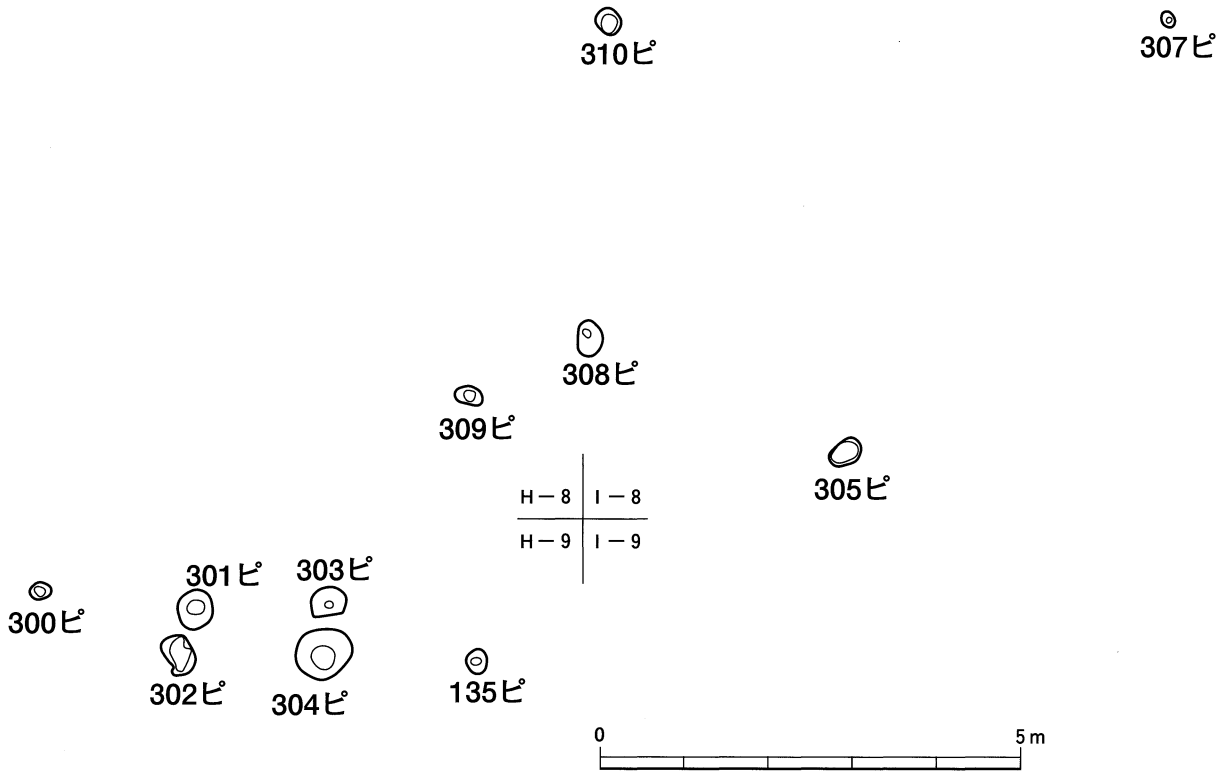
遺構　H－9グリッドの北東部に位置し、36号土坑の西側に位置している。平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.47m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－24°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は2層で構成され、1層は黒色（2.5　Y2/1）土層、2層は黒色（2.5　Y1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

303号ピット（弥生－16）

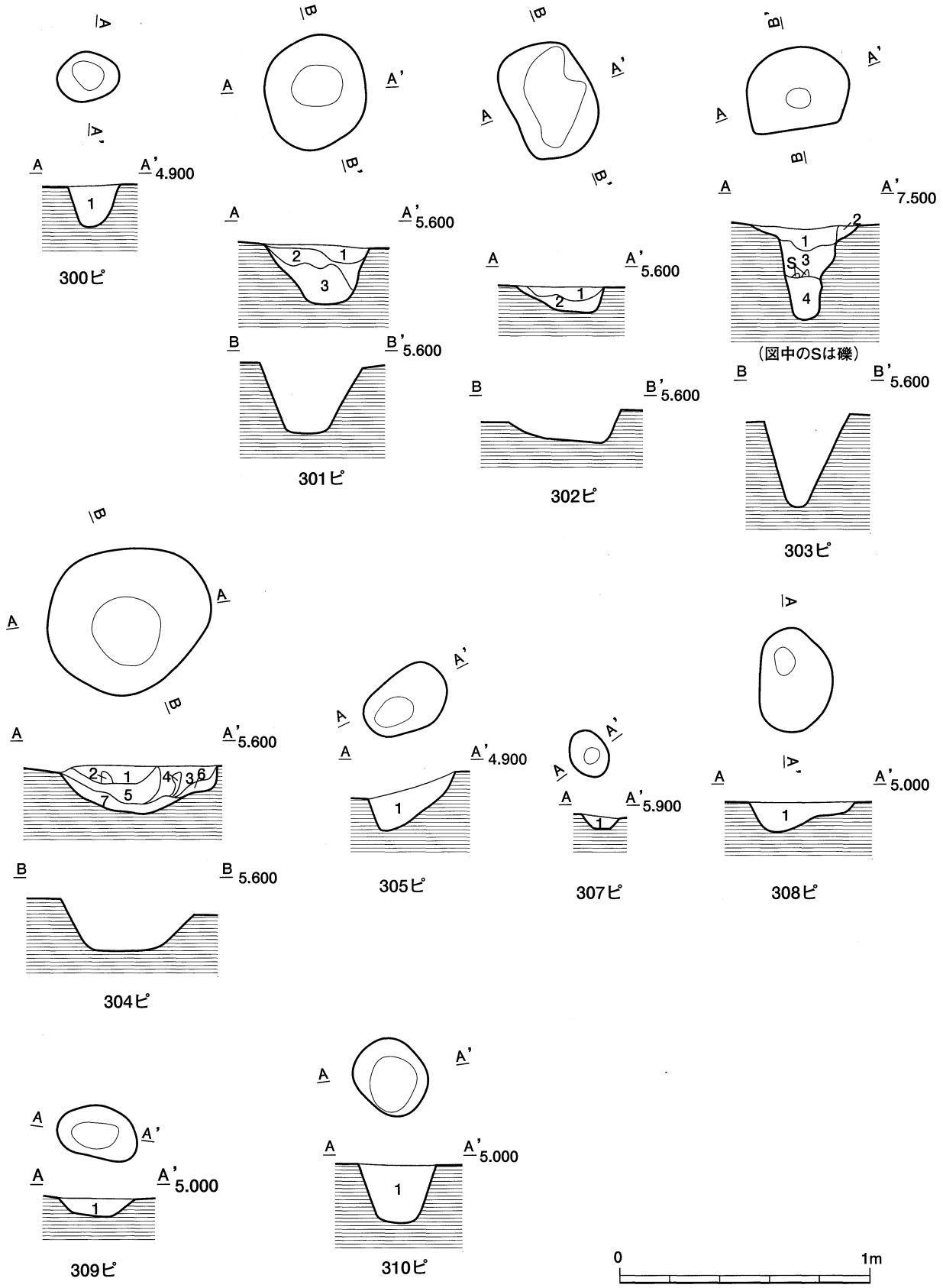
遺構　H－9グリッドの北東部に位置し、36号土坑の西側に位置している。平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.42m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のN値変換方位はN－13°－Wを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は4層で構成され、1層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2層は黄褐色（2.5YR　5/4）土層、3層は黒色（10YR　2/1）土層、4層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

304号ピット（弥生－17）

遺構　H－9グリッドの北東部に位置し、36号土坑の西側に位置している。平面形状は楕円形を呈してい



第115図　300～305・307～310号ピットの分布図

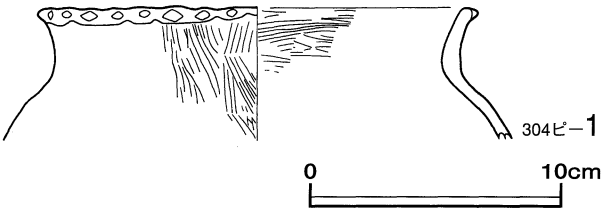


第116図　300～305・307～310号ピットの平面・断面図

る。規模は長軸の長さが0.67m、短軸の長さが0.58mを測る。長軸のN値変換方位はN－22°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で19cmある。覆土は7層で構成され、1層は黒色（2.5Y　2/1）土層、2層は黒色（10YR　2/1）土層、3層は黒色（10YR　2/1）土層、4層は黒色（10YR　1.7/1）土層、5層は黒色（10YR　1.7/1）土層、6層は黄褐色（2.5YR 5/4）土層、7層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部から頸部にかけての破片が1点、体部の破片が4点出土している。その内、図化が可能な甕の口縁部から頸部にかけての破片1点を図示した。

遺物　第117図の**1**は甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は緩やかに外反する。外面は口縁部に刻み目痕が残り、口縁部から体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残ってる。胎土は普通で、白色・灰色・茶色粒子を含んでいる。



第117図　304号ピットから出土した弥生土器の実測図

305号ピット（弥生－18）

遺構　Ⅰ－8グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

307号ピット（弥生－19）

遺構　Ⅰ－8グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.20m、短軸の長さが0.15mを測る。長軸のN値変換方位はN－27°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

308号ピット（弥生－20）

遺構　Ⅰ－8グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.42m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－8°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

309号ピット（弥生－21）

遺構　H－8グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.33m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－74°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

310号ピット（弥生－22）

遺構　Ⅰ－8グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－44°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で23cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

・401～406号ピット

401～405号ピットはM－7グリッドの北部から東部に、406号ピットはM－8グリッドの東部に位置し

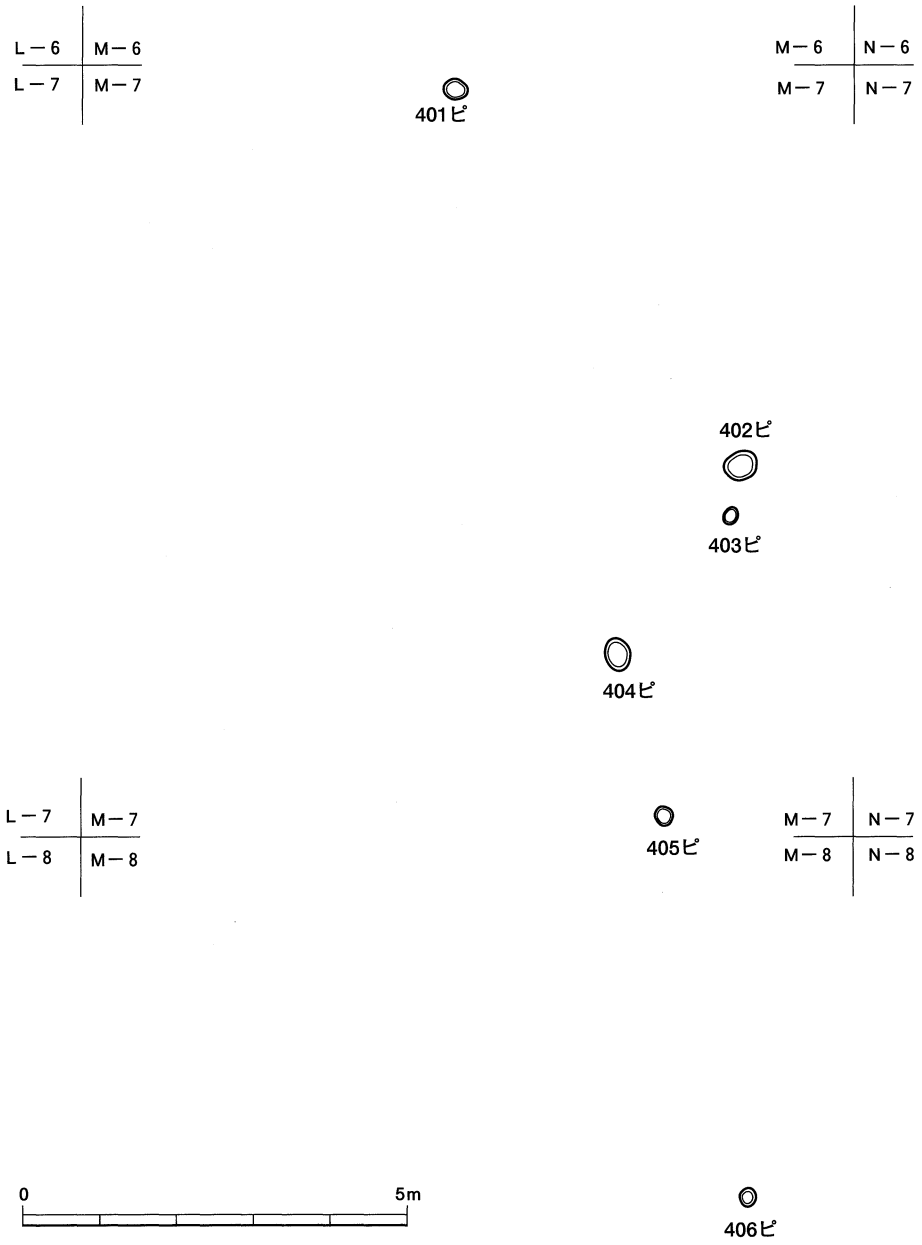
ている。

401号ピット（弥生－23）

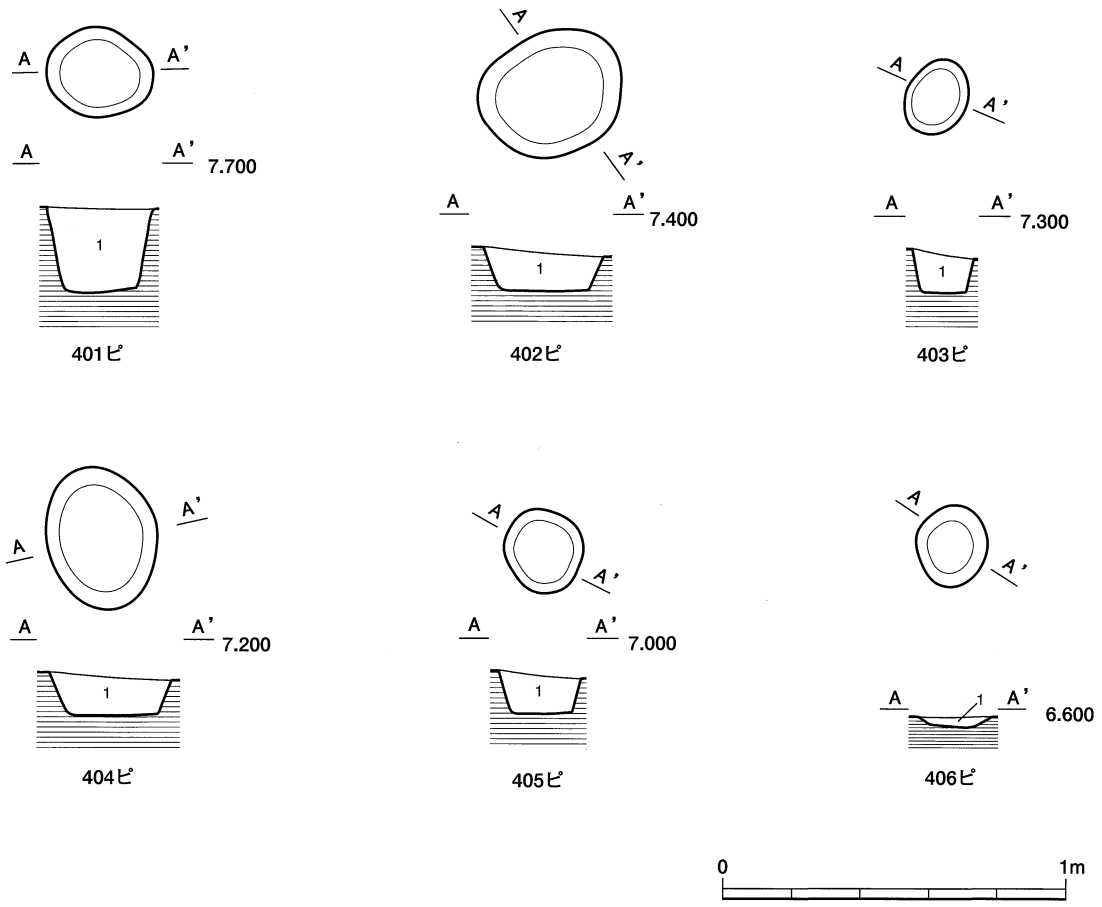
遺構　M－6 グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－85°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

402号ピット（弥生－24）

遺構　M－7 グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.42m、短軸の長さが0.36mを測る。長軸のN値変換方位はN－49°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第118図　401～406号ピットの分布図



第119図　401～406号ピットの平面・断面図

403号ピット（弥生－25）

遺構　M－7 グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.18mを測る。長軸のN値変換方位はN－20°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

404号ピット（弥生－26）

遺構　M－7 グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.42m、短軸の長さが0.32mを測る。長軸のN値変換方位はN－16°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

405号ピット（弥生－27）

遺構　M－7 グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

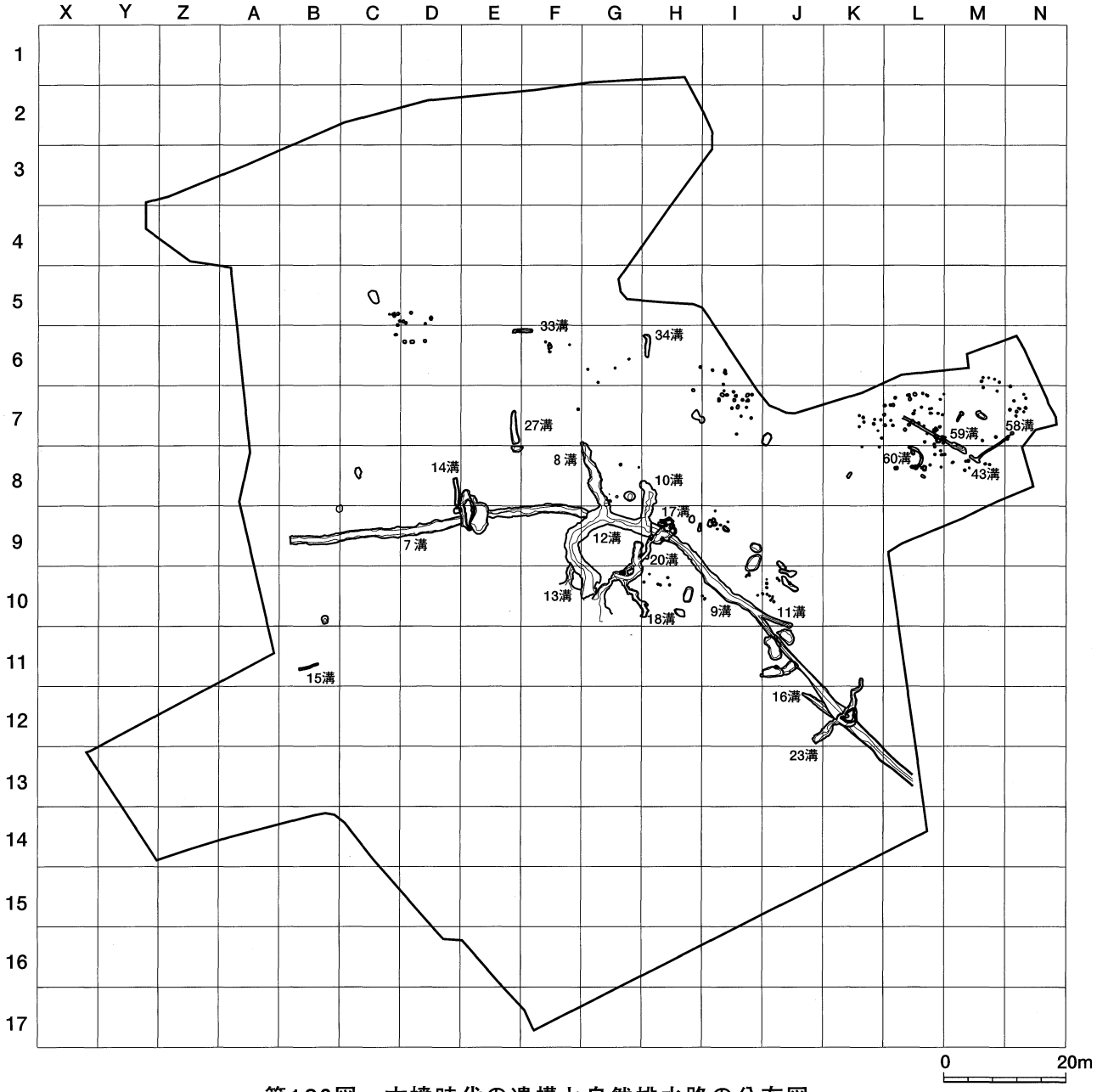
406号ピット（弥生－28）

遺構　M－8 グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－7°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で 3 cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

（2）古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した古墳時代の遺構は、調査区の中央部に集中している。溝状遺構が13条、穴状遺構のうち土壙が2基、土坑が43基、ピットが170基で、その他に自然排水路が8条ある。溝状遺構のうち7号溝跡と9号溝跡は自然排水路により分断されているが、同一の溝と考えられる。また、この7・9号溝跡は緩斜面と平坦面との境界に位置している。

遺物は、溝状遺構の覆土から1,581点、土壙の覆土から3点、土坑の覆土から4点、ピットの覆土から1点出土し、自然排水路の覆土から175点し、合計1,764点出土している。



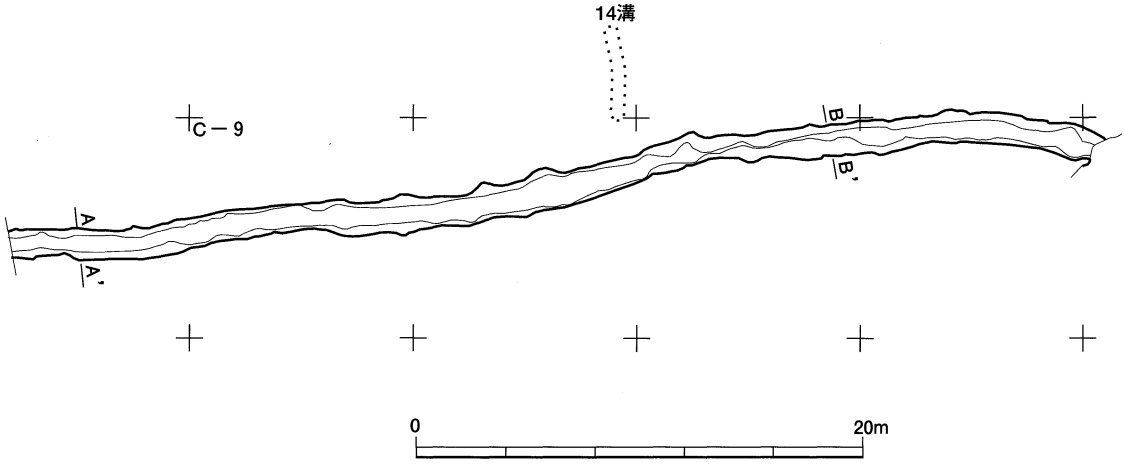
第120図　古墳時代の遺構と自然排水路の分布図

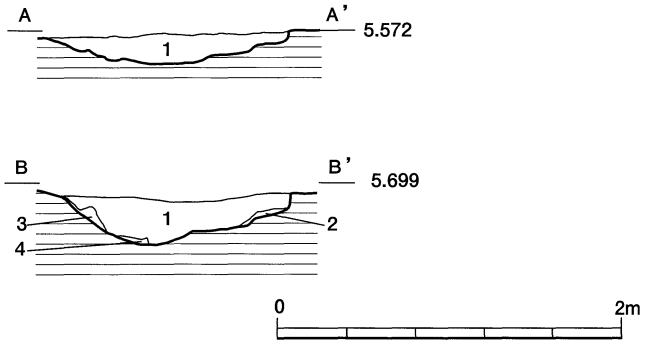
〈溝状遺構〉

7号溝跡（古墳－1）

遺構　7号溝跡は調査区の中央部に位置し、B－9グリッドの西側からC－9グリッドの中央部を経て東北東方向に伸長し、D－9・E－9・F－8・9グリッドを経て、G－9グリッドの北西部で自然排水路（12号溝跡）に切られている。溝の西端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが23.29mで、幅は0.50～0.89mである。東西軸のN値方位は変化点が6箇所認められる。西側からN－87.3°－W、

変化点でN－78.6°－W、変化点でN－87.8°－W、変化点でN－77.0°－W、変化点でN－84.6°－W、変化点でN－33.2°－W、変化点でN－59.3°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状および皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で148㎝ある。覆土はA－A’は1層、B－B’は4層で構成される。断面A－A’の1層は黒褐色（10YR　3/2）土層である。B－B’の1層は暗褐色（10YR　3/4）土層、2層・3層は黒色（7.5YR　2/1）土層、4層は黒褐色（7.5YR　2/2）土層である。



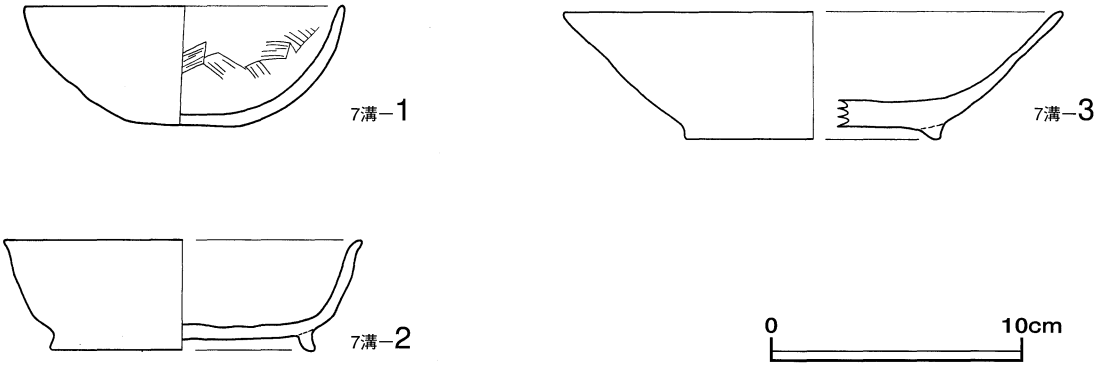


1　10YR3/2　黒褐色　粘性なく、締まりやや強い。
10YR4/6　褐色　シルト岩やその砕けたもの
（直径1～85mm大）が15%ほど混じる。
35×20×20(mm)程の礫が50%以上混じる。
溝の底面には細砂が薄く堆積している

1　10YR3/4　暗褐色　砂礫層　最大径50×20×20(mm)
粘性なし、締まりやや強い。
亜円礫・円礫(20×10mm大)が90%以上混じる。
2　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
シルトが70%ほど、砂が30%ほどの割合で混じる。
3　7.5YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや弱い。
砂が70%ほど、シルトが30%ほどの割合で混じる。
4　7.5YR2/2　黒褐色　粘性やや弱く、締まりやや強い。

第121図　7号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から弥生土器の口縁部片が6点、体部片が558点、底部片が11点の計575点、土師器は碗が1点、口縁部片が38点、体部片が289点、底部片が6点、脚部片が9点の計343点、須恵器は坏身片が1点、鉢片が1点、口縁部片が28点、体部片が60点、底部片が19点の計109点で合計1,027点出土している。その内、図化が可能な土師器の碗1点、須恵器の坏身1点、皿1点の計3点を図示した。

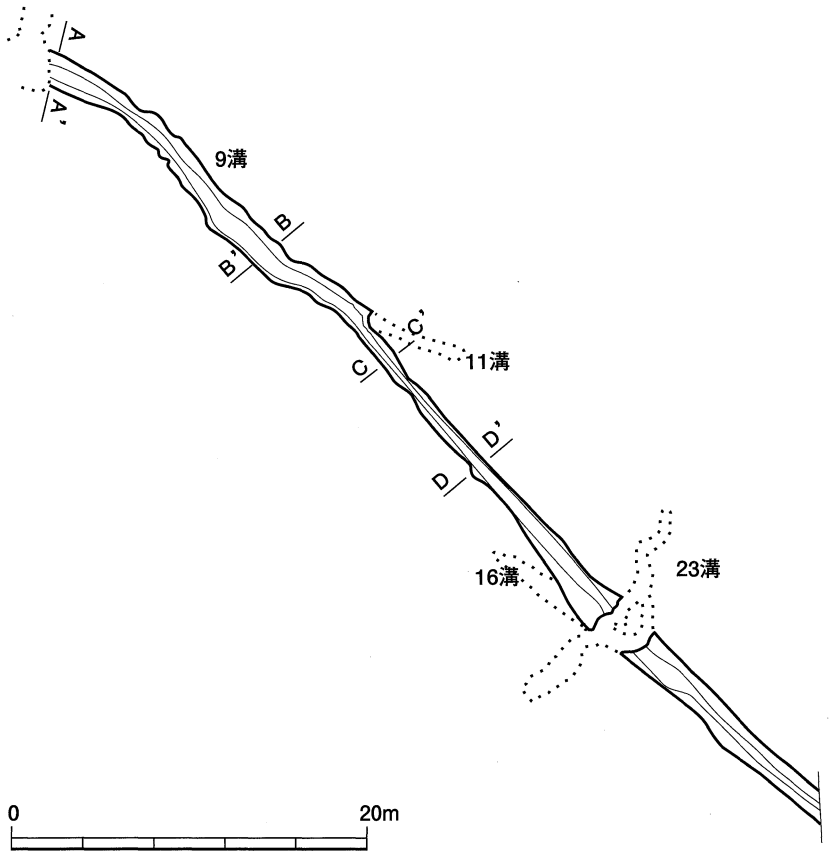


第122図　7号溝跡から出土した土師器と須恵器の実測図

遺物　第122図の **1** は土師器の碗で、丸味を帯びた底部から口縁部にかけて内湾している。外面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。内面は板ナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、石英・雲母・長石粒を含んでいる。　**2** は須恵器の坏身の破片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部にかけてやや内湾気味に開いている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色・白色・灰色粒と小礫（2.0㎜大）を含んでいる。　**3** は須恵器の皿で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部にかけてやや内湾気味に大きく開いている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部は回転糸切り痕が残り、口縁部に釉がかかっている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色・白色・灰色粒を含んでいる。

9号溝跡（古墳－2）

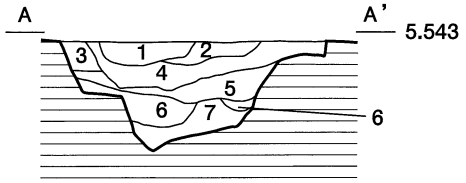
遺構　9号溝跡は7号溝跡の続きでH－9グリッドの中央部から南東方向に伸長している。西端部はG－9グリッドの自然排水路（12号溝跡）で切られ、南東部は25号溝跡の南部で一部切られているがL－13グリッドの調査区外まで伸長している。



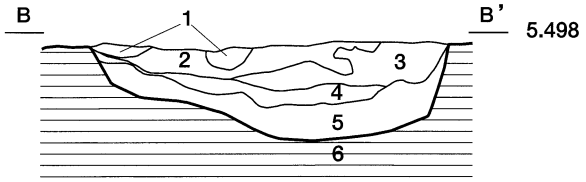
第123図　9号溝跡の平面図

規模は長さ57.09mで、幅は0.90～2.26mである。南北軸のN値方位は変化点が10箇所認められる。西端からN－67.7°－W、変化点でN－51.3°－W、変化点でN－36.0°－W、変化点でN－52.9°－W、変化点でN－76.0°－W、変化点でN－50.5°－W、変化点でN－32.3°－W、変化点でN－43.4°－W、変化点でN－32.0°－W、変化点でN－45.9°－W、変化点でN－41.0°－W、変化点でN－48.6°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で52㎝ある。覆土はA－A'は7層、B－B'は6層、C－C'は1層、D－D'は8層で構成される。断面A－A'の1層はにぶい黄褐色（10YR　4/3）

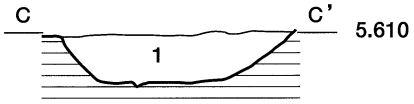
土層、2 層は暗灰黄色（2.5Y　4/2）土層、3 層は暗オリーブ褐色（2.5Y　3/3）土層、4 層は暗オリーブ褐色（2.5Y　3/3）土層、5 層は黒褐色（10YR　3/2）土層、6 層は黒褐色（10YR　3/2）土層、7 層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の 1 層は暗灰黄色（2.5Y　5/2）土層、2 層は暗灰黄色（2.5Y　4/2）土層、3 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、4 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、5 層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、6 層は黄褐色（2.5Y　5/4）土層である。断面Ｃ－Ｃ’の 1 層は青灰黄色（2.5G　5/2）土層である。断面Ｄ－Ｄ’の 1 層は黒褐色（10TR　3/2）土層、2 層は青灰黄色（2.5G　5/2）土層、3 層は青灰黄色（2.5G　5/2）土層、4 層は黒褐色（10YR　2/2）土層、5 層は黒褐色（10YR　3/2）土層、6 層は黒褐色（10YR　2/2）土層、7 層は極暗赤褐色（5YR　2/4）土層で、8 層は暗赤褐色（5YR　3/3）土層である。



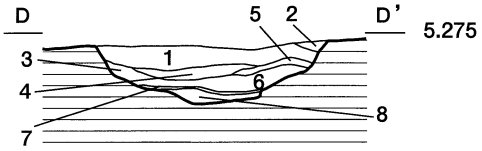
1　10YR4/3　にぶい黄褐色　粗粒砂以下の砂層。
2　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質礫層。
3　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　砂層（粗粒砂以下）。
4　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　礫質砂層。
5　10YR3/2　黒褐色　直径 1 ～10mm大の砂質礫層。
6　10YR3/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
7　10YR3/1　黒褐色　直径 5 ～20mm大の円礫層。



1　2.5Y5/2　暗灰黄色　直径 1 ～ 5 mm大の砂礫層。
2　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質礫層（直径10mm大）。
3　2.5Y3/2　黒褐色　礫質砂層（直径 1 ～ 5 mm大）。
4　2.5Y3/2　黒褐色　砂層。
5　2.5Y3/2　黒褐色　砂質礫層
　2.5Y6/6　暗灰黄色の砂が20%ほど混じる。
6　2.5Y5/4　黄褐色　粘性やや強く、締まりやや弱い。



1　2.5G5/2　青灰黄色　直径 1 ～ 5 mm大の砂礫層。

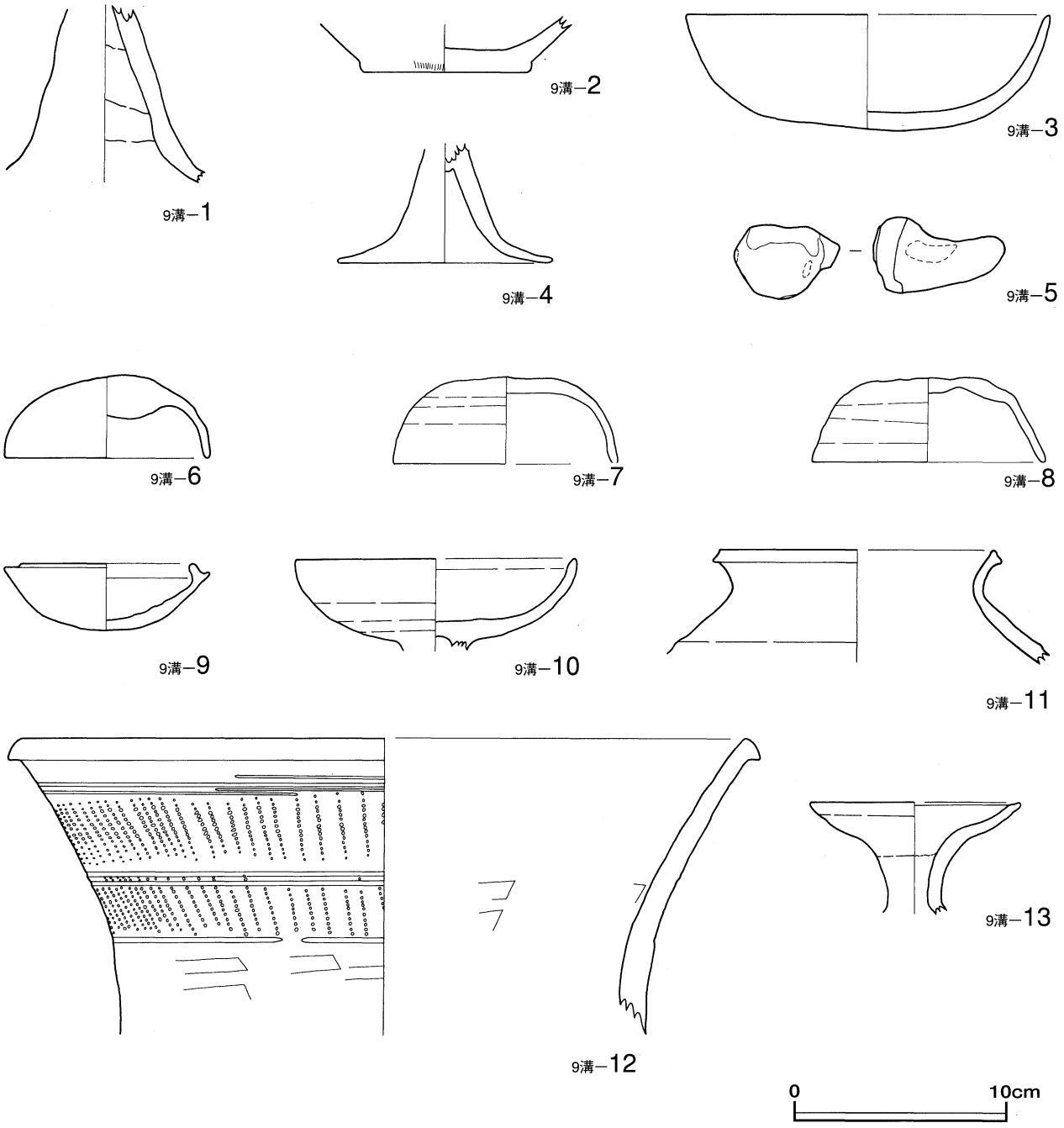


1　10YR3/2　黒褐色　直径 3 ～ 5 mm大の砂礫層。
2　2.5G5/2　青灰黄色　直径 1 ～ 5 mm大の砂礫層。
3　2.5G5/2　青灰黄色　直径 1 ～ 4 mm大の砂礫層。
4　10YR2/2　黒褐色　直径 5 ～10mm大の砂礫層。
5　10YR3/2　黒褐色　砂層　粘性・締まりともにやや強い。
6　10YR2/2　黒褐色　直径 1 ～10mm大の砂礫層。
7　5YR2/4　極暗赤褐色　鉄分を含む。
8　5YR3/3　暗赤褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　鉄分を含む。
9　2.5YR1.7/1　赤黒色　粘性・締まりともにやや強い。

第124図　9 号溝跡の断面図

遺物は覆土から弥生土器の壷の口縁部片が 1 点、高坏の脚部が 1 点、口縁部片が 6 点、体部片が290点、底部片が 3 点の計301点、土師器の高坏の脚部が 1 点、鉢片が 1 点、口縁部片が 5 点、体部片が101点の計108点、須恵器の坏蓋片が 2 点、坏身片が 2 点、甕の破片が 2 点、ハソウ片が 1 点、高坏片が 1 点、口縁部片が12点、体部片が37点、底部片の高台付が 9 点、平底が 7 点の計73点で合計482点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の高坏の脚部片が 1 点、壷の底部片が 1 点、土師器の高坏の脚部片が 1 点、鉢が 1 点、須恵器の坏蓋が 2 点、坏身が 2 点、甕が 2 点、ハソウが 1 点、高坏が 1 点の計12点を図示した。

遺物　第125図の **1** は弥生土器の高坏の脚部で、底部の接合部分から裾部に向かって開いている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、長石・赤色・黒色粒と礫（4㎜大）を多く含んでいる。　**2** は弥生土器の壷の底部片で、平底の底部から外反して立ち上がっている。外面は底



第125図　9 号溝跡から出土した土器の実測図

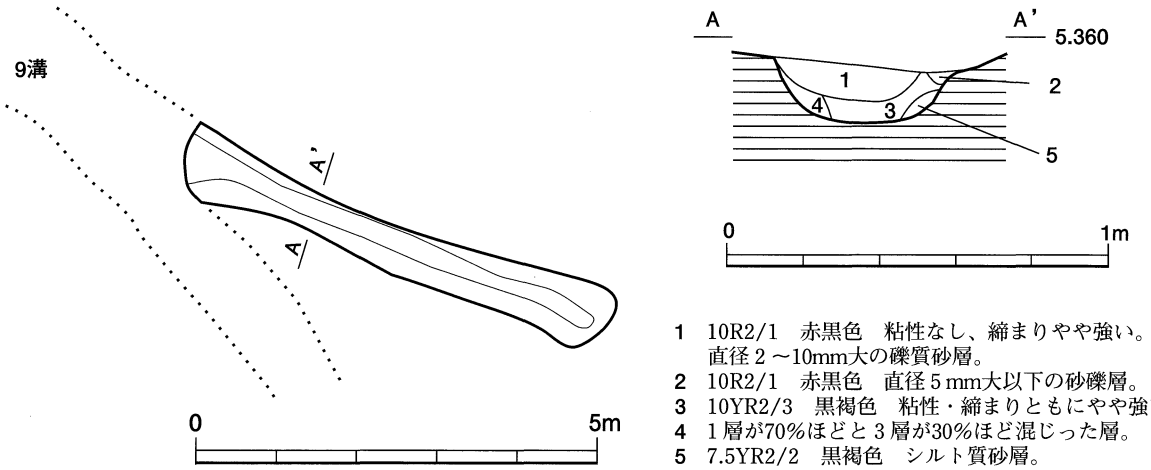
1・2　弥生土器、**3**～**5**　土師器　**6**～**12**　須恵器

部に縦位のハケ目痕残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、長石・石英・灰色・黒色粒・礫（1～3㎜大）を含んでいる。　**3** は土師器の坏の口縁部から底部の破片で、丸味を帯びた底部から内湾して立ち上がっている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は粗く、灰色・茶色粒・礫（3㎜大）を含んでいる。　**4** は土師器の高坏の脚部片で、底部との接合部分から脚は大きく開いている。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。　**5** は甑の把手の破片で、牛角状を呈している。外面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、長石・石英粒・礫（3㎜大）を含んでいる。　**6** は坏蓋の口縁部で、弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下りている。外面は天井部に回転ヘラ削り痕が残り、口縁部はナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・茶色粒を含んでいる。　**7** は坏蓋の口縁部から体部にかけての破片で、弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下りている。外面は天井部は回転ヘラ削り痕が残り、体部から口縁部はナデ仕上げが認めら

れる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。　**8** は坏蓋で、天井部は平らで、体部から口縁部は直線的に開いている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、天井部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色・白色・茶色粒・小礫（2.0㎜大）を含んでいる。　**9** は坏身で、底部は弓張り状を呈し口縁部と体部の間に受けを持っている。口縁部は内傾している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。**10**は高坏の口縁部から体部にかけての破片で、体部から口縁部は内湾している。内外面ともナデ仕上げが認められるが、内面全体に釉がかかっている。胎土は密で、白色・黒色・灰色粒を含んでいる。　**11** は甕の口縁部で、口縁部は「く」の字状に外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、長石・石英・灰色・黒色粒・礫（2～3㎜大）を含んでいる。　**12**は甕の口縁部で、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反している。外面は頸部に板ナデ仕上げが認められ、口縁部は刺突紋と沈線が３箇所施されている。内面は板ナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色粒・小礫（2㎜大）を含んでいる。**13**はハソウの頸部から口縁部にかけての破片で、頸部から口縁部は丸味をもって外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭であるが、内面の口縁部に釉がかかっている。胎土は密で、白色・石英・黒色粒を含んでいる。

11号溝跡（古墳－４）

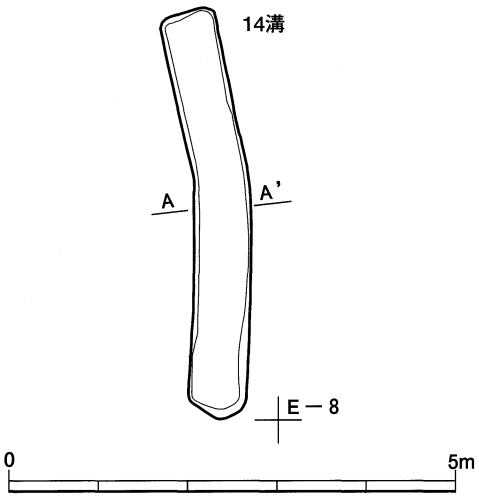
遺構　11号溝跡はＩ－10グリッドの南東で９号溝跡から分岐しており、Ｊ－10グリッドを経てＪ－11グリッドの北部まで東南東方向に伸長している。規模は長さが6.64ｍ、幅は0.51～0.82ｍである。東西軸のＮ値方位は変化点が３箇所認められ。西側からＮ－68.3°－Ｗ、変化点でＮ－72.8°－Ｗ、変化点でＮ－77.1°－Ｗ、変化点でＮ－69.3°－Ｗを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22㎝ある。覆土はＡ－Ａ’は４層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（10YR　2/1）土層、２層は黒褐色（10YR　3/2）土層、３層は黒色（7.5YR　2/1）土層、４層は黒褐色（7.5YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

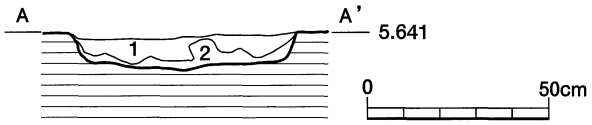


第126図　11号溝跡の平面・断面図

14号溝跡（古墳－４）

遺構　14号溝跡はＤ－８グリッドの南東部で、Ｅ－８グリッドの境界沿いを南北方向に伸長し、５号土坑の北側に接するように終息している。規模は長さが4.56ｍ、幅は0.60～0.64ｍである。南北軸のＮ値方位は変化点が１箇所認められる。北側からＮ－14.4°－Ｗ、変化点でＮ－0.7°－Ｅを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14㎝ある。覆土はＡ－Ａ’は２層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層・２層とも黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



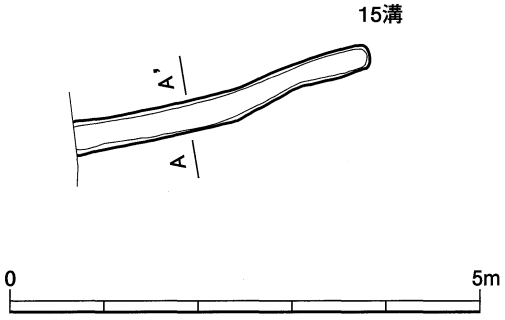


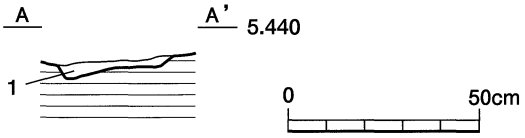
1　7.5YR2/1　黒色土　砂礫層　粘性・締まりともにやや強い。
　最大径(20×15)mmほどで、直径５～10mm大が90%以上を占める。
2　7.5YR2/1　黒色土　粘性・締まりともにやや強い。
　10YR8/8　黄橙色　粒子が１%ほど混じる。
　最大径(10×10)mmほど、直径１mm以下が90%以上を占める。

第127図　14号溝跡の平面・断面図

15号溝跡（古墳－５）

遺構　15号溝跡はＢ－11グリッドの中央部よりやや南側に東西方向に伸長する。西端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが3.27m、幅は0.25～0.36mである。東西軸のＮ値方位は変化点が２箇所認められる。東側からＮ－72.5°－Ｅ、変化点でＮ－64.2°－Ｅ、変化点でＮ－78.7°－Ｅを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で９㎝ある。覆土はＡ－Ａ'は１層で構成される。断面Ａ－Ａ'の１層は暗灰黄色（2.5Y　5/2）土層である。遺物は出土しなかった。



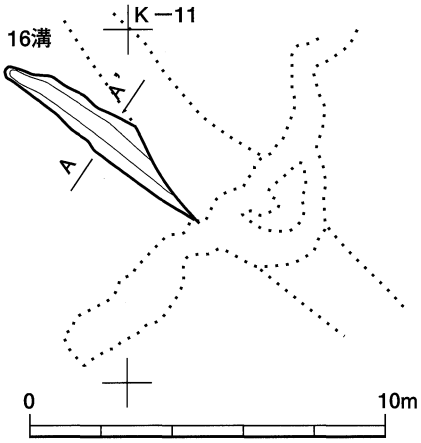


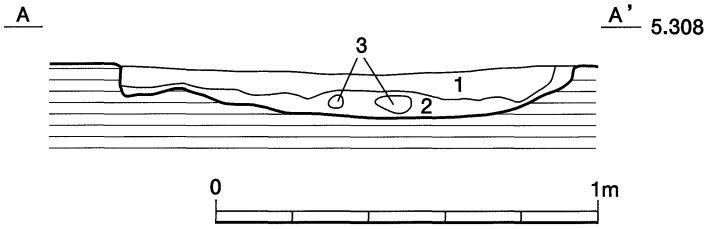
1　2.5Y5/2　暗灰黄色　砂層　粘性・締まりともにやや弱い。

第128図　15号溝跡の平面・断面図

16号溝跡（古墳－６）

遺構　16号溝跡はＪ－12グリッドの北東部から東南東方向に伸長し、東端部はＫ－12グリッドで９号溝





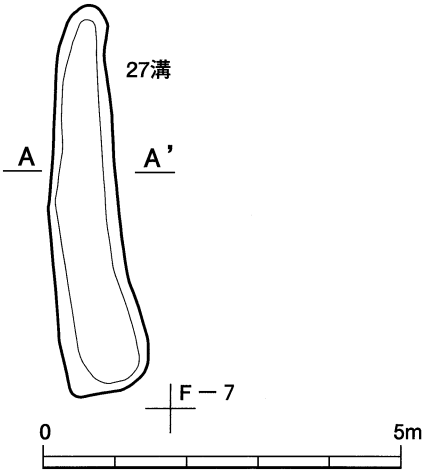
1　10YR2/2　黒褐色　直径１～５mm大の砂礫層。
2　7.5YR2/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
3　10YR2/3　黒褐色　直径２～３mm大の砂礫層。

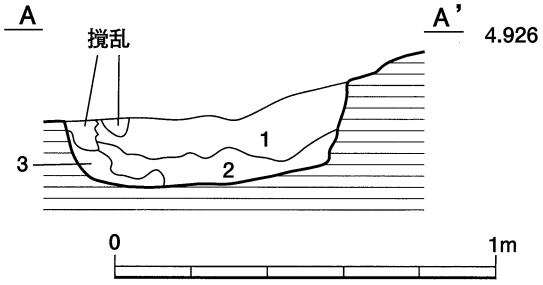
第129図　16号溝跡の平面・断面図

跡に切られている。規模は長さが5.37m、幅は0.42～1.20mである。東西軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。北側からN－63.7°－W、変化点でN－51.3°－Wを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土はA－A’は3層で構成される。断面A－A’の1層は黒褐色（10YR　2/2）土層、2層は黒褐色（7.5YR　2/2）土層、3層は黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

27号溝跡（古墳－7）

遺構　27号溝跡はE－7グリッドの東部を南北方向に伸長し、16号土坑の北側で終息している。西側には28号溝跡が併走している。規模は長さが5.18m、幅は0.57～1.12mである。南北軸のN値方位は変化点が2箇所認められる。北側からN－8.4°－E、変化点でN－1.7°－W、変化点でN－12.8°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で34cmある。覆土はA－A’は3層で構成される。断面A－A’の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層、2層は黒色（5YR　2/1）土層、3層は黄褐色（2.5Y　5/6）土層とオリーブ黄色（5Y　6/3）土層が混じり合っている。遺物は出土しなかった。



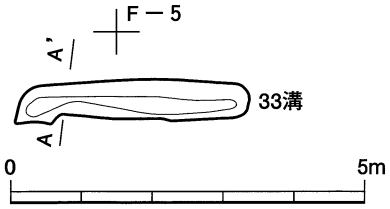


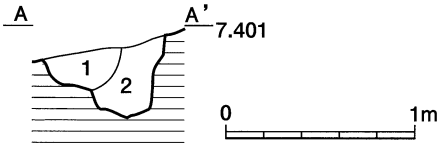
1　10YR1.7/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　　10YR6/8　黄橙色・2.5Y6/8　黄色　粒子（直径2mm大）が1％ほど混じる。
2　5Y2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　　7.5Y5/2　オリーブ灰色が混じる。境界は不明瞭。
3　2.5Y5/6　黄褐色土と、5Y6/3　オリーブ黄色土が混じる。

第130図　27号溝跡の平面・断面図

33号溝跡（古墳－8）

遺構　33号溝跡はE－6グリッドの北東部を東方向に伸長し、途中で11号周溝墓の北東角を切り、F－6グリッドに入って終息している。規模は長さが3.45mで、幅は0.43～0.59mである。東西軸のN値方位は変化点が3箇所認められる。西側からN－55.6°－E、変化点でN－87.5°－E、変化点でN－82.0°－W、変化点でN－89.8°－Wを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は1層で構成される。1層は黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



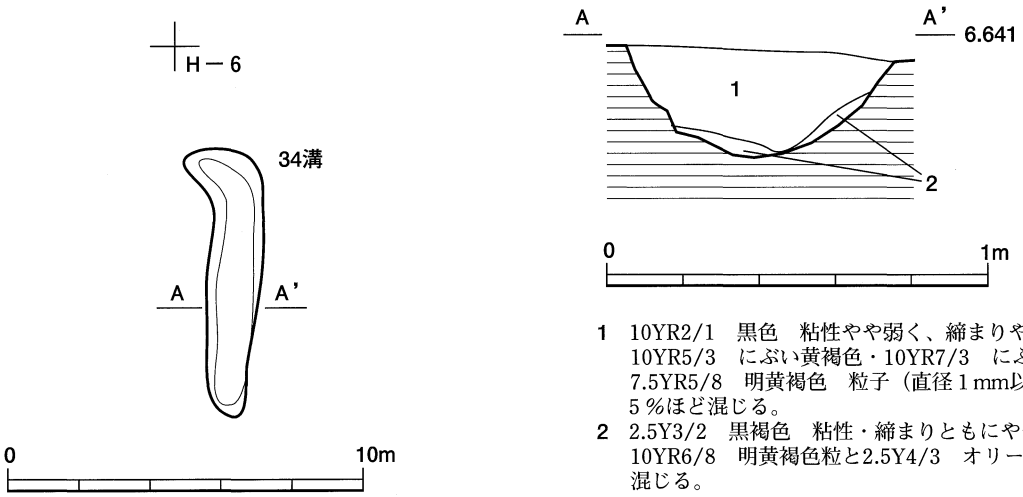


1　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　2.5Y6/6　明黄褐色・7.5YR6/8　橙色　粒子（直径1～2mm大）が7％ほど混じる。
2　2.5Y2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
　　2.5Y6/6　明黄褐色　（直径1～2mm大）
　　7.5YR6/8　橙色　（直径10～25mm大）粒子が20％ほど混じる。

第131図　33号溝跡の平面・断面図

34号溝跡（古墳－9）

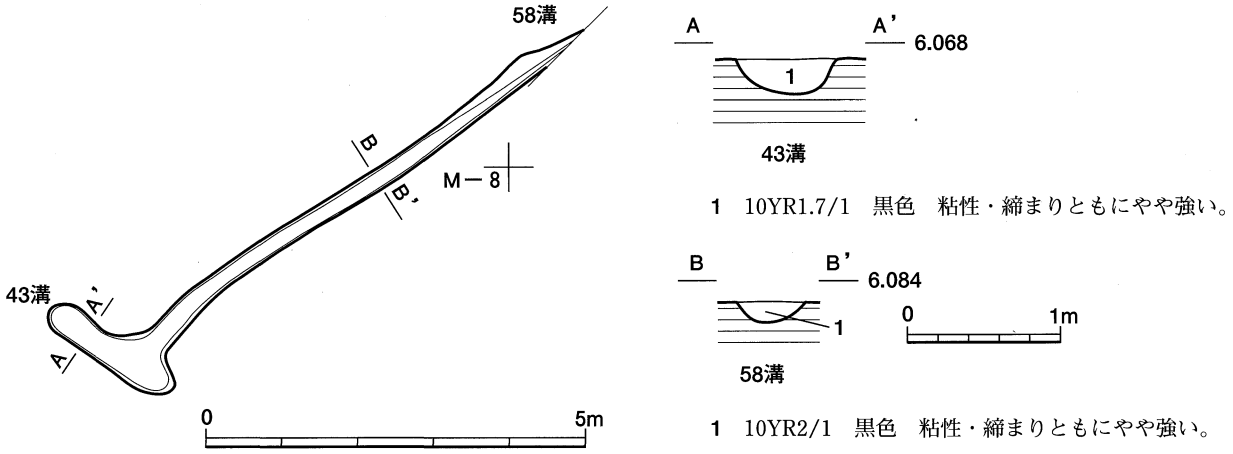
遺構　34号溝跡はH－6グリッドの北西部で65号溝跡の東側を併走するように東西から南北方向に伸長している。規模は東西方向の長さが0.73m、南北方向の長さが3.39mで合計4.12m、幅は0.51～0.78mである。東西・南北軸のN値方位は変化点が2箇所、屈曲点が1箇所認められる。北西端からN－78.9°－W、屈曲点でN－7.5°－W、東西軸と南北軸は内角101.6°で屈曲し、変化点でN－5.3°－E、変化点でN－3.6°－Eを指向する。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で33cmある。覆土は塊状の土が入り込んではいるがA－A'は2層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層、2層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。



第132図　34号溝跡の平面・断面図

43号溝跡（古墳－10）

遺構　43号溝跡はM－8グリッドの中央部よりやや北側を東南東から西北西方向に伸長し、東部端は58号溝跡にほぼ直交するように接している。規模は長さが1.43m、幅は0.30～0.55mである。東西軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。東側からN－89.7°－W、変化点でN－70.2°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成される。覆土の1層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第133図　43・58号溝跡の平面・断面図

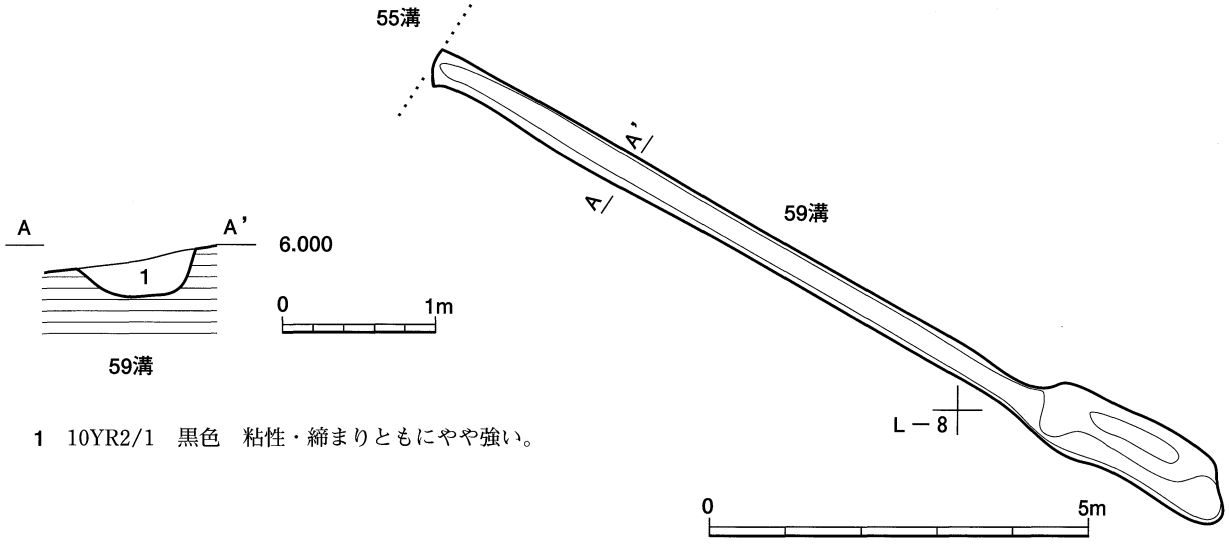
58号溝跡（古墳－11）

遺構　58号溝跡はN－7グリッドの南西部から西南西方向に伸長し、M－7グリッドの南東部を経て、M－8グリッドで43号溝跡の東部にほぼ直交するように接している。規模は長さが7.25m、幅は0.22～0.32mである。東西軸のN値方位は変化点が3箇所認められる。東側からN－53.6°－E、変化点でN－58.2°－E、変化点でN－41.9°－E、変化点でN－55.9°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土はA－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

59号溝跡（古墳－12）

遺構　54号溝跡はL－7グリッドの中央部で55号溝跡から東南東方向に伸長し、M－7グリッドの南西部を経て、M－8グリッドで43号溝跡の西端部に接するように終息している。規模は長さが11.98m、幅は0.29～0.94mである。南北軸のN値方位はN－59.8°－Wを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で21cmある。覆土はA－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。

遺物は覆土から土師器の体部片が3点、須恵器の口縁部片が5点、体部片が9点、底部片（高台付）が16点の計15点で、合計18点出土したが、図化が可能な破片はなかった。

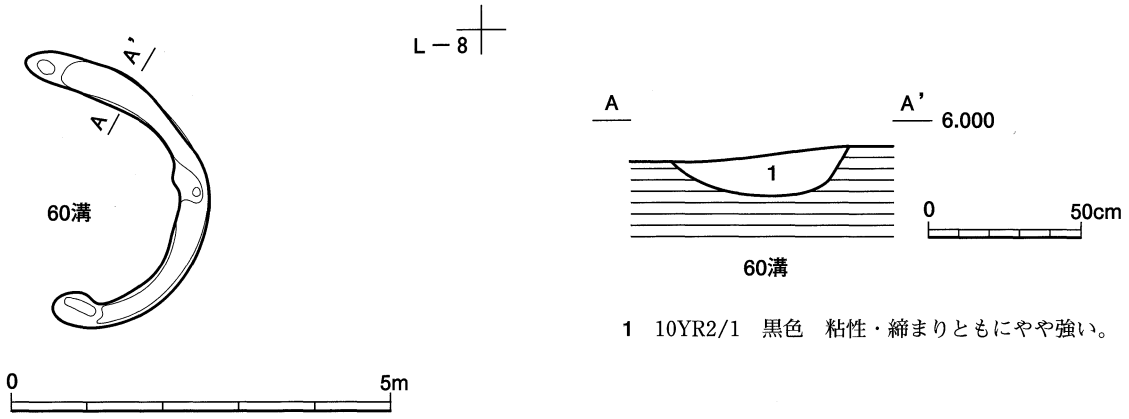


第134図　59号溝跡の平面・断面図

60号溝跡（古墳－13）

遺構　60号溝跡はL－8グリッドの北部で半円形状に伸長し、223号ピットの半分を切り、グリッドの中央部で終息している。溝の両端部と中間部にピットが存在する。規模は長さが5.94m、幅は0.22～0.50mである。南北軸のN値方位は変化点が7箇所認められる。N－65.6°－W、変化点でN－39.1°－W、変化点でN－21.4°－E、変化点でN－10.9°－E、変化点でN－43.3°－E、変化点でN－62.1°－E、変化点でN－83.2°－E、変化点でN－62.3°－Wを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で39cmある。覆土はA－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。

遺物は覆土から弥生土器の体部片が2点出土したが、図化が可能な破片はなかった。



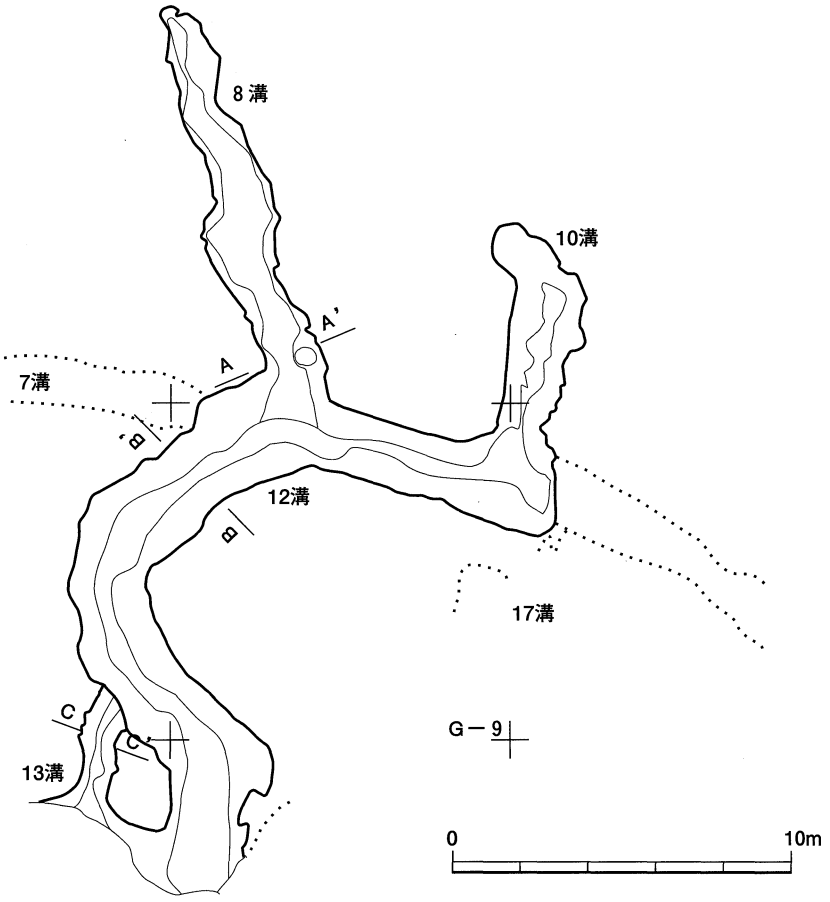
第135図　60号溝跡の平面・断面図

〈自然排水路〉

自然排水路は８条確認されているが、８・10・12・13号溝跡は一連の流路で、同じように17・18・20号溝跡も一連の流路を形成している。これらの自然排水路は弥生時代の周溝墓の溝や古墳時代の溝を切っているため、覆土からは弥生土器片、土師器片、須恵器片などが混然となって出土している。

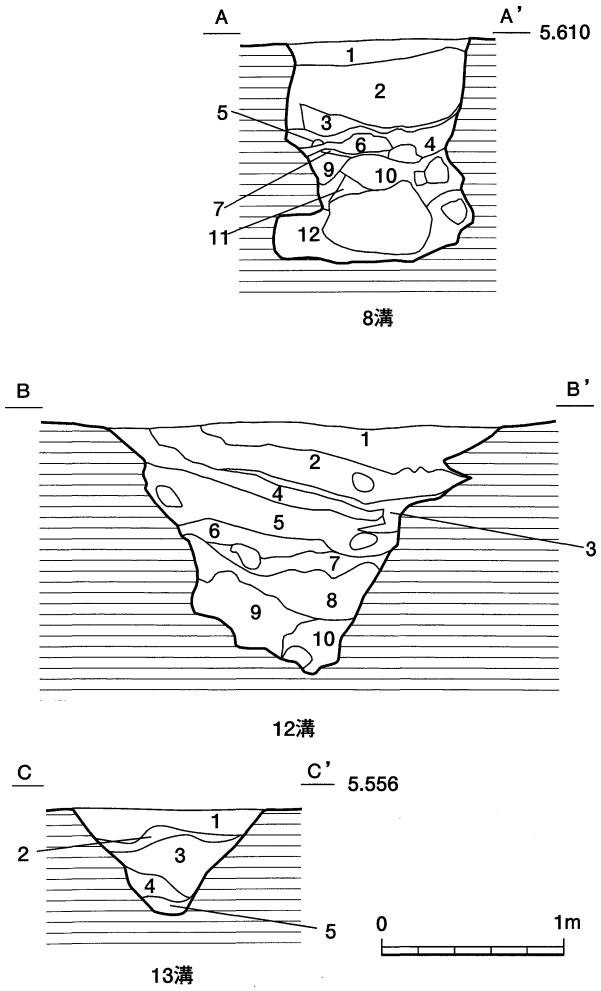
８号溝跡（自然排水路－１）

８号溝跡は自然排水路で調査区ほぼ中央部にあり、Ｆ－７グリッドとＧ－７グリッドの南部の境界から南方向に伸長し、Ｇ－８グリッドの東部を経て、Ｇ－９グリッドで12号溝跡（自然排水路－３）の北部に流入している。



第136図　自然排水路（８・10・12・13号溝跡）の平面図

規模は長さが12.51mで、幅は0.42～2.01mである。南北軸のN値方位は変化点が4箇所、屈曲点が2箇所認められる。北側からN－19.4°－W、変化点でN－34.5°－W、屈曲点でN－5.0°－W、南北軸と東西軸は内角117.5°で屈曲し、屈曲点でN－42.9°－E、東西軸と南北軸は内角119.1°で屈曲し、変化点でN－21.8°－W、変化点でN－39.2°－W、変化点でN－3.1°－Wを指向する。断面形状は少し上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で130cmある。覆土はA－A'は11層で構成される。断面A－A'の1層は黒褐色（5Y　2/1）土層、2層は灰色（5Y　6/1）土層、3層は黒色（10YR　1.7/1）土層、4層は黒色（5Y　2/1）土層、5層は黒褐色（10YR　3/1）土層、6層はオリーブ褐色（2.5Y　4/4）土層、7層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層、8層は黒色（5YR　2/1）土層で、9層は黒色（10Y　1.7/1）土層、10層は黒色（2.5Y　2/1）土層で、11層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層である。



8溝
1　5Y2/1 黒色　粘性弱く、締まりやや強い。
直径5～20mm大の礫含む砂質礫層。
2　5Y6/1　灰色　直径10～30mm大の礫含む礫質砂層。
3　10R1.7/1　黒色で、粘性強く、締まりやや強い。
4　5Y2/1　黒色　粘性強く、締まりやや強い。
5　10YR3/1　黒褐色　直径1～3mm大の粗粒砂から角礫含む砂層。
6　2.5Y4/4　オリーブ褐色　粘性・締まりともにやや強い。
7　2,5Y3/1　直径1～2mmの粗粒砂層。
8　5YR1.7/1　黒色で粘性・締まりともにやや強い。
（10・11層よりも粘性弱い）
9　10Y1.7/1　黒色で粘性やや弱く、締まりやや強い。
10　2.5Y2/1　黒色で粘性・締まりともにやや強い。
（黒色土に極細砂が混じる）
11　2.5Y3/1　黒褐色で粘性・締まりともにやや強い。

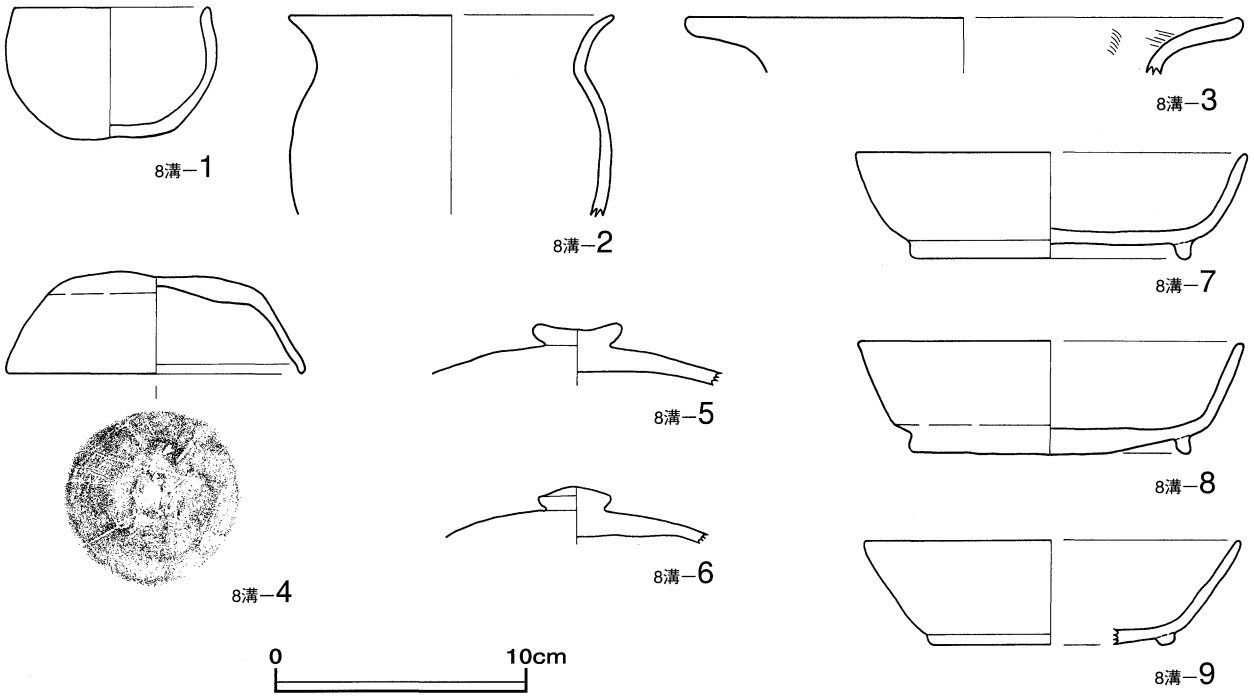
12溝
1　7.5YR2/1　黒色土　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR2/1　黒色土　砂質礫層　最大径(40×30×20)mm
3　7.5YR1.7/1　黒色土　粘性・締まりともにやや強い。
4　10YR2/3　黒褐色土　礫質砂層。
直径3～4mm大の礫が20%ほど混じる。
5　10YR2/1　黒色土　礫層。
6　10YR2/3　黒褐色土　砂層。
7　10YR2/3　黒褐色土　礫層。
10YR2/3　黒褐色土　砂層が50%ずつ。
8　7.5YR1.7/1　黒色土　粘性・締まりともにやや強い。
9　10YR2/3　黒褐色土　砂質礫層。
10　7.5YR2/1　黒色土　礫質砂層。
含有70%ほどが砂で、直径～30mmほどの亜円礫・円礫が混じる。

13溝
1　7.5YR2/1　黒色土　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR2/1　黒色土　砂質礫層　最大径(40×30×20)mm。
3　7.5YR1.7/1　黒色土　粘性・締まりともにやや強い。
4　10YR2/3　黒褐色土　礫層。
5　10YR2/1　黒色土　礫質砂層。

第137図　自然排水路（8・10・12・13号溝跡）の断面図

遺物は覆土から弥生土器は体部片が28点、小型壷の頸部片が2点の計30点、土師器は完形の碗が1点、甕の口縁部片が1点、甕の口縁部から体部にかけての破片が1点、口縁部片が7点、頸部片が1点、体部片が29点、底部片が1点の計41点、須恵器は完形を含む坏蓋片が3点、坏身片が3点、口縁部片が3点、体部片が3点、底部片が3点の計15点で、合計86点出土している。その内、図化が可能な土師器の碗1点、甕の口縁部片が2点、須恵器の坏蓋3点、坏身3点の計9点を図示した。

遺構　第138図の**1**は土師器の碗で、丸味を帯びた底部から内湾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、灰色・透明・赤茶色粒を含んでいる。　**2**は甕の口縁部から体部中央にかけての破片で、体部は内湾し、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・



第138図　自然排水路（８号溝跡）から出土した土器の実測図

1～**3**　土師器、**4**～**9**　須恵器

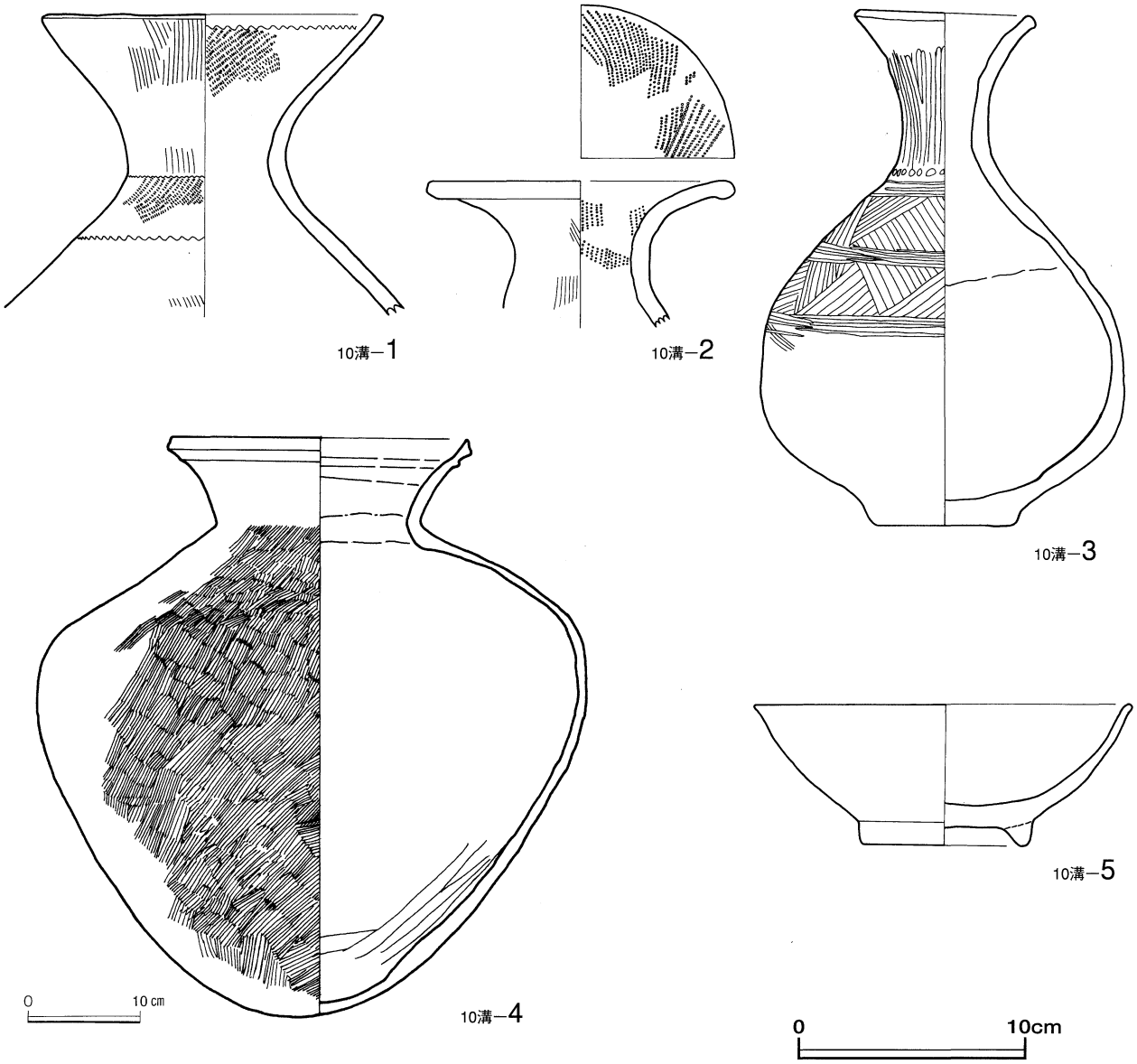
赤色粒と礫（0.5～４㎜大）を含んでいる。　**3** は甕の口縁部の破片で、口縁部は大きく外反し、端部を丸く収めている。外面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、白色・赤色・金色粒と小礫（0.5～1.5㎜大）を含んでいる。　**4** は坏蓋で、天井部は歪んでいる。体部は内湾し、口縁部は開きながら直線的に下っている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、天井部は回転ヘラ削り痕が残り、記号が認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色・黒色・茶色粒を含んでいる。　**5** は坏蓋の天井部の破片で、弓張り状の天井部に径3.6㎝の中央が窪んだ円盤状のつまみが付いている。外面は天井部に回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、透明・白色粒を含んでいる。　**6** は坏蓋の天井部の破片で、弓張り状の天井部に径2.9㎝の扁平擬宝珠状のつまみが付いている。外面は天井部に回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色・白色粒を含んでいる。　**7** は坏身の破片で、平底の底部に断面が隅丸方形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部は外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**8** は坏身の破片で、丸味を帯びた底部に断面が隅丸長方形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部は外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**9** は坏身の口縁部から底部の破片で、平底の底部に断面が隅丸四辺形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部は外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。

10号溝跡（自然排水路－２）

10号溝跡は自然排水路でＧ－８グリッドの東部からＨ－８グリッドの西部を南北方向に伸長し、Ｇ－９・Ｈ－９グリッドで12号溝跡（自然排水路－３）の北部に流入している。規模は長さが7.13m、幅は1.24～2.30mである。南北軸のＮ値方位は変化点が２箇所認められる。北側からＮ－41.4°－Ｗ、変化点でＮ－14.2°－Ｅを指向する。断面形状は少し上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で139㎝ある。

遺物は覆土から弥生土器の壷が２点、体部片が31点の計33点、土師器の体部片が１点、須恵器の甕が

1点、口縁部片が1点、体部片が1点の計3点、山茶碗が1点で、合計38点出土している。その内、図化が可能な弥生土器の壷3点、須恵器の甕1点、山茶碗1点の計5点を図示した。



第139図　自然排水路（10号溝跡）から出土した土器の実測図
1～**3**　弥生土器、**4**　須恵器、**5**　山茶碗

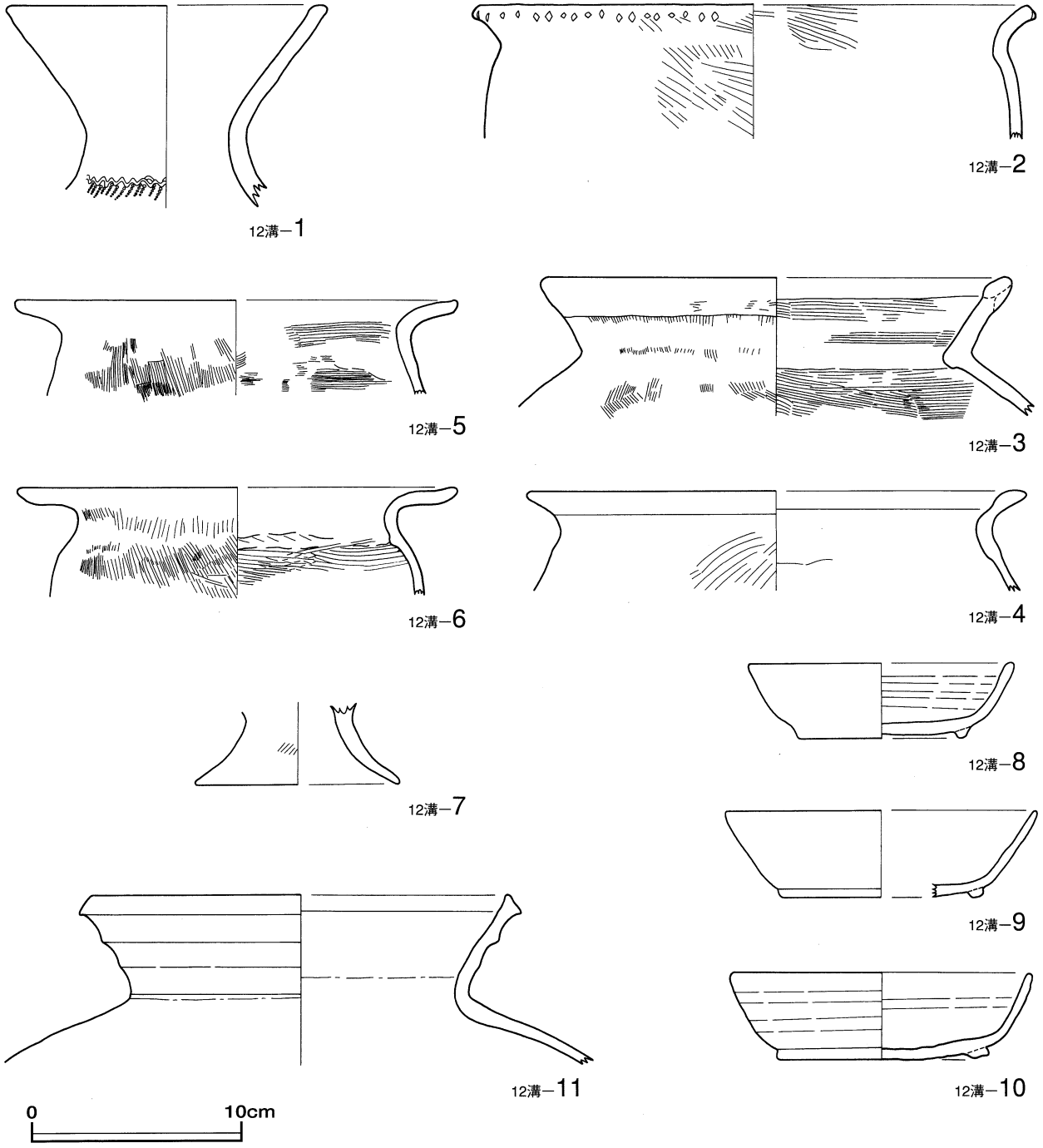
遺物　第139図の **1** は弥生土器の壷の口縁部から頸部にかけての破片で、頸部から口縁部は「く」の字状に外反し、口縁端部を四角形に収めている。外面は口縁部から頸部に縦位のハケ目痕が残っており、頸部には2本の波状の刺突紋が施され、その間に斜位の刺突紋が施されている。体部上半に斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に波状の沈線と斜位の刺突紋が施されている。胎土は普通で、白色・灰色・黒色・茶色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**2** は壷の口縁部の破片で、頸部から口縁部にかけて外反して大きく開いている。口縁端部を丸く収めている。外面は頸部に縦位のハケ目痕とヘラ磨き痕が残っている。内面は口縁部から頸部にかけて刺突紋が施されている。胎土はやや粗く、白色・灰色粒を含んでいる。**3** は小型壷で、底部は平底で体部の下半が下膨れする無花果形を呈している。頸部から口縁部にかけて外反している。外面は体部に1単位（3本）の横線紋が施され、その間に斜格子紋が施されている。頸部に刺突紋が施され、ヘラ磨き痕が残っている。内面は摩耗しているため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、長石・石英・灰色粒と礫（3㎜大）を多く含んでいる。　**4** は須恵器の甕で、丸底の底部から

体部下半にかけて外反し、肩部から頸部にかけて内湾する。頸部から口縁部にかけて外反する。外面は口縁部にナデ仕上げが認められ、頸部から底部には全体に叩き目痕が残っている。内面は口縁部にナデ仕上げが認められ、体部下半にヘラ削り痕が残っている。内面の口縁部と外面の肩部に釉がかかっている。胎土は密で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。　**5** は山茶碗の碗で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台が付いている。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部にナデ仕上げが認められ、底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められ、内外面とも口縁部の一部に薄い釉がかかっている。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。

12号溝跡（自然排水路－３）

12号溝跡は自然排水路で調査区の中央部に位置し、Ｈ－９グリッドの中央部から西方向に伸長し、Ｇ－９グリッドからＧ－10グリッドまで南方向に伸長している。南端部は池跡に流入している。規模は東西方向の長さが8.45m、屈曲部で5.98m、南北方向に11.72mで合計26.15m、幅は1.80～3.05mである。東西・南北軸のＮ値方位は変化点が１箇所、屈曲点が２箇所認められる。東側からＮ－75.1°－Ｗ、屈曲点でＮ－55.7°－Ｅ、屈曲点の内角は130.8°、次の屈曲点でＮ－8.8°－Ｗ、屈曲点の内角は82.6°、変化点でＮ－44.9°－Ｗ、変化点でＮ－24.5°－Ｅを指向する。断面形状はＶ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で195cmある。覆土はＡ－Ａ’は15層、Ｂ－Ｂ’は10層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒褐色（10YR　2/2）土層、２層はにぶい黄褐色（10YR　4/3）土層、３層は黒褐色（10YRY　3/2）土層、４層は黄灰色（2.5 Y　4/1）土層、５層は暗オリーブ褐色（2.5Y　3/3）土層、６層は暗オリーブ褐色（2.5YR 3/2）土層、７層は黒褐色（10YR　2/2）土層、８層は黒褐色（7.5Y　3/1）土層、９層は黒色（7.5YR　1/2）土層、10層は黒色（7.5YR　2/1）土層、11層は黒褐色（10YR　2/2）土層、12層は黒色（2.5Y　2/1）土層、13層は黒色（10YR　2/1）土層、14層は黒褐色（10YR　3/1）土層、15層は黒色（7.5Y　2/1）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の１層は黒色（7.5YR　2/1）土層、２層は黒色（10YR　2/1）土層、３層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、４層は黒褐色（10YR　2/3）土層、５層は黒色（10YR　2/1）土層、６層は黒褐色（10YR　2/3）土層、７層は青灰黄色（10YR　2/3）土層、８層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、９層は黒褐色（10YR　2/3）土層、10層は黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は覆土から弥生土器の壺と甕の口縁部片が２点、体部片が１点、土師器の口縁部片が４点、高坏の脚が１点、須恵器の坏身が３点、甕の口縁部片が１点の合計12点出土している。また、植物遺体も確認されたが、バラ科サクラ属のモモ（Prunus persica(L.)Batsch）の枝・葉・種子であった。遺物の内、図化が可能な弥生土器の壺と甕の口縁部片２点、土師器の口縁部片４点、高坏の脚１点、須恵器の坏身３点、甕の口縁部片１点の合計11点を図示した。

遺物　第140図の **1**・**2** は弥生土器、**3** ～ **7** は土師器、**8** ～**11**は須恵器である。**1** は壺の口縁部から頸部にかけての破片で、頸部で緩やかに屈曲し、口縁端部まで直線的に外反している。外面は頸部に波状紋と刺突紋が施されている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、白色・赤色粒と礫（0.5～3.5㎜大）を含んでいる。　**2** は甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口唇部に刻み目痕が残り、口縁部から体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は粗く、白色・茶色・灰色粒と礫（3㎜大）を多く含んでいる。　**3** は甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部に横位のハケ目痕が残り、頸部に斜位・横位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部から頸部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、白色・赤色粒と小礫（0.5～2.0㎜大）を含んでいる。　**4** は甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部にナデ仕上げが認められ、体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部にナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、灰色・茶色粒を含んでいる。　**5** は甕の口縁部から頸部にかけての破片で、頸部で屈曲し、口縁部は大きく開いている。外面は頸部に縦位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部から頸部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、白色・赤色粒と小礫（0.5～1.5㎜大）を含んでいる。　**6** は甕の口縁部から頸部にかけての破片で、頸部で屈曲し、口縁部は水平に開き、端部はやや内湾する。外面は頸部に縦位のハケ目痕、体部上半に斜位のハケ目痕が残っている。内面は頸部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、白色・赤色粒と礫（0.5～3.0㎜大）を含んでいる。　**7** は高坏の脚部で、脚部は「ハ」の字状に開いている。外面は斜位のハケ目の後に横ナデ仕上げが認められる。内面は横ナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒



第140図　自然排水路（12号溝跡）から出土した土器の実測図
1・2は弥生土器、**3**～**7**は土師器、**8**～**11**は須恵器

色・赤色粒と小礫（1.5㎜大）を含んでいる。　**8**は坏身の口縁部から底部にかけての破片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部は内湾している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色・赤色・透明粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**9**は坏身の口縁部から底部にかけての破片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部は外反している。外面は口縁部から高台部にナデ仕上げが認められ、底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・茶色粒を含んでいる。　**10**は坏身の口縁部から底部にかけての破片で、底部は歪んでいるが、断面が台形の貼り付け高台が付いている。体部から口縁部は直線的に外反している。外面は口縁部から高台部にナデ仕上げが認められ、底部は回転ヘラ削り痕が残っている。

内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色・黒色粒と礫（4㎜大）を含んでいる。**11**は甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。

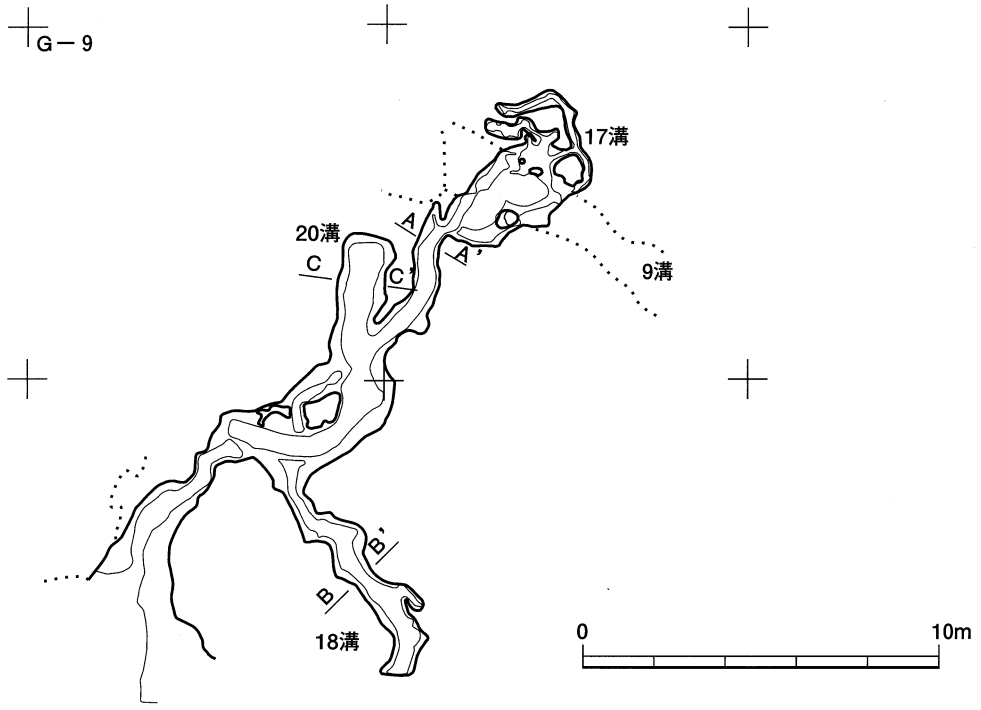
13号溝跡（自然排水路－４）

13号溝跡は自然排水路で、Ｆ－９グリッドの南東部で12号溝跡（自然排水路－３）より分岐し、南方向に伸長し、Ｆ－10グリッドの北東部で南端部が池跡に流入している。規模は長さが3.25m、幅は1.04～1.17mである。南北軸のＮ値方位は変化点が１箇所認められる。北側からＮ－28.5°－Ｅ、変化点でＮ－14.5°－Ｅを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で61㎝ある。覆土はＡ－Ａ’は５層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒色（7.5YR　2/1）土層、２層は黒色（10YR　2/1）土層、３層は黒色（7.5YR　1.7/1）土層、４層は黒褐色（10YR　2/3）土層、５層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

17号溝跡（自然排水路－５）

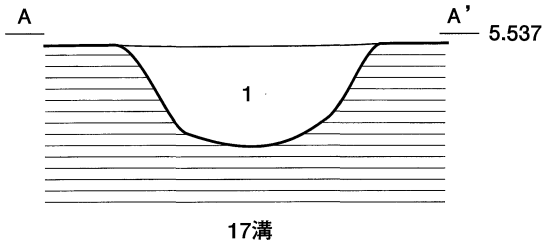
17・18・20号溝跡は一つの自然排水路を形成している。

17号溝跡は自然排水路で、Ｈ－９グリッドの中央部から南西方向に蛇行しながら伸長し、９号溝跡を切り、20号溝跡（自然排水路－７）と合流し、49号溝跡の西端部を切り、Ｇ－10グリッドで南端部は池跡に流入している。規模は長さが25.69m、幅は0.18～1.15mである。南北軸のＮ値方位は変化点が25箇所、屈曲点が６箇所認められる。北側からＮ－46.2°－Ｗ、変化点でＮ－86.7°－Ｗ、屈曲点でＮ－67.0°－Ｅ、東西軸と南北軸は内角119.0°で屈曲し、変化点でＮ－52.0°－Ｗ、変化点でＮ－36.9°－Ｗ、変化点でＮ－24.4°－Ｗ、屈曲点でＮ－15.9°－Ｗ、南北軸と東西軸は内角96.5°で屈曲し、屈曲点でＮ－67.6°－Ｅ、東西軸と南北軸は内角95.7°で屈曲し、屈曲点でＮ－16.7°－Ｗ、南北軸と東西軸は内角103.0°で屈曲し、変化点でＮ－60.3°－Ｅ、変化点でＮ－77.3°－Ｅ、変化点でＮ－71.6°－Ｗ、変化点でＮ－34.6°－Ｅ、変化点

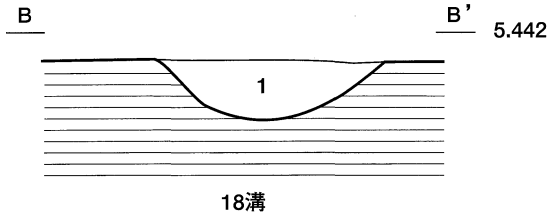


第141図　17・18・20号溝跡の平面図

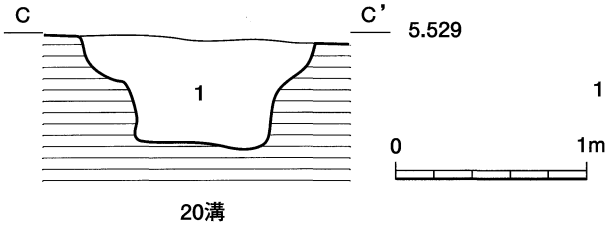
でN、変化点でN－54.5°－E、変化点でN－78.5°－W、変化点でN－58.8°－E、変化点でN－35.5°－E、変化点でN－0.4°－W、変化点でN－25.7°－E、変化点でN－43.3°－E、変化点でN－53.4°－E、変化点でN－2.7°－E、変化点でN－32.8°－E、変化点でN－67.0°－E、変化点でN－69.2°－W、変化点でN－59.6°－E、屈曲点でN－11.0°－E、東西軸と南北軸は内角115.0°で屈曲し、変化点でN－54.0°－E、変化点でN－28.7°－E、変化点でN－8.4°－E、変化点でN－34.7°－Eを指向する。断面形状は上に開くU字形および丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で98cmある。覆土A－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
亜円礫・円礫（直径5mm大）が1％ほど混じる。



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
亜円礫・円礫（直径5mm大）が1％ほど混じる。



1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
亜円礫・円礫（直径5mm大）が1％ほど混じる。

第142図　17・18・20号溝跡の断面図

18号溝跡（自然排水路－6）

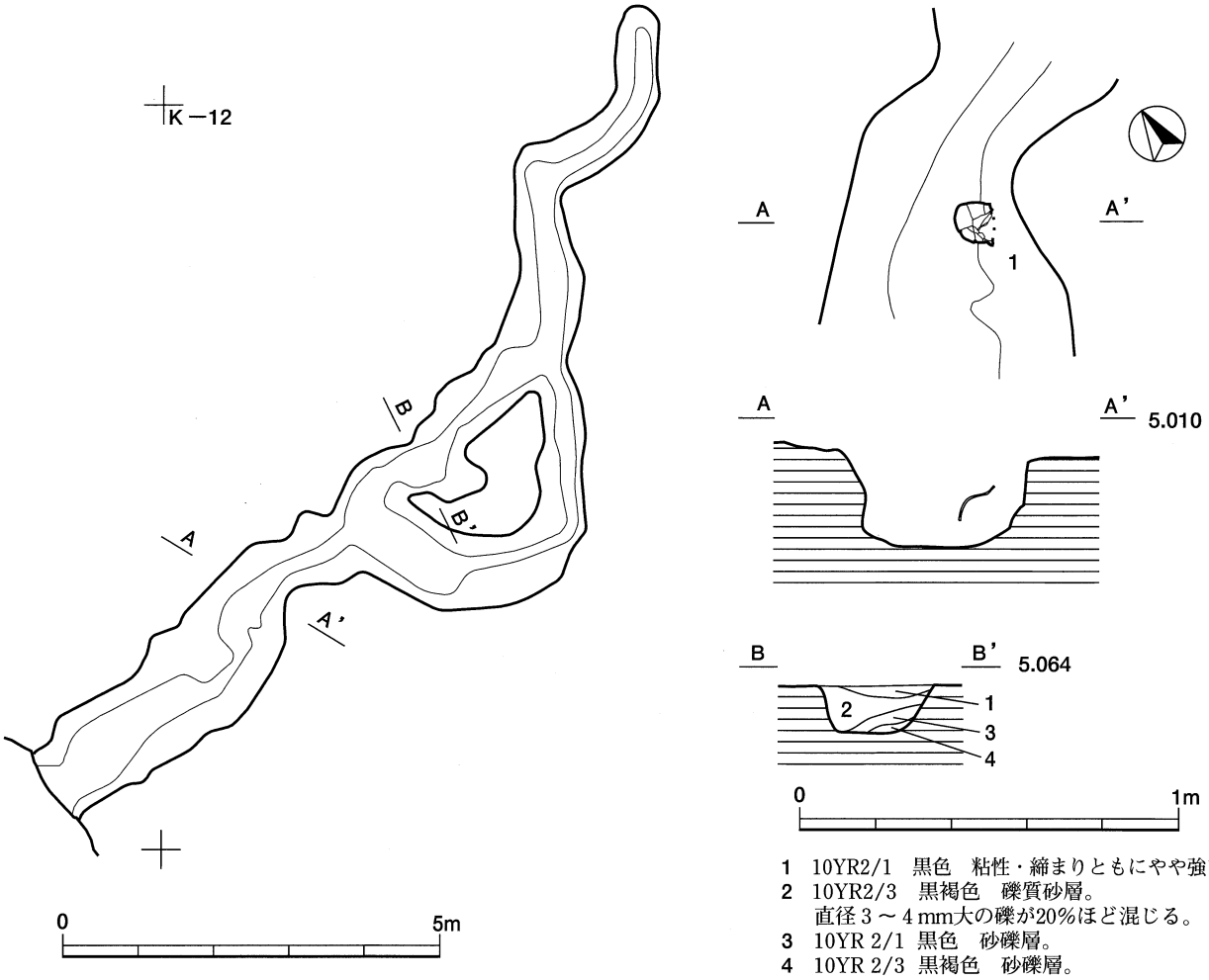
18号溝跡は自然排水路で、G－10グリッドの北東部で17号溝跡（自然排水路－5）から分岐している。北西から南島方向に蛇行しながら伸長し、H－10グリッドで南端部が池跡に流入している。規模は長さが8.60mで、幅は0.51～1.20mである。南北軸のN値方位は変化点が7箇所認められる。北側からN－0.8°－E、変化点でN－32.8°－W、変化点でN－68.7°－W、変化点でN－16.4°－W、変化点でN－44.5°－W、変化点でN－27.2°－W、変化点でN－20.3°－E、変化点でN－11.0°－Eを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で98cmある。覆土A－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

20号溝跡（自然排水路－7）

20号溝跡は自然排水路で、G－9グリッドの南西部でH－9グリッドとの境界沿いを南方向に伸長し、17号溝跡（自然排水路－5）に合流している。規模は長さが3.44m、幅は1.02～1.54mである。南北軸のN値方位は変化点が1箇所認められる。北側からN－14.4°－W、変化点でN－0.7°－Eを指向する。断面形状はU字形で底部は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で62cmある。覆土はA－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

23号溝跡（自然排水路－8）

23号溝跡は自然排水路で、調査区の南東部に位置し、K－11グリッドの南部から南西方向に伸長し、屈曲点からは南方向に伸長し、K－12グリッドの中央部で9号溝跡を切り、やや南西方向に伸長し、南端部はJ－12グリッドの南東部で池跡に流入している。規模は北西・南東方向の長さが3.01mで、南北方向の長さが12.09mの合計15.10m、幅は0.51～2.81mである。南北軸のN値方位は変化点が8箇所、屈曲点が1箇所認められる。北側からN－2.7°－W、変化点でN－26.6°－E、変化点でN－49.3°－E、変化点でN－70.2°－E、屈曲点でN－5.7°－E、すなわち東西軸と南北軸は内角104.1°で屈曲し、変化点でN－11.6°－E、変化点でN－76.6°－E、変化点でN－59.9°－E、変化点でN－11.2°－E、変化点でN－54.7°－Eを指向する。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で98cmある。覆土はA－A'は4層で構成される。断面A－A'の1層は黒色（10YR　2/1）土層、2層は黒褐色（10YRY　2/3）土層、3層は黒色（10YR　2/1）土層、4層は黒褐色（10YR　2/3）土層である。

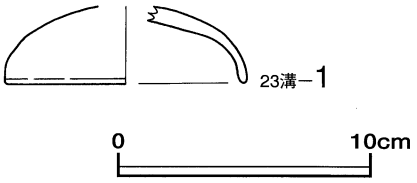


1　10YR2/1　黒色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR2/3　黒褐色　礫質砂層。
　直径3～4mm大の礫が20%ほど混じる。
3　10YR 2/1 黒色　砂礫層。
4　10YR 2/3 黒褐色　砂礫層。

第143図　23号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から土師器片・須恵器片が50点出土している。その内、図化が可能な須恵器の坏蓋片1点を図示した。

遺物　第144図の**1**は須恵器の坏蓋の破片で、天井部は弓張り状を呈し、口縁部はやや内湾気味に下がっている。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・茶褐色粒を含んでいる。



第144図　23号溝跡から出土した土器の実測図

〈穴状遺構〉

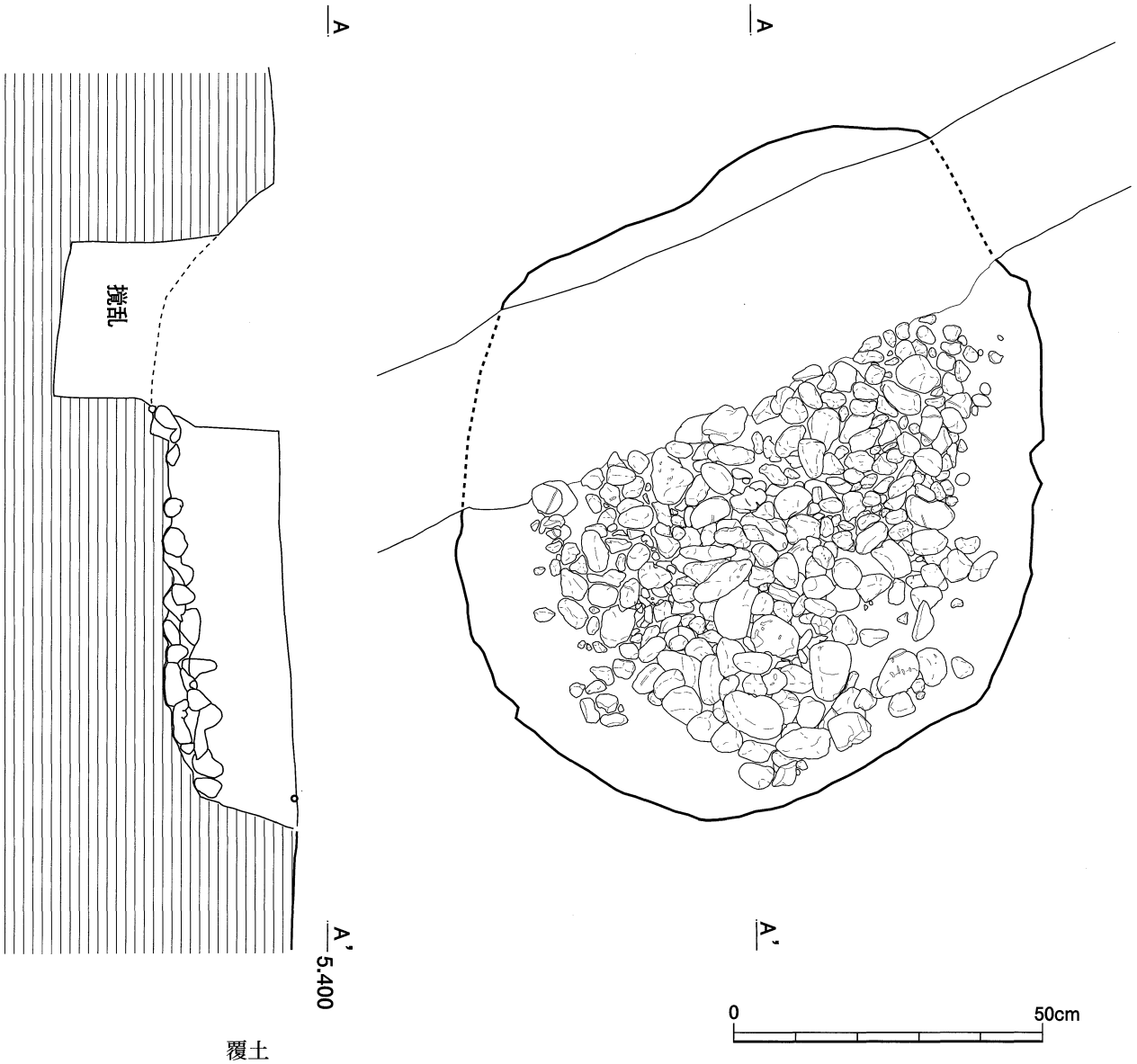
穴状遺構は土壙が２基、土坑が43基、ピットが170基である。

〈土　壙〉

１号土壙（古墳－１）

遺構　１号土壙はＢ－９グリットの北部に位置し、北部を後世の暗渠により撹乱を受けているが、平面形状は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸の長さ1.07ｍ、短軸の長さ0.93ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－3°－Ｗを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で21㎝ある。覆土は１層で構成され、黒褐色（2.5Y　3/1）土層である。床面は礫床で径が２～12㎝大の礫が敷いてあった。

遺物は覆土中から、土師器の破片が１点出土したが、細片で図化が可能な遺物ではなかった。



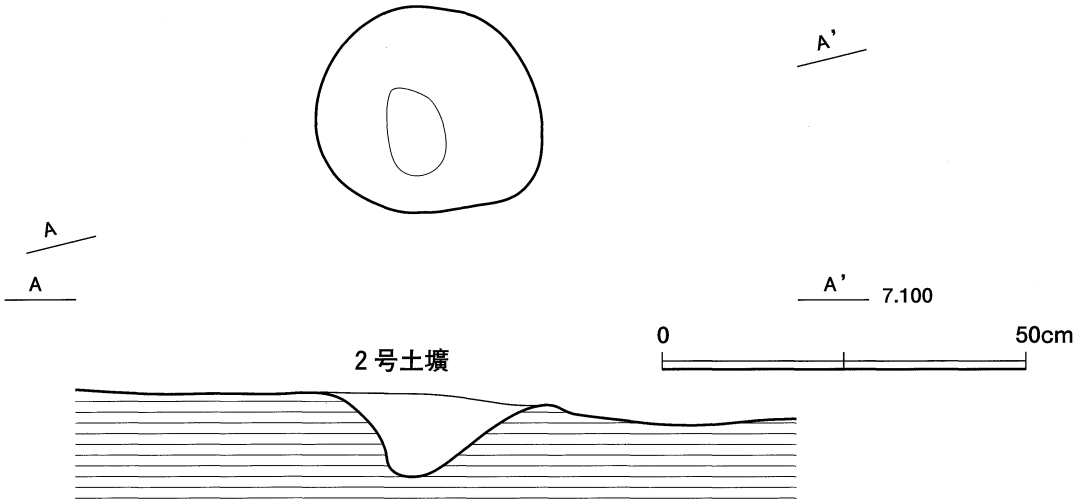
覆土
2.5Y 3/1 黒褐色　　粘性やや強く、締まりややあり。
10YR 7/1 灰白色が覆土のクラックに入り込んでいる。

第145図　１号土壙の平面・断面図

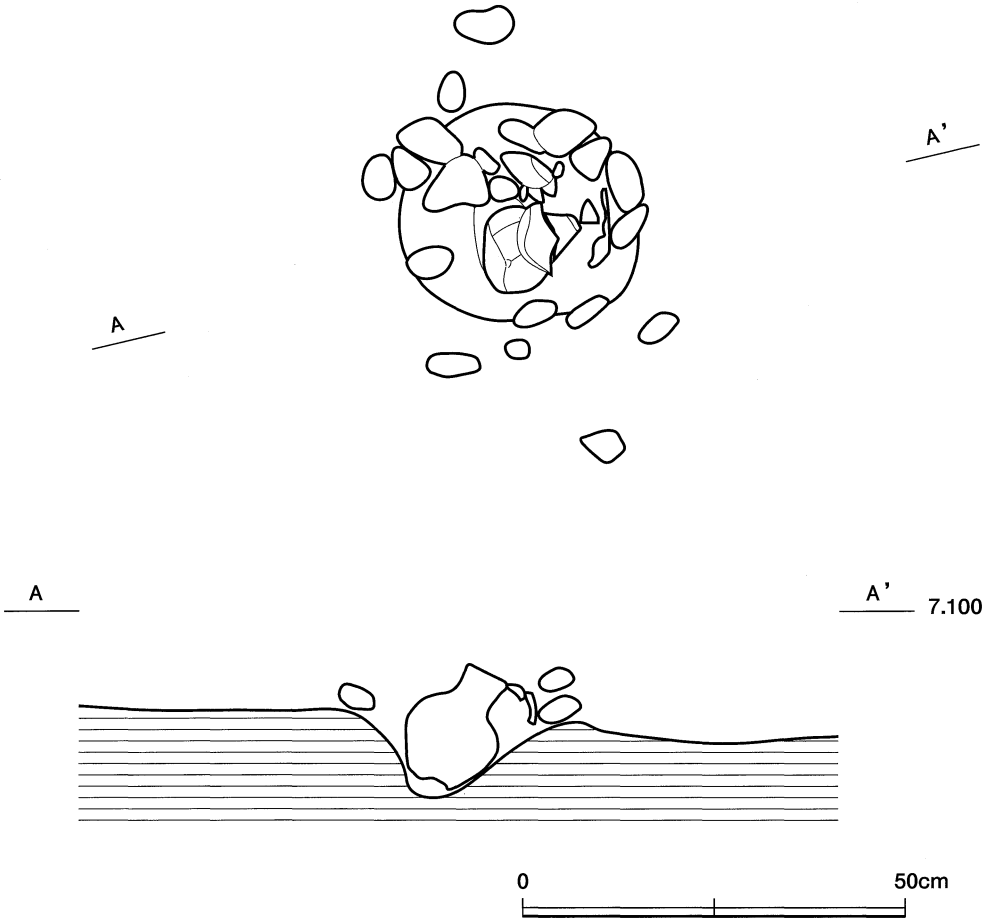
2号土壙（古墳－2）

遺構　2号土壙はF－6グリットの中央部に位置し平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.07m、短軸の長さが0.93mを測る。長軸のN値変換方位はN－43°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で21cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（2.5Y　3/1）土層である。遺構確認面から床面かけて礫（径3～10cm大）を確認したが、散乱しており規則性は認められなかった。

遺物は覆土から須恵器が2点出土しており、その2点を図示した。

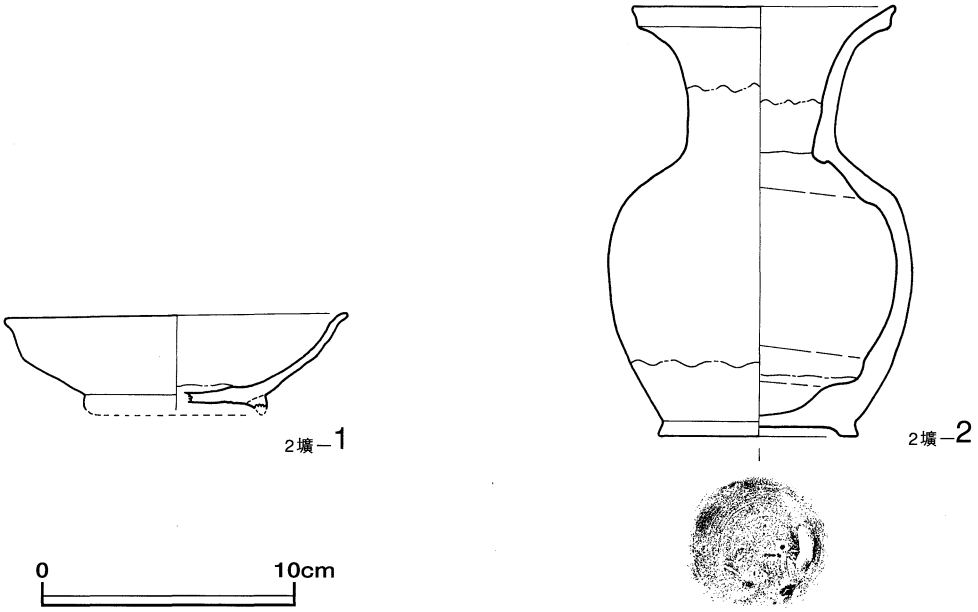


第146図　2号土壙の平面・断面図



第147図　2号土壙の遺物および礫の出土状況図

遺物は覆土から須恵器が2点出土し、その2点を図示した。



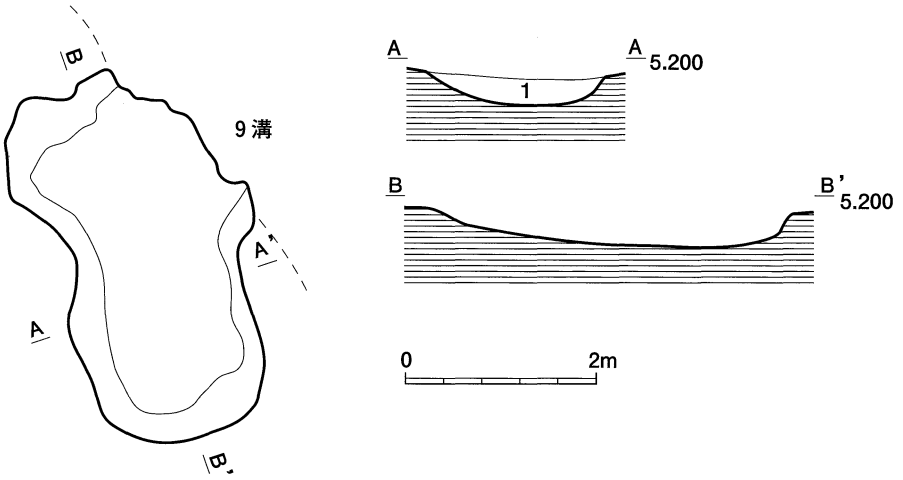
第148図　2号土壙から出土した須恵器の実測図

遺物　第148図の **1** は鉢で、底部は貼り付け高台を付けている。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒子を含んでいる。**2** は長頸壺で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、頸部から口縁部は外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。外面の頸部から体部と内面の口縁部に釉がかかっている。胎土は密で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。

〈土　坑〉

1号土坑（古墳－1）

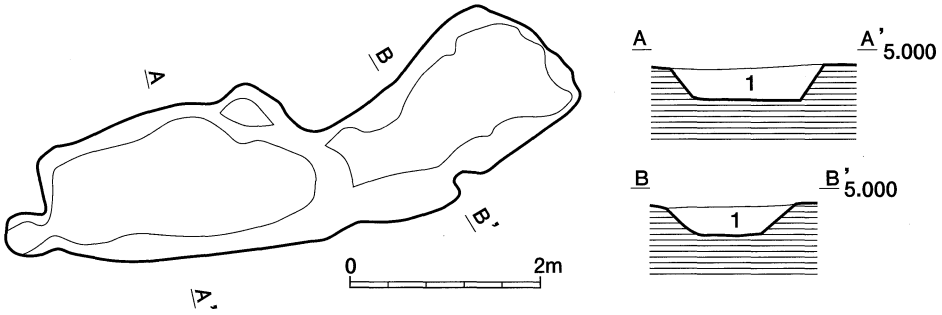
遺構　1号土坑はJ－11グリッドの北西部に位置し、北東部を9号溝跡に切られている。平面形状は楕円に近い不定形で、規模は長軸の長さが1.86m、短軸の長さが4.00mを測る。長軸のN値変換方位はN－35°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で26cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は弥生土器の口縁部片が2点、体部片が25点の計27点、土師器の口縁部片が1点、体部片が32点の計33点、須恵器の口縁部片が4点、体部片が22点、底部片が11点の計37点で合計97点出土しているが、図化が可能な破片はなかった。



第149図　1号土坑の平面・断面図

2号土坑（古墳－2）

遺構　2号土坑はJ－11グリッドの南西部に位置し、平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが6.10m、短軸の長さが1.60mを測る。長軸のN値変換方位はN－69°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は弥生土器の口縁部片が1点、体部片が15点の計16点、土師器の体部片が16点、須恵器の体部片が4点で合計36点出土しているが、図化が可能な破片はなかった。



第150図　2号土坑の平面・断面図

3号土坑（古墳－3）

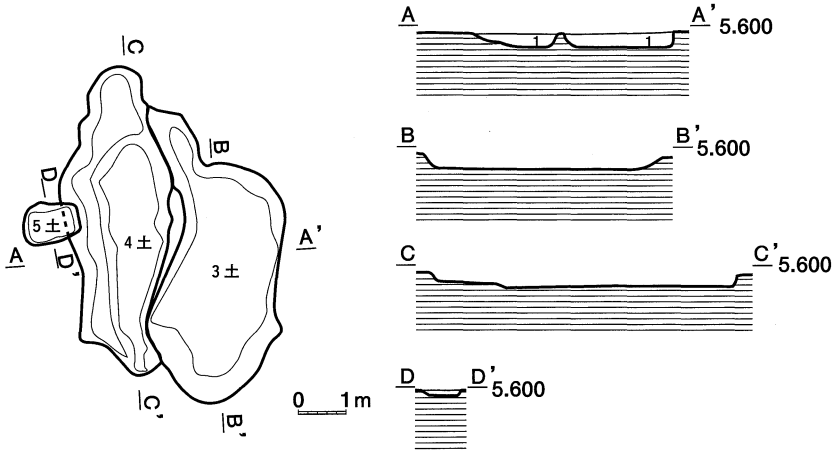
遺構　3号土坑はE－8グリッドの南西部からE－9グリッドの北西部に位置し、西側に4号土坑が接している。平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが5.05m、短軸の長さが2.15mを測る。長軸のN値変換方位はN－5°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で32cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

4号土坑（古墳－4）

遺構　4号土坑はE－8グリッドの南西部からE－9グリッドの北西部に位置し、東側に3号土坑が接している。平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが6.57m、短軸の長さが2.10mを測る。長軸のN値変換方位はN－5°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で32cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

5号土坑（古墳－5）

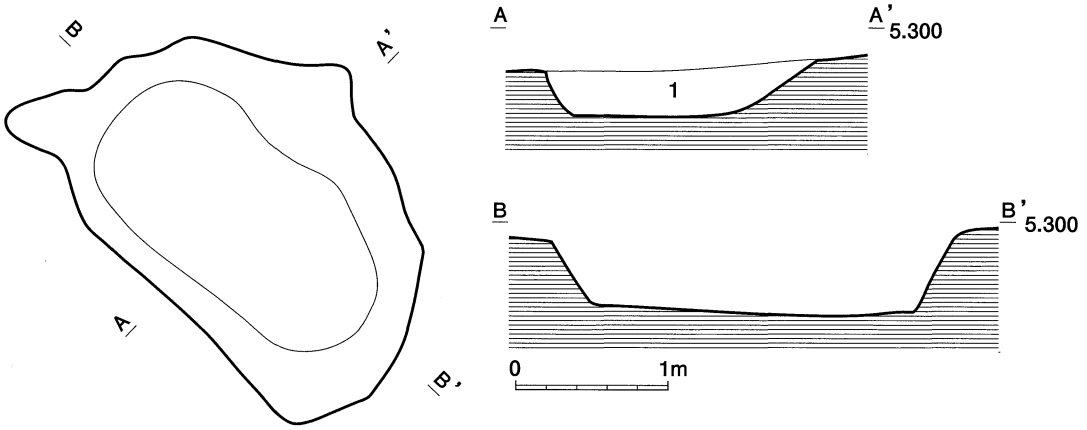
遺構　5号土坑はD－9グリッドの北東部からE－9グリッドの北西部に位置し、4号土坑の西側壁の一部を切っている。平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸の長さが1.20m、短軸の長さが0.87mを測る。長軸のN値変換方位はN－75°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第151図　3・4・5号土坑の平面・断面図

6号土坑（古墳－6）

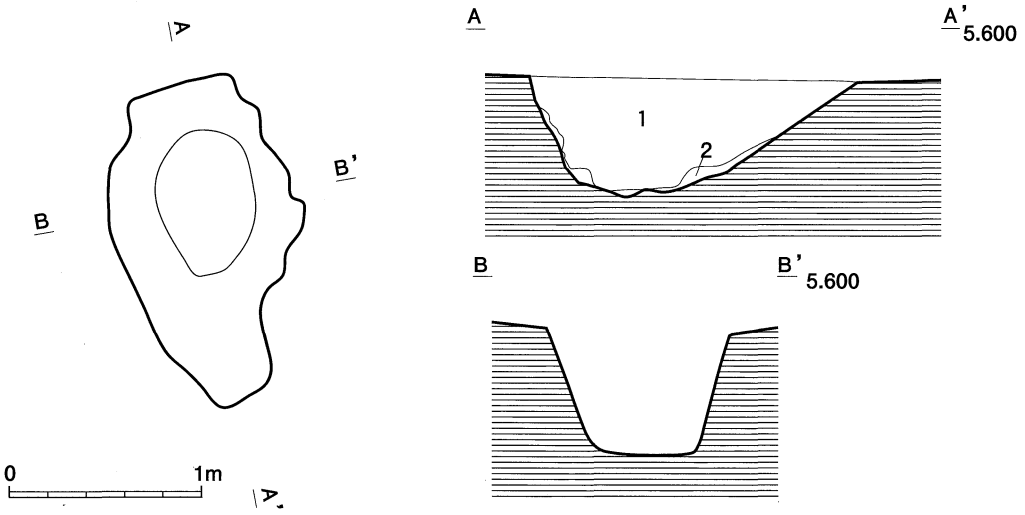
遺構　6号土坑はＪ－11グリッドの北部で、9号溝跡の北東部に位置している。平面形状は楕円形に近い不定形で、規模は長軸の長さが2.69m、短軸の長さが1.90mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－47°－Ｗを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第152図　6号土坑の平面・断面図

7号土坑（古墳－7）

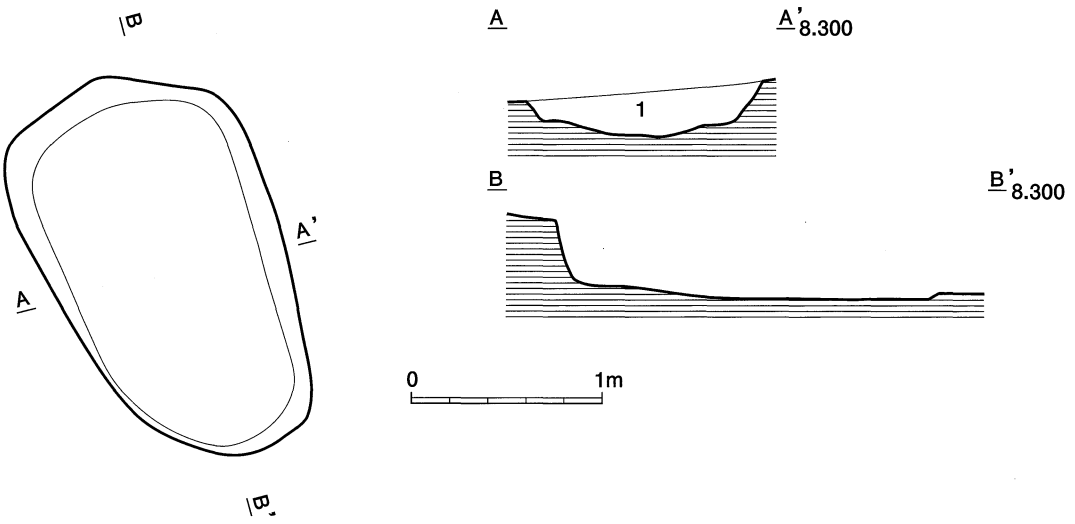
遺構　7号土坑はＣ－8グリッドの中央部よりやや西寄りに位置している。平面形状は楕円形に近い不定形で、規模は長軸の長さが1.70m、短軸の長さが0.95mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－7°－Ｗを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で65cmある。覆土は2層で構成され、1層は黒色（10YR　2/1）土層、2層は黄褐色（2.5Y　5/3）土層である。遺物は出土しなかった。



第153図　7号土坑の平面・断面図

8号土坑（古墳－8）

遺構　8号土坑はＣ－5グリッドの中央部よりやや南寄りに位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが2.15m、短軸の長さが1.20mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－21°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で30cmある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

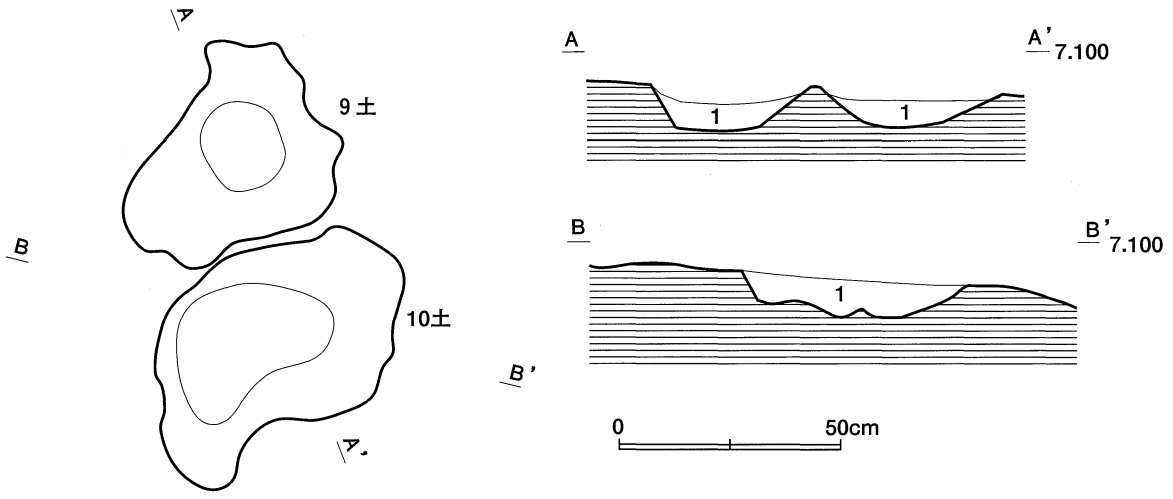


第154図　8 号土坑の平面・断面図

9 号土坑（古墳－9）

遺構　9 号土坑はＦ－ 6 グリッドの中央部に位置し平面形状は円形に近い不定形で、規模は長軸の長さが0.51m、短軸の長さが0.39mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－60°－Ｅを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。

遺物は土師器の体部片が 2 点出土したが、図化が可能なものではなかった。

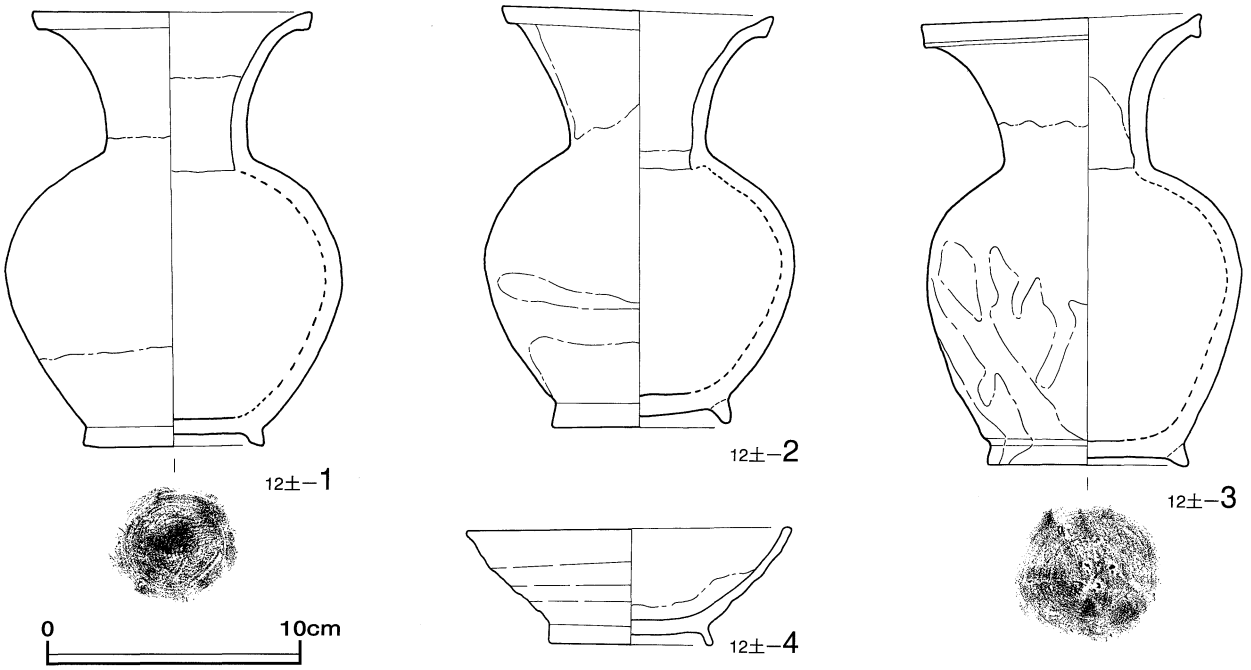


第155図　9 ・10号土坑の平面・断面図

10号土坑（古墳－10）

遺構　10号土坑はＦ－６グリットの中央部に位置し、平面形状は円形に近い不定形で、規模は長軸の長さが0.68ｍ、短軸の長さが0.43ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－60°－Ｅを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で７㎝ある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。

遺物は弥生土器の体部片が１点、須恵器の長頸壺が３点、鉢が１点、口縁部片が１点、体部片が１点、底部片が２点の合計９点出土している。その内、図化が可能な須恵器の長頸壺３点、鉢１点の４点を図示した。



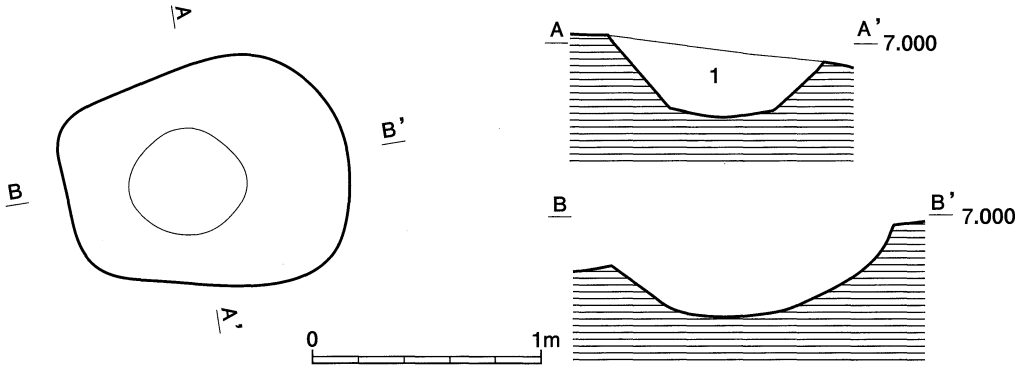
第156図　10号土坑から出土した須恵器の実測図

遺物　第156図の **1** は長頸壺で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、頸部から口縁部は外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。外面の口縁部と体部、内面の口縁部に釉がかかっている。胎土は密で、黒色・長石・茶褐色粒を含んでいる。　**2** は長頸壺で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、頸部から口縁部は外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。外面の口縁部から体部、内面の口縁部と底部に釉がかかっている。胎土は密で、黒色・長石粒と礫（2～9㎜大）を多く含んでいる。　**3** は長頸壺で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、頸部から口縁部は外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。外面は底部に回転糸切り後ナデ仕上げが認められる。外面の口縁部と頸部から体部、内面の口縁部に釉がかかっている。胎土は密で、黒色・長石粒を含んでいる。　**4** は鉢で、平底の底部に断面が細い長方形の貼り付け高台が付く。体部から口縁部 は直線的に外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部に回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。内外面とも釉がかかっている。胎土は密で、白色・灰色・茶色粒を含んでいる。

13号土坑（古墳－11）

遺構　13号土坑はＢ－10グリットの南東部に位置し、平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸の長さが1.23ｍ、短軸の長さが0.96ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－81°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で30㎝ある。覆土は１層で構成され、黒色（10YR　2/1）土層である。

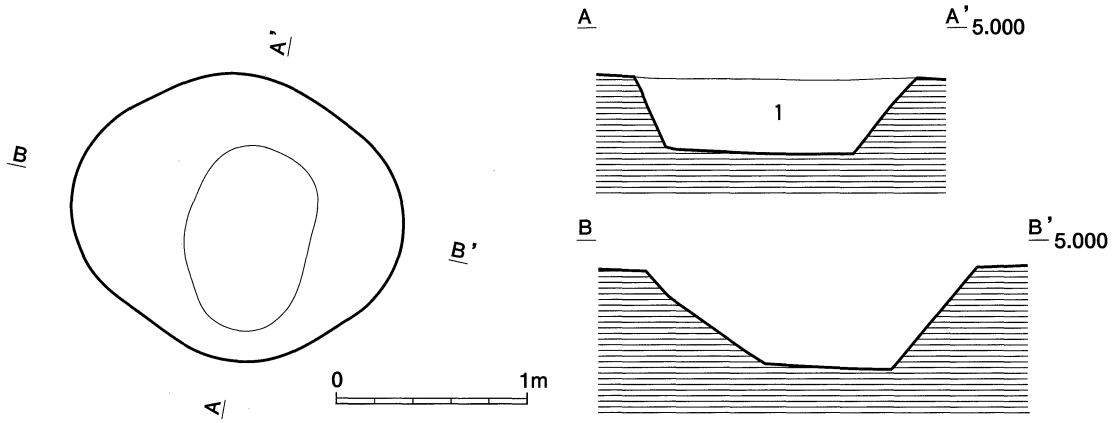
遺物は弥生土器の体部片が１点、土師器の口縁部片が１点、体部片が５点、底部片が１点の合計８点出土しているが、図化が可能な遺物はなかった。



第157図　13号土坑の平面・断面図

14号土坑（古墳－12）

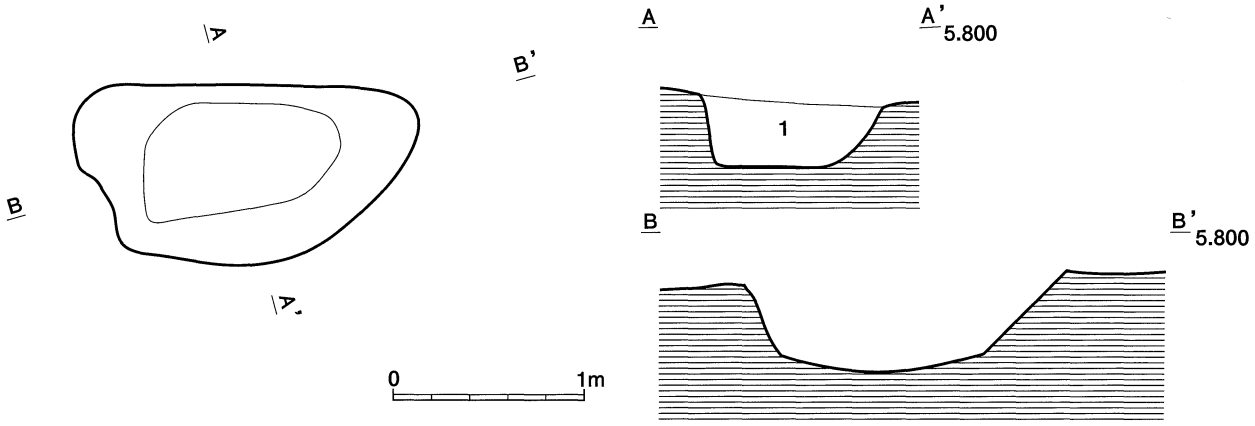
遺構　14号土坑はG－8グリットの南東部に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.77m、短軸の長さが1.47mを測る。長軸のN値変換方位はN－80°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第158図　14号土坑の平面・断面図

16号土坑（古墳－13）

遺構　16号土坑はE・F－7・8グリットの中央部に位置し、平面形状は楕円形に近い不定形で、規模は長軸の長さが1.80m、短軸の長さが0.95mを測る。長軸のN値変換方位はN－85°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

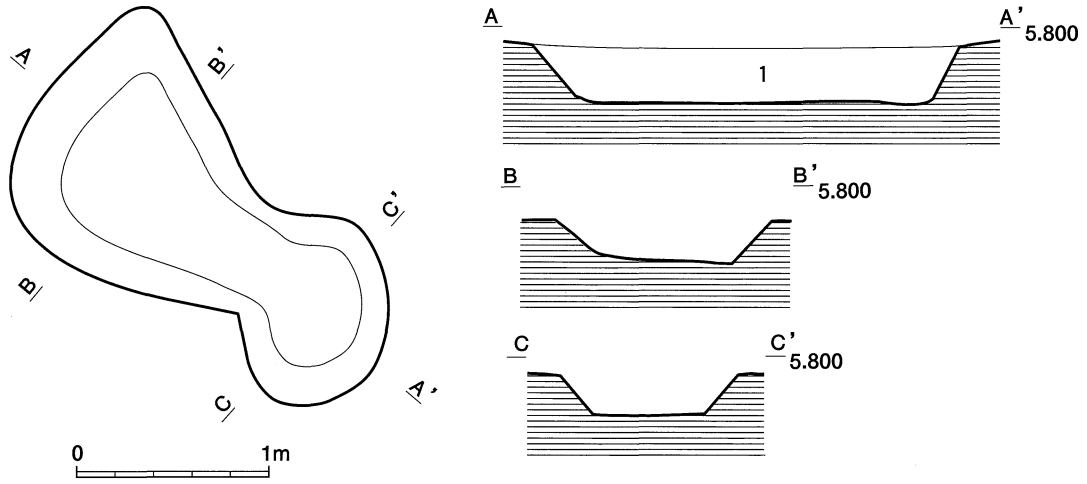


第159図　16号土坑の平面・断面図

17号土坑（古墳－14）

遺構　17号土坑はH－７グリットの中央部に位置し、平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが2.24m、短軸の長さが0.78mを測る。長軸のN値変換方位はN－50°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で30cmある。覆土は１層で構成され黒色（10YR　1.7/1）土層である。

遺物は土師器の体部片が２点出土しているが、図化が可能な遺物はなかった。

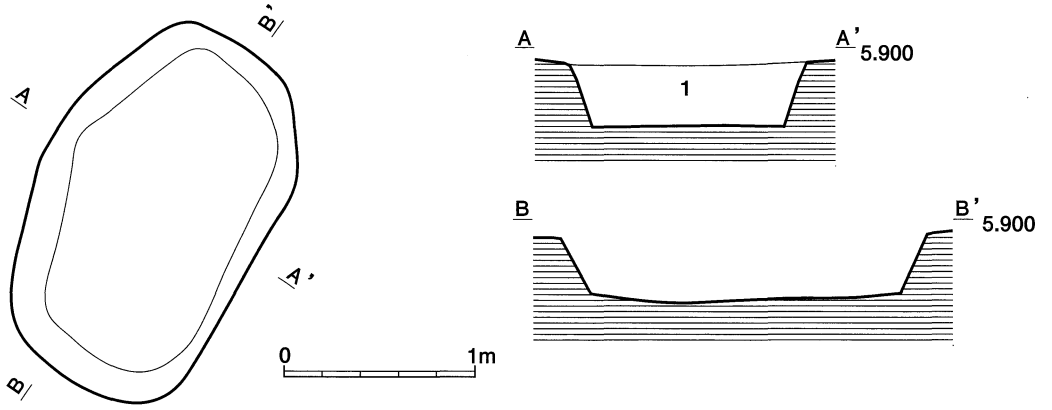


第160図　17号土坑の平面・断面図

18号土坑（古墳－15）

遺構　18号土坑はＪ－７グリットの南西部に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.70m、短軸の長さが1.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－33°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で30cmある。覆土は１層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。

遺物は出土しなかった。

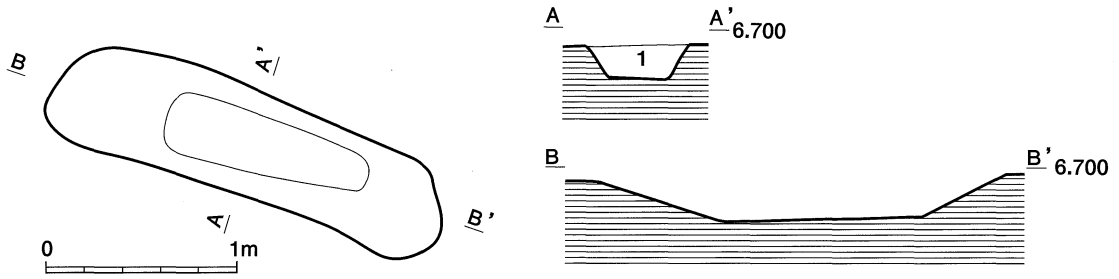


第161図　18号土坑の平面・断面図

19号土坑（古墳－16）

遺構　19号土坑はM－６グリットの南部からM－７グリットの北部に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが2.10m、短軸の長さが0.55mを測る。長軸のN値変換方位はN－72°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は１層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。

遺物は土師器の体部片が２点出土しているが、図化が可能な遺物はなかった。

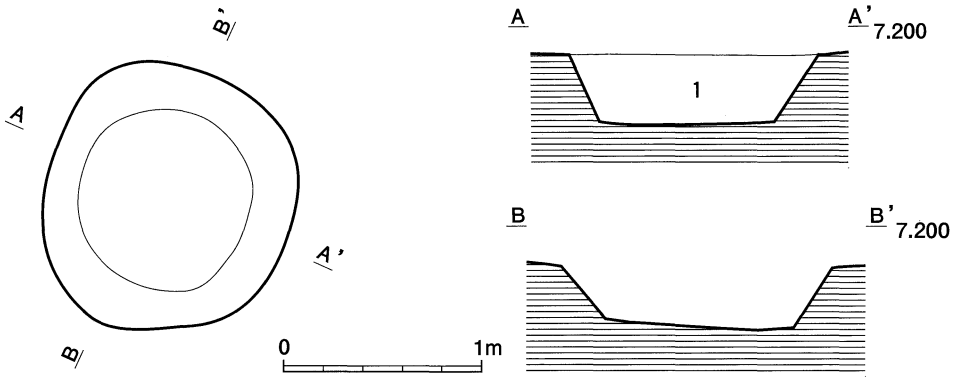


第162図　19号土坑の平面・断面図

20号土坑（古墳－17）

遺構　20号土坑はM－７グリットの南東部に位置し、平面形状は円形で、規模は長軸の長さが1.37m、短軸の長さが1.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は１層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。

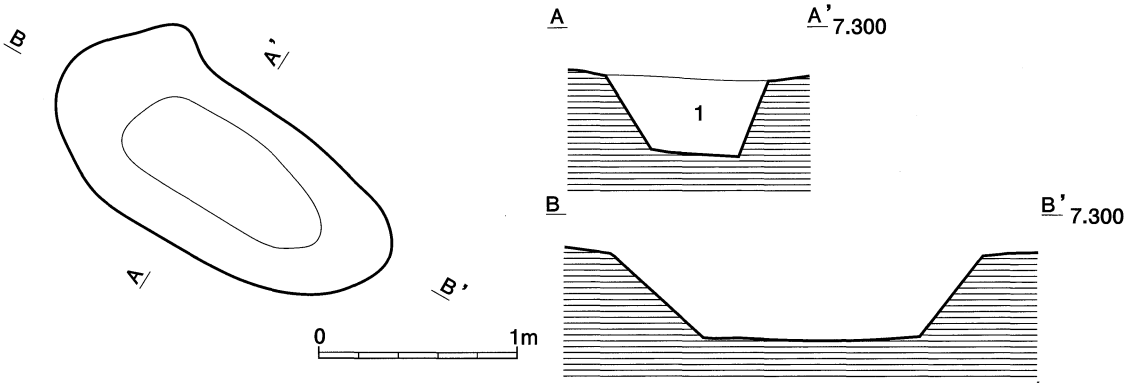
遺物は弥生土器の体部片が１点、土師器の口縁部片が１点、体部片が３点、須恵器の口縁部片が１点の合計６点出土しているが、図化が可能な遺物はなかった。



第163図　20号土坑の平面・断面図

21号土坑（古墳－18）

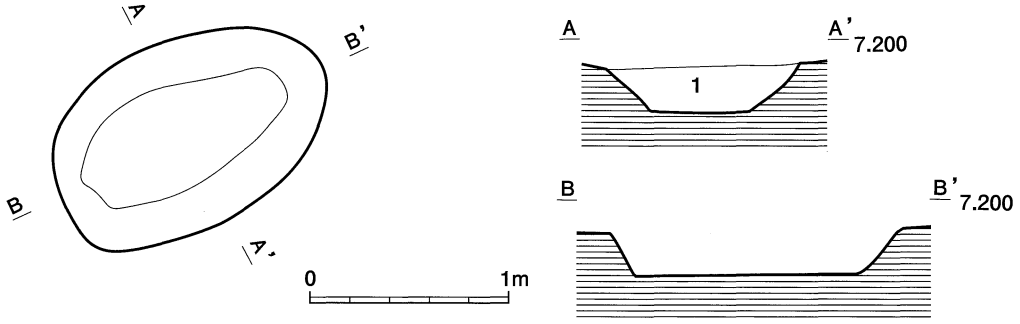
遺構　21号土坑はM－７グリットの中央部に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.88m、短軸の長さが0.83mを測る。長軸のN値変換方位はN－57°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は１層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第164図　21号土坑の平面・断面図

22号土坑（古墳－19）

遺構　22号土坑はM－7グリットの中央部で、21号土坑の南側に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.46m、短軸の長さが0.95mを測る。長軸のN値変換方位はN－60°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第165図　22号土坑の平面・断面図

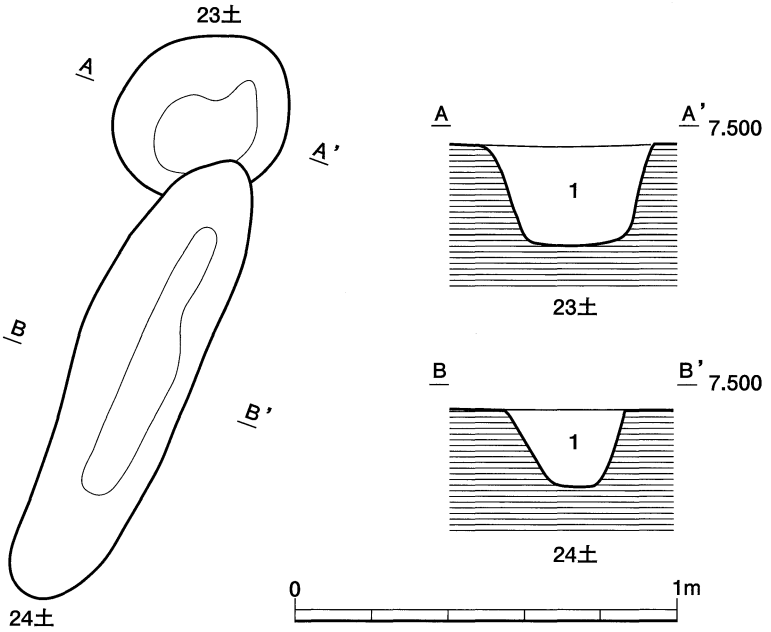
23号土坑（古墳－20）

遺構　23号土坑はM－7グリットの南部に位置し、南部を24号土坑に切られている。残存部分の状況から平面形状は楕円形を呈していたと考えられる。規模は確認部分の南北の長さが0.92m、東西の長さが0.85mを測る。長軸（南北軸）のN値変換方位はN－80°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で50cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。

遺物は出土しなかった。

24号土坑（古墳－21）

遺構　24号土坑はM－8グリットの北部中央に位置し、23号土坑の南部を切っている。平面形状は長い楕円形で、規模は長軸の長さが2.34m、短軸の長さが0.62mを測る。長軸のN値変換方位はN－26°－Eを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



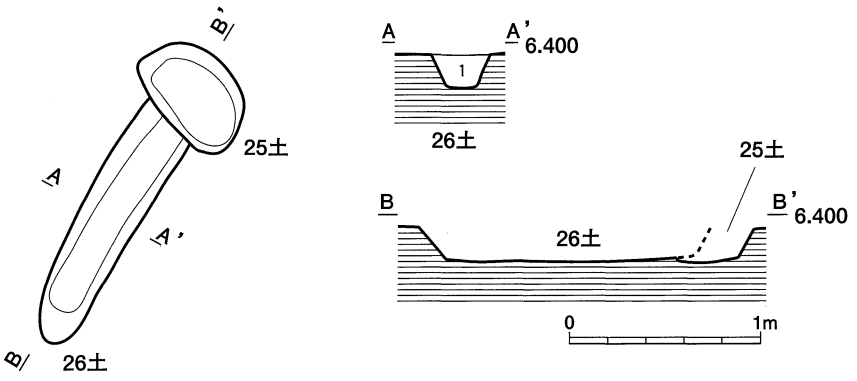
第166図　23・24号土坑の平面・断面図

25号土坑（古墳－22）

遺構　25号土坑はM－7グリットの中央部よりやや西寄りに位置し、26号土坑の北部を切っている。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが0.63m、短軸の長さが0.37mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

26号土坑（古墳－23）

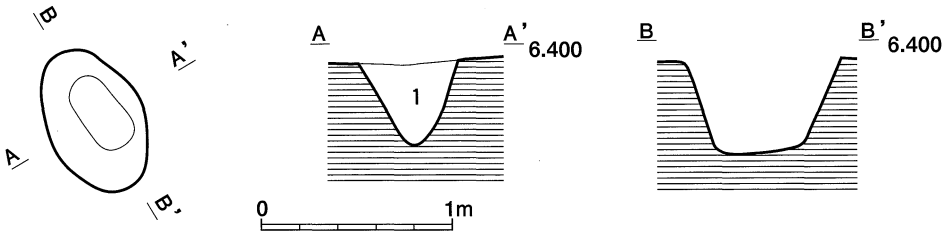
遺構　26号土坑はM－7グリットの中央部よりやや西寄りに位置し、北部を25号土坑に切られている。残存部分の状況から平面形状は長い楕円形を呈していたと想定できる。規模は確認部分の南北の長さが1.32m、東西の長さが0.33mを測る。長軸（南北軸）のN値変換方位はN－32°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第167図　25・26号土坑の平面・断面図

27号土坑（古墳－24）

遺構　27号土坑はM－7グリットの中央部よりやや西寄りに位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが0.79m、短軸の長さが0.52mを測る。長軸のN値変換方位はN－32°－Wを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で33cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

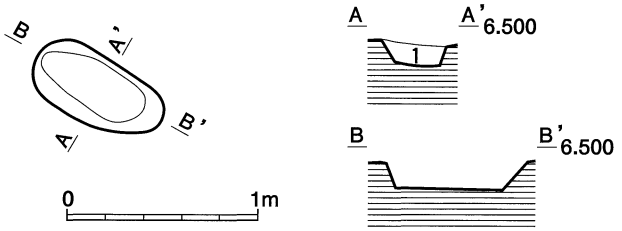


第168図　27号土坑の平面・断面図

28号土坑（古墳－25）

遺構　28号土坑はL－8グリットの中央部に位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが0.74m、短軸の長さが0.36mを測る。長軸のN値変換方位はN－60°－Wを指向している。断面形状は上に

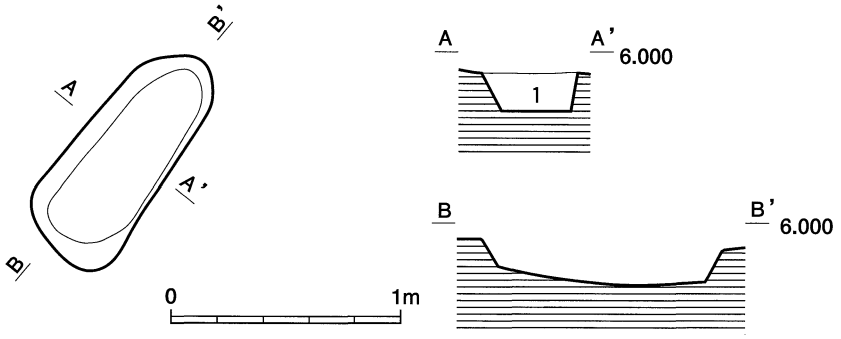
開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第169図　28号土坑の平面・断面図

30号土坑（古墳－26）

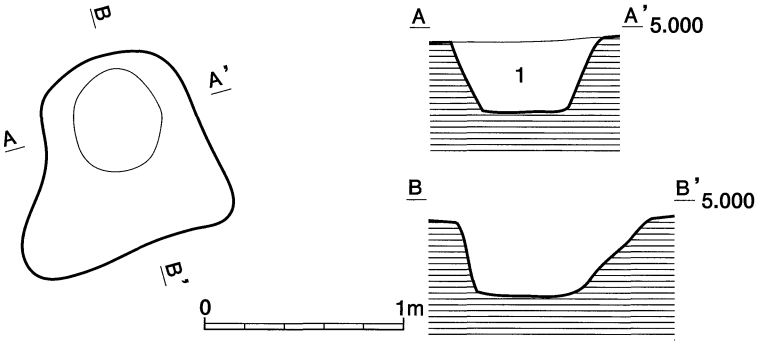
遺構　30号土坑はK－8グリッドの中央部に位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.08m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第170図　30号土坑の平面・断面図

31号土坑（古墳－27）

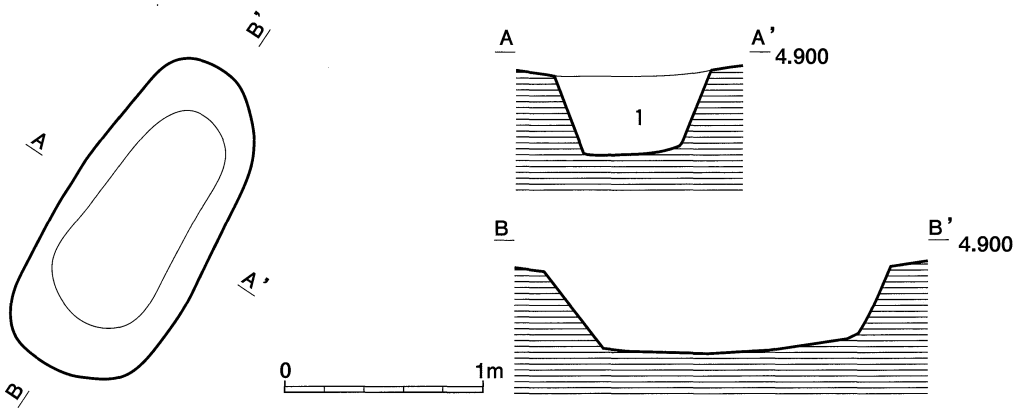
遺構　31号土坑はJ－8グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが0.97m、短軸の長さが0.76mを測る。長軸のN値変換方位はN－18°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で37cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第171図　31号土坑の平面・断面図

32号土坑（古墳－28）

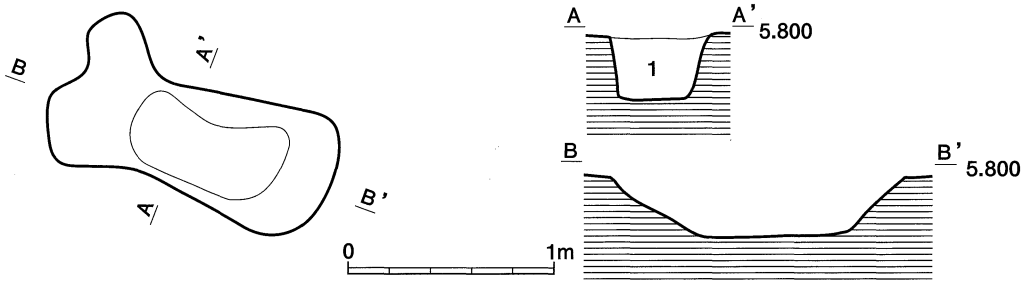
遺構　32号土坑はＪ－８グリッドの中央部やや南よりに位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.70m、短軸の長さが0.80mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－34°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第172図　32号土坑の平面・断面図

33号土坑（古墳－29）

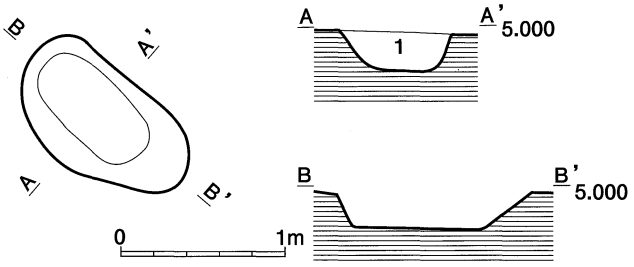
遺構　33号土坑はＪ－８グリッドの中央部よりやや南寄りで、２号土坑の南側に位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.42m、短軸の長さが0.50mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－70°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第173図　33号土坑の平面・断面図

34号土坑（古墳－30）

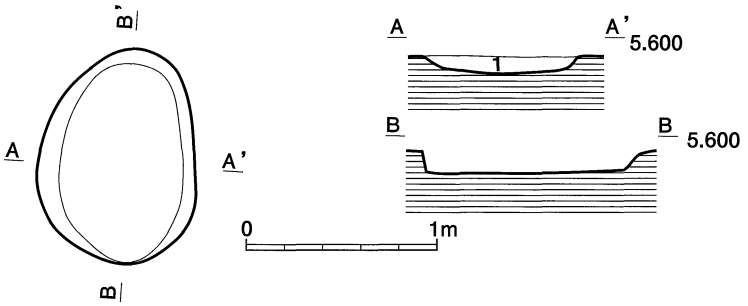
遺構　34号土坑はＩ－９グリッドの中央部よりやや北西寄りに位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.29m、短軸の長さが0.65mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－49°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で23cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第174図　34号土坑の平面・断面図

36号土坑（古墳－31）

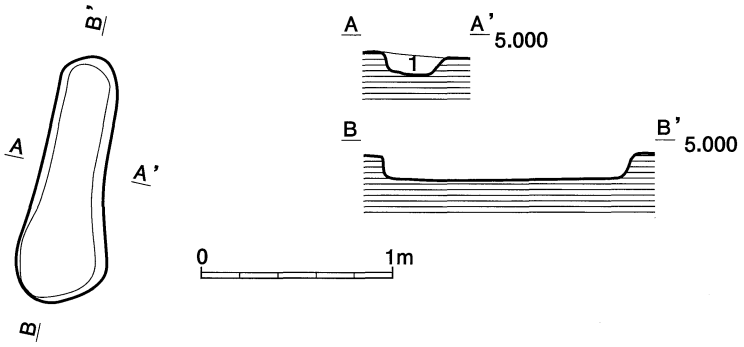
遺構　36号土坑はＨ－９グリッドの北東部よりやや北寄りに位置し、平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.15m、短軸の長さが0.82mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－2°－Ｅを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で８cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第175図　36号土坑の平面・断面図

37号土坑（古墳－32）

遺構　37号土坑はＨ－９グリッドの北東部よりやや東寄りに位置している。平面形状は長い楕円形で、規模は長軸の長さが1.32m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－10°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



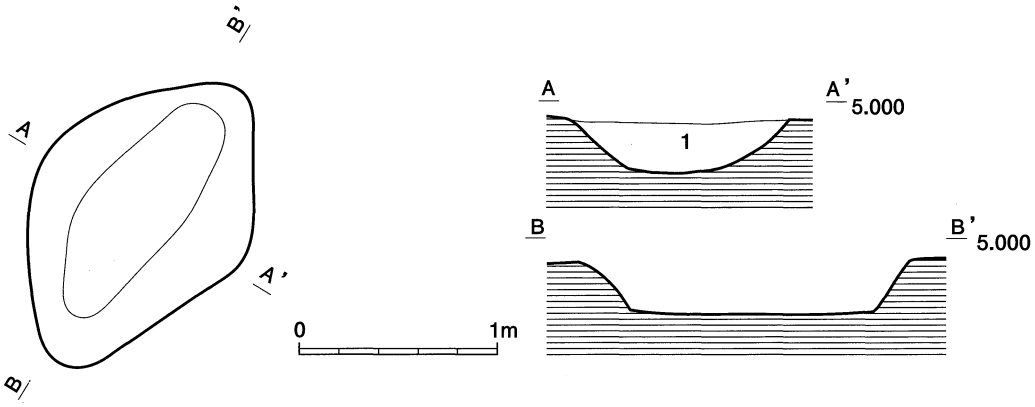
第176図　37号土坑の平面・断面図

38号土坑（古墳－33）

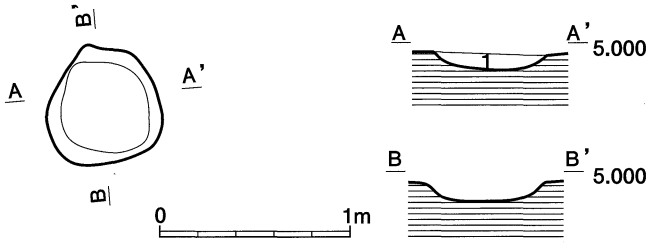
遺構　38号土坑はＨ－８グリッドの南部中央からＨ－９に位置している。平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸の長さが1.63m、短軸の長さが1.08mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－37°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

39号土坑（古墳－34）

遺構　39号土坑はＩ－９グリッドの北西部に位置している。平面形状は円形で、規模は長軸の長さが0.62m、短軸の長さが0.58mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－50°－Ｅを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



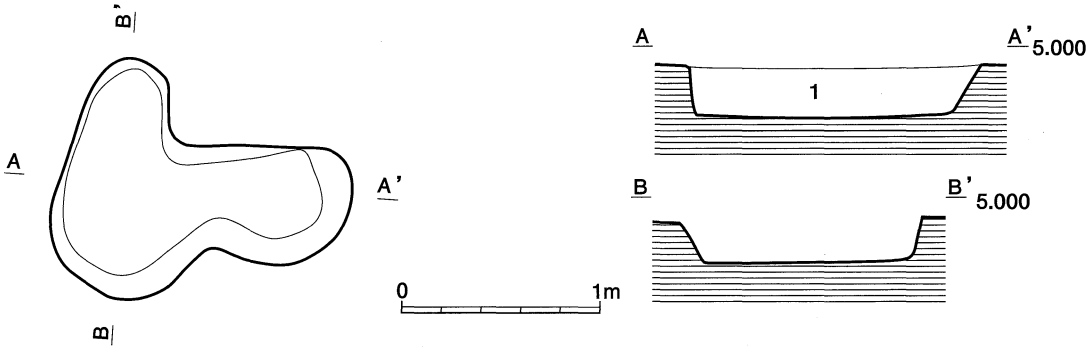
第177図　38号土坑の平面・断面図



第178図　39号土坑の平面・断面図

40号土坑（古墳－35）

遺構　40号土坑はＩ－９グリッドの北西部よりやや西寄りに位置している。平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが1.48m、短軸の長さが1.22mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－88°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

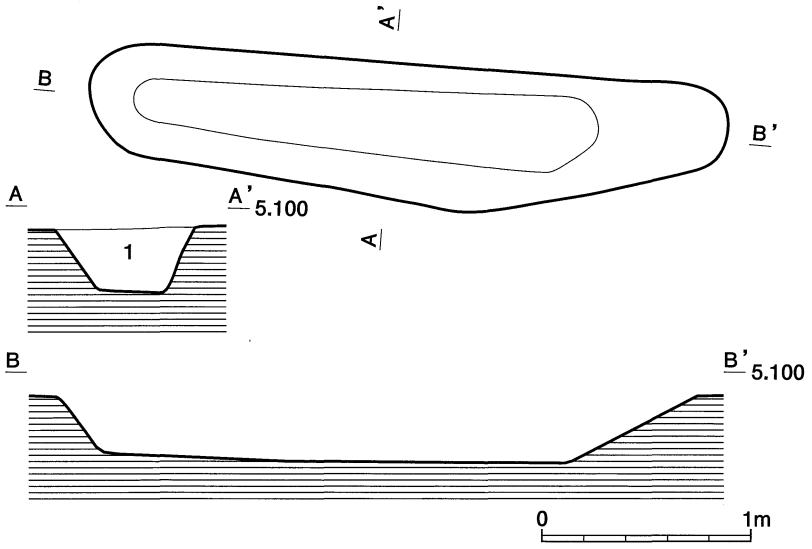


第179図　40号土坑の平面・断面図

43号土坑（古墳－36）

遺構　43号土坑はＪ－９グリッドの南部に位置し、南部を46号土坑に切られている。残存部分の状況から平面形状は長い楕円形を呈していたと想定できる。規模は確認部分の東西の長さが3.06m、南北の長さが0.65mを測る。長軸（東西軸）のＮ値変換方位はＮ－85°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字

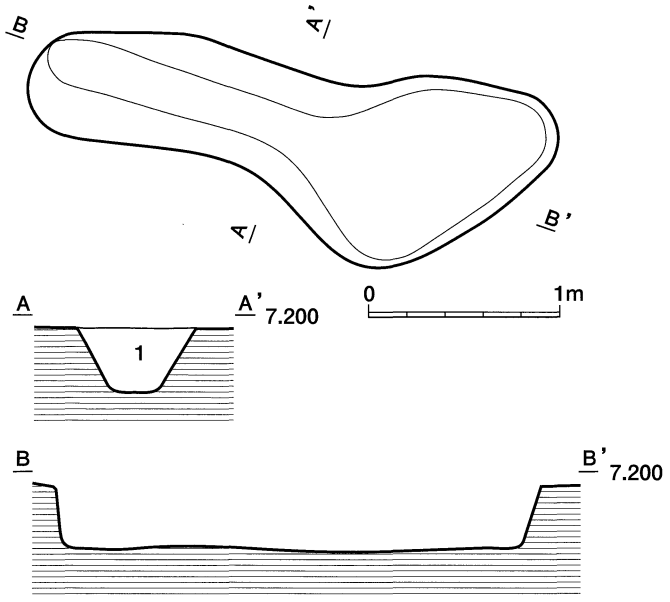
形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で32cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第180図　43号土坑の平面・断面図

44号土坑（古墳－37）

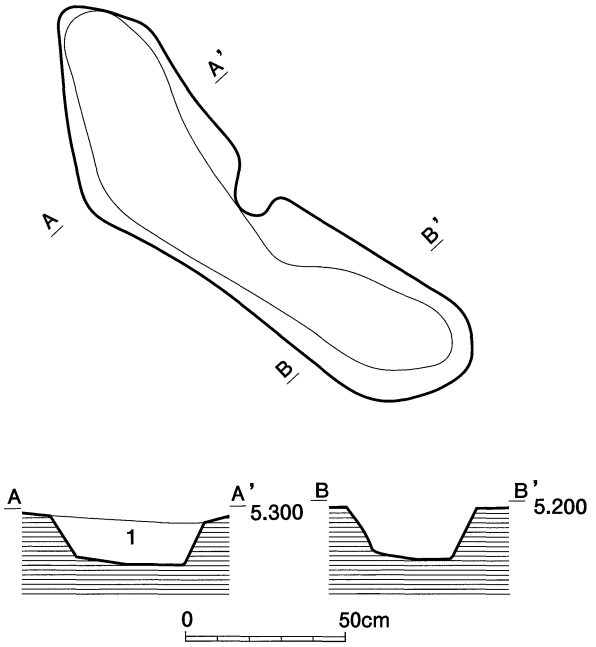
遺構　44号土坑はＪ－９グリッドの北部に位置している。平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが2.80ｍ、短軸の長さが0.65ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－82°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第181図　44号土坑の平面・断面図

45号土坑（古墳－38）

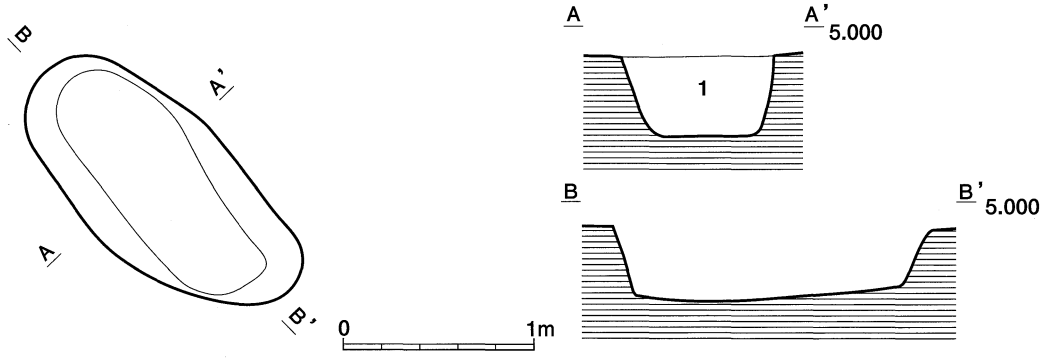
遺構　45号土坑はＪ－10グリッドの中央部よりやや北寄りに位置している。平面形状は不定形で、規模は長軸の長さが3.34ｍ、短軸の長さが0.95ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－45°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で34cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第182図　45号土坑の平面・断面図

46号土坑（古墳－39）

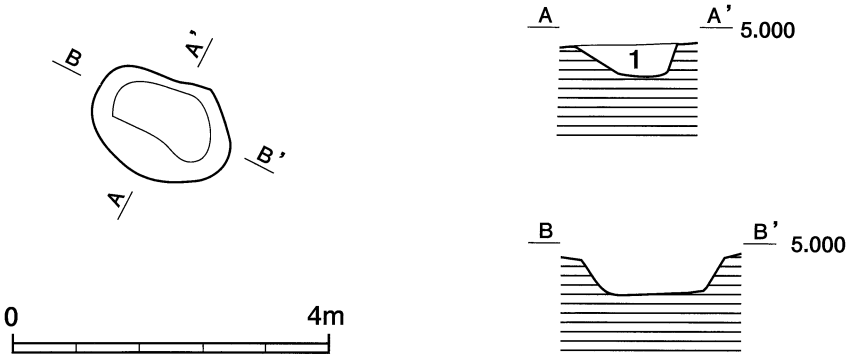
遺構　46号土坑はＪ－９グリッドの南部からＪ－10グリッドにかけて位置し、43号土坑の南部を切っている。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.63m、短軸の長さが0.82mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－40°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は１層で構成され、黒色（10ＹＲ　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第183図　46号土坑の平面・断面図

47号土坑（古墳－40）

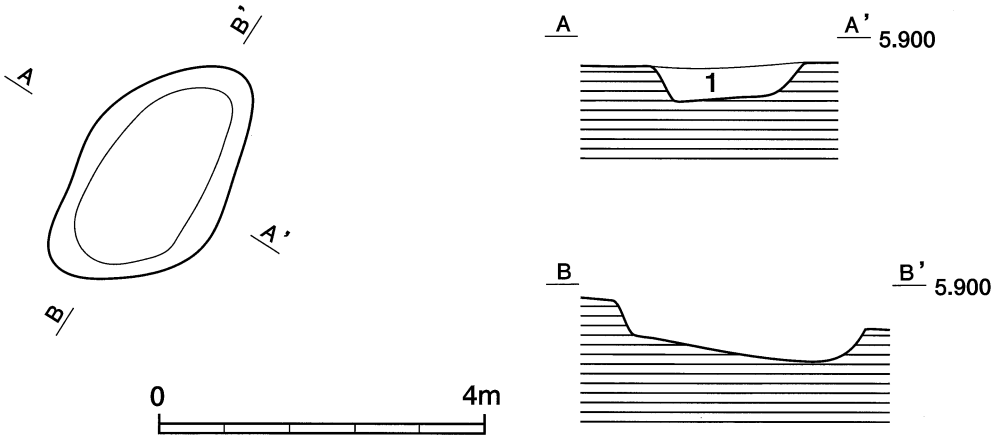
遺構　47号土坑はＩ－９グリッド南東部に位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.93m、短軸の長さが1.32mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－62°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で36cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Ｙ　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第184図　47号土坑の平面・断面図

48号土坑（古墳－41）

遺構　48号土坑はＩ－９グリッド南東部からＩ－10グリッドの北東部にかけて位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが3.20m、短軸の長さが1.92mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－33°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



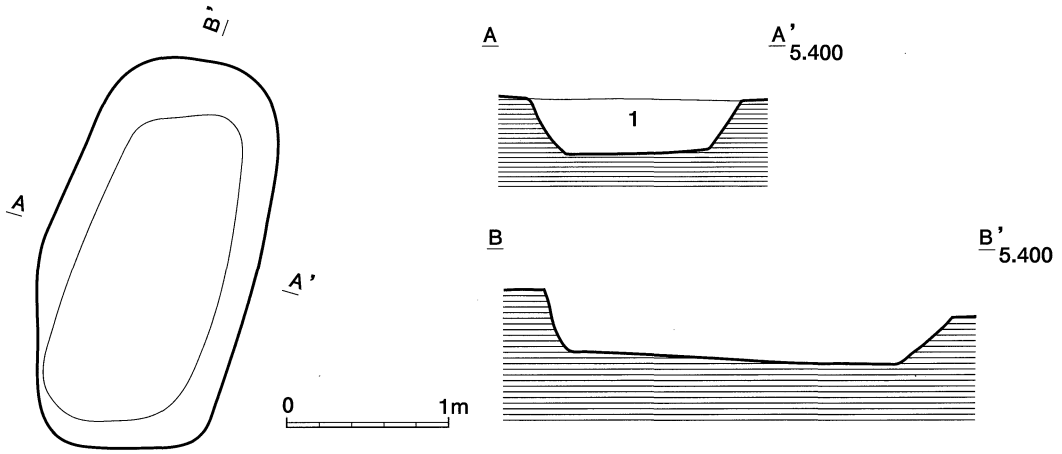
第185図　48号土坑の平面・断面図

50号土坑（古墳－42）

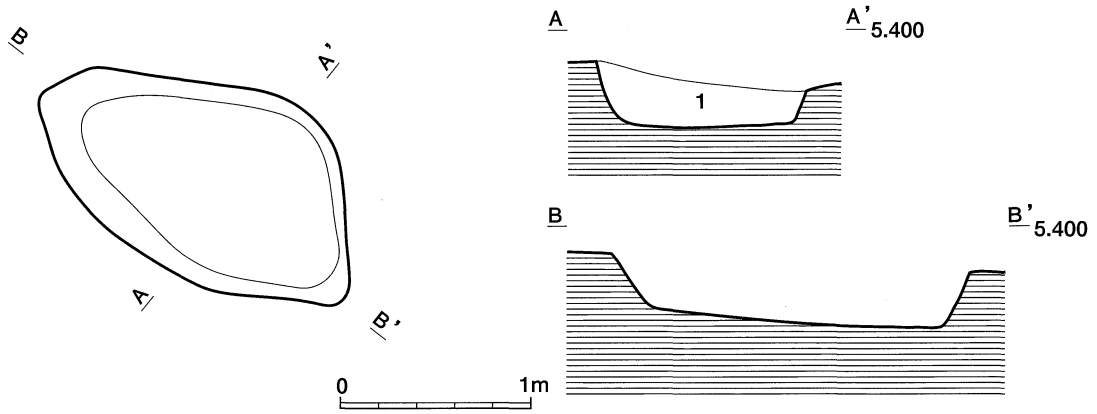
遺構　50号土坑はＨ－10グリットの東部に位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが2.51m、短軸の長さが1.32mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－14°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

51号土坑（古墳－43）

遺構　51号土坑はＨ－10グリットの南部に位置している。平面形状は楕円形で、規模は長軸の長さが1.87m、短軸の長さが1.08mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－58°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で32cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第186図　50号土坑の平面・断面図



第187図　51号土坑の平面・断面図

〈ピット〉

・6・9・50号ピット

6・9号・50号ピットはF－6・7グリッドに分布している。

6号ピット（古墳－1）

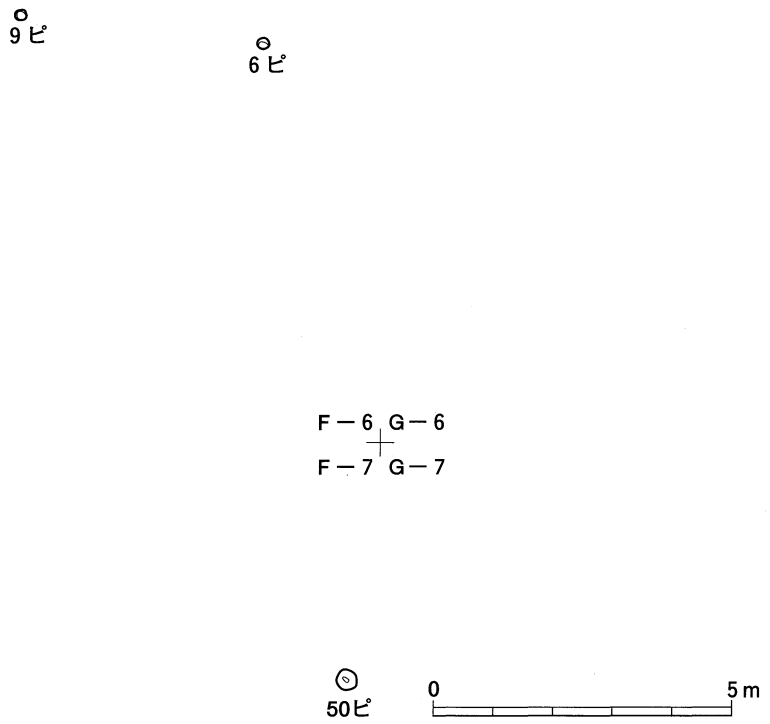
遺構　F－6グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－68°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

9号ピット（古墳－2）

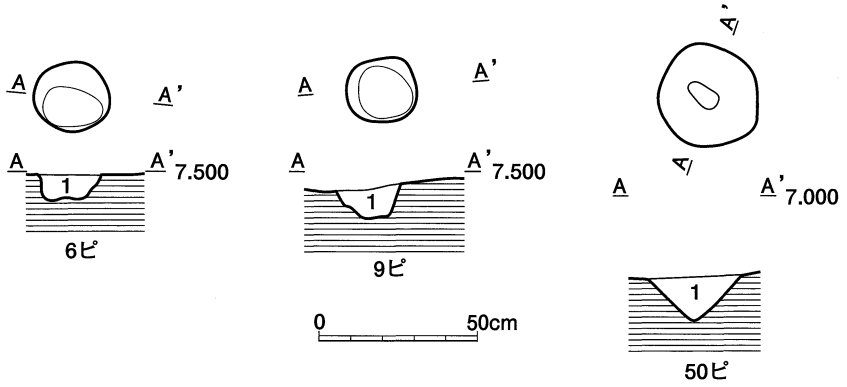
遺構　F－6グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－81°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は土師器の体部片が2点出土しているが、図化は不可能であった。

50号ピット（古墳－3）

遺構　F－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.32mを測る。長軸のN値変換方位はN－53°－Wを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/4）土層である。遺物は土師器の体部片が2点出土しているが、図化は不可能であった。



第188図　6・9・50号ピットの分布図



第189図　6・9・50号ピットの平面・断面図

・12～14・16号ピット

12～14・16号ピットはG－6グリッドの東部から南西部にかけて分布している。

12号ピット（古墳－4）

遺構　G－6グリッドの南部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－73°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

13号ピット（古墳－5）

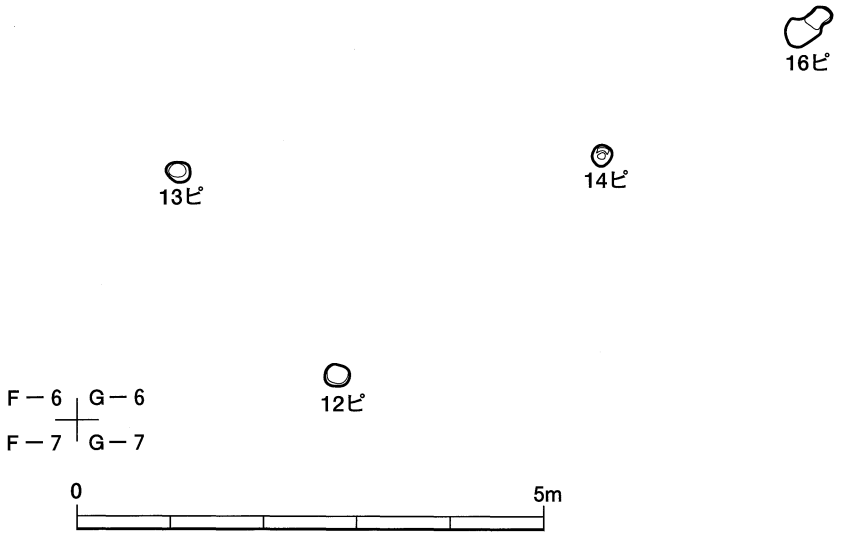
遺構　G－6グリッドの南西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－83°－Wを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

14号ピット（古墳－6）

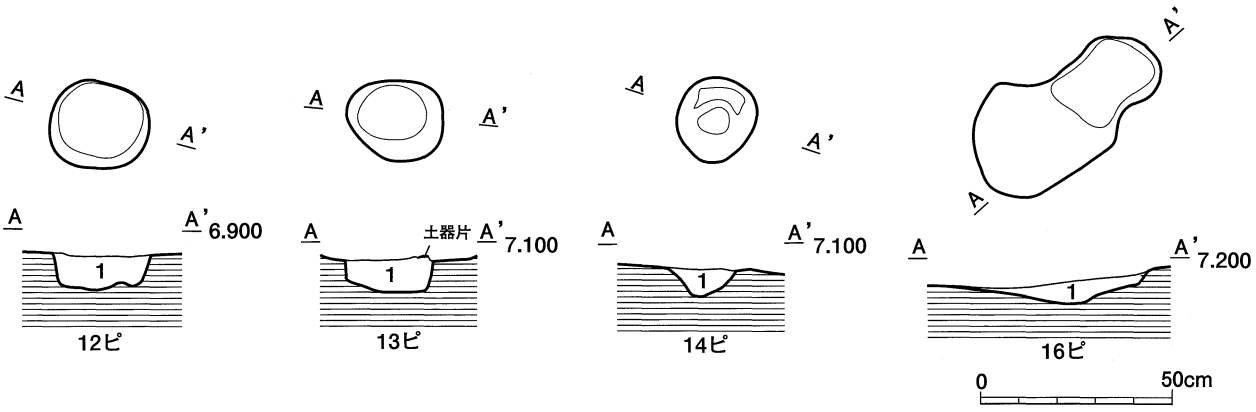
遺構　G－6グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－20°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

16号ピット（古墳－7）

遺構　G－6グリッドの東部に位置し、平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.55m、短軸の長さが0.19mを測る。長軸のN値変換方位はN－46°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。



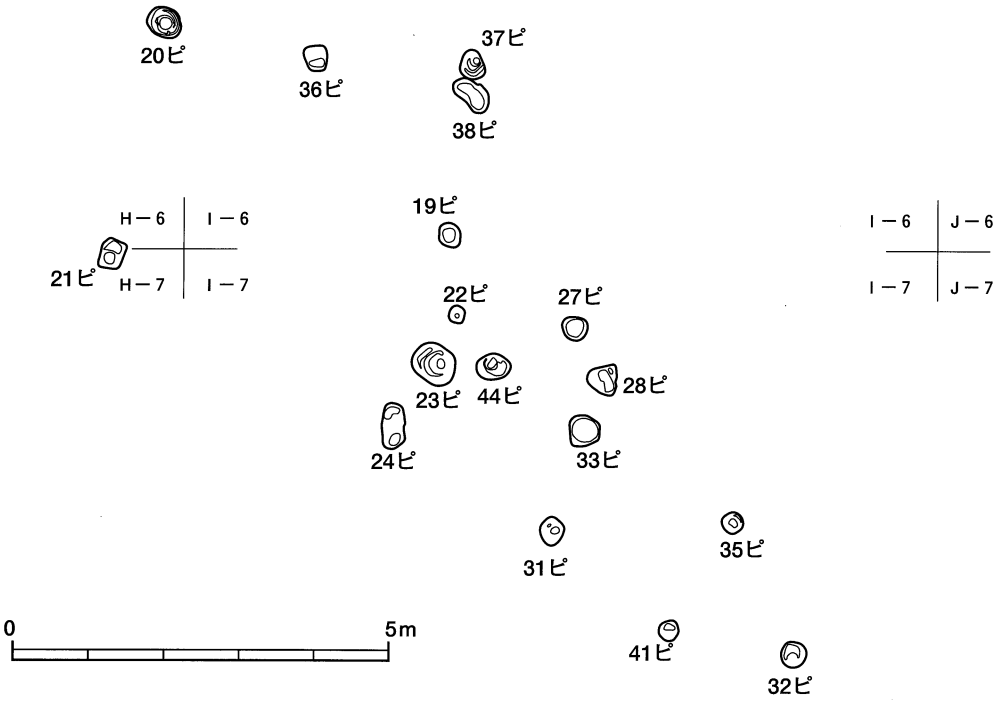
第190図　12～14・16号ピットの分布図



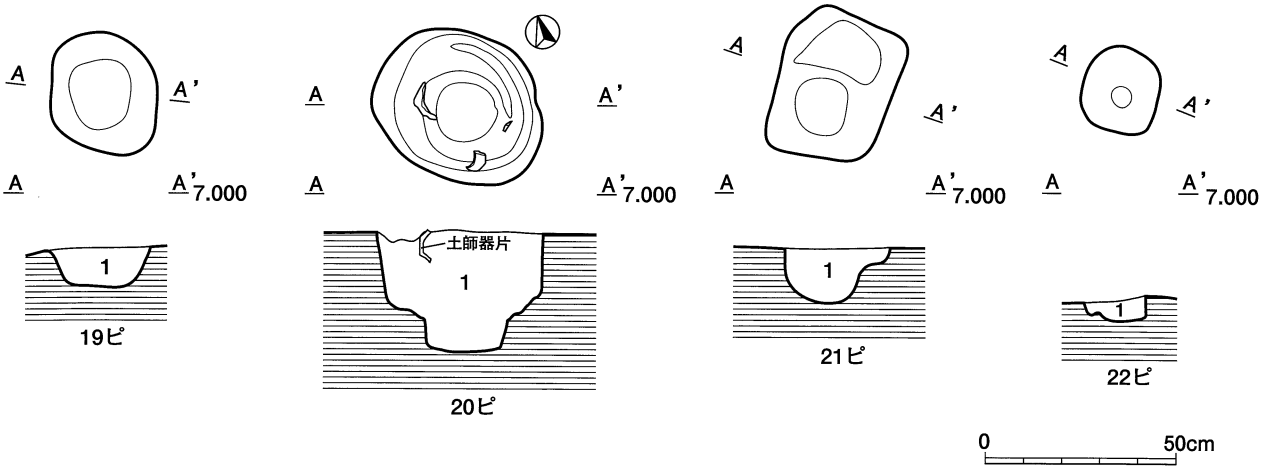
第191図　12～14・16号ピットの平面・断面図

・19～24号ピット、27・28号ピット、31～33号ピット、35～38号ピット、41・44号ピット

19～24号ピット、26・28号ピット、31～33号ピット、35～38号ピット、41・44号ピットはＩ－６グリッドの南部からＩ－７グリッドの中央部にかけて分布している。なお、20号ピットはＨ－６グリッド南東部に位置している。



第192図　19～24号ピット、27・28号ピット、31～33号ピット、35～38号ピット、41・44号ピットの分布図



第193図　19～22号ピットの平面・断面図

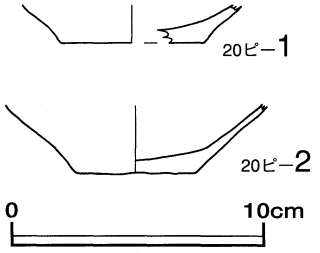
19号ピット（古墳－８）

遺構　Ｉ－６グリッドの南部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－13°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

20号ピット（古墳－9）

遺構　H－6グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.47m、短軸の長さが0.41mを測る。長軸のN値変換方位はN－47°－Wを指向している。断面形状は中間に段がありU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で31cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR 3/2）土層である。遺物は覆土から青磁器片1点、土師器の体部片3点、底部片2点の計6点が出土し、その内、図可が可能な土師器の底部片2点を図示した。

遺物　第194図の**1**は皿の底部の破片で、平底の底部から外反している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、透明・灰色・赤色粒を含んでいる。　**2**は底部の破片で、平底の底部から外反している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。外面の底部に回転糸切り痕が残るが摩耗している。胎土は普通で、透明・灰色・赤色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。



第194図　20号ピットから出土した土師器の実測図

21号ピット（古墳－10）

遺構　H－7グリッドの北東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－23°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

22号ピット（古墳－11）

遺構　I－7グリッドの北部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－23°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

23号ピット（古墳－12）

遺構　I－7グリッドの北部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.59m、短軸の長さが0.49mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で50cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物土師器の体部片が2点、須恵器の底部片1点が出土しているが、図化が可能なものはなかった。

24号ピット（古墳－13）

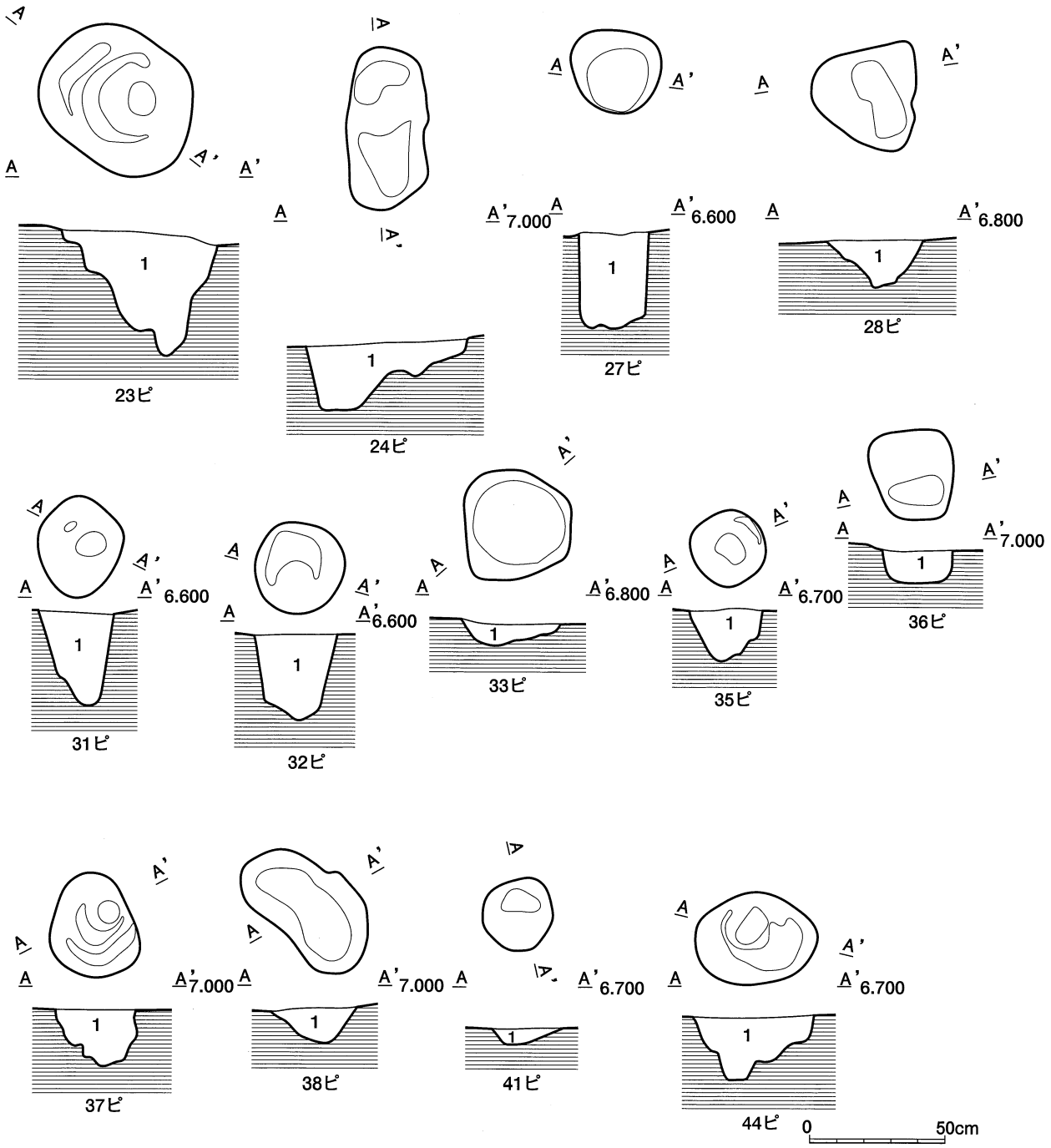
遺構　I－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.60m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－75°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

27号ピット（古墳－14）

遺構　I－7グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.34m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－80°－Wを指向している。断面形状はフラスコ状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で39cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

28号ピット（古墳－15）

遺構　I－7グリッドの北部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.41m、短軸の長さが0.38mを測る。長軸のN値変換方位はN－8°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。



第195図　23～24号ピット、27・28号ピット、31～33号ピット、35～38号ピット、41・44号ピットの平面・断面図

31号ピット（古墳－16）
遺構　Ⅰ－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.38m、短軸の長さが0.32mを測る。長軸のN値変換方位はN－33°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

32号ピット（古墳－17）
遺構　Ⅰ－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.34m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のN値変換方位はN－11°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で32cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

33号ピット（古墳－18）
遺構　Ⅰ－7グリッドの中央部よりやや北に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.91m、短軸の長さが0.45mを測る。長軸のN値変換方位はN－52°－Eを指向している。断面形状は狭いV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で43cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR 2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

35号ピット（古墳－19）
遺構　Ⅰ－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－35°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で19cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

36号ピット（古墳－20）
遺構　Ⅰ－6グリッドの南西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.33m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－85°－Eを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR 2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

37号ピット（古墳－21）
遺構　Ⅰ－6グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.32mを測る。長軸のN値変換方位はN－65°－Eを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR 2/3）土層である。遺物は須恵器の体部片が1点出土しているが、図化は不可能であった。

38号ピット（古墳－22）
遺構　Ⅰ－6グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.55m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－49°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

41号ピット（古墳－23）
遺構　Ⅰ－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－14°－Wを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

44号ピット（古墳－24）

遺構　Ⅰ－７グリッドの北部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.45m、短軸の長さが0.35mを測る。長軸のN値変換方位はN－87°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は１層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

・52・53号ピット

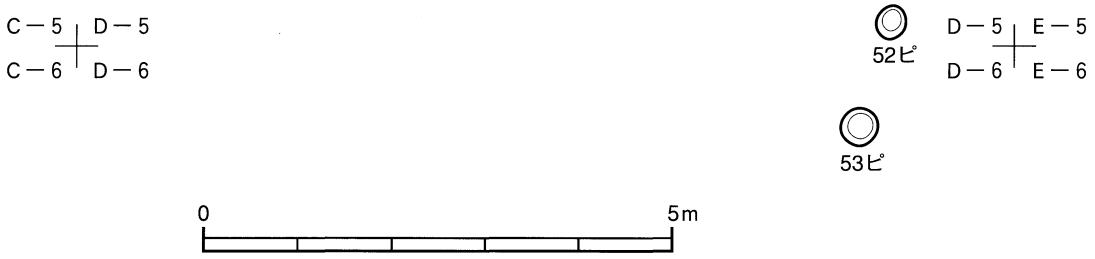
52・53号ピットはE－５グリッドの中央部に分布している。

52号ピット（古墳－25）

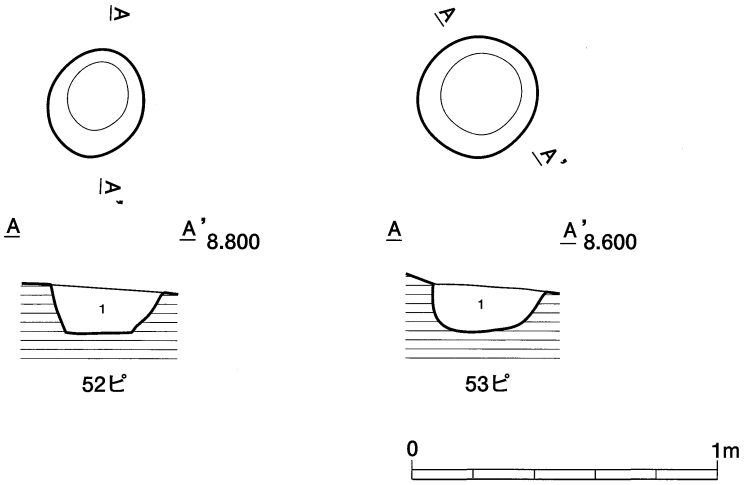
遺構　E－５グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.36m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－12°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は須恵器の口縁部片が１点出土しているが、図化は不可能であった。

53号ピット（古墳－26）

遺構　E－５グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.38mを測る。長軸のN値変換方位はN－48°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。



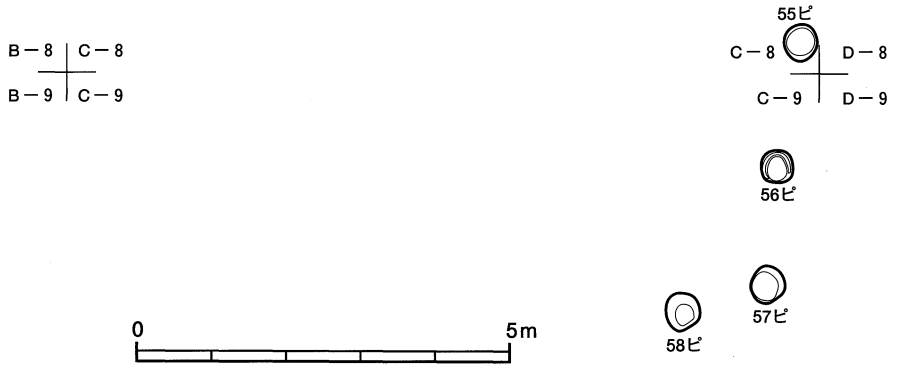
第196図　52・53号ピットの分布図



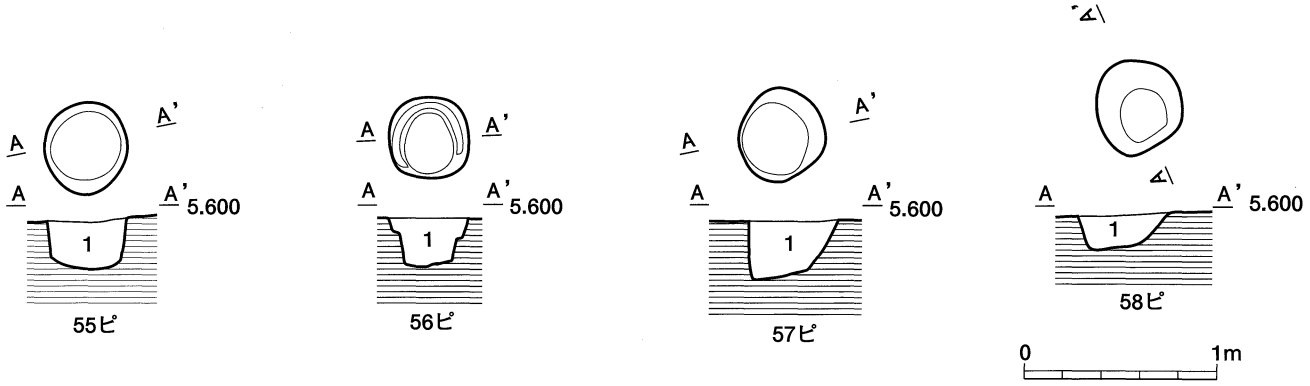
第197図　52・53号ピットの平面・断面図

・55～58号ピット

55～58号ピットはC－９グリッドの中央部から北東部とC－８グリッドの南東部にかけて分布している。



第198図　55～58号ピットの分布図



第199図　55～58号ピットの平面・断面図

55号ピット（古墳－27）

遺構　C－8グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.49m、短軸の長さが0.44mを測る。長軸のN値変換方位はN－5°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

56号ピット（古墳－28）

遺構　C－9グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.43m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のN値変換方位はN－3°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

57号ピット（古墳－29）

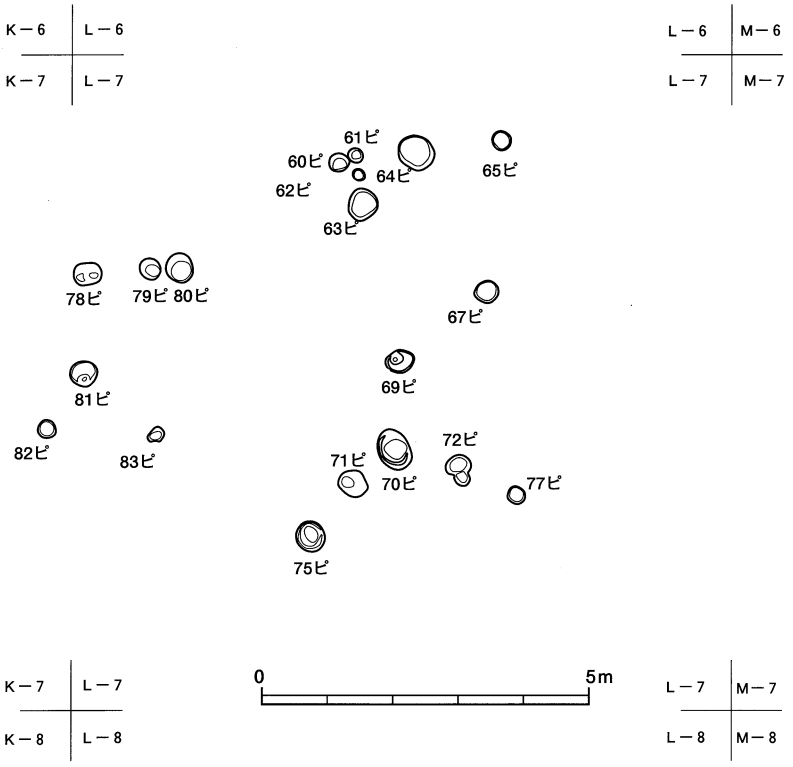
遺構　C－9グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.48m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のN値変換方位はN－44°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で31cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

58号ピット（古墳－30）

遺構　C－9グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.48m、短軸の長さが0.44mを測る。長軸のN値変換方位はN－25°－Wを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

・60～72・75号ピット、77～83号ピット

60～72・75号ピット、77～83号ピットはＬ－７グリッドの中央部から北部にかけて分布している。



第200図　60～72・75号ピット、77～83号ピットの分布図

60号ピット（古墳－31）

遺構　Ｌ－７グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.28mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－44°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で39cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

61号ピット（古墳－32）

遺構　Ｌ－７グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－32°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）である。遺物は出土しなかった。

62号ピット（古墳－33）

遺構　Ｌ－７グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.20m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－40°－Ｗを指向している。断面形状はＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で８cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

63号ピット（古墳－34）

遺構　Ｌ－７グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.47m、短軸の長さが0.44mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－45°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しな

かった。

64号ピット（古墳－35）
遺構　L－7グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.57m、短軸の長さが0.49mを測る。長軸のN値変換方位はN－51°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で27cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は須恵器の口縁部片1点、体部片が1点の計2点出土しているが、図化は不可能であった。

65号ピット（古墳－36）
遺構　L－7グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.28mを測る。長軸のN値変換方位はN－39°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は須恵器の体部片が1点出土しているが、図化は不可能であった。

66号ピット（古墳－37）
遺構　L－7グリッドの北部に位置し、平面形状は2つの円形を呈している。規模は長軸の長さが0.71m、短軸の長さが0.50mを測る。長軸のN値変換方位はN－28°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で44cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

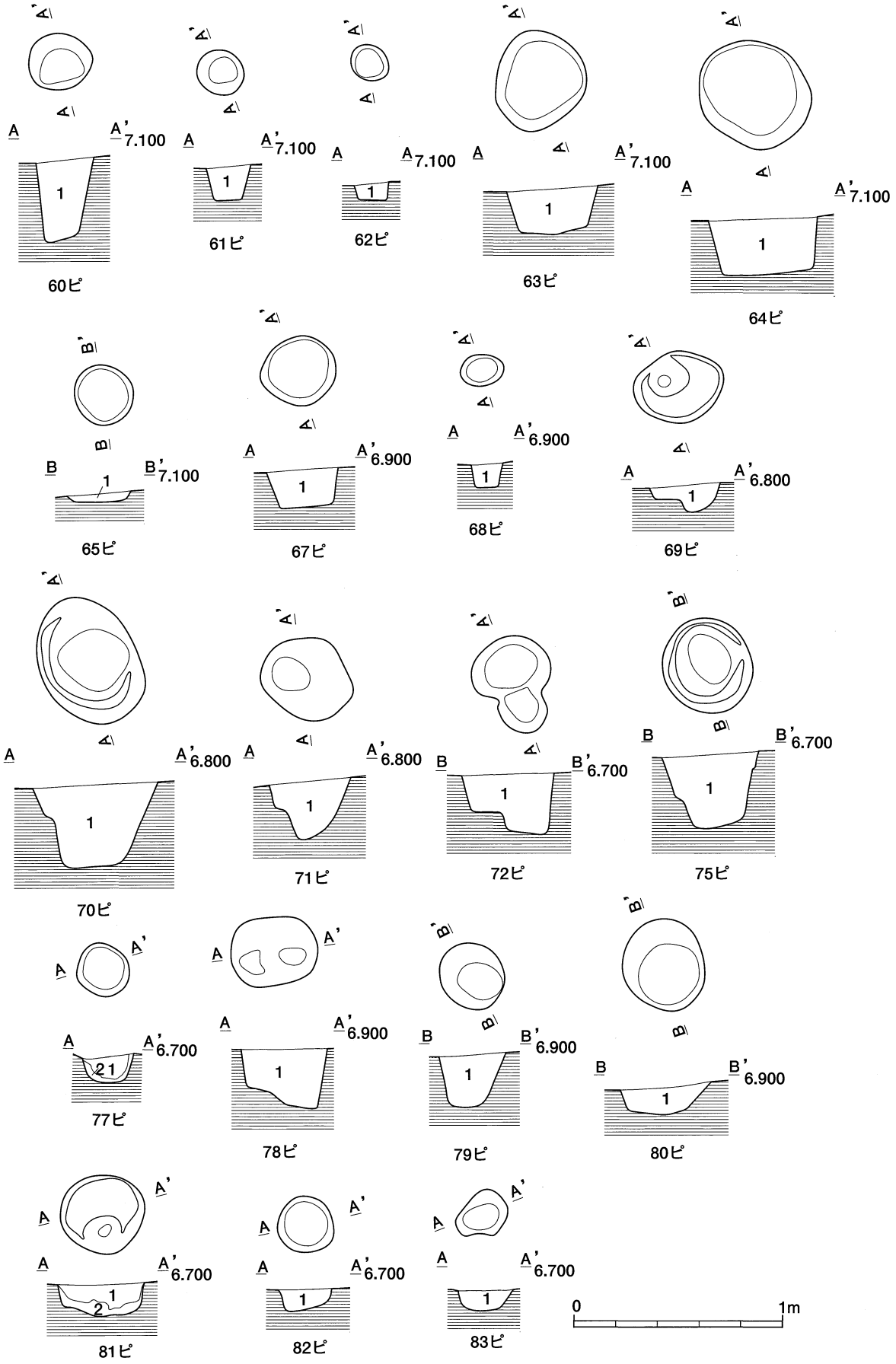
67号ピット（古墳－38）
遺構　L－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.36m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のN値変換方位はN－23°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

68号ピット（古墳－39）
遺構　L－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.16mを測る。長軸のN値変換方位はN－80°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

69号ピット（古墳－40）
遺構　L－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.43m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－56°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

70号ピット（古墳－41）
遺構　L－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.64m、短軸の長さが0.47mを測る。長軸のN値変換方位はN－63°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で40cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は土師器の体部片が1点、須恵器の口縁部片が1点、底部片が1点出土しているが、図化は不可能であった。

71号ピット（古墳－42）
遺構　L－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.43m、短軸の長さが0.38mを測る。長軸のN値変換方位はN－43°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形



第201図　60～72・75号ピット、77～83号ピットの平面・断面図

を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で28cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

72号ピット（古墳－43）
遺構　Ｌ－７グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.48m、短軸の長さが0.38mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－66°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で29cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

75号ピット（古墳－44）
遺構　Ｌ－７グリッドの中央部よりやや南寄りに位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.47m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－28°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は須恵器の体部片が１点出土しているが、図化は不可能であった。

77号ピット（古墳－45）
遺構　Ｌ－７グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－24°－Ｗを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は２層で構成され、１層は暗褐色（10YR　3/3）土層、２層は黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

78号ピット（古墳－46）
遺構　Ｌ－７グリッドの西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.41m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－81°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で26cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（7.5YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

79号ピット（古墳－47）
遺構　Ｌ－７グリッドの西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.33 m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－35°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（7.5YR 2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

80号ピット（古墳－48）
遺構　Ｌ－７グリッドの西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.45 m、短軸の長さが0.39 mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－25°－Ｗを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（7.5YR　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

81号ピット（古墳－49）
遺構　Ｌ－７グリッドの西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.41m、短軸の長さが0.39 mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－68°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は２層で構成され、１層は黒褐色（5YR　3/1）土層、２層は黒褐色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は土師器の体部片が１点、須恵器の体部片が１点の計２点が出土したが、図化は不可能であった。

82号ピット（古墳－50）

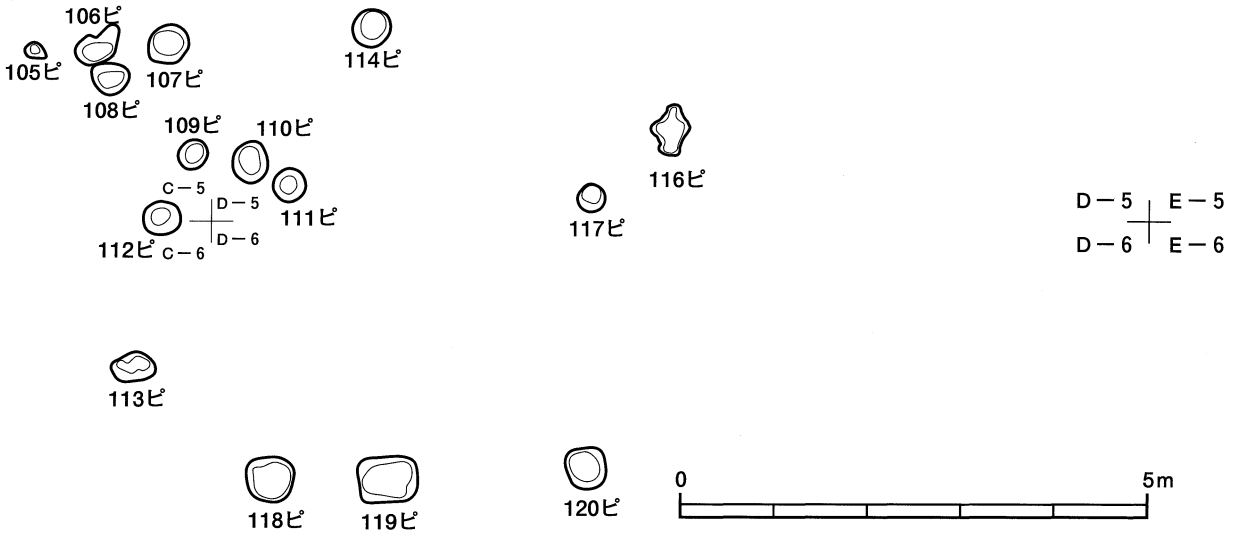
遺構　K－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－27°－Wを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（5YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

83号ピット（古墳－51）

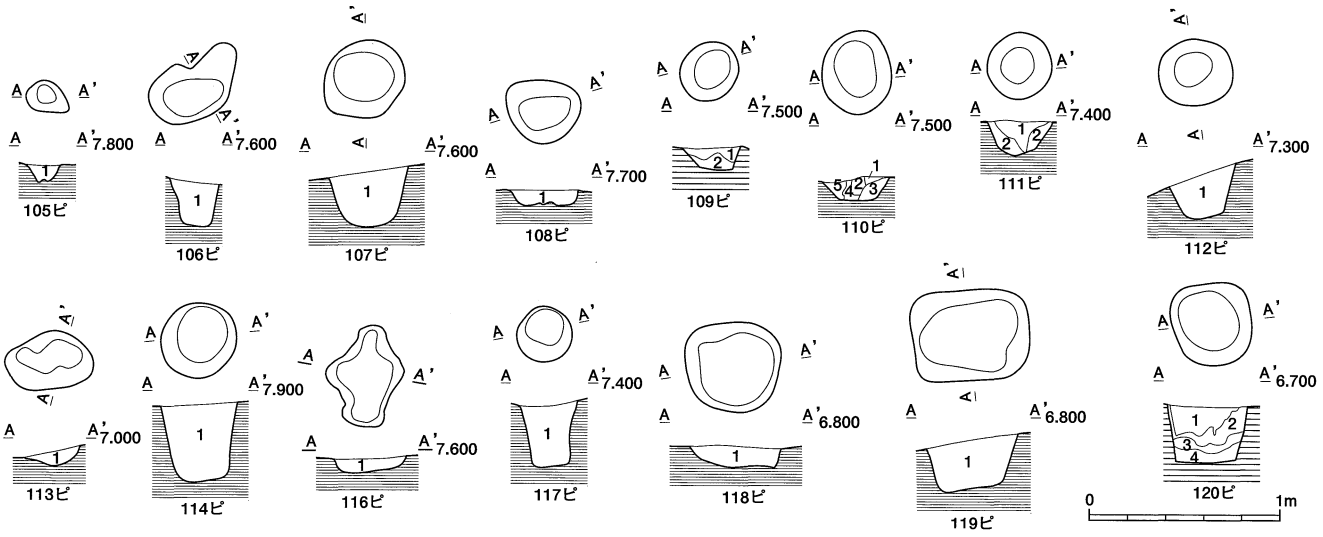
遺構　L－7グリッドの西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（5YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

・105～114号ピット、117～120号ピット

105～114号ピット、117～122号ピットはD－6グリッド杭を中心に分布している。



第202図　105～114号ピット、117～120号ピットの分布図



第203図　105～114号ピット、117～120号ピットの平面・断面図

105号ピット（古墳－52）
遺構　C－5グリッドの南東部に位置し、平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.18mを測る。長軸のN値変換方位はN－38°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

106号ピット（古墳－53）
遺構　C－5グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.53m、短軸の長さが0.34 mを測る。長軸のN値変換方位はN－44°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は1層で構成され、オリーブ褐色（2.5Y 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

107号ピット（古墳－54）
遺構　C－5グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.46m、短軸の長さが0.39 mを測る。長軸のN値変換方位はN－35°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で28cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

108号ピット（古墳－55）
遺構　C－5グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.35mを測る。長軸のN値変換方位はN－31°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

109号ピット（古墳－56）
遺構　C－5グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－52°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は2層で構成され、1層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、2層はにぶい黄褐色（10YR　4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

110号ピット（古墳－57）
遺構　D－5グリッドの南西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.43m、短軸の長さが0.37mを測る。長軸のN値変換方位はN－14°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は5層で構成され、1層はオリーブ黒色（5Y　3/2）土層2層はオリーブ黒色（7.5Y　3/1）土層、3層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層4層はオリーブ黒色（5Y　2/2）土層、5層はオリーブ黒色（5Y　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

111号ピット（古墳－58）
遺構　D－5グリッドの南西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.36m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は1層で構成され、オリーブ黒色（5Y　2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

112号ピット（古墳－59）
遺構　C－5グリッドの南東部からC－6グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.36mを測る。長軸のN値変換方位はN－72°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で23cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y

2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

113号ピット（古墳－60）
遺構　C－6グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.43m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－71°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

114号ピット（古墳－61）
遺構　D－5グリッドの南西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.39mを測る。長軸のN値変換方位はN－33°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で39㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

116号ピット（古墳－62）
遺構　D－5グリッドの南部に位置し、平面形状は不整形を呈している。規模は長軸の長さが0.54m、短軸の長さが0.40mを測る。長軸のN値変換方位はN－9°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

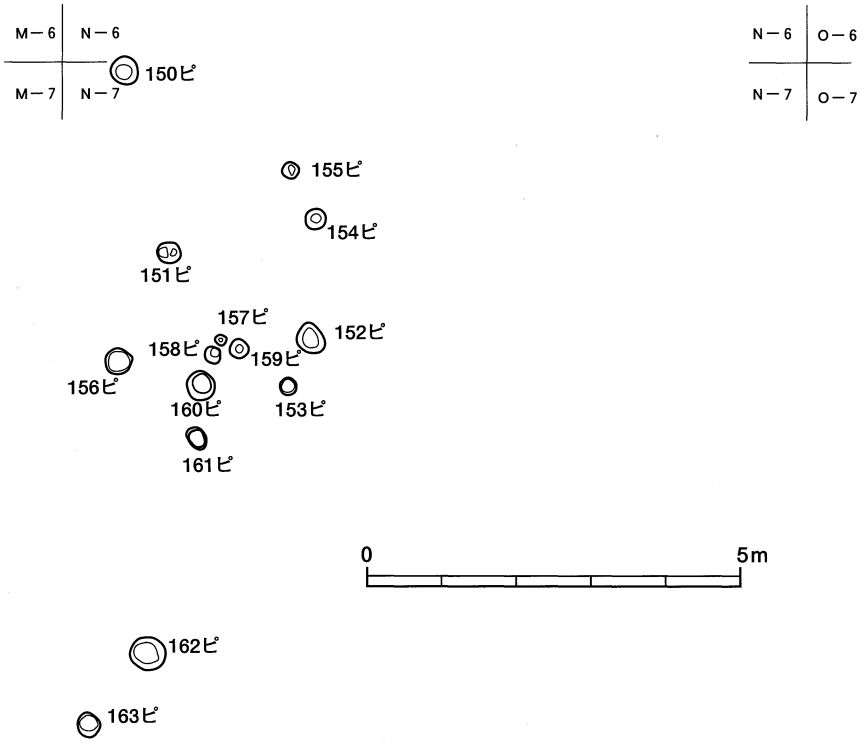
117号ピット（古墳－63）
遺構　D－5グリッドの南部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.29m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－25°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で44㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

118号ピット（古墳－64）
遺構　D－6グリッドの西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.49 m、短軸の長さが0.48mを測る。長軸のN値変換方位はN－12°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（5YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

119号ピット（古墳－65）
遺構　D－6グリッドの西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.61m、短軸の長さが0.48mを測る。長軸のN値変換方位はN－84°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で23㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は土師器の体部片が1点出土したが、図化は不可能であった。

120号ピット（古墳－66）
遺構　D－6グリッドの中央部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.42m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のN値変換方位はN－77°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で28㎝ある。覆土は4層で構成され、1層は黒色（7.5YR　2/1）土層、2層は黒色（7.5YR　2/1）土層、3層は黒色（2.5Y　2/1）土層、4層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層である。遺物は土師器の体部片が2点出土したが、図化は不可能であった。

・150～157号ピット、160～163ピット
150～157号ピット、160～163号ピットはN－7グリッドの北西部に位置している。



第204図　150～157号ピット、160～163ピットの分布図

150号ピット（古墳－67）

遺構　N－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.37m、短軸の長さが0.35mを測る。長軸のN値変換方位はN－41°－Wを指向している。断面形状は舟底を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は3層で構成され、1層は黒褐色（7.5YR　2/2）土層、2層は黒褐色（5Y　2/1）土層、3層は黒褐色（7.5YR　3/2）土層である。遺物は土師器の体部片が1点、須恵器の口縁部片が2点、体部片が1点の計4点出土したが、図化は不可能であった。

151号ピット（古墳－68）

遺構　N－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－88°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は4層で構成され、1層は黒褐色（10YR　3/2）土層、2層は黒褐色（2.5Y　3/2）土層、3層は黒褐色（2.5Y　3/1）土層、4層は黒色（10YR　1.7/1）土層である。遺物は出土しなかった。

152号ピット（古墳－69）

遺構　N－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のN値変換方位はN－46°－Eを指向している。断面形状は舟底を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成され、暗灰黄色（2.5Y　4/2）土層である。遺物は出土しなかった。

153号ピット（古墳－70）

遺構　N－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－24°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4cmある。覆土は2層で構成され、1層は黒褐色（10YR　2/2）土層、2層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

154号ピット（古墳－71）
遺構　N－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－77°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は2層で構成され、1層は黒褐色（7.5YR 2/2）土層、2層は黒色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

155号ピット（古墳－72）
遺構　N－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－28°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土は3層で構成され、1層は褐色（7.5YR　4/4）土層、2層は黒褐色（10YR　3/3）土層、3層は黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

156号ピット（古墳－73）
遺構　N－7グリッドの西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.36m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8cmある。覆土は2層で構成され、1層は灰黄褐色（10YR　2/2）土層、2層は黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は土師器の体部片が1点、須恵器の体部片が1点の計2点出土したが、図化は不可能であった。

157号ピット（古墳－74）
遺構　N－7グリッドの西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.15m、短軸の長さが0.13mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Eを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR 3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

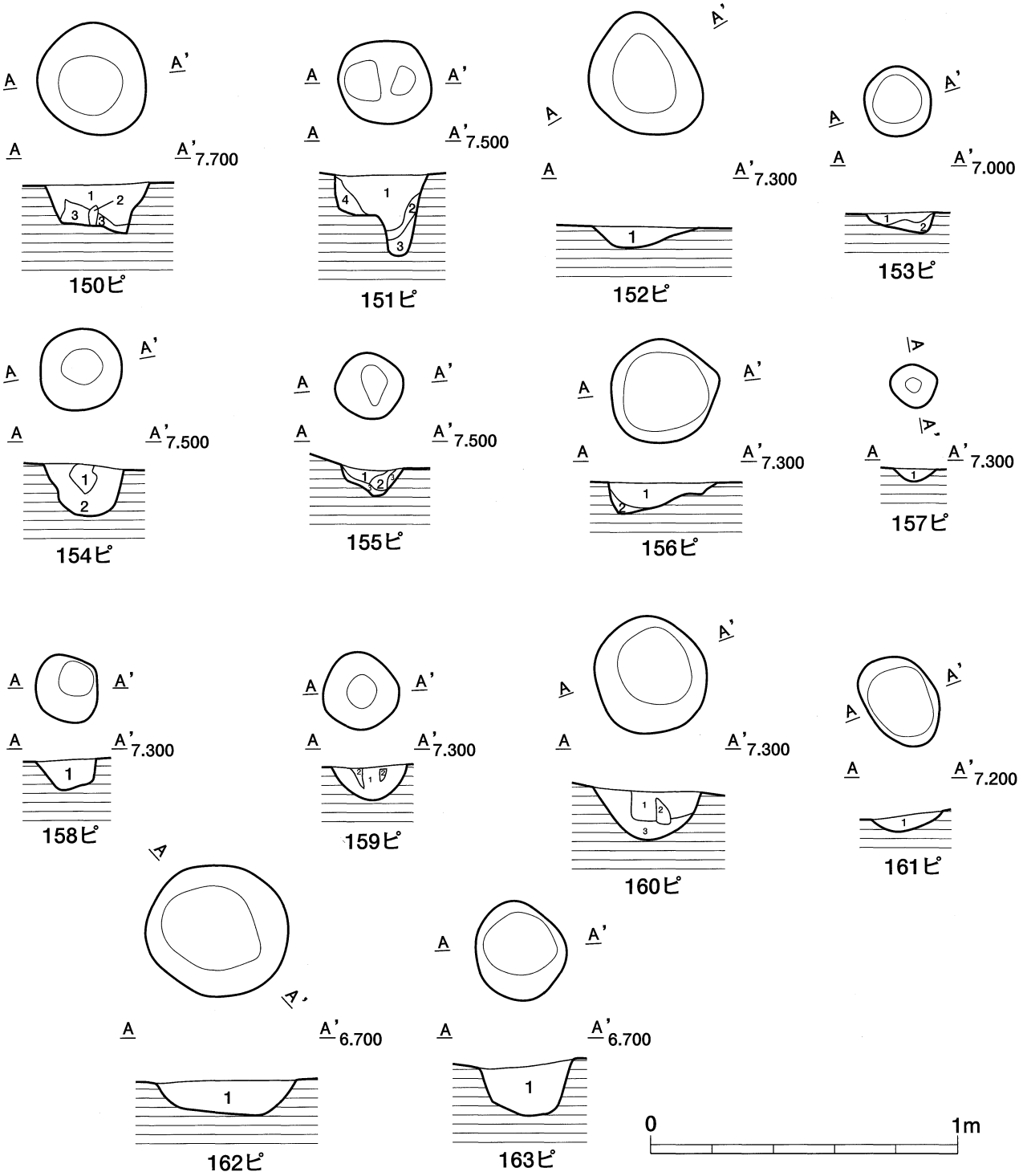
160号ピット（古墳－75）
遺構　N－7グリッドの西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.35mを測る。長軸のN値変換方位はN－32°－Wを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で19cmある。覆土は3層で構成され、1層は黒褐色（10YR　2/3）土層、2層は黒褐色（10YR　3/2）土層、3層は黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は土師器の体部片が1点出土したが、図化は不可能であった。

161号ピット（古墳－76）
遺構　平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－62°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

162号ピット（古墳－77）
遺構　N－7グリッドの南西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.46m、短軸の長さが0.43mを測る。長軸のN値変換方位はN－63°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は須恵器の体部片が1点出土したが、図化は不可能であった。

163号ピット（古墳－78）
遺構　N－7グリッドの南西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.33m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－11°－Wを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。

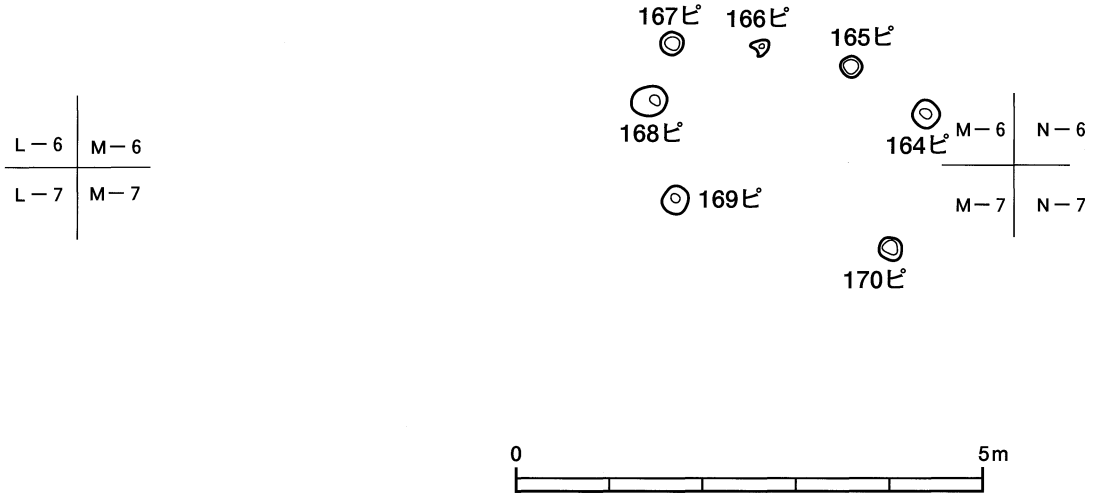
遺物は土師器の体部片１点、須恵器の体部片が１点の計２点出土したが、図化は不可能であった。



第205図　150～157号ピット、160～163号ピットの平面・断面図

・164～170号ピット

164～170号ピットはM－6グリッドの南東部からM－7グリッドの北東部に分布している。



第206図　164～170号ピットの分布図

164号ピット（古墳－79）

遺構　M－6グリッドの南東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.28mを測る。長軸のN値変換方位はN－36°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は3層で構成され、1層は土層、2層は土層、3層は土層である。遺物は出土しなかった。

165号ピット（古墳－80）

遺構　M－6グリッドの南東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－56°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土は2層で構成され、1層は土層、2層は土層である。遺物は出土しなかった。

166号ピット（古墳－81）

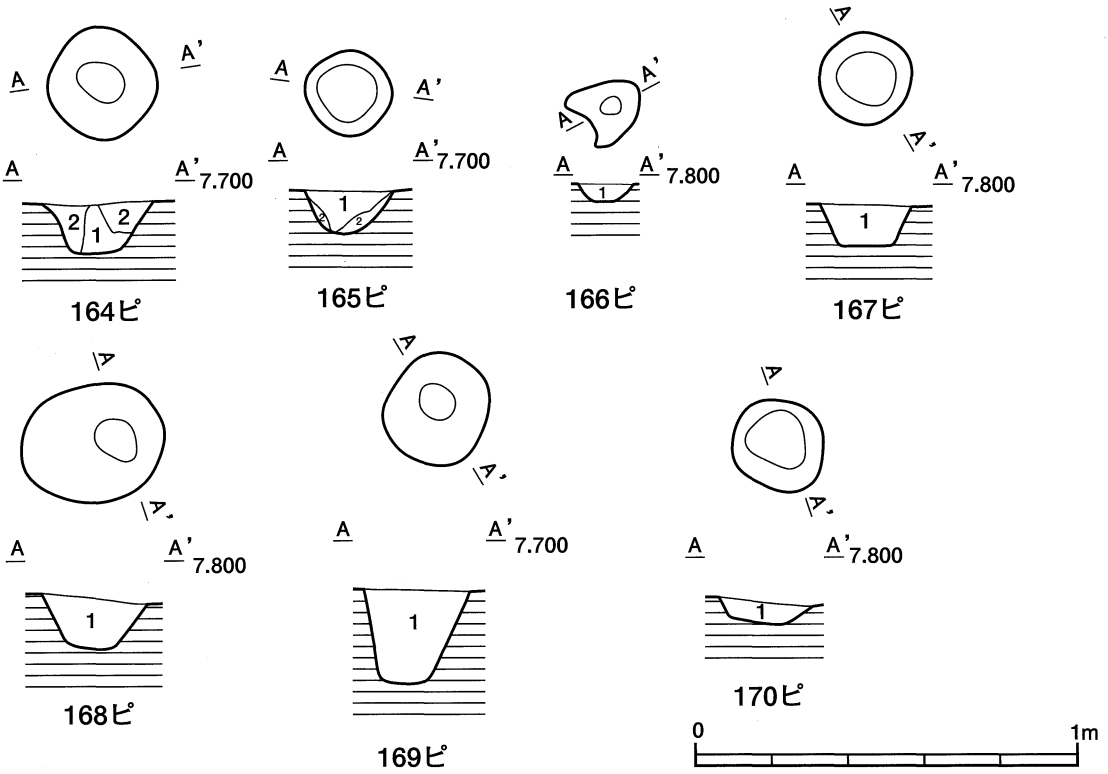
遺構　M－6グリッドの南東部に位置し、平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.17m、短軸の長さが0.16mを測る。長軸のN値変換方位はN－50°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で5cmある。覆土は2層で構成され、1層は土層、2層は土層である。遺物は出土しなかった。

167号ピット（古墳－82）

遺構　M－6グリッドの南部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（7.5YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

168号ピット（古墳－83）

遺構　M－6グリッドの南部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－66°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を



第207図　164～170号ピットの平面・断面図

呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（7.5YR　3/1）土層である。遺物は須恵器の体部片が１点出土したが、図化は不可能であった。

169号ピット（古墳－84）

遺構　M－６グリッドの北部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.29m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－26°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

170号ピット（古墳－85）

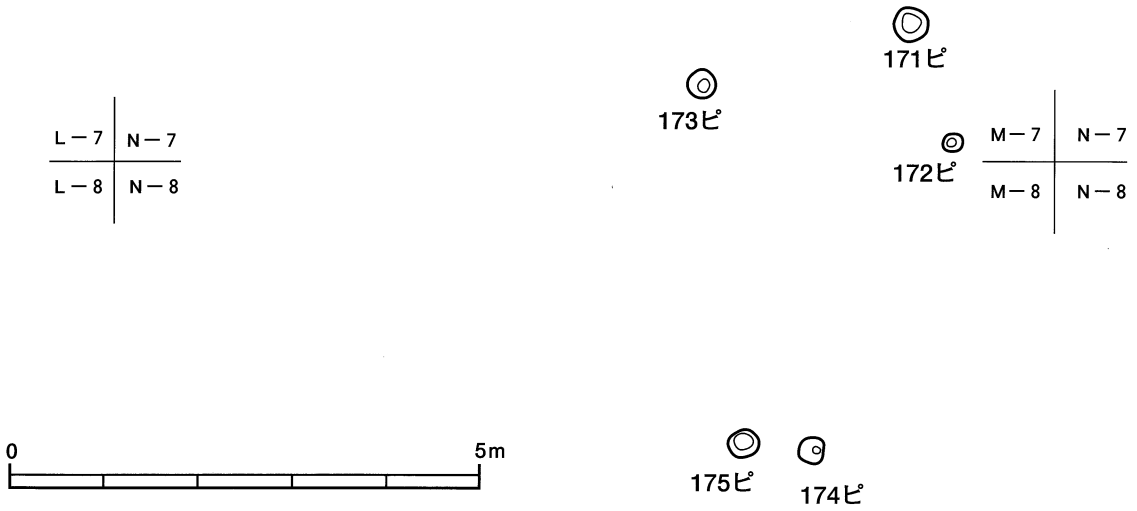
遺構　M－７グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－61°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で６cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

・171～175号ピット

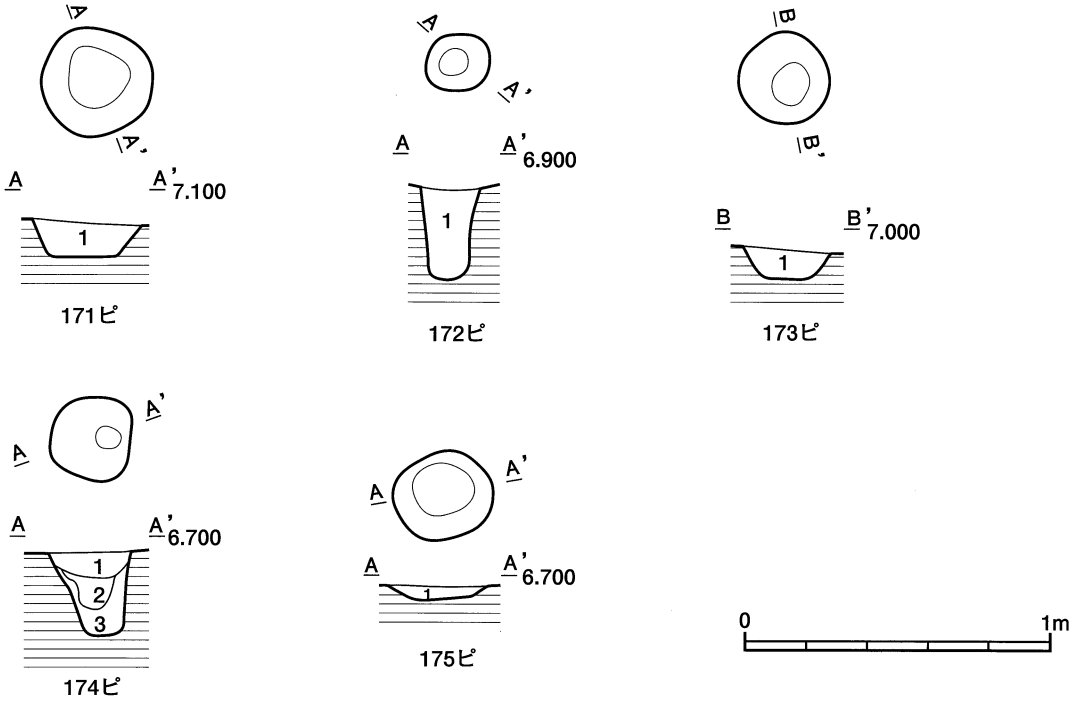
171～173号ピットはM－７グリッドの南東部に分布している。なお、174・175号ピットはM－８グリッドの北東部に位置している。

171号ピット（古墳－86）

遺構　M－７グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.36m、短軸の長さが0.35mを測る。長軸のN値変換方位はN－19°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。



第208図　171～175号ピットの分布図



第209図　171～175号ピットの平面・断面図

172号ピット（古墳－87）

遺構　M－７グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－52°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で32cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

173号ピット（古墳－88）

遺構　M－７グリッドの南部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－39°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で９cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

174号ピット（古墳－89）

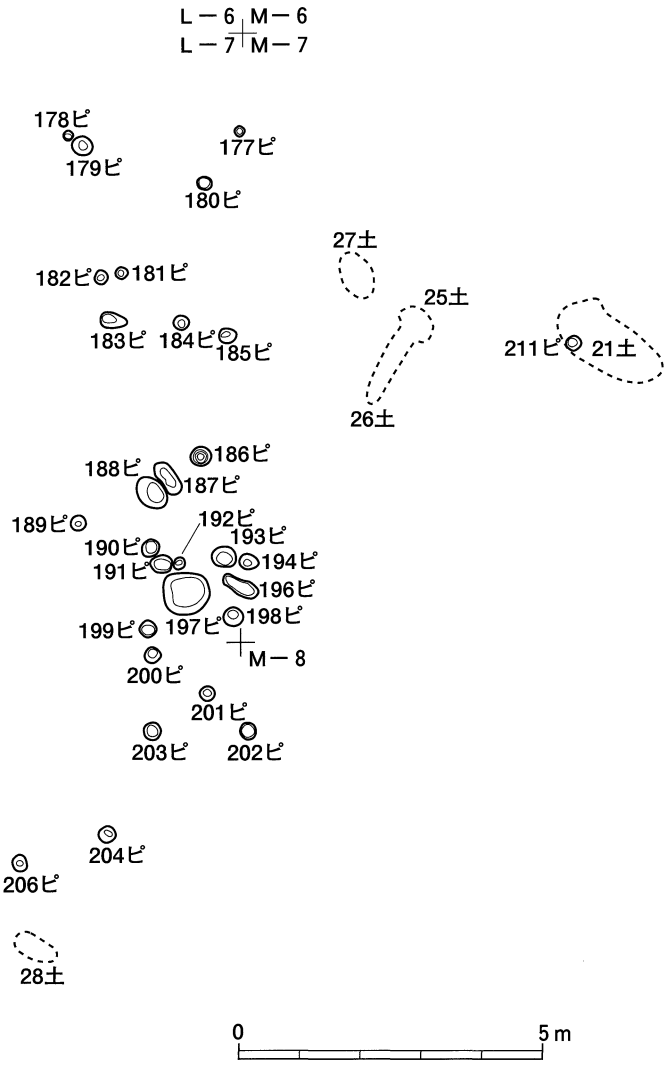
遺構　M－８グリッドの北東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－10°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で27cmある。覆土は４層で構成され、１層は土層、２層は土層、３層は土層、４層は土層である。遺物は出土しなかった。

175号ピット（古墳－90）

遺構　M－８グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－65°－Eを指向している。断面形状は 浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で８cmある。覆土は１層で構成され、黒褐色土（10YR　3/2）土層である。遺物は須恵器の口縁部片が１点出土したが、図化は不可能であった。

・177～194号ピット、196～204号ピット、206・211号ピット

177～194号ピット、196～200号ピット、202～204号ピット、206・211号ピットはL－７グリッドの東部からL－８グリッドの北部に分布している。なお、201号ピットはM－８グリッドの北東部に位置している。



第210図　177～194号ピット、196～204号ピット、206・211号ピットの分布図

177号ピット（古墳－91）
遺構　L－7グリッドの北東部に位置し、一部はM－7グリッドにかかっている。平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.16m、短軸の長さが0.15mを測る。長軸のN値変換方位はN－41°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8㎝ある。覆土は3層で構成され、1層は土層、2層は土層、3層は土層である。遺物は出土しなかった。

178号ピット（古墳－92）
遺構　L－7グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.16m、短軸の長さが0.15mを測る。長軸のN値変換方位はN－47°－Eを指向している。断面形状は 上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で3㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

179号ピット（古墳－93）
遺構　L－7グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.33m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－44°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22㎝ある。覆土は2層で構成され、1層は土層、2層は土層である。遺物は出土しなかった。

180号ピット（古墳－94）
遺構　L－7グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－34°－Wを指向している。断面形状は上に開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

181号ピット（古墳－95）
遺構　L－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.19m、短軸の長さが0.19mを測る。長軸のN値変換方位はN－80°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

182号ピット（古墳－96）
遺構　L－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－20°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

183号ピット（古墳－97）
遺構　L－7グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.44m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－75°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

184号ピット（古墳－98）
遺構　L－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－79°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土

しなかった。

185号ピット（古墳－99）
遺構　L－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－76°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

186号ピット（古墳－100）
遺構　L－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.33m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－67°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で19㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

187号ピット（古墳－101）
遺構　L－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は長楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.60m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－58°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（7.5YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

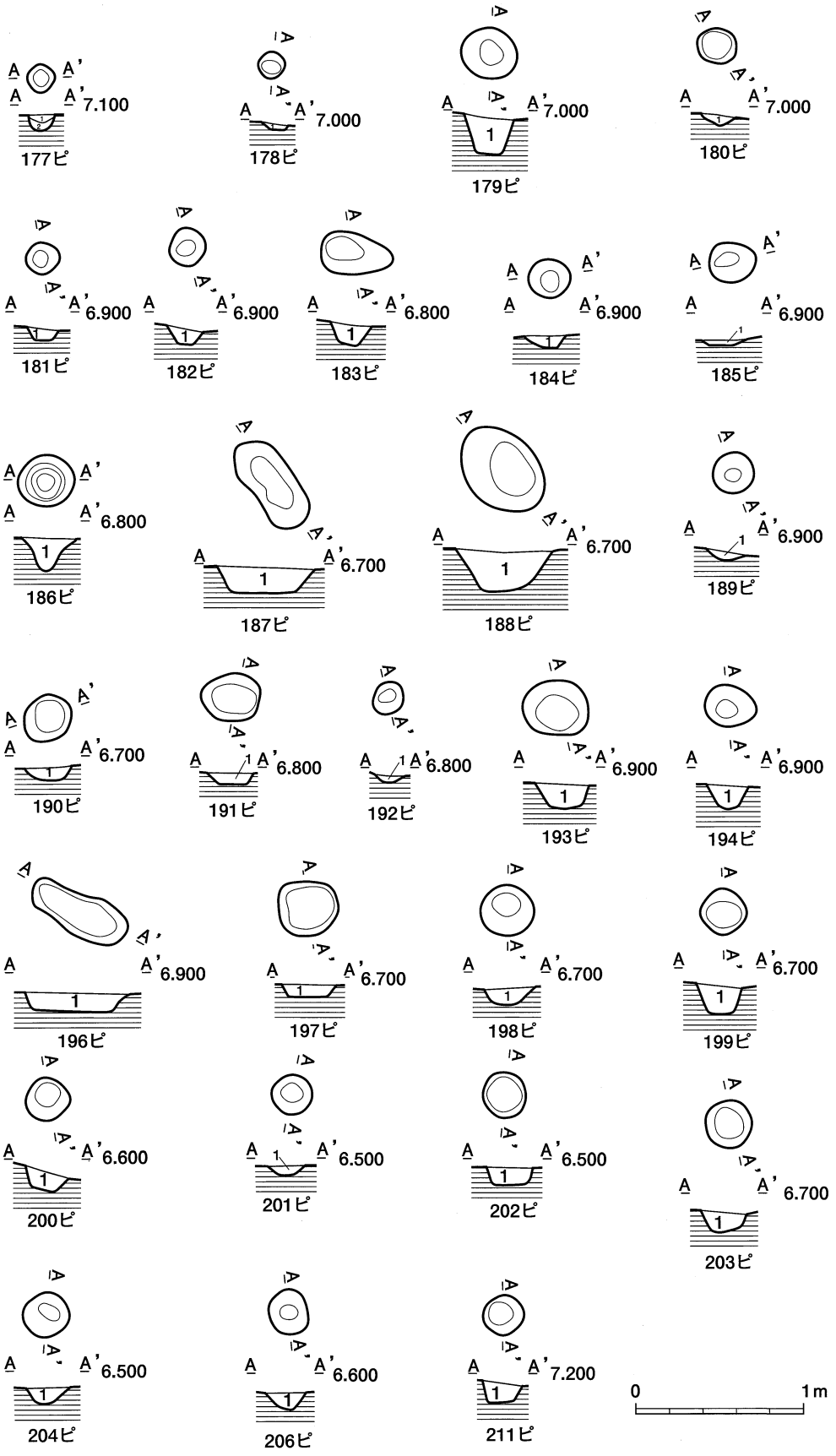
188号ピット（古墳－102）
遺構　L－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.59m、短軸の長さが0.42mを測る。長軸のN値変換方位はN－51°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（7.5YR 3/1）土層である。遺物は須恵器の口縁部片が1点、体部片が2点の計3点出土したが、図化は不可能であった。

189号ピット（古墳－103）
遺構　L－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－22°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で5㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

190号ピット（古墳－104）
遺構　L－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

191号ピット（古墳－105）
遺構　L－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－79°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

192号ピット（古墳－106）
遺構　L－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.20m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－36°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、



第211図　177～194号ピット、196～204号ピット、206・211号ピットの平面・断面図

遺構確認面からの深さは最深部で 4 cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は土師器の体部片が 2 点出土したが、図化は不可能であった。

193号ピット（古墳－107）

遺構　L－ 7 グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.36mを測る。長軸のN値変換方位はN－85°－Wを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は須恵器の口縁部片が 1 点、体部片が 2 点の計 3 点出土したが、図化は不可能であった。

194号ピット（古墳－108）

遺構　M－ 7 グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Eを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

196号ピット（古墳－109）

遺構　M－ 7 グリッドの南西部に位置し、平面形状は長楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.61m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－58°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

197号ピット（古墳－110）

遺構　L－ 7 グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.74m、短軸の長さが0.68mを測る。長軸のN値変換方位はN－80°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は須恵器の底部片が 1 点出土したが、図化は不可能であった。

198号ピット（古墳－111）

遺構　L－ 7 グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.31mを測る。長軸のN値変換方位はN－43°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

199号ピット（古墳－112）

遺構　L－ 7 グリッドの南東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は 1 層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は土師器の口縁部片が 1 点、体部片が 1 点、須恵器の口縁部片が 2 点、体部片が 4 点の計 8 点出土したが、図化は不可能であった。

200号ピット（古墳－113）

遺構　L－ 8 グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は 1 層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は土師器の体部片が 1 点出土したが、図化は不可能であった。

201号ピット（古墳－114）
遺構　L－8グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は出土しなかった。

202号ピット（古墳－115）
遺構　M－8グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－36°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/1）土層である。遺物は須恵器の底部片が1点出土したが、図化は不可能であった。

203号ピット（古墳－116）
遺構　L－8グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.28mを測る。長軸のN値変換方位はN－14°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は土師器の体部片が2点、須恵器の体部片が2点の計4点出土したが、図化は不可能であった。

204号ピット（古墳－117）
遺構　L－8グリッドの北東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－57°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は土師器の体部片が1点、須恵器の口縁部片が1点の計2点出土したが、図化は不可能であった。

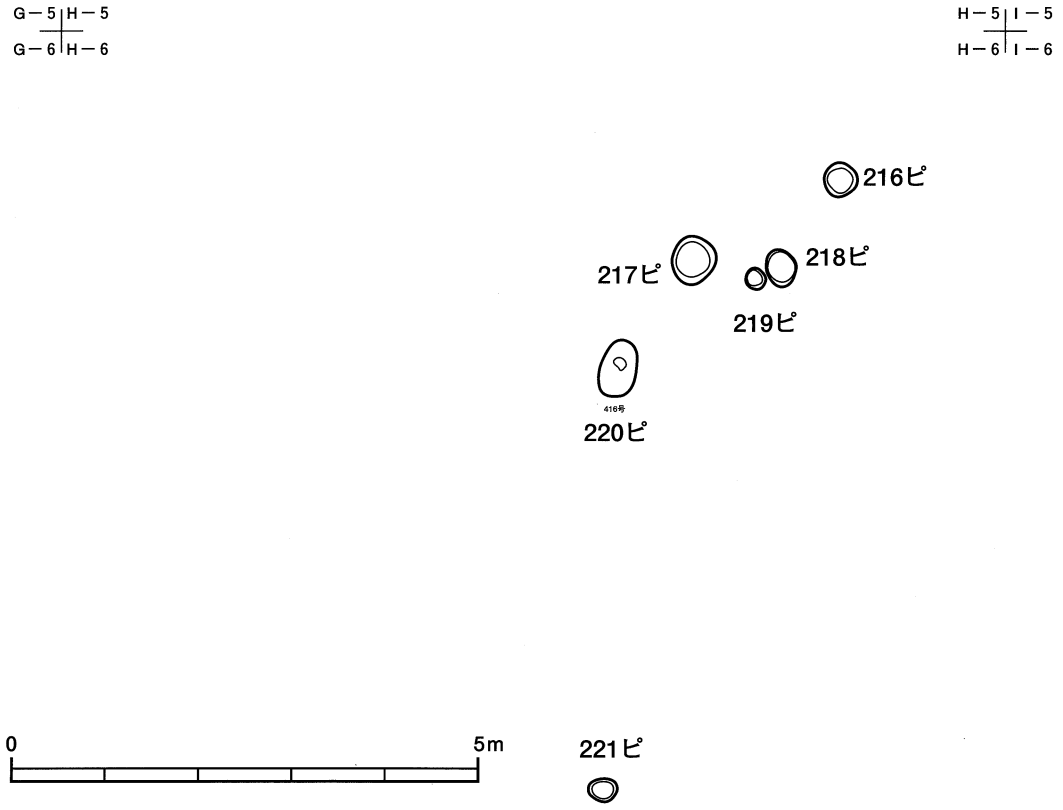
206号ピット（古墳－118）
遺構　L－8グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－75°－Eを指向している。断面形状は上に開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/2）土層である。遺物は土師器の体部片が3点出土したが、図化は不可能であった。

211号ピット（古墳－119）
遺構　M－8グリッドの北部に位置し、一部はM－7グリッドにかかっている。平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24 m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－43°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され黒褐色（10YR　3/2）土層である。遺物は須恵器の体部片が1点出土したが、図化は不可能であった。

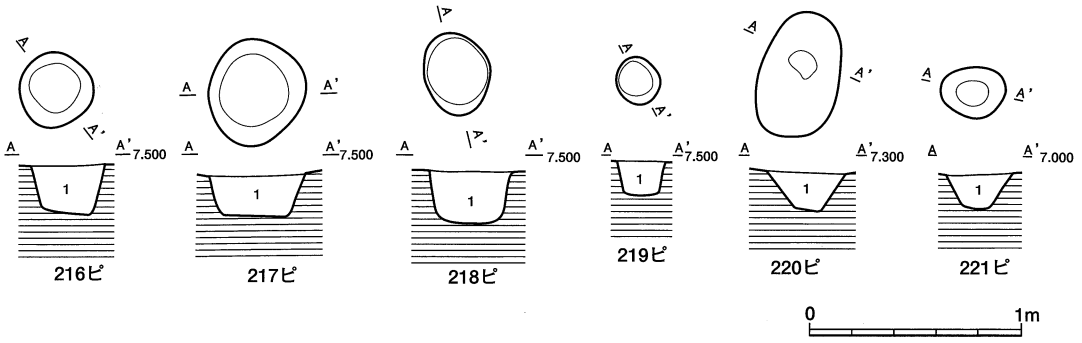
・216～218号ピット、220・221号ピット
216～218号ピット、220号ピットはH－6グリッドの北東部に位置し、221号ピットはH－6グリッドの中央部よりやや南寄りに位置している。

216号ピット（古墳－120）
遺構　H－6グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－39°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は1層で構成され、黒色土（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

217号ピット（古墳－121）
遺構　H－6グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さ0.48m、短軸



第212図　216～218号ピット、220・221号ピットの分布図



第213図　216～218号ピット、220・221号ピットの平面・断面図

の長さが0.45mを測る。長軸のN値変換方位はN－35°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

218号ピット（古墳－122）

遺構　H－6グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.32mを測る。長軸のN値変換方位はN－18°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（2.5Y　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

220号ピット（古墳－123）

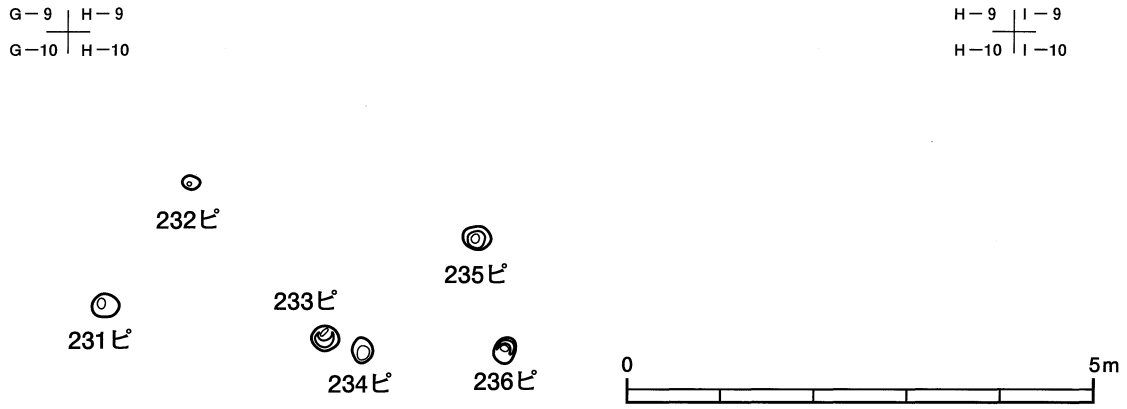
遺構　H－6グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.60m、短軸の長さが0.38mを測る。長軸のN値変換方位はN－14°－Eを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR 2/2）土層である。遺物は出土しなかった。

221号ピット（古墳－124）

遺構　H－6グリッドの中央部よりやや南寄りに位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－15°－Eを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は1層で構成され、黒褐色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

・231～236号ピット

231～236号ピットはH－10グリッドの北西部に位置している。



第214図　231～236号ピットの分布図

231号ピット（古墳－125）

遺構　H－10グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－72°－Wを指向している。断面形状は中間に段があり狭いV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で28cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

232号ピット（古墳－126）

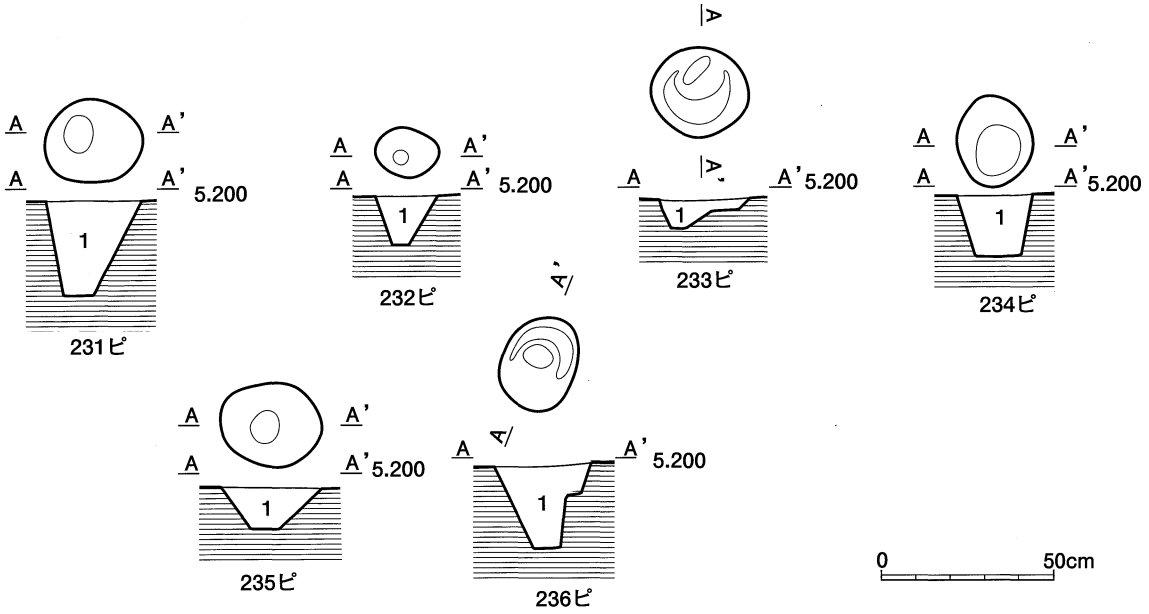
遺構　H－10グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.18m、短軸の長さが0.14mを測る。長軸のN値変換方位はN－18°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

233号ピット（古墳－127）

遺構　H－10グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－65°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

234号ピット（古墳－128）

遺構　H－10グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－84°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈



第215図　231～236号ピットの平面・断面図

し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

235号ピット（古墳－129）

遺構　Ｈ－10グリッドの中央よりやや北寄りに位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－24°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

236号ピット（古墳－130）

遺構　Ｈ－10グリッドの中央よりやや北寄りに位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－18°－Ｅを指向している。断面形状はＶ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

237～242号ピット

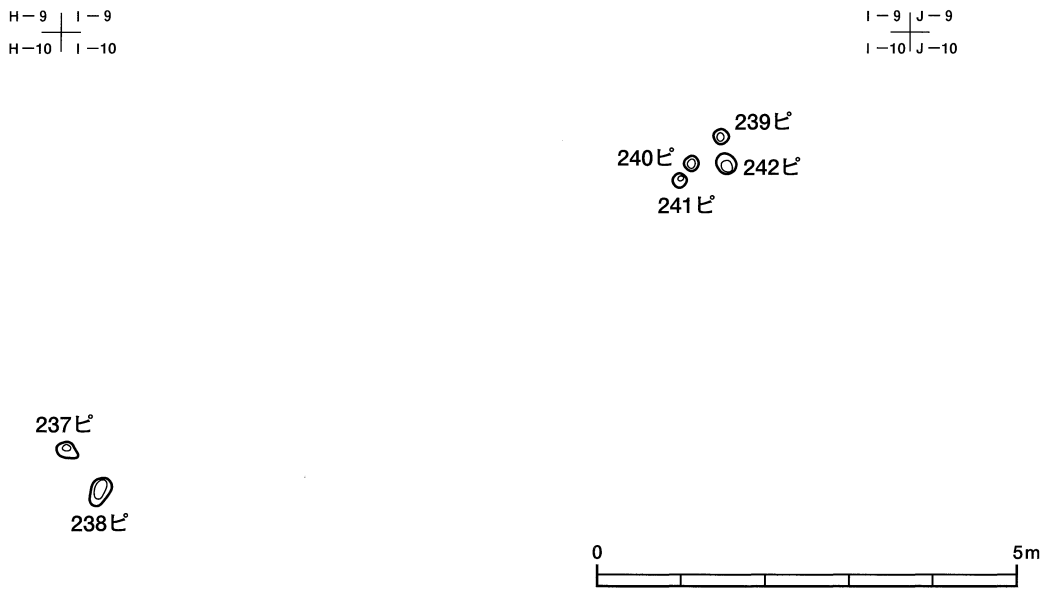
237・238号ピットはＩ－10グリッドの西部に位置し、239～242号ピットはＩ－10グリッドの北東部に位置している。

237号ピット（古墳－131）

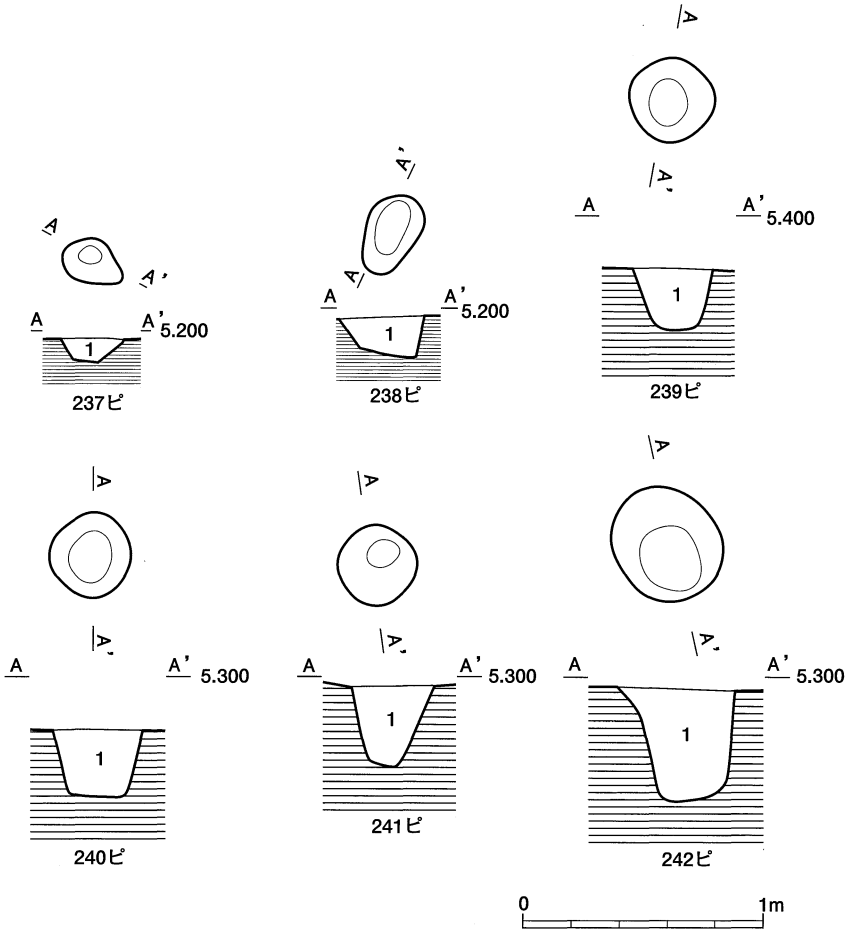
遺構　Ｉ－10グリッドの西部に位置し、平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.19mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－32°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

238号ピット（古墳－132）

遺構　Ｉ－10グリッドの西部に位置し、平面形状は卵形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－25°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第216図　237～242号ピットの分布図



第217図　237～242号ピットの平面・断面図

239号ピット（古墳－133）

遺構　Ⅰ－10グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.18m、短軸の長さが0.18mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

240号ピット（古墳－134）

遺構　Ⅰ－10グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.18m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

241号ピット（古墳－135）

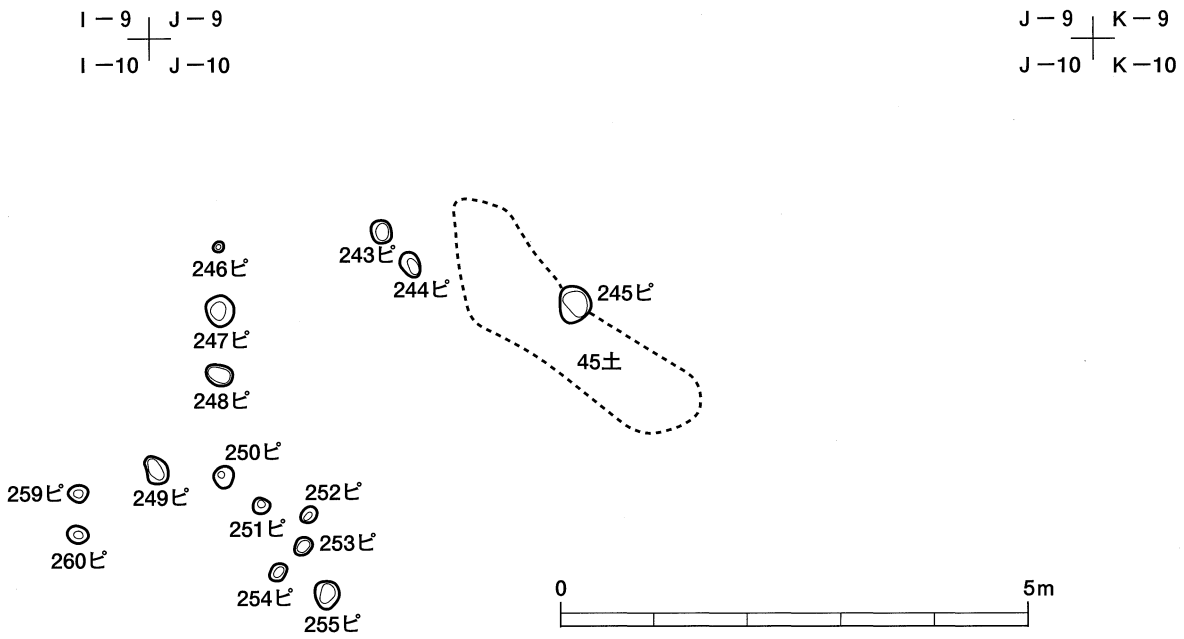
遺構　Ⅰ－10グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.17m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

242号ピット（古墳－136）

遺構　Ⅰ－10グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－35°－Wを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で23cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

・243～255号ピット、259・260号ピット

243～255号ピットはJ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置している。なお、245号ピットは45土坑の東側に隣接している。また、259・260号ピットはⅠ－10グリッドの北西部に位置している。



第218図　243～255号ピット、259・260の分布図

243号ピット（古墳－137）

遺構　J－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－1°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

244号ピット（古墳－138）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は卵形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－25°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

245号ピット（古墳－139）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の東側に隣接し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－10°－Ｅを指向している。断面形状は狭いＶ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で27cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

246号ピット（古墳－140）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.11m、短軸の長さが0.10mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－45°－Ｅを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で５cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

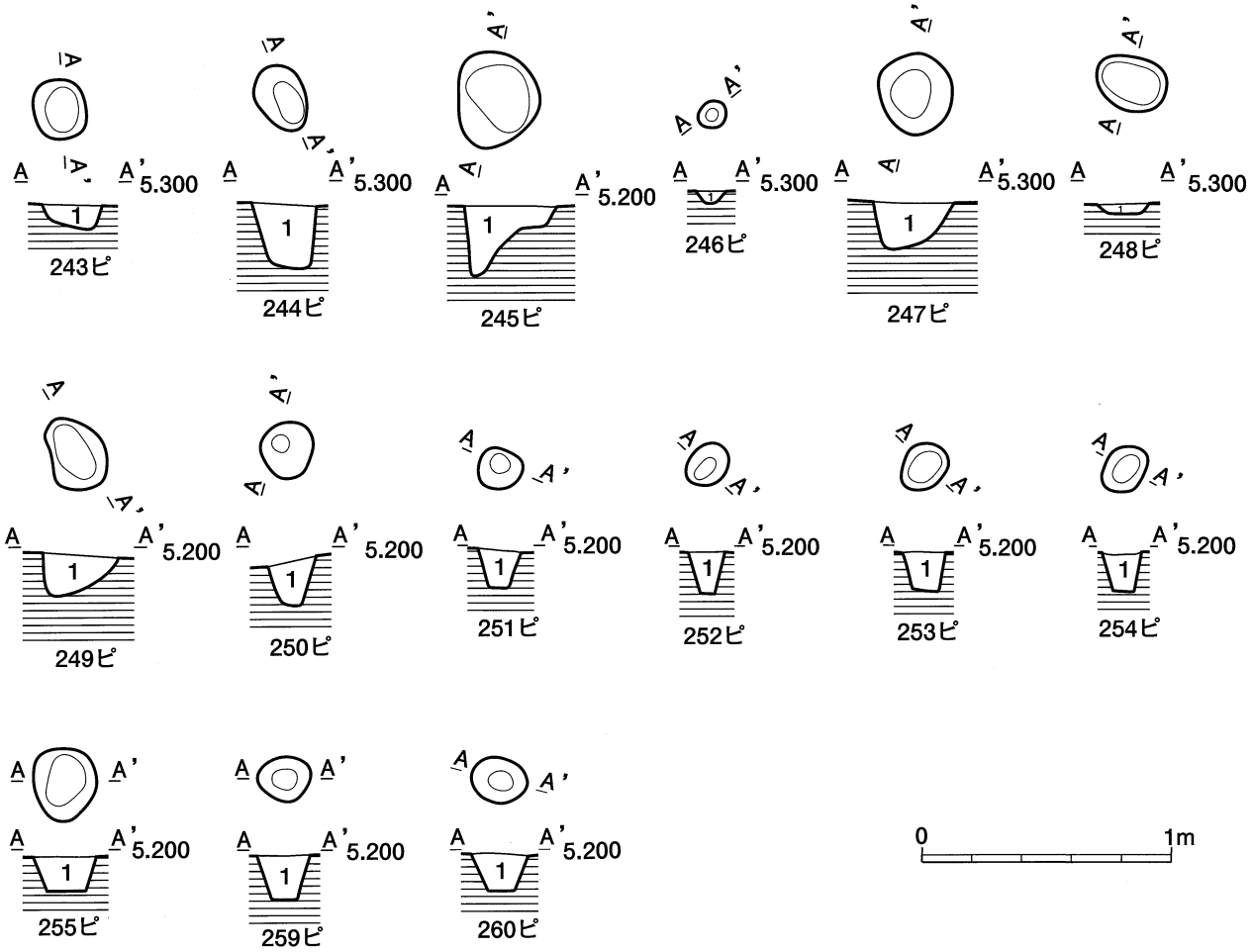
247号ピット（古墳－141）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.33m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－21°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

248号ピット（古墳－142）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.29m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－15°－Ｅを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で４cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

249号ピット（古墳－143）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－30°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

250号ピット（古墳－144）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－25°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は２～５cm大の軽石が７点出土しているが、加工痕はない。

251号ピット（古墳－145）
遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.18m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－72°－Ｗを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は土師器の体部片が２点出土しているが、図化は不可能である。



第219図　243～255号ピット、259・260号ピットの平面・断面図

252号ピット（古墳－146）

遺構　J－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.19m、短軸の長さが0.15mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

253号ピット（古墳－147）

遺構　J－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－42°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

254号ピット（古墳－148）

遺構　J－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.16mを測る。長軸のN値変換方位はN－41°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

255号ピット（古墳－149）

遺構　Ｊ－10グリッドの北西部で、45土坑の南東に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－35°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

259号ピット（古墳－150）

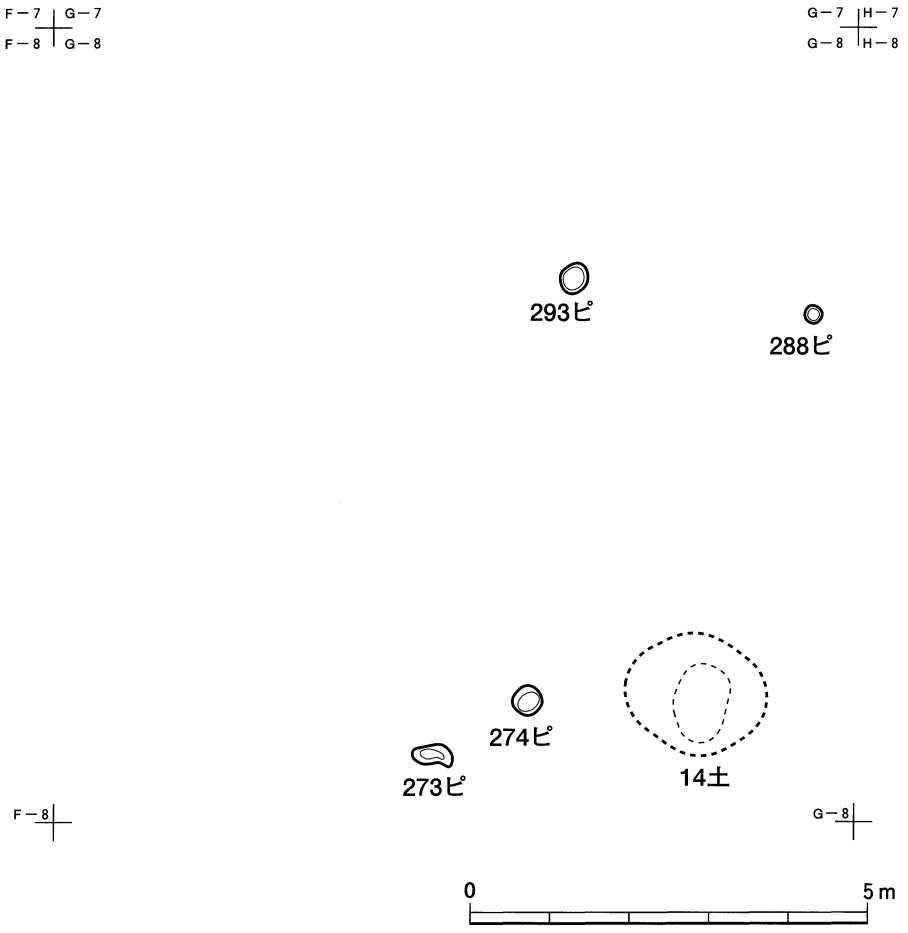
遺構　Ｉ－10グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.18mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－45°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

260号ピット（古墳－151）

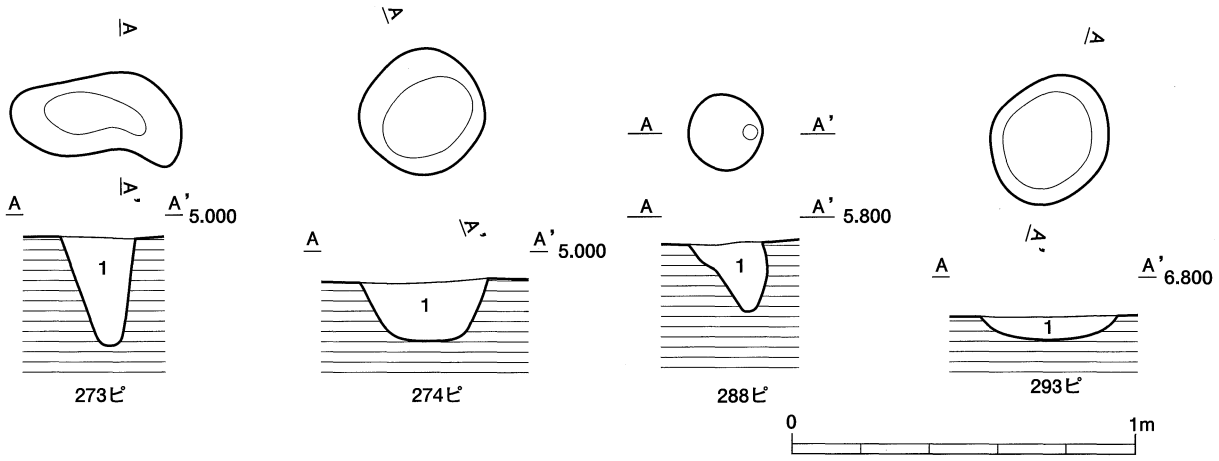
遺構　Ｉ－10グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.18mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－28°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

273・274・288・293号ピット

273・274号ピットはＧ－８グリッドの南部で、14号土坑の西側に位置し、288・293号ピットはＧ－８グリッドの中央部から東部で、14号土坑の北側に位置している。



第220図　273・274・288・293号ピットの分布図



第221図　273・274・288・293号ピットの平面・断面図

273号ピット（古墳－152）

遺構　G－8グリッドの南部で、14号土坑の西側に位置し、平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.51m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－15°－Eを指向している。断面形状は狭いV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で31cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

274号ピット（古墳－153）

遺構　G－8グリッドの南部で、14号土坑の西側に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.34m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

288号ピット（古墳－154）

遺構　H－8グリッドの中央部から東部で、14号土坑の北側に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

293号ピット（古墳－155）

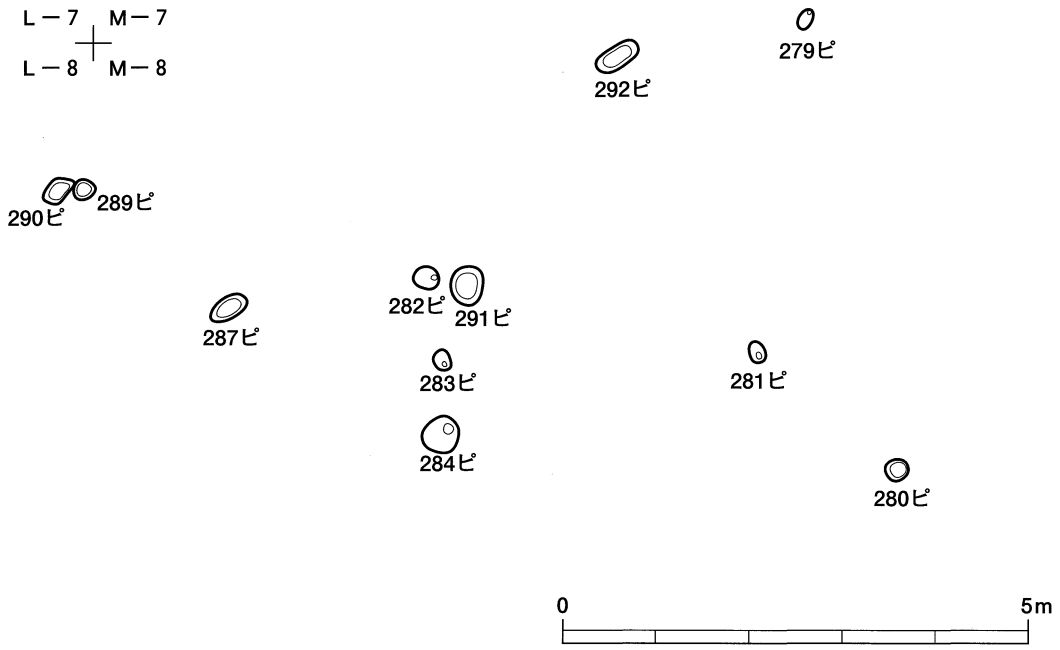
遺構　G－8グリッドの中央部から東部で、14号土坑の北側に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－23°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

・279～284号ピット、287号ピット、289～292号ピット

279号ピットはM－8グリッドの北部で、24号土坑の西側に位置し、280～284号ピット、287号ピット、289号ピットはM－8グリッドの中央部から北西部にかけて分布している。290・291号ピットはL－8グリッドの北東部に位置し、292号ピットはM－8グリッドの北東部に位置している。

279号ピット（古墳－156）

遺構　M－8グリッドの北部で、24号土坑の西側に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.14mを測る。長軸のN値変換方位はN－62°－Wを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y 2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第222図　279～284号ピット、287号ピット、289～292号ピットの分布図

280号ピット（古墳－157）

遺構　M－8グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－31°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

281号ピット（古墳－158）

遺構　M－8グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－25°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

282号ピット（古墳－159）

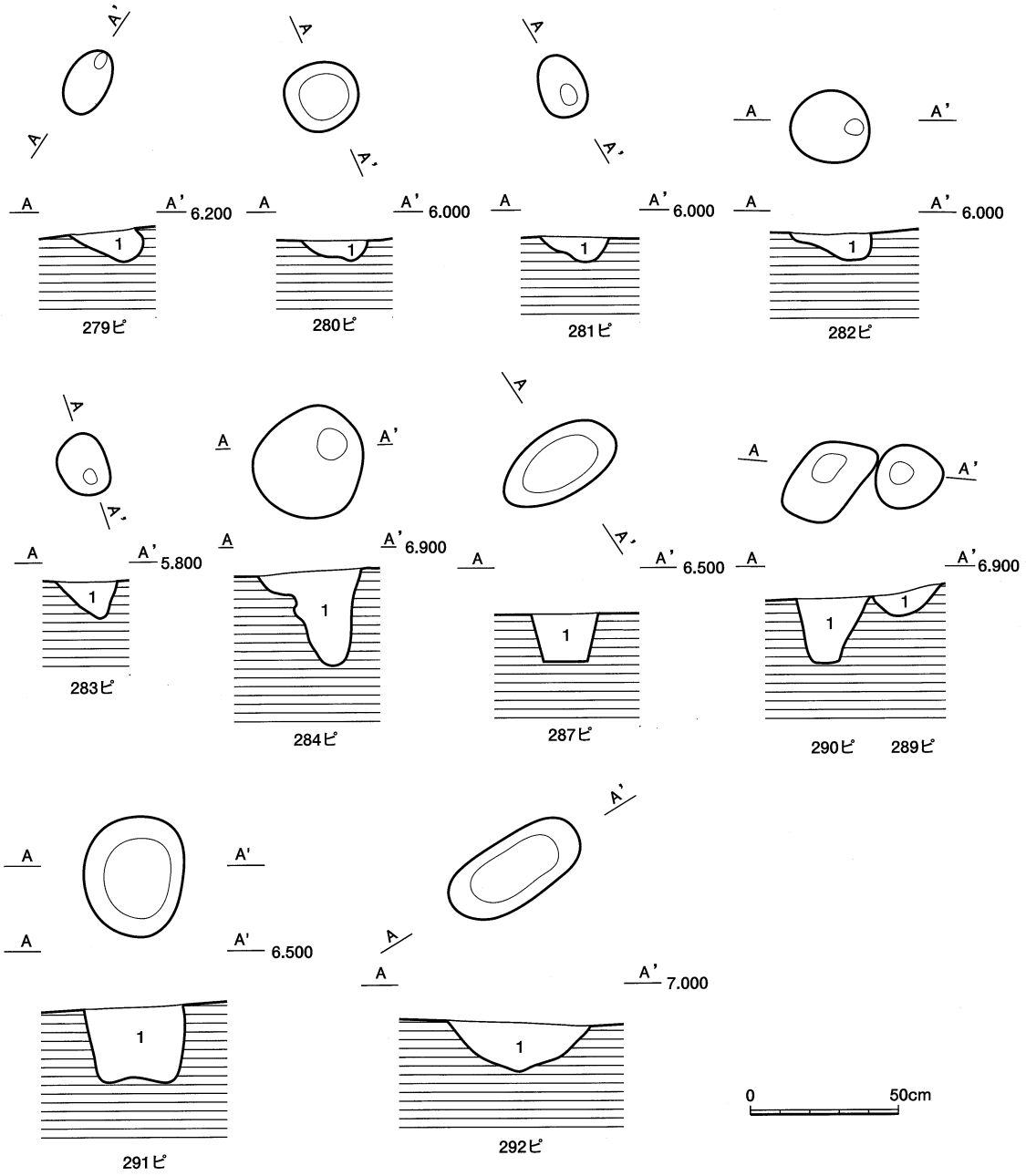
遺構　M－8グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－68°－Wを指向している。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

283号ピット（古墳－160）

遺構　M－8グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－26°－Wを指向している。断面形状は上に広く開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

284号ピット（古墳－161）

遺構　M－8グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.38m、短軸の長さが0.37mを測る。長軸のN値変換方位はN－30°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で34㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第223図　279～284号ピット、287号ピット、289～292号ピットの平面・断面図

287号ピット（古墳－162）

遺構　M－８グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－33°－Wを指向している。断面形状は中間に段があり上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で16cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

289号ピット（古墳－163）

遺構　M－８グリッドの北西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.40m、短軸の長さが0.34mを測る。長軸のN値変換方位はN－3°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で８cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

290号ピット（古墳－164）

遺構　M－８グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

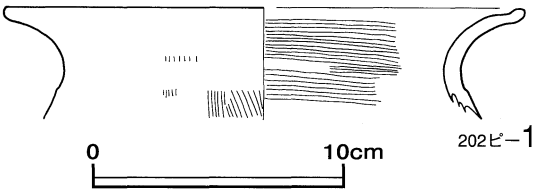
291号ピット（古墳－165）

遺構　L－８グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

292号ピット（古墳－166）

遺構　L－８グリッドの北東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.50m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－36°－Wを指向している。断面形状は上に広く開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は土師器の甕の口縁部片が１点、体部片が６点の計７点出土している。その内、図化が可能な土師器の甕の口縁部片１点を図示した。

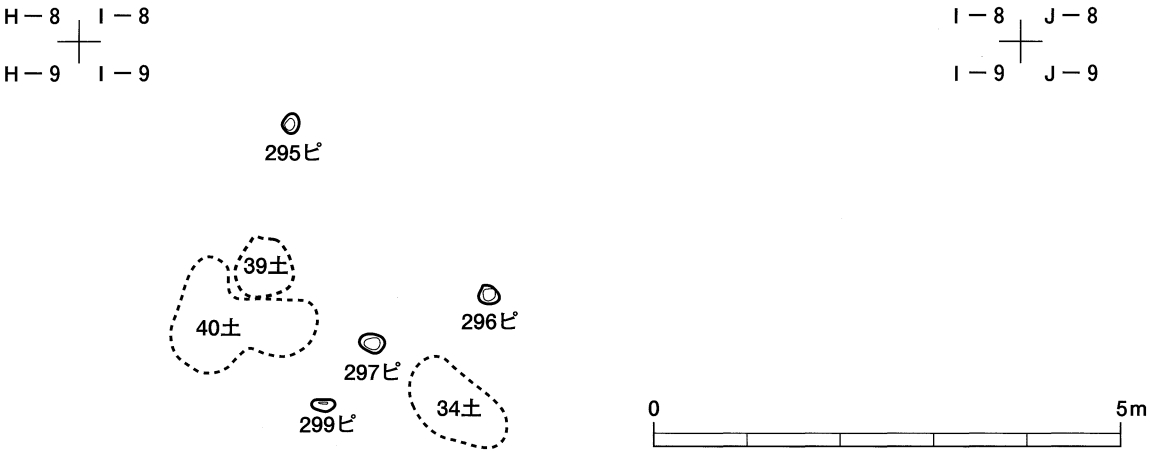
遺物　第224図の**1**は甕の口縁部片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部にナデ仕上げが認められ、頸部は縦位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部から頸部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で石英・雲母・黒色粒を含んでいる。



第224図　292号ピットから出土した土師器の実測図

・295～297ピット、299号ピット

295～297号ピット、299号ピットはI－９グリッドの北西部に分布し、39・40号土坑の東側に位置している。



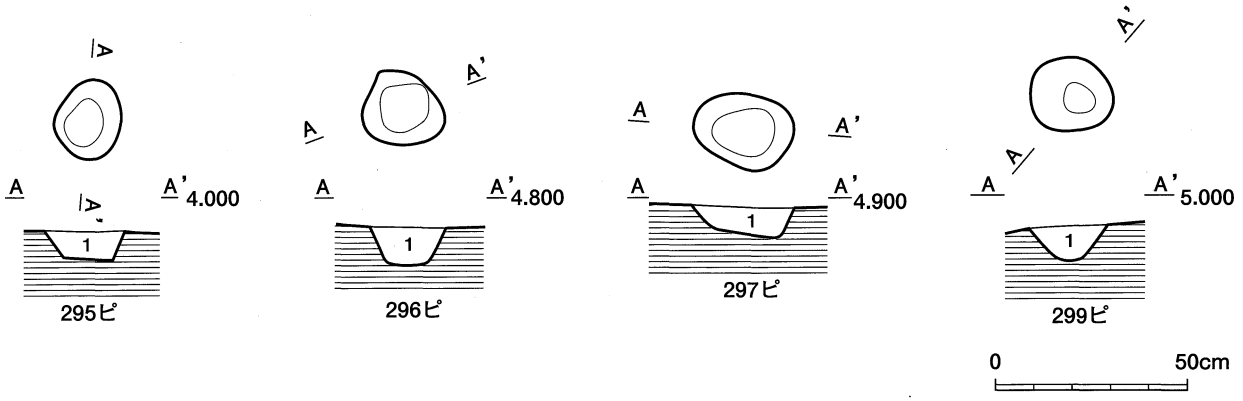
第225図　295～297号ピット、299号ピットの分布図

295号ピット（古墳－167）

遺構　I－９グリッドの北西部で、39・40号土坑の東側に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－8°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で８cmある。覆土は１層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

296号ピット（古墳－168）

遺構　Ⅰ－9グリッドの北西部で、39・40号土坑の東側に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－38°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第226図　295～297号ピット、299号ピットの平面・断面図

297号ピット（古墳－169）

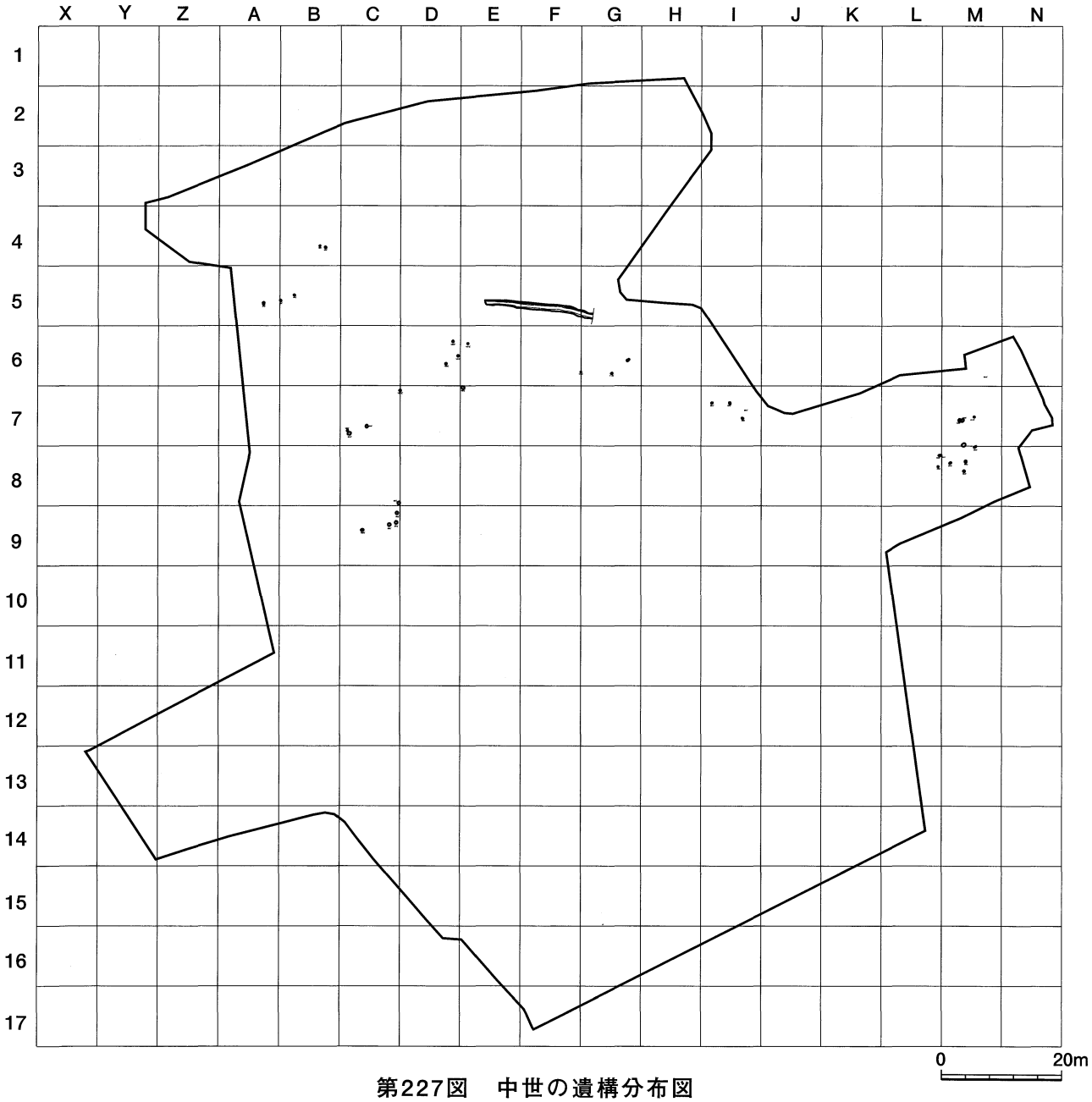
遺構　Ⅰ－9グリッドの北西部で、39・40号土坑の東側に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－77°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

299号ピット（古墳－170）

遺構　Ⅰ－9グリッドの北西部で、39・40号土坑の東側に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.22m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で9cmある。覆土は1層で構成され、黒色（2.5Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

（3）中世の遺構と遺物

今回の調査で確認した中世の遺構は、溝状遺構が１条、穴状遺構のうちピットが18基である。遺物は、溝状遺構の覆土から244点出土している。

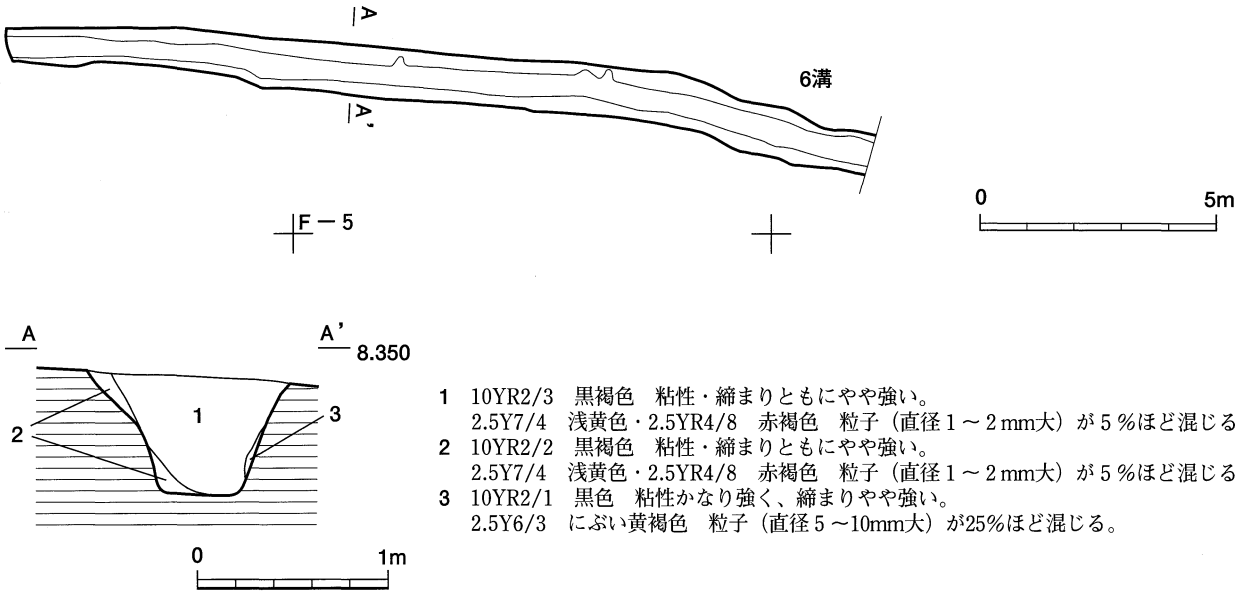


第227図　中世の遺構分布図

〈溝状遺構〉

６号溝跡（中世－１）

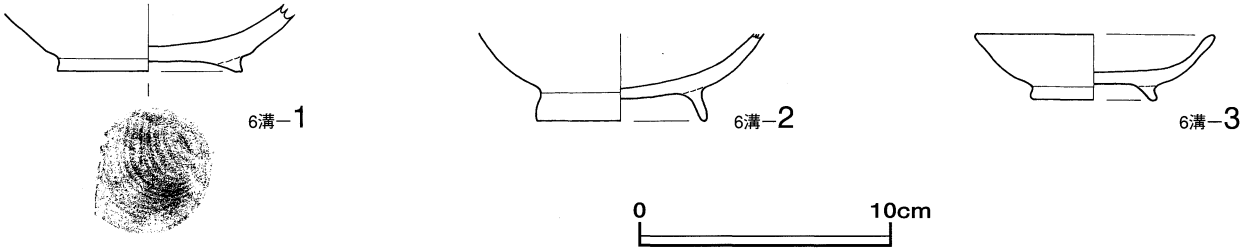
遺構　６号溝跡はＥ－５グリッドの中央よりやや南寄りから東方向に伸長し、東端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが18.62mで、幅は0.56～1.10mである。東西軸のＮ値方位は変化点が３箇所認められる。東側からＮ－74.6°－Ｗ、変化点でＮ－86.1°－Ｗ、変化点でＮ－78.8°－Ｗ、変化点でＮ－87.9°－Ｗを指向する。断面形状はＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で77㎝ある。覆土はＡ－Ａ’では層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒褐色（10YR　2/3）土層、２層は黒色（10YR 2/2）土層、３層は黒褐色（10YR　2/1）土層である。



1　10YR2/3　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y7/4　浅黄色・2.5YR4/8　赤褐色　粒子（直径１～２mm大）が５％ほど混じる。
2　10YR2/2　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
　2.5Y7/4　浅黄色・2.5YR4/8　赤褐色　粒子（直径１～２mm大）が５％ほど混じる。
3　10YR2/1　黒色　粘性かなり強く、締まりやや強い。
　2.5Y6/3　にぶい黄褐色　粒子（直径５～10mm大）が25％ほど混じる。

第228図　６号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から弥生土器の口縁部片が１点、体部片が17点の計18点、土師器の口縁部片が６点、体部片が31点、底部片が４点の計41点、須恵器の口縁部片が５点、体部片が13点の計18点、山茶碗の皿片が１点、口縁部片が32点、体部片が95点、底部片が39点の計167点で合計244点出土している。その内、図化が可能な山茶碗の碗の底部片２点、小皿１点の計３点を図示した。



第229図　６号溝跡から出土した山茶碗の実測図

遺物　第229図の **1** は碗の底部片で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付いている。外面は底部から高台部分にナデ仕上げが認められ、底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色粒と礫（5.0㎜大）を含んでいる。　**2** は碗の底部片で、平底の底部に断面が細い長方形の貼り付け高台が付いている。体部は内湾して立ち上がっている。外面は底部から高台部分にナデ仕上げが認められ、底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められ、内外面とも釉がかかっている。胎土は密で、灰色・白色粒を含んでいる。　**3** は小皿で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付いている。体部は内湾し、口縁部はやや外反する。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められ、底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認めらる。胎土は密で、黒色・白色粒を含んでいる。

〈穴状遺構〉

・29・40号ピット

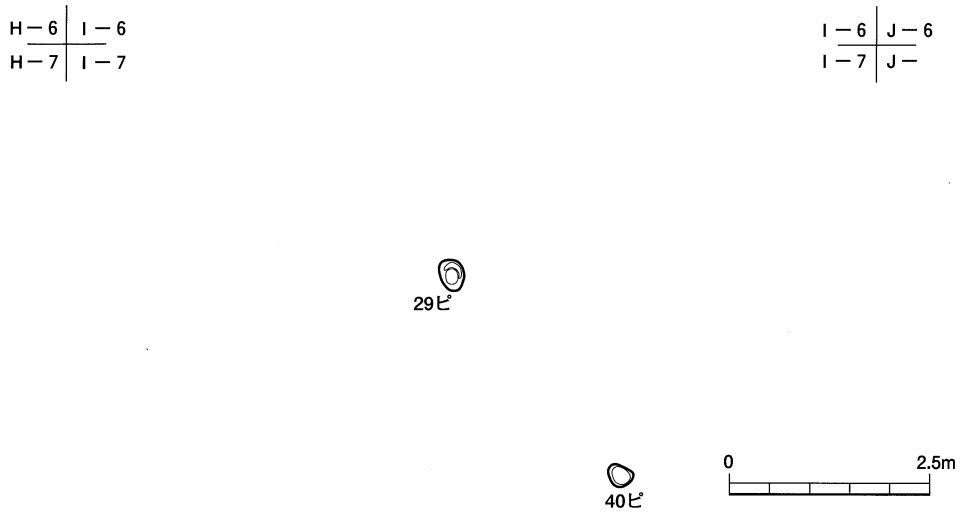
29・40号ピットはＩ－７グリッドに分布している。

29号ピット（中世－１）

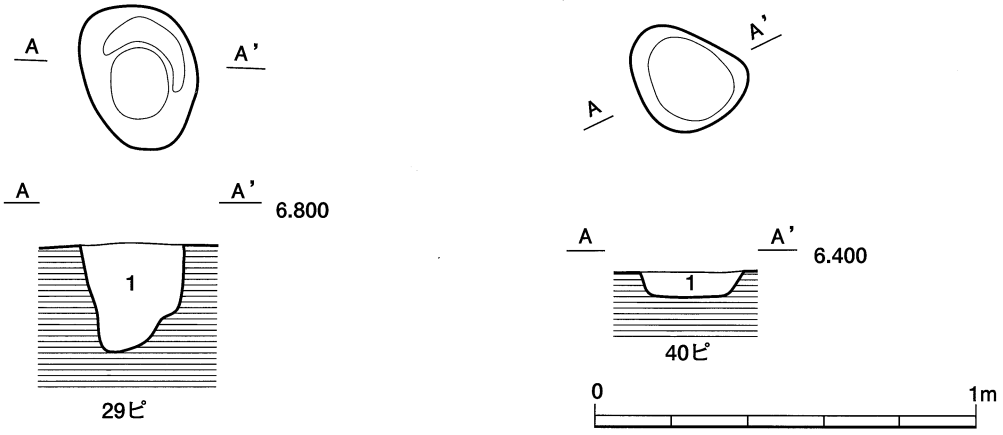
遺構　Ｉ－７グリッドの中央部よりやや北に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.97ｍ、短軸の長さが0.36ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－5°－Ｅを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で28㎝ある。覆土は１層で構成され、暗褐色（10YR　3/4）土層である。遺物は出土しなかった。

40号ピット（中世－2）

遺構　Ⅰ－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6㎝ある。覆土は1層で構成され、黒色（7.5YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第230図　29・40号ピットの分布図



第231図　29・40号ピットの平面・断面図

・42・43号ピット

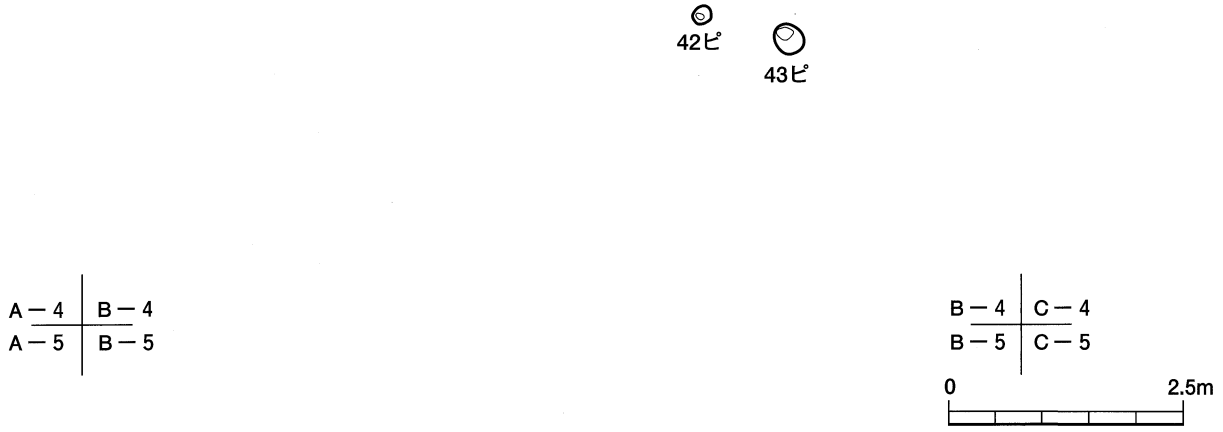
42・43号ピットはB－4グリッドの南東部に分布している。

42号ピット（中世－3）

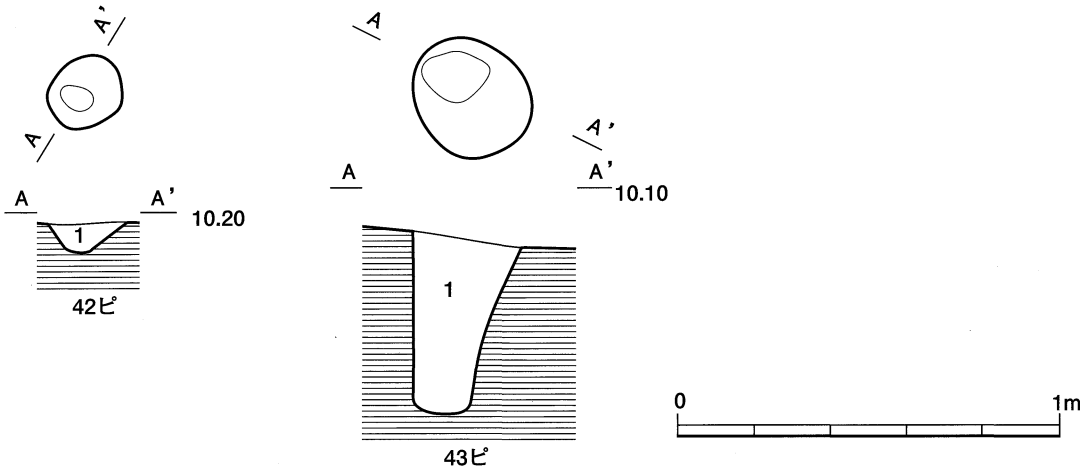
遺構　B－4グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.19mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10㎝ある。覆土は1層で構成され、黒褐色（10YR　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。

43号ピット（中世－4）

遺構　B－4グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.34m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で46㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。



第232図　42・43号ピットの分布図



第233図　42・43号ピットの平面・断面図

・45～47号ピット

45～47号ピットはA－5グリッドの東部からB－5グリッドの西部にかけて分布している。

45号ピット（中世－5）

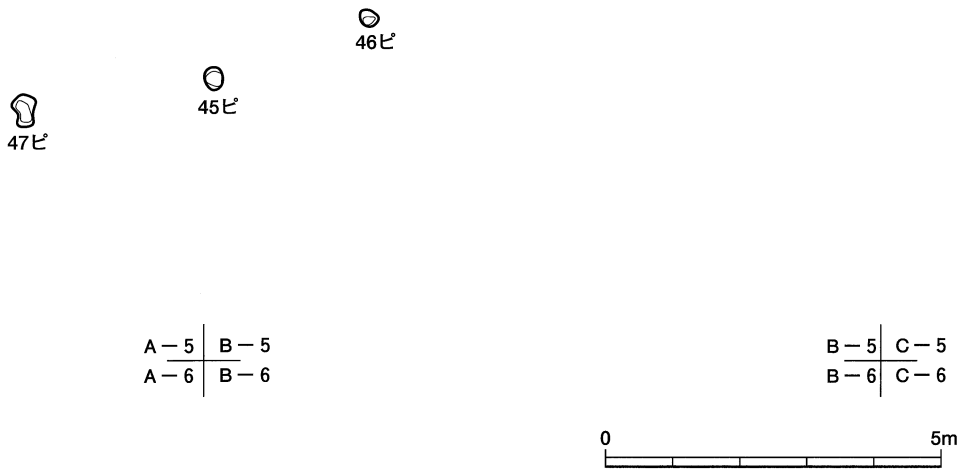
遺構　B－5グリッドの西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.34m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－75°－Eを指向している。断面形状は舟底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で18cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

46号ピット（中世－6）

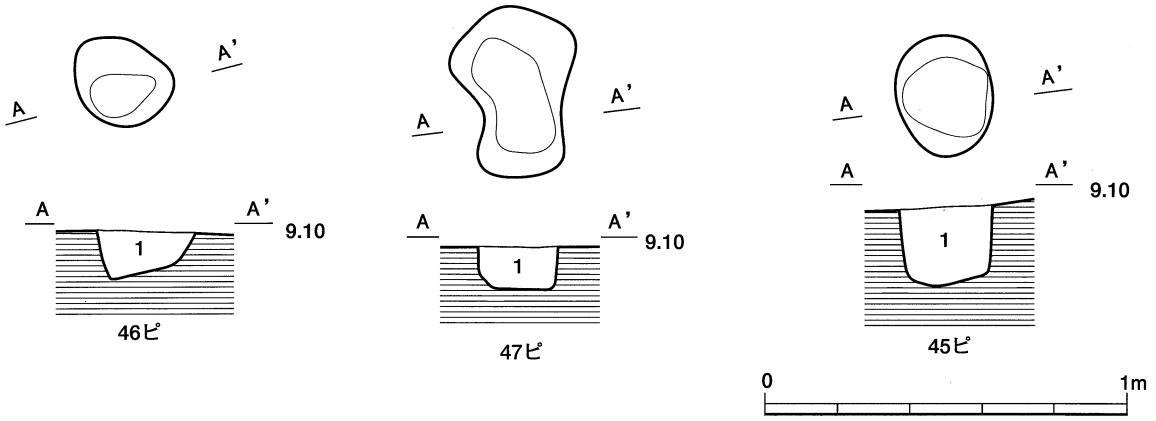
遺構　B－5グリッドの西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.29m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－41°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で12cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

47号ピット（中世－7）

遺構　A－5グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.48m、短軸の長さが0.35mを測る。長軸のN値変換方位はN－77°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。



第234図　45～47号ピットの分布図



第235図　45～47号ピットの平面・断面図

・84～92号ピット、97・98号ピット

84～92号ピットはK－7グリッドの中央部からL－7グリッドの西部にかけて分布し、97・98号ピットはK－8グリッドの北部に分布している。

84号ピット（中世－8）

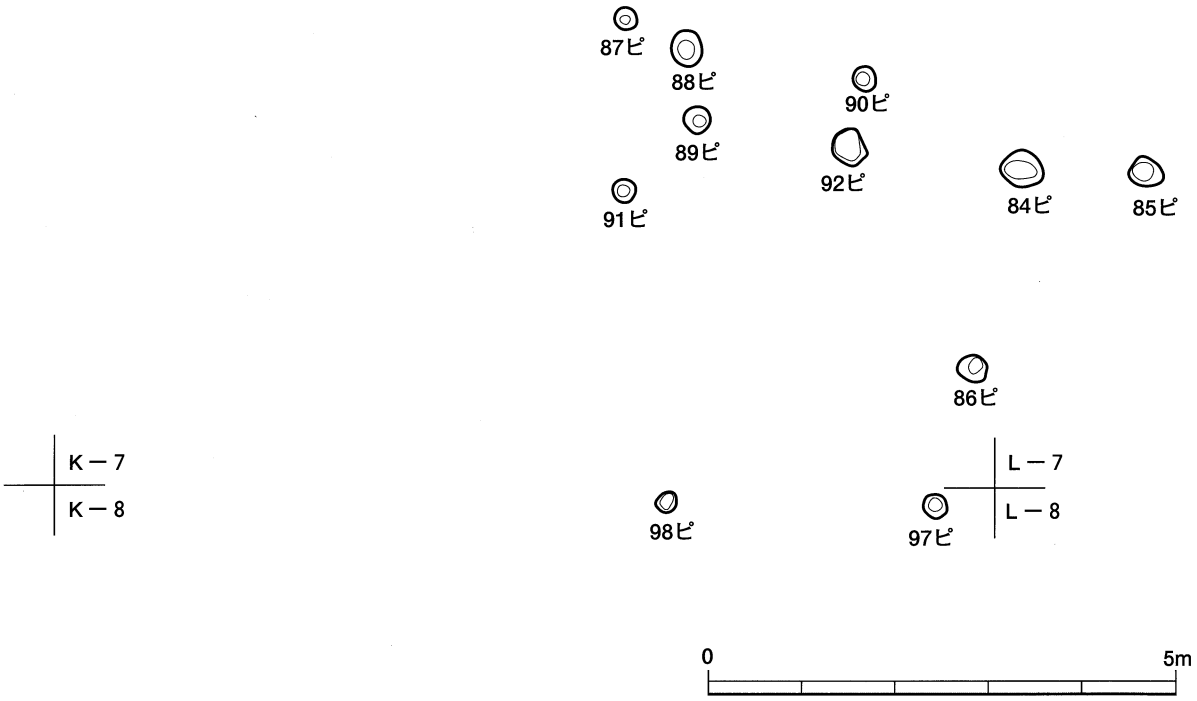
遺構　L－7グリッドの西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.43m、短軸の長さが0.38mを測る。長軸のN値変換方位はN－42°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

85号ピット（中世－9）

遺構　L－7グリッドの西部に位置し、平面形状は不定形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.30mを測る。長軸のN値変換方位はN－25°－Eを指向している。断面形状は上に開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は3層で構成され、1層は黒褐色（10YR　2/2）土層、2層は黒褐色（10YR　2/3）土層、3層は黒褐色（10YR　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

86号ピット（中世－10）

遺構　K－7グリッドの南東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.32m、短軸の長さが0.28mを測る。長軸のN値変換方位はN－64°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第236図　84～92号ピット、97・98号ピットの分布図

87号ピット（中世－11）

遺構　K－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.24m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－24°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

88号ピット（中世－12）

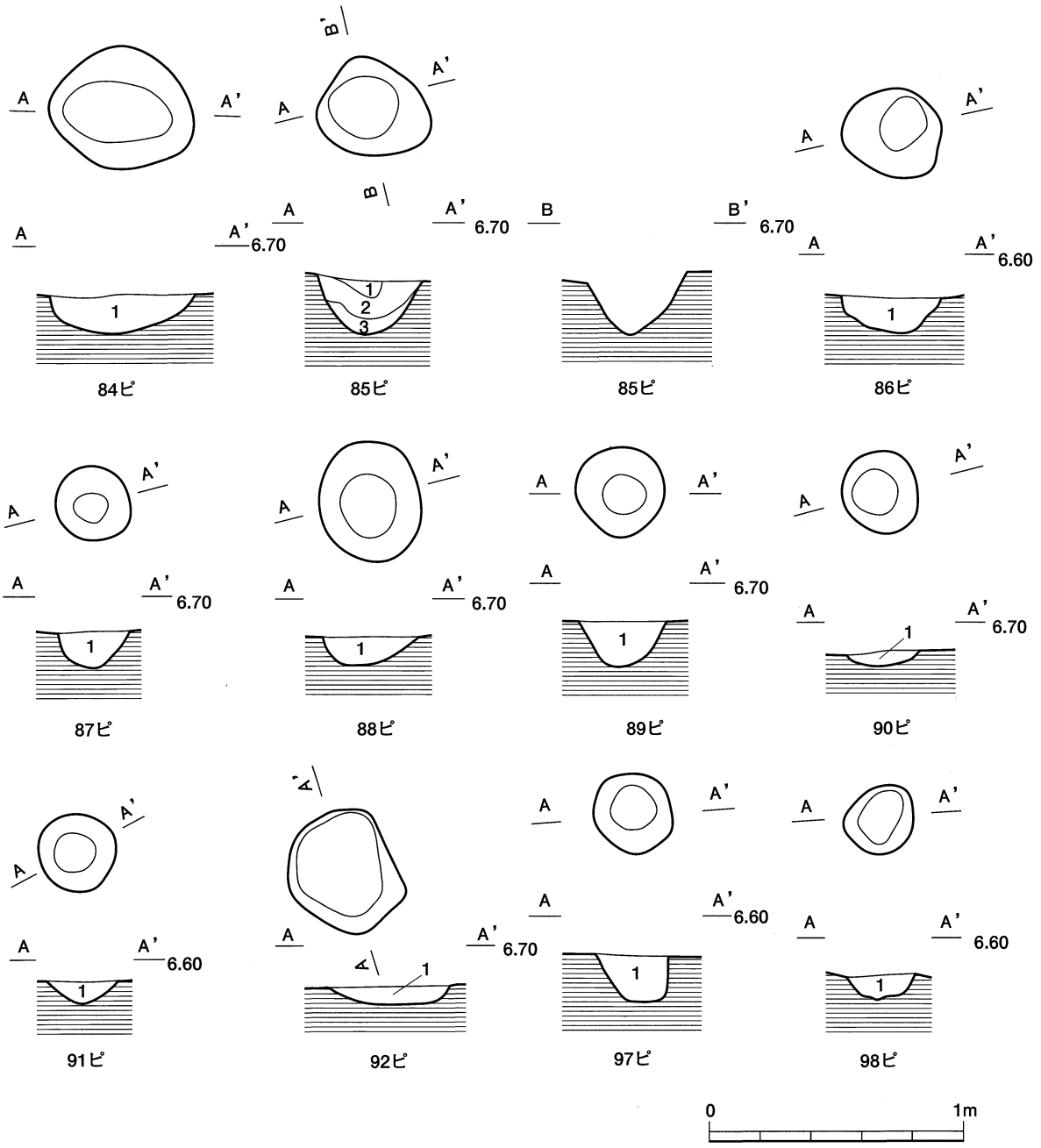
遺構　K－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.39m、短軸の長さが0.32mを測る。長軸のN値変換方位はN－72°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

89号ピット（中世－13）

遺構　K－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.27mを測る。長軸のN値変換方位はN－37°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

90号ピット（中世－14）

遺構　K－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.27m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－32°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第237図　84～92号ピット、97・98号ピットの平面・断面図

91号ピット（中世－15）

遺構　K－7グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.24mを測る。長軸のN値変換方位はN－40°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で6cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

92号ピット（中世－16）

遺構　K－7グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.38m、短軸の長さが0.33mを測る。長軸のN値変換方位はN－63°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で5cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

97号ピット（中世－17）

遺構　K－7グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.24 mを測る。長軸のN値変換方位はN－36°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

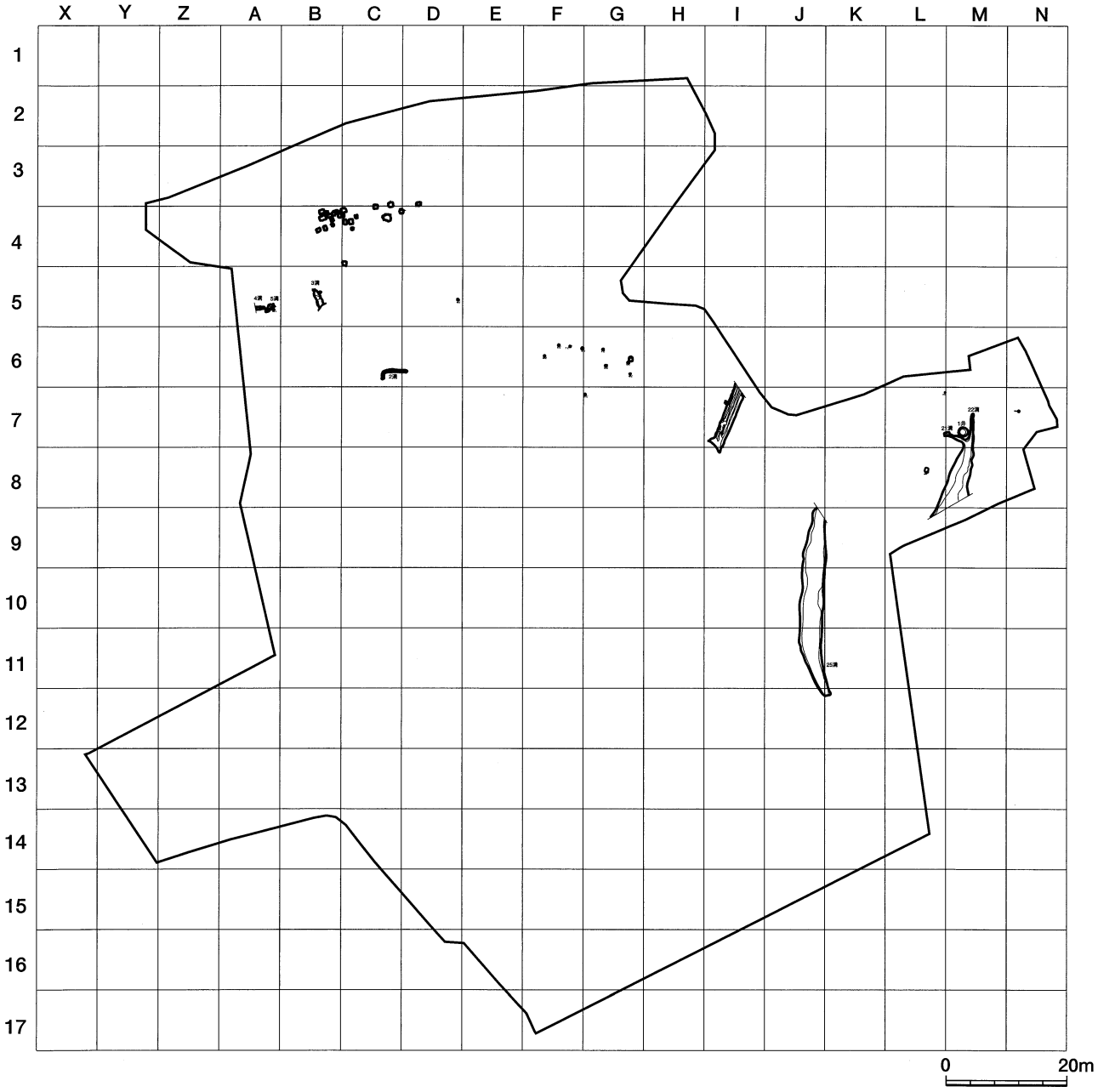
98号ピット（中世－18）

遺構　K－7グリッドの北部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.20mを測る。長軸のN値変換方位はN－35°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7cmある。覆土は1層で構成され、黒色（10Y　2/1）土層である。遺物は出土しなかった。

(4) 近世の遺構と遺物

今回の調査で確認した近世の遺構は、溝状遺構が８条、穴状遺構のうち土壙墓が26基、ピットが16基、井戸跡が１基である。

遺物は、溝状遺構から594点、ピットから２点、土壙墓から58点出土している。

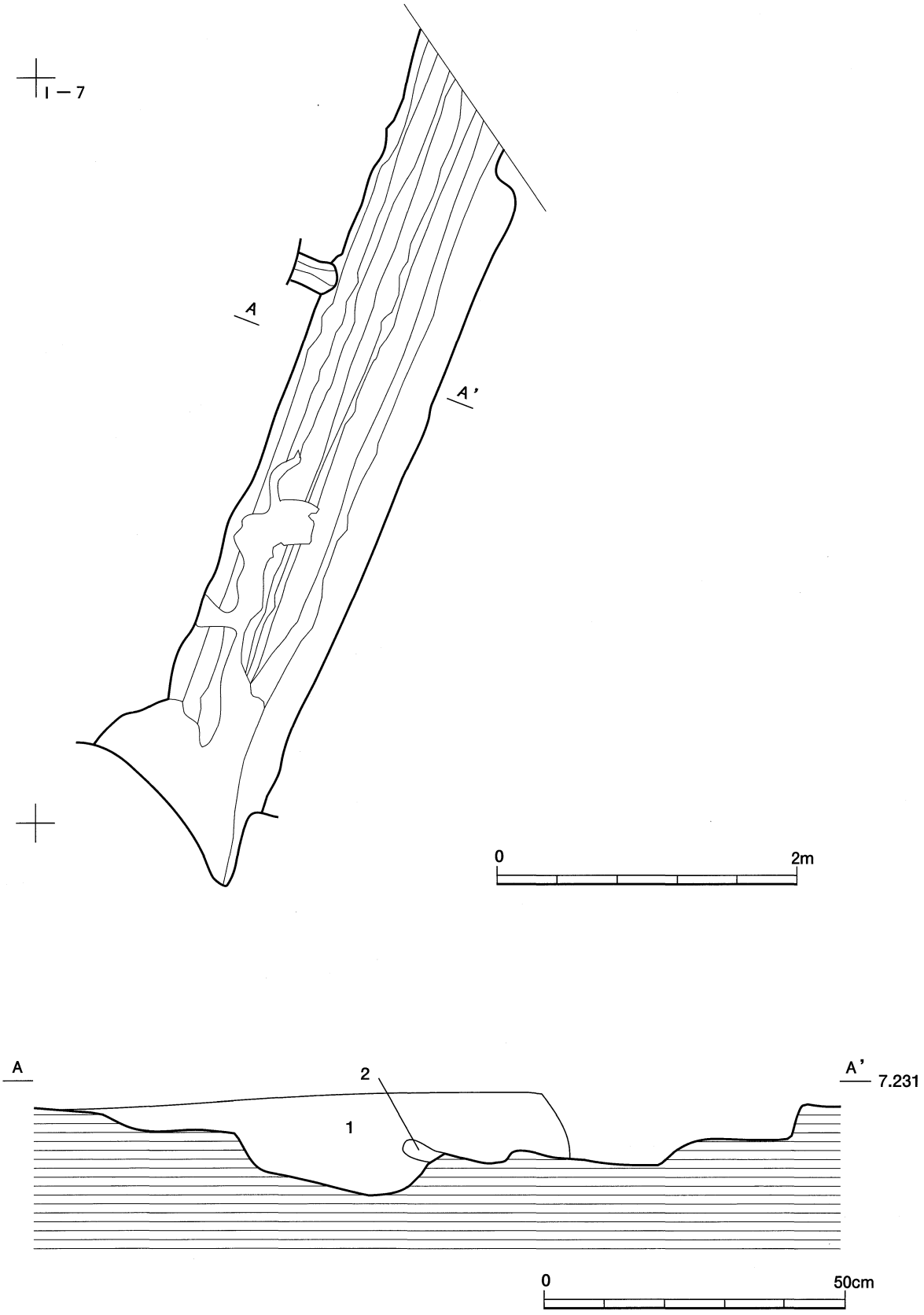


第238図　近世の遺構分布図

〈溝状遺構〉

1号溝跡（近世－１）

遺構　１号溝跡はＩ－6・7・8 グリッドの中央部を南南西方向に伸長し、北端部は未調査地区のため確認できなかった。南端部以南は削平されている。規模は長さが9.42m、幅は1.48～1.95mである。南北軸のＮ値方位はＮ－21.8°－Ｅを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で108cmある。覆土はＡ－Ａ’は２層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は暗褐色（10YR　3/3）土層、２層は黒褐色（10YR　2/3）土層である。

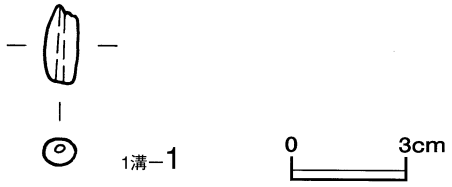


1　10YR3/3　暗褐色　粘性・締まりともにやや強い。
2　10YR2/3　黒褐色　粘性・締まりともにやや強い。
直径２～５mm大の礫が20%ほど混じる。

第239図　1号溝跡の平面・断面図

遺物は覆土から弥生土器の体部が８点、土師器が口縁部１点、体部11点、底部５点、土師質の土錘１点の計18点、須恵器が口縁部片５点、体部片25点、底部片６点の計36点、陶器片が21点、磁器片が２点で、合計86点出土している。その内、図化が可能な土師質の土錘１点を図示した。

遺物　第240図の１は一部欠損しているが土錘で薄手の管状を呈し、断面形状は円形である。長さ20.5㎜、最大幅8.0㎜、孔径2.5㎜、重量は1.15gある。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。

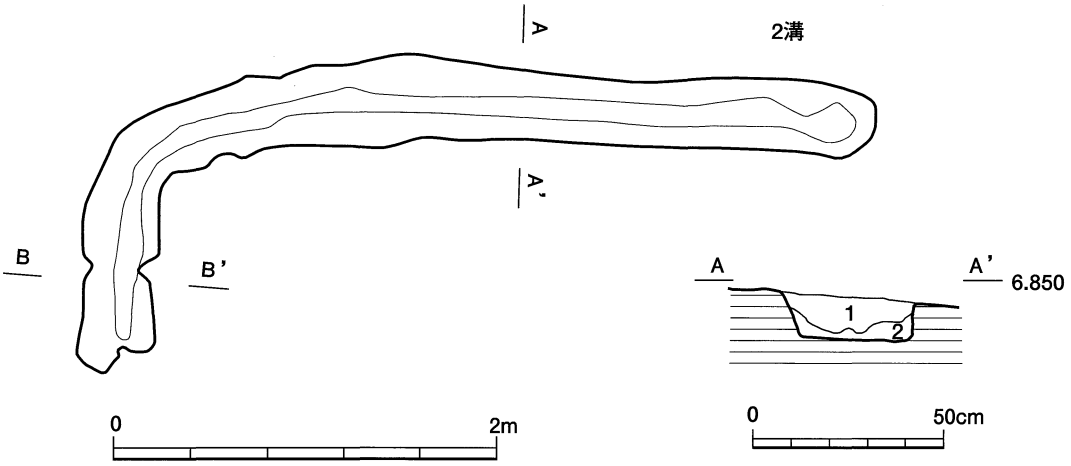


第240図　1号溝跡から出土した土錘の実測図

2号溝跡（近世－２）

遺構　２号溝跡はＤ－６グリッドの西部より西方向に伸長し、Ｃ－６グリッド南東部で南方向に屈曲し、終息している。規模は東西方向の長さが2.86m、南北方向の長さが2.23mで合計5.10m、幅は0.24～0.48mである。東西軸のＮ値方位は変化点が１箇所、屈曲点が１箇所認められる。東端からＮ－87.0°－Ｗ、変化点でＮ－74.0°－Ｅ、屈曲点でＮ－10.4°－Ｅを指向する。すなわち東西軸と南北軸は内角106.9°で屈曲していることになる。断面形状は浅いＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で21㎝ある。覆土はＡ－Ａ’は２層、Ｂ－Ｂ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒褐色（10ＹＲ　2/2）土層、２層は黒色（7.5ＹＲ　1.7/1）土層である。断面Ｂ－Ｂ’の１層は黒褐色（10ＹＲ　2/2）土層である。

遺物は覆土から須恵器の体部片３点、底部片２点で計５点出土したが、図化が可能な破片はなかった。



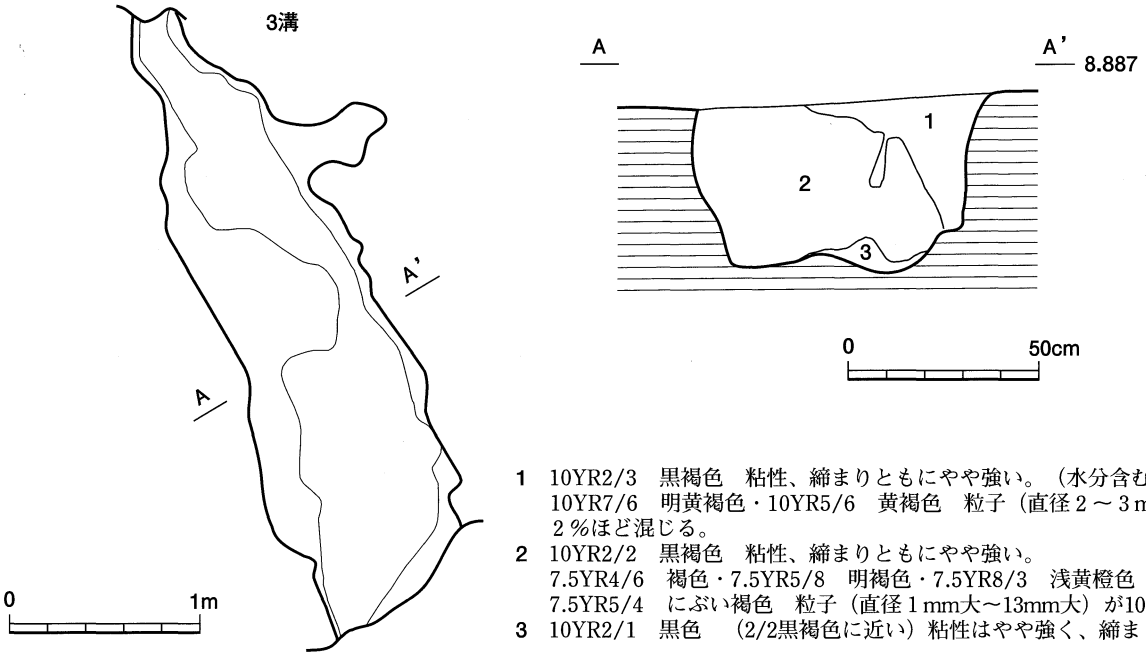
1　10YR2/2　黒褐色　粘性強く、締まりやや強い。
　　10YR7/6　明黄褐色・10YR5/8　明褐色・10YR8/6　黄橙色粒子（直径１mm以下大～35mm大）が10%ほど混じる。
2　7.5YR1.7/1　黒色　（上層より水分が多い）
　　粘性はかなり強く、締まりはやや強い。
　　10YR7/6　明黄褐色・7.5YR5/8　明褐色・2.5Y6/2　灰黄色粒子（直径１mm以下大～12mm大）が10%ほど混じる。

第241図　2号溝跡の平面・断面図

3号溝跡（近世－３）

遺構　３号溝跡はＢ－５グリッドのほぼ中央部を南北方向に伸長し、溝の両端部は削平されている。規模は長さが3.69mで、幅は0.23～1.03mである。南北軸のＮ値方位は変化点が２箇所認められる。北側からＮ－5.2°－Ｗ、変化点でＮ－37.3°－Ｗ、変化点でＮ－2.0°－Ｗを指向する。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で39㎝ある。覆土はＡ－Ａ’は３層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒褐色（10ＹＲ　2/3）土層、２層は黒色（10ＹＲ　2/2）土層、3層は黒褐色（10ＹＲ　2/1）土層である。

遺物は覆土から須恵器の底部片が１点出土したが、図化が可能な破片ではなかった。



1　10YR2/3　黒褐色　粘性、締まりともにやや強い。（水分含む）
　　10YR7/6　明黄褐色・10YR5/6　黄褐色　粒子（直径２～３mm大）が
　　２％ほど混じる。
2　10YR2/2　黒褐色　粘性、締まりともにやや強い。
　　7.5YR4/6　褐色・7.5YR5/8　明褐色・7.5YR8/3　浅黄橙色
　　7.5YR5/4　にぶい褐色　粒子（直径１mm大～13mm大）が10％ほど混じる。
3　10YR2/1　黒色　（2/2黒褐色に近い）粘性はやや強く、締まりはやや弱い。

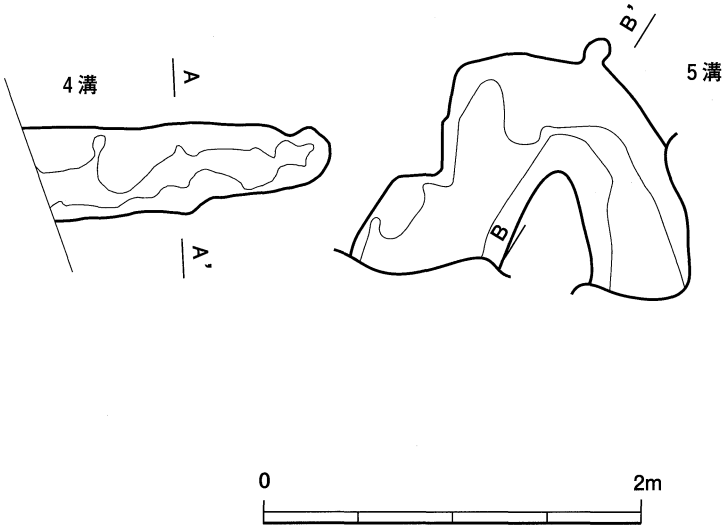
第242図　3号溝跡の平面・断面図

4号溝跡（近世－4）

遺構　4号溝跡はA－5グリッドの中央よりやや南部を東西方向に伸長し、西端部は未調査地区のため確認できなかった。東端部は削平されている。規模は長さが1.58m、幅は0.27～0.52mである。東西軸のN値方位はN－83.6°－Eを指向する。断面形状は上に広く開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土はA－A'は1層で構成される。断面A－A'の1層は暗褐色（10YR　3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

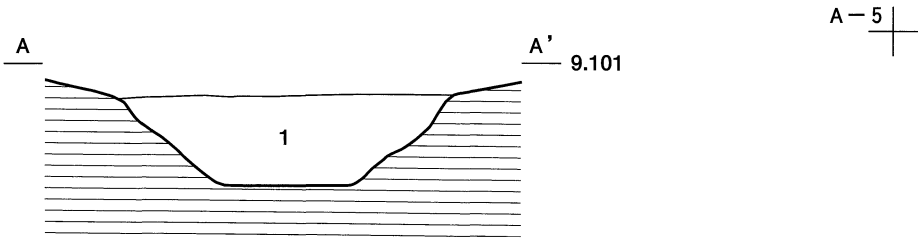
5号溝跡（近世－5）

遺構　5号溝跡はB－5グリッドの西部を東西から南北に伸長し、溝の両端部は削平されている。規模は東西方向の長さが1.56mで、南北方向の長さが1.19mで合計2.74m、幅は0.30～0.62mである。南北軸のN

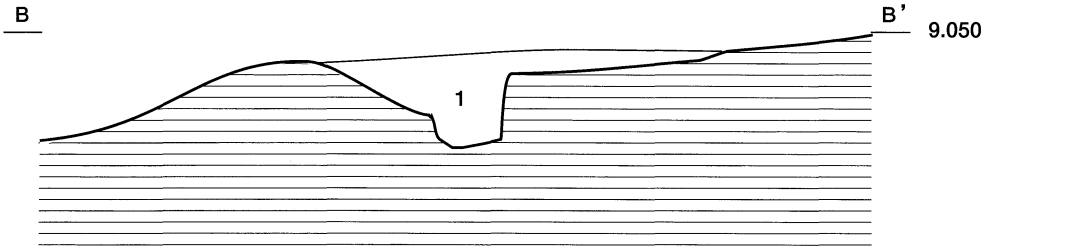


第243図　4・5号溝跡の平面図

値方位は屈曲点が 1 箇所認められる。西側からＮ－45.4°－Ｅ、屈曲点でＮ－21.7°－Ｗを指向する。すなわち東西軸と南北軸は内角67.1°で屈曲していることになる。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で43cmある。覆土はＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒褐色（10ＹＲ　2/3）土層である。遺物は出土しなかった。



1　10YR3/3　暗褐色　粘性・締まりともにやや強い
　5YR7/8　橙色　直径２mm大
　10YR1.7/1　黒色　直径50mm以下　斑状に混じる。
　10YR6/6　明黄褐色　直径～２mm大・10YR8/4　浅黄橙色　直径１mm以下　粒子が２％ほど混じる。



1　10YR3/3　暗褐色　粘性・締まりともにやや強い
　5YR7/8　橙色　直径2mm大
　10YR1.7/1　黒色　直径50mm以下　斑状に混じる。
　10YR6/6　明黄褐色　直径～２mm大・10YR8/4　浅黄橙色　直径１mm以下　粒子が２％ほど混じる。

第244図　4・5号溝跡の断面図

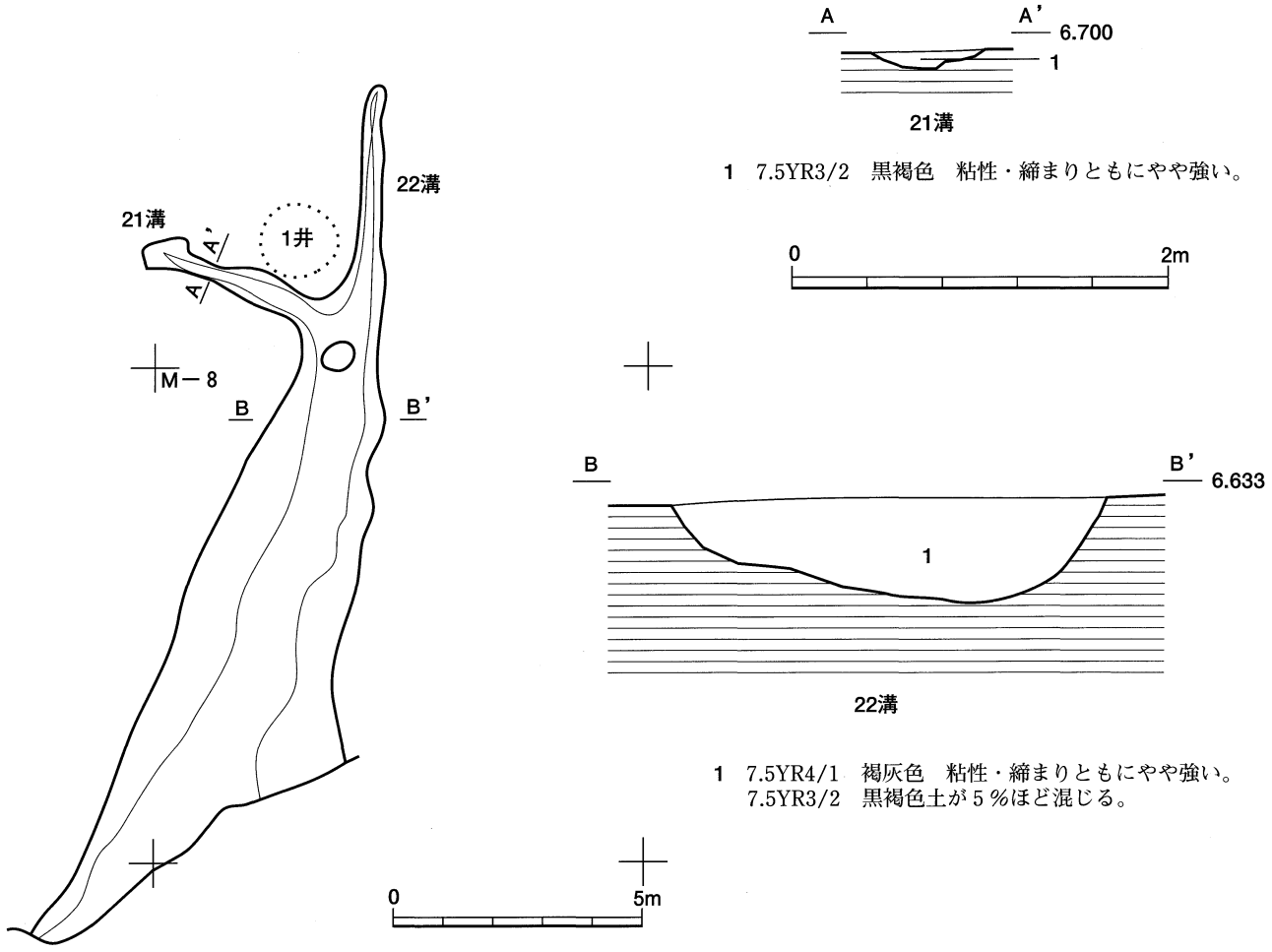
21号溝跡（近世－６）

遺構　21号溝跡はＬ－７グリッド南東部とＭ－７グリッドとの境界付近から東南東方向に伸長し、東端部は22号溝跡に流入している。規模は長さが3.44m、幅は1.02～1.54mである。東西軸のＮ値方位は変化点が１箇所認められる。西側からＮ－87.6°－Ｗ、変化点でＮ－67.1°－Ｗを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土はＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は黒褐色（7.5ＹＲ　3/2）土層である。遺物は出土しなかった。

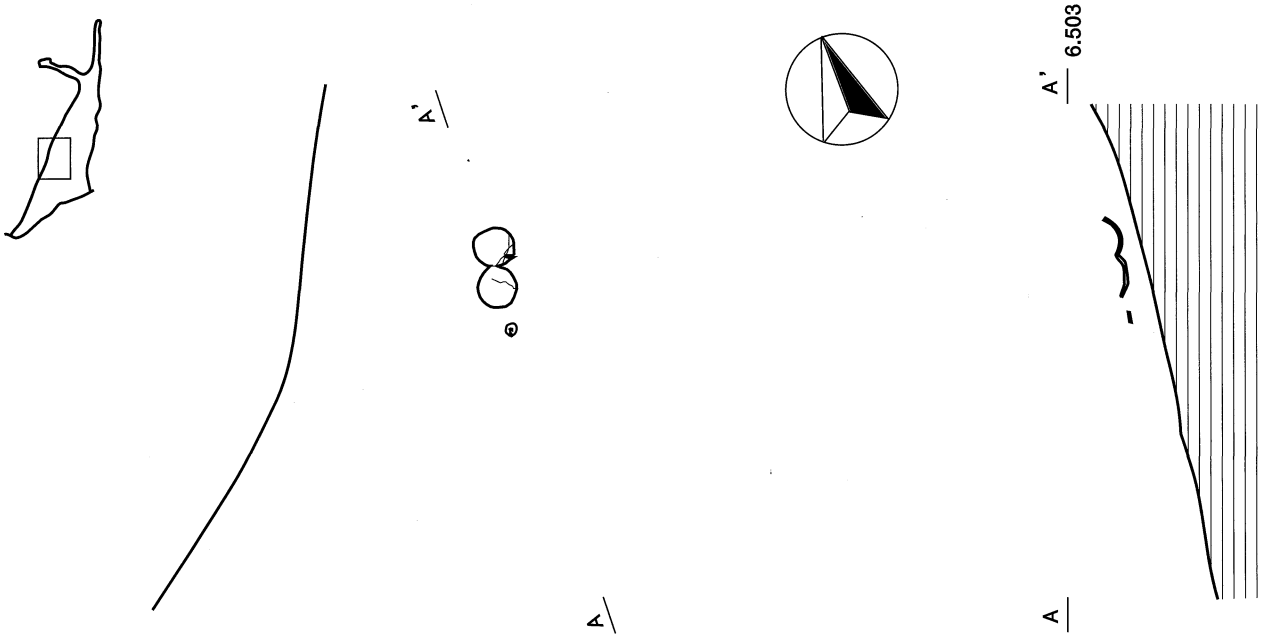
22号溝跡（近世－７）

遺構　22号溝跡は調査区東側拡張区にあり、Ｍ－７グリッドの中央部から南南西方向に伸長し、Ｍ－８・９グリッド、Ｌ－８・９グリッドを経て、南端部は未調査地区のため確認できなかった。規模は長さが19.18mで、幅は0.30～4.29mである。南北軸のＮ値方位は変化点が４箇所認められる。北側からＮ－13.8°－Ｅ、変化点でＮ－3.0°－Ｗ、変化点でＮ－14.6°－Ｅ、変化点でＮ－33.1°－Ｅ、変化点でＮ－53.3°－Ｅを指向する。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で68cmある。覆土はＡ－Ａ’は１層で構成される。断面Ａ－Ａ’の１層は褐灰色（7.5ＹＲ　4/1）土層である。

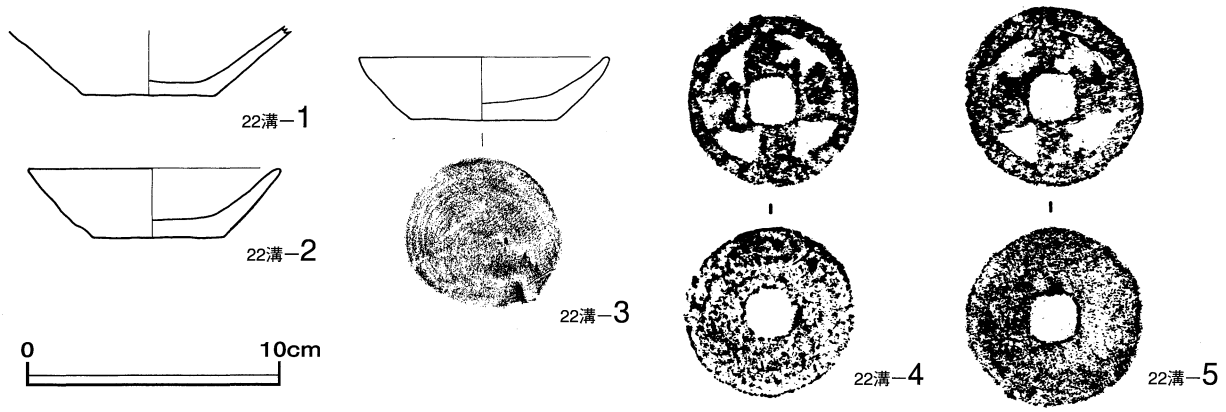
遺物は覆土から土師器片、須恵器片、陶器片、かわらけ片、銭貨など504点出土している。その内、図化が可能な土師器１点、かわらけ２点、銭貨２点を図示した。



第245図　21・22号溝跡の平面・断面図



第246図　22号溝跡の遺物出土状況図



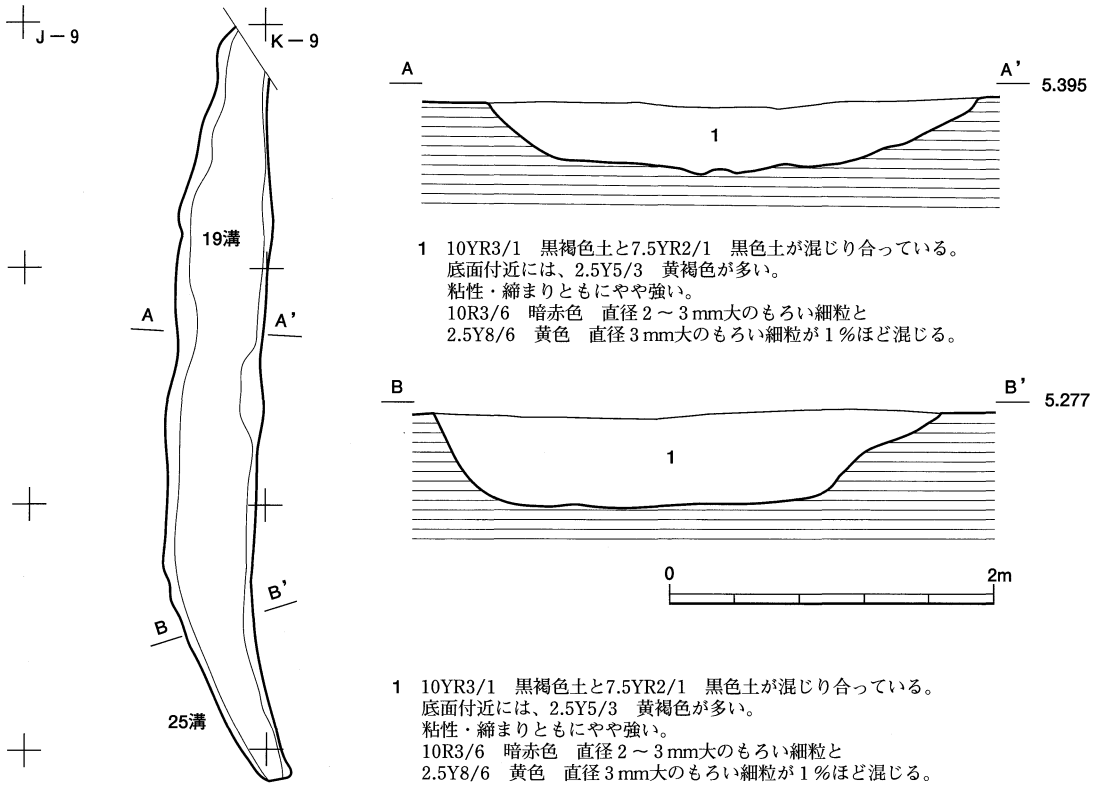
第247図　22号溝跡から出土した遺物の実測図

1　土師器、　**2・3**　かわらけ　**4・5**　銭貨（実大）

遺物　第247図の **1** は土師器の坏の底部片で、平底の底部から外反している。内外面とも摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土は普通で、茶色・赤色・透明粒を含んでいる。　**2** はかわらけの小皿で、平底の底部から口縁部まで直線的に開いている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部に回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、白色・灰色・赤色・透明粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**3** はかわらけの小皿で、平底の底部から口縁部まで直線的に開いている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められ、底部に回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体のナデ仕上げが認められる。胎土は普通で、灰色・赤色・透明粒を含んでいる。　**4・5** は渡来銭である。**4** は銭貨「元豊通寶」で、径23.1㎜、重量2.61gある。　**5** は銭貨「聖宋元寶」で、径24.3㎜、重量3.19gある。

19・25号溝跡（近世－８）

遺構　19・25号溝跡は調査区南東部にあり、Ｊ－９・Ｋ－９グリッドからＪ－10・Ｋ－10グリッド、Ｊ－



第248図　19・25号溝跡の平面・断面図

11・K－11グリッド、J－12・K－12グリッドへ南北方向に伸長し、南端部は9号溝跡を切っている。

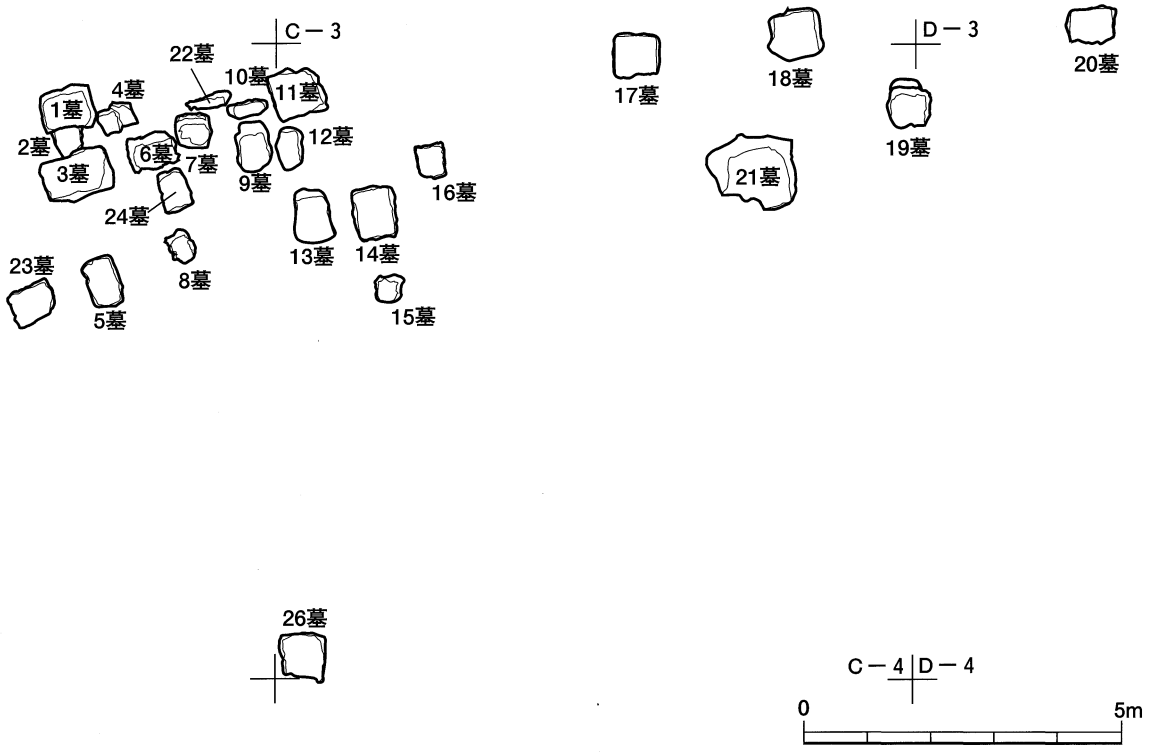
規模は長さが33.56mで、幅は1.58～4.10mである。南北軸のN値方位は変化点が4箇所認められる。北端からN－8.6°－E、変化点でN－2.7°－W、変化点でN－12.4°－E、変化点でN－2.5°－E、変化点でN－22.4°－Wを指向する。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で99cmある。覆土はA－A'、B－B'ともに1層で構成され、黒褐色（10YR　3/1）土層と黒色（7.5YR　2/1）土と撹乱の混じり合った土層である。

遺物は覆土から弥生土器の甕の口縁部片が2点、体部片が29点の計31点、土師器の口縁部片が1点、体部片が13点の計14点、須恵器の口縁部片が2点、体部片が2点、底部片（高台付）が3点の計9点で合計54点出土したが、撹乱の混じり合った土層からの出土である。図化が可能な破片はなかった。

〈穴状遺構〉

土壙墓

土壙墓は丘陵裾部のB－4グリッド、C－3・4グリッド、D－4グリッドから25基と、緩傾斜面のG－6グリッドから1基（25号土壙墓）確認できた。



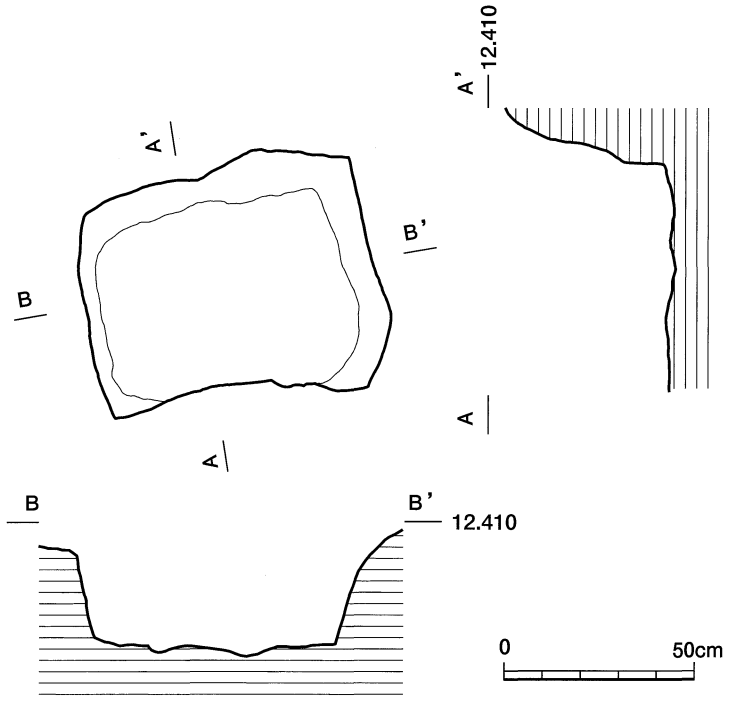
第249図　丘陵裾部における土壙墓の分布状況図

1号土壙墓

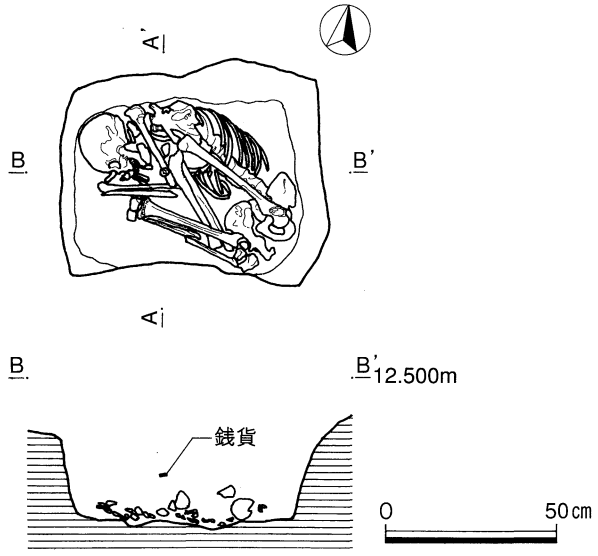
遺構　調査区域の北西部でB－4グリットに位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.76m、短軸の長さ0.55mを測る。長軸のN値変換方位はN－7°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で29cmある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y　6/1）土層である。

遺物は覆土から銭貨が3枚、人骨が1体分出土した。その内、図化が可能な銭貨3枚を図示した。人骨については分析結果を附載で取り上げている。

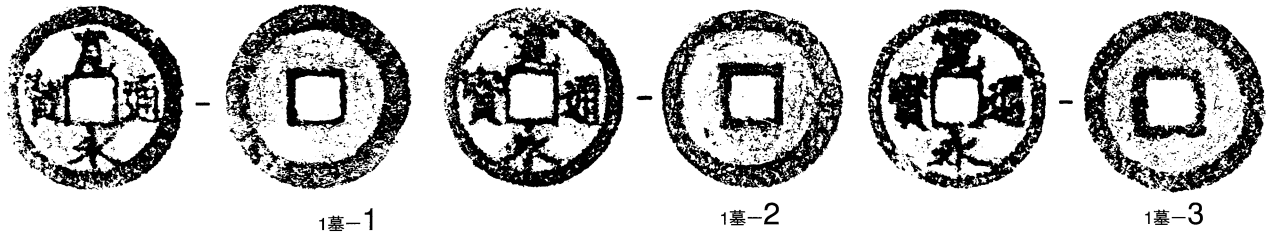
遺物　第図の**1**は銭貨「寛永通寶」で、径24.7mm、重量2.80gある。　**2**は銭貨「寛永通寶」で、径24.0mm、重量2.25gある。　**3**は銭貨「寛永通寶」で、径23.9mm、重量2.53gある。



第250図　1号土壙墓の平面・断面図



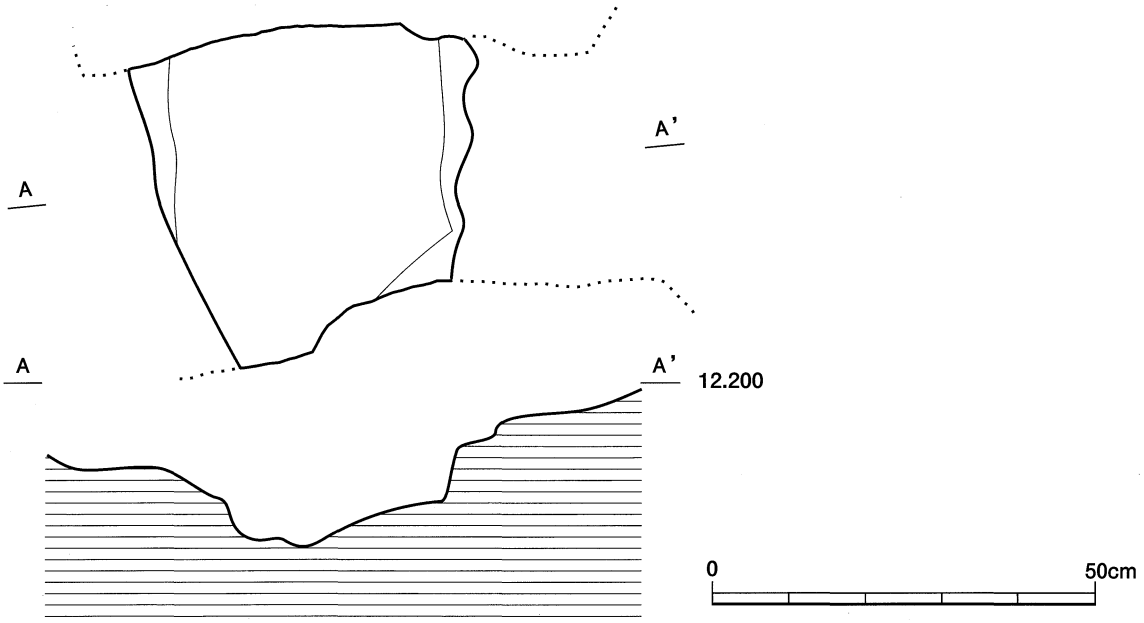
第251図　1号土壙墓の遺物出土状況図



第252図　1号土壙墓から出土した銭貨の拓影（実大）

2号土壙墓

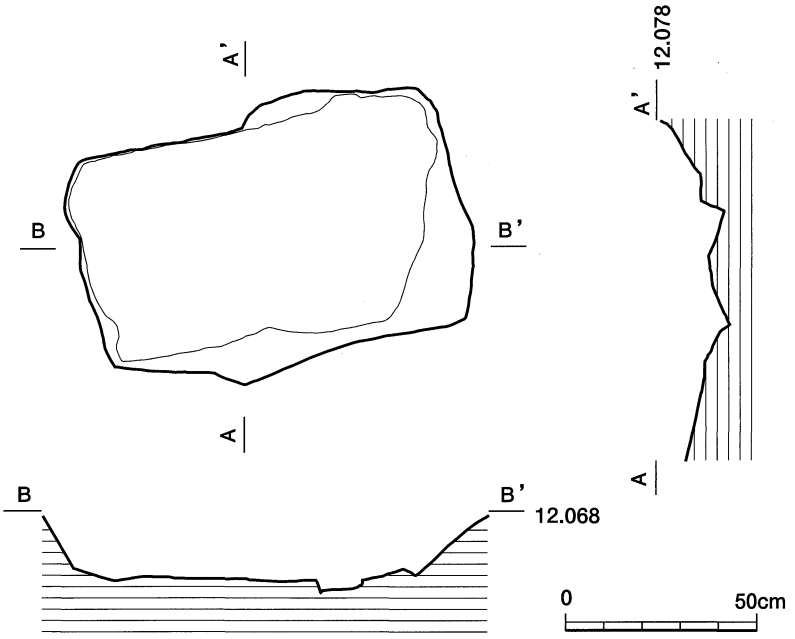
遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。北部を１号土壙墓に切られ、南部を３号土壙墓に切られているが、平面形状は長方形を呈すると思われる。規模は長軸の長さ0.40m、短軸の長さ0.37mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－5°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



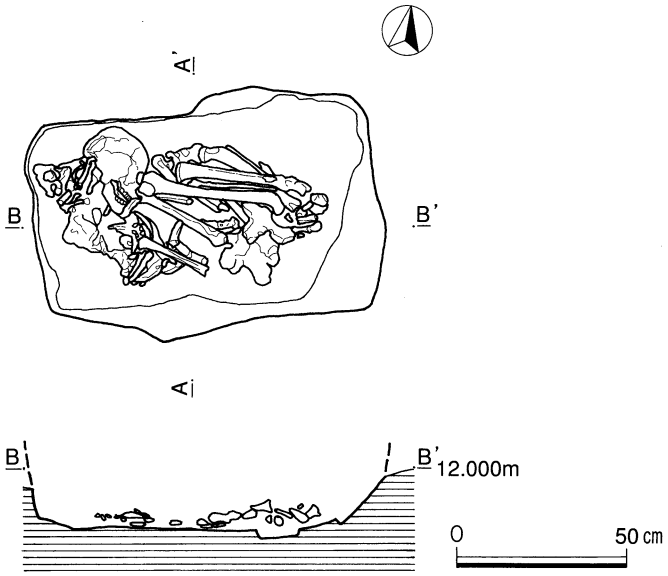
第253図　2号土壙墓の平面・断面図

3号土壙墓

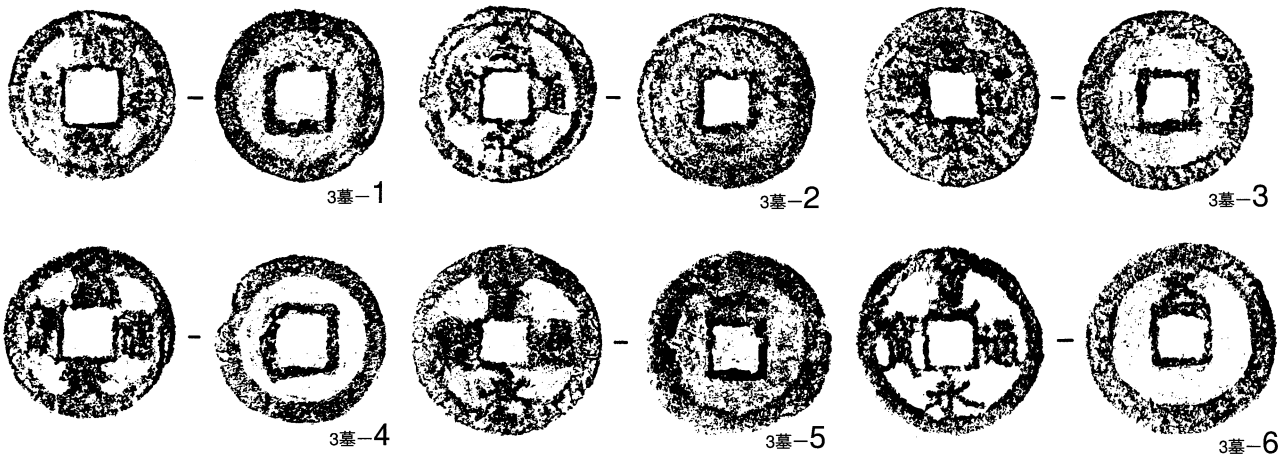
遺構　調査区域の北西部で、Ｂ－４グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ1.03m、短軸の長さ0.65mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－10°－Ｅを指向している。断面形状は上に開くＵ字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。



第254図　3号土壙墓の平面・断面図



第255図　3号土壙墓の遺物出土状況図



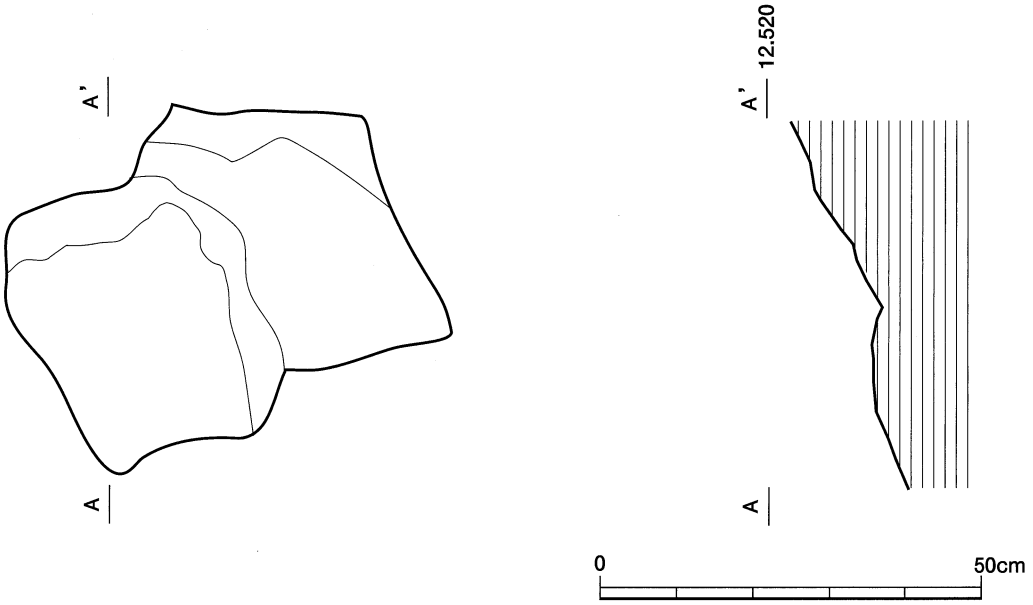
第256図　3号土壙墓から出土した銭貨の拓影（実大）

遺物は銭貨が6枚と人骨が1体分出土している。その内、図化が可能な銭貨6枚を図示した。人骨については分析結果を附載で取り上げている。

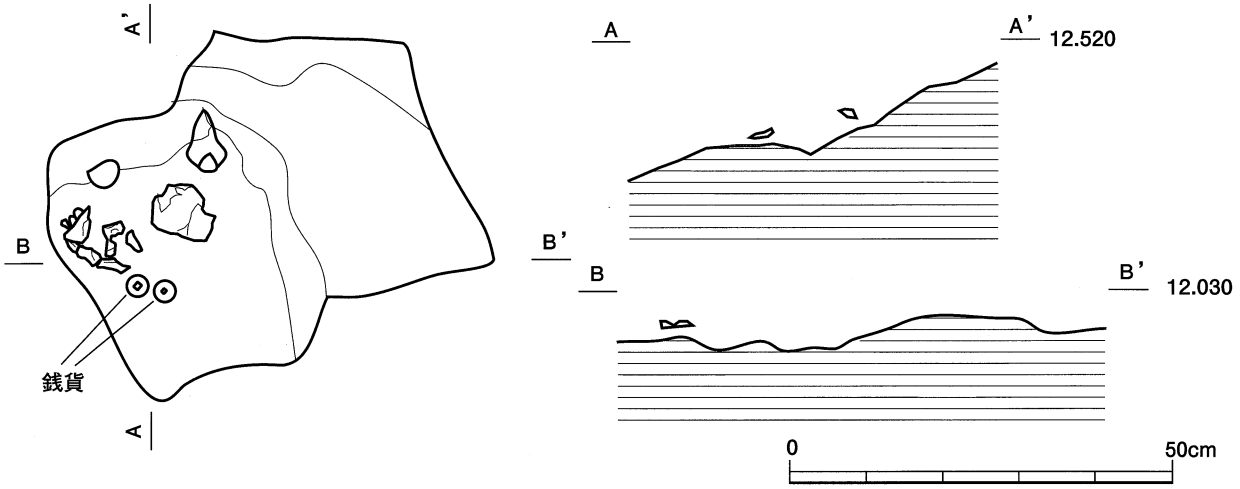
遺物　第256図の　**1** 銭貨「寛永通寶」で、径22.4㎜、重量1.44gある。　**2** は銭貨「寛永通寶」で、径23.4㎜、重量2.23gある。　**3** は銭貨「寛永通寶」で、径23.9㎜、重量2.49gある。　**4** は銭貨「寛永通寶」で、径22.8㎜、重量2.07gある。　**5** は銭貨「寛永通寶」で、径25.3㎜、重量2.87gある。背面に「文」の文字が認められる。　**6** は銭貨「寛永通寶」で、径25.0㎜、重量3.93gある。背面に「文」の文字が認められる。

4号土壙墓

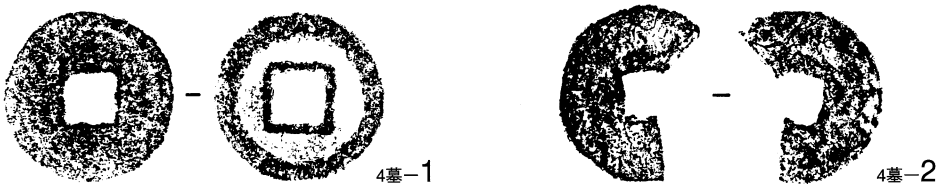
遺構　調査区域の北西部で、B－4グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.35m、短軸の長さ0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－20°－Wを指向している。断面形状は上に広く開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で 5 cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は覆土から人骨片と、銭貨が2枚並ぶように出土した。その内、図化が可能な銭貨2点を図示した。



第257図　4号土壙墓の平面・断面図



第258図　4号土壙墓の遺物出土状況図

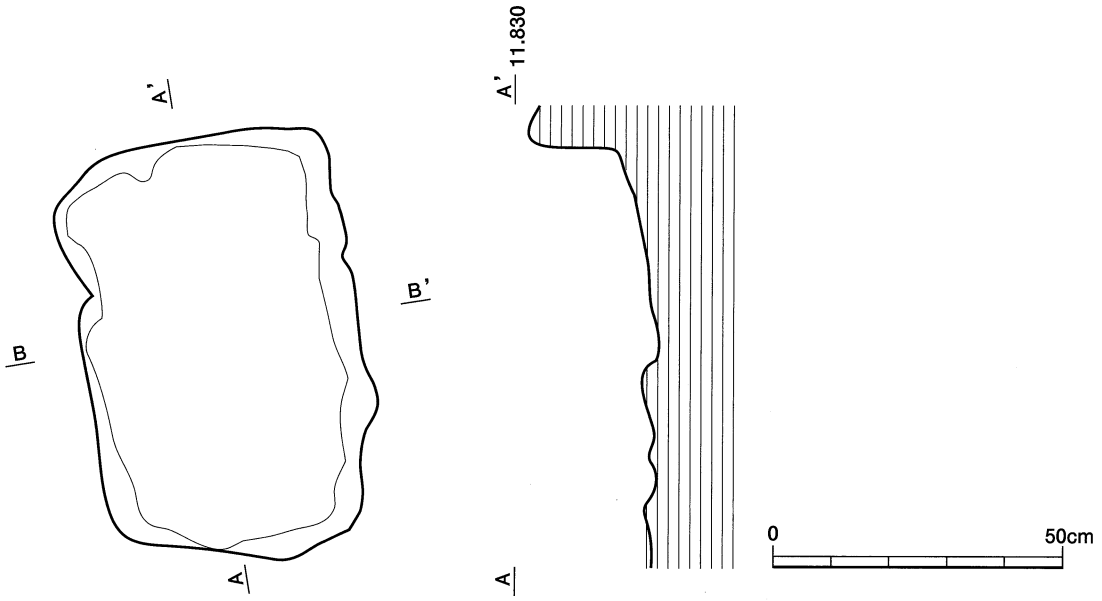


第259図　4号土壙墓から出土した銭貨の拓影（実大）

遺物　第259図の **1** は銭貨「寛永通寶」で径22.6㎜、重量1.72gある。　**2** は欠損しているが銭貨「寛永通寶」で、径23.2㎜、重量1.62gある。

5号土壙墓

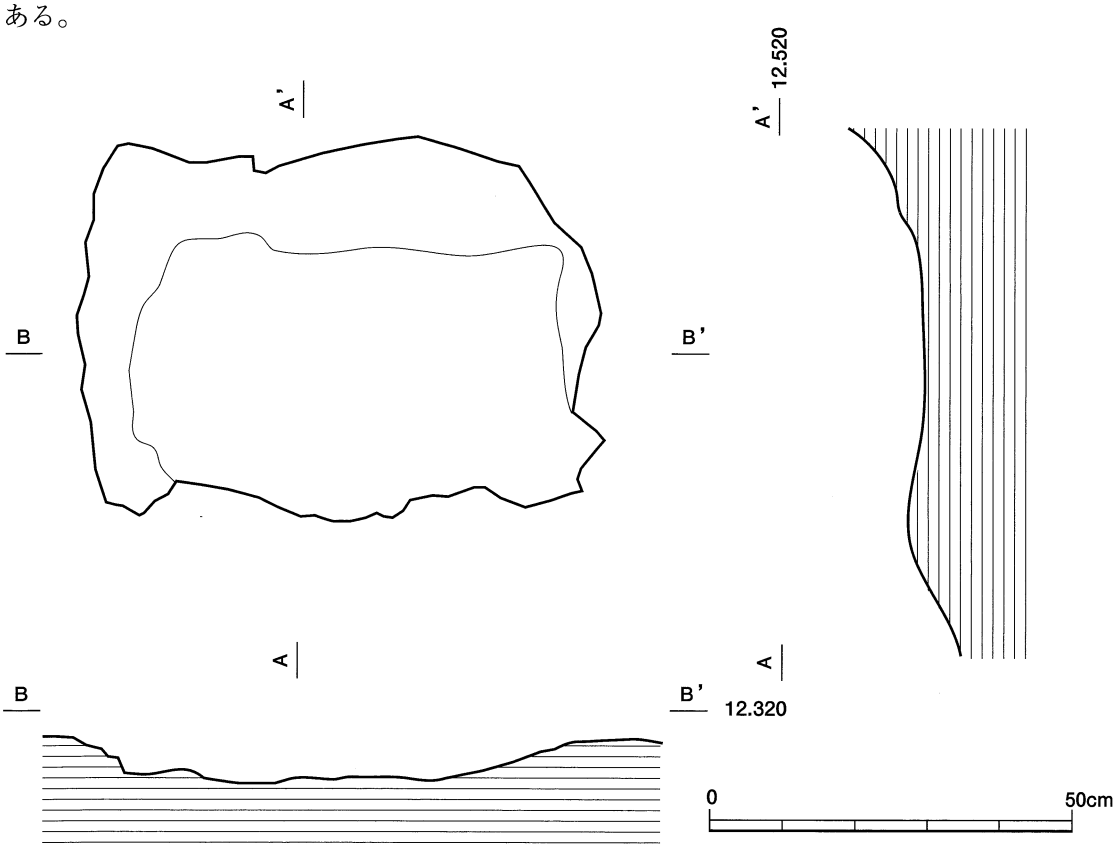
遺構　調査区域の北西部で、B－4グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.72m、短軸の長さ0.49mを測る。長軸のN値変換方位はN－8°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第260図　5号土壙墓の平面・断面図

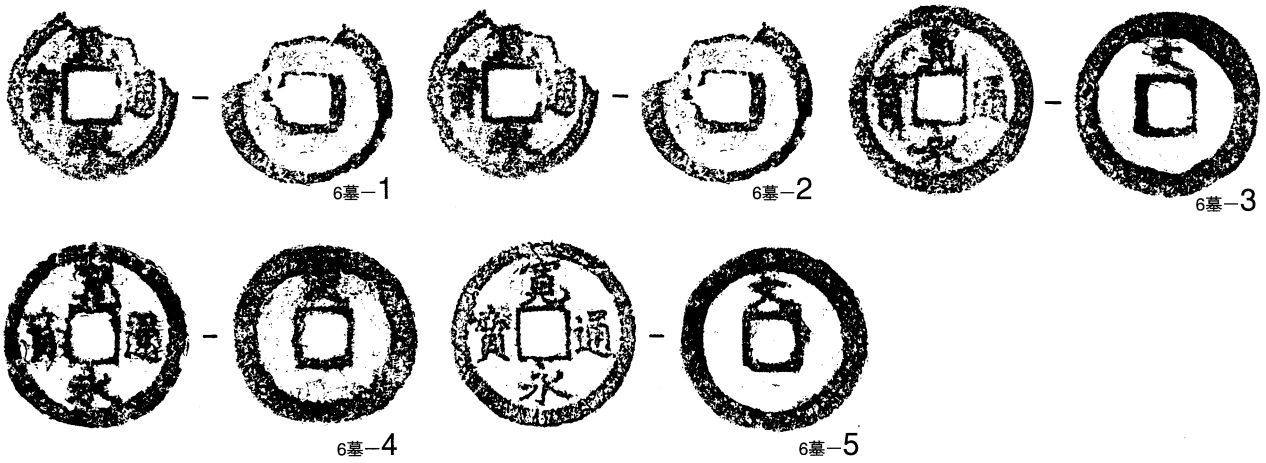
6号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.68m、短軸の長さ0.50mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－5°－Ｅを指向している。断面形状は浅い丸状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で７㎝ある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。



第261図　6号土壙墓の平面・断面図

遺物は覆土から人骨片（歯）と、銭貨が５枚が重なって出土した。その内、図化が可能な銭貨６枚を図示した。



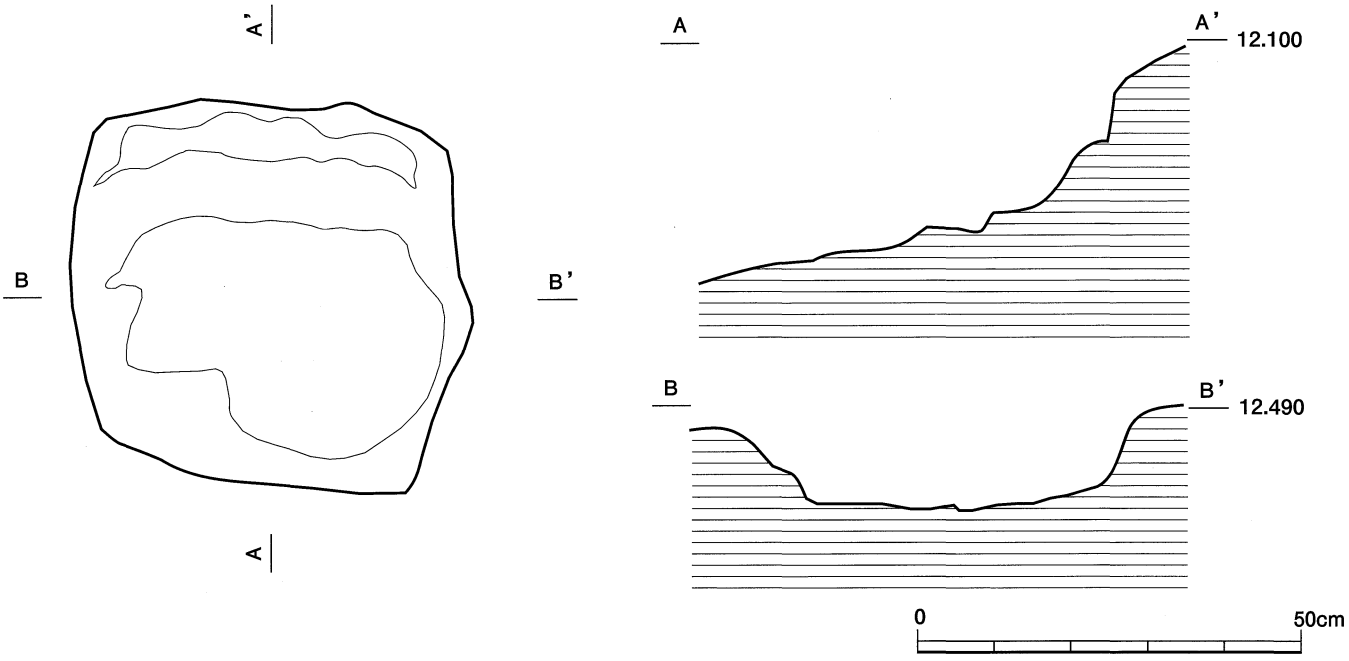
262図　6号土壙墓から出土した銭貨の拓影（実大）

遺物　第262図の **1** は欠損しているが銭貨「寛永通寶」で径23.1㎜、重量1.86gある。　**2** は銭貨「寛永通寶」で径23.8㎜、重量2.05gある。　**3** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径25.1㎜、重量3.31gある。　**4** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径25.0㎜、重量2.81gある。**5** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径24.8㎜、重量3.18gある。

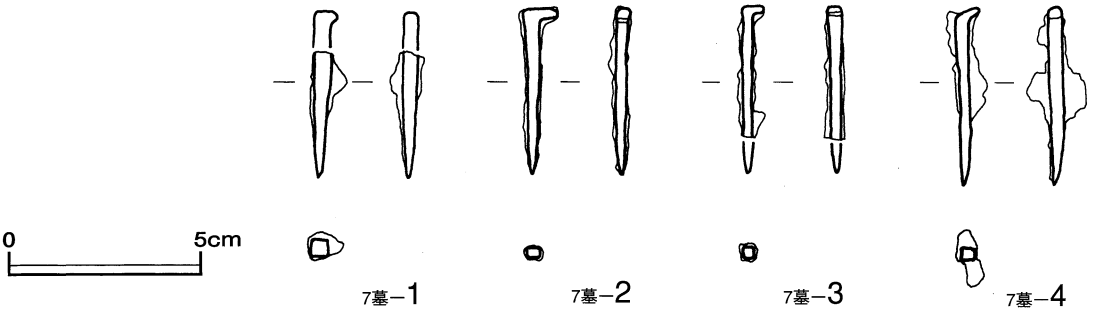
7号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.53m、短軸の長さ0.49mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－5°－Ｗを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で11㎝ある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。

遺物は覆土から鉄釘が４点、人骨片が出土した。その内、図化が可能な鉄釘４点を図示した。



第263図　7号土壙墓の平面・断面図

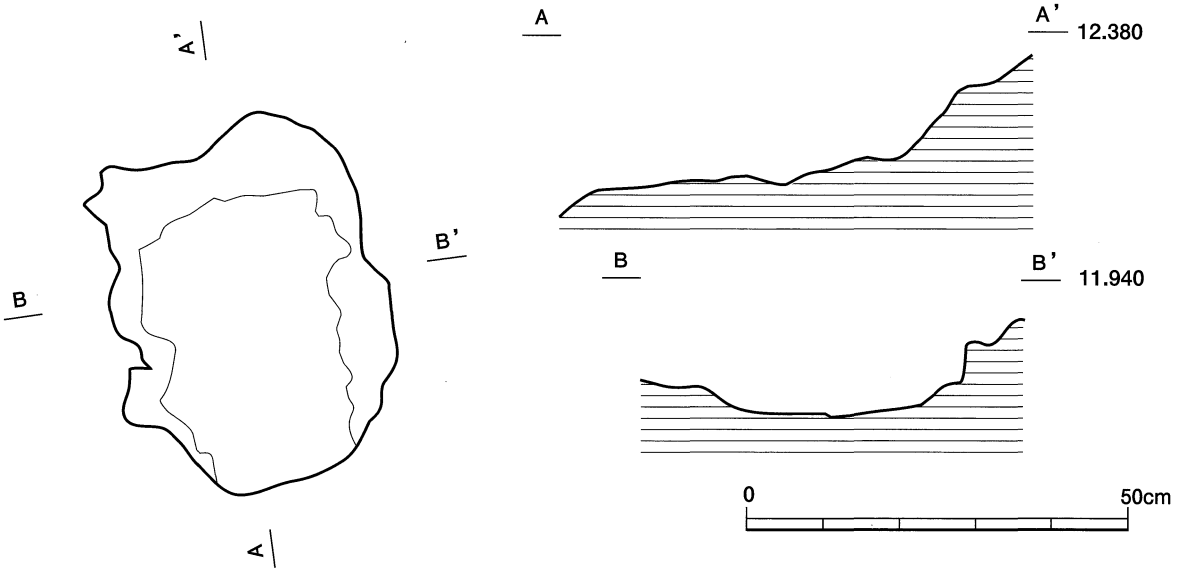


第264図　7号土壙墓から出土した鉄釘の実測図

遺物　第264図の **1〜4** は鉄釘である。**1** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ33.3㎜、重量1.51gある。
2 は断面は四角形で、長さ44.3㎜、重量1.25gある。　**3** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ34.7㎜、重量1.14gある。　**4** は断面は四角形で、長さ46.2㎜、重量2.29gある。

8 号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.45m、短軸の長さ0.35mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－9°－Ｅを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で９㎝ある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は覆土から人骨片が出土した。



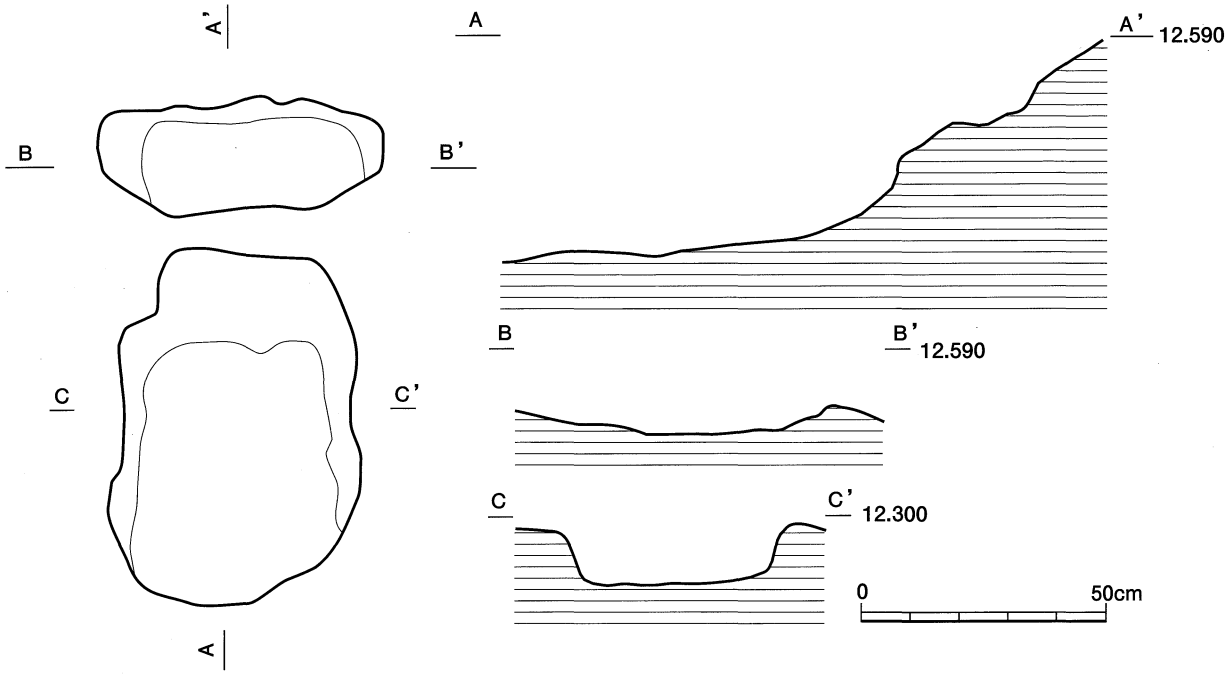
第265図　8号土壙墓の平面・断面図

9 号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリットに位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.72m、短軸の長さ0.46mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－7°－Ｅを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10㎝ある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。

10号土壙墓

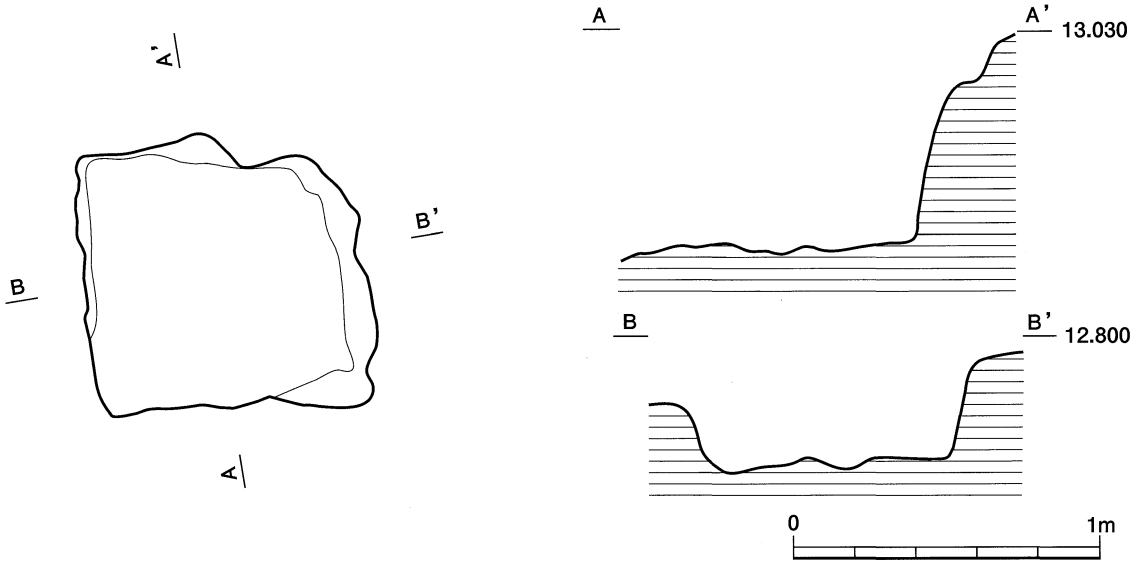
遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.22m、短軸の長さ0.58mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－7°－Ｅを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で５㎝ある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



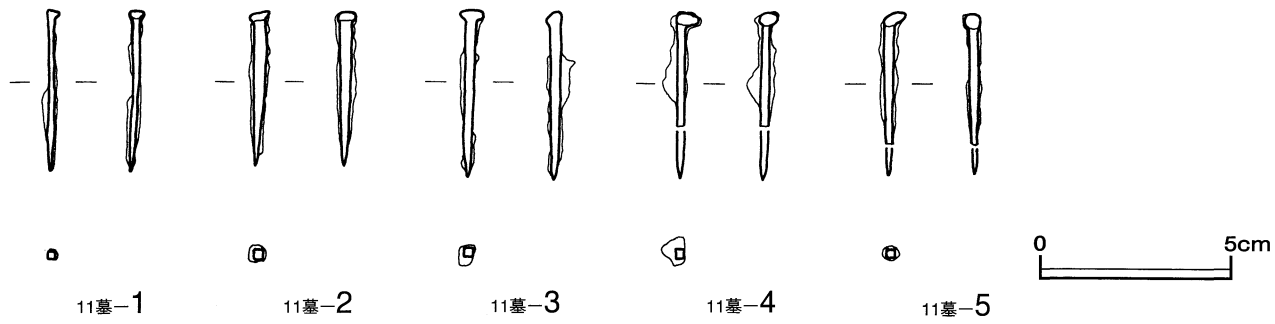
第266図　9・10号土壙墓の平面・断面図

11号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でC－ 4 グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.72m、短軸の長さ0.71mを測る。長軸のN値変換方位はN－7°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で22cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。



第267図　11号土壙墓の平面・断面図



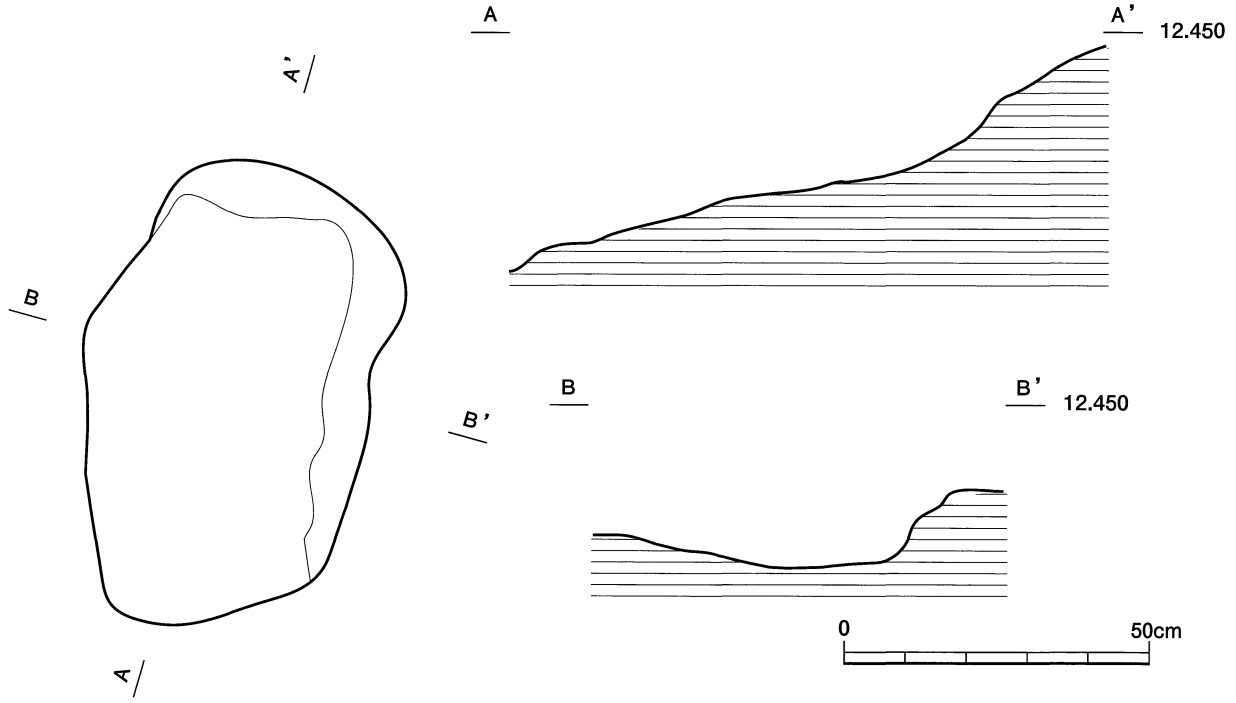
第268図　11号土壙墓から出土した鉄釘の実測図

遺物は覆土から鉄釘 5 点が出土した。その内、図化が可能な鉄釘 5 点を図示した。

遺物　第266図の **1〜5** は鉄釘である。**1** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ42.6㎜、重量0.55gある。**2** は断面は四角形で、長さ40.7㎜、重量0.89gある。 **3** は断面は四角形で、長さ44.5㎜、重量0.93gある。**4** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ30.5㎜、重量0.93gある。 **5** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ34.3㎜、重量0.91gある。

12号土壙墓

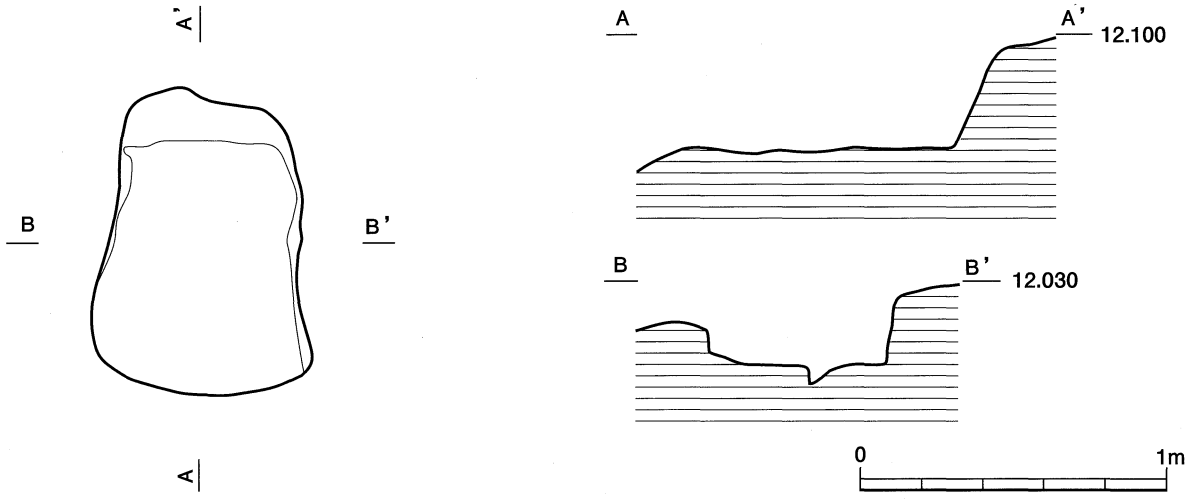
遺構　調査区域の北西部でＣ－４グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.62m、短軸の長さ0.40mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－15°－Ｗを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で 8 cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第269図　12号土壙墓の平面・断面図

13号土壙墓

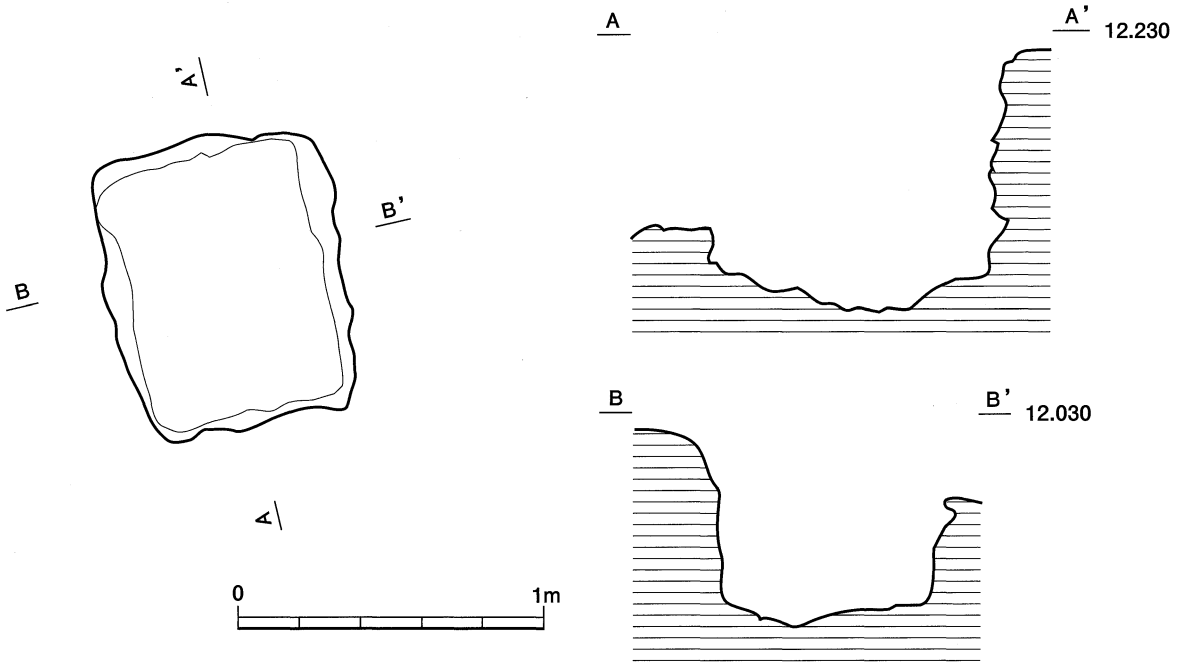
遺構　調査区域の北西部でＣ－４グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.78m、短軸の長さ0.50mを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－10°－Ｅを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第270図　13号土壙墓の平面・断面図

14号土壙墓

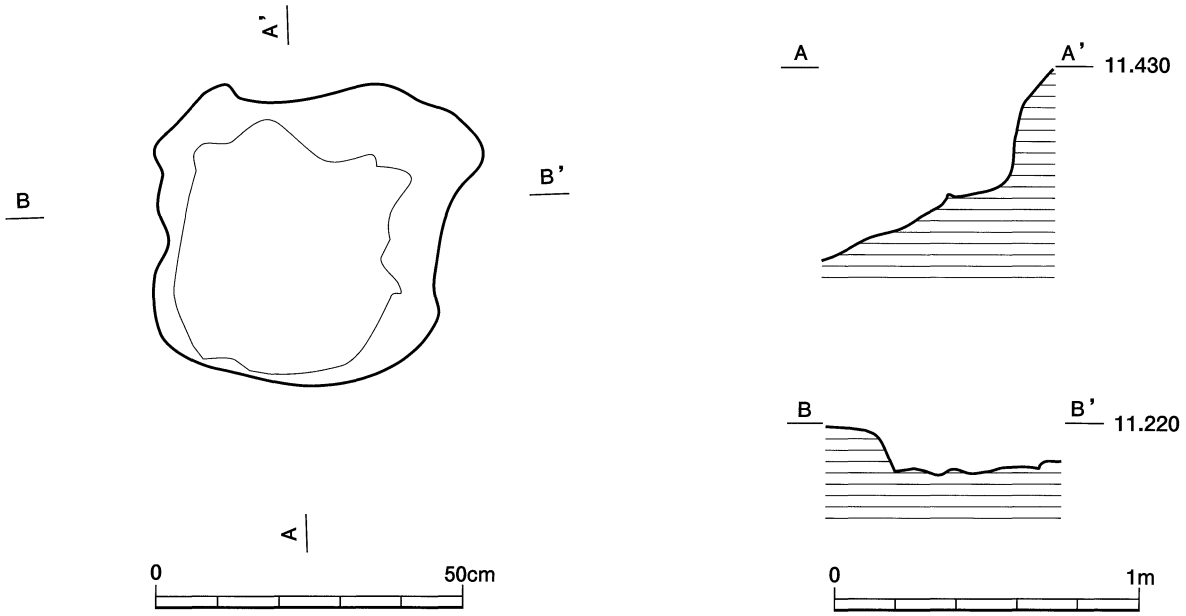
遺構　調査区域の北西部でC－4グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.78m、短軸の長さ0.63mを測る。長軸のN値変換方位はN－13°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で45cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。　遺物は覆土から人骨片が出土した。



第271図　14号土壙墓の平面・断面図

15号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でC－ 4 グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.39m、短軸の長さ0.37mを測る。長軸のN値変換方位はN－3°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。

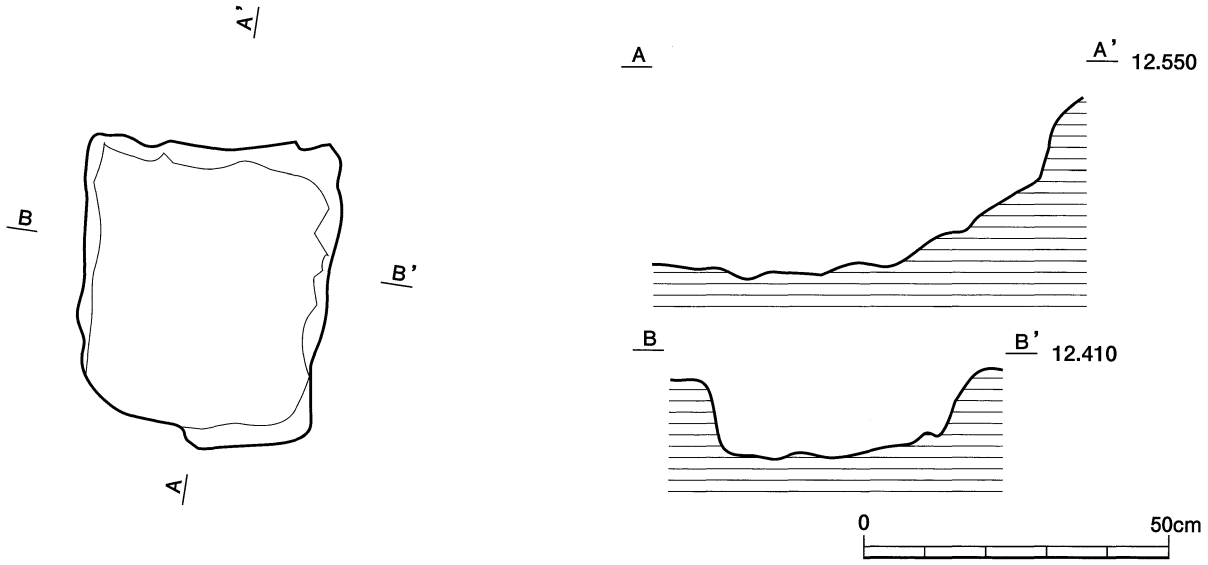


第272図　15号土壙墓の平面・断面図

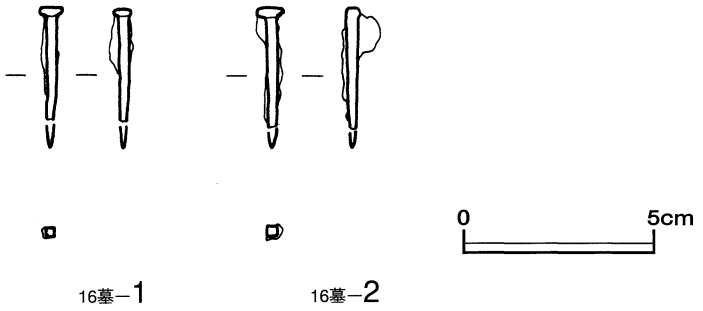
16号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でC－ 4 グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.50m、短軸の長さ0.40mを測る。長軸のN値変換方位はN－ 8°－Wを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で14cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は覆土から鉄釘 2 点が出土した。その内、図化が可能な鉄釘 2 点を図示した。

遺物　第272図の **1・2** は鉄釘である。**1** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ30.3mm、重量0.80gある。**2** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ31.6mm、重量0.88gある。



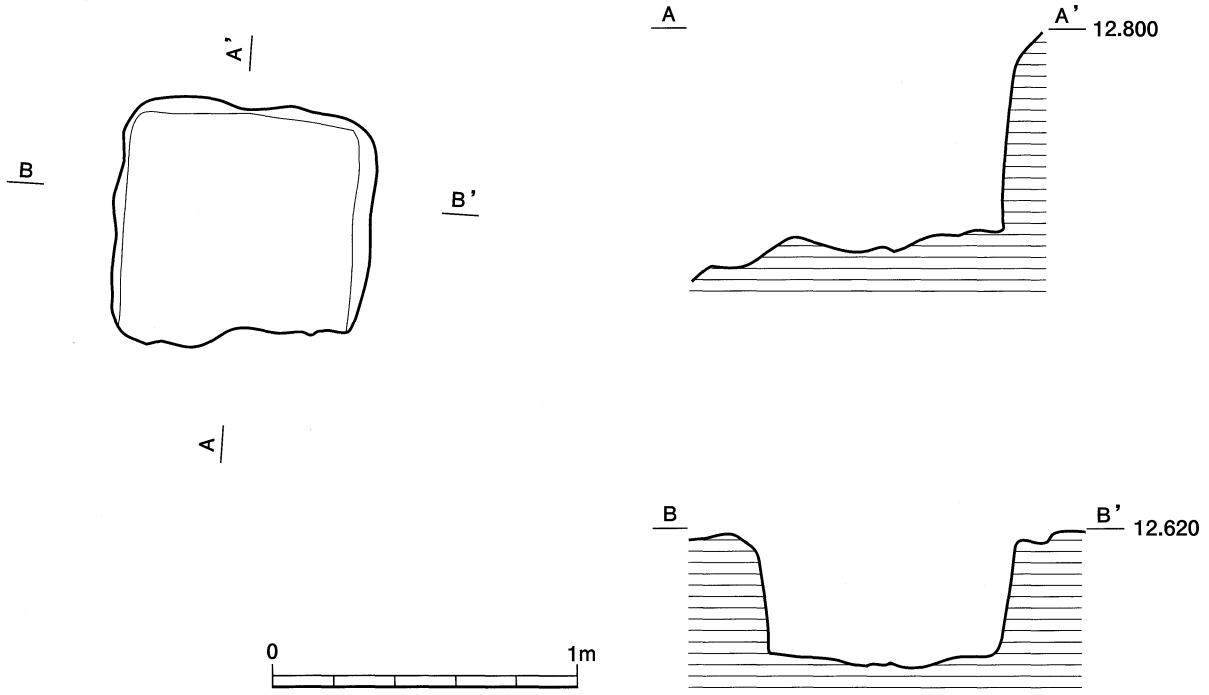
第273図　16号土壙墓の平面・断面図



第274図　16号土壙墓から出土した鉄釘の実測図

17号土壙墓

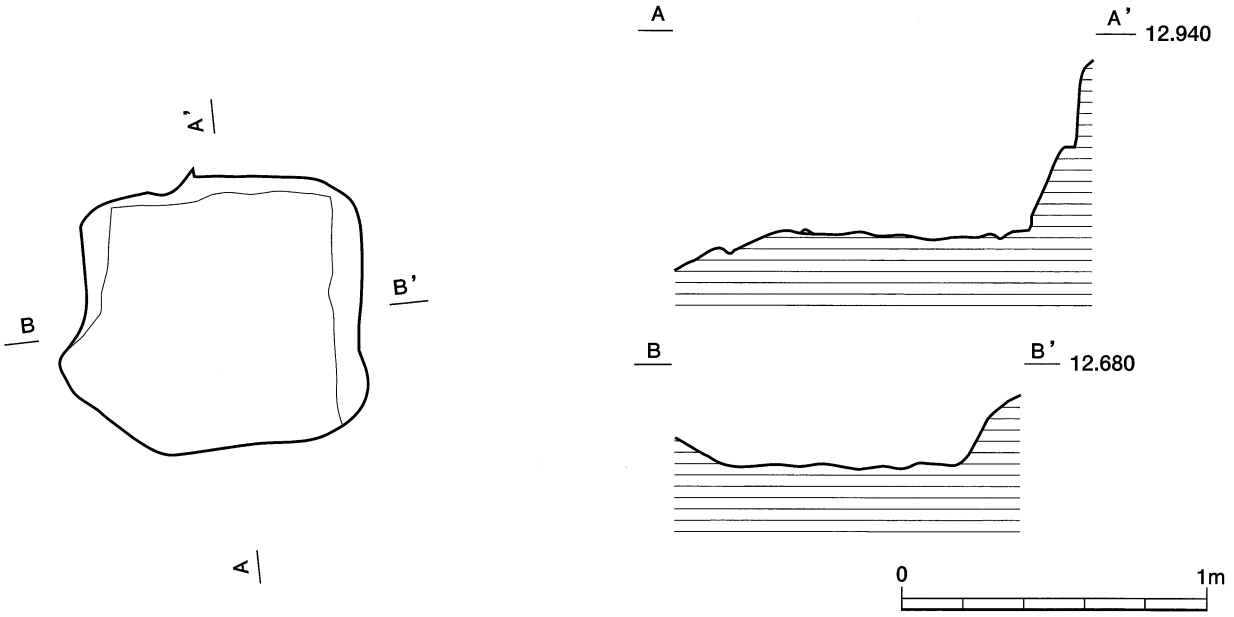
遺構　調査区域の北西部でC－3・4グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.67m、短軸の長さ0.58mを測る。長軸のN値変換方位はN－4°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で35cmある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。　遺物は覆土から人骨片が出土した。



第275図　17号土壙墓の平面・断面図

18号土壙墓

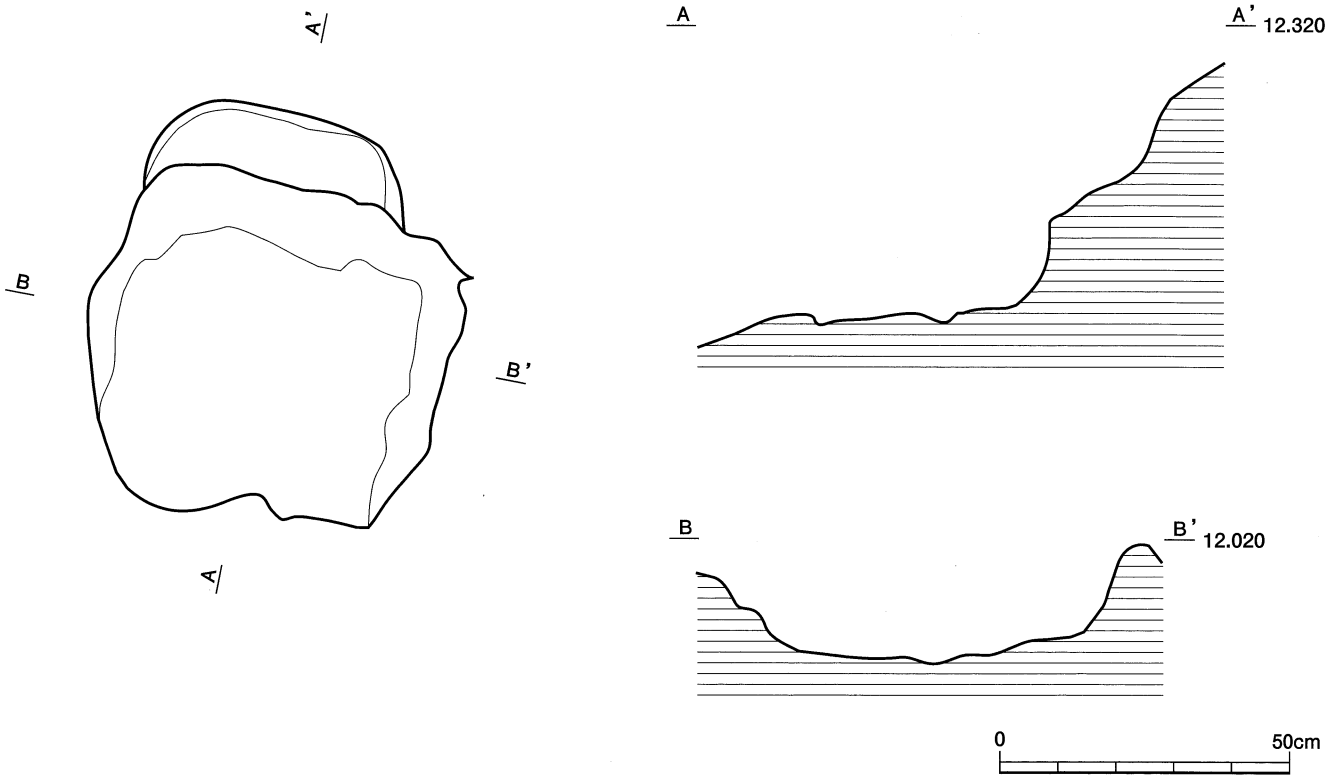
遺構　調査区域の北西部でC－3・4グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.73m、短軸の長さ0.70mを測る。長軸のN値変換方位はN－5°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。　遺物は覆土から人骨片が出土した。



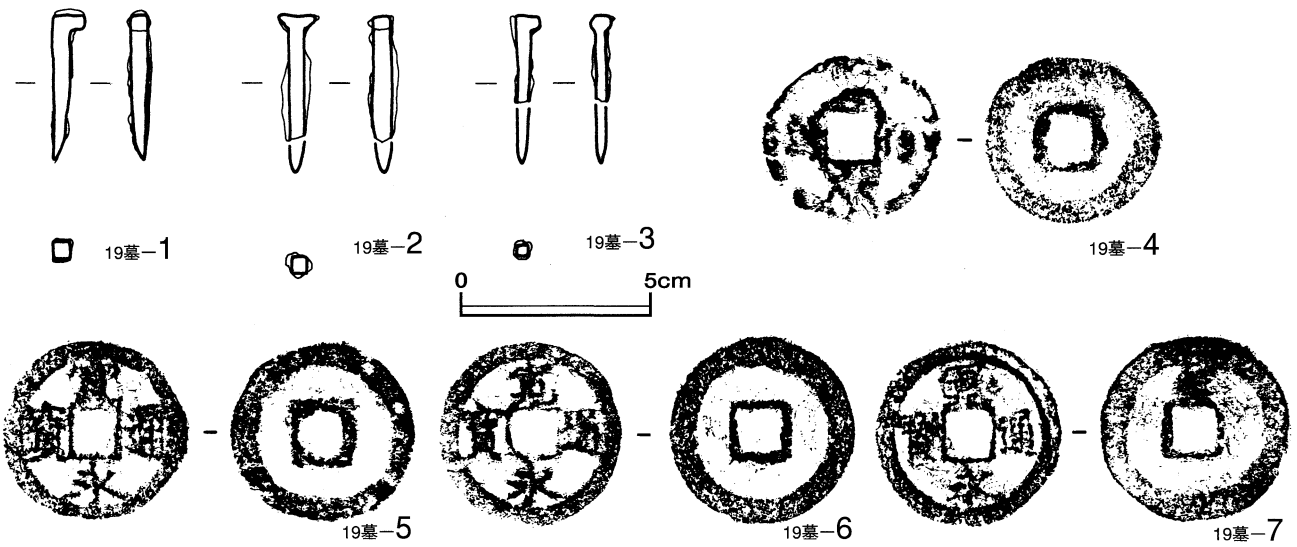
第276図　18号土壙墓の平面・断面図

19号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でC－ 4 グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.62m、短軸の長さ0.55mを測る。長軸のN値変換方位はN－10°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で17cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。



第277図　19号土壙墓の平面・断面図

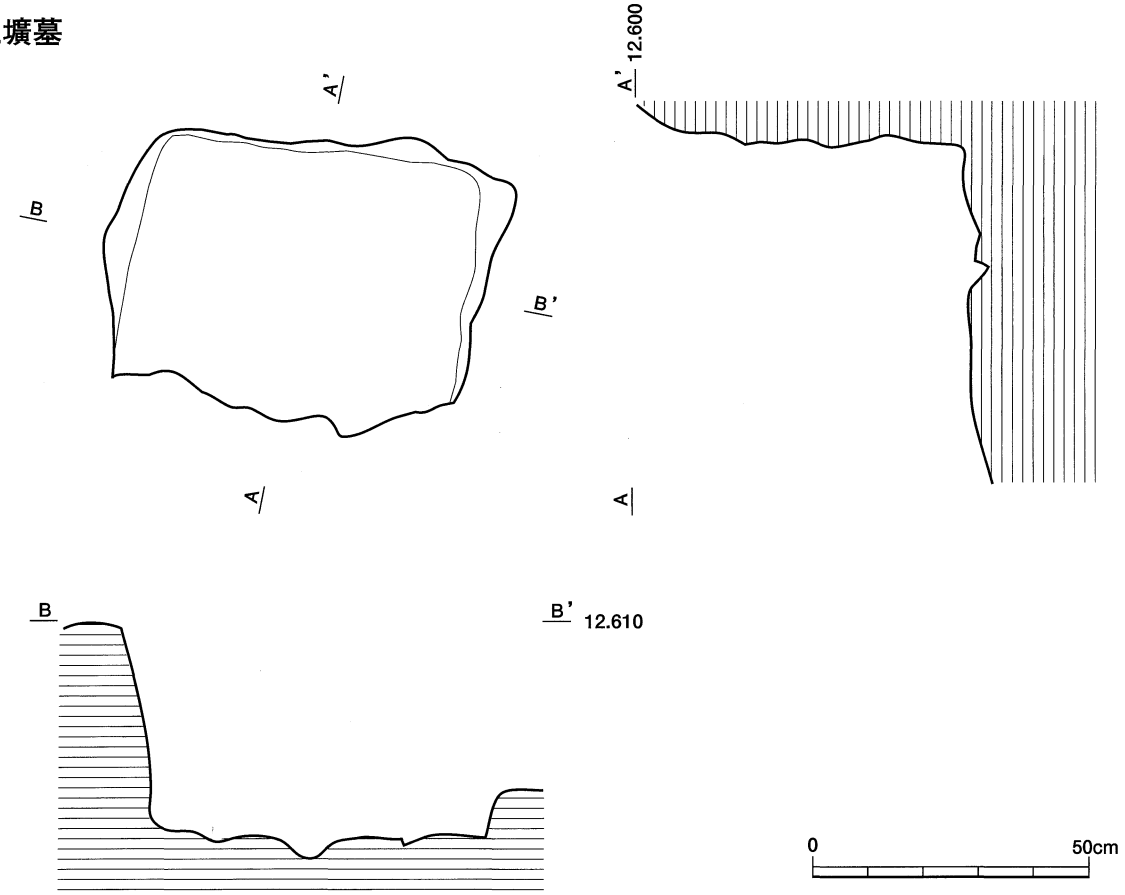


第278図　19号土壙墓から出土した鉄釘の実測図と銭貨の拓影（銭貨は実大）

遺物は覆土から、かわらけ片と人骨片、鉄釘 3 点、銭貨 4 枚が出土した。その内、図化が可能な鉄釘 3 点、銭貨 4 枚を図示した。

遺物　第278図の **1〜3** は鉄釘である。**1** は断面は四角形で、長さ40.3㎜、重量1.73gある。　**2** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ33.8㎜、重量1.86gある。　**3** は一部欠損し、断面は四角形で、長さ23.0㎜、重量0.68gある。　**4** は銭貨「寛永通寶」で、径22.7㎜、重量2.01gある。　**5** は銭貨「寛永通寶」で、径24.4㎜、重量2.14gある。　**6** は銭貨「寛永通寶」で、径24.8㎜、重量3.39gある。　**7** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径25.0㎜、重量3.34gある。

20号土壙墓

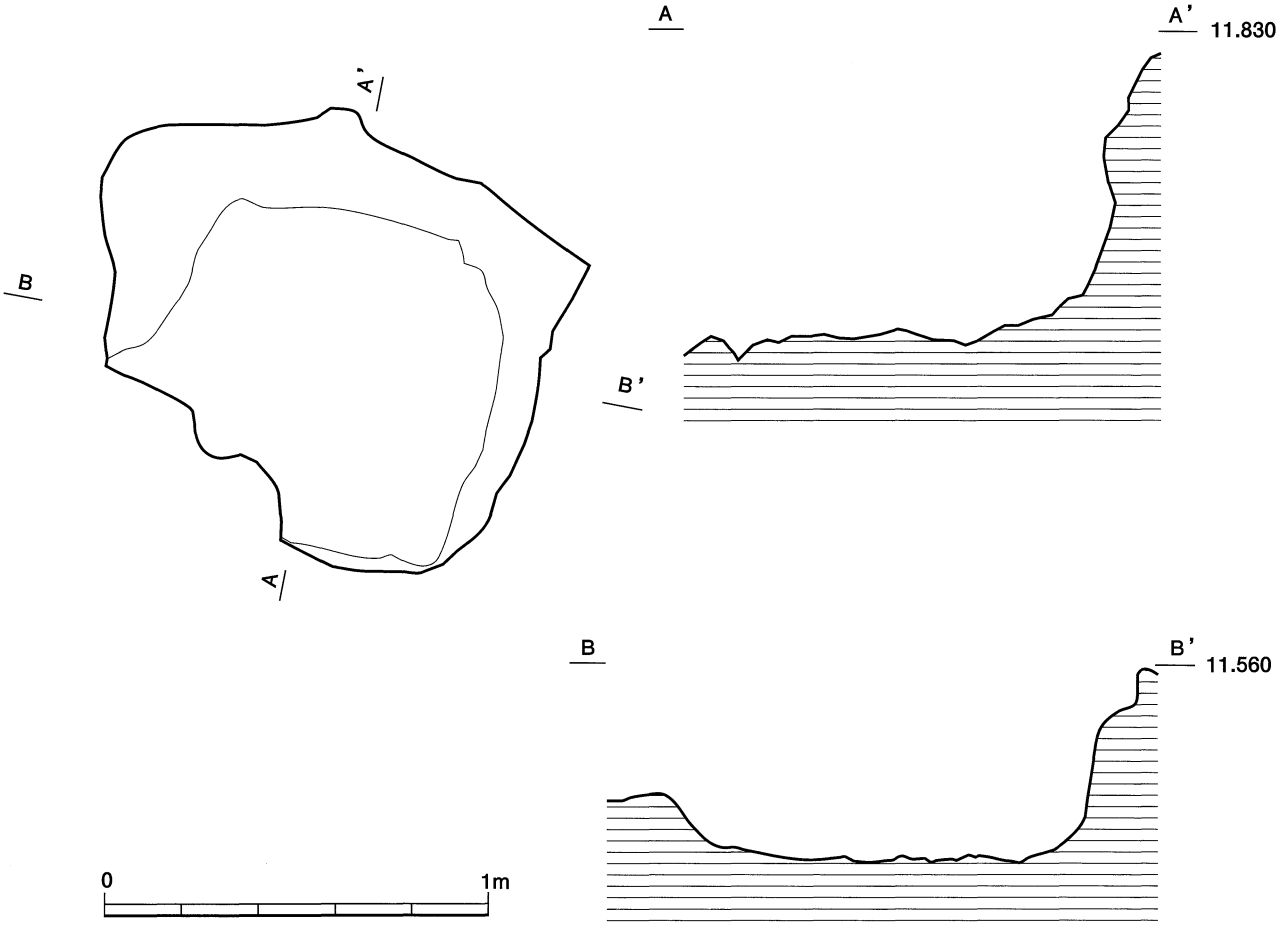


第279図　20号土壙墓の平面・断面図

遺構　調査区域の北西部でD－ 4 グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ0.70m、短軸の長さ0.52mを測る。長軸のN値変換方位はN－1°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で15cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。　遺物は覆土から、かわらけ片が出土したが、図化が可能な破片ではなかった。

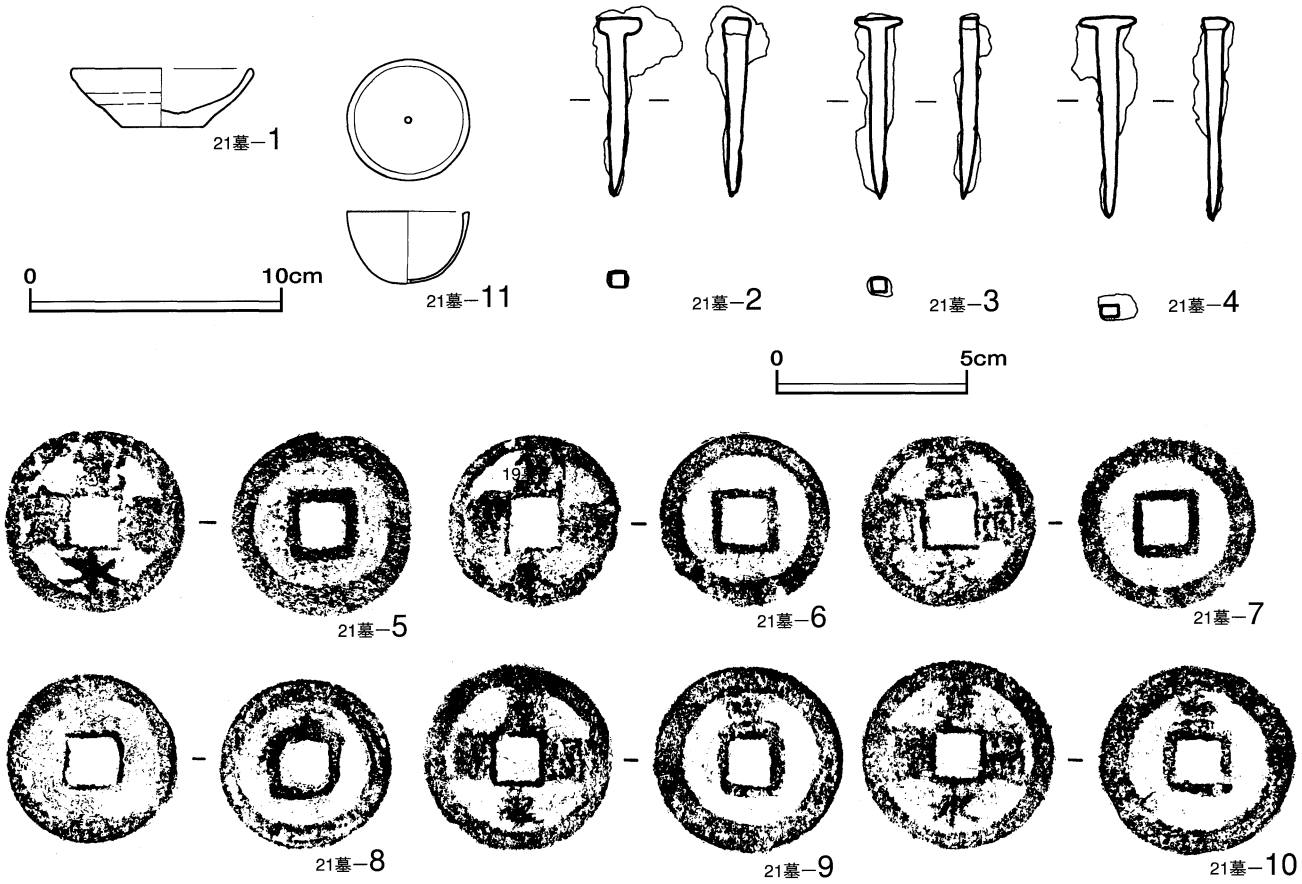
21号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でC－ 4 グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ1.13m、短軸の長さ1.10mを測る。長軸のN値変換方位はN－8°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で25cmある。覆土は 1 層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。



第280図　21号土壙墓の平面・断面図

遺物は覆土から、かわらけ片が2点、鉄釘3点、銭貨6枚、仏具のりん（鈴）が1点、人骨片が出土した。その内、図化が可能なかわらけ1点、鉄釘3点、銭貨6枚、りん（鈴）1点の計11点を図示した。



第281図　21号土壙墓から出土した遺物の実測図と銭貨の拓影（銭貨は実大）

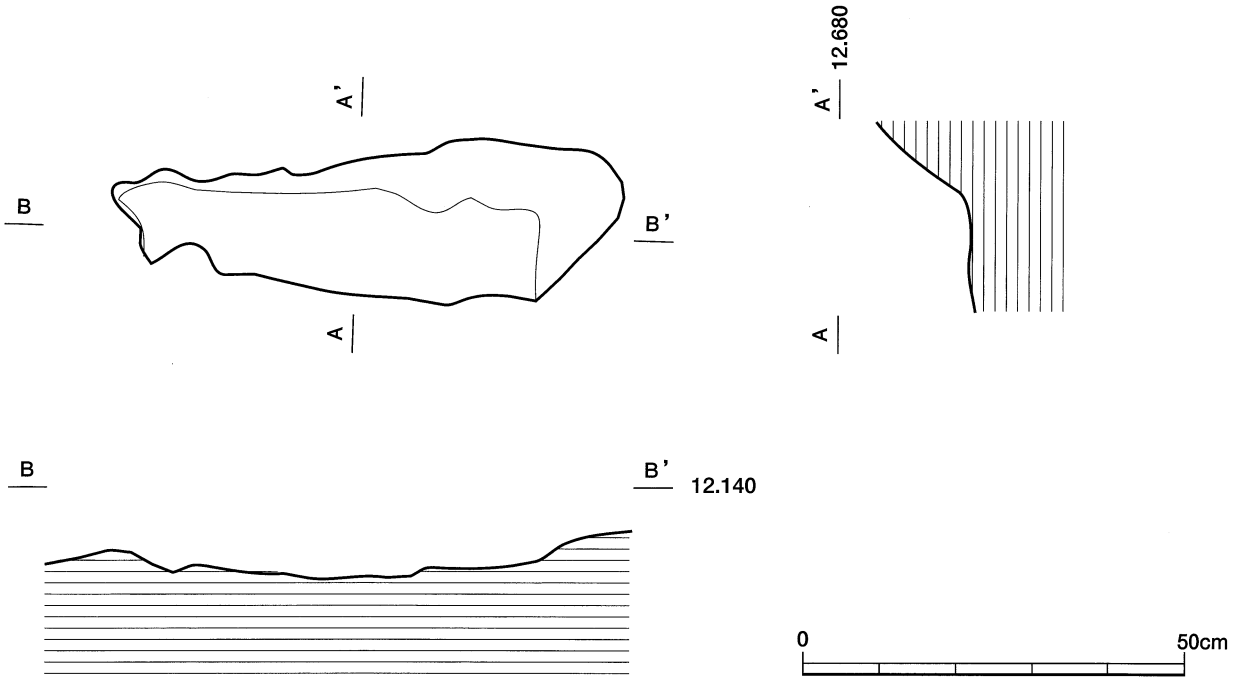
遺物　第281図の **1** はかわらけの皿で、平底の底部で、体部から口縁部は内湾気味に開いている。内外面ともナデ仕上げが認められる。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。胎土は普通で、黒色・赤色・石英粒を含んでいる。**2〜4** は鉄釘である。　**2** は断面が四辺形で、長さ44.9㎜、重量4.78gある。　**3** は断面が四辺形で、長さ47.0㎜、重量2.01gある。　**4** は断面が四辺形で、長さ53.0㎜、重量3.39gある。**5 〜 10** は銭貨「寛永通寶」である。　**5** は銭貨「寛永通寶」で、径24.4㎜、重量2.08gある。　**6** は銭貨「寛永通寶」で、径23.1㎜、重量2.32gある。　**7** は銭貨「寛永通寶」で、径23.4㎜、重量2.77gある。　**8** は銭貨「寛永通寶」で、径22.6㎜、重量2.66gある。　**9** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径25.3㎜、重量4.33gある。　**10**は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径25.4㎜、重量3.21gある。　**11**は小型のりん（鈴）で鉢形を呈し、口径4.85㎝、高さ2.92㎝、重さ50.19gあり、底に径2.4㎜の孔があいている。材質は真鍮である。

22号土壙墓

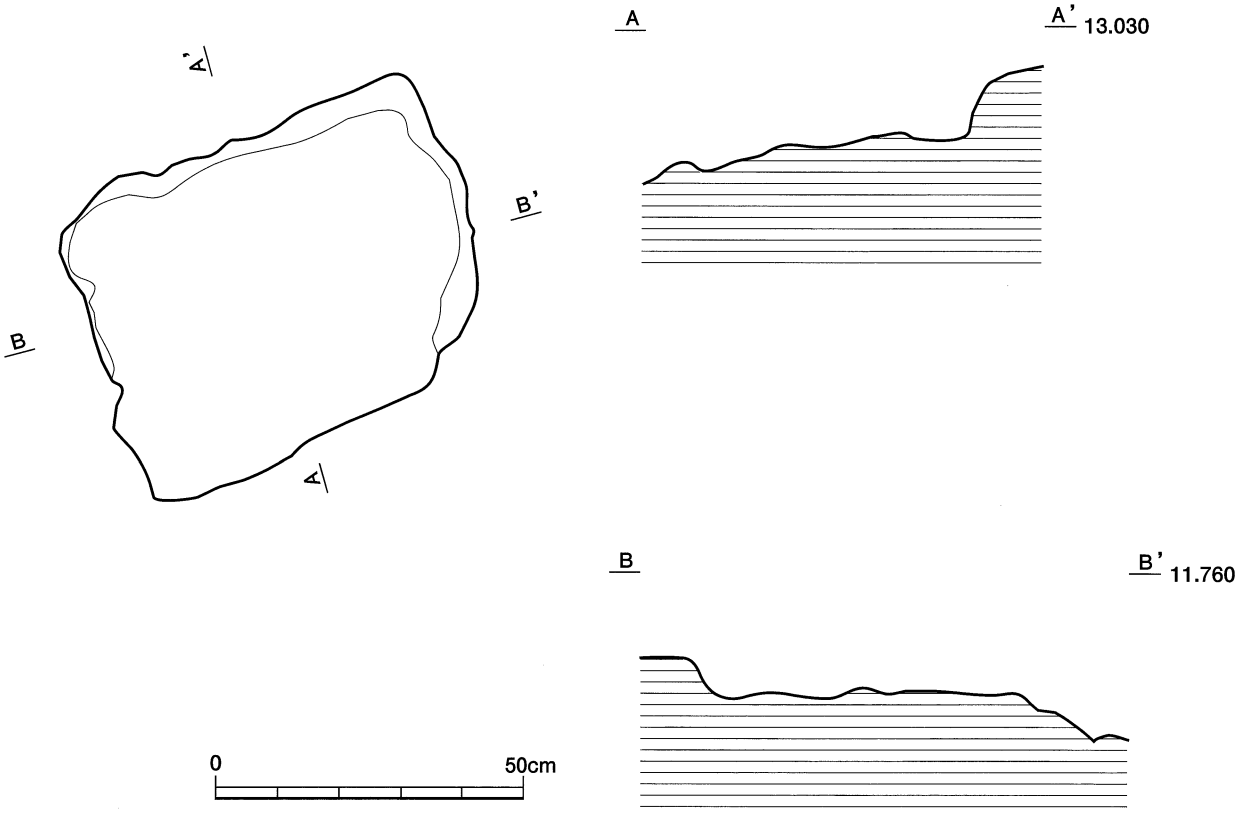
遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は、長軸の長さ0.19ｍ、短軸の長さ0.68ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－2°－Ｅを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で５㎝ある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。

23号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でＢ－４グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.65ｍ、短軸の長さ0.50ｍを測る。長軸のＮ値変換方位はＮ－15°－Ｅを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で５㎝ある。覆土は１層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



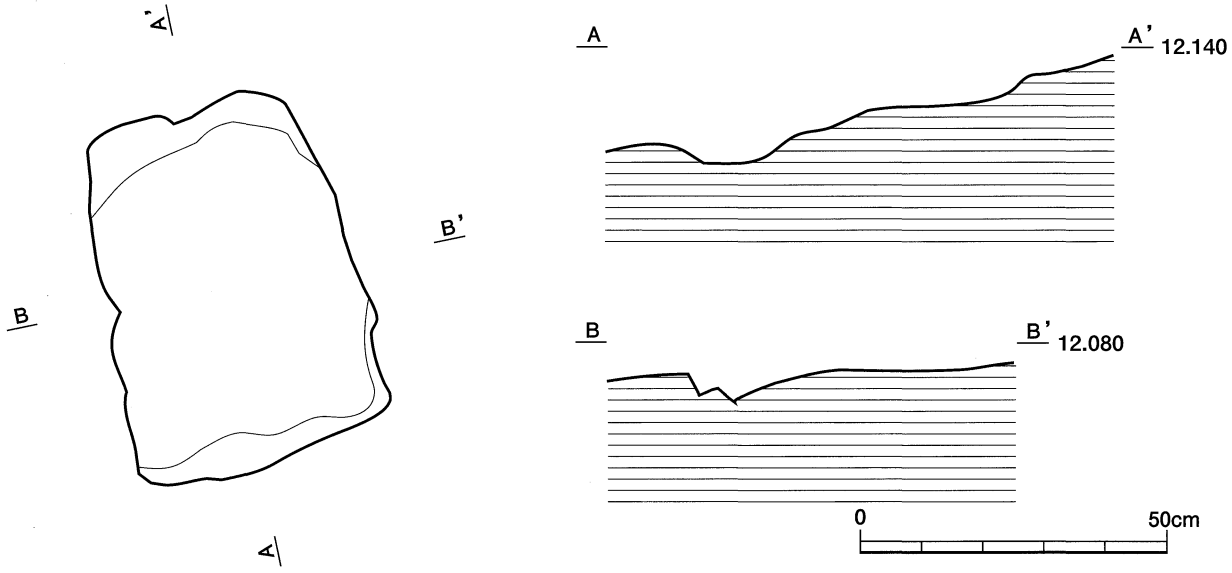
第282図　22号土壙墓の平面・断面図



第283図　23号土壙墓の平面・断面図

24号土壙墓

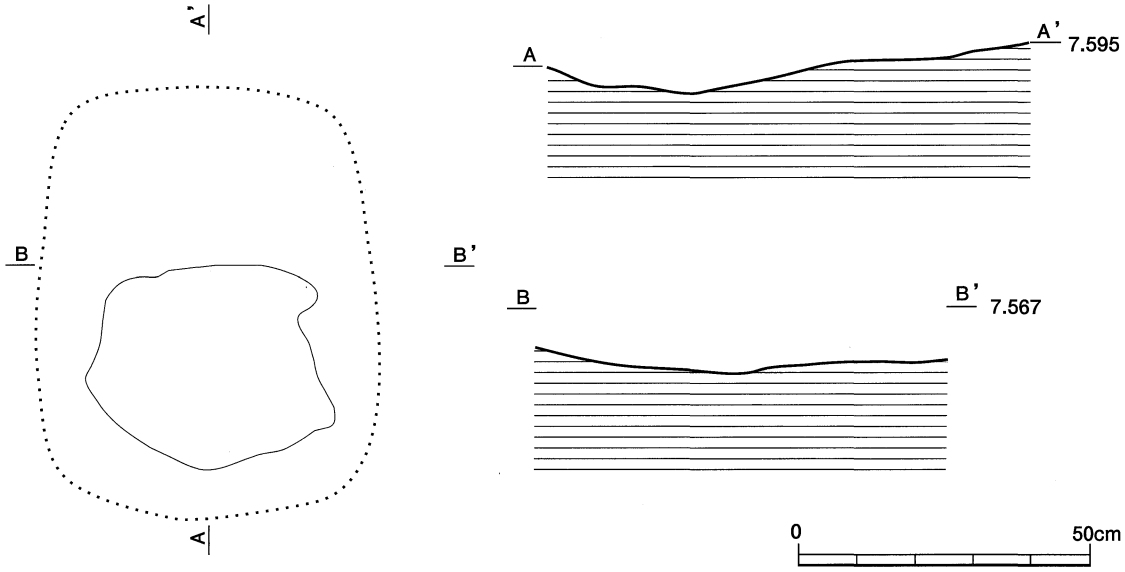
遺構　調査区域の北西部でB－4グリット内に位置する。平面形状は長方形を呈する。規模は長軸の長さ0.59m、短軸の長さ0.39mを測る。長軸のN値変換方位はN－11°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で5㎝ある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。遺物は出土しなかった。



第284図　24号土壙墓の平面・断面図

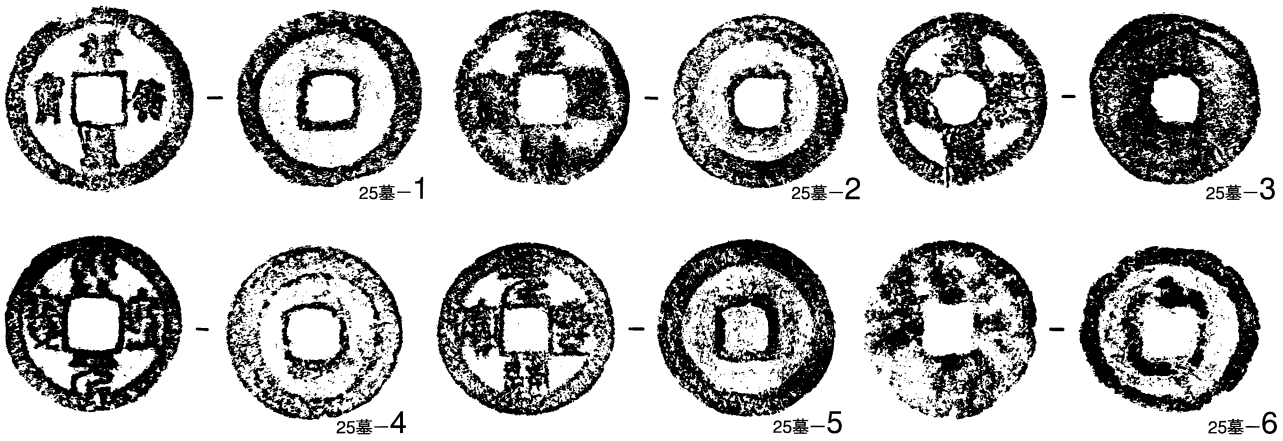
25号土壙墓

遺構　調査区域の北西部でG－6グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の残存長が0.42m、短軸の長さ0.40mを測る。長軸のN値変換方位はN－22°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で5㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR　3/3）土層である。



第285図　25号土壙墓の平面・断面図

遺物は覆土から、かわらけが2点、人骨片、銭貨が6枚重なった状態で出土した。その内、図化が可能な銭貨6枚を図示した。

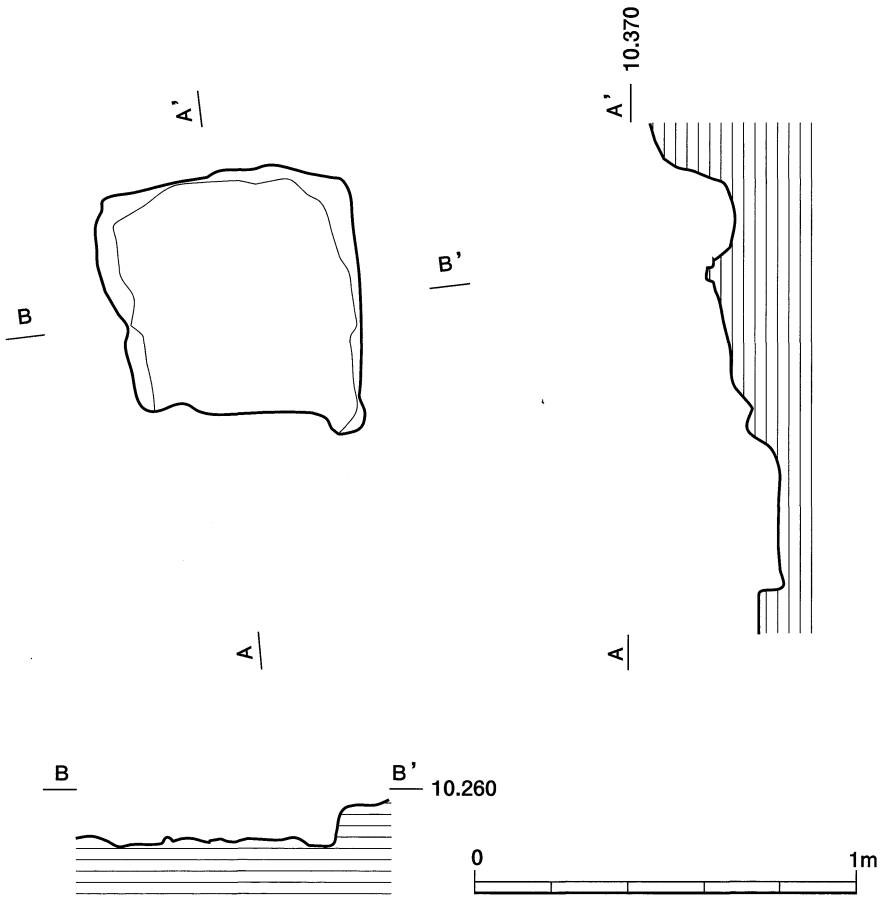


第286図　25号土壙墓から出土した銭貨の拓影（実大）

遺物　第286図の　**1** は銭貨「祥符通寶」で、径24.8㎜、重量3.24gある。　**2** は銭貨「嘉祐通寶」で、径23.5㎜、重量2.87gある。　**3** は銘が判読できない銭貨で「□□通寶」と読める。径23.2㎜、重量2.91gある。　**4** は銭貨「熙寧元寶」で、径23.5㎜、重量3.14gある。　**5** は銭貨「元豊通寶」で、径23.5㎜、重量2.94gある。　**6** は銭貨「聖宋元寶」で、径23.9㎜、重量1.89gある。

26号土壙墓

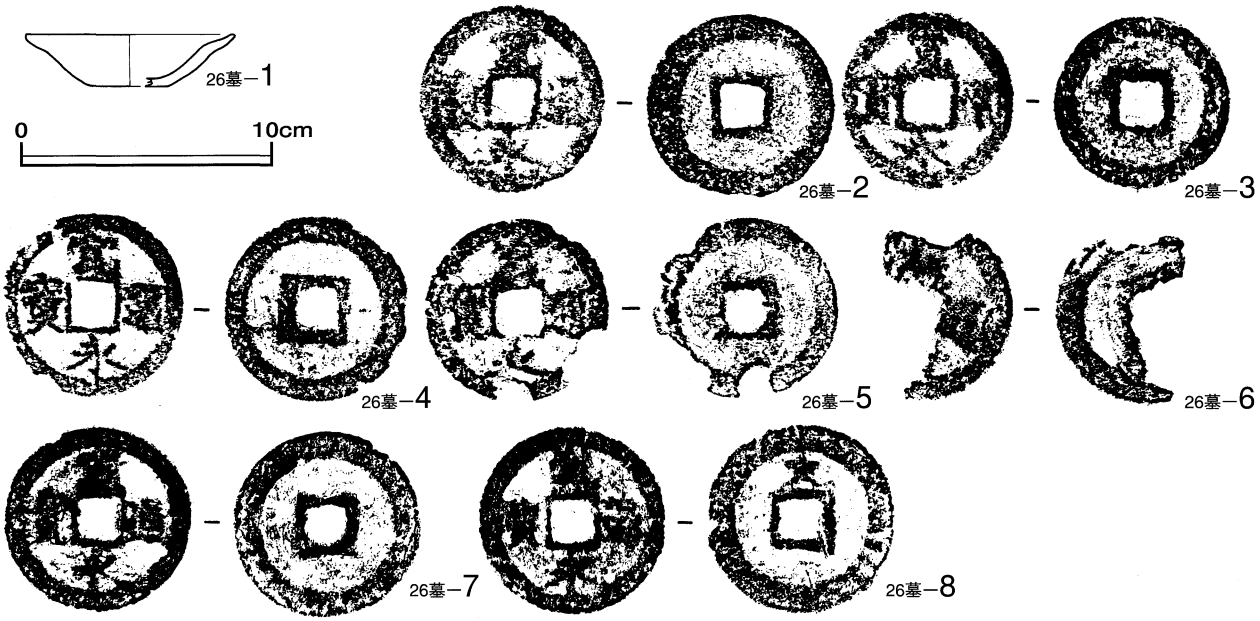
遺構　調査区域の北西部でＣ－４グリット内に位置する。平面形状は方形を呈する。規模は長軸の長さ



第287図　26号土壙墓の平面・断面図

0.63m、短軸の長さ0.60mを測る。長軸のN値変換方位はN－9°－Eを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8㎝ある。覆土は1層で構成され、灰色（5Y 6/1）土層である。

遺物は覆土から人骨片、鉄釘片、土壙内中央部の床面から銭貨が7枚が重なった状態で出土した。その内、図化が可能なかわらけ1点と銭貨7枚を図示した。



第288図　26号土壙墓から出土した土器の実測図と銭貨の拓影（銭貨は実大）

遺物　第288図の **1** は小皿の口縁部から底部にかけての破片で、底部は平底で、底部から口縁部まで外反して開いている。内外面ともにロクロによる成形が認められる。外面の底部に回転糸切り痕が残っている。胎土は蜜で、赤色・透明・灰色粒を含んでいる。　**2** は銭貨「寛永通寶」で、径24.9㎜、重量2.79gある。**3** は銭貨「寛永通寶」で、径23.1㎜、重量2.77gある。　**4** は銭貨「寛永通寶」で、径24.5㎜、重量2.30gある。　**5** は一部欠損しているが銭貨「寛永通寶」で、径24.6㎜、重量2.87gある。　**6** は半分欠損しているが「寛」と「通」の 2 文字が読みとれるので、銭貨「寛永通寶」と思われる。径24.0㎜、重量1.53gある。**7** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」銘が認められる。径24.9㎜、重量3.63gある。　**8** は銭貨「寛永通寶」で背面に「文」の文字が認められる。径25.1㎜、重量2.75gある。

〈ピット群〉

・4・5・7・8・10・15・18・49・51号ピット

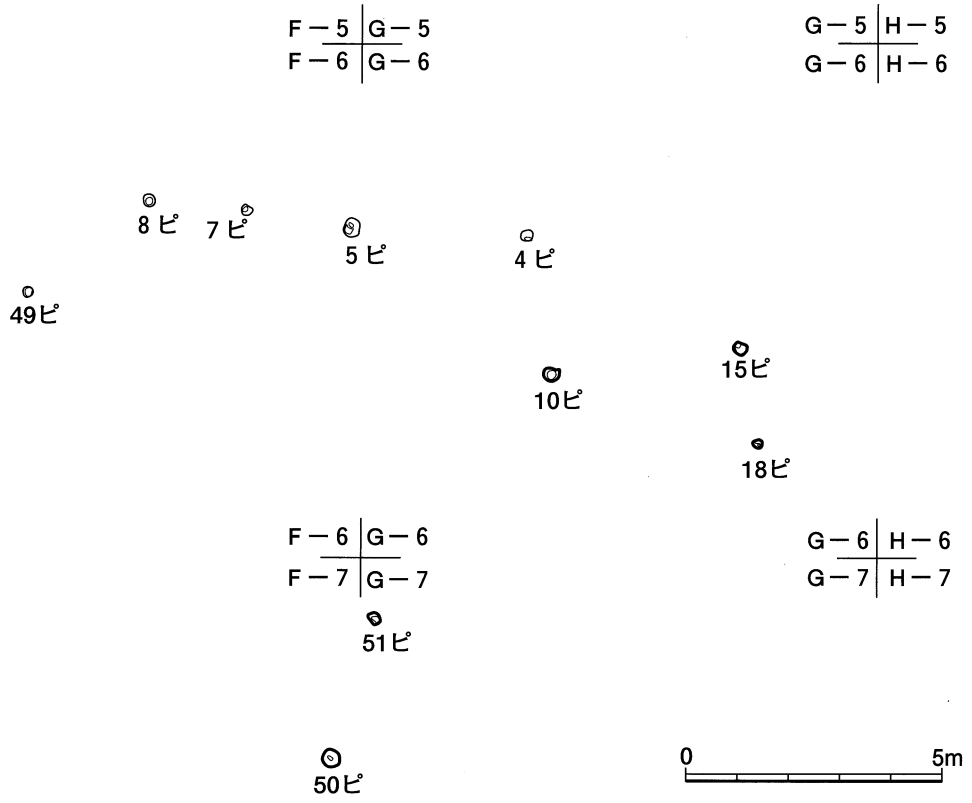
4・5・7・8・10・15・18・49・51号ピットはF－6グリッドの中央部からG－6・7グリッドの西部にかけて分布している。

4号ピット（近世－1）

遺構　G－6グリッドの西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.49m、短軸の長さが0.43mを測る。長軸のN値変換方位はN－55°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20㎝ある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

5号ピット（近世－2）

遺構　F－6グリッドの東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.35m、短軸の長さが0.29mを測る。長軸のN値変換方位はN－21°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20㎝ある。覆土は1層で構成され、にぶい黄橙色（10YR 7/3）土層である。遺物は出土しなかった。



第289図　4・5・7・8・10・15・18・49・51号ピットの分布図

7号ピット（近世－3）

遺構　F－6グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.25m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－58°－Wを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7㎝ある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

8号ピット（近世－4）

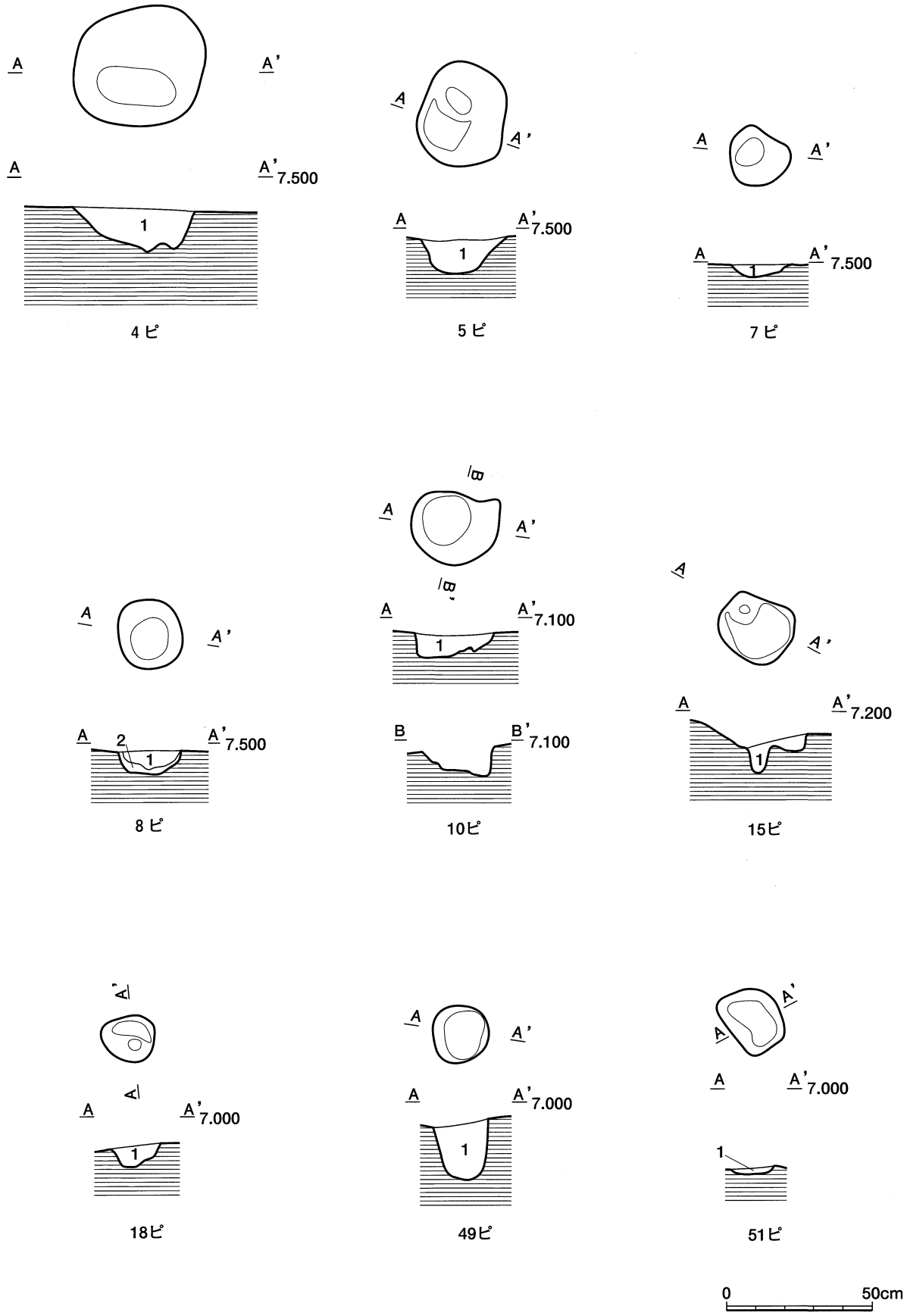
遺構　F－6グリッドの中央部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.28mを測る。長軸のN値変換方位はN－45°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で10㎝ある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

10号ピット（近世－5）

遺構　G－6グリッドの南西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.25mを測る。長軸のN値変換方位はN－82°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で8㎝ある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

11号ピット（近世－6）

遺構　G－6グリッドの南部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.30m、短軸の長さが0.26mを測る。長軸のN値変換方位はN－44°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で26㎝ある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR 3/3）土層である。遺物は陶器片が1点出土しているが、図化は不可能であった。



第290図　4・5・7・8・10・15・18・49・51号ピットの平面・断面図

15号ピット（近世－7）
遺構　G－6グリッドの東部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.26m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－25°－Eを指向している。断面形状はV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で13cmある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

17号ピット（近世－8）
遺構　F－6グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.19m、短軸の長さが0.mを測る。長軸のN値変換方位はN－19°－Wを指向している。断面形状は皿状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4cmある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

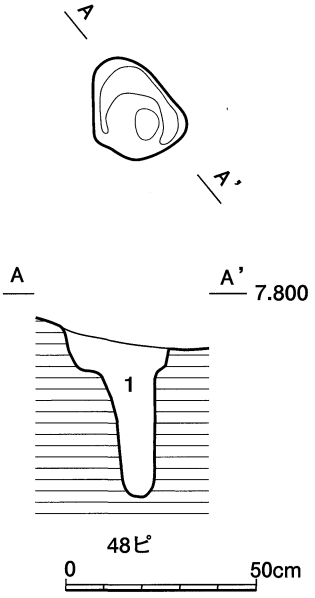
18号ピット（近世－9）
遺構　G－6グリッドの東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.19m、短軸の長さが0.16mを測る。長軸のN値変換方位はN－87°－Wを指向している。断面形状は上に開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7cmある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

26号ピット（近世－10）
遺構　I－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.31m、短軸の長さが0.23mを測る。長軸のN値変換方位はN－58°－Eを指向している。断面形状は浅い丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で7cmある。覆土は1層で構成され、暗褐色（10YR 3/3）土層である。遺物は出土しなかった。

49号ピット（近世－11）
遺構　H－6グリッドの西部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.20m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－76°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で20cmある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 5/4）土層である。遺物は出土しなかった。

51号ピット（近世－12）
遺構　G－7グリッドの北西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.23m、短軸の長さが0.18mを測る。長軸のN値変換方位はN－55°－Eを指向している。断面形状は丸底状を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で4cmある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。

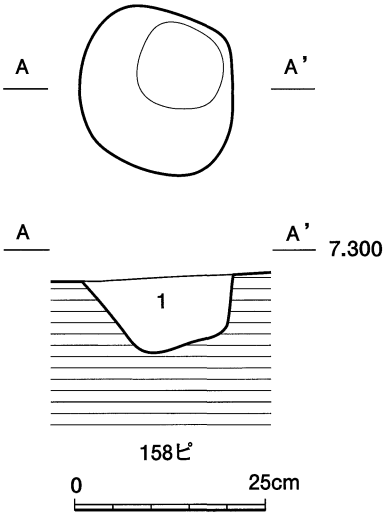
・48号ピット
48号ピット、158号ピット、176号ピット、205号ピットはそれぞれ単独で存在している。
48号ピット（近世－13）
遺構　D－5グリッドの南東部に位置し、平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸の長さが0.28m、短軸の長さが0.22mを測る。長軸のN値変換方位はN－53°－Eを指向している。断面形状はU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で42cmある。覆土は1層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。



第291図　148号ピットの平面・断面図

158号ピット（近世－14）

遺構　N－７グリッドの西部に位置し、平面形状は隅丸方形を呈している。規模は長軸の長さが0.21m、短軸の長さが0.21mを測る。長軸のN値変換方位はN－22°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で24cmある。覆土は１層で構成され、にぶい黄褐色（10YR 4/3）土層である。遺物は出土しなかった。



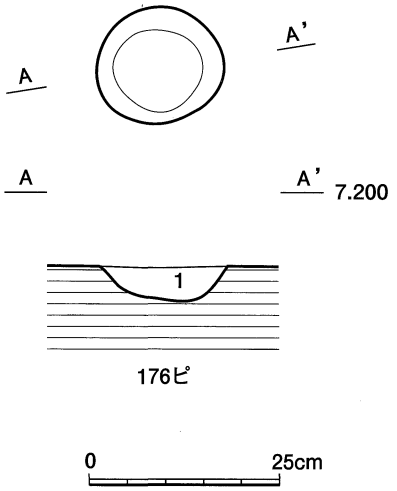
1　10YR4/3　にぶい黄褐色
粘性・締まりともにやや強い。

第292図　158号ピットの平面・断面図

176号ピット（近世－15）

遺構　L－７グリッドの北東部に位置し、平面形状は円形を呈している。規模は長軸の長さが0.15m、短軸の長さが0.17mを測る。長軸のN値変換方位はN－77°－Eを指向している。断面形状は上に開くV字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で６cmある。覆土は１層で構成され、灰黄褐色（10YR 4/2）

土層である。遺物は出土しなかった。

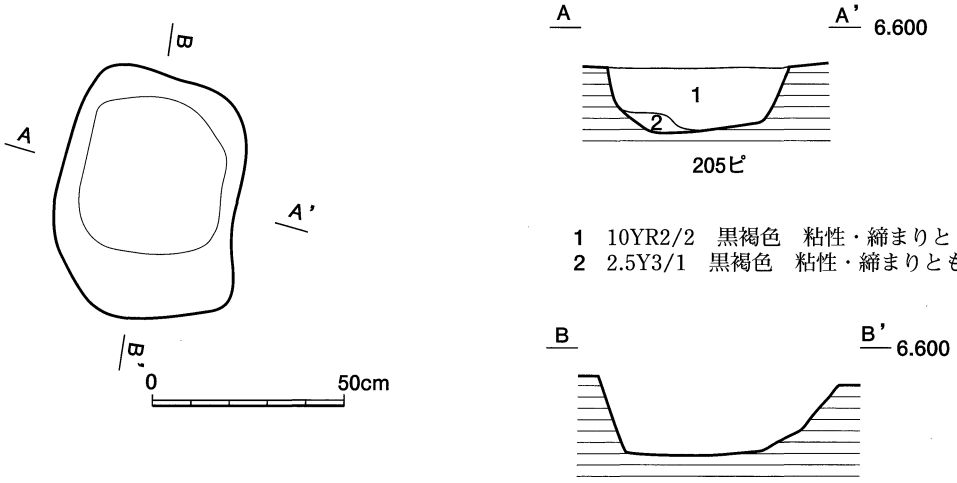


1　10YR4/2　灰黄褐色　粘性・締まりともにやや強い。

第293図　176号ピットの平面・断面図

205号ピット（近世－16）

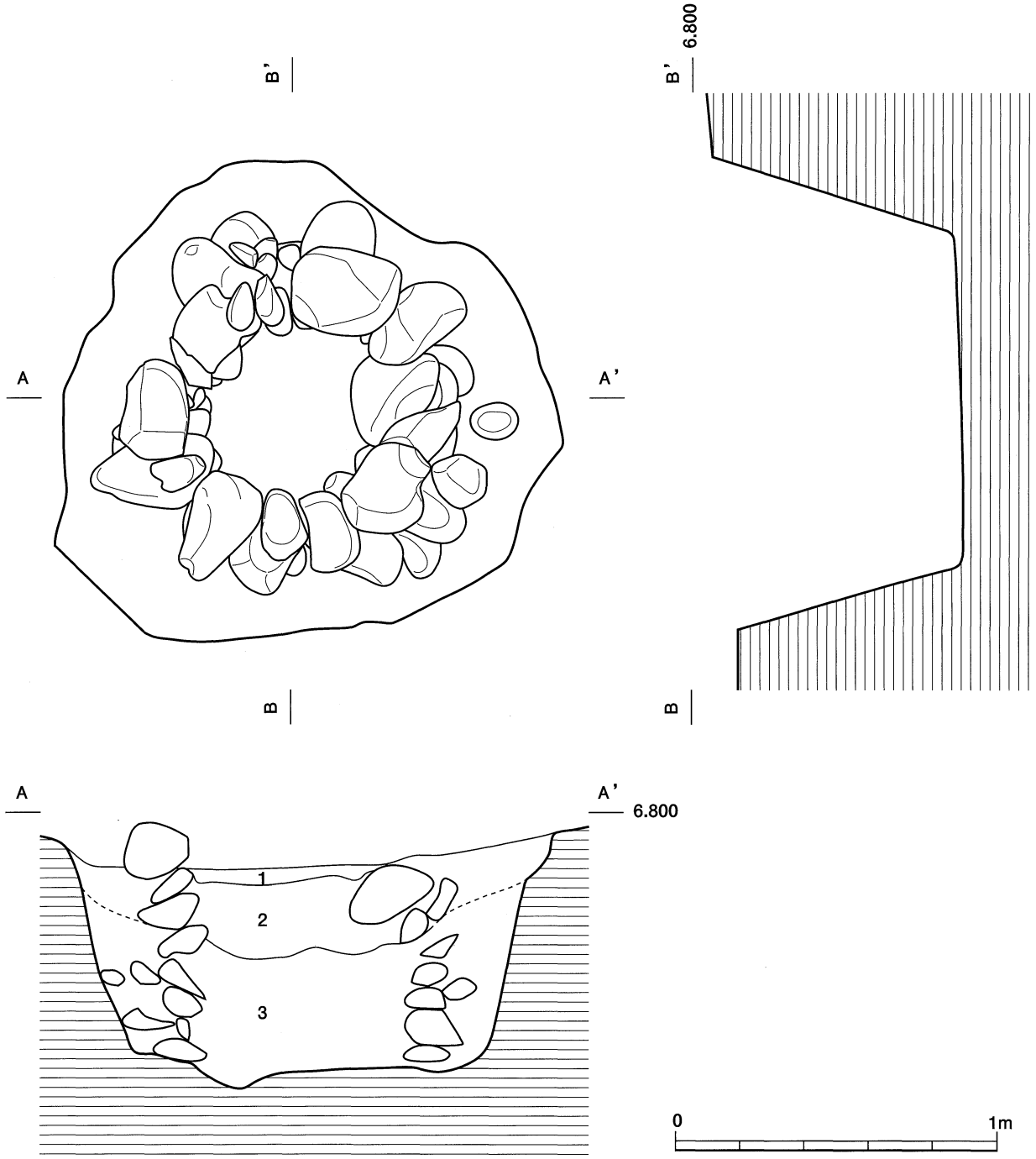
遺構　L－8グリッドの中央部に位置し、平面形状は隅丸長方形を呈している。規模は長軸の長さが0.81m、短軸の長さが0.58mを測る。長軸のN値変換方位はN－10°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で23cmある。覆土は2層で構成され、1層は黒褐色（10YR　2/2）土層、2層は黒褐色（2.5Y 3/1）土層である。遺物は陶器片が1点出土しているが、図化は不可能であった。



第294図　205号ピットの平面・断面図

〈井戸跡〉

遺構　井戸跡はM－7グリットの中央部よりやや南西側に位置する。石組円筒形の井戸である。掘り方の平面形状は円形で、規模は長軸の長さ1.55m、短軸の長さ1.50mを測る。長軸のN値変換方位はN－87°－Eを指向している。断面形状は上に開くU字形を呈し、遺構確認面からの深さは最深部で80cmある。その中に長径 8～35cm、短径 4～28cmの円礫193個、角礫 6 個の合計199個の石を用いて円形に 8 段積み重ねている。石組みの内径は50cm、深さ70cmある。確認面より深さ54cmに滲水面がある。覆土は 3 層で構成される。1 層は黒褐色（5YR 3/1）土層、2 層は黒褐色（5YR 2/1）土層、3 層は黒褐色（2.5Y 3/1）土層である。遺物は出土しなかった。なお、石組みの川原石に「にツ川　六ツ」という墨書が見られた。



第295図　井戸跡の平面・断面図

(5) 遺構以外から出土した遺物

今回の調査で遺構以外から出土した土器・土製品は40,559点、石器は 3 点、銭貨が18枚である。その内、図化が可能な土器・土製品97点、石器 3 点、銭貨18枚の計118点を時代別に分類し、詳細を述べる。

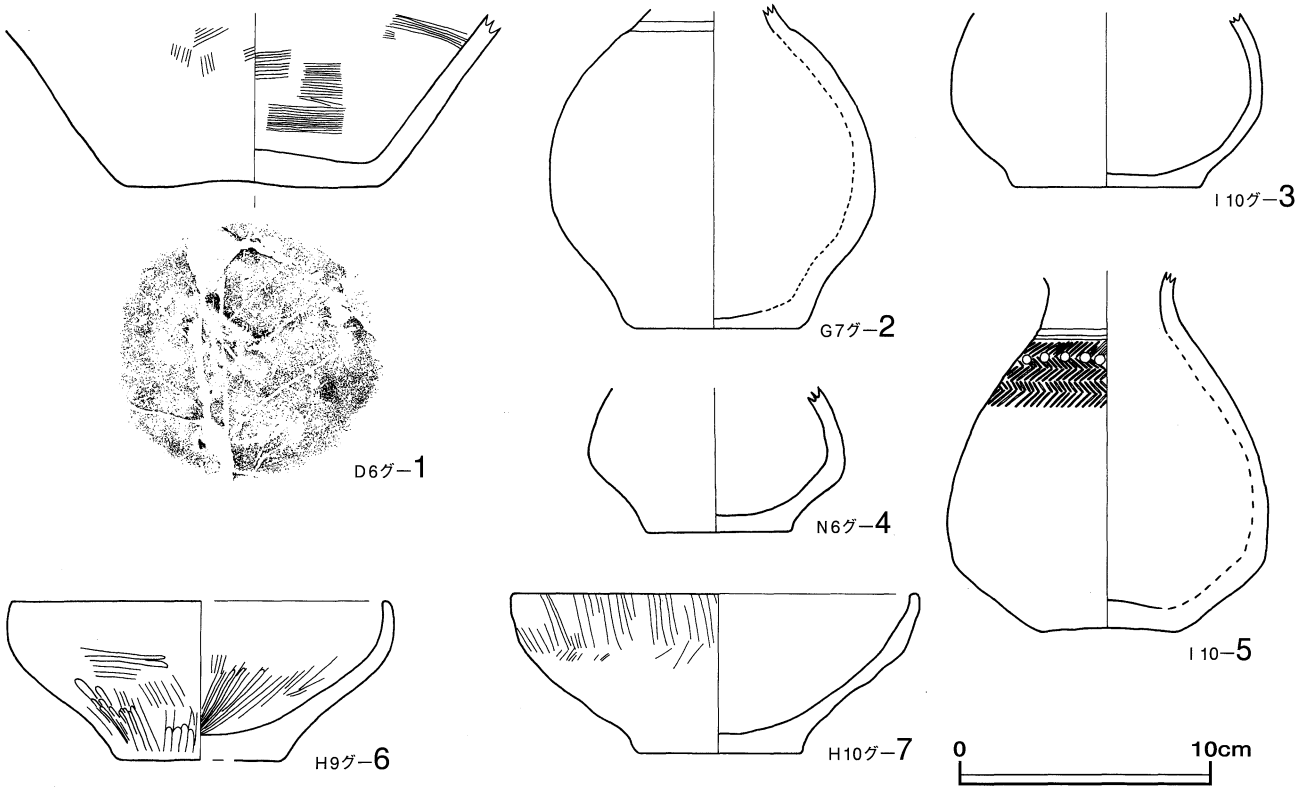
弥生時代の遺物

1．土器・土製品

弥生時代の土器・土製品は5,025点出土している。その内、図化が可能な 7 点を図示した。いずれも弥生時代の溝状遺構を確認したグリッドである。

第296図の **1** は壺の底部片、**2～5** は小型壺、**6・7** は鉢である。

1 はD－ 6 グリッドで出土した壺の底部の破片で、平底の底部から外反している。外面は体部に斜位のハケ目痕が、底部に木葉痕が残っている。内面は横位のハケ目痕が残っている。胎土は普通で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。　**2** はG－ 7 グリッドで出土した小型壺で、平底の底部から体部下半にむかって外反し、体部下半から頸部にむかって内湾している。外面は体部と頸部の間に横線紋が施してある。その他は摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色・赤色粒と礫（2～5㎜大）を含んでいる。　**3**はＩ－10グリッドで出土した小型壺の底部の破片で、平底の底部から体部は内湾している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、灰色・茶色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**4** はN－ 7 グリッドで出土した無花果形を呈する小型壺で、平底の底部から体部下半まで外反し、体部下半から体部上半にむかって内湾している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は粗く、白色・灰色粒を含んでいる。　**5** はＩ－10グリッドで出土した無花果形を呈する小型壺の頸部から底部の破片で、平底の底部から体部下半にかけて大きく外反し、体部下半から頸部にむかって緩やかに内湾している。外面は体部上半に横線紋、浮紋、羽状の刺突紋が施されている。内面は摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、白色・赤色・灰色粒を含んでいる。　**6** はH－ 9 グリッドで出土した鉢で、平底の底部から大きく外反した後、体部中央から口縁部にかけて内湾し、端部を丸く収めている。内外面とも底部

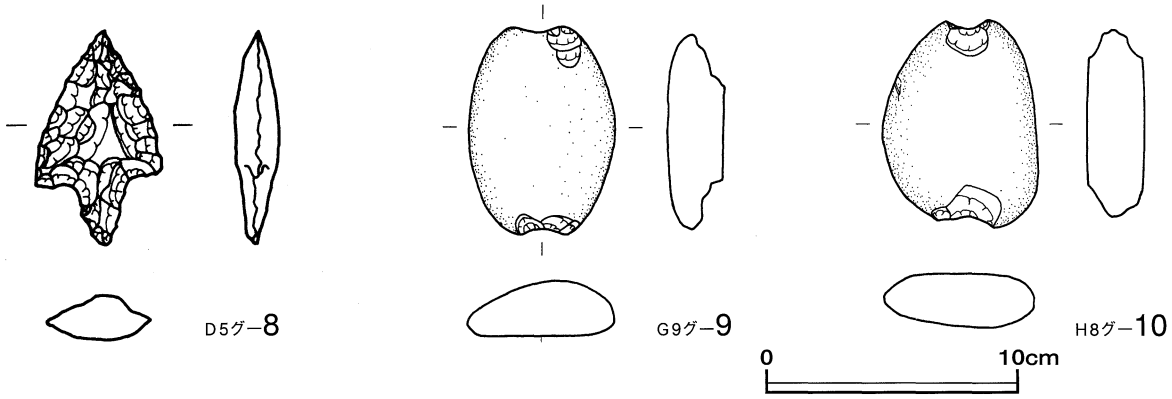


第296図　各グリッドから出土した弥生土器の実測図

から体部にかけてヘラ磨き痕が残っている。胎土はやや粗く灰色・赤色・黒色粒を含んでいる。　**7** はH－10グリッドで出土した鉢で、平底の底部から大きく外反した後、体部中央から口縁部にかけて内湾している。外面は口縁部から体部に縦位・斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、白色・灰色・褐色粒と礫（3㎜大）を多く含んでいる。

2．石器

石器は打製石鏃が1点と石錘が2点出土しており、その3点を図示した。



第297図　各グリッドから出土した石器の実測図
8　石鏃（実大）、　**9・10**　石錘

第297図の **8** はD－5グリッドで出土した有茎式打製石鏃で、長さ2.83㎝、最大幅1.68㎝、最大厚0.61㎝、重さ2.01gある。石材は安山岩である。　**9** はG－9グリッドで出土した石錘で、扁平な楕円形の礫を素材とし、両端に表裏両面から紐掛け用の切り込みを施した切目石錘である。両端ともに紐による摩耗が認められる。長さ8.22㎝、最大幅5.83㎝、最大厚2.21㎝、重さ145.52gある。石材は砂岩である。　**10**はH－8グリッドで出土した石錘で、扁平な長円形の礫を素材とし、両端に表裏両面から紐掛け用の切り込みを施した切目石錘である。両端ともに紐による摩耗が認められる。長さ8.24㎝、最大幅6.03㎝、最大厚2.22㎝、重さ170.78gある。石材は砂岩である。

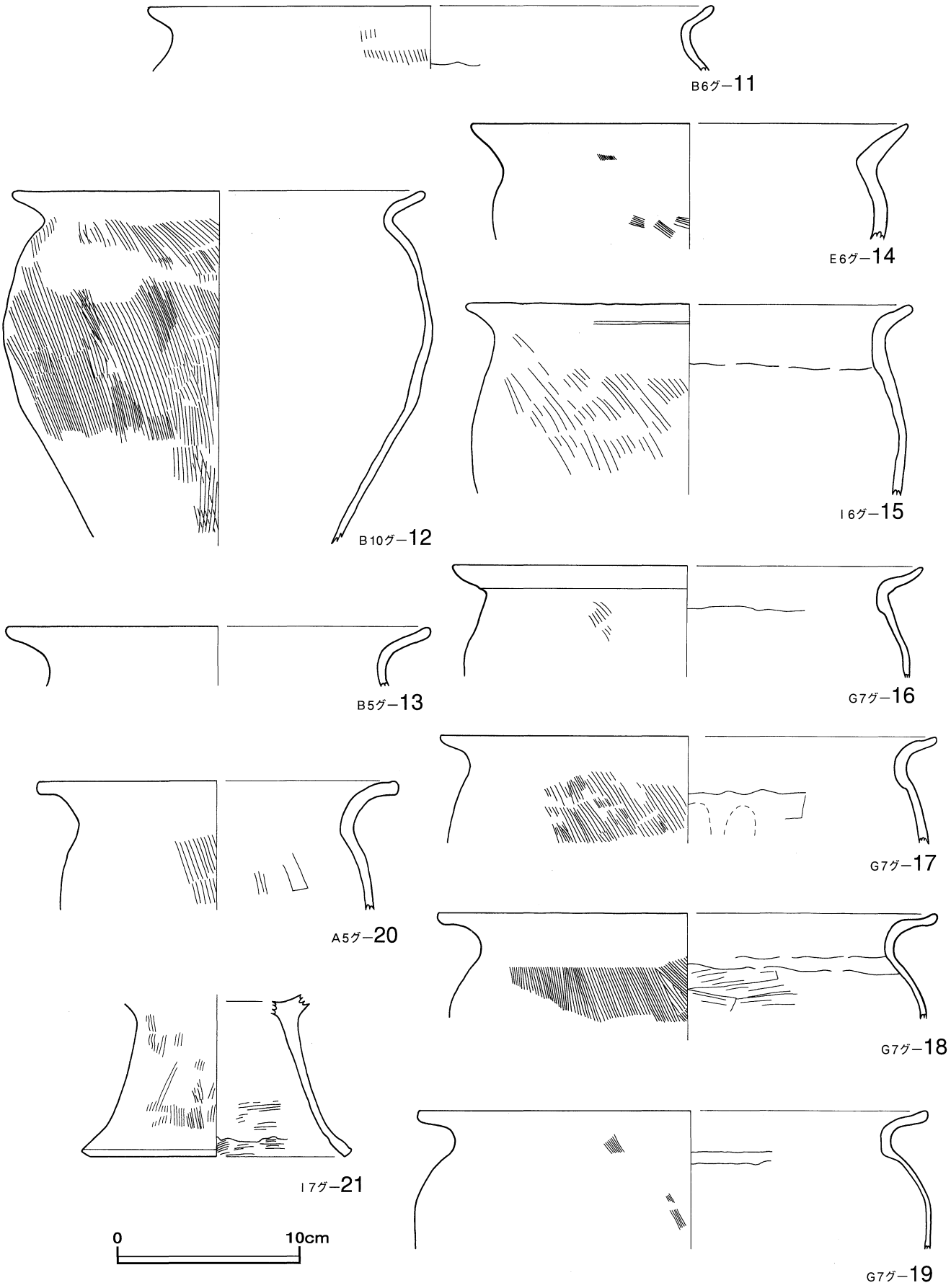
古墳時代の遺物

古墳時代の土器・土製品は土師器が16,580点、須恵器が8,764点、土師質の土錘が4点、ガラス小玉が2点出土している。その内、図化が可能な土師器24点、須恵器23点、土師質の土錘4点、ガラス小玉2点の計53点を図示した。

1．土師器

土師器は甕が11点、坏が4点、高坏が6点、皿が1点、鉢が1点、小型壺が1点である。

第298図の**11～21**は甕で、**11**はB－6グリッドで出土した甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は「く」の字状に外反する。外面は口縁部にナデ仕上げ後、斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色粒を含んでいる。　**12**はB－10グリッドで出土した甕の口縁部から体部下半にかけての破片で、体部下半から中央にかけて緩やかに外反し、体部中央から頸部は内湾する。頸部から口縁部は「く」の字状に大きく開く。外面は体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、灰色・赤色・黒色粒を含んでいる。**13**はB－5グリッドで出土した甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部は大きく外反する。外面にわずかにハケ目痕が残っているが、内外面ともに摩耗のため調整方法については不明瞭である。胎土はやや粗く、白色・透明・金色粒を含んでいる。　**14**はE－6グリッドで出土した甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部から体部上半は斜位のハケ目仕上げが認められる。内面は摩耗のため調整方法は不明瞭である。胎土はやや粗く、灰色・茶色・透明粒と礫（4㎜大）を含んでいる。　**15**はI－6グリッドで出土した甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾している。外面は体部は斜位のハケ目痕が残っている。内面は摩耗のため、調整は不明瞭である。胎土は密で、白色・黒色・灰色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**16**はG－7グリッドで出土した甕の口縁部



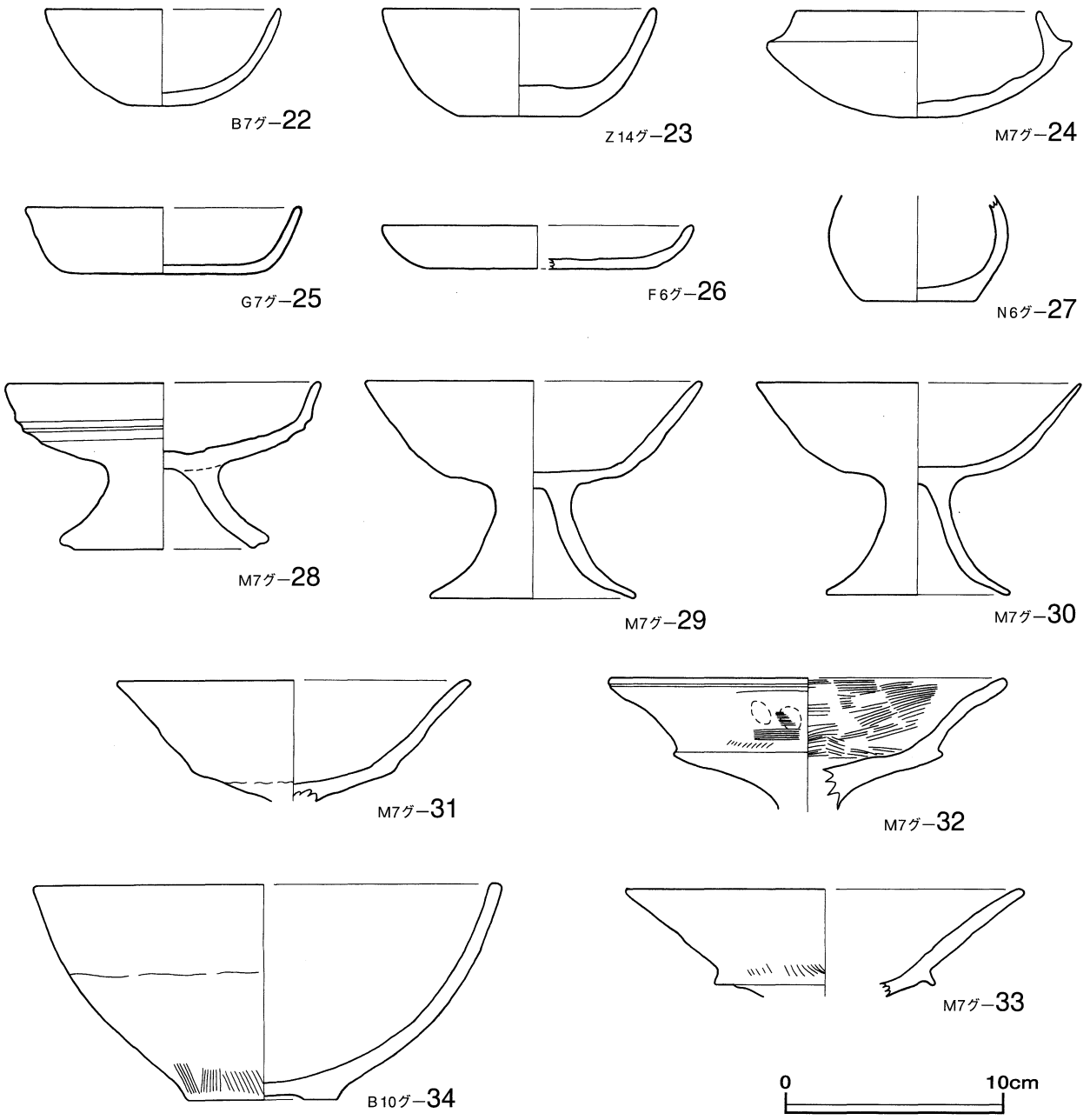
第298図　各グリッドから出土した土師器の甕の実測図

の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は体部に斜位のハケ目痕が残っている。胎土は密で、白色・赤色・灰色粒と礫（4㎜大）を含んでいる。　**17**はＧ－７グリッドで出土した甕の口縁部の破片で、口縁部は「く」の字状に外反している。外面は体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は体部に板ナデ仕上げが認められ、指頭圧痕が残っている。透明・赤色・白色・灰色粒と礫（3㎜大）を含んでいる。　**18**はＧ－７グリッドで出土した甕の口縁部の破片で、頸部から口縁部は「く」の字状に外反している。外面は口縁部は横ナデ仕上げが認められる。体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は体部に板ナデ仕上げが認められる。胎土は密で、石英・長石・赤色・雲母粒と礫（3㎜大）を含んでいる。　**19**はＧ－7グリッドで出土した甕の口縁部の破片で、頸部から口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾している。外面は口縁部はナデ仕上げが認められる。体部に斜位のハケ目痕が残っている。内面は口縁部はナデ仕上げが認められる。胎土は密で、赤色・透明・金色・白色粒を含んでいる。　**20**はＡ－５グリッドで出土した甕の体部から口縁部にかけての破片で、体部から直線的に立ち上がり、頸部から口縁部にかけて「く」の字状に外反している。外面は体部に斜位のハケ目痕が残っている。その他は摩耗のため調整方法は不明瞭である。胎土はやや粗く、長石・石英・雲母・黒色・赤色粒と礫（2～3㎜大）を含んでいる。**21**はＩ－７グリッドで出土した台付甕の脚部の破片で、脚接合部から底部にむかって緩やかに外反して開いている。外面は縦位・斜位のハケ目痕が残っている。内面は横位のハケ目痕が残っている。胎土は密で、透明・白色・灰色粒を含んでいる。

第299図の**22～25**は坏、**26**は皿、**27**は小型壺、**28～33**は高坏、**34**は鉢である。

22はＢ－７グリッドで出土した坏で、丸味を帯びた底部から口縁部まで内湾して立ち上がっている。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、赤色・灰色粒を含んでいる。　**23**はＺ－14グリッドで出土した坏で、平底の底部から口縁部までやや内湾して立ち上がっている。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、灰色・白色・赤色粒を含んでいる。　**24**はＭ－７グリッドで出土した模倣坏身で、丸味を帯びた底部から体部まで内湾し、口縁部との間に受けを持ち、口縁部は内傾している。外面は口縁部から体部上半にナデ仕上げが認められる。体部下半から底部に回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色・白色・透明粒を含んでいる。**25**はＧ－７グリッドで出土した坏で、平底の底部から口縁部まで直線的に外反している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は密で、赤色・白色・金色・灰色粒と礫（3㎜）を含んでいる。　**26**はＦ－６グリッドで出土した皿で、平底の底部から口縁部まで内湾して立ち上がっている。外面は摩耗のため調整は不明瞭である。内面は全体ナデ仕上げが認められ、丹彩が施してある。胎土は密で、白色・灰色粒と礫（4㎜大）を含んでいる。　**27**はＮ－６グリッドで出土した小型壺で、平底の底部から内湾して立ち上がっている。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、白色・赤色粒を含んでいる。　**28**はＭ－７グリッドで出土した高坏で、脚部は「ハ」の字状に広く開いている。体部は内湾し、口縁部はやや外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。外面 の口縁部と体部の間に４本の沈線が施されている。胎土は密で、赤色・白色・灰色粒を含んでいる。　**29**はＭ－７グリッドで出土した高坏で、脚部は「ハ」の字状に開き、裾部でさらに広く開いている。体部から口縁部は大きく外反している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は密で、赤色・灰色粒と小礫（0.5～1㎜大）を含んでいる。　**30**はＭ－7グリッドで出土した高坏で、脚部は「ハ」の字状に開き、裾部でさらに広く開いている。体部から口縁部は大きく外反している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は密で、赤色・灰色粒と小礫（0.5～1㎜大）を含んでいる。　**31**はＭ－７グリッドで出土した高坏の坏部で、体部下半で屈折し、口縁部にかけて大きく外反している。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、赤色・灰色・透明粒と礫（1～4㎜大）を含んでいる。　**32**はＭ－７グリッドで出土した高坏の坏部で、体部から口縁部まで大きく外反し、体部と口縁部の間に稜を持ち、口縁部はさらに開いている。外面は口縁部に横位・斜位のハケ目痕と指頭圧痕が残っている。内面は口縁部から体部に横位のハケ目痕が残っている。胎土は密で、灰色・黒色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**33**はＭ－７グリッドで出土した高坏の坏部の破片で、体部上半に突起した稜を持ち、口縁部は大きく外反している。外面の一部にハケ目痕が残っているが、内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は密で、赤色・灰色・透明粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**34**はＢ－10グリッドで出土した鉢で、底部はやや上げ底である。体部から口縁部は内湾気味に立ち上がっている。外面の体部下半に斜位のハケ目痕が残っているが、その他は摩耗のため調整は不明瞭である。

胎土は普通で、長石・石英・黒色・赤色粒と礫（4㎜大）を含んでいる。



第299図　各グリッドから出土した土師器の実測図
22〜25　坏、**26**　皿、**27**　小型壺、**28〜33**　高坏、**34**　鉢

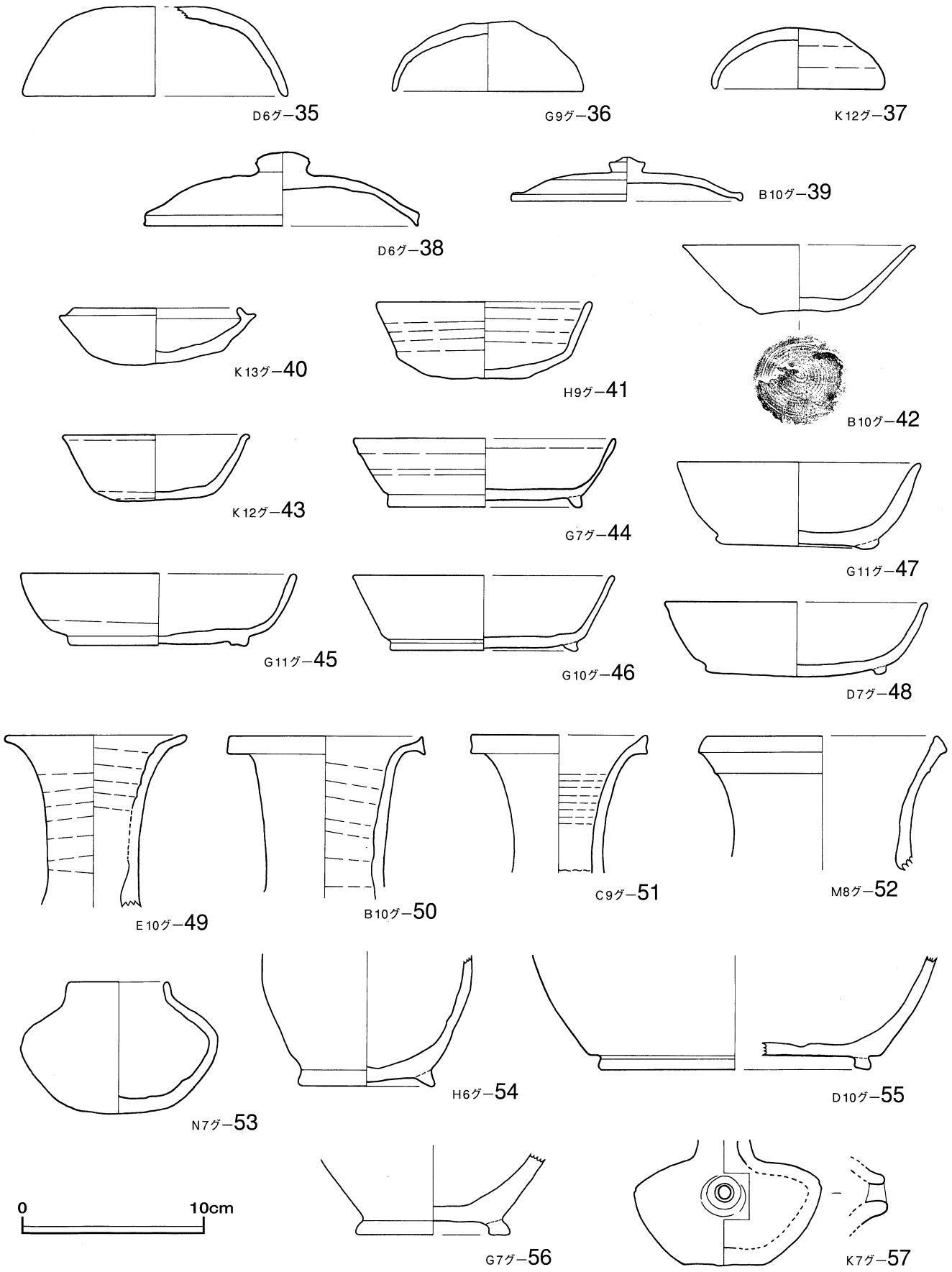
2．須恵器

須恵器は坏蓋が5点、坏身が9点、長頸壺が4点、短頸壺が1点、壺の底部が3点、ハソウが1点の計23点を図示した。

第300図の**35〜39**は坏蓋、**40〜48**は坏身、**49〜52**は長頸壺、**53**は短頸壺、**54〜56**は壺の底部、**57**はハソウである。

35はD－6グリッドで出土した坏蓋で、天井部は弓張り状を呈し、口縁部まで内湾気味に下がっている。内外面ともナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。　**36**はG－9グリッドで出土した坏蓋で、弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下がっている。内外面ともナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒と礫（4㎜大）を含んでいる。　**37**はK－12グリッドで出土した坏蓋

の完形品で、弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下がっている。外面は天井部は回転ヘラ削り痕が残っている。体部から口縁部にナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、透明・白色粒を含んでいる。　**38**はD－ 6 グリッドで出土した坏蓋で、天井部から体部にかけては弓張り状を呈し、天井部に径3cmのボタン状のつまみが付いている。口縁端部はほぼ垂直に下り、端部に段をつけている。外面は天井部上半に回転ヘラ削り痕が残っており、天井部下半から口縁部にナデ仕上げが認められる。内面は全体ナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色粒を含んでいる。　**39**はB－10グリッドで出土した坏蓋で、平らな天井部に径2cmの扁平擬宝珠状のつまみが付いている。口縁端部は垂直に下り、外面は天井部上半に回転ヘラ削り痕が残っている。天井部下半から口縁部にナデ仕上げが認められる。内面は全体ナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**40**はK－13グリッドで出土した坏身で、丸味を帯びた底部から体部は内湾し、口縁部との間に受けを持っている。口縁部は内傾している。外面は摩耗のため調整方法は不明瞭である。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。　**41**はH－ 9 グリッドで出土した坏身で、やや丸味を帯びた底部から体部下半にむかって外反し、体部下半から角度を変え、口縁部まで直線的に外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部は摩耗のため調整は不明瞭である。内面はナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**42**はB－10グリッドで出土した坏身で、平底の底部から口縁部まで外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められ、内外面とも口縁部に釉がかかっている。胎土は密で、白色・黒色粒と礫（3㎜大）を含んでいる。　**43**はK－12グリッドで出土した坏身で、ほぼ平底の底部から口縁部にかけて直線的に外反している。内外面ともナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色粒を含んでいる。　**44**はG－ 7 グリッドで出土した坏身で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は直線的に外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**45**はG－11グリッドで出土した坏身で、底部から高台部分はやや歪んでいるが、底部に断面が台形の短い貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は内湾気味に緩やかに開いている。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・茶色・灰色粒を含んでいる。　**46**はG－10グリッドで出土した坏身で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は直線的に外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒と小礫（2㎜大）を含んでいる。　**47**はG－11グリッドで出土した坏身で、底部から高台部分はやや歪んでいが、断面が半円形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁端部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒と礫（5㎜大）を含んでいる。　**48**はD－ 7 グリッドで出土した坏身で、底部は歪んでいるが断面が台形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は内湾気味に立ち上がっている。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部は回転ヘラ削り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色・茶色粒を含んでいる。　**49**はE－10グリッドで出土した長頸壺の頸部から口縁部にかけての破片で、頸部は口縁部にむかって緩やかに外反し、口縁部で大きく外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色粒を含んでいる。　**50**はB－10グリッドで出土した長頸壺の頸部から口縁部にかけての破片で、頸部は緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁部で大きく開き、口縁端部を三角形に収めている。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。　**51**はC－ 9 グリッドで出土した長頸壺の頸部から口縁部にかけての破片で、頸部から外反しながら立ち上がり、口縁端部を三角形に収めている。内外面ともにナデ仕上げが認められ、全体に釉がかかっている。胎土は密で、黒色・白色粒を含んでいる。　**52**はM－ 8 グリッドで出土した長頸壺の頸部から口縁部にかけての破片で、頸部から口縁部は外反し、口縁端部を三角形に収めている。口縁部に稜線が 1 本ある。内外面ともにナデ仕上げが認められる。内外面とも釉がかかっている。胎土は密で、灰色・白色粒を含んでいる。　**53**はN－ 7 グリッドで出土した短頸壷で、底部は丸味を帯びている。体部は内湾し、口縁部はやや内傾気味に立ち上がる。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認



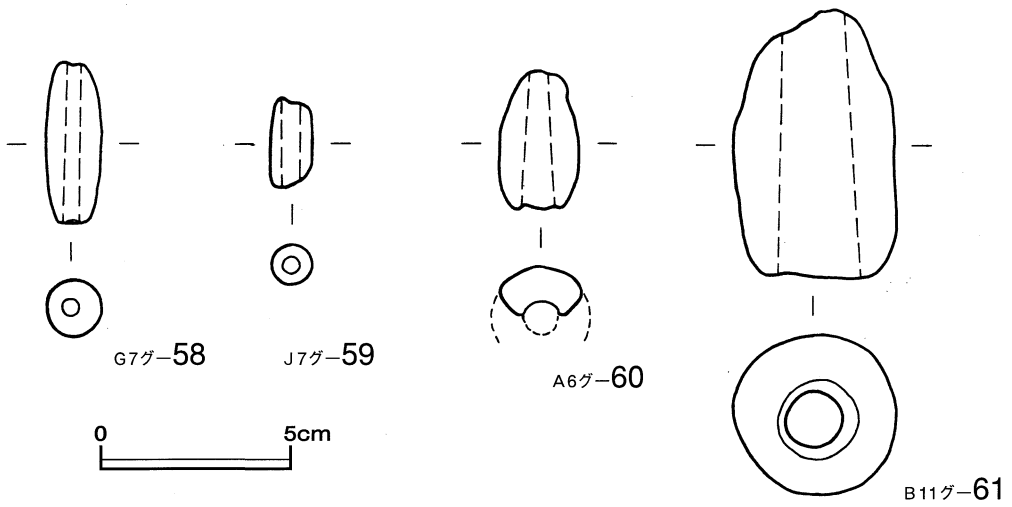
第300図　各グリッドから出土した須恵器の実測図

められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**54**はＨ－６グリッドで出土した壺の体部下半から底部にかけての破片で、やや丸味を帯びた底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・赤色粒を含んでいる。　**55**はＤ－10グリッドで出土した壺の底部から体部下半にかけての破片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾気味に立ち上がっている。内外面とも体部にナデ仕上げが認められる。その他は摩耗のため調整方法は不明瞭である。内外面とも部分的に釉がかかっている。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。**56**はＧ－７グリッドで出土した壺の底部の破片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。体部は外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。内面の一部に釉がかかっている。胎土は密で、灰色・白色を含んでいる。　**57**はＫ－７グリッドで出土したハソウで、ほぼ平底の底部から体部上半まで外反し、体部上半から頸部にむかって内湾している。体部中央に径約１㎝の孔が１箇所空けられている。外面は全体ナデ後、孔の部分は指ナデ仕上げが認められる。体部上半に釉がかかっている。胎土は密で、灰色・白色粒と小礫（２㎜大）を含んでいる。

３．土製品

土製品は土師質の土錘を４点図化した。

第301図の**58**はＧ－７グリッドで出土した小型の土錘で平面形状は紡錘形を呈し、断面形状は円形を呈している。長さ42.0㎜、最大幅14.5㎜、孔径4.0㎜、重さ8.39gある。胎土は密で、白色・透明粒を含んでいる。　**59**はＪ－７グリッドで出土した小型の土錘で平面形状は紡錘形を呈し、断面形状は円形を呈している。残存長23.3㎜、最大幅10.9㎜、孔径5.0㎜、重さ1.69gある。胎土は密で、灰色・白色・赤色粒を含んでいる。　**60**はＡ－６グリッドで出土した中型の土錘で平面形状は紡錘形を呈し、断面形状は円形を呈すると思われる。残存長36.4㎜、最大幅21.0㎜、孔径4.6～9.5㎜、重さ5.99gある。胎土は密で、灰色・白色・透明・金色粒を多く含んでいる。　**61**はＢ－11グリッドで出土した大型の土錘で平面形状は管形を呈し、断面形状は円形を呈している。残存長70.5㎜、最大幅42.0㎜、孔径11.6～21.0㎜、重さ89.02gある。胎土は密で、白色・透明・赤色粒を含んでいる。

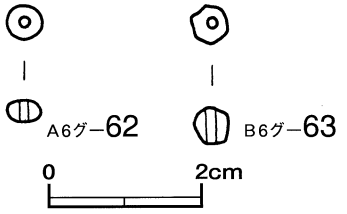


第301図　各グリッドから出土した土錘の実測図

４．装身具

装身具はガラス小玉を２点図化した。

第302　図の**62**はＡ－６グリッドで出土したガラス小玉で、外径4.4㎜、厚さ3.0㎜、孔径1.2㎜、重さ0.09gある。色調は薄青色である。　**63**はＢ－６グリッドで出土したガラス小玉で、外径4.7㎜、厚さ4.6㎜、孔径1.4㎜、重さ0.13gある。色調は薄青色である。



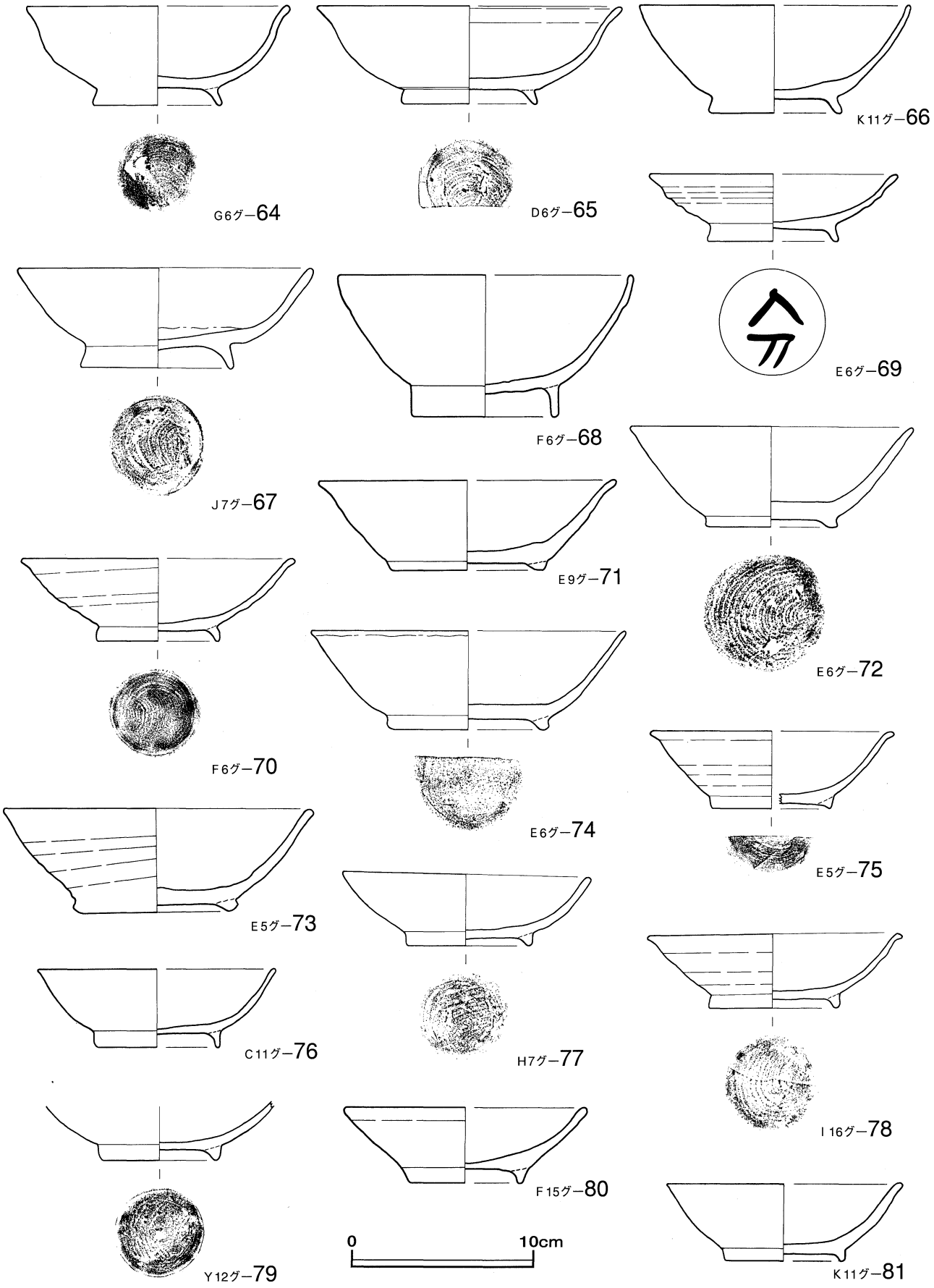
第302図　ガラス小玉の実測図

中世の遺物

中世の遺物は土器片が9,495点出土している。その内、山茶碗の碗・小碗・小皿など28点を図示した。

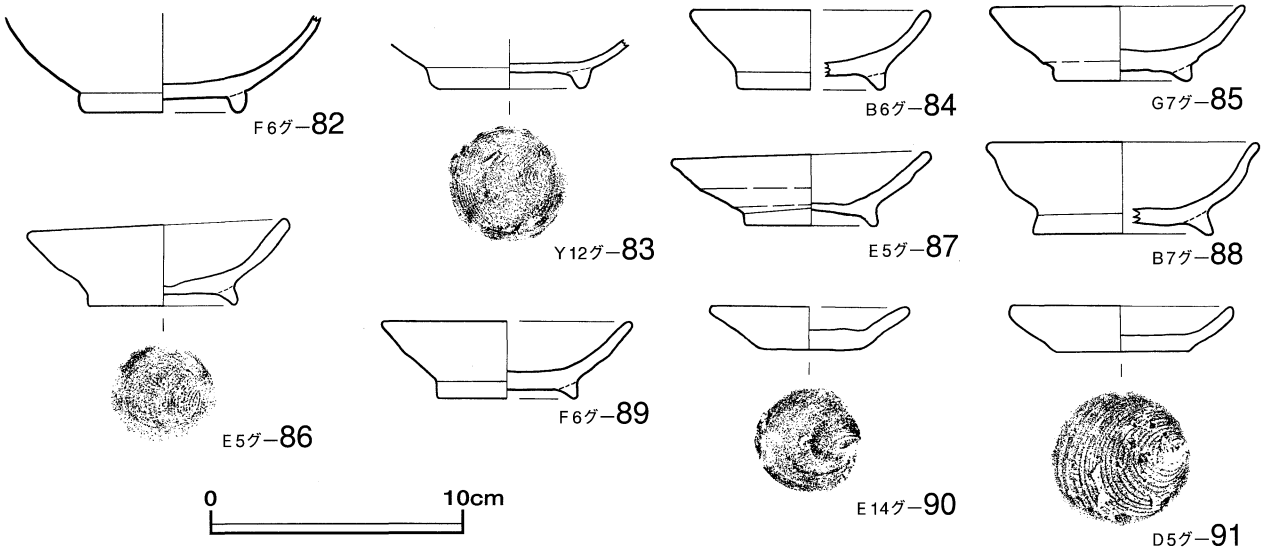
第303図の**64～68・70～74**は碗、　**69・75～81**は小碗である。

64はＧ－６グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でやや外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色・茶色粒を含んでいる。　**65**はＤ－６グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・茶色粒と小礫（２㎜大）を含んでいる。　**66**はＫ－11グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は内湾して立ち上がっている。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色粒を含んでいる。　**67**はＪ－７グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に「ハ」の字状に開く高い貼り付け高台を付けている。底部から体部は内湾して立ち上がり、体部から口縁部は直線的に外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・茶色・白色粒を含んでいる。　**68**はＦ－６グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に垂直に下がる高い貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は内湾している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒子と小礫（２㎜大）を含んでいる。　**69**はＥ－６グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台を付けている。体部から口縁部はやや内湾気味に大きく開いて立ち上がっている。外面は底部に回転糸切り痕が残っており、「分」と判読できる墨書が見られる。口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・透明粒を含んでいる。　**70**はＦ－６グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色・茶色粒と礫（２～３㎜大）を含んでいる。　**71**はＥ－９グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は直線的に開き、口縁部でわずかに外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。内面の口縁部から体部に釉がかかっている。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**72**はＥ－６グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は直線的に外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。内外面とも口縁部から体部に釉がかかっている。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**73**はＥ－５グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から底部にナデ仕上げが認められる。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒と礫（１～８㎜大）を含んでいる。　**74**はＥ－６グリッドで出土した山茶碗の碗で、平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台を付けている。底部から体部はやや丸味をもって外反し、体部から口縁部は直線的に外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、長石・石英・黒色粒を含んでいる。　**75**はＥ－５グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒と小礫（２㎜大）を含んでいる。　**76**はＣ－11グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に断面が細長く垂直に下がる貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が認められる。内面は全体ナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色・白色粒を含んでいる。　**77**はＨ－７グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部にかけて内湾気味に開いている。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕



第303図　各グリッドから出土した山茶碗の実測図（1）

が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒と礫（5㎜大）を含んでいる。　**78**はⅠ－16グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は内湾気味に開いている。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・黒色粒を含んでいる。　**79**はＹ－12グリッドで出土した山茶碗の小碗の底部で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台を付けている。体部は口縁部に向けて内湾している。外面は体部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色粒と礫（4㎜大）を含んでいる。　**80**はＦ－15グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は直線的に大きく外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色粒を含んでいる。　**81**はＫ－11グリッドで出土した山茶碗の小碗で、平底の底部に断面が台形の小さな貼り付け高台を付けている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色粒を含んでいる。



第304図　各グリッドから出土した山茶碗の実測図（2）

第304図の**82・83**は小碗で、**84～91**は小皿である。

82はF－６グリッドで出土した山茶碗の小碗の底部から体部にかけての破片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。底部から体部は内湾しながら立ち上がっている。外面はナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**83**はＹ－12グリッドで出土した山茶碗の小碗の底部片で、平底の底部に断面が台形の貼り付け高台を付けている。外面は高台部分の外面にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は釉がかかっており調整方法については不明瞭である。胎土は密で、白色・黒色・透明粒を含んでいる。　**84**はＥ－６グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は内湾気味に開いている。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・赤色粒を含んでいる。　**85**はＧ－７グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部に断面が隅丸三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は緩やかに内湾している。内外面とも全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**86**はＥ－５グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部は内湾気味に立ち上がっている。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められ、全体に釉がかかっている。胎土は密で、白色・黒色粒と礫（3㎜大）を含んでいる。

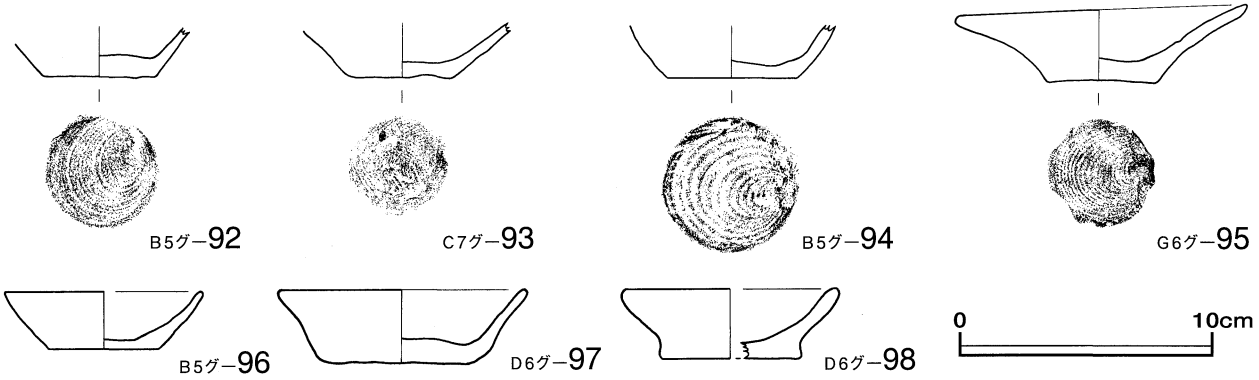
87はＥ－５グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部にかけて外反している。内外面ともにナデ仕上げが認められる。胎土は密で、長石・黒色粒を含んでいる。　**88**はＢ－７グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付いている。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。口縁部から体部に釉がかかっている。胎土は密で、赤色・茶色・黒色・白色粒と礫（４㎜大）を含んでいる。　**89**はＦ－６グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台を付けている。体部から口縁部は大きく外反している。外面は口縁部から高台部分にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・赤色粒を含んでいる。　**90**はＥ－14グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部から口縁部まで直線的に大きく外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色粒を含んでいる。　**91**はＤ－５グリッドで出土した山茶碗の小皿で、平底の底部から外反して立ち上がり、口縁端部でわずかに内湾している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部は回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、白色・灰色・茶色粒を含んでいる。

近世の遺物

近世の遺物はかわらけ片が77点、陶器片が618点、銭貨が18枚出土している。

1．かわらけ

かわらけは図化が可能な7点を図示した。その内３点がＢ－５グリッドからの出土で、Ｄ－６グリッドから２点、Ｃ－７・Ｇ－６グリッドから各１点出土している。



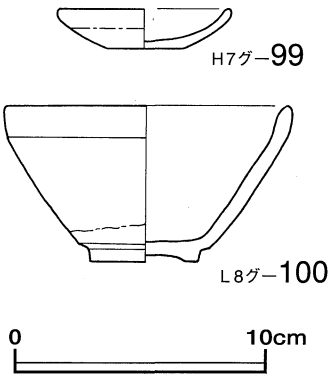
第305図　各グリッドから出土したかわらけの実測図

第305図の**92**はＢ－５グリッドで出土した小皿の底部の破片で、平底の底部から外反して立ち上がる。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。胎土は普通で、白色・黒色粒を含んでいる。　**93**はＣ－７グリッドで出土した小皿の底部の破片で、平底の底部から外反している。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、灰色・白色粒を含んでいる。　**94**はＢ－５グリッドで出土した小皿の底部の破片で、平底の底部の外面に回転糸切り痕が残っている。胎土は普通で黒色・赤色粒を含んでいる。　**95**はＧ－６グリッドで出土した小皿で、平底の底部から口縁部まで大きく外反している。外面は底部に回転糸切り痕が残っている。その他は摩耗のため調整は不明瞭である。胎土は普通で、赤色・灰色粒を含んでいる。　**96**はＢ－５グリッドで出土した小皿で、平底の底部から口縁部まで外反している。外面は口縁部から体部にナデ仕上げが認められる。底部に回転糸切り痕が残っている。内面は全体にナデ仕上げが認められる。胎土は密で、黒色粒を含んでいる。　**97**はＤ－６グリッドで出土した小皿で、底部は平底で体部から口縁部は直線的に外反している。内外面ともに摩耗のため調整方法は不明瞭である。胎土は普通で、赤色・透明粒を含んでいる。　**98**はＤ－６グリッドで出土した小皿で、平底の底部から口縁部まで外反し、口縁端部を丸く収めている。内外面ともに摩耗のため調整方法は不明瞭である。胎土は普通で、赤色・灰色粒を含んでいる。

2．陶器

陶器は図化が可能な2点を図示した。

第306図の**99**はH－7グリッドから出土した小皿で、平底の底部から口縁部は内湾気味に大きく開いている。外面は底部から体部にナデ仕上げが認められる。内面全体と外面の口縁部に釉がかかっている。胎土は密で、白色粒を含んでいる。　**100**はL－8グリッドから出土した瀬戸窯産の天目茶碗で、底部は高台を削り出している。体部は直線的に外反し、口縁部でわずかに角度を内側に変え外反している。ロクロ成形で、外面は口縁部から体部下半に、内面は全体に黒褐色釉がかかっている。胎土は密で、灰色・茶色粒を含んでいる。



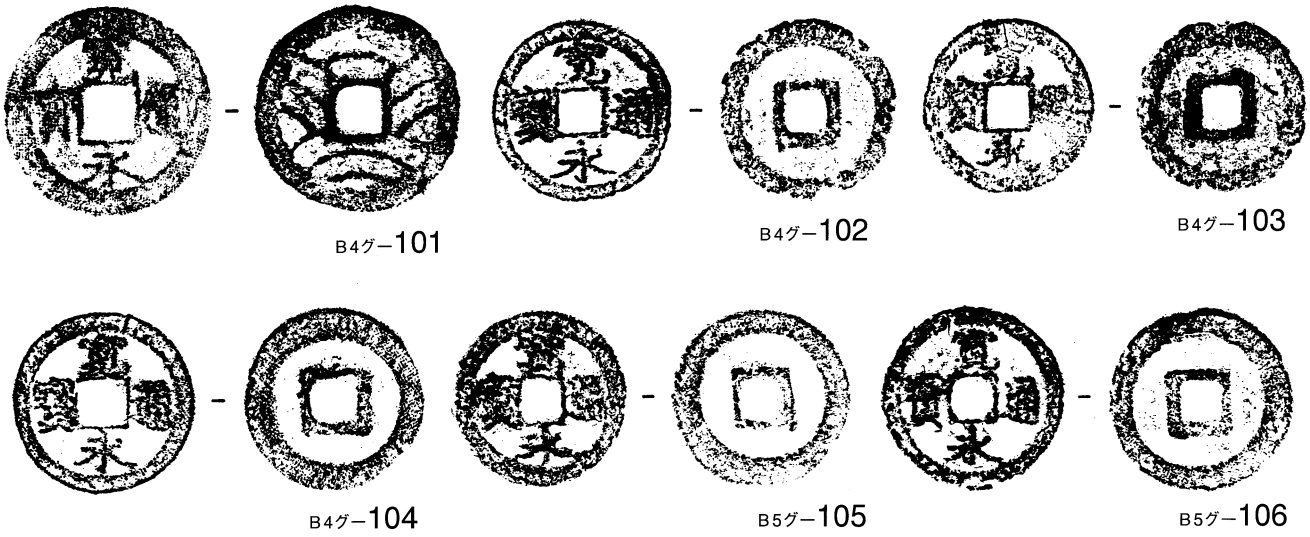
第306図　陶器の実測図

3．銭貨

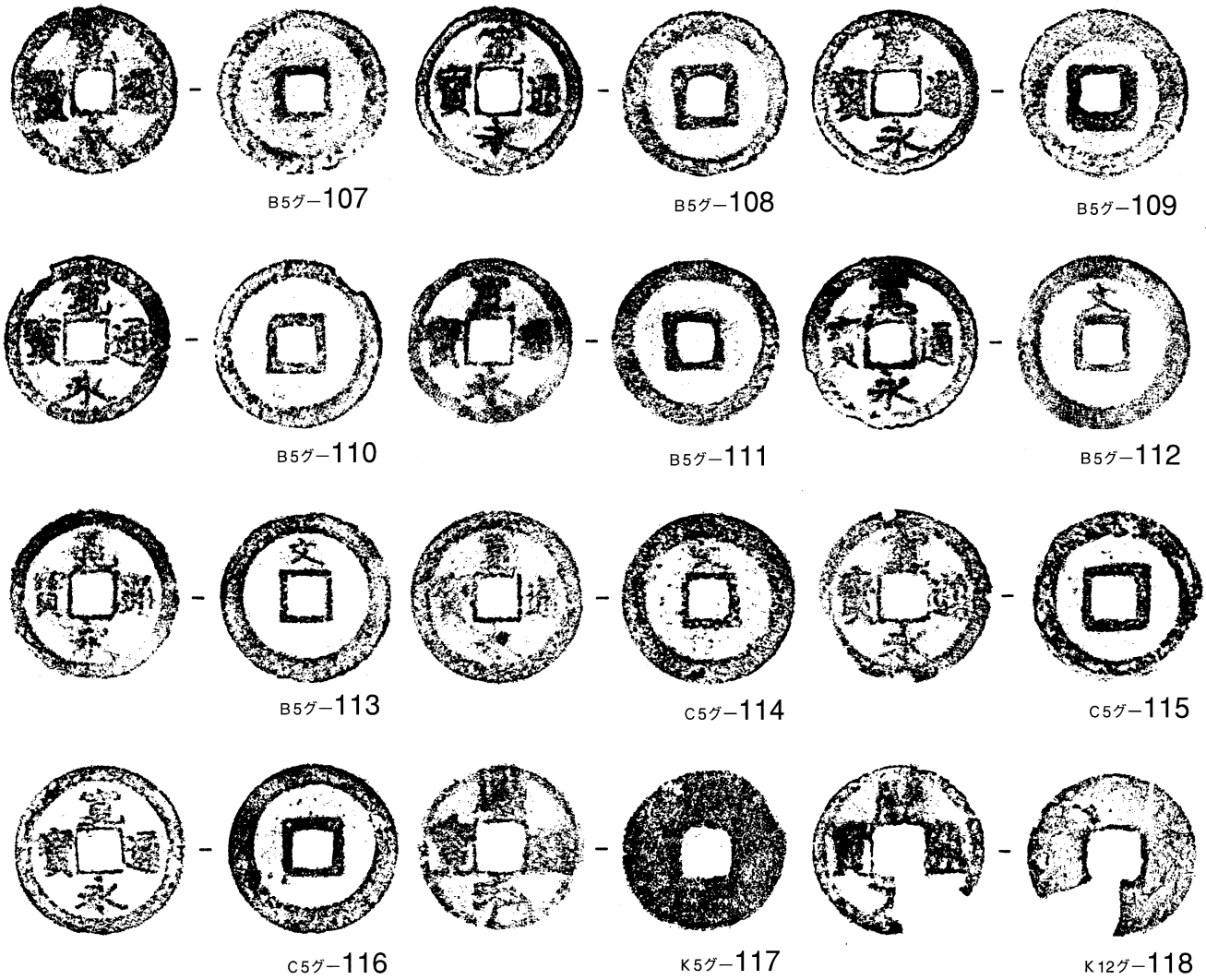
銭貨はB－4グリッドから4枚、B－5グリッドから9枚、C－5グリッドから3枚、K－5グリッドとK－12グリッドから各1枚の計18枚出土している。B－4・5グリッド、C－5グリッドは土壙墓が集中して確認された斜面の下部に当たる。

第307図の**101～104**はB－4グリッドから出土した銭貨「寛永通寶」で、**101**は裏面に「11波」模様が見られ、明和6年（1769）鋳造の銭貨である。径が28.1㎜、重さ4.82gある。**102**は径が24.1㎜、重さ3.25gある。**103**は径が23.4㎜、重さ3.00gある。**104**は径が24.3㎜、重さ3.32gある。**105～113**はB－5グリッドから出土した銭貨「寛永通寶」で、**105**は径が23.9㎜、重さ3.12gある。**106**は径が24.6㎜、重さ4.46gある。

第308図の**107**は径が24.5㎜、重さ3.03gある。**108**は径が24.5㎜、重さ3.37gある。**109**は径が24.3㎜、重さ3.08gある。**110**は径が24.8㎜、重さ2.66gある。**111**は径が24.3㎜、重さ3.80gある。**112**は径が25.2㎜、重さ4.12gあり、裏面に「文」の文字が認められる。**113**は径が25.0㎜、重さ3.17gあり、裏面に「文」の文字が認められる。**114～116**はC－5グリッドから出土した銭貨「寛永通寶」で、**114**は径が25.1㎜、重さ3.83gある。**115**は径が24.9㎜、重さ2.09gある。**116**は径が24.4㎜、重さ3.21gある。**117**はK－5グリッドから出土した銭貨「政和通寶」で、径が24.1㎜、重さ2.19gある。銭貨「政和通寶」は渡来銭で、鋳造された年代は北宋の1111年であるが、出土した層序が近世であるため、ここに収録した。**118**はK－12グリッドから出土した銭貨「開元通寶」で、一部欠損しているが、径が25.0㎜、重さ1.66gある。この銭貨も渡来銭で、鋳造された年代は唐の621年であるが、出土した層序が近世であるため、ここに収録した。



第307図　各グリッドから出土した銭貨の拓影（1）（実大）



第308図　各グリッドから出土した銭貨の拓影（2）（実大）

(6) 遺構計測表・遺物観察表

第18表　周溝墓計測表

*は推定値

番号	位置	全体規模	方形(円形)区画規模	断面形状	長さ	幅	深さ	N値変換方向	点間距離	変化・屈曲点	屈曲点内角	遺物集中域	陸橋間隔
1	A－8	縦軸＊　－	縦軸＊　－		10.16m	0.39～1.41m	0.65m	N－10.9°－W	0.86m	屈曲点	11.3°		
	B－7	横軸＊　－	横軸＊　－	浅い丸底状及び				N－57.8°－E	5.39m	変化点		拡散	
	B－8	面積＊　－	面積＊　－	上に開くU字形					3.91m			拡散	
		形状　－	形状　方形										
2	A－8	直径　6.73m	直径　4.16m	丸底状	4.57m	0.24～1.23m	0.98m					1ヶ所	
	－9	面積　36.5㎡	面積　13.6㎡										
		形状　円形	形状　円形										
3	B－8	縦軸 6.41m	縦軸 5.08m	浅い丸底状	1.04m	0.38～0.58m	0.46m	N－31.5°－W	0.44m	変化点			
	B－9	横軸 7.40m	横軸 6.52m					N－11.5°－W	0.60m				2.51m
		面積 *39.06㎡	面積 *28.62㎡										
	B－8	形状 隅丸方形	形状 隅丸方形	浅いU字形	14.58m	0.20～0.61m	0.55m	N－58.7°－E	0.31m	変化点		拡散	
				丸底状				N－77.7°－E	0.30m	変化点			
								N－83.1°－E	0.95m	変化点			
								N－76.5°－E	1.08m	変化点			
								N－88.1°－E	0.75m	変化点			
								N－82.4°－W	1.24m	変化点			
								N－72.0°－W	0.49m	変化点			
								N－42.7°－W	0.66m	変化点			
								N－23.2°－W	1.35m	変化点			
								N－0.5°－W	1.41m	変化点			
								N－13.5°－E	0.88m	変化点			
								N－28.4°－E	0.53m	変化点			
								N－50.5°－E	0.66m	変化点			
								N－72.9°－E	1.55m	変化点			
								N－84.3°－E	1.42m				3.50m
4	C－8	縦軸 *10.01m	縦軸 *9.62m	U字形	1.98m	0.22～0.76m	0.18m	弧					4.47m
		横軸 *7.00m	横軸 *6.54m										
	B－8	面積 *43.91㎡	面積 *33.69㎡	U字形	8.93m	0.37～0.52m	0.33m	弧	3.86m	変化点		拡散	
	C－8	形状 楕円形	形状 楕円形					N－11.5°－W	5.07m				
	C－9												
5·7	C－7	縦軸 *10.84m	縦軸 *7.33m	丸底状	11.98m	0.71～1.74m	0.80m	N－71.0°－E	2.78m	屈曲点	100.4°		
	C－8	横軸 *15.06m	横軸 *12.60m					N－62.1°－E	2.20m	変化点			
	D－7	面積 *81.52㎡	面積 *49.68㎡					N－68.2°－E	4.86m	変化点			
	D－8	形状　台形?	形状　台形?					N－80.9°－E	2.14m	変化点	82.2°		0.94m
					6.97m	0.98～1.82m		N－34.1°－W	1.16m	変化点			
								N－8.8°－W	5.81m	屈曲点	79.2°		
					13.43m	0.89～2.01m		N－35.4°－E	1.07m	変化点		1ヶ所	
								N－65.9°－E	3.80m	変化点		1ヶ所	
								N－82.2°－E	1.88m	変化点			
								N－79.0°－W	1.93m	変化点			
								N－74.9°－W	3.53m	変化点			
								N－57.4°－W	0.48m	変化点			
								N－86.7°－W	0.74m	屈曲点	79.2°		
					5.14m	0.61～1.39m		N－27.0°－W	3.69m				1.10m
								N－15.8°－E	1.45m	屈曲点	97.4°		
6	A－7	直径 7.22m	直径 6.24m	丸底状	6.92m	0.24～0.44m	0.74m						
	B－7	面積 40.9㎡	面積 30.6㎡										
		形状 円形	形状 円形										
8	B－6	縦軸 10.42m	縦軸 7.46m	上に開くU字形	北西 16.94m	0.64～1.33m		N－63.4°－E	4.71m	変化点		拡散	北1.01m
	B－7	横軸 11.01m	横軸 7.68m					N－60.7°－E	4.19m	屈曲点	99.4°		
	C－6	面積 90.02㎡	面積 52.95㎡					N－9.5°－W	0.69m	変化点			
	C－7	形状　－	形状　菱形					N－17.2°－W	2.74m	変化点			

第19表　周溝墓計測表（つづき）

*は推定値

番号	位置	全体規模	方形(円形)区画規模	断面形状	長さ	幅	深さ	N値変換方向	点間距離	変化・屈曲点	屈曲点内角	遺物集中域	陸橋間隔
8								N－29.6°－W	2.57m	変化点			
								N－17.6°－W	2.04m				南1.81m
				上に開くU字形	南東 14.41m	09.0～2.07m		N－9.8°－W	1.72m	変化点	76.3°		
								N－18.8°－W	2.33m	変化点			
								N－13.3°－W	1.37m	変化点		1ヶ所	
								N－20.7°－W	1.23m	変化点		1ヶ所	
								N－9.3°－W	1.39m	屈曲点	92.5°		
								N－75.0°－E	1.60m	変化点		1ヶ所	
								N－66.9°－E	4.13m	変化点			
								N－78.0°－E	06.4m		91.8°		
9	C－6	縦軸 12.61m	縦軸 9.09m	丸底状及び	25.52m	0.78～1.87m	0.56m	N－69.7°－E	3.73m	変化点			
	C－7	横軸 *9.19m	横軸 *10.91m	上に広く開く				N－78.2°－W	1.38m	変化点			
	D－6	面積 128.17㎡	面積 75.38㎡	U字形				N－58.2°－W	0.70m	屈曲点	89.6°	1ヶ所	
	D－7	形状 隅丸方形	形状　方形					N－21.3°－W	0.94m	変化点			
								N－18.2°－W	2.17m	変化点			
								N－11.8°－W	1.24m	変化点			
								N－23.3°－W	2.00m	変化点			
								N－20.1°－W	3.61m	屈曲点	87.0°		
								N－61.9°－E	1.44m	変化点			
								N－75.8°－E	2.30m	変化点			
								N－71.4°－E	2.83m	変化点		1ヶ所	
								N－74.5°－E	2.11m	変化点			
								N－87.0°－E	1.07m			1ヶ所	
11	D－5	縦軸 13.01m	縦軸 9.55m	上に開くU字形	44.73m	0.48～1.57m	0.76m	N－78.5°－E	2.77m	変化点			
	D－6	横軸 14.59m	横軸 11.36m					N－89.7°－W	2.56m	変化点			
	D－7	面積 150.08㎡	面積 108.07㎡					N－81.1°－W	2.37m	変化点			
	E－5	形状　方形	形状　方形					N－86.4°－W	1.29m	変化点			
	E－6							N－77.5°－W	0.91m	変化点			
	E－7							N－82.0°－W	1.53m	変化点			
	F－5							N－72.4°－W	0.93m	変化点			
	F－6							N－41.9°－W	0.36m	屈曲点	90.7°		
								N－4.3°－W	2.05m	変化点			
								N－8.1°－E	1.20m	変化点			
								N－4.0°－E	2.80m	変化点			
								N－16.5°－E	1.88m	変化点			
								N－6.6°－E	1.22m	変化点			
								N－39.4°－E	1.25m	屈曲点	85.8°		
								N－85.8°－E	2.72m	変化点		1ヶ所	
								N－88.1°－W	5.93m	変化点			
								N－79.2°－W	1.21m	変化点			
								N－61.4°－W	1.41m	変化点			
								N－40.6°－W	0.78m	屈曲点	94.0°		
								N－4.8°－W	1.36m	変化点			
								N－1.2°－E	1.44m	変化点		1ヶ所	
								N－1.7°－E	3.87m	変化点		1ヶ所	
								N－5.1°－E	1.59m	変化点		1ヶ所	
								N－22.2°－E	0.82m	変化点			
								N－45.0°－E	0.48m	屈曲点	89.5°		
12	D－7	縦軸 *9.69m	縦軸 6.60m	不明	4.71m	1.55m	0.52m	N－53.1°－E	0.86m	屈曲点	102.3°		
	E－8	横軸 *9.71m	横軸 *6.56m					N－83.3°－W	3.85m				
		面積 89.17㎡	面積 52.11㎡										
		形状　方形	形状　方形	上に開くU字形	9.96m	0.77～1.11m		N－76.6°－E	2.69m	変化点			
								N－87.1°－E	1.9m	変化点			
								N－85.7°－W	2.66m	変化点			
								N－76.6°－W	1.64m		108.7°	1ヶ所	

第20表　周溝墓計測表（つづき）

*は推定値

番号	位置	全体規模	方形(円形)区画規模	断面形状	長さ	幅	深さ	N値変換方向	点間距離	変化・屈曲点	屈曲点内角	遺物集中域	陸橋間隔
14	I−7	縦軸 *7.11m	縦軸 *5.57m	上に開くU字形	16.63m	0.38〜1.26m	0.43m	N−31.4°−E	1.44m	変化点			
	I−8	横軸 7.79m	横軸 5.87m					N−36.4°−E	1.47m	変化点			
	J−7	面積 *63.03㎡	面積 *45.48㎡					N−31.1°−E	1.45m	変化点			
	J−8	形状　方形	形状　方形?					N−36.9°−E	0.42m	屈曲点	102.9°		
								N−85.9°−E	0.59m	変化点			
								N−69.1°−W	3.05m	変化点			
								N−62.9°−W	1.49m	変化点			
								N−46.9°−W	1.18m	屈曲点	84.6°		
								N−16.9°−E	1.65m	変化点			
								N−25.7°−E	1.30m	変化点			
								N−38.8°−E	2.59m				
17	F−8	縦軸 *9.90m	縦軸 7.09m	上に広く開く	32.50m	0.59〜2.09m	1.07m	N−7.4°−W	5.04m	変化点			0.61m
	F−9	横軸 *12.42m	横軸 7.26m	U字形				N−14.4°−E	2.27m	屈曲点	92.7°		
	G−8	面積 *165.70㎡	面積 *101.40㎡					N−67.6°−E	1.56m	変化点			
	G−9	形状　方形	形状　方形					N−85.1°−E	2.29m	変化点			
	H−8							N−87.2°−W	3.51m	変化点			
	H−9							N−80.5°−W	1.37m	変化点			
								N−71.1°−W	1.13m	屈曲点	92.5°		
								N−15.1°−W	0.76m	変化点			
								N−1.6°−W	2.99m	変化点			
								N−11.6°−E	3.66m	屈曲点	92.5°		
								N−81.4°−E	3.20m	変化点			
								N−86.7°−E	2.46m	変化点			
								N−89.3°−E	2.26m		82.3°		
18	I−9	縦軸 6.39m	縦軸 4.87m	丸底状	13.52m	0.27〜0.74m	0.28m	N−51.9°−E	0.61m	変化点			
	I−10	横軸 *5.21m	横軸 *4.21m					N−89.6°−W	1.39m	変化点			
		面積 *57.54㎡	面積 *40.13㎡					N−82.3°−W	1.13m	変化点			
		形状　方形	形状　方形					N−68.8°−W	1.27m	屈曲点	84.2°		
								N−6.9°−W	1.09m	変化点			
								N−14.9°−E	1.29m	変化点			
								N−24.6°−E	1.68m	変化点			
								N−29.9°−E	1.89m	屈曲点	83.2°		
								N−67.6°−W	2.91m	変化点			
								N−40.8°−W	0.26m				
19	G−9	縦軸 6.69m	縦軸 5.34m	不明	4.20m	0.06〜0.45m	0.40m	N−34.6°−W	0.25m	変化点			0.81m
	G−10	横軸 *8.37m	横軸 *5.71m					N−72.9°−W	0.26m	変化点			
	H−9	面積 *136.96㎡	面積 *99.24㎡					N−88.9°−W	0.97m	変化点			
		形状　方形	形状　方形					N−84.8°−E	0.82m	変化点			
								N−86.6°−W	2.00m				
				上に開くU字形	10.24m	0.63〜1.85m	0.36m	N−70.0°−W	1.48m	変化点			
								N−82.6°−W	1.60m	変化点			
								N−73.0°−W	2.58m	屈曲点	92.4°	集中	
								N−2.7°−W	0.41m	変化点			
								N−25.9°−E	1.73m	変化点			
								N−14.0°−E	2.44m		88.0°		
20	H−9	縦軸 6.18m	縦軸 4.46m	上に開くU字形	7.17m	0.57〜0.90m	0.47m	N−88.3°−E	1.85m	変化点			
	H−10	横軸 *6.37m	横軸 *4.55m					N−64.4°−W	0.39m	屈曲点	103.5°		
		面積 *62.62㎡	面積 *40.15㎡					N−24.1°−W	1.04m	変化点			
		形状　方形	形状　方形					N−3.7°−W	3.47m	変化点			
								N−22.9°−E	0.69m	屈曲点	87.3°		
								N−82.5°−E	0.54m	変化点			
								N−80.3°−W	1.04m				

第21表　溝状遺構計測表

番号	グリッド	位置	断面形状	長さ	幅	深さ	N値変換方向	点間距離	変化点	屈曲点内角	備考
1	I	6	皿状	9.42m	1.48～1.95m	1.08m	N－21.8°－E				溝跡は北に延びるが、調査区外
	I	7									溝跡の南部はかく乱の影響を
	I	8									受けている
2	C	6	浅いU字形	5.10m	0.24～0.48m	0.21m	N－97.0°－W	2.86m	変化点		
	D	6					N－74.0°－E	1.03m	屈曲点	106.9°	
							N－10.4°－E	1.20m			
3	B	5	上に開く	3.69m	0.23～1.03m	1.39m	N－5.2°－W	0.24m	変化点		溝跡南側は、耕作の影響で消滅
			U字形				N－37.3°－W	1.53m	変化点		
							N－2.0°－W	1.93m			
4	A	5	上に開くU字形	1.58m	0.27～0.52m	0.17m	N－83.6°－E				溝跡は西側に延びるが、調査区外
5	A	5	浅い丸底状	2.74m	0.30～0.62m	0.43m	N－45.4°－E	1.56m	屈曲点	67.1°	溝跡は耕作の影響で残りわずか
							N－21.7°－W	1.19m			
6	E	5	U字形	18.62m	0.56～1.10m	0.77m	N－74.6°－W	5.26m	変化点		溝跡は東側に延びるが、調査区外
	F	5					N－86.1°－W	6.97m	変化点		
	G	5					N－78.8°－W	1.94m	変化点		
							N－87.9°－W	4.45m			
7	B	9	浅い丸底状	23.29m	0.50～0.89m	1.48m	N－87.3°－W	4.09m	変化点		溝跡東側は、12号溝跡北西部
	C	9	及び皿状				N－78.6°－W	0.22m	変化点		北側に接している
	D	9					N－87.8°－W	4.12m	変化点		溝跡は西側にも延びるが、
	E	9					N－77.0°－W	6.11m	変化点		調査区外
	F	8					N－84.6°－W	5.26m	変化点		
	F	9					N－33.2°－W	2.75m	変化点		
	G	9					N－59.3°－W	0.76m			
8	F	7	U字形	12.61m	0.42～2.01m	1.30m	N－19.4°－W	4.04m	変化点		溝跡南側は、12号溝跡北部の
自然	G	7	(少し上に開く)				N－34.5°－W	1.63m	変化点		北側に接している
排水路	G	8					N－5.0°－W	1.25m	屈曲点	117.5°	
	G	9					N－42.9°－E	0.52m	屈曲点	119.1°	
							N－21.8°－W	0.58m	変化点		
							N－29.2°－W	3.10m	変化点		
							N－3.1°－W	1.49m			
9	H	9	浅い丸底状	57.09m	0.90～2.26m	0.52m	N－67.7°－W	2.59m	変化点		
	H	10					N－51.3°－W	5.35m	変化点		
	I	9					N－36.0°－W	5.51m	変化点		
	I	10					N－52.9°－W	4.46m	変化点		
	I	11					N－76.0°－W	1.49m	変化点		
	J	11					N－50.5°－W	3.88m	変化点		
	J	12					N－32.3°－W	2.63m	変化点		
							N－43.4°－W	3.70m	変化点		
							N－32.0°－W	2.71m	変化点		
							N－45.9°－W	9.14m	変化点		
							N－41.0°－W	2.80m	変化点		
							N－48.6°－W	12.83m			溝跡は南側に延びるが、調査区外
10	G	8	U字形	7.13m	1.24～2.30m	1.39m	N－41.4°－W	2.56m	変化点		溝跡南側は、12号溝跡北東部
自然	G	9	(少し上に開く)				N－14.21°－E	4.56m			の北側に接している
排水路	H	8									
	H	9									
11	I	10	丸底状	6.64m	0.51～0.82m	0.22m	N－68.3°－W	3.34m	変化点		溝跡北西側は、9号溝跡から
	J	10					N－72.8°－W	1.26m	変化点		分岐している
	J	11					N－77.1°－W	0.64m	変化点		
							N－69.3°－W	1.40m			
12	F	9	V字形	26.15m	1.80～3.05m	1.95m	N－75.1°－W	8.45m	屈曲点	130.8°	7号、8号、9号、10号、13号、
自然	F	10					N－55.7°－E	5.98m	屈曲点	82.6°	17号の溝跡が接している
排水路	G	9					N－8.8°－W	4.23m	変化点		
	G	10					N－44.9°－W	3.77m	変化点		
	H	9					N－24.5°－E	3.72m			
13	F	9	上に開く	3.25m	1.04～1.17m	0.61m	N－28.5°－E	061m	変化点		溝跡北側は、12号溝跡南部
自然	F	10	U字形				N－14.5°－E	2.64m			西側から分かれている
排水路											

第22表　溝状遺構計測表（つづき）

番号	グリッド	位置	断面形状	長　さ	幅	深　さ	N値変換方向	点間距離	変化点	屈曲点内角	備　　考
14	D	8	皿状	4.56m	0.60～0.64m	0.14m	N－14.4°－W	1.77m	変化点		
							N－0.7°－E	2.80m			
15	B	11	皿状	3.27m	0.25～0.36m	0.09m	N－72.5°－E	0.92m	変化点		溝跡は西側に延びるが、調査区外
							N－64.2°－E	0.72m	変化点		
							N－78.7°－E	1.62m			
16	J	12	皿状	5.37m	0.42～1.20m	0.20m	N－63.7°－W	1.76m	変化点		溝跡東側は、9号溝跡？
	K	12					N－51.3°－W	3.61m			に接している
17	G	9	上に開く	25.69m	0.18～1.15m	0.98m	N－46.2°－W	0.22m	変化点		
自然	G	10	U字形及び				N－86.7°－W	0.37m	変化点		
排水路	H	9	丸底状				N－67.0°－E	1.05m	屈曲点	119.0°	
	H	10					N－52.0°－W	0.37m	変化点		
							N－36.9°－W	0.32m	変化点		
							N－2.44°－W	0.33m	変化点		
							N－15.9°－W	0.70m	屈曲点	69.5°	
							N－67.6°－E	1.04m	屈曲点	95.7°	
							N－16.7°－W	1.03m	屈曲点	103.0°	
							N－60.3°－E	0.51m	変化点		
							N－77.3°－E	0.52m	変化点		
							N－71.6°－W	0.33m	屈曲点	106.2°	
							N－34.6°－E	0.36m	変化点		
							N	0.23m	変化点		
							N－54.5°－E	0.49m	変化点		
							N－78.5°－W	1.07m	変化点		
							N－58.8°－E	0.40m	変化点		
							N－35.5°－E	0.60m	変化点		
							N－0.4°－W	0.94m	変化点		
							N－25.7°－E	062m	変化点		
							N－43.3°－E	1.02m	変化点		
							N－53.4°－E	1.09m	変化点		
							N－2.7°－E	1.30m	変化点		
							N－32.8°－E	1.28m	変化点		
							N－67.0°－E	1.27m	変化点		
							N－69.2°－W	1.45m	変化点		
							N－59.6°－E	1.27m	変化点		
							N－11.0°－E	0.59m	屈曲点	115.0°	
							N－54.0°－E	1.57m	変化点		
							N－28.7°－E	0.94m	変化点		
							N－8.4°－E	0.91m	変化点		
							N－34.7°－E	1.50m			
18	G	10	浅い丸底状	8.60m	0.51～1.20m	0.49m	N－0.8°－E	1.04m	変化点		
自然	H	10					N－32.8°－W	1.08m	変化点		
排水路							N－68.7°－W	0.90m	変化点		
							N－16.4°－W	0.82m	変化点		
							N－44.5°－W	1.61m	変化点		
							N－27.2°－W	1.10m	変化点		
							N－20.3°－E	1.24m	変化点		
							N－11.0°－E	0.81m			
19・25	J	9	皿状	33.56m	2.08～4.10m	0.99m	N－8.6°－E	8.48m	変化点		溝跡北側は排水溝跡で切られて
	J	10					N－2.7°－W	4.61m	変化点		いる
	J	11					N－12.4°－E	3.84m	変化点		さらに北側は耕作の影響で
	J	12					N－2.5°－E	7.78m	変化点		消滅している
	K	10					N－22.4°－W	8.85m			
	K	11									
	K	12									
20自然	G	9	下部はU字形で	3.44m	1.02～1.54m	0.62m	N－11.4°－E	2.85m	変化点		溝跡南側は、17号溝跡に接する
排水路	H	9	上部は丸底状				N－24.8°－W	0.59m			
21	L	7	浅い丸底状	3.75m	0.30～0.84m	0.22m	N－87.6°－W	0.51m	変化点		溝跡東側は、22号溝跡
	M						N－67.1°－W	3.24m			（井戸跡付近）に接している

第23表　溝状遺構計測表（つづき）

番号	グリッド	位置	断面形状	長　さ	幅	深　さ	N値変換方向	点間距離	変化点	屈曲点内角	備　　考
22	L	8	浅い丸底状	19.18m	0.30～4.29m	0.68m	N－13.8°－E	0.85m	変化点		
	L	9					N－3.0°－W	1.82m	変化点		
	M	7					N－14.6°－E	8.62m	変化点		
	M	8					N－33.1°－E	6.26m	変化点		
	M	9					N－53.3°－E	1.62m			
23	J	12	上に開く	15.10m	0.51～2.81m	0.98m	N－2.7°－W	1.10m	変化点		
自然	K	11	U字形				N－26.6°－E	0.58m	変化点		
排水路	K	12					N－49.3°－E	0.70m	変化点		
							N－70.2°－E	0.62m	屈曲点	104.1°	
							N－5.7°－E	1.72m	変化点		
							N－11.6°－E	2.60m	変化点		
							N－76.6°－E	2.31m	変化点		
							N－59.9°－E	1.47m	変化点		
							N－11.2°－E	1.04m	変化点		
							N－54.7°－E	2.96m			
24	I	9	浅いU字形	2.16m	0.32～0.44m	0.09m	N－33.3°－E	1.35m	変化点		
							N－17.7°－E	0.81m			
26	I	9	浅い丸底状	5.46m	0.25～0.37m	0.11m	N－84.9°－E	1.59m	変化点		
							N－70.9°－W	3.07m	変化点		
							N－77.2°－W	0.80m			
27	E	7	浅い丸底状	5.18m	0.57～1.12m	0.34m	N－8.4°－E	1.1m	変化点		溝跡西側は、平行する28号
							N－1.7°－W	1.84m	変化点		溝跡に隣接している
							N－12.8°－W	2.24m			
28	E	6	上に開く	31.48m	1.09～2.42m	0.63m	N－41.5°－E	10.15m	変化点		溝跡中央南側付近は、
	E	7	U字形				N－29.9°－E	4.20m	変化点		かく乱の影響を受けている
	E	8					N－5.8°－W	8.34m	変化点		
	E	9					N－15.9°－W	6.67m	変化点		
	F	6					N－42.3°－W	2.11m			
	F	7									
	F	8									
	F	9									
29	E	7	浅いU字形	7.12m	1.22～1.65m	0.60m	N－2.5°－E	3.44m	変化点		溝跡東側は、平行する28号
	E	8					N－18.0°－E	3.68m			溝跡に隣接している
30	F	7	上に開く	3.70m	0.76～0.86m	0.42m	N－66.6°－E	1.93m	変化点		
	F	8	U字形				N－74.8°－E	1.77m			
31	F	8	上に開く	6.09m	0.49～0.60m	0.53m	N－23.7°－W	5.07m	変化点		溝跡中央西側は、32号溝跡北側に接している
			U字形				N－8.6°－W	1.02m			溝跡の北部はかく乱の影響を受けている
32	F	8	上に開く	10.21m	0.27～0.70m	0.31m	N－3.9°－E	0.17m	変化点		溝跡北側は、31号溝跡中央
	F	9	U字形				N－20.8°－W	6.30m	屈曲点	88.9°	西側に接している
							N－80.4°－E	3.74m			
33	E	6	丸底状	3.45m	0.43～0.59m	0.25m	N－55.6°－E	0.55m	変化点		
	F	6					N－87.5°－E	0.69m	変化点		
							N－82.0°－W	0.70m	変化点		
							N－89.8°－W	1.51m			
34	H	6	丸底状	4.12m	0.51～0.78m	0.33m	N－78.9°－W	0.73m	屈曲点	101.6°	
							N－7.5°－W	0.75m	変化点		
							N－5.3°－E	1.13m	変化点		
							N－3.6°－E	1.51m			
35	H	7	皿状	9.20m	0.46～1.17m	0.44m	N－85.2°－W	1.27m	変化点		
	I	7					N－73.2°－W	2.50m	変化点		
							N－79.5°－W	1.16m	変化点		
							N－84.4°－W	2.15m	変化点		
							N－77.9°－W	2.12m			
36	I	9	皿状	2.89m	0.38～0.63m	0.15m	N－12.1°－E	0.57m	変化点		溝跡南側は、40号溝跡南部の
	I	10					N－3.1°－W	12.59m	変化点		中央北側に接している
							N－8.4°－E	0.73m			
37	I	9	丸底状	2.34m	0.30～0.55m	0.33m	N－69.0°－E	0.71m	変化点		溝跡西側は、15号周溝跡南部
							N－88.9°－E	1.64m			東側に接している

第24表　溝状遺構計測表（つづき）

番号	グリッド	位置	断面形状	長さ	幅	深さ	N値変換方向	点間距離	変化点	屈曲点内角	備考
38	I	9	皿状	7.38m	0.25～0.48m	0.14m	N－63.0°－W	1.18m	変化点		
							N－17.4°－W	0.93m	変化点		
							N－22.6°－W	2.02m	変化点		
							N－5.9°－E	2.90m	変化点		
							N－36.9°－E	0.36m			
39	I	9	丸底状	1.48m	0.29～0.35m	0.13m	N－11.9°－W	0.40m	変化点		溝跡南側は、40号溝跡中央
							N－10.8°－E	0.18m	変化点		北側に接している
							N－23.4°－E	0.91m			
40	I	9	上に開く	2.10m	0.48～0.62m	1.04m	N－87.9°－W	0.82m	変化点		溝跡西側は、44号溝跡南部
	I	10	浅いU字形				N－78.6°－E	1.28m			東側に接している
41	H	9	上に開くV字形	14.68m	0.44～0.85m	0.42m	N－12.3°－E	3.83m	屈曲点	81.9°	溝跡東側で20号周溝跡と
	H	10	だが底は丸底状				N－59.5°－W	1.12m	変化点		接している
							N－87.4°－W	4.28m	変化点		
							N－69.6°－E	0.67m	屈曲点	69.4°	
							N－9.3°－E	1.32m	変化点		
							N－4.9°－W	3.47m			
42	H	10	浅い丸底状	0.78m	0.30～0.37m	0.09m	N－7.0°－E	0.46m	変化点		溝跡北側は、20号周溝跡南側
							N－20.2°－E	0.32m			の溝跡と接している
43	M	8	浅い丸底状	1.92m	036～0.54m	0.10m	N－55.9°－W				溝跡北東はほぼ垂直で58号溝跡と接している
44	H	9	上部はV字形で	6.15m	0.38～0.68m	0.45m	N－14.6°－W	2.23m	変化点		溝跡南側は、9号溝跡中央付近
	I	9	下部はU字形				N－12.8°－W	2.76m	変化点		北側に接している
	I	10					N－20.4°－W	1.16m			
45	I	9	丸底状	1.43m	0.30～0.55m	0.20m	N－89.7°－W	0.89m	変化点		
							N－70.2°－W	0.54m			
46	I	9	丸底状	5.48m	0.18～0.42m	024m	N－10.4°－W	0.82m	変化点		
	I	10					N－6.2°－E	1.62m	変化点		
							N－20.9°－E	1.86m	変化点		
							N－36.0°－E	1.17m			
47	I	9	浅い丸底状	2.56m	0.42～0.76m	0.22m	N－89.6°－W	0.70m	変化点		溝跡西側は、44号溝跡北部
							N－63.3°－W	1.12m	変化点		東側に接している
							N－88.8°－W	0.74m			
48	J	7	丸底状	10.72m	0.39～0.65m	0.18m	N－35.7°－W	0.83m	変化点		
							N－19.7°－W	0.63m	変化点		
							N－18.4°－W	1.47m	変化点		
							N－15.4°－E	1.51m	変化点		
							N－14.3°－E	1.20m	変化点		
							N－21.5°－E	1.27m	変化点		
							N－14.0°－E	0.79m	変化点		
							N－2.2°－W	0.55m	変化点		
							N－12.9°－E	2.47m			
49	G	10	上部は浅い	12.94m	0.30～0.74m	0.50m	N－85.9°－W	1.50m	変化点		
	H	10	丸底状				N－63.9°－W	1.86m	変化点		
			下部はU字形				N－76.1°－W	1.13m	変化点		
							N－88.1°－W	2.69m	屈曲点	102.6°	
							N－4.7°－E	2.00m	変化点		
							N－9.5°－W	0.90m	変化点		
							N－1.6°－E	2.86m			
50	J	7	上に開く	7.95m	0.51～0.91m	0.31m	N－19.4°－E	0.58m	変化点		溝跡は北側に延びるが、調査区外
	J	8	U字形				N－26.8°－E	4.55m	変化点		
							N－40.7°－E	1.73m	変化点		
							N－37.4°－W	1.09m			
	J	7	上に開く	1.64m	0.46～0.67m	0.27m	N－70.8°－W				溝跡西側は、調査区外
			U字形								東側は50号溝跡に接している
51	J	8	丸底状	6.08m	0.71～0.95m	0.49m	N－23.6°－E	2.77m	変化点		溝跡北側は、53号溝跡の中央
	K	7					N－31.2°－E	3.31m			南側に接している
	K	8									
52	K	8	上に開く	5.12m	0.91～1.12m	0.15m	N－29.8°－E	3.69m	変化点		溝跡南側は、56号溝跡の中央
			U字形				N－15.9°－E	1.51m			北側に接している

第25表　溝状遺構計測表（つづき）

番号	グリッド	位置	断面形状	長　さ	幅	深　さ	N値変換方向	点間距離	変化点	屈曲点内角	備　　考
53	J	7	浅い丸底状	6.35m	0.95～1.27m	0.83m	N－54.2°－W				溝跡中央の南側で、51号溝跡
	K	7									が接している
	K	8									
54	K	7	上に開く	2.53m	0.19～0.47m	0.34m	N－67.8°－W				溝跡の東側は、55号溝跡に
	L	7	U字形								ぶつかっている
55	J	10	上に開く	77.18m	1.54～2.43m	0.88m	N－17.6°－E	9.82m	変化点		溝跡は北側に延びるが、
	J	11	U字形及び				N－27.6°－E	4.88m	変化点		調査区外
	J	12	丸底状				N－24.5°－E	8.38m	変化点		
	K	8					N－20.5°－E	8.99m	変化点		
	K	9					N－22.6°－E	6.62m	変化点		
	K	10					N－31.7°－E	6.08m	変化点		
	K	11					N－41.8°－E	2.40m	屈曲点	111.3°	
	K	12					N－41.8°－W	6.03m	変化点		
	L	7					N－42.3°－W	23.98m			
	L	8									
56	J	8	浅い丸底状	9.47m	0.75～1.47m	0.38m	N－44.3°－W	2.32m	変化点		溝跡の東側は、55号溝跡に
	K	8					N－87.1°－E	2.42m	変化点		ぶつかっている
							N－74.4°－W	1.89m	変化点		
							N－58.7°－W	1.66m	変化点		
							N－82.1°－E	1.18m			
57	M	7	上に開く	6.37m	0.38～1.30m	0.50m	N－16.4°－E	3.08m	変化点		溝跡は北側に延びるが、調査区外
	N	6	U字形				N－29.5°－E	2.15m	変化点		
	N	7					N－54.0°－E	1.14m			
58	M	7	浅い丸底状	7.21m	0.22～0.32m	0.16m	N－53.6°－E	3.13m	変化点		溝跡は北東側に延びるが、調査区外
	M	8					N－58.2°－E	2.77m	変化点		
	N	7					N－41.9°－E	1.31m			
59	L	7	浅い丸底状	11.98m	0.29～0.94m	0.21m	N－59.8°－W				
	M	7									
	M	8									
60	L	8	皿状	5.94m	0.22～0.50m	0.39m	N－65.6°－W	1.70m	直径/面積		
							N－39.1°－W	0.73m	3.03m		
							N－21.4°－E	0.50m			
							N－10.9°－E	1.02m			
							N－43.3°－E	0.49m			
							N－62.1°－E	0.59m			
							N－83.2°－E	0.43m			
							N－62.3°－W	0.47m			
61	K	11	浅い丸底状	13.42m	0.58～1.62m	0.22m	N－43.8°－E				溝跡南西は、9号溝跡南東部の
	K	12	及び皿状								北東側に接する
	L	11									溝跡北部は62号溝跡に切られている
62	K	10	上に開く	24.04m	1.14～1.80m	0.46m	N－6.6°－E	11.03m	変化点		溝跡は北側に延びるが、調査区外
	K	11	U字形及び				N－24.3°－W	1.09m	変化点		溝跡の南側は、9号溝跡南東部
	K	12	皿状				N－13.5°－E	1.80m	変化点		の北東側に接する
							N－2.8°－W	10.12m			
63	H	10	丸底状	14.64m	0.74～1.84m	0.55m	N－76.7°－W	5.10m	変化点		
	I	10					N－61.9°－W	9.54m			
	I	11									
	J	11									
64	J	7	上に開く	4.54m	0.41～0.59m	0.34m	N－27.7°－E	1.34m	変化点		溝跡は北側に延びるが、
	J	8	U字形				N－5.5°－E	2.45m	変化点		調査区外
							N－6.4°－E	0.75m			
65	G	6	上に開く	15.81m	0.48～1.51m	1.11m	N－21.6°－W	3.11m	屈曲点	96.5°	
			U字形				N－31.8°－E	1.48m	変化点		
							N－60.1°－E	2.15m	変化点		
							N－56.9°－E	1.45m	変化点		
							N－78.3°－E	2.65m	変化点		
							N－82.3°－E	1.27m	屈曲点	77.8°	
							N－31.4°－W	1.06m	変化点		

第26表　溝状遺構計測表（つづき）

番号	グリッド	位置	断面形状	長　さ	幅	深　さ	N値変換方向	点間距離	変化点	屈曲点内角	備　　考
65							N－0.3°－W	3.64m			
66	H	9	上に開く	16.39m	0.40～0.84m	0.56m	N－0.5°－E	4.72m	変化点		溝跡の西側の溝の北端部は
	H	10	U字形				N－5.4°－W	2.47m	変化点		16号周溝墓と、南側の溝の
							N－17.7°－W	2.78m	屈曲点	101.6°	東端部は15号周溝墓と接する
							N－57.5°－W	0.55m	変化点		
							N－78.8°－E	4.57m	変化点		
							N－84.4°－E	1.30m	変化点		
67	A	7	丸底状	7.05m	0.88～1.67m	0.49m	N－76.6°－E	1.13m	変化点		溝跡は西側に延びるが、調査区外
	B	7					N－58.3°－E	1.97m	変化点		
							N－71.1°－E	3.95m			
68	B	5	上に開く	18.50m	0.35～1.12m	0.58m	N－89.7°－W	1.83m	変化点		
	C	5	U字形				N－87.6°－W	3.87m	変化点		
	D	5					N－89.7°－W	3.24m	変化点		
							N－87.7°－E	1.85m	変化点		
							N－86.2°－W	1.13m	変化点		
							N－77.7°－W	0.44m	屈曲点	107.0°	
							N－26.6°－W	0.25m	変化点		
							N－13.9°－W	1.57m	変化点		
							N－5.3°－W	3.04m	変化点		
							N－11.0°－W	1.28m			
69	E	7	丸底状	6.60m	0.32～0.41m	0.49m	N－8.1°－W	2.00m	変化点		
	E	8					N－4.7°－W	1.56m	変化点		
							N－2.7°－W	1.19m	変化点		
							N－3.3°－W	1.11m	変化点		
							N－9.9°－W	0.74m			
70	H	8	U字形及び	16.42m	0.26～0.64m	0.36m	N－65.1°－W	2.01m	変化点		
	H	9	上に開く				N－75.7°－W	2.54m	屈曲点	79.1°	
	I	8	U字形				N－17.9°－E	1.18m	変化点		
	I	9					N－4.4°－E	1.10m	変化点		
							N－15.0°－E	4.18m	変化点		
							N－6.0°－E	2.04m	変化点		
							N－0.6°－E	2.08m	変化点		
							N－9.5°－E	1.29m			
71	G	7	上に開く	25.62m	0.56～1.11m	0.52m	N－11.3°－E	1.15m	変化点		
	H	7	U字形				N－26.6°－E	1.20m	変化点		
	H	8					N－37.5°－E	1.65m	変化点		
							N－69.0°－E	2.56m	変化点		
							N－77.0°－E	2.26m	変化点		
							N－84.7°－W	1.22m	変化点		
							N－71.9°－W	1.54m	変化点		
							N－57.2°－W	1.04m	変化点		
							N－14.5°－W	0.90m	変化点		
							N－6.4°－W	12.10m			

第27表　土壙計測表

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
1号土壙	B－4	1.07	0.93	0.18	N－3°－W	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（2.5Y　3/1）	土師器
2号土壙	F－6	0.31	0.29	0.11	N－43°－W	楕円形	上に開くV字形	黒褐色土（2.5Y　3/1）	須恵器

第26表　土坑計測表

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺 物
1号土坑	J－11	1.86	4.00	0.26	N－35°－W	不定形	浅い丸底状	黒色土(7.5YR　2/1)	土器片
2号土坑	J－11	6.10	1.60	0.40	N－69°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土(7.5YR　2/1)	土器片
3号土坑	E－8･9	5.05	2.15	0.32	N－5°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土(7.5YR　2/1)	
4号土坑	E－8･9	6.57	2.10	0.32	N－5°－W	不定形	上に開くU字形	黒色土(7.5YR　2/1)	
5号土坑	D･E－9	1.20	0.87	0.12	N－75°－E	隅丸長方形	上に開くU字形	黒色土(7.5YR　2/1)	
6号土坑	J－11	2.69	1.90	0.40	N－47°－W	楕円形	皿状	黒色土(7.5YR　2/1)	
7号土坑	C－8	1.70	0.95	0.65	N－7°－W	楕円形	丸底状	1～2層	
8号土坑	C－5	2.15	1.20	0.30	N－21°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(7.5YR　2/1)	
9号土坑	F－6	0.51	0.39	0.10	N－60°－E	不定形	丸底状	黒色土(10YR　3/2)	土器片
10号土坑	F－6	0.68	0.43	0.07	N－60°－E	不定形	丸底状	黒色土(10YR　3/2)	土器片
12号土坑	B－7	0.90	0.89	0.38	N－20°－W	円形	丸底状	黒色土(10YR　2/1)	土器片
13号土坑	B－10	1.23	0.96	0.30	N－81°－E	隅丸長方形	上に開くU字形	黒色土(10YR　2/1)	土器片
14号土坑	G－8	1.77	1.47	0.40	N－80°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(10YR　2/1)	
15号土坑	H－6	4.75	2.73	0.37	N－20°－E	不定形	皿状	1～3層	土器片
16号土坑	E･F－7･8	1.80	0.95	0.35	N－85°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土(10YR　3/2)	
17号土坑	H－7	2.24	0.78	0.30	N－50°－W	不定形	皿状	黒色土(10YR 1.7/1)	土器片
18号土坑	I・J－7	1.70	1.23	0.30	N－33°－E	楕円形	皿状	黒色土(10YR 1.7/1)	
19号土坑	M－8	2.10	0.55	0.18	N－72°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(10YR 1.7/1)	土器片
20号土坑	M－7	1.37	1.25	0.35	N－30°－E	円形	上に開くU字形	黒色土(10YR 1.7/1)	土器片
21号土坑	M－7	1.88	0.83	0.40	N－57°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(10YR 1.7/1)	
22号土坑	M－7	1.46	0.95	0.24	N－60°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土(10YR 1.7/1)	
23号土坑	M－7	0.92	(0.85)	0.50	N－80°－E	楕円形	丸底状	黒色土(10YR 1.7/1)	
24号土坑	M－8	(2.34)	0.62	0.40	N－26°－E	長楕円形	舟底状	黒色土(2.5Y　2/1)	
25号土坑	M－7	0.63	(0.37)	0.25	N－40°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
26号土坑	M－7	(1.32)	0.33	0.22	N－32°－E	長楕円形	上に開くU字形	黒色土(10YR 1.7/1)	
27号土坑	M－7	0.79	0.52	0.33	N－32°－W	楕円形	舟底状	黒色土(2.5Y　2/1)	
28号土坑	L－8	0.74	0.36	0.13	N－60°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
30号土坑	K－8	1.08	0.42	0.18	N－40°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
31号土坑	J－8	0.97	0.76	0.37	N－18°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
32号土坑	J－8	1.70	0.80	0.40	N－34°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
33号土坑	J－8	1.42	0.50	0.35	N－70°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
34号土坑	I－9	1.29	0.65	0.23	N－49°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
36号土坑	H－9	1.15	0.82	0.08	N－2°－E	楕円形	皿状	黒色土(2.5Y　2/1)	
37号土坑	H－9	1.32	0.34	0.10	N－10°－E	長楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
38号土坑	H－8	1.63	1.08	0.25	N－37°－E	隅丸長方形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
39号土坑	I－9	0.62	0.58	0.13	N－50°－E	円形	丸底状	黒色土(2.5Y　2/1)	
40号土坑	I－9	1.48	1.22	0.25	N－88°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
43号土坑	J－9	3.06	0.65	0.32	N－85°－W	長楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
44号土坑	J－9	2.80	0.65	0.35	N－82°－W	不定形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
45号土坑	J－10	3.34	0.95	0.34	N－45°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
46号土坑	J－9･10	1.63	0.82	0.40	N－40°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(10YR 1.7/1)	
47号土坑	I－9	1.93	1.32	0.36	N－62°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
48号土坑	I－9･10	3.20	1.92	0.40	N－33°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
50号土坑	H－10	2.51	1.32	0.35	N－14°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	
51号土坑	H－10	1.87	1.08	0.32	N－58°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土(2.5Y　2/1)	

第29表　ピット計測表

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
4号ピット	G－6	0.49	0.43	0.20	N－55°－E	円形	上に開くU字形	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
5号ピット	F－6	0.35	0.29	0.20	N－21°－E	楕円形	上に開くU字形	にぶい黄褐色土(10YR 7/3)	
6号ピット	F－6	0.24	0.22	0.10	N－68°－W	円形	上に開くU字形	暗褐色土(10YR 3/3)	
7号ピット	F－6	0.25	0.22	0.07	N－58°－W	楕円形	上に広く開くV字形	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
8号ピット	F－6	0.30	0.28	0.10	N－45°－W	円形	上に開くU字形	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
9号ピット	F－6	0.22	0.20	0.09	N－81°－E	円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR 3/3）	土器片
10号ピット	G－6	0.31	0.25	0.08	N－82°－W	楕円形	皿状	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
11号ピット	G－6	0.30	0.26	0.26	N－44°－E	楕円形	浅い丸底状	暗褐色土（10YR 3/3）	土器片
12号ピット	G－6	0.26	0.24	0.09	N－73°－W	円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
13号ピット	G－6	0.25	0.22	0.09	N－83°－W	円形	U字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
14号ピット	G－6	0.23	0.20	0.07	N－20°－E	円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
15号ピット	G－6	0.26	0.22	0.13	N－25°－E	隅丸方形	V字形	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
16号ピット	G－6	0.55	0.19	0.15	N－46°－E	不定形	V字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
17号ピット	F－6	0.19	0.18	0.04	N－19°－W	円形	皿状	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
18号ピット	G－6	0.19	0.16	0.07	N－87°－W	円形	上に開くV字形	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
19号ピット	I－6	0.35	0.29	0.10	N－13°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
20号ピット	H－6	0.47	0.41	0.31	N－47°－W	円形	中間に段があるがU字形	黒褐色土（10YR 3/2）	土器片
21号ピット	H－7	0.39	0.31	0.15	N－23°－E	隅丸方形	丸底状	黒褐色土（10YR 2/2）	土器片
22号ピット	I－7	0.22	0.20	0.06	N－23°－E	隅丸方形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 3/2）	
23号ピット	I－7	0.59	0.49	0.50	N－40°－E	楕円形	V字形	黒褐色土（10YR 2/2）	土器片
24号ピット	I－7	0.60	0.30	0.24	N－75°－E	楕円形	U字形	黒褐色土（10YR 2/3）	
26号ピット	I－7	0.31	0.23	0.07	N－58°－E	楕円形	浅い丸底状	暗褐色土（10YR 3/3）	
27号ピット	I－7	0.34	0.31	0.39	N－80°－W	円形	フラスコ状	黒褐色土（10YR 2/3）	
28号ピット	I－7	0.41	0.38	0.18	N－8°－E	隅丸方形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/3）	
29号ピット	I－7	0.97	0.36	0.28	N－5°－E	楕円形	丸底状	暗褐色土（10YR 3/4）	
31号ピット	I－7	0.38	0.32	0.35	N－33°－E	円形	V字形	黒褐色土（10YR 3/2）	
32号ピット	I－7	0.34	0.33	0.32	N－11°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
33号ピット	I－7	0.91	0.45	0.43	N－52°－E	楕円形	狭いV字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
35号ピット	I－7	0.27	0.27	0.19	N－35°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
36号ピット	I－6	0.33	0.30	0.13	N－85°－E	隅丸方形	上に広く開くU字形	黒褐色土（10YR 2/3）	
37号ピット	I－6	0.39	0.32	0.11	N－65°－E	楕円形	上に広く開くU字形	黒褐色土（10YR 2/3）	土器片
38号ピット	I－6	0.55	0.30	0.10	N－49°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 3/2）	
40号ピット	I－7	0.32	0.25	0.06	N－40°－E	楕円形	皿状	黒色土（7.5YR 2/1）	
41号ピット	I－7	0.27	0.27	0.08	N－14°－W	円形	上に広く開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
42号ピット	B－4	0.21	0.19	0.10	N－40°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/3）	
43号ピット	B－4	0.34	0.29	0.46	N－45°－E	楕円形	U字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
44号ピット	I－7	0.45	0.35	0.25	N－87°－E	楕円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
45号ピット	B－5	0.34	0.27	0.18	N－75°－E	楕円形	舟底状	暗褐色土（10YR 3/3）	
46号ピット	B－5	0.29	0.23	0.12	N－41°－E	楕円形	U字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
47号ピット	A－5	0.48	0.35	0.11	N－77°－E	楕円形	U字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
48号ピット	D－5	0.28	0.22	0.42	N－53°－E	楕円形	U字形	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
49号ピット	F－6	0.20	0.21	0.20	N－76°－E	円形	U字形	にぶい黄褐色土(10YR 5/4)	
50号ピット	F－7	0.35	0.32	0.14	N－53°－W	円形	V字形	暗褐色土（10YR 3/4）	土器片
51号ピット	G－7	0.23	0.18	0.04	N－55°－E	隅丸方形	丸底状	にぶい黄褐色土(10YR 4/3)	
52号ピット	E－5	0.36	0.30	0.15	N－12°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/3）	土器片
53号ピット	E－5	0.40	0.38	0.15	N－48°－E	円形	丸底状	黒褐色土（10YR 2/3）	
55号ピット	C－8	0.49	0.44	0.25	N－5°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 3/1）	
56号ピット	C－9	0.43	0.42	0.25	N－3°－W	円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR 3/3）	
57号ピット	C－9	0.48	0.42	0.31	N－44°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 3/1）	
58号ピット	C－9	0.48	0.44	0.18	N－25°－W	円形	上に広く開くU字形	黒褐色土（10YR 3/2）	
60号ピット	L－7	0.31	0.28	0.39	N－44°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
61号ピット	L－7	0.23	0.21	0.16	N－32°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
62号ピット	L－7	0.20	0.17	0.08	N－40°－W	円形	U字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
63号ピット	L－7	0.47	0.44	0.22	N－45°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
64号ピット	L－7	0.57	0.49	0.27	N－51°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	土器片
65号ピット	L－7	0.30	0.28	0.04	N－39°－W	円形	皿状	黒褐色土（10YR 2/2）	土器片
66号ピット	L－7	0.71	0.50	0.44	N－28°－W	円形2個	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
67号ピット	L－7	0.36	0.33	0.17	N－23°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	
68号ピット	L－7	0.21	0.16	0.11	N－80°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR 2/2）	

第30表　ピット計測表（つづき）

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
69号ピット	L－7	0.43	0.34	0.13	N－56°－E	円形	丸底状	黒褐色土（10YR　2/2）	
70号ピット	L－7	0.64	0.47	0.40	N－63°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	土器片
71号ピット	L－7	0.43	0.38	0.28	N－43°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	
72号ピット	L－7	0.48	0.38	0.29	N－66°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	
73号ピット	L－7	0.24	0.23	0.11	N－45°－E	円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR　3/3）	土器片
75号ピット	L－7	0.47	0.42	0.35	N－28°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/3）	土器片
76号ピット	L－7	0.56	0.54	0.39	N－51°－E	円形	上に開くU字形	暗褐色土（10YR　3/3）	
77号ピット	L－7	0.27	0.25	0.12	N－24°－W	円形	丸底状	1～2層	
78号ピット	L－7	0.41	0.33	0.26	N－81°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（7.5YR　2/2）	
79号ピット	L－7	0.33	0.31	0.24	N－35°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（7.5YR　2/2）	
80号ピット	L－7	0.45	0.39	0.13	N－25°－W	円形	皿状	黒褐色土（7.5YR　2/2）	
81号ピット	L－7	0.41	0.39	0.22	N－68°－E	円形	上に開くU字形	1～2層	土器片
82号ピット	K－7	0.28	0.27	0.09	N－27°－W	円形	U字形	黒褐色土（5YR　3/1）	
83号ピット	L－7	0.26	0.20	0.07	N－40°－E	楕円形	浅い丸底状	黒褐色土（5YR　3/1）	
84号ピット	L－7	0.43	0.38	0.11	N－42°－E	隅丸方形	皿状	黒色土（10Y　2/1）	
85号ピット	L－7	0.35	0.30	0.17	N－25°－E	不定形	上に開くV字形	1～3層	
86号ピット	K－7	0.32	0.28	0.08	N－64°－W	円形	皿状	黒色土（10Y　2/1）	
87号ピット	K－7	0.24	0.23	0.08	N－24°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（10Y　2/1）	
88号ピット	K－7	0.39	0.32	0.08	N－72°－E	楕円形	皿状	黒色土（10Y　2/1）	
89号ピット	K－7	0.28	0.27	0.14	N－37°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（10Y　2/1）	
90号ピット	K－7	0.27	0.24	0.04	N－32°－W	円形	浅い丸底状	黒色土（10Y　2/1）	
91号ピット	K－7	0.25	0.24	0.06	N－40°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（10Y　2/1）	
92号ピット	K－7	0.38	0.33	0.05	N－63°－E	楕円形	浅い丸底状（皿状）	黒色土（10Y　2/1）	
97号ピット	K－7	0.26	0.24	0.10	N－36°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（10Y　2/1）	
98号ピット	K－7	0.23	0.20	0.07	N－35°－E	円形	浅い丸底状	黒色土（10Y　2/1）	
105号ピット	C－5	0.23	0.18	0.12	N－38°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
106号ピット	C－5	0.53	0.34	0.22	N－44°－E	楕円形	上に開くU字形	オリーブ褐色土(2.5Y　4/3)	
107号ピット	C－5	0.46	0.39	0.28	N－35°－E	円形	丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
108号ピット	C－5	0.39	0.35	0.12	N－31°－E	楕円形	丸底状	黒褐色土（2.5Y　3/2）	
109号ピット	C－5	0.32	0.29	0.13	N－52°－E	円形	上に開くU字形	1～2層	
110号ピット	D－5	0.43	0.37	0.14	N－14°－W	円形	皿状	1～5層	
111号ピット	D－5	0.36	0.34	0.16	N－40°－E	円形	上に開くU字形	オリーブ黒色土(5Y　2/2)	
112号ピット	C－5･6	0.39	0.36	0.23	N－72°－E	円形	丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
113号ピット	C－6	0.43	0.31	0.08	N－71°－E	楕円形	丸底状	黒褐色土（2.5Y　3/2）	
114号ピット	D－5	0.40	0.39	0.39	N－33°－E	円形	U字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
116号ピット	D－7	0.54	0.40	0.06	N－9°－E	不整形	皿状	黒色土（7.5YR　2/1）	
117号ピット	D－5	0.29	0.27	0.44	N－25°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（10YR　2/1）	
118号ピット	D－6	0.49	0.48	0.10	N－12°－E	隅丸方形	皿状	黒色土（5YR　1.7/1）	
119号ピット	D－6	0.61	0.48	0.23	N－84°－E	隅丸方形	上に開くU字形	黒色土（7.5YR　2/1）	土器片
120号ピット	D－6	0.42	0.42	0.28	N－77°－E	隅丸方形	上に開くU字形	1～4層	土器片
121号ピット	B－7	0.57	0.46	0.07	N－79°－E	隅丸方形	皿状	黒色土（7.5YR　2/1）	
122号ピット	B－7	0.35	0.29	0.44	N－71°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（10YR　2/1）	
123号ピット	C－9	0.45	0.36	0.10	N－80°－E	楕円形	皿状	1～2層	土器片
124号ピット	B－7	0.50	0.39	0.11	N－11°－W	楕円形	上に開くU字形	1～3層	土器片
125号ピット	C－7	0.32	0.30	0.20	N－35°－W	円形	V字形	黒色土（10YR　1.7/1）	
150号ピット	N－7	0.37	0.35	0.16	N－41°－W	円形	舟底状	1～3層	土器片
151号ピット	N－7	0.31	0.27	0.24	N－88°－E	円形	V字形	1～4層	
152号ピット	N－7	0.40	0.33	0.20	N－46°－E	楕円形	舟底状	暗灰黄色土（2.5Y　4/2）	
153号ピット	N－7	0.23	0.22	0.04	N－24°－W	円形	皿状	1～2層	
154号ピット	N－7	0.28	0.27	0.16	N－77°－E	円形	上に開くU字形	1～2層	
155号ピット	N－7	0.21	0.21	0.09	N－28°－E	隅丸方形	上に開くU字形	1～3層	
156号ピット	N－7	0.36	0.34	0.08	N－45°－E	円形	浅い丸底状	1～2層	土器片
157号ピット	N－7	0.15	0.13	0.04	N－30°－E	隅丸方形	上に広く開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	
158号ピット	N－7	0.21	0.21	0.24	N－22°－E	隅丸方形	上に開くU字形	にぶい黄褐色土(10YR　4/3)	
159号ピット	N－7	0.24	0.24	0.10	N－28°－W	円形	丸底状	灰黄褐（10YR　4/2）	
160号ピット	N－7	0.39	0.35	0.19	N－32°－W	円形	舟底状	1～3層	土器片
161号ピット	N－7	0.32	0.22	0.06	N－62°－E	楕円形	浅い丸底状	黒褐色土（10YR　3/2）	
162号ピット	N－7	0.46	0.43	0.11	N－63°－W	円形	皿状	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
163号ピット	N－7	0.33	0.29	0.16	N－11°－W	円形	舟底状	暗褐色土（10YR　3/3）	土器片

第31表　ピット計測表（つづき）

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
164号ピット	M－6	0.28	0.28	0.12	N－36°－E	隅丸方形	上に開くU字形	1～3層	
165号ピット	M－6	0.22	0.21	0.09	N－56°－E	隅丸方形	U字形	1～2層	
166号ピット	M－6	0.17	0.16	0.05	N－50°－E	不定形	上に開くU字形	1～2層	
167号ピット	M－6	0.25	0.24	0.09	N－30°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（7.5YR　3/1）	
168号ピット	M－6	0.39	0.31	0.13	N－66°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（7.5YR　3/1）	土器片
169号ピット	M－6	0.29	0.26	0.22	N－26°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	
170号ピット	M－7	0.26	0.24	0.06	N－61°－W	円形	皿状	黒褐色土（10YR　3/2）	
171号ピット	M－7	0.36	0.35	0.12	N－19°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	
172号ピット	M－7	0.22	0.20	0.32	N－52°－E	円形	U字形	黒褐色土（10YR　3/2）	
173号ピット	M－7	0.30	0.29	0.09	N－39°－W	円形	皿状	黒褐色土（10YR　2/3）	
174号ピット	M－8	0.28	0.26	0.27	N－10°－E	隅丸方形	上に開くU字形	1～4層	
175号ピット	M－8	0.32	0.29	0.08	N－65°－E	円形	浅い丸底状	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
176号ピット	L－7	0.15	0.17	0.06	N－77°－E	円形	上に開くV字形	灰黄褐色土（10YR　4/2）	
177号ピット	L－7	0.16	0.15	0.08	N－41°－E	隅丸方形	上に開くU字形	1～3層	
178号ピット	L－7	0.16	0.15	0.03	N－47°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR3/1）	
179号ピット	L－7	0.33	0.30	0.22	N－44°－W	円形	上に開くU字形	1～2層	
180号ピット	L－7	0.24	0.21	0.06	N－34°－W	円形	上に開くV字形	黒褐色土（10YR3/2）	
181号ピット	L－7	0.19	0.19	0.06	N－80°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR3/2）	
182号ピット	L－7	0.22	0.20	0.09	N－20°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR3/2）	
183号ピット	L－7	0.44	0.26	0.12	N－75°－W	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR3/2）	
184号ピット	L－7	0.25	0.24	0.07	N－79°－E	円形	皿状	黒褐色土（10YR3/2）	
185号ピット	L－7	0.27	0.24	0.04	N－76°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR3/2）	
186号ピット	L－7	0.33	0.31	0.19	N－67°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR3/2）	
187号ピット	L－7	0.60	0.26	0.15	N－58°－E	長楕円形	浅い丸底状	黒褐色土（7.5YR　3/1）	
188号ピット	L－7	0.59	0.42	0.25	N－51°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（7.5YR　3/1）	土器片
189号ピット	L－7	0.25	0.24	0.05	N－22°－W	円形	浅い丸底状	黒褐色土（10YR　3/2）	
190号ピット	L－7	0.30	0.27	0.07	N－40°－E	楕円形	皿状	黒褐色土（10YR　3/2）	
191号ピット	L－7	0.35	0.29	0.07	N－79°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	
192号ピット	L－7	0.20	0.17	0.04	N－36°－E	円形	浅い丸底状	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
193号ピット	L－7	0.40	0.36	0.13	N－85°－W	円形	舟底状	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
194号ピット	M－7	0.30	0.25	0.14	N－30°－E	楕円形	舟底状	黒褐色土（10YR　3/2）	
196号ピット	M－7	0.61	0.27	0.10	N－58°－W	長楕円形	皿状	黒褐色土（10YR　3/2）	
197号ピット	L－7	0.74	0.68	0.14	N－80°－E	円形	皿状	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
198号ピット	L－7	0.31	0.31	0.10	N－43°－W	円形	浅い丸底状	黒褐色土（10YR　3/2）	
199号ピット	L－7	0.26	0.26	0.17	N－45°－E	隅丸方形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	土破片
200号ピット	L－8	0.25	0.25	0.10	N－45°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（7.5YR　2/1）	土器片
201号ピット	L－8	0.23	0.23	0.06	N－45°－E	円形	浅い丸底状	黒褐色土（10YR　3/1）	
202号ピット	M－8	0.28	0.26	0.10	N－36°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/1）	土器片
203号ピット	L－8	0.28	0.28	0.10	N－14°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
204号ピット	L－8	0.27	0.25	0.09	N－57°－E	隅丸方形	丸底状	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
205号ピット	L－8	0.81	0.58	0.23	N－10°－E	隅丸長方形	上に開くU字形	1～2層	土器片
206号ピット	L－8	0.27	0.23	0.10	N－75°－E	楕円形	上に開くV字形	黒褐色土（10YR　2/2）	土器片
207号ピット	L－8	0.64	0.59	0.29	N－3°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	
208号ピット	L－8	0.59	0.48	0.11	N－82°－E	隅丸長方形	皿状	黒褐色土（10YR　2/2）	土器片
211号ピット	M－8	0.24	0.23	0.11	N－43°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　3/2）	土器片
212号ピット	L－8	0.35	0.31	0.26	N－73°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	
215号ピット	H－6	0.65	0.44	0.24	N－44°－E	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	
216号ピット	H－6	0.35	0.34	0.24	N－39°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（10YR　2/1）	
217号ピット	H－6	0.48	0.45	0.20	N－35°－E	円形	上に開くU字形	黒褐色土（2.5Y　3/2）	
218号ピット	H－6	0.40	0.32	0.25	N－13°－W	楕円形	上に開くU字形	黒褐色土（2.5Y　3/2）	
219号ピット	H－6	0.23	0.20	0.17	N－30°－W	円形	上に開くU字形	黒褐色土（10YR　2/2）	
220号ピット	H－6	0.60	0.38	0.18	N－14°－E	楕円形	上に広く開くU字形	黒色土（10YR　2/2）	
221号ピット	H－6	0.30	0.25	0.17	N－15°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
231号ピット	H－10	0.28	0.24	0.28	N－72°－W	円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
232号ピット	H－10	0.18	0.14	0.14	N－18°－E	楕円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
233号ピット	H－10	0.27	0.26	0.08	N－65°－W	円形	皿状	黒色土（2.5Y　2/1）	
234号ピット	H－10	0.27	0.22	0.18	N－84°－E	楕円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
235号ピット	H－10	0.30	0.25	0.12	N－24°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
236号ピット	H－10	0.28	0.22	0.24	N－18°－E	楕円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	

第32表　ピット計測表（つづき）

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
237号ピット	Ⅰ－10	0.27	0.19	0.10	N－32°－E	不定形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
238号ピット	Ⅰ－10	0.35	0.23	0.16	N－25°－E	卵形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
239号ピット	Ⅰ－10	0.18	0.18	0.13	N－45°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
240号ピット	Ⅰ－10	0.18	0.17	0.13	N－45°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
241号ピット	Ⅰ－10	0.17	0.17	0.16	N－45°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
242号ピット	Ⅰ－10	0.25	0.22	0.23	N－35°－W	楕円形	U字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
243号ピット	J－10	0.24	0.21	0.10	N－1°－E	楕円形	皿状	黒色土（2.5Y　2/1）	
244号ピット	J－10	0.28	0.20	0.25	N－25°－E	卵	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
245号ピット	J－10	0.39	0.33	0.27	N－10°－E	円形	狭いV字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
246号ピット	J－10	0.11	0.10	0.05	N－45°－E	円形	丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
247号ピット	J－10	0.33	0.29	0.18	N－21°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
248号ピット	J－10	0.29	0.22	0.04	N－15°－E	楕円形	皿状	黒色土（2.5Y　2/1）	
249号ピット	J－10	0.32	0.23	0.16	N－30°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
250号ピット	J－10	0.23	0.21	0.17	N－25°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	軽石
251号ピット	J－10	0.18	0.17	0.15	N－72°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	土器片
252号ピット	J－10	0.19	0.15	0.17	N－45°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
253号ピット	J－10	0.21	0.17	0.16	N－42°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
254号ピット	J－10	0.21	0.16	0.15	N－41°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
255号ピット	J－10	0.30	0.26	0.14	N－35°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
259号ピット	Ⅰ－10	0.22	0.18	0.18	N－45°－E	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
260号ピット	Ⅰ－10	0.23	0.18	0.15	N－28°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
273号ピット	G－8	0.51	0.23	0.31	N－15°－E	不定形	狭いV字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
274号ピット	G－8	0.34	0.34	0.18	N－45°－E	円形	丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
279号ピット	M－8	0.23	0.14	0.11	N－62°－W	楕円形	袋状～V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
280号ピット	M－8	0.24	0.23	0.07	N－31°－W	円形	浅い丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
281号ピット	M－8	0.23	0.17	0.08	N－25°－W	楕円形	浅い丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
282号ピット	M－8	0.27	0.23	0.08	N－68°－W	円形	上に広く開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
283号ピット	M－8	0.21	0.17	0.14	N－26°－W	楕円形	上に広く開くV字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
284号ピット	M－8	0.38	0.37	0.34	N－30°－E	円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
287号ピット	M－8	0.40	0.22	0.16	N－33°－W	楕円形	上に広く開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
288号ピット	H－8	0.21	0.22	0.20	N－45°－E	円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
289号ピット	M－8	0.40	0.34	0.08	N－3°－E	円形	丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
290号ピット	M－8	0.32	0.21	0.10	N－40°－E	楕円形	丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
291号ピット	L－8	0.22	0.22	0.22	N－45°－E	円形	浅い丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
292号ピット	L－8	0.50	0.23	0.12	N－36°－W	楕円形	上に広く開くV字形	黒色土（2.5Y　2/1）	土器片
293号ピット	G－8	0.39	0.34	0.20	N－23°－E	楕円形	浅い丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
295号ピット	Ⅰ－9	0.21	0.17	0.08	N－8°－E	楕円形	皿状	黒色土（2.5Y　2/1）	
296号ピット	Ⅰ－9	0.23	0.20	0.10	N－38°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
297号ピット	Ⅰ－9	0.26	0.20	0.07	N－77°－W	楕円形	皿状	黒色土（2.5Y　2/1）	
299号ピット	Ⅰ－8	0.22	0.21	0.09	N－45°－E	円形	上に開くV字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
300号ピット	H－9	0.25	0.20	0.16	N－83°－E	楕円形	V字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
301号ピット	H－9	0.47	0.42	0.27	N－45°－E	円形	上に開くU字形	1～3層	
302号ピット	H－9	0.47	0.31	0.12	N－24°－W	不定形	上に開くU字形	1～2層	
303号ピット	H－9	0.42	0.33	0.35	N－13°－W	不定形	V字形	1～4層	
304号ピット	H－9	0.67	0.58	0.19	N－22°－W	楕円形	上に開くU字形	1～7層	土器片
305号ピット	Ⅰ－8	0.40	0.27	0.14	N－30°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
307号ピット	Ⅰ－8	0.20	0.15	0.15	N－27°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	

第33表　ピット計測表（つづき）

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
308号ピット	Ⅰ－8	0.42	0.30	0.11	N－8°－W	楕円形	浅い丸底状	黒色土（2.5Y　2/1）	
309号ピット	H－8	0.33	0.21	0.07	N－74°－W	楕円形	皿状	黒色土（2.5Y　2/1）	
310号ピット	Ⅰ－8	0.31	0.26	0.23	N－44°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
401号ピット	M－6	0.31	0.27	0.25	N－85°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
402号ピット	M－7	0.42	0.36	0.12	N－49°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
403号ピット	M－7	0.23	0.18	0.12	N－20°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
404号ピット	M－7	0.42	0.32	0.12	N－16°－W	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
405号ピット	M－7	0.24	0.23	0.12	N－45°－W	円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	
406号ピット	M－8	0.24	0.21	0.03	N－7°－E	楕円形	上に開くU字形	黒色土（2.5Y　2/1）	

第34表　土壙墓計測表

単位：m

遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆　土	遺　物
1号土壙	B－4	0.76	0.55	0.29	N－7°－E	長方形	上に開くU字形	灰色（5Y　6/1）	人骨1体
2号土壙	B－4	(0.37)	0.40	0.13	N－5°－E	方形	上に開くU字形	灰色（5Y　6/1）	
3号土壙	B－4	1.03	0.65	0.17	N－10°－E	長方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	人骨1体
4号土壙	B－4	0.35	0.25	0.05	N－20°－W	方形	上に広く開くV字形	灰色（5Y　6/1）	銭貨(寛永通寶2)・人骨片
5号土壙	B－4	0.72	0.49	0.10	N－8°－E	長方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
6号土壙	B－4	0.68	0.50	0.07	N－5°－E	長方形	浅い丸底状	灰色（5Y　6/1）	銭貨(寛永通寶6)・人歯
7号土壙	B－4	0.53	0.49	0.11	N－5°－W	方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	人骨片
8号土壙	B－4	0.45	0.35	0.09	N－9°－E	長方形	浅い丸底状	灰色（5Y　6/1）	
9号土壙	B－4	0.72	0.46	0.10	N－7°－E	長方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
10号土壙	B－4	(0.22)	0.58	0.05	N－7°－E	方形	浅い丸底状	灰色（5Y　6/1）	
11号土壙	C－4	0.72	0.71	0.22	N－7°－E	方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
12号土壙	C－4	0.62	0.40	0.08	N－15°－W	長方形	浅い丸底状	灰色（5Y　6/1）	
13号土壙	C－4	0.78	0.50	0.14	N－10°－E	長方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
14号土壙	C－4	0.78	0.63	0.45	N－13°－E	長方形	U字形	灰色（5Y　6/1）	人骨片
15号土壙	C－4	0.39	0.37	0.10	N－3°－E	方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
16号土壙	C－4	0.50	0.40	0.14	N－8°－W	方形	上に開くU字形	灰色（5Y　6/1）	
17号土壙	C－3･4	0.67	0.58	0.35	N－4°－E	方形	上に開くU字形	灰色（5Y　6/1）	人骨片
18号土壙	C－3･4	0.73	0.70	0.15	N－5°－E	方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	人骨片
19号土壙	C－4	0.62	0.55	0.17	N－10°－W	方形	浅い丸底状	灰色（5Y　6/1）	かわらけ片・銭貨(寛永通寶2)
20号土壙	D－4	0.70	0.52	0.15	N－1°－E	方形	上に開くU字形	灰色（5Y　6/1）	かわらけ片
21号土壙	C－4	1.13	1.10	0.25	N－8°－E	方形	上に開くU字形	灰色（5Y　6/1）	人骨片
22号土壙	B－4	(0.18)	0.68	0.05	N－2°－E	方形	浅い丸底状	灰色（5Y　6/1）	
23号土壙	B－4	0.65	0.50	0.05	N－15°－E	方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
24号土壙	B－4	0.59	0.39	0.05	N－11°－E	長方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	
25号土壙	G－6	(0.42)	0.40	(0.05)	N－22°－E	不定形	皿状	暗褐色土(10YR 3/3)	かわらけ片・銭貨(寛永通寶2)・人骨片
26号土壙	C－4	0.63	0.60	0.08	N－9°－E	方形	皿状	灰色（5Y　6/1）	かわらけ片・銭貨(寛永通寶4)・人骨片

第35表　井戸計測表

単位：m

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	N値変換方位	平面形状	断面形状	覆 土	遺　物
1号井戸	M－7	1.55	1.50	0.80	N－87°－E	円形	上に開くU字形	3層	

第36表　周溝墓 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
33図1	1号周溝	弥生土器 壺	口径　14.9 器高　(11.5) 頸径　6.3	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：頸部に縄紋を思わせる刺突紋が施されているが摩耗している。 内面：縄紋を思わせる刺突紋。	普通 灰色・白色 赤色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～頸部のみ残存
33図2	1号周溝	弥生土器 壺	器高　(4.1) 底径　(8.4)	底部から体部下半にかけて大きく外反する。	外面：斜位のハケ目。 内面：摩耗しているが底部にわずかにハケ目の痕。	普通 長石・黒色・石英・橙色粒子	7.5YR4/1 褐灰	底部～体部下半一部残存
36図1	2号周溝	弥生土器 甕	口径　(19.0) 器高　(17.4) 頸径　(18.0) 体部最大径 (24.8)	体部は緩やかに内湾し、頸部から口縁部かけやや外反気味に開く。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部に縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。体部に板ナデ。	普通 長石・石英・黒色・赤色粒子	7.5YR6/3 にぶい褐	口縁部～体部下半1/4残存
36図2	2号周溝	弥生土器 甕	口径　(25.0) 器高　(11.5) 頸径　(20.3) 体部最大径 (24.3)	体部は内湾し、口縁部はやや外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部に斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。	普通 灰色・黒色・赤色粒子、小礫 (2㎜大)	5YR7/4 にぶい橙	口縁部～体部中央1/4残存
39図1	3号周溝	弥生土器 甕	口径　(13.4) 器高　(2.7) 頸径　(11.1)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕、横位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位・斜位のハケ目。	普通 白色粒子	7.5YR6/3 にぶい橙	口縁部1/16残存
41図1	4号周溝	弥生土器 甕	口径　(18.8) 器高　(5.7) 頸径　(16.6)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕、斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。	粗 灰色・黒色粒子、礫 (3㎜大)	2.5YR7/4 淡赤橙 7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部1/6残存
44図1	5・7号周溝	弥生土器 壺	器高　(2.0) 底径　(8.0)	平底の底部から外反する。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。 内面：横位・斜位のハケ目痕がわずかに残るが摩耗している。	やや粗 白色・灰色・茶色粒子、小礫 (2㎜大) 多い	7.5YR8/4 浅黄橙	底部1/6残存
44図2	5・7号周溝	弥生土器 台付甕	器高　(4.8) 脚接合部径 (7.8)	脚接合部から体部下半にかけて内湾する。	外面：斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色・赤色粒子、小礫 (2㎜大)	10YR7/4 にぶい黄橙	体部下半～底部1/4残存
50図1	8号周溝	弥生土器 壺	器高　(4.8) 底径　(8.0)	平底の底部から大きく外反する。	外面：底部に斜位・縦位のハケ目。体部下半にヘラ磨き。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色 赤色粒子 多い	5YR8/4 淡橙 5Y3/1 オリーブ黒	底部～体部下半2/3残存
50図2	8号周溝	弥生土器 壺	口径　(12.2) 器高　27.6 底径　(7.6) 最小頸部 6.1 体部最大径 (24.7)	平底は平底。体部下半が下膨れする無花果形。頸部～口縁部は外反し、口縁端部に段をつけている。	外面：口縁部に刻み目痕。体部下半に波状、斜行縄紋を思わせる刺突紋があるが摩耗している。体部中央、底部に斜位・縦位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・灰色 透明粒子、小礫 (2㎜大) 多い	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y5/1 黄灰	口縁部1/3、体部2/3、底部1/5残存

第37表　周溝墓 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
50図 3	8号 周溝	弥生土器 甕	口径　(18.6) 器高　(20.2) 頸径　(18.6) 体部最大径 (25.6)	体部下半～体部上半は大きく外反、体部中央～頸部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。頸部に縦位・横位のハケ目。体部に斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。体部に板ナデ。	普通 長石・石英・黒色・茶色粒子、 礫（4㎜大） 少量	10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部一部、体部1/4残存
53図 1	9号 周溝	弥生土器 小型壺	器高　(16.9) 底径　6.0 頸径　5.0	底部は平底だが中央に意図的に開けたと思われる穴（径1.8㎝）あり。体部下半まで外反し、体部下半～頸部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	外面：口縁部、体部、底部に斜位・縦位のハケ目。頸部にヘラ磨き。 内面：口縁部に斜位のハケ目。	やや粗 石英粒子、長石・灰色・茶褐色小礫（2㎜大） 多い	10YR7/2 にぶい黄橙	頸部～体部、底部残存
53図 2	9号 周溝	弥生土器 小型壺	器高　(19.0) 底径　(10.0) 頸径　4.7	体部上半～頸部は内湾、頸部は外反する。	外面：体部に刺突紋、底部に斜位のハケ目。 内面：体部と底部に斜位のハケ目。	やや粗 長石・石英・灰色・黒色粒子、 礫（2～3㎜大）	7.5YR4/1 褐灰	頸部～体部、底部1/4残存
53図 3	9号 周溝	弥生土器 甕	口径　(25.2) 器高　(19.6) 頸径　(24.0) 体部最大径 (29.6)	体部下半～体部上半は外反、体部中央～頸部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部は横位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。	普通 長石・石英・黒色粒子	10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部一部、体部1/3残存
58図 1	11号 周溝	弥生土器 壺	口径　(10.8) 器高　(5.6) 頸径　(5.0)	頸部から口縁部にかけて外反する。	外面：口縁部に刺突紋、斜位のハケ目。頸部にヘラ磨き。 内面：口縁部に刺突紋。頸部にヘラ磨き。	普通 長石・石英・黒色粒子	10YR8/2 灰白	口縁部1/16残存
58図 2	11号 周溝	弥生土器 壺	器高　(5.0)	体部から肩部は内傾する。	外面：羽状の刺突紋の後やや細長い貼り付け浮紋が一周していると思われる。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	粗 白色・黒色・石英粒子 多い	10YR5/2 灰黄褐	体部1/2残存
58図 3	11号 周溝	弥生土器 壺	器高　(23.6) 頸径　7.0 体部最大径 (28.5)	体部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	外面：体部上半に波状紋、刺突紋、3個1組の浮紋が2箇所にあったと思われる。体部中央は縦位・斜位のハケ目。体部下半はヘラ磨き。 内面：口縁部に波状紋、ヘラ磨き。体部は板ナデ。	普通 長石・石英粒子 多い	7.5YR7/2 明褐灰	頸部～体部下半2/3残存
58図 4	11号 周溝	弥生土器 甕	口径　(18.4) 器高　(5.3) 頸径　(16.7)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部上半は縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に斜位・横位のハケ目。	やや粗 灰色・白色 赤茶色粒子 礫（3㎜大） 多い	7.5YR6/3 にぶい褐	口縁部1/4残存

第38表　周溝墓 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
58図5	11号周溝	弥生土器 甕	口径　(19.0) 器高　(8.2) 頸径　(16.6)	体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。頸部に縦位のハケ目。体部に横位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。体部に指頭圧痕。	普通 白色・黒色・赤色・石英粒子 多い	10YR5/2 灰黄褐	口縁部～体部 1/6 残存
58図6	11号周溝	弥生土器 甕	口径　33.4 器高　(24.3) 頸径　30.4 体部最大径 39.2	体部は内湾する。口縁部は「く」の字状に外反し端部は波状。	外面：口縁部～体部は斜位・横位のハケ目。口縁端部を波状に整える。 内面：口縁部に横位・斜位のハケ目。体部に指頭圧痕。	やや粗 赤色・白色・灰色・透明粒子、小礫（2㎜大） 多い	5YR7/6 橙	口縁部～体部上半 2/3 残存
58図7	11号周溝	弥生土器 台付甕	口縁部 16.4 器高　(21.3) 頸径　(14.4) 体部最大径 (17.3)	体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部は斜位・横位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。	普通 灰色・黒色・橙色粒子	7.5YR7/2 明褐灰	口縁部～体部 3/5 残存
61図1	12号周溝	弥生土器 壺	口縁部 18.9 器高　32.3 底径　9.7 頸径　7.4	底部は平底。体部下半が下膨れする無花果形。頸部～口縁部は大きく外反し、端部を四角形に収める。	外面：口縁部、体部中央、底部に斜位のハケ目。頸部、体部下半にヘラ磨き。頸部下半に羽状の刺突紋。体部上半に斜位の刺突紋。口縁部に刻み目が一周していると思われるが、摩耗の為、調整不明瞭。 内面：口縁部、底部に斜位のハケ目。	やや粗 灰色・赤色粒子	5YR7/4 にぶい橙 5YR7/2 明褐灰	口縁部 1/2 残存、体部 2/3 残存、底部 1/4強 欠損
61図2	12号周溝	弥生土器 壺	器高　(20.3) 底径　(7.6) 頸径　5.4 体部最大径 17.8	底部はほぼ平底。体部下半が下膨れする無花果形。頸部～口縁部は外反する。	外面：体部・底部に斜位のハケ目。 内面：底部に板ナデ。	やや粗 灰色・白色・赤色粒子、小礫（2㎜大）	7.5YR7/6 橙	頸部～体部 3/4、底部1/2 残存
63図1	14号周溝	弥生土器 小型壺	器高　(11.4) 頸径　(6.0) 体部最大径 (13.8)	体部下半が下膨れする無花果形を呈すると思われる。	外面：斜位のハケ目後、横位・斜位の刺突紋。体部中央に2本の波状紋。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色粒子、小礫（2㎜大）	2.5Y4/1 黄灰 10YR8/2 灰白	体部 1/5 残存
65図1	17号周溝	弥生土器 台付甕	器高　(5.4) 底径　(9.4)	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：縦位・斜位のハケ目。 内面：横位のハケ目。	粗 白色・灰色・橙色粒子	7.5YR8/1 灰白	脚部 2/5 残存
67図1	18号周溝	弥生土器 壺	器高　(1.6) 底径　(9.8)	体部は外反する。	外面：体部は斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	粗 長石・石英・黒色粒子	5YR7/3 にぶい橙	底部 一部 残存

第39表　周溝墓 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
70図1	19号周溝	弥生土器 壺	口径　11.2 器高　(9.9) 頸径　4.2	体部上半～頸部は内湾。頸部～口縁部は大きく外反。	外面：体部上半は縦位のハケ目、羽状の刺突紋。頸部はヘラ磨き。口縁部は斜位のハケ目、羽状の刺突紋、3個1組の棒状浮紋が5箇所あり。 内面：頸部はヘラ磨き。口縁部は3重の羽状の刺突紋。	普通 長石・黒色・赤色・石英粒子 多い	7.5YR7/2 明褐灰	口縁部～体部中央残存 (口縁部1/4欠損)
70図2	19号周溝	弥生土器 壺	器高　(23.0) 底径　(9.0) 体部最大径 (25.1)	底部は平底。体部下半が下膨れする無花果形。	外面：体部下半はヘラ磨き。底部は縦位のハケ目。 内面：体部は板ナデ。	普通 白色・灰色・茶色・黒色粒子、小礫（2㎜大） 多い	10YR8/3 浅黄橙	体部1/3、底部1/2残存
70図3	19号周溝	弥生土器 壺	口径　15.8 器高　(20.2) 頸径　(12.8)	口縁部は「く」の字状に外反し、端部を四角形に収める。	外面：口縁端部と体部は斜位のハケ目。 内面：口縁部～体部は横位・斜位のハケ目。	やや粗 白色・灰色・赤色粒子	7.5YR7/2 明褐灰	口縁部2/3、頸部残存
70図4	19号周溝	弥生土器 壺	器高　(2.9) 底径　(8.0)	平底の底部から大きく外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	粗 白色・灰色・赤色粒子 多い	7.5YR8/4 浅黄橙	底部のみ残存
70図5	19号周溝	弥生土器 甕	口径　(21.8) 器高　(9.7) 頸径　(20.4) 体部最大径 (23.8)	体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部は斜位・縦位のハケ目。 内面：口縁部～体部は横位のハケ目。	やや粗 白色・灰色・赤色粒子、礫（3㎜大） 多い	5YR7/4 にぶい橙	口縁部～体部上半1/5残存
70図6	19号周溝	弥生土器 甕	器高　(13.5) 頸径　(16.8) 体部最大径 (21.0)	口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾する。	外面：体部は縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部は横位・斜位のハケ目。	やや粗 白色・灰色・赤色粒子、礫（3㎜大） 多い	10YR8/4 浅黄橙	体部2/3残存
70図7	19号周溝	弥生土器 甕	口径　28.5 器高　(22.3) 頸径　(25.5) 体部最大径 (32.4)	体部下半～体部中央は外反し、体部中央～肩部は内湾する。口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕、口縁部～体部は斜位のハケ目。 内面：口縁部は横位・斜位のハケ目。	やや粗 白色・灰色・赤色粒子	5YR7/2 明褐灰	口縁部1/5、体部1/5欠損
72図1	20号周溝	弥生土器 壺	器高　(5.8) 底径　(6.4)	平底の底部から外反して立ち上がる。	外面：底部に斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色粒子	5YR6/6 橙	体部下半～底部1/4残存
72図2	20号周溝	弥生土器 壺	器高　(1.5) 底径　(9.2)	平底の底部から外反する。	外面：底部に縦位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 長石・石英・黒色粒子	7.5YR6/3 にぶい褐	底部1/2残存

第40表　溝状遺構 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
76図 1	28溝	弥生土器 壺	口径　(19.8) 器高　(9.5) 頸径　(7.4)	頸部～口縁部は「く」の字状に外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 長石・石英・黒色粒子多い	10YR7/2 にぶい黄橙	口縁部～頸部 1/4 残存
76図 2	28溝	弥生土器 壺	器高　(12.9) 底径　6.4 体部最大径 21.9	平底の底部から体部下半にかけて外反し、体部下半から体部上半にむかって内湾する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・透明・灰色・赤色粒子、礫（4㎜大）多い	5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	底部～体部中央 残存
76図 3	28溝	弥生土器 甕	口径　(17.8) 器高　(9.5) 頸径　(16.0)	体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。体部に縦位・斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	粗 白色・灰色・茶色粒子、礫（2～4㎜大）多い	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部～体部中央 1/4 残存
76図 4	28溝	弥生土器 台付甕	器高　(6.6) 底径　8.8 脚接合部径 5.6	脚部は緩やかに「ハ」の字状に開く。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	粗 灰色・白色赤色粒子多い	5YR6/3 にぶい橙	脚部 3/4 残存
76図 5	28溝	須恵器 平瓶	口径　6.6 器高　9.3 底径　8.0 頸径　5.1 体部最大径 12.9	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。底部～体部上半は直線的に外反し、体部上半～頸部は内傾する。頸部～口縁部は直線的に外反し、口縁端部を丸く収める。	内外面ともナデ。 外面体部下半に5本の沈線。 内外面とも全体に釉がかかっている。	粗 白色・灰色・黒色粒子	2.5Y6/1 黄灰	口縁部 1/3 残存
84図 1	50溝	弥生土器 台付甕	器高　(6.1) 底径　9.3 脚接合部径 (5.8)	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 灰色・黒色・白色粒子、小礫（2㎜大）	5YR7/4 にぶい橙	脚部のみ 残存
85図 1	51溝	弥生土器 壺	口径　12.0 器高　(5.8) 頸部　(4.8)	頸部～口縁部は大きく開き、端部を四角形に収める。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。 内面：口縁部に羽状の刺突紋。	粗 灰色・白色粒子	2.5YR7/6 橙	口縁部～頸部 1/4 残存
87図 1	55溝	弥生土器 壺	口径　(13.2) 器高　(7.0) 頸径　(6.6)	口縁部は「く」の字状に外反し、端部に段をつけている。	外面：頸部に櫛目紋。 内面：口縁部に斜位のハケ目。	やや粗 白色・赤色・灰色粒子	7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR6/1 褐灰	口縁部～頸部 1/4 残存
87図 2	55溝	弥生土器 壺	器高　(12.8) 頸径　11.4	肩部から頸部にむかって内傾し、頸部は口縁部にむかって外反しながら立ち上がる。	外面：頸部に縦位のハケ目。頸部と肩部の間に斜位の刺突紋。肩部に斜位・横位のハケ目。 内面：頸部に斜位のハケ目。	粗 灰色・白色・橙色・赤色粒子	5YR6/3 にぶい橙	頸部、肩部 1/4 残存
87図 3	55溝	弥生土器 壺	器高　5.7 底径　7.2	平底の底部から内湾して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	粗 白色・灰色粒子	5YR7/6 橙	体部下半 1/4、 底部1/2 残存

第41表　溝状遺構 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
87図4	55溝	弥生土器 壺	器高　(4.9) 底径　(6.2)	底部は平底。体部下半が下膨れする無花果形を呈すると思われる。	外面：底部～体部下半は斜位のハケ目。体部下半にヘラ磨き。底部に木葉痕。 内面：底部は横位のハケ目。	普通 灰色・白色 黒色粒子	10YR6/2 灰黄褐 10YR4/1 灰褐	体部下半1/3、底部1/2残存
87図5	55溝	弥生土器 甕	口径　(15.0) 器高　(12.7) 頸径　(13.4) 体部最大径 (16.4)	体部は内湾し、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。体部に縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。体部に板ナデ。	粗 白色・赤色・灰色粒子 多い	5YR7/3 にぶい橙	口縁部～体部下半1/4残存
87図6	55溝	弥生土器 甕	口径　15.4 器高　(8.2) 頸径　13.5	口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾する。	外面：口縁部は刻み目痕。口縁部～体部は縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部は横位のハケ目。	やや粗 灰色・白色 赤茶色粒子、小礫（2㎜大） 多い	5YR7/4 にぶい橙	口縁部～体部中央残存
87図7	55溝	弥生土器 台付甕	口径　(22.2) 器高　(26.2) 頸径　(20.8) 体部最大径 (27.4)	脚接合部～体部下半は外反。体部中央～頸部は内湾。口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部は刻み目痕。口縁部～体部は縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部～体部は横位のハケ目。	やや粗 長石・石英・黒色粒子 礫 （2～3㎜大）	7.5YR4/2 灰褐	口縁部～体部中央、体部下半～底部残存
87図8	55溝	弥生土器 高坏	器高　(12.0) 底径　(15.4)	脚接合部～底部は緩やかに外反して下りる。脚部中央に径8～9㎜の孔が4箇所ある。	外面：縦位・斜位のハケ目。 内面：横位・斜位のハケ目。	普通 透明・白色・灰色粒子	2.5YR5/4 にぶい 赤褐	脚部2/3残存
94図1	66溝	土師器 皿	口径　(18.8) 器高　4.6 底径　(8.6)	底部は平底。口縁部にむかって大きく外反。	外面：底部に回転糸切り痕。 他は摩耗の為、調整不明瞭。	密 石英・黒色・赤色粒子	5YR7/6 橙	口縁部一部、底部1/4残存
95図1	70溝	弥生土器 甕	口径　(20.8) 器高　(2.6)	口縁部は外反する。	外面：口縁部に刻み目痕、縦位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。	普通 茶色・灰色粒子	10YR5/1 褐灰 7.5YR7/3 にぶい褐	口縁部1/12残存
97図1	67溝	弥生土器 壺	器高　(2.7) 底径　(7.2)	平底の底部から外反する。	外面：斜位のハケ目がわずかに残るが摩耗している。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・灰色粒子、 礫（3㎜大） 多い	5YR7/4 にぶい橙 2.5Y5/1 黄灰	底部3/4残存
99図1	68溝	弥生土器 壺	口径　(10.6) 器高　(4.9) 頸径　(6.1)	頸部～口縁部は外反する。	外面：斜位のハケ目。 内面：斜位のハケ目が残るが、摩耗している。	普通 白色・灰色・茶色粒子、 小礫（2㎜大） 多い	10YR7/2 にぶい 黄橙	口縁部1/4残存
99図2	68溝	須恵器 甕	口径　(12.0) 器高　(5.2) 頸径　(10.8)	口縁部は「く」の字状に外反し、端部を三角形に収めている。	内外面ともナデ。 全体に釉がかかっている。	密 白色・灰色粒子	N7/ 灰白	口縁部1/8残存

第42表　溝状遺構 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
101図1	69溝	弥生土器 壺	器高　(2.6) 底径　(5.6)	平底の底部から大きく外反する。	外面：縦位・斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 灰色・白色粒子、 小礫（2㎜大）	10YR8/2 灰白 10YR5/1 褐灰	底部1/5 残存
101図2	69溝	弥生土器 甕	口径　(18.6) 器高　(4.5) 頸径　(17.8)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。体部に斜位・横位のハケ目。頸部に刺突紋。 内面：頸部に斜位・横位のハケ目。	普通 灰色・黒色 赤色粒子	7.5YR6/2 灰褐	口縁部 1/8 残存
103図1	71溝	弥生土器 壺	口径　(15.0) 器高　(6.3)	頸部～口縁部は外反し、口縁端部は折り返して複合口縁になっている。	外面：口縁部は刺突紋後、2個1組の浮紋が3箇所に貼り付けてある。頸部は斜位のハケ目。 内面：口縁部は刺突紋後、竹管紋（単位は不明）が一周していると思われる。	やや粗 長石・石英・橙色・黒色粒子	7.5YR7/3 にぶい橙	口縁部 1/3 残存
103図2	71溝	弥生土器 小型壺	器高　(11.6) 頸径　4.35 体部最大径 13.3	体部下半～体部中央は丸味を帯びて外反する。体部中央～頸部は内湾する。	外面：体部上半に2本の太い沈線と羽状刺突紋。下半に斜位のハケ目。 内面：体部に指頭圧痕。	普通 石英・長石・黒色粒子	10YR7/3 にぶい黄橙	頸部～ 体部下半 残存
103図3	71溝	弥生土器 壺	器高　(8.3) 底径　(8.6)	底部は平底。 体部は丸味を帯びて外反する。	外面：体部下半～底部は縦位・斜位のハケ目。底部に木葉痕。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・灰色粒子、 小礫（2㎜大）多い	7.5YR7/2 明褐灰	底部～ 体部下半 1/2 残存
103図4	71溝	弥生土器 壺	口径　(14.0) 器高　(3.2) 頸径　(7.4)	ほぼ平底の底部から外反して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 赤色・灰色・白色粒子	10YR8/3 浅黄橙	底部のみ 残存
103図5	71溝	弥生土器 壺	器高　(4.9) 底径　9.4	底部中央に段あり。体部は外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 長石・石英・黒色粒子多い 白色礫（3～4㎜大）少量	5Y5/1 灰	底部～ 体部下半 残存
103図6	71溝	弥生土器 甕	口径　20.1 器高　(21.1) 頸径　(18.8)	体部は内湾し、口縁部で「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕、斜位のハケ目。体部に斜位・横位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。体部に板ナデ。	やや粗 白色・灰色 橙色粒子	2.5YR6/6 橙	口縁部 1/10、 体部1/8 残存
103図7	71溝	弥生土器 甕	口径　(43.3) 器高　(6.1) 頸径　(22.1)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。体部は斜位のハケ目。 内面：口縁部は横位のハケ目。	やや粗 赤色・灰色・白色粒子	2.5YR7/2 明赤灰 N4/ 灰	口縁部 1/10 残存

第43表　溝状遺構 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
103図 8	71溝	弥生土器 甕	口径　(21.0) 器高　(4.5) 頸径　(18.3)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。体部に斜位のハケ目。 内面：体部に横位のハケ目。	やや粗 白色・灰色粒子、小礫（2㎜大）多い	7.5YR7/6 橙	口縁部 1/5 残存
103図 9	71溝	弥生土器 甕	口径　(15.2) 器高　(5.0) 頸径　(12.0)	口縁部は「く」の字状に外反し、端部を四角形に収める。	外面：口縁部に刻み目痕。 内面：口縁部は横位のハケ目。	普通 茶色・灰色粒子 多い	5YR7/2 明褐灰	口縁部 1/5 残存
103図 10	71溝	弥生土器 台付甕	器高　(10.3) 底径　(7.8) 脚接合部径 4.6	脚部は「ハ」の字状に開く。体部は外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 長石・石英・灰色粒子	7.5YR7/2 明褐灰	脚部 1/2 残存
103図 11	71溝	弥生土器 台付甕	器高　(7.9) 底径　(10.6) 脚接合部径 (5.6)	脚部は「ハ」の字状に開き、体部は内湾する。	外面：脚部は縦位・斜位のハケ目。 内面：脚部は板ナデ。	粗 赤色・灰色粒子	7.5YR7/2 明褐灰	脚部 3/4 残存
103図 12	71溝	弥生土器 台付甕	器高　(7.6) 底径　10.3 脚接合部径 6.6	脚接合部～底部は緩やかに外反する。	外面：縦位のハケ目。 内面：板ナデ。	普通 赤色・灰色・白色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	脚部 2/3 残存
103図 13	71溝	弥生土器 台付甕	器高　(5.1) 底径　9.9	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：ハケ目痕がわずかに残るが摩耗している。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 黒色・灰色・粒子	5YR7/3 にぶい橙	脚部のみ残存
103図 14	71溝	弥生土器 台付甕	器高　(7.4) 底径　(12.0) 脚接合部径 (5.6)	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：縦位のハケ目。 内面：板ナデ。	粗 赤色・灰色・橙色粒子	5YR7/3 にぶい橙	脚部 1/4 残存
103図 15	71溝	弥生土器 台付甕	器高　(9.0) 底部　14.0	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：縦位・斜位のハケ目。 内面：わずかに板ナデ痕？が残る。	やや粗 長石・石英・黒色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	脚部 2/3 残存
104図 16	71溝	弥生土器 鉢	口径　17.1 器高　7.6 底径　5.5	平底の底部から口縁部まで大きく外反する。	外面：斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色・橙色粒子	5YR7/2 明褐灰	ほぼ完形
104図 17	71溝	弥生土器 鉢	口径　(22.0) 器高　(9.5)	体部～口縁部は内湾する。	外面：口縁部～体部は斜位のハケ目。 内面：体部に板ナデ。	やや粗 白色・灰色・赤色粒子 多い	10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部～体部 1/6 残存
104図 18	71溝	弥生土器 鉢	口径　(17.6) 器高　12.2 底径　6.4 頸径　(16.0) 体部最大径 (18.1)	底部は平底。体部は球形。口縁部は「く」の字状に外反し、端部を四角形に収める。	外面：口縁部～体部に横位・斜位のハケ目。 内面：口縁部に横位のハケ目。	粗 白色・灰色茶色粒子、礫（3㎜大）多い	2.5YR7/6 橙	口縁部～体部1/4、底部 残存
104図 19	71溝	弥生土器 鉢？	器高　(4.3) 底径　4.5 脚接合部径 4.3	脚接合部から裾部は短く、ほぼ垂直に下りる。体部は内湾する。	外面：脚接合部に縦位のハケ目。 内面：体部に板ナデ。	普通 白色・灰色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	脚部のみ残存
104図 20	71溝	弥生土器 鉢？	器高　(12.2)	口縁部は直線的に立ち上がり、端部を四角形に収める。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・灰色・赤色粒子 多い	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部 一部 残存
122図 1	7溝	土師器 碗	口径　12.7 器高　5.0	丸味を帯びた底部から口縁部まで内湾する。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。 内面：板ナデ。	普通 石英・雲母・長石粒子	2.5YR7/3 淡赤橙	口縁部～底部 1/2 残存

第44表　溝状遺構 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
122図2	7溝	須恵器 坏身	口径　(14.2) 器高　4.4 底径　(5.5)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部はやや内湾気味に開く。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 黒色・白色・灰色粒子、小礫（2㎜大）	N7/ 灰白	口縁部～体部1/4残存 底部一部欠損
122図3	7溝	須恵器 皿	口径　(19.8) 器高　5.1 底径　(10.2)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部はやや内湾気味に大きく開く。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。 口縁部に釉がかかっている。	密 灰色・白色・粒子	N7/ 灰白	口縁部～底部1/5残存
125図1	9溝	弥生土器 高坏	器高　(8.5) 底径　9.8	脚接合部は裾部にむかって開く。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 長石・赤色・黒色粒子、礫（4㎜大）多い	2.5YR7/2 明赤灰	脚部のみ残存
125図2	9溝	弥生土器 壺	器高　(2.3) 底径　7.9	平底の底部から外反する。	外面：底部は縦位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 長石・石英・灰色・黒色粒子、礫（1～3㎜大）	10YR7/1 灰白	底部のみ残存
125図3	9溝	土師器 坏	口径　(17.2) 器高　5.5	丸味を帯びた底部から内湾して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	粗 灰色・茶色粒子、礫（3㎜大）	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部～底部1/2残存
125図4	9溝	土師器 高坏	器高　(5.7) 底径　10.2	脚接合部～底部は大きく開く。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 長石・石英・黒色粒子	7.5YR8/2 灰白	脚部のみ残存
125図5	9溝	土師器 甑		牛角状を呈する。	外面は摩耗の為、調整不明瞭。	普通 石英・長石粒子、礫（3㎜大）	2.5YR6/8 橙	把手のみ残存
125図6	9溝	須恵器 坏蓋	口径　(9.8) 器高　4.0	弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下りる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。口縁部はナデ。 内面：全体ナデ。	密 白色・茶色粒子	N5/ 灰	口縁部1/2残存
125図7	9溝	須恵器 坏蓋	口径　(10.6) 器高　4.2	弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下りる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N7/ 灰白	口縁部～体部3/4欠損
125図8	9溝	須恵器 坏蓋	口径　11.0 器高　4.0	天井部は平らで、体部～口縁部は直線的に開いている。	外面：口縁部～体部はナデ。天井部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 黒色・白色・茶色粒子、小礫（2㎜大）	7.5YR7/1 明褐灰	口縁部1/4欠損
125図9	9溝	須恵器 坏身	口径　10.1 器高　3.2	底部は弓張り状。口縁部と体部の間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	N7/ 灰白	口縁部1/5欠損
125図10	9溝	須恵器 高坏	口径　(13.2) 器高　(4.4)	体部～口縁部は内湾する。	内外面ともナデ。 内面全体に釉がかかっている。	密 白色・黒色灰色粒子	N5/ 灰	口縁部～体部1/2残存

第45表　溝状遺構 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
125図 11	9溝	須恵器 甕	口径　(13.0) 器高　(5.4) 頸径　(11.8)	口縁部は「く」の字状に外反する。	内外面ともナデ。	密 長石・石英・灰色・黒色粒子、礫(2～3㎜大)	10YR6/1 褐灰	口縁部 1/6 残存
125図 12	9溝	須恵器 甕	口径　(34.4) 器高　(15.0)	頸部～口縁部は緩やかに外反する。	外面：頸部は板ナデ。口縁部は刺突紋、沈線が3箇所あり。 内面：板ナデ。	密 白色粒子、小礫(2㎜大)	2.5YR4/2 灰赤 5YR5/1 褐灰	口縁部 1/3 残存
125図 13	9溝	須恵器 瓶	口径　(10.0) 器高　(5.1)	頸部～口縁部は丸味をもって外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。 内面口縁部に釉がかかっている。	密 白色・石英・黒色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部 ～頸部 1/6 残存
229図 1	6溝	山茶碗 碗	器高　(2.7) 底径　(7.4)	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。	外面：体部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色粒子 礫(5㎜)	5YR7/1 明褐灰	底部1/2 残存
229図 2	6溝	山茶碗 碗	器高　(3.5) 底径　(6.8)	平底の底部に断面が細い長方形の貼り付け高台が付く。体部は内湾して立ち上がる。	外面：体部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。 内外面とも釉がかかっている。	密 灰色・白色粒子	7.5YR7/1 明褐灰	底部3/4 残存
229図 3	6溝	山茶碗 小皿	口径　(9.6) 器高　2.6 底径　(5.0)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部はやや外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 黒色・白色粒子	5Y7/1 灰白	口縁部～ 体部1/3、 底部1/2 残存
247図 1	22溝	土師器 坏	器高　(2.6) 底径　(5.2)	平底の底部から外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 茶色・赤色・透明粒子	7.5YR7/4 浅黄橙	底部 1/2 残存
247図 2	22溝	かわらけ 小皿	口径　10.1 器高　2.8 底径　5.3	平底の底部から口縁部まで直線的に開く。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	普通 白色・灰色・赤色・透明粒子、 小礫(2㎜)	5YR7/6 橙	完形
247図 3	22溝	かわらけ 小皿	口径　10.0 器高　3.1 底径　5.8	平底の底部から口縁部まで直線的に開く。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	普通 灰色・赤色・透明粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	完形

第46表　溝状遺構 出土土錘 観察表

図版番号	遺構名	種別	長さ（㎜）	最大幅（㎜）	孔径（㎜）	重量（g）	胎土	色調	残存率
240図 1	1溝	土錘	20.5	8.0	2.5	1.15	密 白色・灰色粒子	2.5YR5/4 にぶい赤褐	一部欠損

第47表　溝状遺構 出土石器 計測表

図版番号	遺構名	種別（㎜）	最大長（㎜）	最大幅（㎜）	最大厚（㎜）	重量（g）	石材
76図 6	28溝	石錘	6.79	6.86	1.68	100.46	砂岩

第48表　自然排水路 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
138図1	自排(8溝)	土師器 碗	口径 7.8 器高 5.3	丸味を帯びた底部から内湾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 灰色・透明・赤茶色粒子	7.5YR7/6 橙	完形
138図2	自排(G-8)	土師器 甕	口径 (12.4) 器高 (8.0) 頸径 (10.8)	体部は内湾し、頸部～口縁部は緩やかに外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・赤色粒子、礫（0.5～4㎜大）	2.5YR5/6 明赤褐	口縁部1/4、体部1/2残存
138図3	自排(G-8)	土師器 甕	口径 (22.0) 器高 (2.3)	口縁部は大きく外反し、端部を丸く収める。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。 内面：口縁部は横位のハケ目。	普通 赤色・白色・金色粒子、小礫（0.5～1.5㎜大）	10YR4/1 褐灰	口縁部1/4残存
138図4	自排(8溝)	須恵器 坏蓋	口径 11.7 器高 4.1	天井部は歪んでいる。体部は内湾し、口縁部は開きながら直線的に下りる。	外面：口縁部～体部はナデ。天井部は回転ヘラ削り。天井部に記号あり。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色・黒色・茶色粒子	N6/灰	完形
138図5	自排(8溝)	須恵器 坏蓋	器高 2.25	弓張り状の天井部に径3.6㎝の中央がくぼんだ円盤状のつまみが付く。	外面：天井部は回転ヘラ削り。 内面：ナデ。	密 透明・白色・粒子	N7/灰白	天井部中央のみ残存
138図6	自排(8溝)	須恵器 坏蓋	器高 2.3	弓張り状の天井部に径2.9㎝の扁平擬宝珠状のつまみが付く。	外面：天井部は回転ヘラ削り。 内面：ナデ。	密 黒色・白色・粒子	N7/灰白	天井部中央のみ残存
138図7	自排(8溝)	須恵器 坏身	口径 (15.4) 器高 4.3 底径 (11.0)	平底の底部に断面が偶丸方形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N7/灰白	口縁部～体部1/3、底部1/2残存
138図8	自排(8溝)	須恵器 坏身	口径 (15.1) 器高 4.5 底径 (11.2)	丸味を帯びた底部に断面が偶丸長方形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N7/灰白	口縁部～体部1/3、底部 残存 高台部分1/2 欠損
138図9	自排(8溝)	須恵器 坏身	口径 14.8 器高 4.2	平底の底部に断面が偶丸四辺形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N7/灰白	口縁部～底部1/4残存
139図1	自排(10溝)	弥生土器 壺	口径 15.6 器高 (13.5) 底径 7.0	頸部から口縁部は「く」の字状に外反し、口縁端部を四角形に収める。	外面：口縁部～頸部に縦位のハケ目。頸部に波状の刺突紋2本。その間に斜位の刺突紋。体部上半に斜位のハケ目。 内面：口縁部に波状の沈線と斜位の刺突紋。	普通 白色・灰色・黒色・茶色粒子、小礫（2㎜大）	2.5YR5/6 明赤褐	口縁部～頸部3/4残存
139図2	自排(H-9)	弥生土器 壺	口径 (12.2) 器高 (6.5) 頸径 3.0	頸部～口縁部は外反して大きく開き、口縁端部を丸く収めている。	外面：頸部は斜位のハケ目、ヘラ磨き。 内面：口縁部～頸部に刺突紋。	やや粗 白色・灰色粒子	5YR7/6 橙	口縁部1/3、頸部残存

第49表　自然排水路 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
139図3	自排(10溝)	弥生土器 小型壺	口径 7.4 器高 22.9 底径 6.2 頸径 3.8 体部最大径（16.2）	底部は平底。体部下半が下膨れする無花果形。頸部～口縁部は外反する。	外面：体部に1単位3本の横線紋。その間に斜格子紋。頸部に刺突紋、ヘラ磨き。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 長石・石英・灰色粒子、礫（3㎜大）多い	7.5YR5/1 褐灰	口縁部、底部一部欠損
139図4	自排(H-9)	須恵器 甕	口径 25.8 器高 51.8 頸径 17.7 体部最大径(48.5)	丸底の底部から体部下半にかけて外反し、肩部から頸部にかけて内湾する。頸部から口縁部は外反する。	外面：口縁部はナデ。頸部～底部は全体に叩き目。 内面：口縁部はナデ。体部下半にヘラ削り。内面口縁部と外面肩部に釉がかかっている。	密 長石・石英・黒色粒子	5Y5/1 灰	ほぼ完形（肩部～体部上半一部欠損）
139図5	自排(10溝)	山茶碗 碗	口径 16.8 器高 6.4 底径 7.2	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。内外面とも口縁部の一部に釉がかかっている。	密 白色・灰色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～体部1/2底部残存
140図1	自排(G-9)	弥生土器 壺	口径 (15.0) 器高 (9.8) 頸径 (7.6)	頸部で緩やかに屈曲し、口縁部まで直線的に外反する。	外面：頸部に波状紋、刺突紋。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・赤色粒子、礫（0.5～3.5㎜大）	5YR5/6 明赤褐	口縁部～頸部1/2残存
140図2	自排(12溝)	弥生土器 甕	口径 (26.2) 器高 (6.5) 頸径 (24.4)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部は刻み目痕。口縁部～体部は斜位のハケ目。 内面：口縁部は横位のハケ目。	粗 白色・茶色・灰色粒子、礫（3㎜大）多い	10YR8/3 浅黄橙	口縁部1/8残存
140図3	自排(G-9)	土師器 甕	口径 (22.2) 器高 (6.7) 頸径 (18.8)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部は横位のハケ目。頸部は斜位・縦位のハケ目。 内面：口縁部～頸部は横位のハケ目。	普通 白色・赤色粒子、小礫（0.5～2.0㎜大）	2.5YR3/4 暗赤褐	口縁部～頸部1/4残存
140図4	自排(G-10)	土師器 甕	口径 (23.6) 器高 (4.8) 頸径 (20.6)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部はナデ。体部は斜位のハケ目。 内面：口縁部はナデ。	普通 灰色・茶色粒子	10YR8/2 灰白	口縁部1/8残存
140図5	自排(G-10)	土師器 甕	口径 (21.0) 器高 (4.5) 頸径 (16.6)	頸部で屈曲し、口縁部は大きく開く。	外面：頸部は縦位のハケ目。 内面：口縁部～頸部は横位のハケ目。	普通 白色・赤色粒子、小礫（0.5～1.5㎜大）	5YR5/3 にぶい赤褐	口縁部1/2、頸部1/4残存
140図6	自排(F-9)	土師器 甕	口径 (21.3) 器高 (5.2) 頸径 (15.2)	頸部で屈曲し、口縁部は水平に開き、端部はやや内湾する。	外面：頸部は縦位のハケ目。体部上半は斜位のハケ目。 内面：頸部は横位のハケ目。	普通 白色・赤色粒子、礫（0.5～3.0㎜大）	7.5YR6/3 にぶい褐	口縁部～頸部1/4残存
140図7	自排(F-9)	土師器 高坏	器高 (4.0) 底径 9.8	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面：斜位のハケ目後、横ナデ。 内面：横ナデ。	密 赤色・黒色粒子、小礫（1.5㎜大）	5YR6/4 にぶい橙	脚部のみ残存

第50表　自然排水路 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
140図8	自排(12溝)	須恵器 坏身	口径 (12.7) 器高 3.65 底径 (7.8)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子、小礫(2㎜大)	10YR7/1 灰白	口縁部～底部 1/3 残存
140図9	自排(F-10)	須恵器 坏身	口径 (14.0) 器高 4.0 底径 (9.4)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・茶色粒子	N6/ 灰	口縁部～底部 1/4 残存
140図10	自排(F-10)	須恵器 坏身	口径 14.2 器高 4.3	底部は歪んでいる。断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は直線的に外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色黒色粒子、礫(4㎜大)	N7/ 灰白	口縁部～体部2/5 欠損
140図11	自排(G-10)	須恵器 甕	口径 (20.0) 器高 (8.2) 頸径 (8.0)	口縁部は「く」の字状に外反する。	内外面ともナデ。	密 白色・黒色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部 1/2、 頸部1/7 残存
144図1	自排(J-13)	須恵器 坏蓋	口径 (9.6) 器高 (3.1)	底部は弓張り状。口縁部はやや内湾気味に下りる。	内外面ともナデ。	密 白色・茶褐色粒子	2.5Y6/1 黄灰	口縁部～体部 1/2 残存

第51表　土壙墓 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
281図1	21号土壙墓	かわらけ Ⅲ	口径 (7.1) 器高 (3.3) 底径 (2.3)	底部は平底。体部～口縁部は内湾気味に開く。	内外面ともナデ。外面底部に回転糸切り痕。	普通 黒色・赤色・石英粒子	5YR6/6 橙	口縁部 1/8、 底部 残存
288図1	26号土壙墓	かわらけ 小Ⅲ	口径 (8.3) 器高 2.1	底部は平底。口縁部まで外反して開く。	内外面ともロクロ成形。外面底部に回転糸切り痕。	密 赤色・透明・灰色粒子	5YR7/6 橙	口縁部～底部 1/5 残存

第52表　土壙墓 出土副葬品 計測表

図版番号	遺構名	種別	口径	高さ	重量	材質
281図11	21号土壙墓	リン（鈴）	48.5 ㎜	29.2 ㎜	50.19 g	真鍮

第53表　土壙 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
148図1	2土壙	須恵器 鉢	口径 13.6 器高 (3.9)	底部は貼り付け高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	内外面ともナデ。	密 白色・黒色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～底部1/3 残存

第54表　土壙 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
148図2	2 土壙	須恵器 長頸壺	口径 (10.6) 器高 17.3 底径 8.0 頸径 5.9 体部最大径 12.1	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	内外面ともナデ。外面底部は回転糸切り痕。外面頸部～体部、内面口縁部に釉がかかっている。	密 長石・石英・黒色粒子	10YR7/2 にぶい黄橙	口縁部 2/3 欠損

第55表　土坑 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
156図1	土坑	須恵器 長頸壺	口径 11.0 器高 17.6 底径 7.1 頸径 5.5 体部最大径 13.4	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	内外面ともナデ。外面底部は回転糸切り痕。外面口縁部と体部、内面口縁部に釉がかかっている。	密 黒色・長石・茶褐色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部 1/3 欠損
156図2	土坑	須恵器 長頸壺	口径 10.8 器高 17.0 底径 9.1 頸径 5.4 体部最大径 12.4	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	内外面ともナデ。外面口縁部～体部、内面口縁部と底部に釉がかかっている。	密 黒色・長石・粒子、礫（2～9㎜大）多い	10YR7/1 灰白	口縁部 1/2、底部1/4 欠損
156図3	土坑	須恵器 長頸壺	口径 11.2 器高 18.2 底径 8.0 頸径 5.8 体部最大径 12.5	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、頸部～口縁部は外反する。	内外面ともナデ。外面底部は回転糸切り後ナデ。外面口縁部と頸部～体部、内面口縁部に釉がかかっている。	密 黒色・長石・粒子	10YR7/1 灰白	口縁部 1/2 欠損
156図4	土坑	須恵器 鉢	口径 (13.1) 器高 (4.8) 底径 (6.6)	平底の底部に断面が細い長方形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は直線的に外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。内面：全体ナデ。内外面とも釉がかかっている。	密 白色・灰色・茶色粒子	2.5Y7/1 灰白	口縁部 1/3 欠損

第56表　ピット 出土土器 観察表

図版番号	遺構名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
194図1	20 ピット	土師器 皿	器高 (1.5) 底径 (5.8)	平底の底部から外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 透明・灰色・赤色粒子	7.5YR8/6 浅黄橙	底部1/5 残存
194図2	20 ピット	土師器 皿	器高 (2.7) 底径 4.6	平底の底部から外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。外面底部に回転糸切り痕の痕が残るが摩耗している。	普通 透明・灰色・赤色粒子、小礫（2㎜大）	7.5YR8/3 浅黄橙	底部のみ残存
224図1	292 ピット	土師器 甕	口径 (20.8) 器高 (4.5) 頸径 (15.8)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部はナデ。頸部は縦位のハケ目。内面：口縁部～頸部は横位のハケ目。	普通 石英・雲母・黒色粒子	5YR6/3 にぶい橙	口縁部 1/4 残存
117図4	304 ピット	弥生土器 甕	口径 (17.6) 器高 (5.3) 頸径 (16.2)	口縁部は緩やかに外反する。	外面：口縁部に刻み目痕。口縁部～体部に斜位のハケ目。内面：口縁部に横位のハケ目。	密 白色・灰色・茶色粒子	2.5YR6/6 橙	口縁部 1/8 残存

第57表　グリッド 出土土器 観察表

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
296図1	D-6	弥生土器 壺	器高　(7.0) 底径　10.2	平底の底部から外反する。	外面：体部に斜位のハケ目。 底部に木葉痕。 内面：横位のハケ目。	普通 長石・石英・黒色粒子	5YR7/4 にぶい橙	体部～底部残存
296図2	G-7	弥生土器 小型壺	器高　(12.8) 底径　6.4 体部最大径 7.1	平底の底部から体部下半にむかって外反し、体部下半から頸部にむかって内湾する。	外面：体部と頸部の間に横線紋。 他は摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色・赤色粒子、礫（2～5㎜大）	2.5YR5/4 にぶい赤褐	底部、体部 3/4 残存
296図3	I-10	弥生土器 小型壺	器高　(7.0) 底径　7.4 体部最大径 (12.4)	平底は平底。 体部は内湾する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 灰色・茶色粒子、小礫（2㎜大）	5YR8/3 淡橙	底部～体部下半 4/5 残存
296図4	N-7	弥生土器 小型壺	口径　(8.2) 器高　(5.8) 底径　5.7 体部最大径 10.2	平底の底部から体部下半まで外反し、体部下半から体部上半にむかって内湾する無花果形。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	粗 白色・灰色粒子	5YR4/1 褐灰	体部下半～底部のみ残存
296図5	I-10	弥生土器 小型壺	器高　(14.4) 底径　5.4 頸径　4.9 体部最大径 12.8	平底の底部から体部下半にかけて大きく外反し、体部下半から頸部にむかって緩やかに内湾する無花果形。	外面：体部上半に横線紋、浮紋、刺突羽状紋。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・赤色・灰色粒子	5YR8/2 灰白	頸部～底部のみ残存
296図6	H-9	弥生土器 鉢	口径　(14.9) 器高　6.5 底径　(6.4)	平底の底部から大きく外反した後、体部中央から口縁部にかけて内湾する。端部を丸く収める。	内外面とも底部～体部にかけてヘラ磨き。	やや粗い 灰色・赤色・黒色粒子	10YR8/2 灰白	口縁部の一部、体部 2/3、底部 1/2 残存
296図7	H-10	弥生土器 鉢	器高　(6.4) 底径　6.6	平底の底部から大きく外反した後、体部中央から口縁部にかけて内湾する。	外面：口縁部～体部に縦位・斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・灰色・褐色粒子、礫（3㎜大）多い	10YR8/3 浅黄橙	口縁部～体部 1/5 欠損
298図11	B-6	土師器 甕	口径　(31.2) 器高　(3.6) 頸径　(28.8)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部はナデ後、斜位のハケ目。 内面：口縁部はナデ。	密 灰色粒子	10YR8/3 浅黄橙	口縁部 1/10 残存
298図12	B-10	弥生土器 甕	口径　(22.4) 器高　(19.4) 頸径　(19.2)	体部下半～体部中央は緩やかに外反し、体部中央～頸部は内湾する。頸部～口縁部は「く」の字状に大きく開く。	外面：体部に斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 灰色・赤色・黒色粒子	7.5YR8/1 灰白	口縁部 3/4、体部1/2 残存
298図13	B-5	弥生土器 甕	口径　(23.2) 器高　(3.3) 頸径　(18.6)	口縁部は大きく外反する。	外面にわずかにハケ目が残るが、内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 白色・透明・金色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部 1/6 残存
298図14	E-6	土師器 甕	口径　(24.2) 器高　(6.5) 頸径　(21.7)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部～体部上半は斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 灰色・茶色・透明粒子、礫（4㎜大）	7.5YR7/6 橙	口縁部 1/8 残存

第58表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別 器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
298図 15	I-6	土師器 甕	口径 (24.4) 器高 (10.6) 頸径 (21.6)	口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾する。	外面：体部は斜位のハケ目。 内面：摩耗の為、調整不明瞭。	密 白色・黒色・灰色粒子、小礫（2㎜大）	10YR8/2 灰白	口縁部～体部上半 1/4 残存
298図 16	G-7	土師器 甕	口径 (26.0) 器高 (6.2) 頸径 (22.2)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：体部に斜位のハケ目。	密 白色・赤色・灰色粒子、礫（4㎜大）	5YR7/6 橙	口縁部 1/5 残存
298図 17	G-7	土師器 甕	口径 (26.4) 器高 (6.0) 頸径 (24.1)	口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：体部に斜位のハケ目。 内面：体部に板ナデ、指頭圧痕。	密 透明・赤色・白色・灰色粒子、礫（3㎜大）	5YR5/4 にぶい赤褐	口縁部 1/6 残存
298図 18	G-7	土師器 甕	口径 (27.6) 器高 (5.8) 頸径 (22.8)	頸部～口縁部は「く」の字状に外反する。	外面：口縁部は横ナデ。体部に斜位のハケ目。 内面：体部に板ナデ。	密 石英・長石・赤色・雲母粒子、礫（3㎜大）	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部 1/4 残存
298図 19	G-7	土師器 甕	口径 (26.0) 器高 (7.7) 頸径 (22.1)	頸部～口縁部は「く」の字状に外反し、体部は内湾する。	外面：口縁部はナデ。体部に斜位のハケ目。 内面：口縁部はナデ。	密 赤色・透明・金色・白色粒子	10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部 1/4 残存
298図 20	A-5	土師器 甕	口径 19.7 器高 (7.2) 頸径 15.1	体部から直線的に立ち上がり、頸部～口縁部にかけて「く」の字状に外反する。	外面：体部に斜位のハケ目。 他は摩耗の為、調整不明瞭。	やや粗 長石・石英・雲母・黒色・赤色粒子、礫（2～3㎜大）	2.5YR6/6 橙	口縁部～体部上半 4/5 残存
298図 21	I-7	土師器 台付甕	器高 (9.0) 底径 (14.0)	脚接合部から底部にむかって緩やかに外反して下りる。	外面：縦位・斜位のハケ目。 内面：横位のハケ目。	密 透明・白色・灰色粒子	5YR4/1 褐灰	脚部 1/2 残存
299図 22	B-7	土師器 坏	口径 (10.8) 器高 (4.5)	丸味を帯びた底部から口縁部まで内湾して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 赤色・灰色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部 1/4 欠損
299図 23	Z-14	土師器 坏	口径 (12.6) 器高 5.0 底径 (5.6)	平底の底部から口縁部までやや内湾して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 灰色・白色・赤色粒子	7.5Y8/3 浅黄橙	口縁部～体部 1/3、底部 1/2 残存
299図 24	M-7	土師器 模倣坏身	口径 11.2 器高 4.9	丸味を帯びた底部から体部まで内湾し、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：口縁部～体部上半はナデ。体部下半～底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 黒色・白色・透明粒子	2.5YR6/4 にぶい橙	ほぼ完形（体部一部欠損）
299図 25	G-7	土師器 坏	口径 (12.6) 器高 (3.1) 底径 (9.2)	平底の底部から口縁部まで直線的に外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	密 赤色・白色・金色・灰色粒子 礫（3㎜大）	2.5YR6/6 橙	口縁部～底部 1/2 残存
299図 26	F-6	土師器 皿	口径 (14.4) 器高 2.0 底径 (10.0)	平底の底部から口縁部まで内湾して立ち上がる。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。 内面：全体ナデ。丹彩が施してある。	密 白色・灰色粒子、礫（4㎜大）	7.5YR7/6 橙	口縁部～体部 1/3、底部 1/2 残存

第59表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
299図27	N-6	土師器 小型壺	口径　(7.0) 器高　(4.9) 底径　5.2 体部最大径 (8.2)	平底の底部から内湾して立ち上がる。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 白色・赤色粒子	5YR8/4 淡橙	体部下半～底部 1/2 残存
299図28	M-7	土師器 高坏	口径　(14.2) 器高　7.7 底径　8.2 脚接合部径 5.2	脚部は「ハ」の字状に開く。体部は内湾し、口縁部はやや外反する。	内外面ともナデ。 外面 口縁部と体部の間に4本の沈線。	密 赤色・白色・灰色粒子	5YR6/4 にぶい橙	口縁部～体部 1/2 欠損
299図29	M-7	土師器 高坏	口径　(15.4) 器高　10.1 底径　(9.4)	脚部は「ハ」の字状に開き、端部でさらに広く開く。体部～口縁部は大きく外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	密 赤色・灰色粒子、小礫(0.5～1㎜大)	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部 1/3、 脚部一部 欠損
299図30	M-7	土師器 高坏	口径　(15.0) 器高　9.8 底径　8.4	脚部は「ハ」の字状に開き、端部でさらに広く開く。体部～口縁部は大きく外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	密 赤色・灰色粒子、小礫(0.5～1㎜大)	5YR7/8 橙	口縁部 1/2 欠損
299図31	M-7	土師器 高坏	口径　(16.2) 器高　(4.7)	体部下半で屈折し、口縁部にかけて大きく外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 赤色・灰色・透明粒子、礫(1～4㎜大)	5YR7/6 橙	口縁部～体部 1/3 残存
299図32	M-7	土師器 高坏	口径　(18.2) 器高　(6.0)	体部から口縁部まで大きく外反し、体部と口縁部の間に稜を持つ。口縁部はさらに大きく開く。	外面：口縁部に横位・斜位のハケ目、指頭圧痕。 内面：口縁部～体部は横位のハケ目。	密 灰色・黒色粒子、 小礫 (2㎜大)	5YR7/4 にぶい橙 10R6/4 にぶい 赤橙	口縁部 1/6、 体部 1/3 残存
299図33	M-7	土師器 高坏	口径　(18.4) 器高　(5.0)	体部上半に突起した稜を持つ。口縁部は大きく外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。 一部、ハケ目痕あり。	密 赤色・灰色・透明粒子、小礫 (2㎜大)	7.5YR8/4 浅黄橙	口縁部～体部 1/5 残存
299図34	B-10	土師器 鉢	口径　(11.4) 器高　10.0 底部　6.7	底部はやや上げ底。体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。	外面：体部下半に斜位のハケ目。 他は摩耗の為、調整不明瞭。	普通 長石・石英・黒色・赤色粒子 礫 (4㎜大)	5YR6/4 にぶい橙	口縁部 1/3、 底部 残存
300図35	D-6	須恵器 坏蓋	口径　(14.6) 器高　(5.0) 底径　(5.4)	天井部は弓張り状。口縁部まで内湾気味に下りる。	内外面ともナデ。	密 白色・黒色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～底部1/4 残存
300図36	G-9	須恵器 坏蓋	口径　16.6 器高　3.9	弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下りる。	内外面ともナデ。	密 白色・灰色粒子、 礫 (4㎜大)	5Y6/1 灰	口縁部 1/7 欠損
300図37	K-12	須恵器 坏蓋	口径　9.6 器高　3.4	弓張り状の天井部から口縁部まで内湾して下りる。	外面：天井部は回転ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 内面：全体ナデ。	密 透明・白色粒子	10Y6/1 灰	完形
300図38	D-6	須恵器 坏蓋	口径　(15.2) 器高　4.1	弓張り状の天井部に径3cmのボタン状のつまみが付く。口縁端部はほぼ垂直に下り、端部に段をつけている。	外面：天井部上半は回転ヘラ削り。 天井部下半～口縁部はナデ。 内面：全体ナデ。	密 白色粒子	N7/ 灰白	口縁部～天井部 1/4 残存

第60表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
300図39	B-10	須恵器 坏蓋	口径　(12.8) 器高　(2.45)	平らな天井部に径2cmの扁平擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は垂直に下りる。	外面：天井部上半は回転ヘラ削り。天井部下半～口縁部はナデ。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	N7/ 灰白	口縁部～天井部1/3残存
300図40	K-13	須恵器 坏身	口径　9.2 器高　3.1	丸味を帯びた底部から体部は内湾し、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。	外面：摩耗の為、調整不明瞭。 内面：全体ナデ。	密 黒色・白色粒子	10YR7/1 灰白	完形
300図41	H-9	須恵器 坏身	口径　11.8 器高　4.3	やや丸味を帯びた底部から体部下半にむかって外反し、体部下半から角度を変え、口縁部まで直線的に外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は摩耗の為、調整不明瞭。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部の一部欠損
300図42	B-10	須恵器 坏身	口径　(1.3) 器高　3.6 底径　(4.4)	平底の底部から口縁部まで外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部に回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。 内外面とも口縁部に釉がかかっている。	密 白色・黒色粒子、 礫（3mm大）	2.5Y6/1 黄灰	口縁部～体部1/8、底部残存
300図43	K-12	須恵器 坏身	口径　10.0 器高　3.7 底径　5.0	底部はほぼ平底。体部～口縁部は直線的に外反する。	内外面ともナデ。	密 灰色粒子	N7/ 灰白	口縁部のみ1/2欠損
300図44	G-7	須恵器 坏身	口径　(14.6) 器高　(3.8) 底径　(10.8)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は直線的に外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ	密 白色・灰色粒子	5Y5/1 灰	口縁部5/6、高台部分1/5欠損
300図45	G-11	須恵器 坏身	口径　(15.2) 器高　4.0 底径　(9.6)	底部はやや歪んでいる。断面が台形の短い貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾気味に緩やかに開く。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・茶色・灰色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～体部1/3、底部残存
300図46	G-10	須恵器 坏身	口径　(14.6) 器高　(4.2) 底径　(10.5)	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は直線的に外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子、小礫（2mm大）	N6/ 灰	体部～底部1/2、口縁部の一部欠損
300図47	G-11	須恵器 坏身	口径　13.6 器高　4.8 底径　9.0	底部はやや歪んでいる。断面が半円形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁端部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転ヘラ削り。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子、 礫（5mm大）	N5/ 灰	口縁部の一部欠損
300図48	D-7	須恵器 坏身	口径　14.5 器高　4.2	底部は歪んでいる。断面が台形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転ヘラ磨き。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色茶色粒子	N7/ 灰白	口縁部～体部1/5、底部4/5残存

第61表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
300図49	E-10	須恵器 長頸壺	口径　9.9 器高　(9.6)	頸部は口縁部にむかって緩やかに外反し、口縁部で大きく外反する。	内外面ともナデ。	密 白色粒子	2.5Y6/1 黄灰	口縁部～頸部 残存
300図50	B-10	須恵器 長頸壺	口径　(10.8) 器高　(9.2)	頸部は緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁部で大きく開く。口縁端部を三角形に収めている。	内外面ともナデ。	密 白色・黒色粒子	2.5YR7/1 灰白	口縁部 1/4、 頸部 欠損
300図51	C-9	須恵器 長頸壺	口径　(9.8) 器高　(7.7) 頸径　(5.0)	頸部～口縁部は外反しながら立ち上がり、口縁端部を三角形に収める。	内外面ともナデ。 内外面とも全体に釉がかかっている。	密 黒色・白色粒子	10YR6/1 褐灰	口縁部～頸部1/2 残存
300図52	M-8	須恵器 長頸壺	口径　(13.0) 器高　(7.5)	頸部～口縁部は外反し、口縁端部を三角形に収める。口縁部に稜線1本。	内外面ともナデ。 内外面とも釉がかかっている。	密 灰色・白色粒子	7.5Y7/1 灰白	口縁部 1/4 残存
300図53	N-7	須恵器 短頸壺	口径　5.4 器高　7.4 頸径　5.9 体部最大径 10.9	平底は丸味を帯びている。体部は内湾し、口縁部はやや内傾気味に立ち上がる。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	7.5Y7/1 灰白	ほぼ完形
300図54	H-6	須恵器 壺	器高　(7.3) 底径　7.4	やや丸味を帯びた底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がる。	内外面ともナデ。	密 白色・赤色粒子	2.5Y7/1 灰白	底部、 体部の 一部 残存
300図55	D-10	須恵器 壺	器高　(6.4) 底径　(14.8)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部は内外面ともナデ。他は摩耗の為、調整不明瞭。内外面とも部分的に釉がかかっている。	密 白色・黒色粒子	10YR8/1 灰白	底部～ 体部 1/3 残存
300図56	G-7	須恵器 壺	器高　(4.6) 底径　(8.5)	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は外反する。	内外面ともナデ。 内面の一部に釉がかかっている。	密 灰色・白色	2.5Y8/1 灰白	底部のみ 残存
300図57	K-7	須恵器 瓶	器高　(6.9) 底径　4.4 体部最大径 10.4	ほぼ平底の底部から体部上半まで外反し、体部上半から頸部にむかって内湾する。体部中央に径約1cmの孔が1カ所ある。	外面：全体ナデ後、孔の部分は指ナデ。体部上半に釉がかかっている。	密 灰色・白色粒子、小礫（2mm大）	2.5Y7/1 灰白	体部～ 底部 残存
303図64	G-6	山茶碗 碗	口径　(14.4) 器高　5.5 底径　7.0	平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でやや外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部に回転糸切り痕。 内面：全体ナデ	密 白色・黒色茶色粒子	10YR6/1 褐灰	口縁部の 一部、 体部 1/3、 底部 残存
303図65	D-6	山茶碗 碗	口径　(17.0) 器高　(5.4) 底径　(7.4)	平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・茶色粒子、 小礫（2mm大）	5Y4/1 灰	口縁部～ 底部1/4 残存

第62表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
303図66	K-11	山茶碗 碗	口径　(15.0) 器高　6.0 底径　(7.4)	平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾して立ち上がる。	内外面ともナデ。	密 灰色・白色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部の一部、体部～底部1/3残存
303図67	J-7	山茶碗 碗	口径　16.1 器高　5.6 底径　8.3	平底の底部に「ハ」の字状に開く高い貼り付け高台が付く。底部～体部は内湾して立ち上がり、体部～口縁部は直線的に外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 灰色・茶色・白色粒子	5Y6/1 灰	口縁部2/3欠損
303図68	F-6	山茶碗 碗	口径　(16.4) 器高　7.9 底径　8.1	平底の底部に垂直に下がる高い貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子、小礫（2㎜大）	10YR7/1 灰白	口縁部～体部1/4、底部残存
303図69	E-6	山茶碗 碗	口径　(13.8) 器高　3.7 頸径　(7.2)	平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台が付く。体部～口縁部はやや内湾気味に大きく開く。	外面：底部に回転糸切り痕、「分」と判読できる墨書。口縁部～高台部分はナデ。 内面：全体ナデ。	密 灰色・透明粒子	2.5Y6/1 黄灰	口縁部～体部1/6、底部残存
303図70	F-6	山茶碗 碗	口径　(15.0) 器高　4.6 底径　(6.8)	平底の底部に「ハ」の字状に開く貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部に回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色茶色粒子、礫（2～3㎜大）	10YR7/2 にぶい黄橙	口縁部2/3欠損
303図71	E-9	山茶碗 碗	口径　(16.6) 器高　5.0 底径　(8.9)	平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台が付く。体部は直線的に開き、口縁部でわずかに外反する。	内外面ともナデ。 内面口縁部～体部に釉がかかっている。	密 白色・灰色粒子	10Y7/1 灰白	口縁部～底部1/4残存
303図72	E-6	山茶碗 碗	口径　(17.2) 器高　(5.6) 頸径　(8.6)	平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台が付く。体部～口縁部は直線的に外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。 内外面とも口縁部～体部に緑釉がかかっている。	密 白色・灰色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～体部1/4、底部残存
303図73	E-5	山茶碗 碗	口径　16.8 器高　5.9 底径　8.0	平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部に記号あり。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子、礫（1～8㎜大）	2.5Y6/1 黄灰	ほぼ完形
303図74	E-6	山茶碗 碗	口径　(17.5) 器高　5.5 底径　(8.6)	平底の底部に断面が台形の低い貼り付け高台が付く。底部～体部はやや丸味をもって外反し、体部～口縁部は直線的に外反する。	内外面ともナデ。	密 長石・石英・黒色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～底部1/2残存

第63表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
303図75	E-5	山茶碗 小碗	口径　(13.5) 器高　(4.3) 頸径　(6.6)	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子、小礫（2㎜大）	2.5Y6/1 黄灰	口縁部～体部 1/6、底部 1/2 残存
303図76	C-11	山茶碗 小碗	口径　(13.2) 器高　4.3 底径　(7.0)	平底の底部に断面が細長く垂直に下がる貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 黒色・白色粒子	7.5Y7/1 灰白	口縁部～体部1/4、底部1/2 残存
303図77	H-7	山茶碗 小碗	口径　13.8 器高　4.1 底径　7.2	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾気味に開く。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子 礫（5㎜大）	2.5Y8/1 灰白	完形
303図78	I-16	山茶碗 小碗	口径　13.6 器高　4.2 底径　6.8	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾気味に開く。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・黒色粒子	2.5Y6/1 黄灰	口縁部 1/3、底部 1/6 欠損
303図79	Y-12	山茶碗 小碗	器高　(3.3) 底径　6.8	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部は口縁部に向けて内湾する。	外面：体部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色粒子、 礫（4㎜大）	5Y7/1 灰白	体部 1/3、底部 残存
303図80	F-15	山茶碗 小碗	口径　(13.4) 器高　(4.2) 底径　(6.2)	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は直線的に大きく外反する。	内外面ともナデ。	密 灰色・白色粒子	2.5Y7/1 灰白	口縁部～体部 1/4、底部 1/2 残存
303図81	K-11	山茶碗 小碗	口径　(13.0) 器高　4.3 底径　(6.6)	平底の底部に断面が台形の小さな貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色粒子	2.5Y7/1 灰白	口縁部～体部 1/6、底部 残存
304図82	F-6	山茶碗 小碗	口径　(12.4) 器高　(4.0) 底径　6.4	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は内湾する。	外面：体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	10YR7/1 灰白	体部～底部 2/3 残存
304図83	Y-12	山茶碗 小碗	器高　(2.0) 底径　5.9	平底の底部に断面が台形の貼り付け高台が付く。	外面：高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：釉がかかっており、調整不明。	密 黒色・白色・透明粒子	7.5YR7/1 明褐灰	底部のみ残存
304図84	E-6	山茶碗 小皿	口径　(9.6) 器高　3.2 底径　(6.0)	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は内湾気味に開く。	内外面ともナデ。	密 白色・赤色粒子	5Y6/1 灰	口縁部～底部 1/4 残存

第64表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
304図85	G-7	山茶碗 小皿	口径　10.2 器高　3.0 底径　5.4	平底の底部に断面が偶丸三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は緩やかに内湾する。	内外面とも全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	7.5YR6/1 褐灰	口縁部～体部 1/6 欠損
304図86	E-5	山茶碗 小皿	口径　10.1 器高　3.5 底径　5.8	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がる。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。 内面全体に釉がかかっている。	密 白色・黒色粒子、 礫（3㎜大）	5Y5/1 灰	完形
304図87	E-5	山茶碗 小皿	口径　10.1 器高　3.0 底径　5.2	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は外反する。	内外面ともナデ。	密 長石・黒色粒子	2.5Y6/1 黄灰	ほぼ完形 （口縁部一部欠損）
304図88	B-7	山茶碗 小皿	口径　(10.8) 器高　3.7 底部　(7.2)	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。 口縁部～体部に釉がかかっている。	密 赤色・茶色・黒色・白色粒子、 礫（4㎜大）	2.5Y7/1 灰白	口縁部～底部 1/2 残存
304図89	F-6	山茶碗 小皿	口径　(10.0) 器高　3.1 底径　(5.5)	平底の底部に断面が三角形の貼り付け高台が付く。体部～口縁部は大きく外反する。	外面：口縁部～高台部分はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・赤色粒子	2.5Y6/1 黄灰	口縁部～底部 1/3 残存
304図90	E-14	山茶碗 小皿	口径　(8.0) 器高　1.7 底径　(3.6)	平底の底部から口縁部まで直線的に大きく外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 白色・灰色粒子	2.5Y8/1 灰白	口縁部～体部 1/4、底部 残存
304図91	D-5	山茶碗 小皿	口径　(8.8) 器高　1.9 底径　5.3	平底の底部から外反して立ち上がり、口縁端部でわずかに内湾する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ	密 白色・灰色・茶色粒子	10YR7/1 灰白	口縁部～体部 1/3 欠損
305図92	B-5	かわらけ 小皿	器高　(2.0) 底径　4.6	平底の底部から外反して立ち上がる。	外面：底部に回転糸切り痕。	普通 白色・黒色粒子	5YR8/4 淡橙	底部のみ 残存
305図93	C-7	かわらけ 小皿	器高　(2.2) 頸径　3.8	平底の底部から外反する。	外面：底部は回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 灰色・白色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	底部のみ 残存
305図94	B-5	かわらけ 小皿	器高　(2.1) 底径　5.2	底部は平底。	外面：底部に回転糸切り痕。	普通 黒色・赤色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	底部のみ 残存
305図95	G-6	かわらけ 小皿	口径　11.4 器高　2.6 底径　4.2	平底の底部から口縁部まで大きく外反する。	外面：底部に回転糸切り痕。 他は摩耗の為、調整不明瞭。	普通 赤色・灰色粒子	5YR6/6 橙	ほぼ完形 （口縁部、体部、底部一部欠損）
305図96	B-5	かわらけ 小皿	口径　(8.0) 器高　2.3 底径　(4.4)	平底の底部から口縁部まで外反する。	外面：口縁部～体部はナデ。底部に回転糸切り痕。 内面：全体ナデ。	密 黒色粒子	10R6/6 赤橙	口縁部～底部1/4 残存

第65表　グリッド 出土土器 観察表（つづき）

図版番号	グリッド名	種別器種	法量（cm）	形態	調整	胎土	色調	残存率
305図97	D-6	かわらけ 小皿	口径　(9.8) 器高　3.0 底径　5.5	底部は平底。体部～口縁部は直線的に外反する。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 透明・赤色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部1/7、底部1/5残存
305図98	D-6	かわらけ 小皿	口径　(8.4) 器高　2.8 底径　(5.4)	平底の底部から口縁部まで外反し、端部を丸く収める。	内外面とも摩耗の為、調整不明瞭。	普通 赤色・灰色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	口縁部～底部1/3残存
306図99	H-7	陶器 小皿	口径　(7.0) 器高　(1.6) 底径　(3.0)	平底の底部～口縁部は内湾気味に大きく開く。	外面：底部～体部はナデ。 内面全体、外面口縁部に釉がかかっている。	密 白色粒子	2.5Y6/2 灰黄	口縁部～底部1/2残存
306図100	L-8	陶器 天目茶碗	口径　11.4 器高　6.3 底径　4.3	底部は高台を削り出している。体部は直線的に外反し、口縁部でわずかに角度を内側に変え外反する。	内外面ともロクロ成形。 外面口縁部～体部下半、内面全体に黒褐釉がかかっている。	密 灰色・茶色粒子	7.5YR2/2 黒 2.5YR7/1 明褐灰	ほぼ完形(口縁部一部欠損)

第66表　グリッド 出土石器 計測表

図版番号	グリッド名	種別（mm）	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	石材
297図8	D-5	有茎式打製石鏃	2.83	1.68	0.61	2.01	安山岩
297図9	G-9	石錘	8.22	5.83	2.21	145.52	砂岩
297図10	H-8	石錘	8.24	6.03	2.22	170.78	砂岩

第67表　グリッド 出土土錘 観察表

図版番号	グリッド名	種別	長さ（mm）	最大幅（mm）	孔径（mm）	重量（g）	胎土	色調	残存率
301図58	G-7	土師器 土錘	42.0	14.5	4.0	8.39	密 白色・透明粒子	5YR6/6 橙	完形
301図59	J-7	土師器 土錘	23.3	(10.9)	5.0	(1.69)	密 白色・赤色 灰色粒子	10YR7/3 にぶい黄橙	1/3残存
301図60	A-6	土師器 土錘	(36.4)	(21.0)	(4.6～9.5)	(5.99)	密 白色・灰色・透明・金色粒子 多い	7.5YR8/3 浅黄橙 2.5YR7/4 淡赤橙	1/3残存
301図61	B-11	土師器 土錘	(70.5)	42.0	(11.6～21.0)	(89.02)	密 白色・透明・赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙 5YR6/6 橙	一部欠損

第68表　グリッド 出土装身具 観察表

図版番号	グリッド名	種別	外径（mm）	厚さ（mm）	孔径（mm）	重量（g）	色調
302図62	A-4	ガラス小玉	4.4	3.0	1.2	0.09	薄青色
302図63	B-6	ガラス小玉	4.7	4.6	1.4	0.13	薄青色

第69表　近世土壙墓出土銭貨 計測表

図版番号	遺物番号	種類	径（mm）	重さ（g）	備考
252図 1	1号土壙墓　1	寛永通寶	24.7	2.80	
252図 2	1号土壙墓　2	寛永通寶	24.0	2.25	
252図 3	1号土壙墓　3	寛永通寶	23.9	2.53	
256図 1	3号土壙墓　1	寛永通寶	22.4	1.44	
256図 2	3号土壙墓　2	寛永通寶	23.4	2.23	
256図 3	3号土壙墓　3	寛永通寶	23.9	2.49	
256図 4	3号土壙墓　4	寛永通寶	22.8	2.07	
256図 5	3号土壙墓　5	寛永通寶	25.3	2.87	背面に「文」の文字がある
256図 6	3号土壙墓　6	寛永通寶	25.0	3.93	背面に「文」の文字がある
259図 1	4号土壙墓　1	寛永通寶	22.6	1.72	
259図 2	4号土壙墓　2	寛永通寶	23.2	(1.62)	欠損
262図 1	6号土壙墓　1	寛永通寶	23.1	(1.86)	欠損
262図 2	6号土壙墓　2	寛永通寶	23.8	2.05	
262図 3	6号土壙墓　3	寛永通寶	25.1	3.31	背面に「文」の文字がある
262図 4	6号土壙墓　4	寛永通寶	25.0	2.81	背面に「文」の文字がある
262図 5	6号土壙墓　5	寛永通寶	24.8	3.18	背面に「文」の文字がある
278図 4	19号土壙墓　1	寛永通寶	22.7	2.01	
278図 5	19号土壙墓　2	寛永通寶	24.4	2.14	
278図 6	19号土壙墓　3	寛永通寶	24.8	3.39	
278図 7	19号土壙墓　4	寛永通寶	25.0	3.34	背面に「文」の文字がある
281図 5	21号土壙墓　1	寛永通寶	24.4	2.08	
281図 6	21号土壙墓　2	寛永通寶	23.1	2.32	
281図 7	21号土壙墓　3	寛永通寶	23.4	2.77	
281図 8	21号土壙墓　4	寛永通寶	22.6	2.66	
281図 9	21号土壙墓　5	寛永通寶	25.3	4.33	背面に「文」の文字がある
281図 10	21号土壙墓　6	寛永通寶	25.4	3.21	背面に「文」の文字がある

第70表　近世土壙墓出土銭貨 計測表（つづき）

図版番号	遺物番号	種類	径（mm）	重さ（g）	備考
286図 1	25号土壙墓　1	祥符通寶	24.8	3.24	北宋 1009年
286図 2	25号土壙墓　2	嘉祐通寶（真）	23.5	2.87	北宋 1056年
286図 3	25号土壙墓　3	□□通寶	23.2	2.91	
286図 4	25号土壙墓　4	熙寧元寶	23.5	3.14	北宋 1068年
286図 5	25号土壙墓　5	元豊通寶	23.5	2.94	北宋 1078年
286図 6	25号土壙墓　6	聖宋元寶	23.9	1.89	北宋 1101年
288図 1	26号土壙墓　1	寛永通寶	24.9	2.79	
288図 2	26号土壙墓　2	寛永通寶	23.1	2.77	
288図 3	26号土壙墓　3	寛永通寶	24.5	2.30	
288図 4	26号土壙墓　4	寛永通寶	24.6	(2.87)	一部欠損
288図 5	26号土壙墓　5	寛永通寶「寛□通□」	(24.0)	(1.53)	半分欠損
288図 6	26号土壙墓　6	寛永通寶	24.9	3.63	背面に「文」の文字がある
288図 7	26号土壙墓　7	寛永通寶	25.1	2.75	背面に「文」の文字がある

第71表　遺構・グリッド出土銭貨 計測表

図版番号	遺物番号	種類	径（mm）	重さ（g）	備考
247図 4	22溝　No.1	元豊通寶（行書）	23.1	2.61	北宋 1078年
247図 5	22溝　No.2	聖宋元寶（真）	24.3	3.19	北宋 1101年
307図 101	B-4　No.1	寛永通寶（11波）	28.1	4.82	明和 6年
307図 102	B-4　No.2	寛永通寶	24.1	3.25	
307図 103	B-4　No.3	寛永通寶	23.4	3.00	
307図 104	B-4　No.4	寛永通寶	24.3	3.32	
307図 105	B-5　No.1	寛永通寶	23.9	3.12	
307図 106	B-5　No.2	寛永通寶	24.6	4.46	
308図 107	B-5　No.3	寛永通寶	24.5	3.03	
308図 108	B-5　No.4	寛永通寶	24.5	3.37	
308図 109	B-5　No.5	寛永通寶	24.3	3.08	
308図 110	B-5　No.6	寛永通寶	24.8	2.66	
308図 111	B-5　No.7	寛永通寶	24.3	3.80	
308図 112	B-5　No.8	寛永通寶	25.2	4.12	背面に「文」の文字がある
308図 113	B-5　No.9	寛永通寶	25.0	3.17	背面に「文」の文字がある

第72表　遺構・グリッド出土銭貨 計測表（つづき）

図版番号	遺物番号	種類	径（㎜）	重さ（g）	備考
308図 114	C-5　No.1	寛永通寶	25.1	3.83	
308図 115	C-5　No.2	寛永通寶	24.9	2.09	
308図 116	C-5　No.3	寛永通寶	24.4	3.21	
308図 117	K-7	政和通寶（真）	24.1	2.19	北宋 1111年
308図 118	K-12	開元通寶	25.0	(1.66)	一部欠損　唐 621年

第73表　近世土壙墓出土鉄釘 計測表

図版番号	遺物番号	長さ（㎜）	重さ（g）
264図 1	7号土壙墓　No.1	(33.3)	(1.51)
264図 2	7号土壙墓　No.2	44.3	1.25
264図 3	7号土壙墓　No.3	(34.7)	(1.14)
264図 4	7号土壙墓　No.4	46.2	2.29
268図 1	11号土壙墓　No.1	42.6	0.55
268図 2	11号土壙墓　No.2	40.7	0.89
268図 3	11号土壙墓　No.3	44.5	0.93
268図 4	11号土壙墓　No.4	(30.5)	0.93
268図 5	11号土壙墓　No.5	(34.3)	0.91
274図 1	16号土壙墓　No.1	(30.3)	(0.80)
274図 2	16号土壙墓　No.2	(31.6)	(0.88)
278図 1	19号土壙墓　No.1	40.3	1.73
278図 2	19号土壙墓　No.2	(33.8)	1.86
278図 3	19号土壙墓　No.3	(23.0)	0.68
281図 2	21号土壙墓　No.1	44.9	4.78
281図 3	21号土壙墓　No.2	47.0	2.01
281図 4	21号土壙墓　No.3	53.0	3.39

4．まとめ

兼情遺跡で確認した遺構は、周溝墓が16基、溝状遺構が62条、穴状遺構のうち土坑が45基、土壙が 2 基、土壙墓（近世の土壙を「土壙墓」として区分した）が26基、ピット（柱穴状遺構）が232基、井戸跡が 1 基の合計322基62条である。遺構以外には自然排水路も 8 条確認している。これらの遺構と自然排水路の形状、覆土の状況、覆土から出土した遺物の内容および遺構の確認面を総合的に検討し、弥生時代・古墳時代・中世・近世とに時代区分した。

（1）弥生時代

弥生時代の遺構は周溝墓が16基、溝状遺構が40条、穴状遺構のうち土坑が 2 基、ピットが28基の合計46基40条で、出土遺物は弥生土器片が10,871点、石器が 4 点ある

・周溝墓

周溝墓は丘陵緩斜面に構築されているが、後世の農地改善事業に伴う土木工事等により上位面が削平され、主体部を確認することができなかったため、溝の形状・覆土の状況・遺物の出土状況・遺物の内容を総合的に検討して周溝墓と判断した。周溝の方向軸は、西側では北西・南東方向、中央では南北方向、東側では北東・南西方向を指向し、地形の等高線にほぼ直交している。

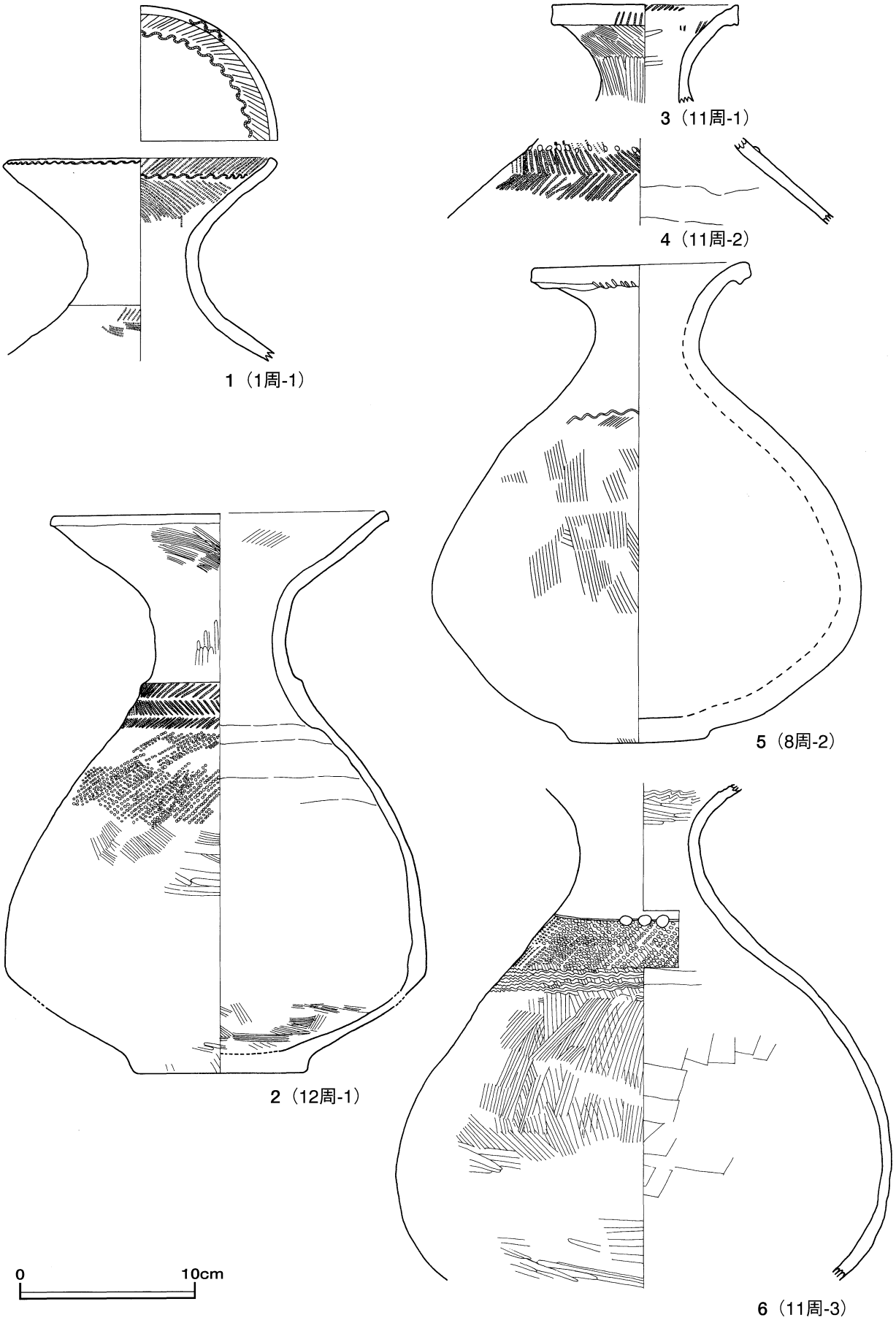
16基のうち調査区の西部で確認した 2・3・4 号の 3 基が円形周溝墓と考えられる以外は、方形周溝墓の範疇に入ると考えられる。

出土遺物は壺と甕の 2 器種である。壺は中・小型壺の両者があり、口縁部の形態で直口縁（第309図 1・2 ）・複合口縁（第309図 3、第310図 8 ）の 2 者に分けられる。器形は器高に比べ体部の張りが大きく、ずんぐりした形のもの（第309図 5・6 ）と、下膨れの無花果形をしたもの（第309図 2、第310図 7・9・10・11・12）とがある。紋様は櫛歯状施具による疑似縄紋（羽状の刺突紋が多い）を肩部に施している（第309図 1・2・4 ～ 6、第310図 8 ）。小型壺の中には体部中央にまで施紋しているもの（第310図11）もある。甕は全体に球胴形で、大型（第312図23・24）・中型（第311図13～20）・小型（第311図21・22）の 3 種があり、底部を欠いているが台付甕と考えられる。器面の全体に粗いハケ目痕が残っている。また、口縁部に菱形や細い縦長のキザミ目を施している。脚は「ハ」の字状に開いている（第312図25）。これらの特徴はいずれも菊川式土器の後期後半の特徴を示している。したがって、これらの出土遺物から周溝墓は弥生時代後期後半に編年付けられる。

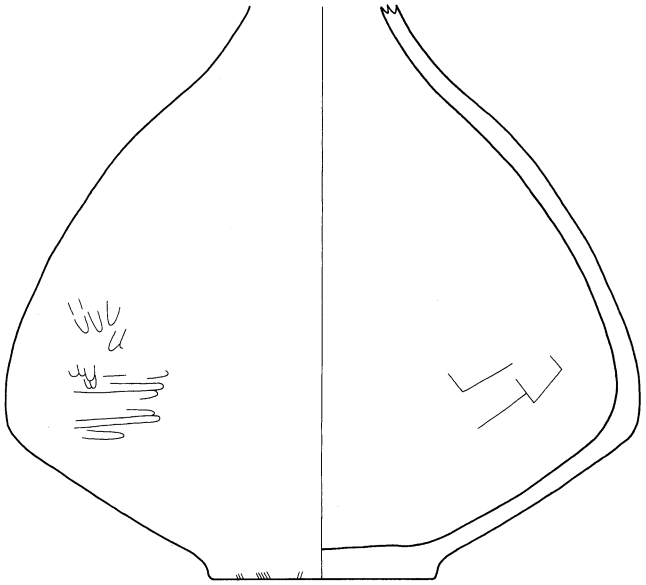
・溝状遺構

溝状遺構は調査区の東側に多く分布しており、40条の内、20条から弥生土器片が出土している。特に、55号溝跡は溝の規模も大きく、弥生土器の出土量も多い。また、49・52・66・68・69・71号溝跡では覆土の上位から土師器片・須恵器片が少量出土しているが、流れ込みと考えられる。

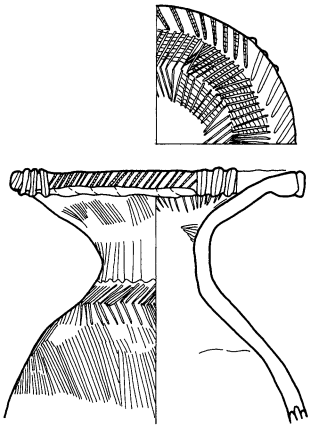
出土遺物は壺・甕・鉢の 3 器種である。壺は大型（第313図26・33・34）・中型（第313図29・30・32）・小型（第313図31・35）の 3 種類があり、口縁部の形態で直口縁（第313図26～28）・複合口縁（第313図29・30）の 2 者に分けられる。器形は器高に比べ体部の張りが大きくずんぐりした形のもの（第313図31）と、下膨れの無花果形をしたもの（第313図32・35）とがある。紋様は櫛歯状施具による疑似縄紋（羽状の刺突紋が多い）を口縁内部に施したもの（第313図28）、櫛歯状施具による刺突紋を施した後、2 個 1 組の浮紋を貼り付けた口縁部（第313図29）、体部上半に 2 本の太い沈線と羽状刺突紋を施したもの（第313図31）、頸部と肩部の間に櫛歯状施具による刺突紋を施したもの（第313図33）などがある。甕は全体に球胴形で、大型（第314図42・43）・中型（第314図39・44）・小型（第314図41・41）の 3 種があり、底部を欠いているが台付甕と考えられる。器面の全体に粗いハケ目痕が残っている。また、口縁部に菱形や細い縦長のキザミ目を施している。脚は「ハ」の字状に開いており（第314図45～47）、脚部の中央に孔が 4 箇所空けられているもの（第314図47）もある。鉢は平底で口縁帯を持たないもの（第313図36）と、平底で頸部から口縁部にかけて「く」の字状に屈曲し、口唇部に面を持つもの（第313図37）とがある。これらの特徴はいずれも菊川式土器の後期後半の特徴を示しおり、出土遺物から判断する限りにおいては、溝状遺構は周溝墓と同様に弥生時代後期後半に編年付けられる。



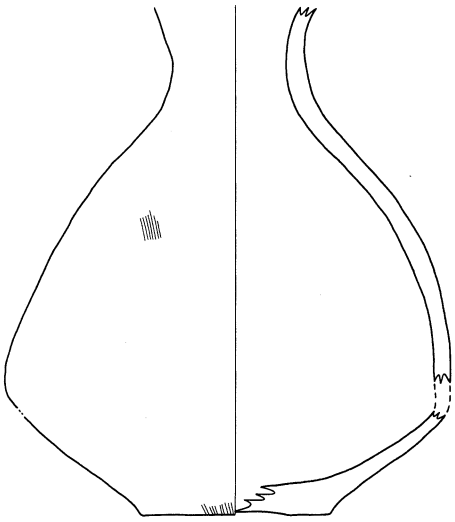
第309図　周溝墓から出土した弥生土器・壺の集成図（１）



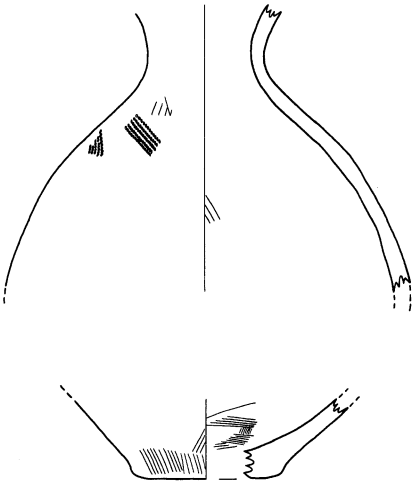
7（19周-2）



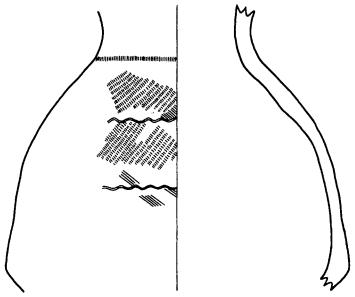
8（19周-1）



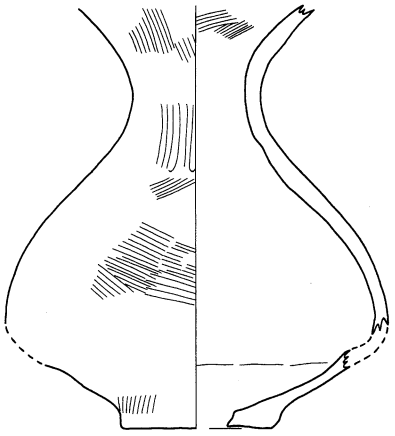
9（12周-2）



10（9周-2）



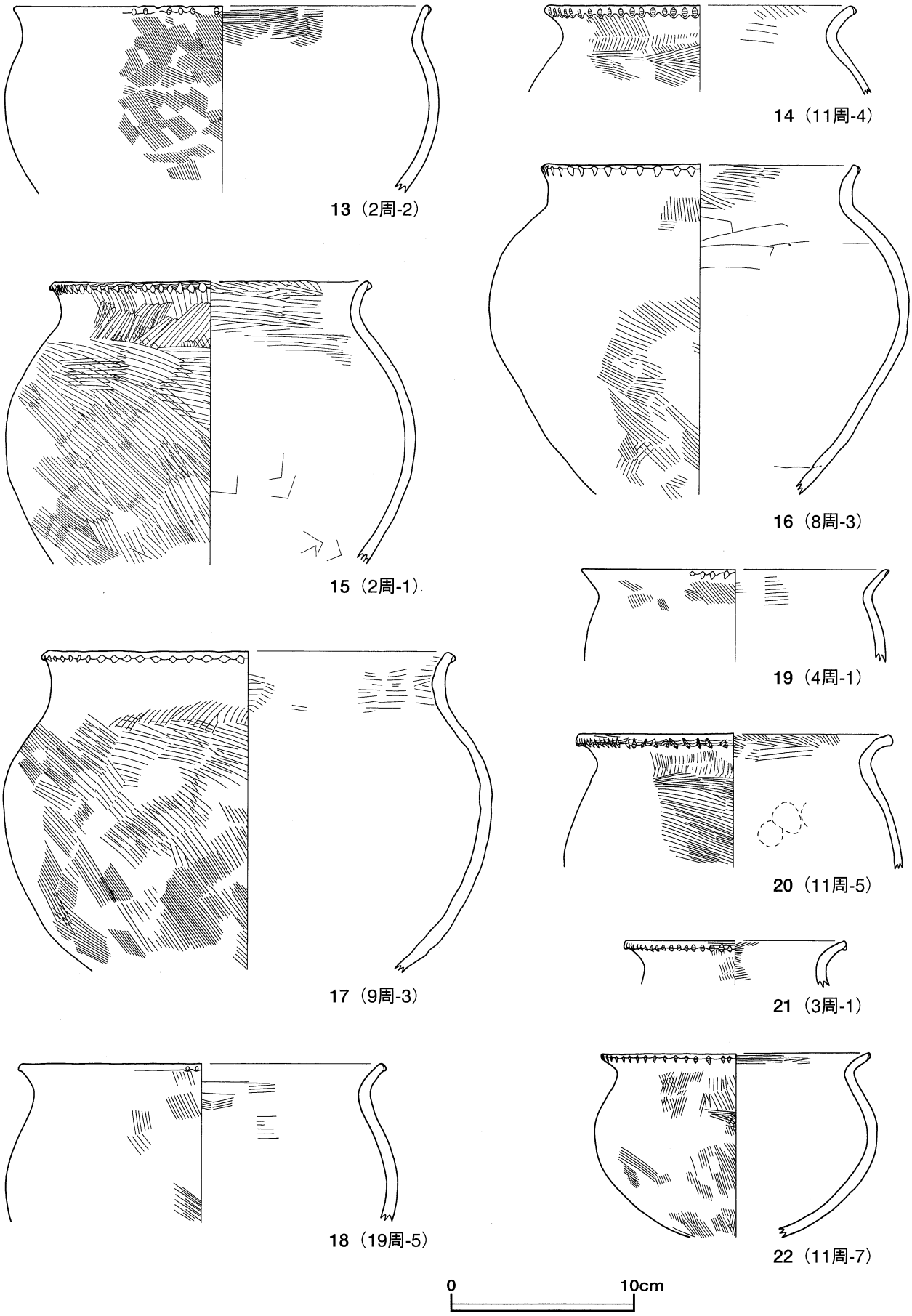
11（14周-1）



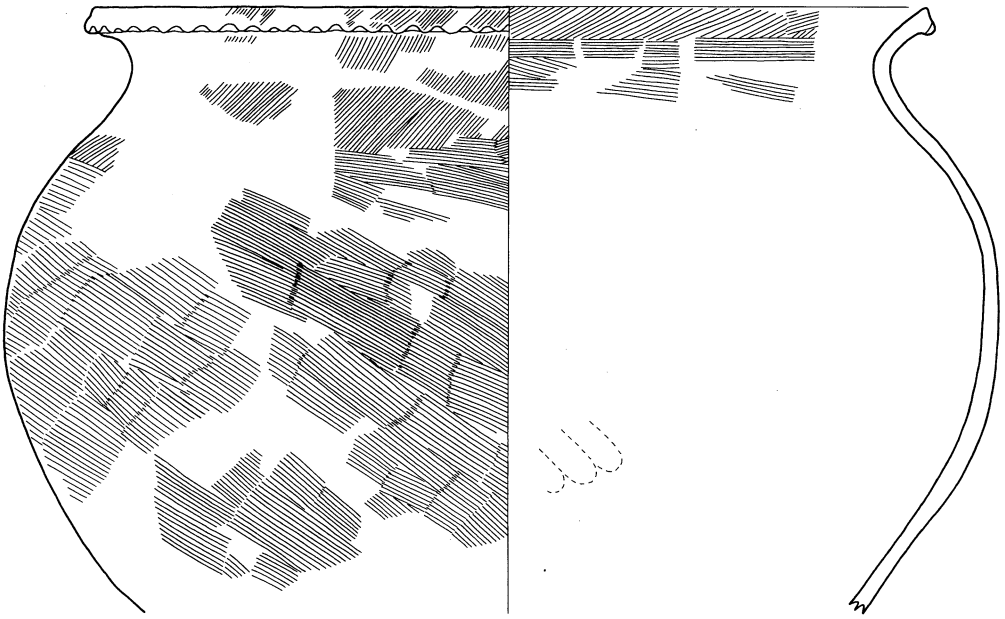
12（9周-1）

0　10cm

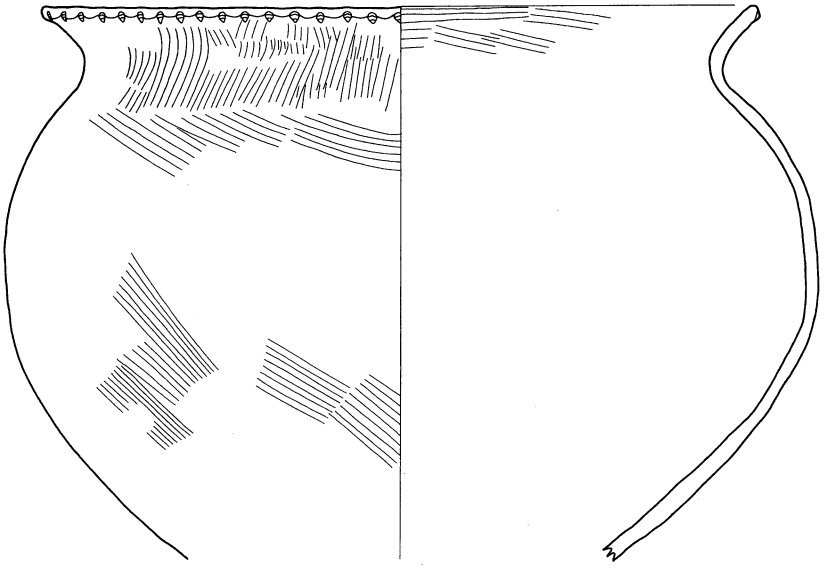
第310図　周溝墓から出土した弥生土器・壺の集成図（２）



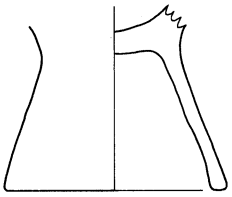
第311図　周溝墓から出土した弥生土器・甕の集成図（１）



23（11周-6）



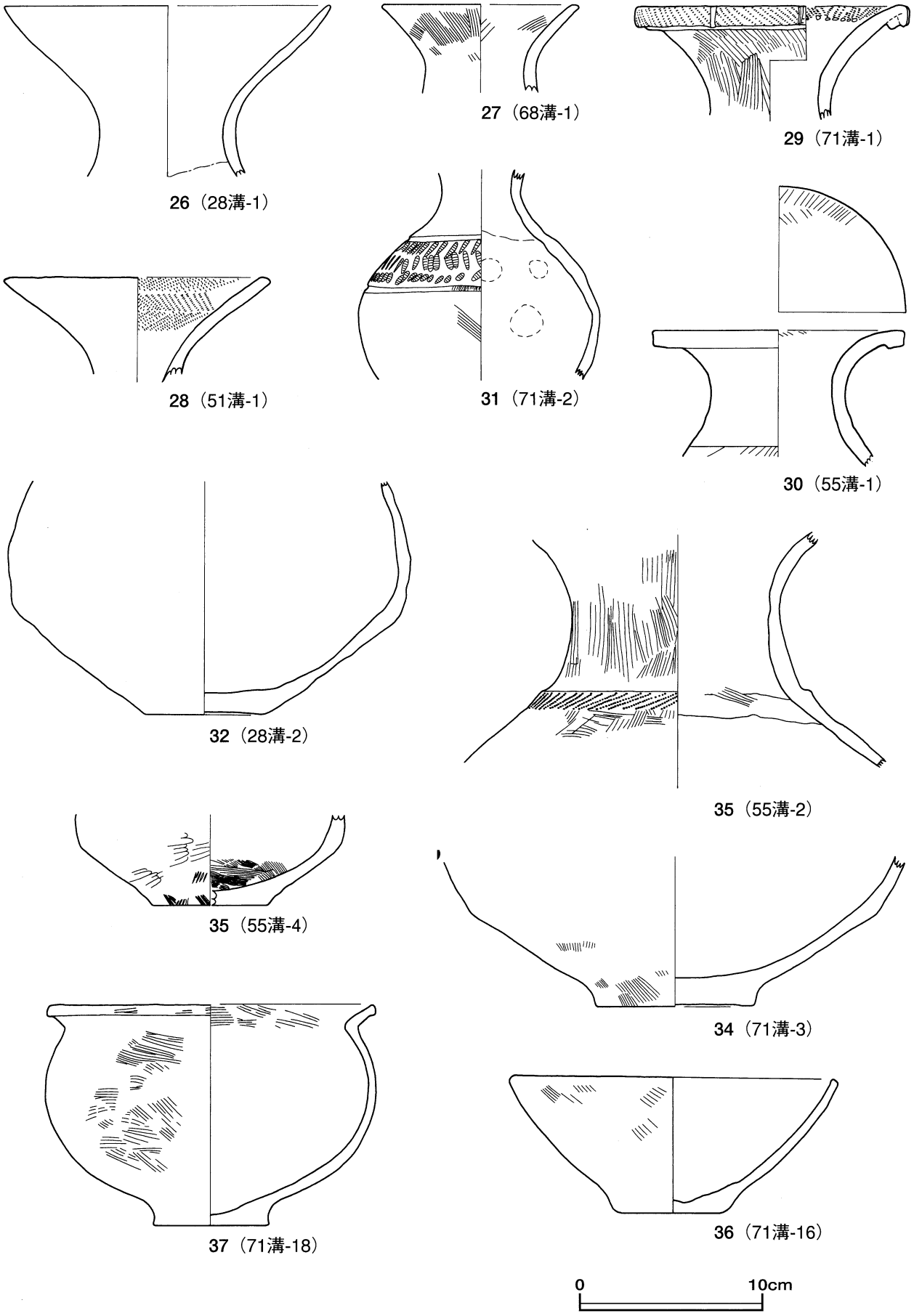
24（19周-7）



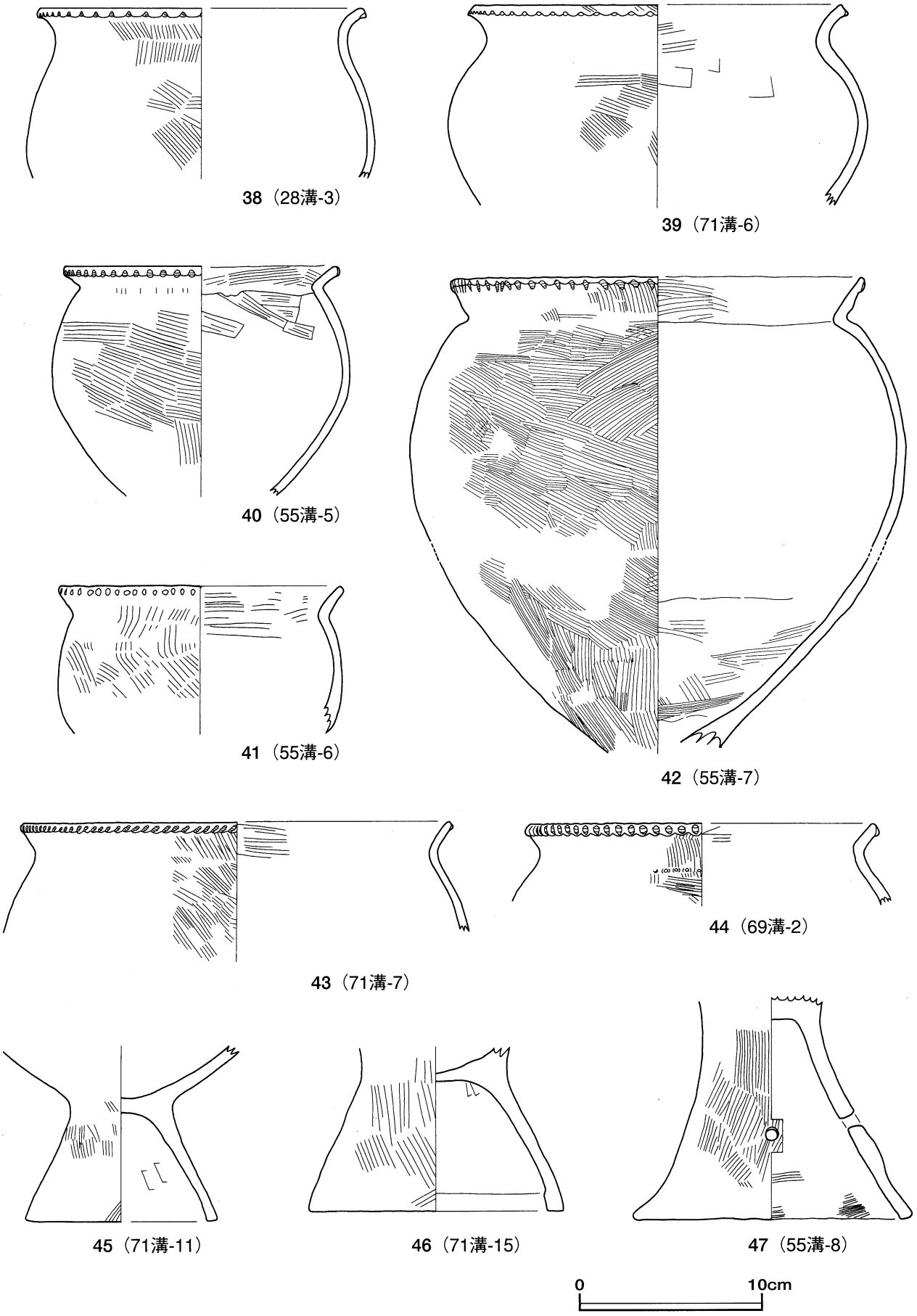
25（28周-4）

0　10cm

第312図　周溝墓から出土した弥生土器・甕の集成図（２）



第313図　溝状遺構から出土した弥生土器・壺・鉢の集成図



第314図　溝状遺構から出土した弥生土器・甕の集成図

・穴状遺構

穴状遺構は土坑 2 基とピット28基を確認した。土坑はＨ－7 グリッドの中央部とＩ－7 グリッドの南東部のいずれも緩斜面上で確認したが、平面形状・断面形状とも規則性はなかった。ピット群はＨ－6 グリッド、Ｈ－9 グリッドの北東部からＩ－8 グリッドの南西部にかけて分布するもの、Ｌ－7・8 グリッド、Ｍ－7 グリッドの北部からＭ－8 グリッドの東部にかけて分布するものと、Ｂ－7 グリッド、Ｃ－9 グリッド、Ｊ－10グリッドに単独で存在するものとがあり、緩斜面から平地との境界近くに分布しているが、分布状況・平面形状・断面形状とも規則性はなかった。なお、304号ピットから出土した甕も口縁部にキザミ目を施した菊川式土器の後期後半の特徴を示している。また、自然排水路を含む遺構以外から出土した弥生土器も、遺構から出土した土器と同じ様相を示している。

以上のことから、兼情遺跡における弥生時代の遺構と遺物は弥生時代後期の所産と考えられる。

（２）古墳時代

古墳時代の遺構は緩斜面の上位部と調査区中央の平地部との境界近くに集中している。溝状遺構が13条、穴状遺構のうち土壙が 2 基、土坑が43基、ピットが170基の合計215基13条と自然排水路が 8 条で、出土遺物は須恵器片が10,119点、土師器片が18,331点、土製品が 5 点、装身具が 2 点ある。

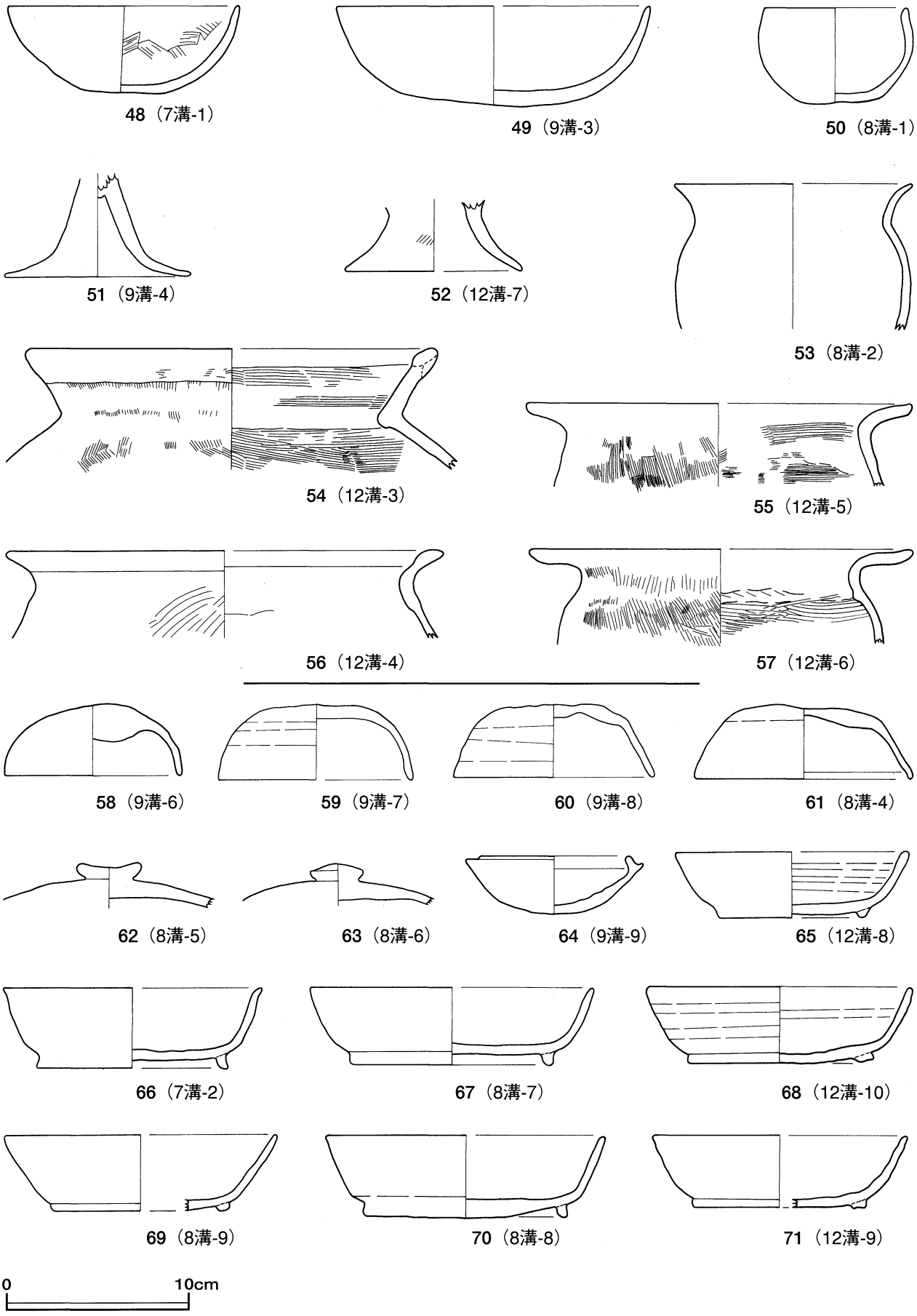
・溝状遺構

溝状遺構は13条の内、7・9・59・60号溝跡から須恵器・土師器片が出土している。特に、7・9 号溝跡は緩斜面と平地との境界線に位置し、緩斜面からの雨水を排水するための溝のようにも思える。

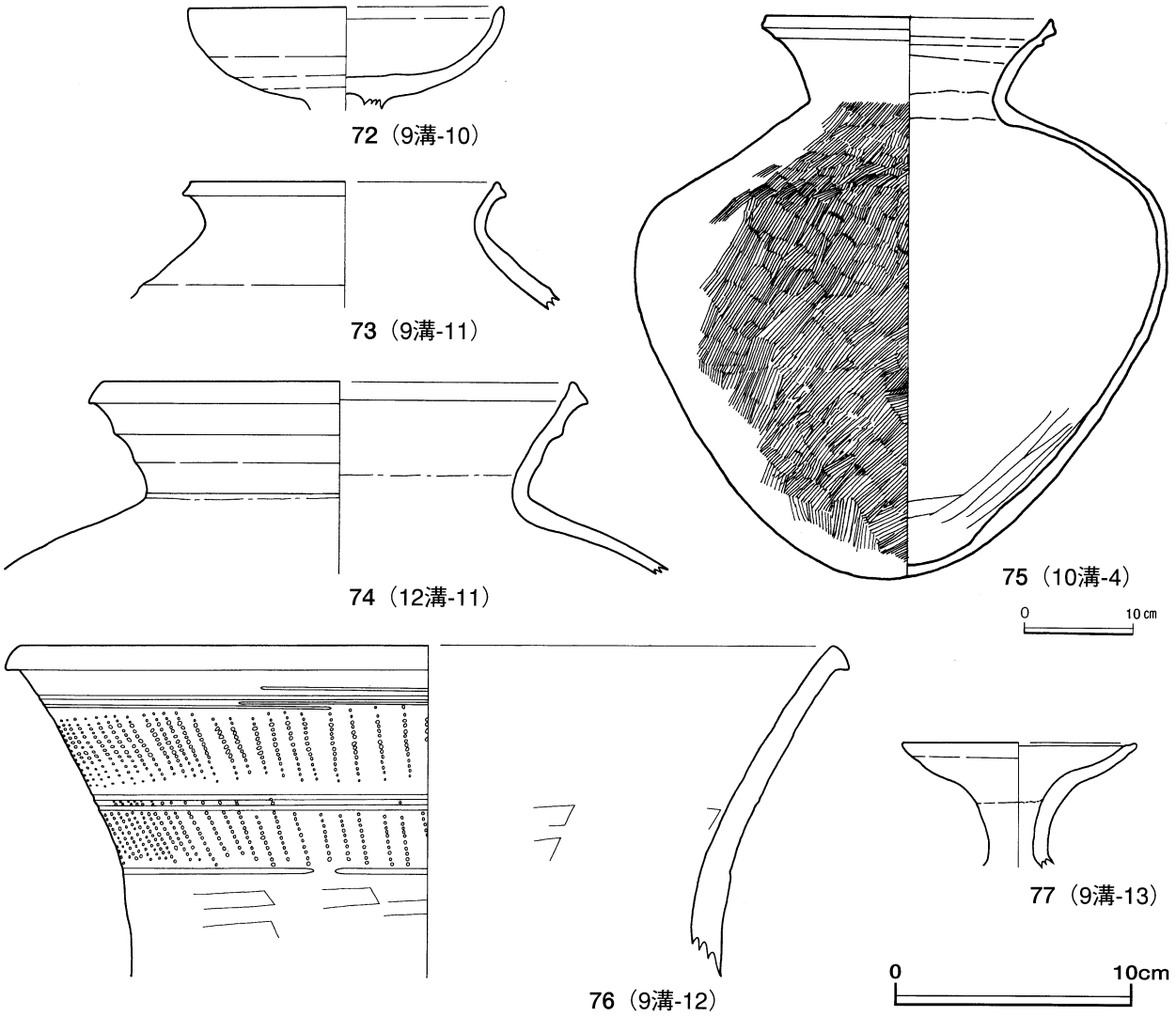
自然排水路は緩斜面下の平地から池までの短い流路を有し、弥生時代の遺構や古墳時代の遺構の一部を切っている。これらの自然排水路からは弥生土器や山茶碗も出土しているが、他の遺構を切ることによる流れ込みと考えられ、古墳時代の須恵器・土師器が出土遺物の主体を占めている。

出土遺物は土師器の坏・高坏・碗・甕の 4 器種、須恵器の坏蓋・坏身・高坏・甕・瓶の 5 器種である。土師器の坏は半球状を呈し、丸味を帯びた底部から内湾して立ち上がったもの（第315図　48）と、平底の底部から内湾して立ち上がったもの（第315図49）とがある。碗（第315図50）も坏と同様の半球状を呈し、口縁部に向かって内湾している。高坏は脚のみで、高脚で裾部が広く開くもの（第315図51）と、短脚で開くもの（第315図52）がある。甕は口縁部の破片のみで、全体の器形は不明であるが、口縁部の形態は「く」の字状に開くもの（第315図53・54・56）と、水平に強く引き出し、口縁部に最大径を持つもの（第315図55・57）とがある。坏・短脚の高坏・碗は 6 世紀の所産と考えられ、甕の口縁部を水平に強く引き出し、口縁部に最大径を持つものは 8 世紀の所産と考えられ、時代の幅がある。遺構以外から出土した土師器の中にも第299図25の坏や第299図26のⅢのように 8 世紀の所産と考えられる土器がある。
須恵器の坏蓋は天井部が丸いもの（第315図58）と天井部が平らで口縁部が広く開くもの（第315図60・61）、天井部にボタン状または擬宝珠状のつまみを付けたもの（第315図62・63）とがある。天井部が平らで口縁部が広く開くものは遠江須恵器編年のⅢ期末葉に比定される。坏身は丸底で口縁部との間に受けを持ち、短い口縁部が内傾するもの（第315図64）と断面が長方形または台形の高台を持つもの（第315図65～71）がある。前者は遠江須恵器編年のⅣ期前葉に、後者はⅣ期末葉からⅤ期前葉に比定される。遺構以外から出土した坏蓋・坏身も同じ様相を呈している。高坏（第316図72）は坏部の破片のみで全容は不明であるが、坏部が浅く、底部から内湾して立ち上がる形態はⅣ期末葉からⅤ期前葉に比定出来ると思われる。甕は丸底で体部上半に最大径を持つ甕（第316図75）が10号溝跡から出土している。器高が51.8㎝、口径が28.5㎝、体部の最大径が48.5㎝ある。比較資料が少なく遠江須恵器編年のⅣ期前葉に比定できるかどうか疑問が残る。また、甕の口縁部の破片の中に、頸部の外面に板ナデ仕上げが認められ、口縁部に刺突紋と 3 本の沈線を 3 箇所に施したもの（第316図76）がある。瓶は頸部から口縁部にかけての破片のみで全容は不明であるが、口縁部の形態から見てⅣ期末葉からⅤ期前葉に比定出来ると思われる。また、遺構以外から出土した瓶の体部（第300図57）も形態から見てⅣ期末葉からⅤ期前葉に比定出来ると思われる。さらに、遺構以外から出土した長頸壷の頸部から口縁部にかけての破片（第300図49～51）も形態から見てⅣ期末葉からⅤ期前葉に比定出来ると思われる。

自然排水路（12号溝後）から出土した植物遺体はモモであった。モモは中国が原産地で奈良時代に渡来したと言われているが、自生説もある。モモは春の農事始めに邪霊祓いをするために供えられるとされており、意図的に排水路に流された可能性もある。



第315図　溝状遺構から出土した土師器と須恵器の集成図



第316図　溝状遺構から出土した須恵器の集成図

・穴状遺構

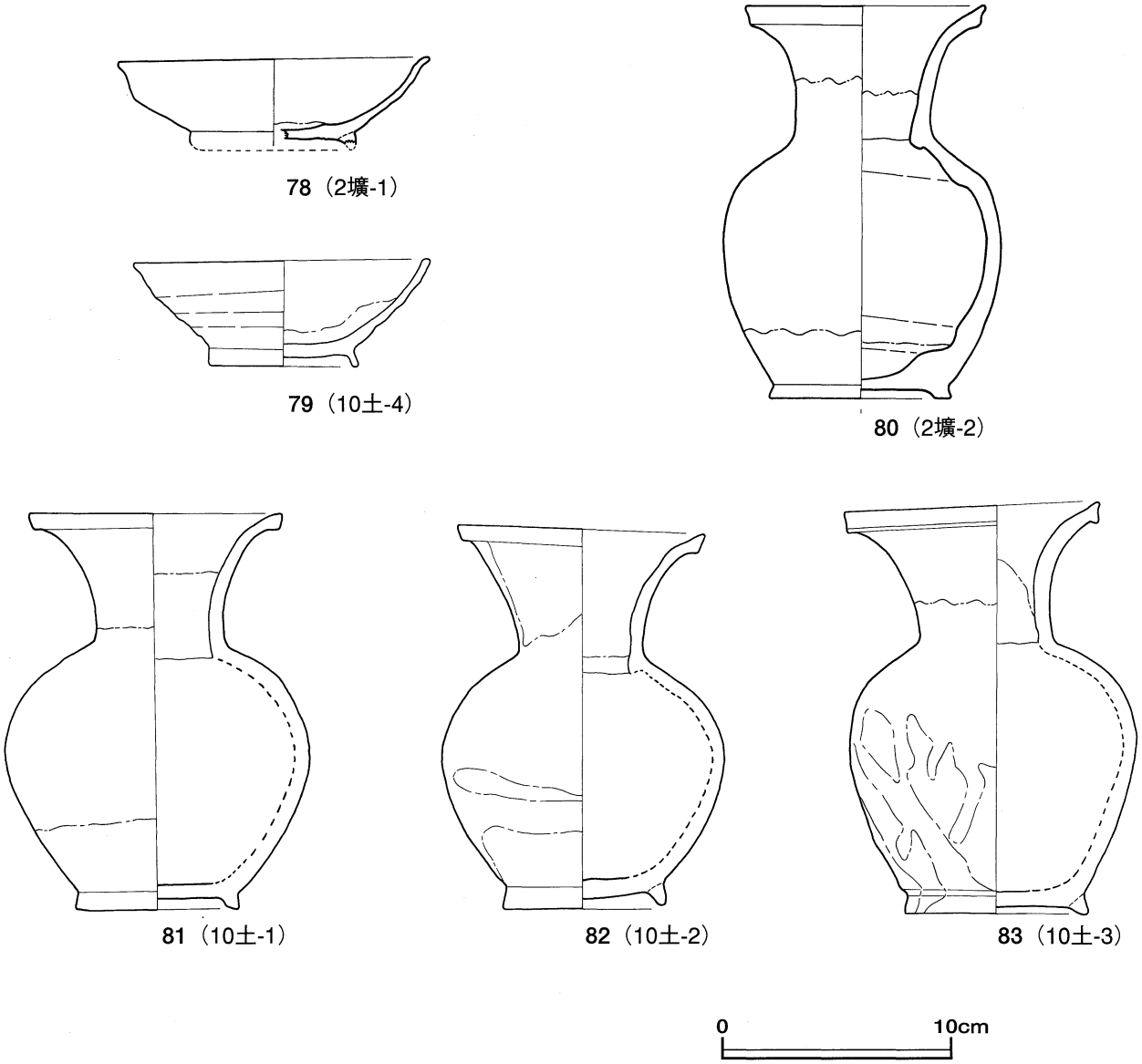
穴状遺構は土壙が２基、土坑が43基、ピットが170基の合計215基を確認した。

土壙はＢ－9 グリッドの北部とＦ－6 グリッドの中央部で確認したが、平面形状・断面形状とも共通性はなく、Ｂ－9 グリッドの１号土壙は礫床を伴い、土師器片が出土しているのに対し、Ｆ－6 グリッドの２号土壙は礫が床面から確認面に散乱している状態で、長頸壷と鉢の２点が出土している。いずれも礫床または礫群と遺物を伴なっていることから土壙と判断した。

土坑は43基を確認したが、遺物を伴っているものは１・２・9・10・13・19・20号土坑の７基である。このうち、10号土坑から出土した長頸壷３点（第317図81～83）は２号土壙から出土した長頸壷（第317図80）と同様で、須恵器というよりも９世紀末から10世紀初めにかけての灰釉陶器と言った方が良いように思える。

ピット群はD－5・6 グリッド、Ｅ－5 グリッド、Ｆ－6・7 グリッド、Ｇ－6・8 グリッド、Ｈ－6・7 グリッド、Ｉ－7 グリッド、Ｌ－7・8 グリッド、M－6・7・8 グリッド、N－7 グリッドなど緩斜面に分布するものと、Ｈ－10グリッド、Ｉ－9・10グリッド、Ｊ－10グリッドなど平地に分布するものとがあるが、緩斜面に分布するものが圧倒数を占めている。しかし、分布状況・平面形状・断面形状とも規則性はなかった。なお、292号ピットから出土した土師器の甕の口縁部片は、口縁部に横ナデ仕上げが認められ、体部にハケ目痕を残しており、６世紀の土師器の特徴を示している。

また、遺構以外から出土した土師器・須恵器も、遺構から出土した土器と同じ様相を示している。



第317図　土壙・土坑から出土した土器の集成図

なお、遺構外から出土した遺物の中に、土師質の土錘が 3 点見られるが、これらの土錘は漁網用の土錘と考えられ、僅かな資料ではあるが、漁猟が行われていたことを示唆している。

装身具のガラス小玉 2 点は、丘陵部に存在した横穴から流失したものと考えられる。

以上の遺構と遺物から、断片的ではあるが古墳時代を含む古代（ 6 世紀から10世紀初めにかけて）の人々の営みの存在が証されたことになる。

（3）中世

中世の遺構は溝状遺構が 1 条、穴状遺構のうちピットが18基の合計18基 1 条で、出土遺物は山茶碗片が9,495点ある。溝状遺構は緩斜面の上位に分布し、また、ピット群もＡ－5 グリッド、Ｂ－4・5 グリッド、Ｉ－7 グリッド、Ｋ－7・8 グリッドというように緩斜面の上位に分布している。これらの分布状況は緩斜面の下位から平地にかけて中世の遺構が存在しなかったのではなく、上位層が後世の土地改良により削平されたことによるものと考えられ、調査区の南部で池が広がっている箇所（Ｚ－14グリッド、Ｅ－14グリッド、Ｆ－15グリッド、Ｉ－16グリッド）から山茶碗が出土していることから証明される。

出土遺物は山茶碗の碗・小碗・小皿の 3 器種ある。器形（特に口径や高台の断面形状）・色調・胎土に含まれる砂粒などにより窯産地区分を試みたが、明確に区分することは出来なかった。当然の事ながら、東遠江系窯産のものが多くを占めている。

大まかな区分であるが、以下のように分類できる。

Ⅰ期（12世紀前半から中頃）

古相　碗は口径が17㎝前後で、口縁部が緩やかに外反し、断面が三角形状の高い高台が付くもの（第303図64・65）。小碗は口径が10㎝前後で、体部は僅かに内湾し、口縁部がほぼ直線上に開き、断面が三角形状の低い高台が付くもの（第303図75・81）。

新相　高台が古相よりも低く、「ハ」の字状に開くもの（第303図69・70）。

Ⅱ期（12世紀後半）

碗は底部がⅠ期よりも小型化し、断面が台形状の高台が付くもの（第303図72・79）。小皿はⅢ期より口縁部の開きが小さく、器高が高いもの（第304図88）。

Ⅲ期（13世紀）

碗は口縁部が直線的に開き、体部が僅かに内湾し、断面が小さな三角形状か低く潰れた高台を持つもの（第303図73・74・76・80）。小皿は器高が低く底径が大きいもの（第304図86・91）。

山茶碗片の中には色調が灰白色で、胎土に灰色・白色粒を少量含む湖西窯産系ものも見られる。

以上のように、遺物から見る限りにおいては12世紀から13世紀に至る時代の遺構が存在していたことを示唆している。

（4）近世

近世の遺構は溝状遺構が 8 条、穴状遺構のうち土壙墓が26基、ピットが15基、井戸跡が 1 基の合計42基 8 条で、出土遺物は陶磁器片が710点、銭貨が60点、鉄製品が83点、かわらけ片が247点、人骨片が2,056点ある。

溝状遺構の内、1 号溝跡、21・22溝跡は排水溝と考えて良いであろう。特に21・22溝跡は井戸跡と関連した溝といえる。井戸跡は石組みの円筒形の井戸で、深さも最深部で80㎝と浅く、滲水面も確認面より深さ54㎝と浅いため、生活用水として用いたとは考えられず、農業用水を取るための井戸と理解できる。石組みに用いた川原石の中に「にツ川　六ツ」という墨書が見られ、新川（にっかわ）集落に関連する井戸と推定される。

土壙墓の26基は、ほとんどが丘陵裾部に分布し、地山層を掘り込んでいる。大小の差はあるが平面形状も断面形状もほぼ同じと見て良いであろう。25号土壙墓のみが緩斜面にあり、形状も副葬品の銭貨も他の土壙墓とは異なる様相を呈している。1 号土壙墓に埋葬された人は推定身長が150～156㎝の壮年男性（25～30歳）、3 号土壙墓に埋葬された人は推定身長が157～162㎝の青年男性（15～18歳）という分析結果がでている。

土壙墓から出土した遺物は銭貨・かわらけ・鈴・鉄釘がある。銭貨はいわゆる六文銭で、死者が三途の川を渡るときの渡し賃として頭陀袋の中に一文銭を 6 枚入れるという葬送儀礼の一つで、六道銭とも言われている。出土した銭貨は25号土壙墓以外は「寛永通寶」で、「寛永通寶」が鋳造された年代は寛永13年（1636）から万延元年（1860）であるので、「寛永通寶」が出土した 1・4 号土壙墓は寛永13年（1636）以降に埋葬されたことになり、「寛永通寶」の裏面に「文」の文字がある新「寛永通寶」が出土した 3・6・19・21・26号土壙墓は新「寛永通寶」が鋳造された寛文 8 年（1668）以降に埋葬されたことになる。25号土壙墓から出土した銭貨は全て渡来銭で、鋳造年代が北宋の1009年から1101年である。六文銭の風習が発生したのは中世より後とされており、渡来銭の鋳造年代と埋葬された年代とは一致しない。掛川市の向山遺跡ではこれらの渡来銭と「寛永通寶」が一緒に出土した事例もある。また、遺構以外から出土した銭貨もほとんどが「寛永通寶」であり、出土した位置も土壙墓が集中して確認された斜面の下部である。

かわらけで図化できたものは21・26号土壙墓から各 1 点、22号溝跡から 2 点、遺構以外から 7 点出土している。全て小皿で、平底の底部から外反して立ち上がっている。中には口縁部まで大きく外反しているもの（第305図95）もある。

7・11・16・19・216号土壙墓から鉄釘が出土したことは、早桶（屈葬の棺）に入れて埋葬し、蓋を釘付けした証拠である。

以上のように、兼情遺跡は後世の農地改善事業により遺跡の上位層が削平されていたにもかかわらず、弥生時代後期から近世に至るまでの遺構と遺物を多数確認した。その中で、弥生時代後期の周溝墓、古墳時

代の土壙、近世の土壙墓と、墓制に関する遺構が各時代を経て連続して存在していたことは、この遺跡の大きな特徴といえる。残念ながらこれらの墓制に関する遺構を構築した人々の集落址は存在しなかった。

《帝釈山砦》

1．遺跡の概要

（1）大東町域に存在する中・近世の城館跡

大東町域に存在する中世から近世にかけての城館跡は49箇所が知られている。中世の地方の豪族は平地や低丘陵の緩斜面に「館」を構えて領地を治めていたが、ひとたび戦が起こると「館」は「城」の機能を果たさなければならず、基本的な防御施設として館の四方を取り囲む堀と土塁を備えていた。大東町域に存在する館跡としては、入山瀬三郎館・八相寺館・長嶋河内守館・雑賀館・土方氏館・国安館の 6 箇所が知られているが、八相寺館・土方氏館・国安館以外の館は消滅している。

新興の武士団の活動が活発化すると、平地の館は楯籠もるために城としての防御施設をより強化したが、少数の兵力で大軍を迎え撃つために地形の険しい山に城を築くようになり、平地の館から山城へ移行していった。大東町域に存在する山城としては、昭和50年（1975）10月16日に国の史跡に指定された高天神城がある。この高天神城の攻防に係わる「砦」が町域の各所に分布しており、小笠山砦・日向砦・風吹砦・高瀬砦(高瀬城山)・岩滑砦(岩滑城山)・八ッ谷砦・毛森山砦・西ノ谷砦・田ヶ谷砦・惣勢山砦・安威砦・火ヶ峰砦・能ヶ坂砦・宇峠砦(宇峠城)・萩原口砦・矢本山砦・林ノ谷砦・畑ヶ谷砦・星川砦・釜田砦・帝釈山砦・中村砦(中村城山)・中川原砦・芳峠砦・神宮寺砦・三井山砦・獅子ヶ鼻砦の27箇所ある。中でも、小笠山砦・火ヶ峰砦・能ヶ坂砦・中村砦（中村城山）・三井山砦（大坂砦・相坂砦）・獅子ヶ鼻砦の 6 砦は武田氏の拠点であった高天神城を攻撃するために徳川家康が造らせたと言われている砦である。また、当時の武将の屋敷跡として原川大和守屋敷・渥美源五郎屋敷・渡辺金太夫屋敷・小笠原右京屋敷・大石屋敷・池田縫平屋敷・岡部丹波屋敷・宝屋敷・斉藤宗林屋敷・三俣殿屋敷など10箇所、当地に在住した刀鍛冶の屋敷として高天神兼明屋敷・国包屋敷・国安屋敷など 3 箇所、今川氏が領地としていた時代の代官屋敷や末端行政組織「便補保（びんぽのほ）」の収納吏の館であった八官庁などが 2 箇所ある。

（2）帝釈山砦の概要

今回調査を行った帝釈山砦は、高天神城を攻撃するために徳川家康が造らせたと言われている 6 砦の一つ中村砦に隣接する砦で、中村砦と一体を成す砦と言われている。中村砦については、天正 8 年(1580) 3 月の『家忠日記』に

「廿五日　乙丑　相坂取出普請しかけて候て、中村取出へ越候、普請候」

「廿八日　戊辰　中村普請出来候」

とあるように、3 月25日に相坂取出（大坂取出）すなわち三井山砦の工事中に、中村砦にきた徳川家康は、工事の指示を出している。「中村取出」と記載されていることは、既に砦は存在しており改修工事かあるいは増設工事を指示したことになる。そして、3 日後の 3 月28日に工事は終了している。

『家忠日記』には、この三井山砦や中村砦の他に獅子ヶ鼻砦についての記載がある。すなわち、天正 8 年(1580) 6 月

「十一日　己酉　高天神取出場ししかはな陣取候」

「十二日　庚戌　取出普請候」

「十七日　乙卯　取出普請出来候」

とあり、6 月11日に家康は獅子ヶ鼻に陣取り、翌12日に砦の工事を指示し、5 日後の12日に工事は完成している。「ししかはな取出」と記載されていないことから、はじめて獅子ヶ鼻砦が構築されたと推察できる。しかし、中村砦に隣接する「帝釈山」について『家忠日記』に記載はない。

昭和10年(1935)に発刊された『高天神城戦史』には小笠山砦・風吹砦・惣勢山砦・安威砦・火ヶ峰砦・能ヶ坂砦・萩原口砦・矢本山砦・林ノ谷砦・中村砦（中村城山）・三井山砦・獅子ヶ鼻砦の12箇所についての記載があるが、ここにも帝釈山砦についての記載はない。

昭和56年（1981）に発刊された『静岡県の中世城館跡』（静岡県教育委員会編）に、帝釈山砦の記載があるので、そのまま紹介する。

「帝釈山（タイシャクヤマ）砦

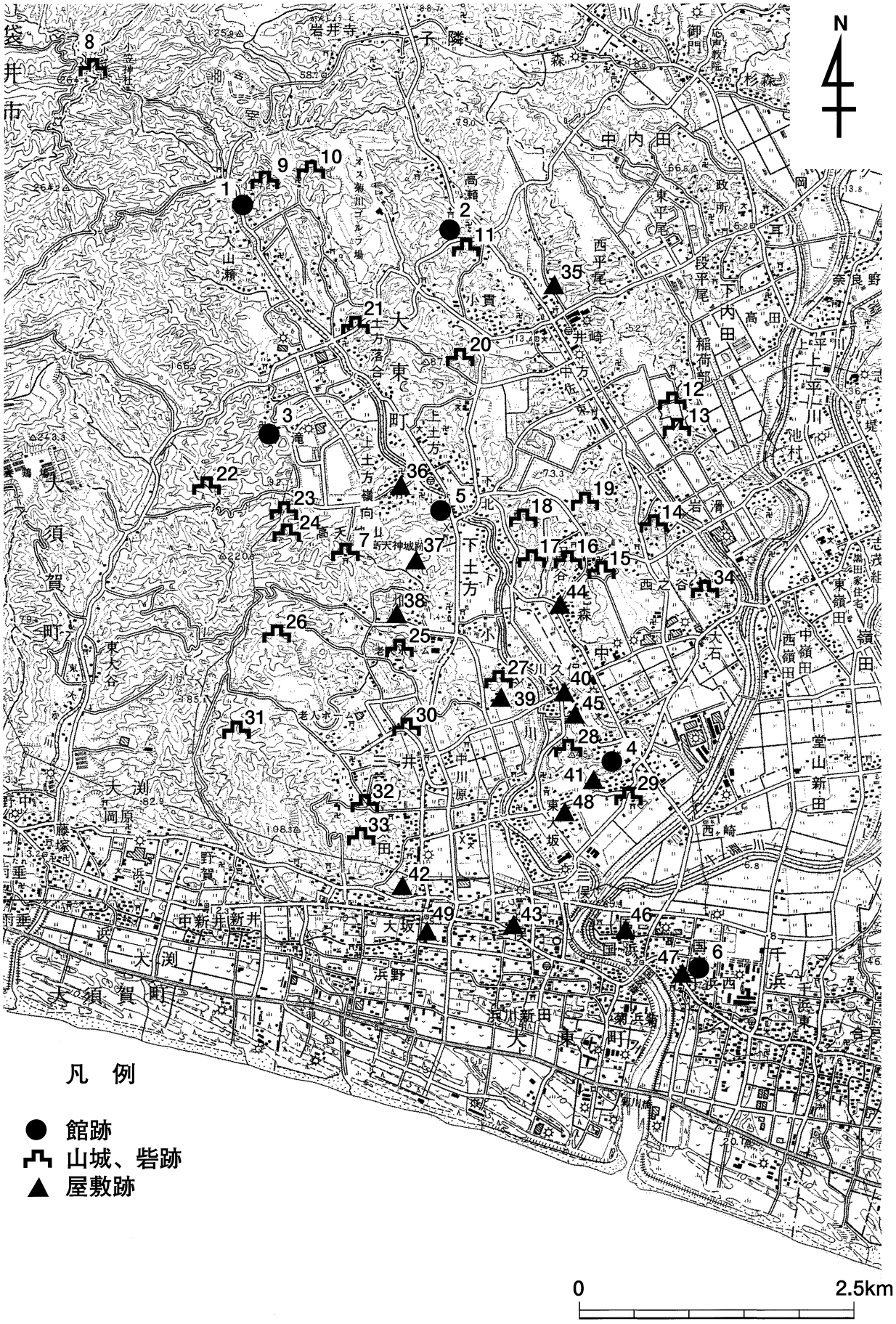
大東町土方字川久保、新川字海戸

高天神城東南2.5kmにあり、標高45.0mの帝釈山を中心に東西に伸びる尾根及び山麓一帯を含め、中村城山と接する持口を境とし城郭を形成している。帝釈山を主軸とする櫓台の外に赤山櫓、白鳥山櫓を

第74表　大東町域に存在する中・近世の城館跡

番号	遺跡名	種別	所在地	地目	遺構・遺物	備考
1	入山瀬三郎館	館	入山瀬字垣戸	林地・宅地		消滅
2	八相寺館	館	高瀬	境内	五輪塔等	
3	長嶋河内守館	館	今滝字殿ノ谷	宅地		消滅
4	雑賀館	館	中字公文、高塚	宅地		消滅
5	土方氏館	館	土方字堀之内	宅地		
6	国安館	館	国安	宅地・畑		
7	高天神城	山城	上土方嶺向字鶴翁山	林地	曲輪・堀切・土塁・堀	国指定史跡
8	小笠山砦	砦	入山瀬字小笠山	林地	曲輪・堀切・土塁・空堀・櫓台・武者走り	
9	日向砦	砦	落合字日向ヶ谷	林地		
10	風吹砦	砦	入山瀬字東谷	林地		
11	高瀬(城山)砦	砦	高瀬	林地		
12	岩滑(城山)砦	砦	岩滑	林地	曲輪	一部残
13	八ツ谷砦	砦	岩滑字八ツ谷	林地		消滅
14	毛森山砦	砦	中	林地	曲輪	
15	西ノ谷砦	砦	西ノ谷字上屋中	畑他	土塁・堀・井戸	
16	田ヶ谷砦	砦	中	林地・畑		
17	惣勢山砦	砦	中	林地		
18	安威砦	砦	下土方字青谷	林地(植林)		
19	火ヶ峰砦	砦	下土方、中	林地・畑	曲輪	
20	能ヶ坂砦	砦	小貫字能ヶ坂	林地	(帯)曲輪・竪堀・武者走り	標柱
21	宇峠砦	砦	小貫、土方	林地		
22	萩原口砦	砦	土方	林地		
23	矢本山砦	砦	土方	林地	空堀・(段)曲輪	
24	林ノ谷砦	砦	土方	林地		
25	畑ヶ谷砦	砦	下土方字畑ヶ谷他	林地	空堀・堀切・土塁・(帯)曲輪	
26	星川砦	砦	大坂字星川	林地・畑	曲輪・堀切	
27	釜田砦	砦	大坂	林地	(段)曲輪	
28	帝釈山砦	砦	中	林地	(帯)曲輪・武者走り	
29	中村(城山)砦	砦	中	林地	石錘・山茶碗	標柱
30	中川原砦	砦	大坂字中河原	林地・畑	曲輪・堀切	
31	芳峠砦	砦	大坂字寺部	林地	(段)曲輪・堀切・土塁	
32	神宮寺砦	砦	大坂	林地・墓地		
33	三井山砦	砦	大坂	林地	曲輪・堀切・土塁・武者走り	標柱
34	獅子ヶ鼻砦	砦	岩滑、小笠町大石	公園	曲輪・堀切・土塁	
35	原川大和守屋敷	屋敷	高瀬	畑・宅地		消滅
36	渥美源五郎屋敷	屋敷	土方字嶺向	宅地	土塁	標柱
37	渡辺金太夫屋敷	屋敷	下土方字平塚	溜池		標柱
38	小笠原右京屋敷	屋敷	下土方字畑ヶ谷	宅地		
39	岡部丹波屋敷	屋敷	大坂	畑		消滅
40	宝屋敷	屋敷	川久保	宅地・畑		消滅
41	斉藤宗林屋敷	屋敷	中字高塚	宅地		消滅、標柱
42	大石屋敷	屋敷	大坂	宅地		
43	三俣殿屋敷	屋敷	三俣字殿屋敷	宅地・畑	土塁	
44	池田縫平屋敷	屋敷	中	宅地	土塁	
45	高天神兼明屋敷	鍛冶	中	畑		消滅、標柱
46	国包屋敷	鍛冶	国包	畑・宅地		一部残り
47	国安屋敷	鍛冶	国安	宅地	土塁	一部残り
48	代官屋敷	屋敷	東大坂字海戸	宅地		消滅
49	八官庁	官庁	浜野	宅地		

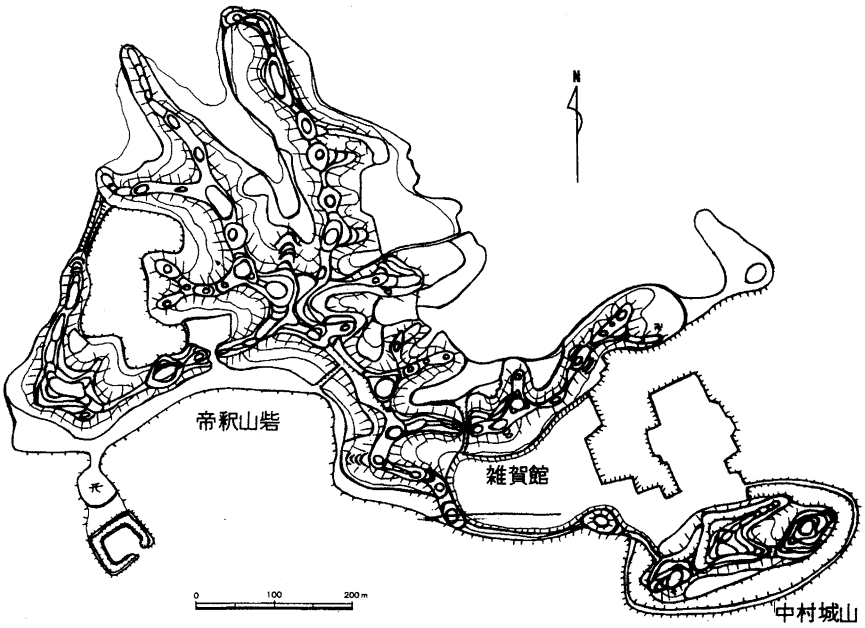
参考文献：『静岡県の中世城館跡』 静岡県教育委員会文化課編 1981 年



第318図　大東町域の城館跡分布図

設け、兼政池の両翼に伸びる先端及び山腹山麓にかけて波状階段式曲輪を設け、各鞍部に低土居を配置、切堀を主要鞍部、山頂尾根添に幅7.0mの武者走を併設、陣館は山腹のくぼみ及び山麓谷戸に配置し、防御形式を取った城塞となっている。

本砦は中村城山と一体となった城域と思われるが、釜田砦と接する点の低地防御を主体として作られたか、また、当時入江であった中村城山の前衛的城塞かである。今川水軍は相良及び国安、横須賀に拠点を持ち、本城前の海戸部落はその船着場ともいわれ、四艘、大名小路、みの輪、上屋敷の名がある。附近川久保に鍛冶屋敷等あり、本砦の赤山櫓台はもと赤山神社が祭られていたが、江戸中期に山麓に下ろす。本神社は天正８年に建てられたともいわれているが定かではない。本城も今川時代高天神支城群の一つとして築城、南部に向かっての防御縄張りで構築された要害城となっている。」



第319図　帝釈山砦及び中村城山等見取り図

出典：『静岡県の中世城館跡』（静岡県教育委員会編）

以上のように、『静岡県の中世城館跡』では、帝釈山砦を中村砦と一体となった城域として捉え、下小笠川の対岸にある釜田砦と接する点の低地防御を主体として作られたか、または中村砦の前衛的城塞かであろうとしている。さらに、高天神城の支城群の一つとして築城し、南部に向かっての防御体制を持つように構築された要害の城であるとしている。

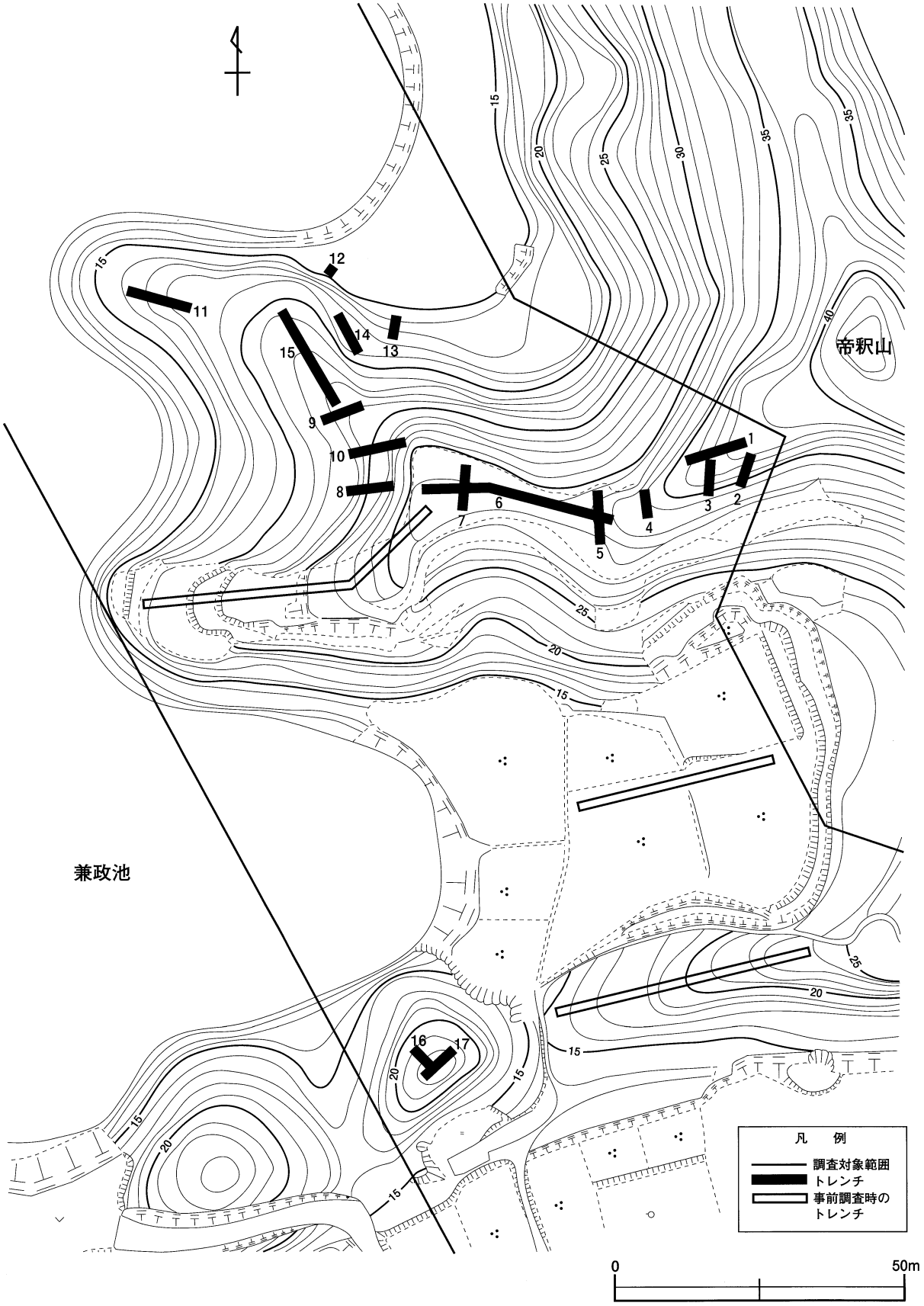
2.遺跡の層序

（1）土層の堆積状況

今回の調査で設定したトレンチは17箇所（第320図）で、延長距離は153.8m、発掘調査面積は153.8㎡である。第１トレンチから第７トレンチは帝釈山の山頂から西方向に伸びる丘陵の尾根部に設定し、第８トレンチから第15トレンチはさらに北西方向に伸びる丘陵の尾根部と丘陵裾部に設定した。第17トレンチと第18トレンチは横穴群が在る丘陵の延長上で南西方向に伸びる丘陵の尾根部に設定した。なお、第17トレンチの東側丘陵尾根部は横穴群を調査した際に全面発掘したが、帝釈山砦に関連した遺構・遺物は出土していない。

調査は曲輪の切・盛土状況、地山を切る堀切の形状、土塁の盛土状況などのを重視し、遺構の確認に努めた。ほとんどのトレンチが地山層の上に20～40㎝の厚さで表土層か地山の風化層が堆積している状況で、切・盛土は皆無であった。また、第13トレンチは崩壊地形に見られる土層の堆積状況を示していた。

各トレンチの状況は以下の通りある。

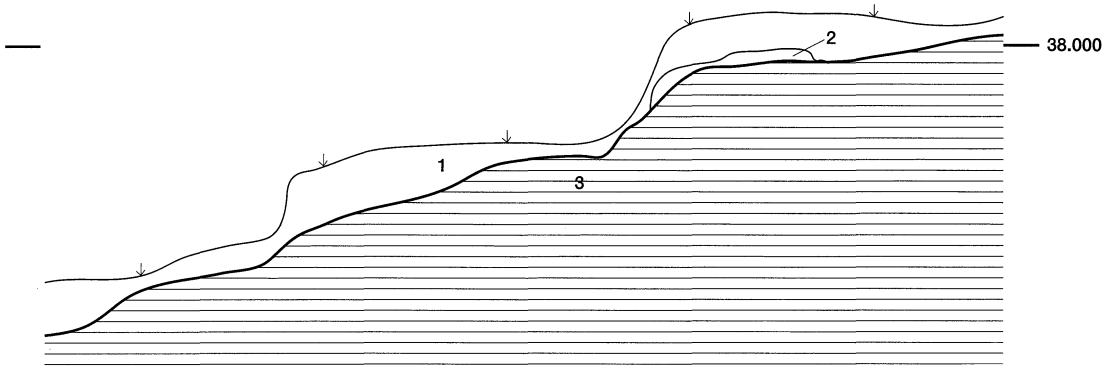


第320図　トレンチの設定位置見取図

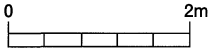
第１トレンチ

櫓台が想定されている山頂部から西方向へ伸びる丘陵傾斜面に、等高線に交わる東西方向に設定したトレンチ（長さ10.50m×幅1.00m）で、地山上に20～30㎝程度の表土が堆積している。表土はオリーブ褐色で、締まりは弱く、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はややある。

遺構・遺物は確認されなかった。



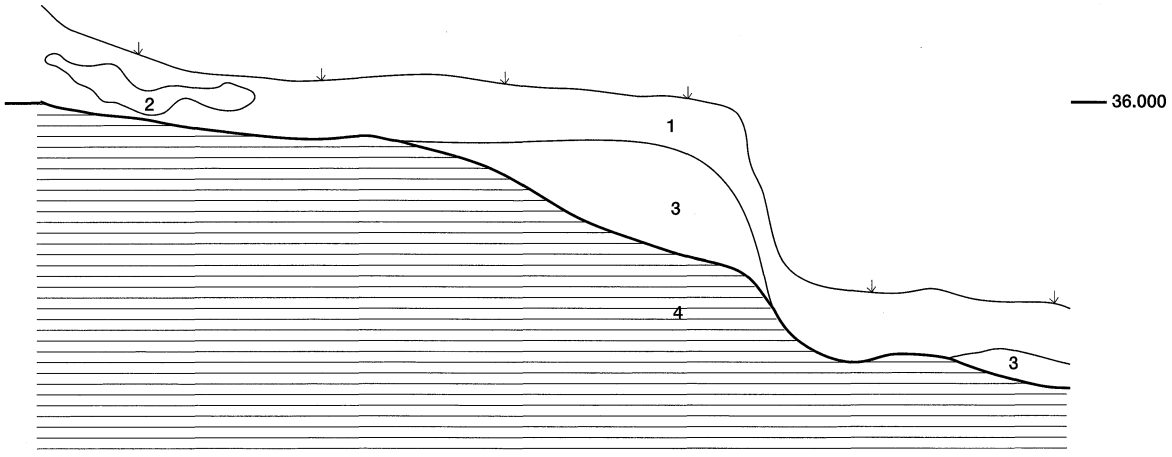
1層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/4）
　　締まりは弱く、粘性はややあり。
2層　オリーブ黄色（5Y6/3）
　　地山が風化した角礫の層。
　　締まりは固く、粘性はなし。
3層　地山。オリーブ黄色（5Y6/4）
　　5～10cm大の角礫を含む。
　　締まりは固く、粘性ややあり。



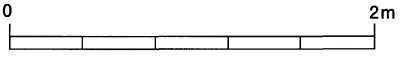
第321図　第1トレンチ北壁地層断面図

第２トレンチ

第１トレンチの南隣で、等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ5.60m×幅1.00m）で、地山上に30～40㎝程度の表土が堆積している。表土はオリーブ褐色で、締まりは普通、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はややある。遺構・遺物は確認されなかった。



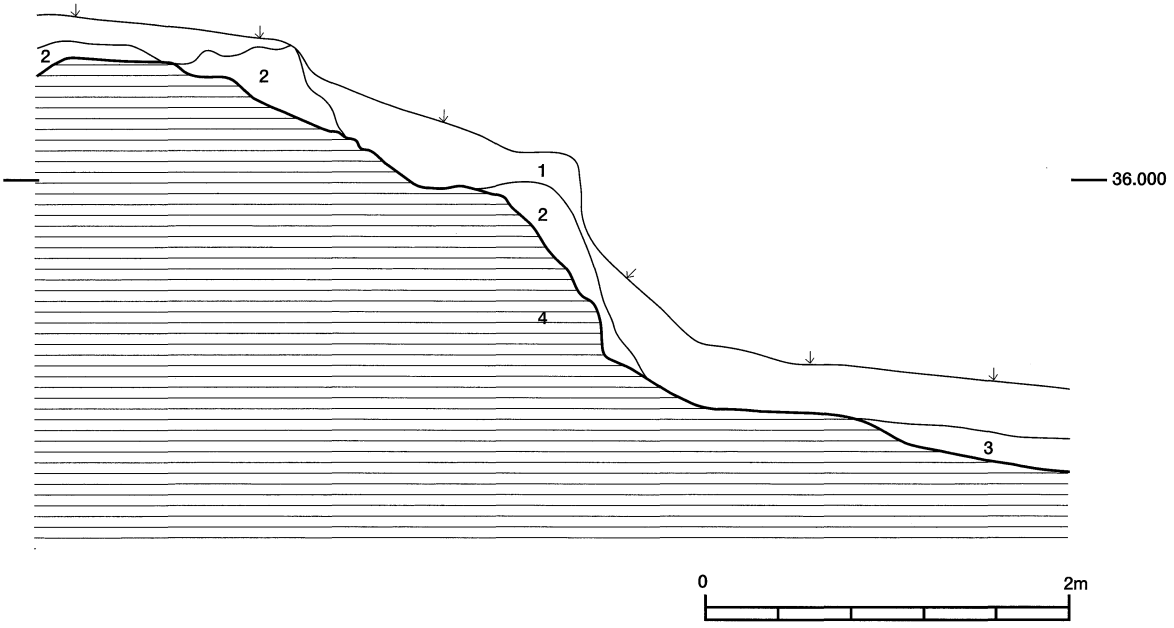
1層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　木根が多く含まれる。
2層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）・オリーブ黄色（5Y6/3）
　　地山と同質の塊が１層に混在。
3層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
4層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はややあり。



第322図　第2トレンチ東壁地層断面図

第３トレンチ

第２トレンチの西隣で、等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ6.00m×幅1.00m）で、地山上に30㎝程度の表土が堆積している。表土はオリーブ褐色で木根を多く含む。締まりは普通で、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はややある。遺構・遺物は確認されなかった。

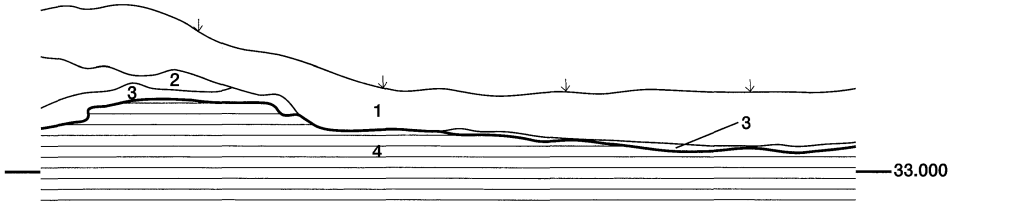


１層　表土。Yオリーブ褐色（2.54/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　木根が多く含まれる。
２層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）・オリーブ黄色（5Y6/3）
　　地山と同質の塊が１層と混在。
３層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
４層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はややあり。

第323図　第3トレンチ東壁地層断面図

第４トレンチ

第２トレンチの西隣で、等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ4.50m×幅1.00m）で、地山上に30㎝程度の表土とトレンチの北隅で２層の層序が確認された。畑地として改変されたときの層と考えられ、表土はオリーブ褐色で木根を多く含む。締まりは普通で、粘性はややある。第２層はオリーブ褐色で、表土と地山層が混在している。締まりは普通で、粘性は僅かにある。第３層はオリーブ褐色で、締まりは普通、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で、締まりは固く粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

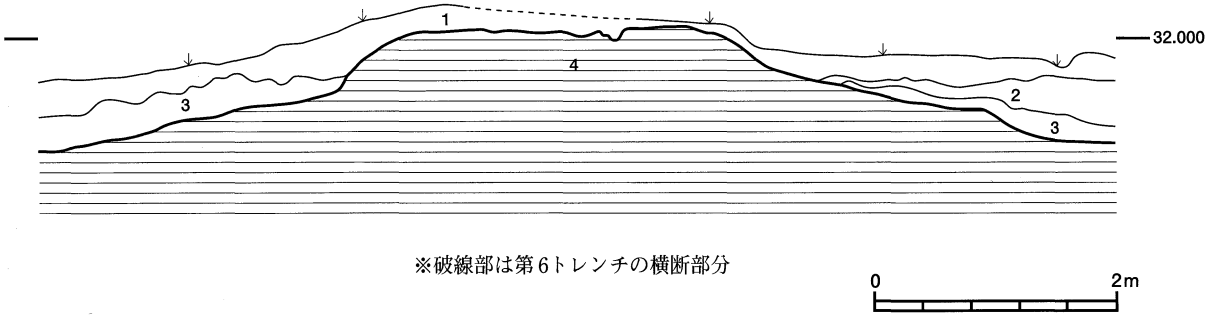


１層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　木根が多く含まれる。
２層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）・オリーブ黄色（5Y6/3）地山と同質の塊が１層と混在。
　　締まりはふつう、粘性は僅かにある。
３層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
４層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はなし。

第324図　第4トレンチ東壁地層断面図

第５トレンチ

第４トレンチの西隣で、等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ9.00m×幅1.00m）で、地山上に30㎝程度の表土と、トレンチの南北隅で２層の層序が確認された。畑地として改変されたときの層と考えられ、表土と地山層が混在している。表土は暗オリーブ褐色で締まりは普通、粘性はややある。第２層は黄褐色で締まりは普通、粘性はややある。第３層はオリーブ黄色で締まりは普通、粘性はややある。地山層は灰白色で、締まりは固く、粘性はややある。遺構・遺物は確認されなかった。



１層　表土。暗オリーブ褐色（2.5Y4/3）
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
２層　黄褐色（2.5Y5/4）
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
３層　オリーブ黄色（5Y6/3）
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
４層　地山。灰白色（5Y8/2）
　　締まりは固く、粘性はややあり。

第325図　第5トレンチ西壁地層断面図

第６トレンチ

標高約30mの平坦地に、等高線に並行して東西方向に設定したトレンチ（長さ34.00m×幅1.00m）で、地山上に20㎝程度の表土と、畑地として改変されたときの層が堆積している。表土はオリーブ褐色で締まりは普通、粘性はややある。第２層は灰オリーブ色で締まりは普通、粘性はややある。地山層は灰黄色で締まりは固く、粘性はややある。遺構・遺物は確認されなかった。

第７トレンチ

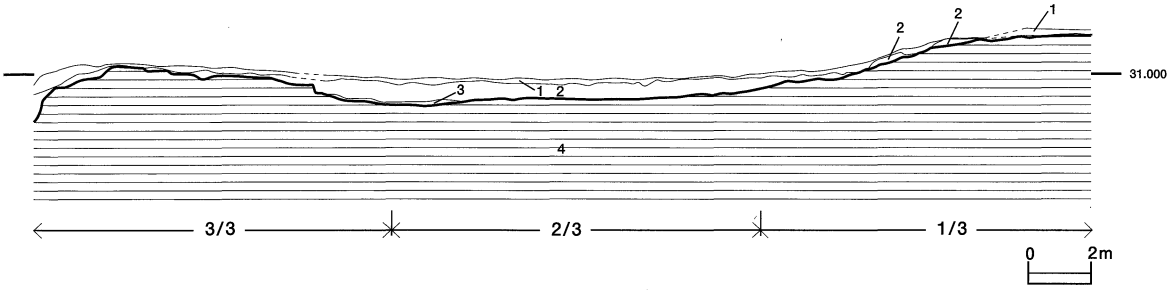
第６トレンチに直交するように、南北方向に設定したトレンチ（長さ7.50m×幅1.00m）で、地山上に20㎝程度の表土と、トレンチの北隅で２層の層序と積み石が確認された。表土はオリーブ褐色で締まりは普通、粘性はややある。第２層は近・現代の積み石でオリーブ黄色である。第３層は黄褐色で締まりは普通、粘性はややある。地山層は灰黄色で締まりは固く、粘性はややある。遺構・遺物は確認されなかった。

第８トレンチ

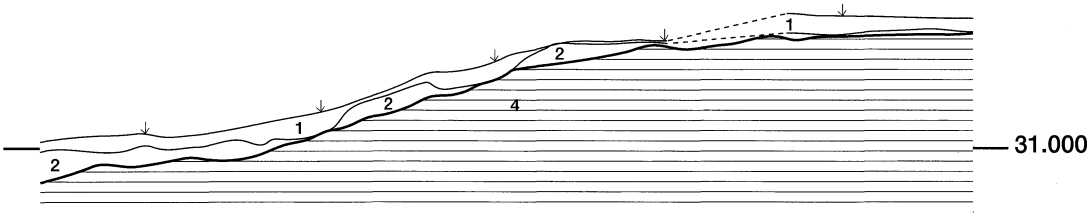
第６トレンチの西隣で、等高線に交わる東西方向に設定したトレンチ（長さ8.00m×幅1.00m）で、地山上に30～40㎝程度の表土と、表土より粘性のやや強い第２層が、自然地形の傾斜面にそって堆積している。表土はオリーブ褐色で締まりは普通、粘性はややある。第２層はオリーブ褐色で締まりは普通、粘性は第1層よりもやや強い。地山層は灰黄色で締まりは固く、粘性はややある。遺構・遺物は確認されなかった。

第９トレンチ

第10トレンチの北隣で、等高線に交わる東西方向に設定したトレンチ（長さ7.50m×幅1.00m）で、地山上に50㎝程度の表土と、トレンチの中央から西側傾斜部分にかけて三層の層序が確認された。畑地として改変されたときの層と考えられる。表土はにぶい黄褐色で締まりは普通、粘性は僅かにある。第２層はにぶい黄褐色で締まりは普通、粘性はなし。第３層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はない。地山層は灰白色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

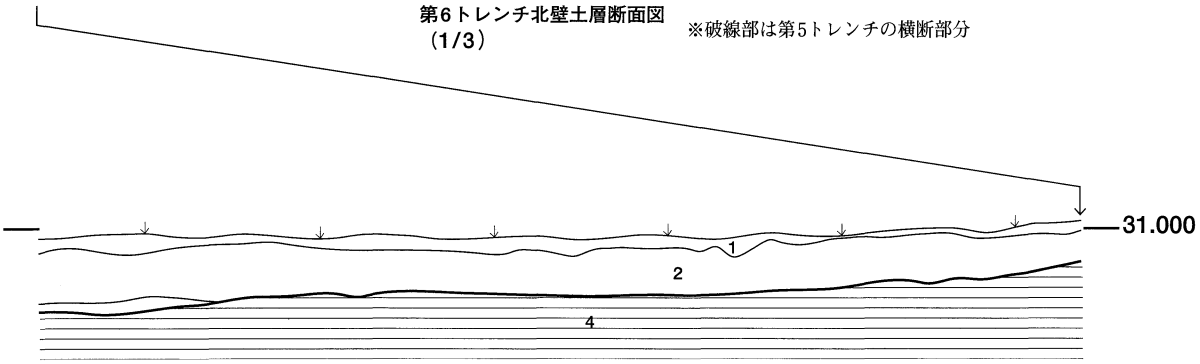


第６トレンチ北壁土層断面図（全体図）

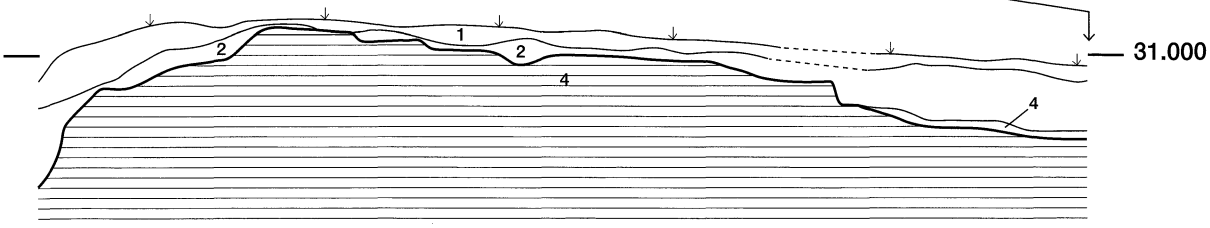


第6トレンチ北壁土層断面図
（1/3）

※破線部は第5トレンチの横断部分



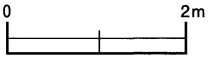
第6トレンチ北壁土層断面図
（2/3）



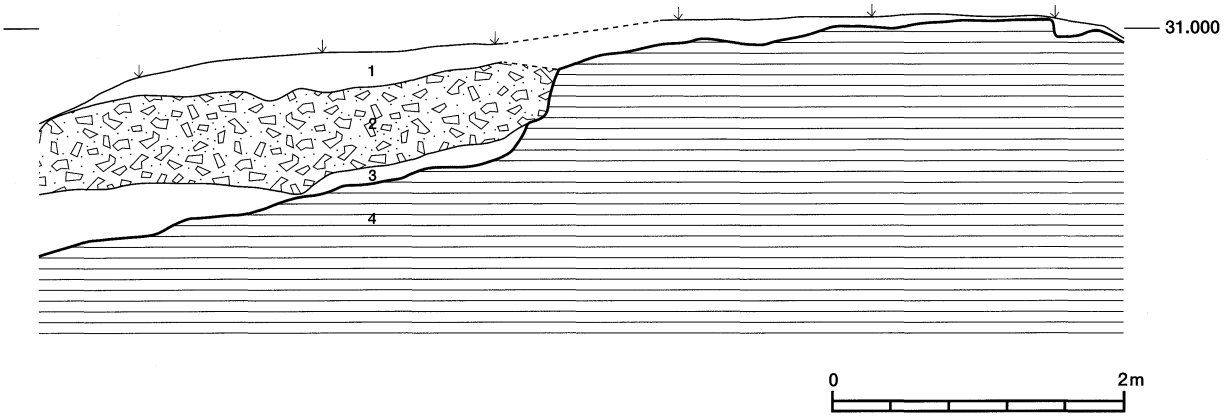
第6トレンチ北壁土層断面図
（3/3）

※破線部は第7トレンチの横断部分

1層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
2層　灰オリーブ色（5Y5/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
3層　黄褐色（2.5Y5/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
4層　地山。灰黄色（2.5Y7/2）締まりは固く、粘性はややあり。



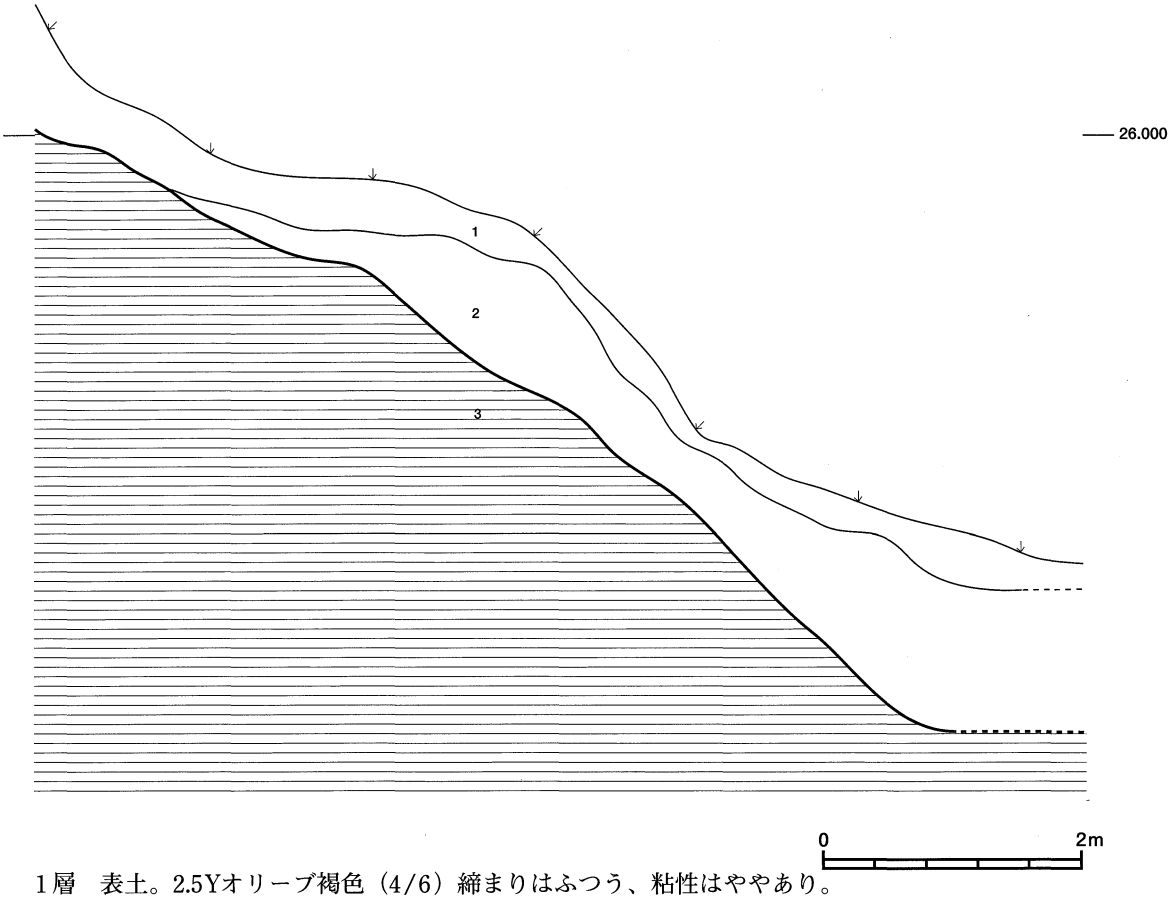
第326図　第6トレンチ北壁地層断面図



※破線部は第6トレンチの横断部分

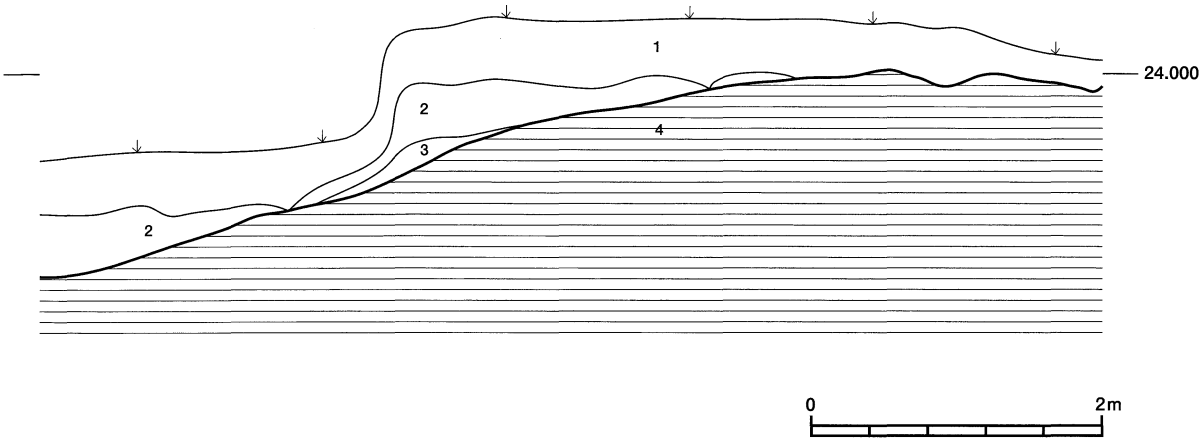
1層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/4）
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
2層　近・現代の積み石。オリーブ黄色（5Y6/3）
3層　黄褐色（2.5Y5/4）
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
　　ただし、極小（径5㎜以下）の粒（10YR5/6）を約1～2％の面積割合で含む。
4層　地山。灰黄色（2.5Y7/2）締まりは固く、粘性はややあり。

第327図　第7トレンチ東壁地層断面図



1層　表土。2.5Yオリーブ褐色（4/6）締まりはふつう、粘性はややあり。
2層　2.5Yオリーブ褐色（4/6）締まりはふつう、粘性は1層よりやや強い。
3層　地山。灰白色（5Y8/2）締まりは固く、粘性はややあり。

第328図　第8トレンチ南壁地層断面図

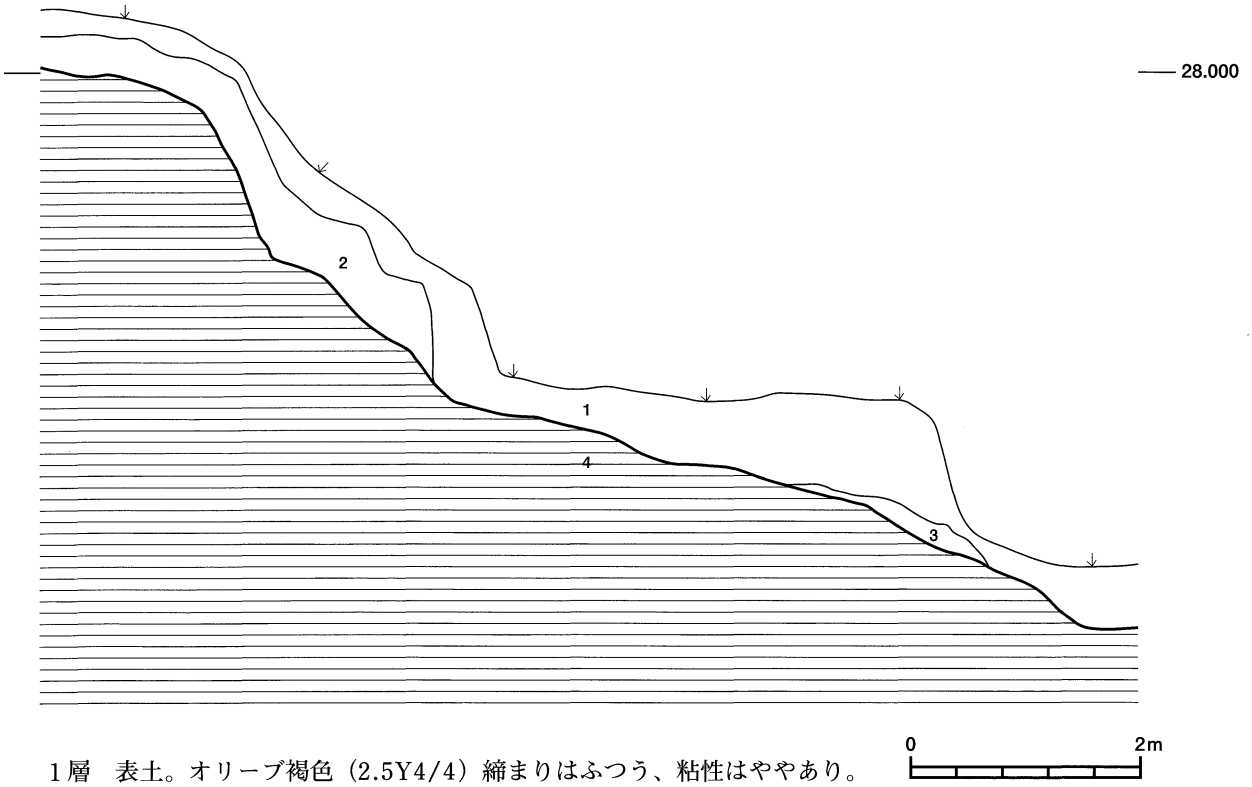


1層　表土。にぶい黄褐色（10YR5/3）締まりはふつう、粘性はわずかにあり。
2層　にぶい黄褐色（10YR6/4）締まりはふつう、粘性はなし。
3層　オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はなし。
4層　地山。灰白色（5Y8/2）締まりは固く、粘性はなし。

第329図　第9トレンチ北壁地層断面図

第10トレンチ

第 8 トレンチの北隣で、等高線に交わる東西方向に設定したトレンチ（長さ9.50m×幅1.00m）で、地山上に30～60㎝程度の表土と、トレンチの東側傾斜部分で 2 層の層序が確認された。表土はオリーブ褐色で締まりは普通、粘性はややある。第 2 層は地山と同質の角礫を含み、締まりは普通、粘性はややある。地山が風化し、その一部と表土が混在した層と考えられる。地山層は灰黄色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

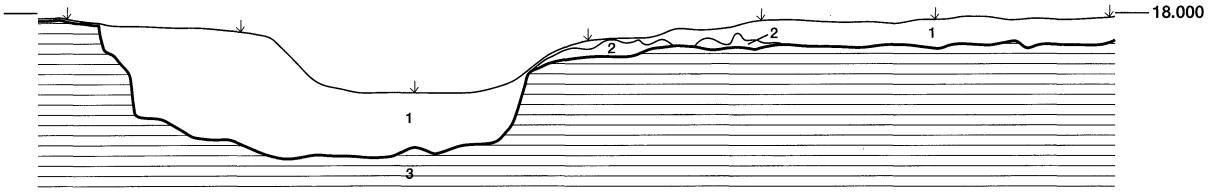


1層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
2層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　ただし、地山と同質の角礫（30～100㎜大）が混在する。
3層　オリーブ黄色（5Y6/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
4層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はなし。

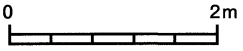
第330図　第10トレンチ南壁地層断面図

第11トレンチ

計画地の西部で兼政池の東に、等高線に交わる東西方向に設定したトレンチ（長さ11.00m×幅1.00m）で、地山上に40㎝程度の表土が堆積している。トレンチの南側は大東町教育委員会が行った事前調査時の重機の作業跡である。表土は黄褐色で締まりは普通、粘性はややある。第２層はオリーブ色で締まりは普通、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。



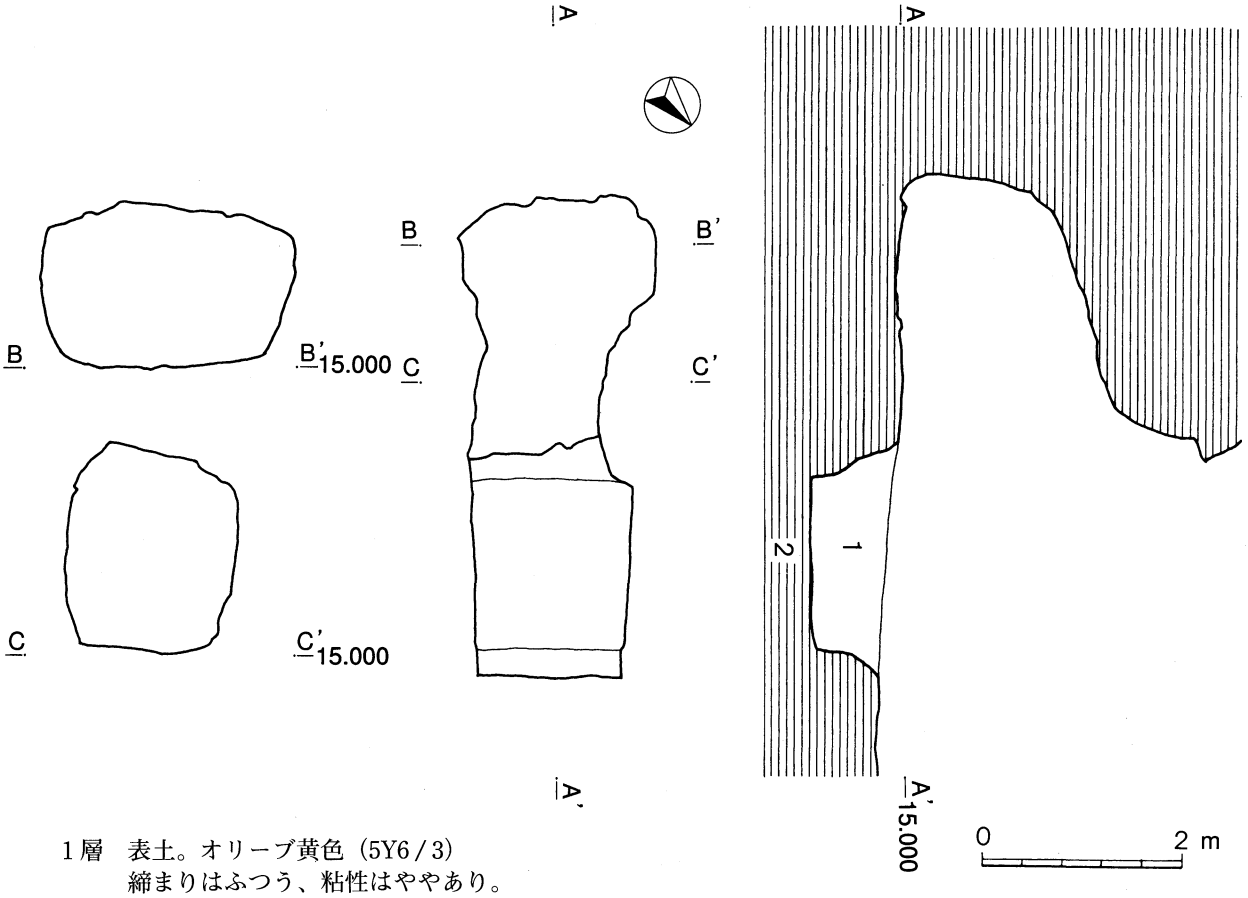
１層　表土。黄褐色（2.5Y5/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
２層　オリーブ色（5Y5/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
３層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はなし。



第331図　第11トレンチ南壁地層断面図

第12トレンチ

第14トレンチの北側で、等高線に交わる南北方向で地山層を横穴状に掘り抜いてあり、近代の防空壕ではないかと考えられる。第１層はオリーブ褐色で締まりは普通、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はない。遺物は確認されなかった。



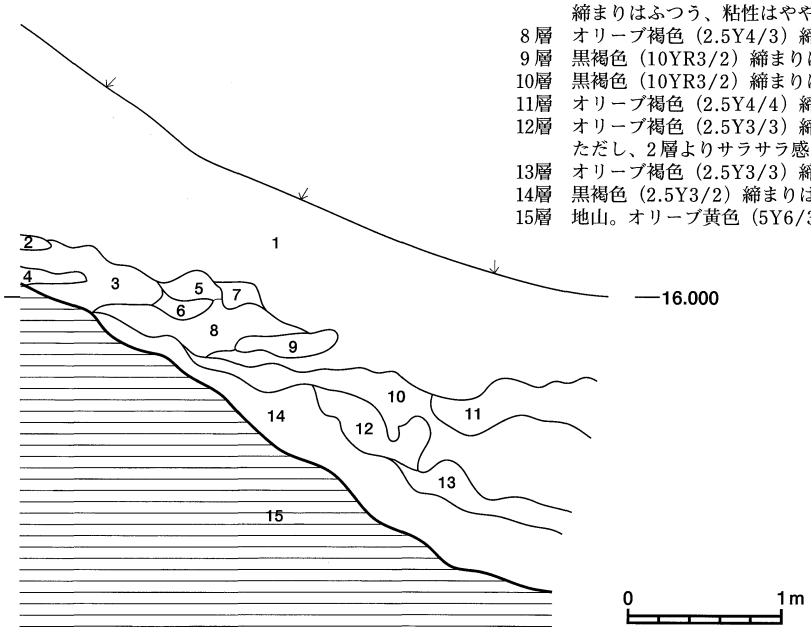
１層　表土。オリーブ黄色（5Y6/3）
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
２層　地山。オリーブ褐色（2.5Y4/4）
　　締まりは固く、粘性はややあり。

第332図　第12トレンチ（防空壕）平面・断面図

第13トレンチ

第14トレンチの東隣で、等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ4.00m×幅1.00m）で、地層断面図に示されるように表土より下の層が幾重にも重なり合い、かつて地滑りにより崩壊した地形であることが判る。地山層はオリーブ黄色で、締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

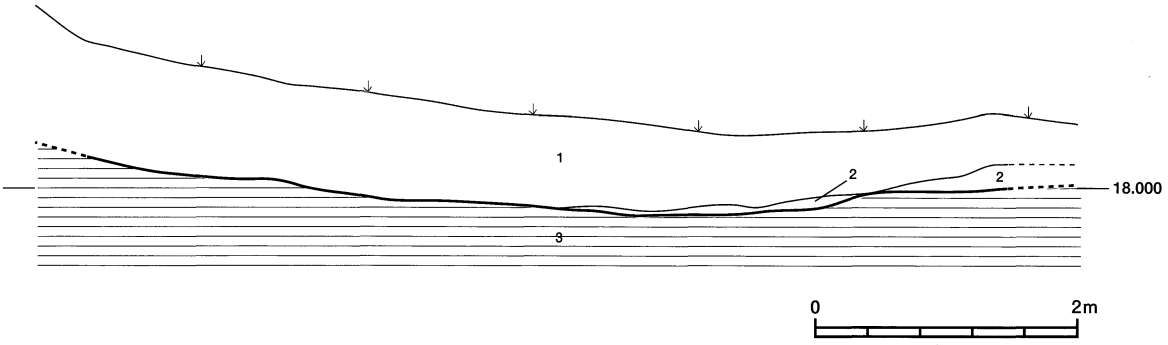
1層　表土。オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　ただし、径5～20㎜の塊（オリーブ黄色5Y6/3）を約3～5％の面積割合で含む。
2層　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
3層　オリーブ褐色（.5Y4/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
4層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　ただし、3層より粒径は細かい。
5層　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）が約70％で、オリーブ褐色（2.5Y4/3）が約30％
　　締まりはふつう、粘性はややあり。
8層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）締まりはふつう、粘性あり。
9層　黒褐色（10YR3/2）締まりはふつう、粘性はややあり。
10層　黒褐色（10YR3/2）締まりはふつうで、粘性は9層よりやや強い。
11層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）締まりはふつうで、粘性は1層よりやや強い。
12層　オリーブ褐色（2.5Y3/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　ただし、2層よりサラサラ感がある。
13層　オリーブ褐色（2.5Y3/3）締まりはふつうで、11層より粘性は強い。
14層　黒褐色（2.5Y3/2）締まりはふつう、粘性はややあり。
15層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）しまりは固く、粘性はなし。



第333図　第13トレンチ南壁地層断面図

第14トレンチ

第17トレンチの東隣で、等高線に並行して南北方向に設定したトレンチ（長さ7.50m×幅1.00m）で、地山上に80㎝程度の表土が堆積している。トレンチの一部で2層の層序が確認されたが、地山が風化して変色した層と考えられる。表土は黄褐色で締まりは普通、粘性はややある。第2層は浅黄色で締まりは固く、粘性はややある。地山層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

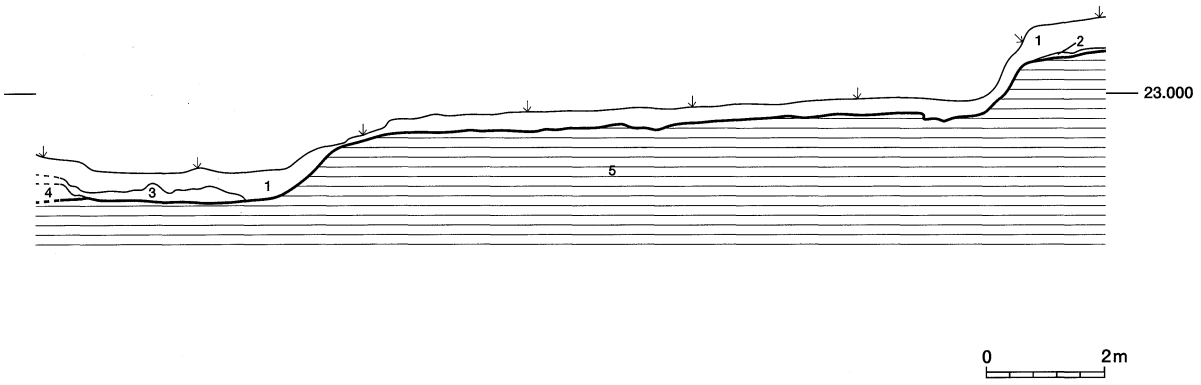


1層　表土。黄褐色（2.5Y5/4）締まりはふつう、粘性はややあり。
　　ただし、3層の地山と同質の角礫（20～100㎜大）を、面積割合で約3％含む。
2層　浅黄色（5Y7/4）締まりは固く、粘性はややあり。3層が風化した状態。
3層　地山。オリーブ黄色（5Y6/3）締まりは固く、粘性はなし。

第334図　第14トレンチ南壁地層断面図

第15トレンチ

調査地南部で、等高線に並行する東西方向に設定したトレンチ（長さ4.00m×幅1.00m）で、地山上に20㎝程度の表土が堆積している。表土は黄褐色で締まりはふつう、粘性はややある。地山層は灰白色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

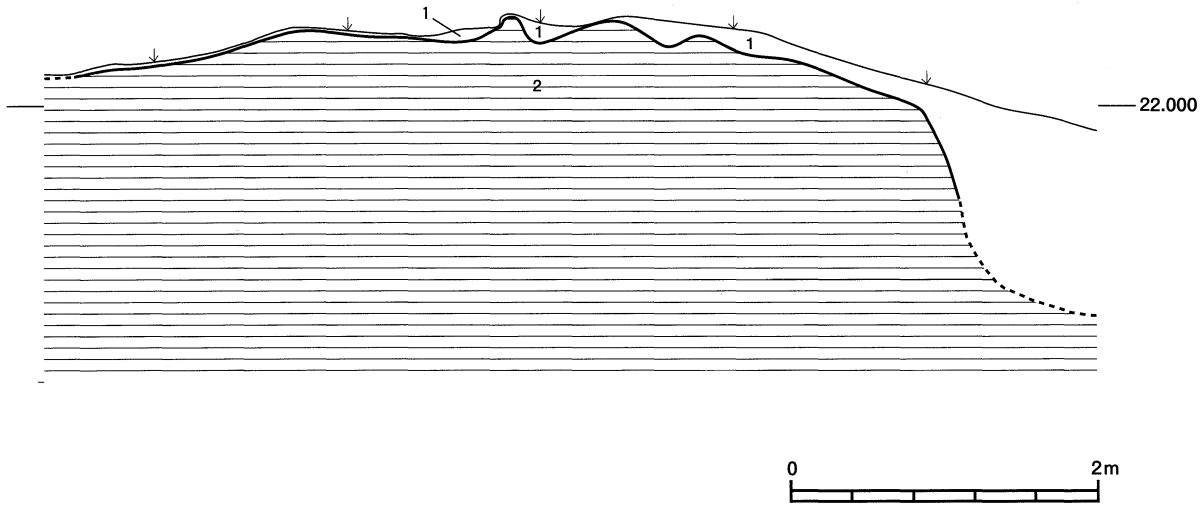


1層　表土。黄褐色（2.5Y5/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
2層　オリーブ黄色（5Y6/4）締まりは固く、粘性はややあり。
3層　灰オリーブ色（5Y5/3）締まりはふつう、粘性は僅-かにあり。
4層　黄褐色（2.5Y5/3）締まりはふつう、粘性はやや強い。
5層　地山。灰白色（5Y8/2）締まりは固く、粘性はなし。

第335図　第15トレンチ北壁地層断面図

第16トレンチ

第15トレンチに直交するように、傾斜地の等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ7.00m×幅1.00m）で、地山上に10～40㎝程度の表土が堆積している。表土は黄褐色で締まりはふつう、粘性はややある。地山層は灰白色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。

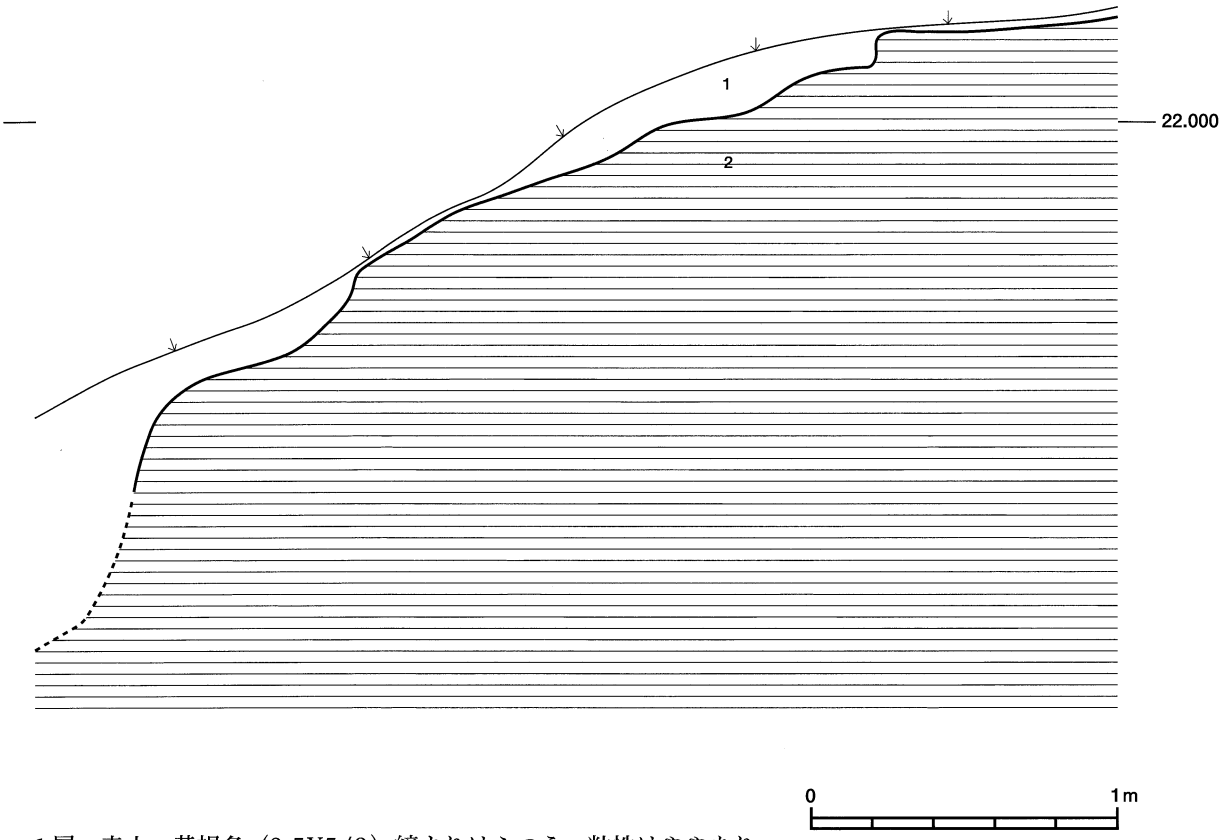


1層　表土。黄褐色（2.5Y5/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
2層　地山。灰白色（5Y8/2）締まりは固く、粘性はなし。

第336図　第16トレンチ東壁地層断面図

第17トレンチ

第９トレンチの北隣で、等高線に交わる南北方向に設定したトレンチ（長さ18.20m×幅1.00m）で、地山上に40㎝程度の表土と、２層の層序が確認された。表土と地山がまじりあったものと考えられる。表土は黄褐色で締まりはふつう、粘性はややある。第２層はオリーブ黄色で締まりは固く、粘性はややある。第３層は灰オリーブ色で締まりは普通、粘性は僅かにある。第４層は黄褐色で締まりは普通、粘性はやや強い。地山層は灰白色で締まりは固く、粘性はない。遺構・遺物は確認されなかった。



１層　表土。黄褐色（2.5Y5/3）締まりはふつう、粘性はややあり。
２層　地山。灰白色（5Y8/2）締まりは固く、粘性はなし。

第337図　第17トレンチ北東壁地層断面図

３.遺構と遺物

各トレンチにおいて遺物・遺構は全く確認されなかった。

４.まとめ

以上のように今回の調査においては、各トレンチにおいて遺構・遺物は確認されなかった。

『静岡県の中世城館跡』（静岡県教育委員会編）に示された帝釈山砦の記載事項と図面によれば、兼政池の両翼に伸びる丘陵の尾根部には波状階段式曲輪が在り、各鞍部には低土居を配置し、主要鞍部には堀切が在るとしている。しかし、今回の調査で明らかなように曲輪・土塁・堀切の痕跡は全く確認されなかった。

帝釈山の山頂部が発掘調査されていないので、結論を出すことが出来ないが、他の丘陵尾根部も今回の調査対象地域と同様の様相を呈しており、古文書・古文献・古記録にも「帝釈山砦」なる記載が確認されていないこと踏まえ、砦としての存在を検討する必要があろう。

Ⅳ　調査の成果と課題

1．兼情横穴群

今回の調査では4基の横穴を確認したが、完全な保存状態を維持していたものはなかった。

1号横穴は箱式石棺を確認したが、蓋石は乱れ、内部からは人骨片と耳環が1点、鉄鏃片が1点のみで、それ以外に棺内での副葬品は確認できなかった。ただし、玄室の奥壁東隅から土師器の坏が7点、高坏が6点、須恵器の坏蓋が8点、坏身が8点、高坏が1点、壺が1点の計31点がまとまって出土している。

2号横穴は玄室の床面を残すのみで、石棺・棺台・棺座・敷石・礫床などの埋葬施設は確認できなかったが、玄室の西側から土師器の高坏が5点、長頸壺が2点、甕が2点、須恵器の坏蓋が2点、坏身が6点、甑が2点、提瓶が1点、壺が1点、鉄鏃片が6点、中央部から切子玉が2点、棗玉の破片が1点、ガラス小玉が14点、砥石が1点、大刀の鍔の破片が1点、東側から土師器の鉢が1点、須恵器の坏蓋が1点、坏身が1点、小型壺が2点、鉄鏃片が8点、鉄鎌片が2点、南東側から小型の大刀が1口、大刀のハバキ片が1点、鉄鏃片が1点の合計64点が出土している。

3号横穴は造り付けの石棺を確認することができたが、石棺から出土した遺物は銭貨「寛永通寶」と「かわらけ」で、江戸時代に再利用したものと考えられる。なお、出土した銭貨「寛永通寶」は、背面に「文」の字が読みとれる新「寛永通寶」で、この銭貨は江戸時代の寛文8年（1668）以降に鋳造され、使用された銭貨であるので寛文8年以降に埋葬されたことになる。

4号横穴は覆土が無く、規模・形態などから古墳時代の所産と断定するのは困難であり、今後、検討を要する。

確認した遺物の時期が横穴の構築年代と必ずしも一致するとはいえないが、1・2号横穴から出土した須恵器・大刀・鉄鏃の形態は6世紀後半から7世紀前半に見られる特徴を示しており、横穴が構築された年代は大東町域で確認されている横穴と同様に、6世紀後半から7世紀前半と考えられる。1・2号横穴から出土した須恵器を比較すると、2号横穴から出土した須恵器は1号横穴から出土した須恵器より一段階古い形態を示している。なお、追葬の有無に関しては、出土した遺物から明確な時期差は認められなかった。

兼情横穴群の形状・規模を玄室の平面形状によって分類すると、隅丸方形（1号横穴）と三角フラスコ形（2・3号横穴）とに分けられる。1号横穴の玄室は隅丸方形で組合せ式箱式石棺を有し、2号横穴の玄室は三角フラスコ形で埋葬施設はなく、3号横穴の玄室は三角フラスコ形で造り付けの石棺を有するというように、3基とも異なった特徴を持っている。さらに共有する墓前域が確認されなかったことや、それぞれの横穴の標高も異なること。さらに横穴の存在が考えられる丘陵の上部が削平されていることなどから単位群について断定することは困難である。今回の調査区域の隣地において、さらに調査が行われれば、単位群の構成も判明する可能性がある。

2．兼情遺跡

兼情遺跡で確認した遺構は、周溝墓が16基、溝状遺構が62条、穴状遺構のうち土坑が45基、土壙が2基、土壙墓（近世の土壙を「土壙墓」として区分した）が26基、ピット（柱穴状遺構）が232基、井戸跡が1基の合計322基62条である。遺構以外には自然排水路も8条確認している。

弥生時代の遺構は周溝墓が16基、溝状遺構が40条、穴状遺構のうち土坑が2基、ピットが28基の合計46基40条で、出土遺物は弥生土器片が10,871点、石器が4点ある。

周溝墓は丘陵緩斜面に構築されているが、後世の農地改善事業に伴う土木工事等により上位面が削平され、主体部を確認することができなかった。周溝の方向軸は、地形の等高線にほぼ直交している。16基のうち調査区の西部で確認した2・3・4号の3基が円形周溝墓と考えられる以外は、方形周溝墓の範疇に入ると考えられる。出土遺物は壺と甕の2器種で、いずれも菊川式土器の後期後半の特徴を示している。したがって、これらの出土遺物から周溝墓は弥生時代後期後半に編年付けられる。

溝状遺構は調査区の東側に多く分布しており、特に、55号溝跡は溝の規模も大きく、弥生土器の出土量も多い。出土遺物は壺・甕・鉢の3器種で、いずれも菊川式土器の後期後半の特徴を示しおり、出土遺物から判断する限りにおいては、溝状遺構は周溝墓と同様に弥生時代後期後半の所産と考えられる。

穴状遺構は土坑2基とピット28基を確認した。土坑はいずれも緩斜面上で確認したが、平面形状・断面

形状とも規則性はなかった。ピット群は緩斜面から平地との境界近くに分布しているが、分布状況・平面形状・断面形状とも規則性はなかった。ピットから出土した土器も菊川式土器の後期後半の特徴を示している。また、自然排水路を含む遺構以外から出土した弥生土器も、遺構から出土した土器と同じ様相を示している。以上のことから、兼情遺跡における弥生時代の遺構と遺物は弥生時代後期の所産と考えられる。

古墳時代の遺構は緩斜面の上位部と調査区中央の平地部との境界近くに集中している。溝状遺構が13条、穴状遺構のうち土壙が 2 基、土坑が43基、ピットが170基の合計215基13条と自然排水路が 8 条で、出土遺物は須恵器片が10,119点、土師器片が18,331点、土製品が 5 点、装身具が 2 点ある。

溝状遺構の内、特に、7・9 号溝跡は緩斜面と平地との境界線に位置し、緩斜面からの雨水を排水するための溝のようにも思える。自然排水路は緩斜面下の平地から池までの短い流路を有し、弥生土器や山茶碗も出土しているが、古墳時代の須恵器・土師器が出土遺物の主体を占めている。出土遺物は土師器の坏・高坏・碗・甕の 4 器種、須恵器の坏蓋・坏身・高坏・甕・ハソウの 5 器種である。土師器の坏・短脚の高坏・碗は 6 世紀の所産と考えられるが、甕の中には 8 世紀の所産と考えられるものもあり、時代の幅がある。遺構以外から出土した土師器の中にも 8 世紀の所産と考えられる土器がある。須恵器は遠江須恵器編年のⅢ期末葉～Ⅴ期前葉に比定される。遺構以外から出土した須恵器も同じ様相を呈している。

穴状遺構は土壙が 2 基、土坑が43基、ピットが170基の合計215基を確認した。土壙はいずれも礫床または礫群と遺物を伴なっていることから土壙と判断した。土坑の内、10号土坑から出土した長頸壷は 2 号土壙から出土した長頸壷と同様で、9 世紀末から10世紀初めにかけての灰釉陶器と言った方が良いように思える。ピット群は緩斜面に分布するものと、平地に分布するものとがあるが、緩斜面に分布するものが圧倒数を占めている。しかし、分布状況・平面形状・断面形状とも規則性はなかった。なお、292号ピットから出土した土師器片は、6 世紀の土師器の特徴を示している。また、遺構以外から出土した土師器・須恵器も、遺構から出土した土器と同じ様相を示している。なお、遺構外から出土した土師質の土錘は漁網用の土錘と考えられ、漁猟が行われていたことを示唆している。装身具のガラス小玉 2 点は、丘陵部に存在した横穴から流失したものと考えられる。

以上の遺構と遺物から、断片的ではあるが古墳時代を含む古代（6 世紀から10世紀初めにかけて）の人々の営みの存在が証されたことになる。

中世の遺構は溝状遺構が 1 条、穴状遺構のうちピットが18基の合計18基 1 条で、出土遺物は山茶碗片が9,495点ある。

溝状遺構は緩斜面の上位に分布し、ピット群も緩斜面の上位に分布している。これらの分布状況は緩斜面の下位から平地にかけて、後世の土地改良により削平されたことによるものと考えられ、調査区の南部に広がっている池から山茶碗が出土していることから証明される。出土遺物は山茶碗の碗・小碗・小皿の 3 器種あり、東遠江系窯産のものが多くを占めている。遺物から見る限りにおいては12世紀から13世紀に至る時代の遺構が存在していたことを示唆している。

近世の遺構は溝状遺構が 8 条、穴状遺構のうち土壙墓が26基、ピットが15基、井戸跡が 1 基の合計42基 8 条で、出土遺物は陶磁器片が710点、銭貨が60点、鉄製品が83点、かわらけ片が247点、人骨片が2,056点ある。

溝状遺構の内、特に21・22溝跡は井戸跡と関連した排水溝といえる。井戸跡は石組みの円筒形の井戸で、滲水面も確認面より深さ54㎝と浅いため、生活用水として用いたとは考えられず、農業用水を取るための井戸と理解できる。石組みに用いた川原石の中に「にツ川」という墨書が見られ、新川（にっかわ）集落に関連する井戸と推定される。

土壙墓は、ほとんどが丘陵裾部に分布し、地山層を掘り込んでいる。大小の差はあるが平面形状も断面形状もほぼ同じと見て良いであろう。25号土壙墓のみが緩斜面にあり、形状も副葬品の銭貨も他の土壙墓とは異なる様相を呈している。 1 号土壙墓に埋葬された人は推定身長が150～156㎝の壮年男性（25～30歳）、3 号土壙墓に埋葬された人は推定身長が157～162㎝の青年男性（15～18歳）という分析結果がでている。出土遺物は銭貨・かわらけ・鈴・鉄釘がある。銭貨の鋳造年代から判断すると、「寛永通寶」が出土した1・4 号土壙墓は寛永13年（1636）以降に埋葬されたことになり、裏面に「文」の文字がある新「寛永通寶」が出土した 3・6・19・21・26号土壙墓は寛文 8 年（1668）以降に埋葬されたことになる。25号土壙墓から出土した渡来銭は鋳造年代が北宋の1009年から1101年である。渡来銭と「寛永通寶」が一緒

に出土した事例もあり、渡来銭の鋳造年代と埋葬された年代とは一致しない。また、鉄釘が出土したことは、早桶（屈葬の棺）に入れて埋葬し、蓋を釘付けした証拠である。

以上のように、兼情遺跡は後世の農地改善事業により遺跡の上位層が削平されていたにもかかわらず、弥生時代後期から近世に至るまでの遺構と遺物を多数確認した。その中で、弥生時代後期の周溝墓、古墳時代の土壙、近世の土壙墓と、墓制に関する遺構が各時代を経て連続して存在していたことは、この遺跡の大きな特徴といえる。残念ながらこれらの墓制に関する遺構を構築した人々の集落址は存在しなかった。その集落の確認が今後の課題といえよう。

3．帝釈山砦

今回の調査においては、各トレンチにおいて遺構・遺物は確認されなかった。『静岡県の中世城館跡』（静岡県教育委員会編）に示された帝釈山砦の記載事項と図面によれば、兼政池の両翼に伸びる丘陵の尾根部には波状階段式曲輪が在り、各鞍部には低土居を配置し、主要鞍部には堀切が在るとしている。しかし、今回の調査で明らかなように曲輪・土塁・堀切の痕跡は全く確認されなかった。

帝釈山の山頂部が発掘調査されていないので、結論を出すことが出来ないが、他の丘陵尾根部も今回の調査対象地域と同様の様相を呈しており、古文書・古文献・古記録にも「帝釈山砦」なる記載が確認されていないこと踏まえ、砦としての存在を検討する必要があろう。

引用・参考文献

・増田又右衛門・増田実　1935年　高天神城戦史全　更正舎
・後藤守一　1938年　上古時代鐵鏃の年代研究　人類学雑誌　第54巻第４号
・静岡県考古学会　1979年　須恵器－古代陶質土器－の編年　静岡県考古学会シンポジューム２
・静岡県教育委員会　1983年　遠江の横穴群　　静岡県教育委員会
・㈱環境アセスメントセンター　1983年　菊川その周辺　建設省中部地方建設局浜松工事事務所
・臼杵勲　1984年　古墳時代の鉄刀　日本古代文化研究創刊号　古墳文化研究会
・中嶋郁夫　1985年　弥生土器から土師器への画期　遠江を中心にして　古墳時代の土師器　静岡県考古学会
・関義則　1986年　古墳時代後期鉄鏃の分類と編年　日本古代文化研究　３号　古墳文化研究会
・中山俊之・粕谷崇　1988年　糸繰遺跡　小笠郡土地開発公社用地取得に伴う調査　大東町教育委員会
・川口功・渡辺康弘・五島康司・進藤敏雄・小沢重雄　1988年　岩滑清水ヶ谷横穴群岩滑松ヶ谷横穴発掘調査報告書　大東町教育委員会
・日本の地質「中部地方Ⅰ」編集委員会　1988年　『中部地方Ⅰ』日本の地質４　共立出版
・杉山秀宏　1988年　古墳時代の鉄鏃について　橿原考古学研究所論集　第八
・中嶋郁夫　1988年　いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討　　転機２号　東海埋蔵文化財研究会
・中山俊之・粕谷崇　1989年　中方遺跡　佐東川小規模河川改修に伴う確認調査　大東町教育委員会
・静岡県教育委員会　1989年　静岡県の窯業遺跡　静岡県教育委員会
・静岡県　1990年　静岡県史資料編２考古二　静岡県
・鬼澤勝人　1991年　玉体横穴群発掘調査報告書　大東町教育委員会
・中村浩　1991年　須恵器生産の基礎的考察　和泉陶邑窯の研究
・加納俊介　1991年　土師器の編年４東海　古墳時代の研究６　雄山閣出版
・松井一明　1993年　遠江における山茶碗生産について　静岡県考古学研究25　静岡県考古学会
・鬼澤勝人　1993年　下土方青谷横穴群発掘調査報告書　大東町教育委員会
・中嶋郁夫　1997年　東海地方東部における後期弥生土器の「移動」・「模倣」－「菊川様式」編－　転機４号　東海埋蔵文化財研究会
・松本一男・森威史・小金澤保雄他　1994年　向山遺跡発掘調査の記録　掛川市教育委員会
・齋藤孝正・後藤建一　1995年　須恵器集成図録　第３巻　東日本編Ⅰ　雄山閣出版
・佐野五十三・中川律子・青木修・中嶋郁夫　1996年　角江遺跡Ⅱ遺構編　（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
・岩本貴　1997年　袋井市小山角田遺跡出土の古式土師器について　静岡県考古学会
・岩本貴　1997年　『鶴松遺跡出土土器について』静岡県埋蔵文化財調査研究所　研究紀要５（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
・海津正倫　1997年　沖積低地の古環境学　古今書院
・中村浩　1998年　古墳出土須恵器集成　第３巻　東日本編Ⅰ　雄山閣出版
・加藤理文・川本忍　1998年　元島遺跡Ⅰ（遺構編　本文）　（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
・芦川忠利　1999年　長伏六反田遺跡　三島市教育委員会
・後藤和風・小谷亮二　1999年　白岩遺跡　菊川町教育委員会
・池上悟　2000年　日本の横穴墓　雄山閣出版　2000年
・福田聖　2000年　方形周溝墓の再発見　ものが語る歴史シリーズ③　同成社
・小谷亮二他　2000年　大寄横穴群・山下遺跡　相良町教育委員会
・鈴木敏則　湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築　須恵器生産の出現から消滅　東海土器研究会　2001年
・鬼澤勝人　2001年　東遠地域の横穴群について　東海の横穴墓　静岡県考古学会
・松井一明　2001年　横穴墓の開始と終末　東海の横穴墓　静岡県考古学会
・井村広巳　2001年　遠江における埋葬施設の地域性　東海の横穴墓　静岡県考古学会

・大谷宏治　2001年　古墳時代後期の階層構造から見た遠江・駿河の横穴墓　東海の横穴墓　静岡県考古学会
・白澤崇　2001年　土器組成から見た横穴墓　東海の横穴墓　静岡県考古学会
・桑原尊器他　2001年　川田・東原田遺跡　小笠町教育委員会
・鈴木敏則　2001年　静岡県における弥生土器の生産と流通　中部弥生時代研究会会誌第２号　中部弥生時代研究会

附載　兼情遺跡の近世土壙墓から出土した人骨について

国立科学博物館人類研究部
梶ヶ山　真里・馬場　悠男

1. 緒言

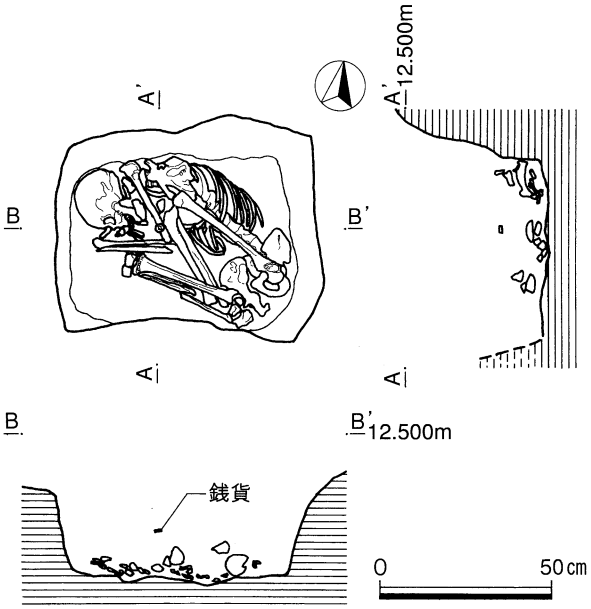
兼情遺跡は、静岡県小笠郡大東町海戸地内に所在し、平成12年３月～平成13年３月まで大東町教育委員会が調査主体者となりに静岡人類史研究所が調査を担当して発掘調査された。人骨は近世の土壙墓２基からそれぞれ１体づつ出土した。土壙墓は、東西に長軸をとりほぼ長方形を呈する。２体の人骨は、頭を西にした屈葬状態である。

2. 出土人骨

(1) １号土壙墓から出土した人骨

・埋葬状態・保存状態

人骨は、岩盤を20cmほど掘り込み、長軸80cm×短軸50cmほどの長方形の土壙墓に、頭を西に向け、右半身を下にし、下肢を極度に屈曲した側臥屈葬姿勢である。一体分として概ね完全である。



第1図　1号土壙墓における人骨の出土状況図

・年齢・性別・推定身長

頭蓋において側頭骨乳様突起が良好に発達し、前頭骨側面輪郭が直線的であること、骨盤の大坐骨切痕が鋭角に切れ込んでいることからこの個体は男性と思われる。縫合の癒合・消失がはじまり、歯の咬耗状態は象牙質がわずかに露出しているものがある。椎骨の辺縁には骨棘の形成はない。信頼性の高いといわれる恥骨結合面の形態は25～30才と推定される。したがって、当人骨の死亡推定年齢は壮年前半と思われる。

藤井法による推定身長は、151.5cm（右上腕骨）、152.8cm（右大腿骨）、148.3cm（右脛骨）、となり、これらの平均値は150.1cmとなる。ピアソン法では156cm（上腕骨）、158cm（大腿骨）、154.7cm（脛骨）となり、平均値は156.3cmである。

・頭蓋

頭蓋は、左頬骨弓の一部が破損する以外は完形である。脳頭蓋の最大長は172mm、幅は131mmであり、江戸時代男性平均値より小さい。頭蓋の長幅示数は76.2となり中頭である。上面観は卵形に近く、後面観は

家型である。

第1表　1号土壙墓から出土した人骨の頭蓋計測値

計測項目	兼情遺跡	江戸時代人		現代人	
	♂	♂	♀	♂	♀
1．最大長	172	181.9	175.4	178.9	170.8
5．頭蓋底	97	101.9	97.7	100.7	95.6
8．最大幅	131	139.8	136.8	140.3	135.9
8／1	76.2	76.9	78.1	78.5	79.7
17．バジオン・ブレグマ高	131	137.5	133.3	138.1	132.5
1／17	76.5	75.6	75.8	77.3	77.7
9．最小前幅	88	94.5	91.8	93.2	91
9／8	67.1	67.7	67	66.4	66.9
40．顔長	90	99.3	96.7	97.2	94.4
45．頬骨弓幅	117	135.4	126.1	132.9	124.9
46．中顔幅	—	99.6	94.8	98.6	93.5
46／45	—	73.9	74.8	74.3	74.8
47．顔高	116	118	123.8	115	—
48．上顔高	64	83.3	70.7	67.1	—
47／45	99.1	88.3	—	93.1	92.2
48／45	54.7	51.1	53	53.3	53.8
48／17	48.8	64.2	—	51.2	50.6
51．眼窩幅	41	43.2	42	42.7	41.1
52．眼窩高	33	34.4	34.9	34.3	33.8
51／52	80.5	79.5	83.3	80.8	82.4
54．鼻幅	—	26.2	25.1	25	24.5
55．鼻高	—	52.5	49.5	52	49
54／55	—	49.9	50.9	48.4	50.2
65．下顎関節突起幅	119	127.5	119.8	122	115.7
66．下顎角幅	97	102.2	94.8	96.9	90.3
68．下顎長	64	76.5	71.4	—	—
70．枝高	57	68.2	58.3	62.6	57.6
71．枝幅	33	35.4	31.1	33.1	31.1
71／70	64.7	52	51.3	53.1	54.3

前頭骨は小さい。側頭線の稜はほとんど発達していない。冠状縫合の走向は単純であり、外板において一部に癒合が見られる。矢状縫合はやや複雑で、癒合が数箇所に認められる。頭頂結節はあまり発達せず、頭頂孔は右に2箇所、左に1箇所ある。ラムダ縫合の走向はやや複雑で、縫合骨が右に2つ、左に1つある。外後頭隆起の発達が極めて顕著で、先端は下垂する。乳様突起の発達は良好であるが、乳突上稜の発達は良好とはいえない。外耳孔は大きな楕円形である。外耳道骨腫は左右ともない。頭蓋底では、項平面は狭いが筋肉付着面のレリーフは発達している。舌下神経管は二分しておらず、ベサリウス孔もない。

顔面では、眉間や眉弓はほとんど発達していない。鼻根部は平坦である。前頭骨頬骨突起ほとんど張り出していない。眼窩上縁は曲線を呈し、眼窩口は丸い。梨状口は洋梨型で、下縁は鈍である。顔面の高さは、江戸時代男性としては低い。しかし、頬骨弓幅が狭いため、ウィルヒョウ上顔示数は大きい方である。頬骨の張り出しは弱い。歯槽部は退縮しておらず、犬歯窩は深い。歯槽突起の表面の骨は薄く、歯根が露出する部分がある。上顎骨の下縁は一旦上方に深く入り込み、頬骨へ続いている。口蓋下面では口蓋溝や口蓋棘は明瞭であるが内側口蓋橋は形成していない。

下顎骨は全体的に小さく、高さが低い。オトガイ隆起やオトガイ結節の発達が弱い。下顎筋突起の先

端は上方を向いている。下顎角外面の咬筋窩は不明瞭である。下顎角内面の翼突筋付着部は普通程度の発達で、深い畝状の隆起は特にみられない。この個体の咀嚼筋は発達しておらず、それは側頭線の発達が不明瞭であることと矛盾しない。

歯の保存状態は以下の歯式の通りである。

7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7
8 7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7 8

この個体は、歯列の不整が著しく、いわゆる「乱食い歯」の状態である。下顎右第3大臼歯は萌出途中であり、下顎左第3大臼歯は咬合面が近心方向を向いて萌出している。上顎左側切歯は上顎左犬歯の舌側に重って萌出している。下顎右側切歯は下顎右中切歯の舌側に入り込んで萌出している。下顎右第2大臼歯はカリエスにより歯冠がなくなっている。歯の咬耗は、象牙質が第1大臼歯にわずかに見られる程度である。したがって、ブロカのⅠ～Ⅱの段階に相当する。上顎切歯は著しいシャベル形であり、上顎第1大臼歯にカラベリ結節はない。

・躯幹体肢骨

椎骨は一部が破損しているものがあるが、頚椎 7 点、胸椎 5 点、腰椎12点保存されている。腰椎の椎体辺縁に骨棘の形成は認められない。

上肢骨では、鎖骨は左右とも完形である。計測値は、江戸時代男性平均よりもはるかに小さい。左の円錐靭帯結節が極端に突出している。肩甲骨は左右とも保存されているが、下部には部分的な破損がある。上腕骨は左右とも男性としては華奢で、細い。三角筋付着面はほとんど発達していない。右上腕骨に比べ左上腕骨がやや太く、左鎖骨の円錐靭帯結節が突出していることを考慮すると、この個体は左利きであった可能性が考えられる。左右尺骨および左右橈骨は骨体が全体的に細く、華奢である。

手根骨、中手骨、中節骨は、部分的に破損箇所があるが概ね保存されている。末節骨は断片的である。

下肢骨のうち、寛骨では左の腸骨稜の一部と右腸骨窩の一部が破損している以外は良好に保存されている。大坐骨切痕は鋭角に切り込んでいる。耳状面辺縁には骨棘の形成はない。恥骨縫合面は畝状の隆起はほとんどない。大腿骨はほぼ完形である。骨体はほぼ直線的で、左右とも長さが410㎜である。江戸時代男性平均値よりわずかに下回る。骨体の太さも、江戸時代男性平均より細く華奢である。後面粗線の隆起はほとんど発達していない。大腿骨下端の下間窩は広く男性的である。膝蓋骨は左右とも保存されている。脛骨では、右の骨端の一部が破損している。骨体の太さは江戸時代女性平均よりも小さい。ヒラメ筋線はほとんど認められない。左脛骨下端には蹲踞面に対応する関節面が形成されている。腓骨の骨体は江戸時代女性の平均値に近く細い。しかし、骨間縁はそれぞれが明瞭である。骨体中央部の断面は、前縁を中心に左右から摘んだような形態である。距骨は左右とも残っている。習慣的な蹲踞面の前方への延長が認められる。距骨頚には骨質の高まりがあり、脛骨関節面における関節面延長と対応している。踵骨は左右とも完形である。前距骨関節面と中距骨関節面が一つの大きな関節面となっている。

(2) 3号土壙墓から出土した人骨

・埋葬状態・保存状態

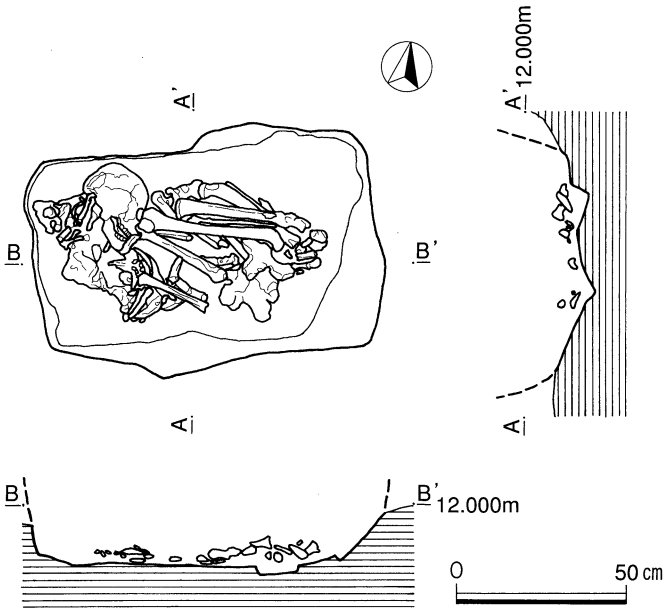
人骨は、長軸80㎝×短軸50㎝ほどの長方形を呈した土壙墓に、頭を西に向け下肢を極度に屈曲した横臥屈葬で埋葬されている。一体分として概ね完全であるが、部位の部分的な破損がある。

・年齢・性別・推定身長

年齢は歯の咬耗がほとんどなく、四肢骨の骨端が未癒合であることから15～18才の青年と思われる。性別については、男性の可能性が高い。すなわち眉間や眉弓の隆起はないが、側頭骨乳様突起は基底部が頑丈で大きい。四肢骨のほとんどが、筋肉付着面はほとんど隆起しておらず、滑らかな印象をもつが、それは未成年であるためと思われる。いまだ成長段階であるにもかかわらず、推定身長は骨端の未癒合部分を加えると最大長約43㎝である。そこからから推定される身長は、藤井法で157.5㎝、ピアソン法で162㎝である。すでに四肢骨の長さは成人男性の骨の大きさに匹敵するものがある。

・頭蓋

頭蓋の保存状態は悪い。骨質が脆いため、取り上げ時点で右側面に固定剤が散布されている。その部分はかろうじて原型をとどめているが、泥が付着しているので詳細な観察ができない。顔面左半、左側頭部



第2図　3号土壙墓における人骨の出土状況図

は大きく破損している。正確ではないが、最大長は約18cmほどである。頭蓋上面や後面輪郭は右側から判断する限り類五角形と思われる。前頭最小幅は90mmで江戸時代男性としてはやや小さい。縫合の走向は単純である。癒合状態は、外板でも内板でも開いている。内板の表面は滑らかで、静脈の圧痕はない。側頭骨の乳様突起は基底部が頑丈であるが、下垂部は小さい。外耳孔の大きさはさほど大きくなく、楕円形を呈する。乳突上稜は不明瞭である。顔面の眉間や眉弓は隆起していない。眼窩上縁は曲線を呈しており、眼窩口は円形であったと推測できる。鼻根の陥入状態は不明である。

下顎骨は頑丈な印象である。下方に向かって広がり、側面の傾斜が強い。オトガイ表面が破損しているため、オトガイ隆起やオトガイ結節の形態は不明である。大臼歯周辺が全体的に厚くなり、下顎角は外反している。オトガイ孔は左右に１つづつある。

歯の保存状態は以下の歯式の通りである。

6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5
7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7

歯列弓は小さい。歯の咬耗はエナメル質がわずかに磨り減っている程度であり、ブロカのⅠに相当する。切歯はシャベル形ではなく、上顎大臼歯にはカラベリ結節はない。

・躯幹四肢骨

椎骨と肋骨は断片的にしか保存されていない。

全体的に四肢骨は、若い個体であるために筋肉付着面は発達せず、骨表面が滑らかである。

左鎖骨は胸骨骨端が破損している。骨体が細く、華奢である。上腕骨は左右とも保存されている。右は下端が破損している。骨頭は未癒合であるが、遠位端は癒合している。骨体の太さは、江戸時代男性としては細い。骨体の三角筋粗面は不明瞭である。橈骨および尺骨は左右とも保存されている。橈骨の骨頭は未癒合であるが、尺骨の骨頭は癒合している。橈骨と尺骨の骨体の太さは、江戸時代男性として普通である。骨間縁の発達は比較的良好である。

寛骨は、腸骨と坐骨が未癒合である。坐骨の大坐骨切痕の湾入は鋭角に入り込んでいる。大腿骨は左右とも保存されている。両端は未癒合である。骨体は直線的で、後面の粗線の隆起はほとんどない。大殿筋粗面が大きく凹んでおり、若い個体の特徴をよく示している。骨体の太さは江戸時代女性平均とほとんど

大差がない。脛骨も左右とも骨体が良好に保存されている。骨端は未癒合である。骨体は太く、江戸時代男性平均に匹敵する。骨体の断面は三角形を呈する。ヒラメ筋付着部が凹んでいる。腓骨は左右とも骨端が破損し、骨体の中央部が保存されている。骨体は、江戸時代男性平均を上回るほど、太く頑丈で、骨間縁が明瞭である。距骨や踵骨は、江戸時代成人女性の大きさに匹敵する。

手根骨、中手骨、手の指骨および足根骨、中足骨、足の指骨などは破損しているものがあり、断片的である。保存されているものに特に記する特徴はない。

第2表　兼情遺跡出土人骨の四肢骨計測値および比較

計測項目	兼情遺跡 1号墓 ♂		兼情遺跡 3号墓 (♂)		江戸時代人 (鈴木他.1969.) ♂	江戸時代人 (鈴木他.1969.) ♀	現代人 ♂	現代人 ♀
鎖骨	右	左	右	左				
1．最大長	145	143						
4．中央垂直径	12.5	12						
5．中央矢状径	10	10.5						
5／4．中央断面示数	80	87.5						
上腕骨								
1．最大長	295	295			296	269.7	295.9	272.4
5．体最大径	20.5	20	21		22.7	19.6	22.4	19.7
6．体最小径	16.5	17	16		17.7	14.9	17.7	14.7
6／5．体断面示数	80.1	85	76.2		75.6	76.6	78.3	75.1
橈骨								
1．最大長	221	221			224.2	199.8	225.1	202.1
4．体横径	15	14	15	14.5	16.6	14.4	16.5	14.6
5．体矢状径	11	12	11.5	11	11.9	9.8	11.8	9.8
5／4．体断面示数	73.3	85.7	76.7	75.8	71.8	68.4	241.5	67.4
尺骨								
1．最大長	240				242.1	223.4	241.5	218.7
11．体矢状径	12	12	11.5	11	11.6	10.5	12.5	11.3
12．体横径	16	15.5	15	16.5	16.2	14.1	16.3	13.9
11／12．体横断示数	75	77.4	76.6	66.6	79	75.1	80.9	76.9
大腿骨								
1．最大長	410	410	395		413.8	377.9	412.1	381.8
6．体中央矢状径	25	24.5	24.5		28.3	24.8	27.6	24.5
7．体中央横径	25	25.5	25		27.4	34.1	26.3	23
8．中央周	80	78	78		87.2	76.9	83.7	73.8
6／7．体中央断面示数	100	96.1	98		103.9	103.1	105.4	107.3
脛骨								
1．全長	325	320			331.2	298.3	325.3	298.3
8．中央最大矢状径	24.8	24	28	28	28.9	25.7	28.7	25.7
9．中央横径	20	21	20	20.5	21.6	20.3	22.8	20.3
9／8．体断面示数	80.6	87.5	71.4	73.2	74.9	72.4	78.7	78.7
腓骨								
1．最大長	322	322			327.2	296.1	322.4	301.7
2．中央最大径	13	13	14	14	15.3	12.8	14.8	13.6
3．中央最小径	11	11	12	12.5	11	9.4	10.9	9.5
3／2．体断面示数	84.6	84.6	85.7	89.2	72.1	73.9	73.4	70.1

3. 結語

兼情遺跡から出土した 2 体の人骨は、1 号土壙墓から出土した人骨は壮年男性であり、3 号土壙墓から出土した人骨は、15～18才前後の成長段階であるために性差が明確に現れていないが男性の可能性が高いことがわかった。1号土壙墓から出土した人骨については、顔高だけみると江戸時代人としては低顔で、あたかも縄文人を思わせるが、頬骨弓が極めて狭いためコルマン上顔示数99.1は過狭顔である。その上、下顎骨は華奢で、歯列弓が小さく「乱食い歯」であり、いわゆる「将軍顔」を思わせるほどである。四肢骨の筋付着部の発達がほとんどなく、男性としての頑丈さはない。3 号土壙墓から出土した人骨も男性の可能性が高い。したがって、2 体とも江戸時代人として全く問題はないが、1 号墓出土人骨の狭く細い顔と華奢な体格という特徴は、江戸時代人としても極めて現代的であるといえる。

参考文献

鈴木尚・矢島恭介・山辺知行編　1969　「徳川将軍墓とその遺品・遺体」東京大学出版会

馬場悠男　1970　蹲踞面その他坐法の影響による日本人下肢骨の特徴について　人類学雑誌　78（3）：213-234

平本嘉助　1972　縄文時代から現代に至る関東地方人身長の変化　人類学雑誌　80（3）：221-236

Abstract

by Takeshi Mori
Curator

This report details excavations of the Kanasei rock-cut tombs, Kanasei Site ruins and Taishakuyama Fort, which lie in a planned construction zone where intercepting drains for the Shimo-ogasa River will be built. The site is in Kaito, Daito-cho, Ogasa County, Shizuoka Prefecture.

The Kaito district, which includes the Kanasei rock-cut tombs, the Kanasei Site, and Taishakuyama Fort, is located on the southeast side of the center of Daito-cho, Ogasa County, Shizuoka Prefecture. The Kanasei rock-cut tombs lie on hills that stretch westward from the southeast side of Kanemasa Pond, and the Kanasei Site ruins lie on the gentle southern slopes of the hills and on the adjacent plains. Overall, the hills themselves are presumed to be the site of Taishakuyama Fort.

Kanasei Rock-Cut Tombs

We identified four rock-cut tombs in this excavation; none of them, however,remained in complete form.

Rock-cut tomb 1 was identified to be a slab coffin. The coffin cover did not remain in complete form. Only pieces of human bone forms, an earring, and a flake of iron arrowhead were found in the coffin; there were no other grave artifacts. Thirty-one relics in total were found in the eastern corner of the far wall in the main burial chamber. The Haji pottery that we found includes seven dishes and six pedestalled dishes; and the Sue pottery that we found consists of eight dishes, eight dishes with fitted covers, one pedestalled dish, and one jar.

There was no stone coffin found in rock-cut tomb 2; only the floor part of the main burial chamber remained. A total of 64 relics were found in the chamber. They include: from the west part of the chamber, five pedestalled dishes, two long-necked jars, and two pots, all Haji pottery; six dishes, two dishes with fitted covers, two wine servers, one hanging jug, one jar, all Sue pottery; and six flakes of iron arrowhead. Found in the center of the chamber were two faceted beads, one fragment of a barrel-shaped bead, 14 glass beads, one whetstone, and one guard for a long sword. From the east part of the chamber, one Haji pottery bowl; one dish, one dish with fitted cover, two small jars in Sue pottery; eight pieces of iron arrowhead, and two iron sickles were found. From the southeast side of the chamber, one small long sword, one flake from a decorated sword, and one chip of iron arrowhead were found.

We realized that rock-cut tomb 3 had been reused during the Edo Period(1603 '1867). A Kan'ei-tsuho coin and three small Kawarake pottery biscuit dishes were found in the stone coffin. The coin was minted and used in 1668 at the earliest, and was therefore buried in or after 1668.

Rock-cut tomb 4 was not concluded in the era.

Since the figuration of Sue pottery, long swords, and iron arrowheads found in rock-cut tombs 1 and 2 show characteristics identical to those of the late sixth century and the early seventh century, it is estimated that the rock-cut tombs were constructed during those times.

Kanasei Site Ruins

We identified 322 ruins and 62 ditches in total at the Kanasei Site. They include 16 moated burial precincts and 306 pit ruins, which consist of 45 earthen pits, two burial pits, 26 modern-era pit burials, 232 pits, one well, as well as 62 ditches. We also identified eight naturally formed drainage ditches in non-ruin areas.

Yayoi Period

Excavated artifacts include 10,871 Yayoi pottery fragments and four stone implements.Moated burial precincts of the Yayoi Period are constructed on the slopes of the hills. The upper parts of the main burial sites were not recognizable, because they were graded flat and subsequently disturbed in later ages by civil engineering work associated with agrarian reform projects. The axes of the moats of the burials mostly run at right angles to topographical contour lines. The burial areas with moats 2, 3, and 4 out of 16 precincts that were found at the western part of the researched area are considered to be circular-type moats. The remaining burials are regarded as belonging to the category of square-shaped burial moats. Only two kinds of artifacts were excavated there: jars and pots. Each of them has characteristics of the later half of late Kikugawa pottery. Therefore these burial precincts with moats are identified in chronological order as those of the later half of the late Yayoi Period.

Most ditches were found in the eastern part of the area investigated. Ditch 55 is particularly large in scale and yielded a great amount of Yayoi pottery. Three kinds of relics were found in the ditches: jars, pots, and bowls, all of which show characteristics of the later half of late Kikugawa pottery. Considering the time of these excavated relics, the ditches are also identified in chronological order as belonging to the later half of the late Yayoi Period, as with the moated burial precincts.

As for pit-type ruins, we found 28 pits and 2 earthen pits. The earthen pits were found on the slopes of the hills, however they showed no pattern in plane and cross-section surface shapes.

Groups of pits were seen on the slopes of the hills toward the area bordering the plains. Again, there was no pattern seen in the distribution system, plane, and cross-section surface shapes. Pottery found in the pits also showed the same features as those of the later half of late Kikugawa pottery. Yayoi pottery found from non-ruin areas as well as from naturally formed drainage ditches shows the same characteristics as pottery found in the ruins. Taking these facts into consideration, ruins and artifacts found at the Kanasei Site are believed to belong to the late Yayoi Period.

Kofun Period

Kofun Period or tumulus period ruins are grouped on the upper gentle slopes of the hills and the area bordering the plains that lie in the center of the research zone. We found 215 ruins and 13 ditches in total. They include 215 pit ruins, which consist of 2 burial pits, 43 earthen pits and 170 pits, and 13 ditches. We also found 8 naturally formed drainage ditches. The excavated relics are sorted into 10,119 flakes of Sue pottery, 18,331 flakes of Haji pottery, 5 earthen relics, and 2 accessories.

Ditches 7 and 9 are located on the slopes of the hills and the border of the plains. It seems they served as ditches to drain rainwater from the gentle slopes. Naturally formed drainage ditches are short in length, from the plains at the foot of the gentle slope up to the pond. The main relics found in the ditches are Sue pottery and Haji pottery of the Kofun Period, although some Yayoi pottery and Yamajawan-cup pottery were also excavated. Four kinds of Haji pottery were found: dishes, pedestalled dishes, cups, and pots. Also five kinds of Sue pottery were found: dishes, dishes with fitted covers, pedestalled dishes, pots, and wine servers. Dishes, short-legged pedestalled dishes, and cups in Haji pottery are considered to be products of the sixth century; however some pots seem to be manufactured during the eighth century. It is difficult to identify a certain point in the chronological arrangement. Some Haji pottery objects that were found from in non-ruin areas also seem to have been made during the eighth century. Sue pottery found at this site is identified as that of the late Totoumi Sue pottery chronology III through early V. Other Sue pottery excavated from places other than the ruins is also the same.

We recognized 215 pit-type ruins, including , 2 burial pits, 43 earthen pits, and 170 pits. The burial pits were identified because they were found together with gravel floors and clusters of scattered pebbles. A long-necked jar found in earthen pit 10 is identical to one found in burial pit 2. It is better described as ash-glazed pottery made in the late ninth century or early tenth

century. Some groups of pits are on the gentle slopes of the hills and some groups are on the plains, but the majority of them are found on the slopes. We identified no pattern in their distribution, plane, and cross-section surface shapes. Flakes of Haji pottery found in pit 292 show characteristics of sixth century Haji pottery. Haji pottery and Sue pottery found in non-ruin areas were also identical to earthenware found in the ruins. Clay Haji pottery weights found in non-ruin areas are thought to be clay net sinkers used for fishing nets. They indicate that fishing was done.

From the ruins and their associated relics, it is known that people lived in this area from the sixth through the early 10th centuries.

Medieval Period

From the medieval ruins we found a ditch and 18 pit ruins. 9,495 flakes of Yamajawan-cup pottery were excavated.

Ditches are seen on the gentle upper slopes of the hills, as are groups of pits. We uncovered three kinds of relics: cups, small cups, and small dishes, all earthenware made during the 12th and 13th centuries.

Early Modern Period

In the modern ruins, we found 8 ditches and 43 pit-type ruins that include 26 pit burials, 16 pits, and the vestiges of a well. Excavated relics include 710 flakes of pottery and porcelain, 60 coins, 83 ironwork items, and 247 flakes of Kawarake biscuit pottery, as well as 2,056 human bone fragments.

It appears that ditches 21 and 22 are drainage ditches that are related to the vestiges of the well. The well is cylindrical in shape, constructed by piling up rocks, and the depth is shallow: The highest water immersion line is only 54 cm (21 inches) below what we recognized as the opening of the well. Therefore it is thought that the well was used to provide water to farmland rather than for domestic use.

Most of the pit burials are seen at the foot of the hills. Although there are some differences in their sizes, their plane and cross-section surface shapes are almost the same. Pit burial 25 alone is situated on the slope of the hills, and its formation and coins, which are burial artifacts, present differences from those of the other pit burials. Excavation analyses show that the body buried in pit burial 1 is estimated to be that of a middle-aged male, 25 to 30 years old, with a height of 150 ‘156 cm (4'11" to 5'1"). Another body found in pit burial 3 is estimated to be

young male, 15 to 18 years old, with a height of 157 ‘162 cm (5'2" to 5'4"). Relics uncovered were coins, Kawarake biscuit pottery, bells, and iron nails. Based on the dates that the Kan'ei-tsuho coins were minted, we estimate that pit burials 1 and 4 were constructed in 1636 or later, and pit burials 3, 6, 19, 21, and 26, in which a new type of Kan'ei-tsuho coins with the kanji character ï∂ on the back were found as grave artifacts, were made in 1668 or later. The iron nails uncovered are a clear indication that the dead body was laid in a wooden coffin whose cover was nailed down for burial.

At the Kanasei Site, we excavated numerous ruins and relics from the Yayoi Period up to modern times as described above, although the upper strata of the site had been graded flat and later disturbed by agrarian reform projects. Under such circumstances, it is worthy to notice that the Kanasei Site includes traces of burial systems of each era in succession, including moated burial precincts of the late Yayoi Period, burial pits of the Kofun Period, and recent pit-style burials. Regrettably, however, we could not find vestiges of the human settlement whose members constructed these structures and left the relics concerned with the burial systems.

Taishakuyama Fort

We found no ruins or relics of Taishakuyama Fort at the site. It is difficult to provide a conclusion to this report, as the top of Mt. Taisyaku has not been explored. It will be necessary, however, to review whether Taishakuyama Fort,which appears in local verbal history, actually existed or not, because the geographical features of the mountain ridges and hills are almost identical to those we excavated this time, and there is no record that mentions Taishakuyama Fort in any ancient documents, literature, or archaic records.

報告書抄録

ふりがな	かなせいおうけつぐん、かなせいいせき、たいしゃくやまとりで
書名	兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦
副書名	下小笠川捷水路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	
編著者名	鬼澤勝人（大東町教育委員会）、森威史・中村伸吾（静岡人類史研究所）
編集機関	大東町教育委員会
所在地	〒437－1491　静岡県小笠郡大東町三俣620番地
発行年月日	西暦2002年３月８日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積	調査原因
兼情横穴群 兼情遺跡 帝釈山砦	静岡県小笠郡 大東町海戸	22447	129 130 87	34° 40′ 37″	138° 03′ 34″	2000年 3月20日～ 2001年 3月30日	14,457.9m²	捷水路建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
兼情横穴群 兼情遺跡 帝釈山砦	横穴 墓地 砦	古墳時代 弥生時代から近世 中世	横穴 周溝墓　溝　土壙	須恵器　土師器 弥生土器　須恵器　土師器	

静岡県小笠郡大東町

兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山砦

下小笠川捷水路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成14年３月８日発行

発行：大東町教育委員会
編集：大東町教育委員会社会教育課

〒437－1491　静岡県小笠郡大東町三俣620番地
TEL 0537-72-1121

印刷：（有）文書サービス

Excavation Report

of the

Kanasei Rock-cut Tombs, Kanasei Site and Taishakuyama Fort

March 2002

The Board of Education Daito Town,
Shizuoka Prefecture JAPAN